

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2025-39448
(P2025-39448A)

(43)公開日 令和7年3月21日(2025.3.21)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
A 6 3 F 5/04 (2006.01)	A 6 3 F 5/04 6 5 0	2 C 1 8 2
	A 6 3 F 5/04 6 0 2 A	2 C 5 1 8
	A 6 3 F 5/04 6 0 3 D	
	A 6 3 F 5/04 6 1 1 A	

審査請求		未請求	請求項の数	1	O L	(全302頁)
(21)出願番号	特願2023-146557(P2023-146557)	(71)出願人	390031783			
(22)出願日	令和5年9月8日(2023.9.8)		サミー株式会社			
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー			
		(74)代理人	100105315			
			弁理士 伊藤 温			
		(72)発明者	伊達 彬雄			
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内			
		(72)発明者	佐藤 基			
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友不動産大崎ガーデンタワー サミー株式会社内			
		F ターム (参考)	2C182 CB03 CD16 CE18			最終頁に続く

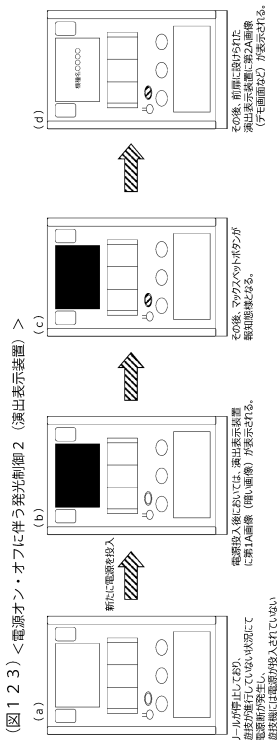
(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】 円滑に遊技を進行できる遊技機の提供が望まれている。

【解決手段】 前面に配置された前扉D Uと、前扉D Uに設けられた複数種類の発光装置と、を備え、発光装置には、遊技の進行が可能となったことを示す機能を有する遊技進行開始報知装置（マックスベットランプなど）と、遊技中の演出表示に用いることが可能な演出表示装置S 4 0と、を含み、電源投入があった状態で、演出表示装置S 4 0が第1 A画像を表示し、遊技の進行が可能になると、演出表示装置S 4 0が第1 A画像とは異なる第2 A画像を表示する。

【選択図】 図1 2 3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面に配置された前扉と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
遊技の進行が可能となったことを示す機能を有する遊技進行開始報知装置と、
遊技中の演出表示に用いることが可能な演出表示装置と、を含み、
電源投入があった状況で、前記演出表示装置が第 1 A 画像を表示し、遊技の進行が可能になると、前記演出表示装置が前記第 1 A 画像とは異なる第 2 A 画像を表示することを特徴とする遊技機。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

回胴式遊技機（スロットマシン）は、所定数の遊技メダルを投入後に遊技開始指示装置（スタートレバー）が操作されたことを契機として 1 ゲームが開始されて、複数の図柄が外周上に配置された複数列の回胴（リール）が回転動作し、当該回転動作を停止させるための回胴停止装置（ストップボタン）を駆使して回胴を停止させた結果、有効ライン上に所定の図柄の組合せ（例えば「777」等の入賞役）が並んだ場合には、通常遊技状態よりも遊技者にとって利益状態の高い特別遊技状態（通常時よりも小役等の抽選確率が上昇する遊技状態）に移行するタイプのものが一般的である。ここで、回胴式遊技機においては、遊技の興趣性を高めるための演出用の画像等が、リールの回転動作及び停止動作とシンクロした形で、液晶等のディスプレイ上にて表示される場合があり、回胴停止装置等を操作した際に、回胴上に表示された図柄とディスプレイ上に表示された演出用の画像等とを見比べながら、遊技の結果を予測して楽しむよう構成されているものが多い。また、遊技機に何らかの異常が発生した場合には遊技の進行が停止するエラーとなり得るよう構成されているものも多い。

20

【先行技術文献】

30

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 特開 2010-155113 号公報

【特許文献 2】 特開 2018-198972 号公報

【特許文献 3】 特開 2021-194161 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

円滑に遊技を進行できる遊技機の提供が望まれている。

【課題を解決するための手段】

40

【0005】

本態様に係る遊技機は、
前面に配置された前扉（前扉 D U など）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
遊技の進行が可能となったことを示す機能を有する遊技進行開始報知装置（マックスベツトランプなど）と、
遊技中の演出表示に用いることが可能な演出表示装置（演出表示装置 S 40 など）と、
を含み、
電源投入があった状況で、前記演出表示装置が第 1 A 画像（暗い画像など）を表示し、

50

遊技の進行が可能になると（マックスベットランプが点灯して遊技の進行が可能であることを報知することなど）、前記演出表示装置が前記第１Ａ画像とは異なる第２Ａ画像（通常画面、デモ画面など）を表示する

ことを特徴とする遊技機である。

【発明の効果】

【０００６】

本態様に係る遊技機によれば、円滑に遊技を進行できる遊技機を提供することができる、という効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【０００７】

【図１】図１は、第１実施形態に係る回胴式遊技機の斜視図である。

【図２】図２は、第１実施形態に係る回胴式遊技機の扉を開いた状態の斜視図である。

【図３】図３は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、メダル投入口内部の斜視図である。

【図４】図４は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、メダル払出装置の正面図および上面図である。

【図５】図５は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、基本仕様一覧である。

【図６】図６は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、リール配列一覧である。

【図７】図７は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧１である。

【図８】図８は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧２である。

【図９】図９は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧３である。

【図１０】図１０は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、条件装置一覧である。

【図１１】図１１は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、小役、再遊技役およびボーナス出現率一覧である。

【図１２】図１２は、第１実施形態に係る回胴式遊技機の電氣的全体構成図である。

【図１３】図１３は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのメインフローチャートである。

【図１４】図１４は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での設定変更装置制御処理のフローチャートである。

【図１５】図１５は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での復帰不可能エラー処理のフローチャートである。

【図１６】図１６は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（１枚目）のフローチャートである。

【図１７】図１７は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（２枚目）のフローチャートである。

【図１８】図１８は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（３枚目）のフローチャートである。

【図１９】図１９は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での内部抽選実行処理のフローチャートである。

【図２０】図２０は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのゲーム数上乘せ実行処理のフローチャートである。

【図２１】図２１は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのＡＴ状態移行制御処理（１枚目）のフローチャートである。

【図２２】図２２は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのＡＴ状態移行制御処理（２枚目）のフローチャートである。

【図２３】図２３は、第１実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのＡＴ状態移行制御処理（３枚目）のフローチャートである。

10

20

30

40

50

【図 2 4】図 2 4 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での条件装置番号管理処理のフローチャートである。

【図 2 5】図 2 5 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのリール回転開始準備処理のフローチャートである。

【図 2 6】図 2 6 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での残りゲーム数管理処理のフローチャートである。

【図 2 7】図 2 7 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での R T 状態移行制御処理のフローチャートである。

【図 2 8】図 2 8 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、R T 状態遷移図である。

10

【図 2 9】図 2 9 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での A T 状態開始制御処理のフローチャートである。

【図 3 0】図 3 0 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、A T 状態遷移図である。

【図 3 1】図 3 1 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技区間移行制御処理のフローチャートである。

【図 3 2】図 3 2 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図 3 3】図 3 3 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での回胴駆動制御処理のフローチャートである。

20

【図 3 4】図 3 4 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での回胴駆動制御処理のフローチャートである。

【図 3 5】図 3 5 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、リールの回転動作に関するイメージ図である。

【図 3 6】図 3 6 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での電源断時処理のフローチャートである。

【図 3 7】図 3 7 は、本例に係る回胴式遊技機における、押し順表示イメージ図である。

【図 3 8】図 3 8 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブ側プログラム開始処理のフローチャートである。

【図 3 9】図 3 9 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブメインループ処理のフローチャートである。

30

【図 4 0】図 4 0 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブ側電源断時処理のフローチャートである。

【図 4 1】図 4 1 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での 1 コマンド処理のフローチャートである。

【図 4 2】図 4 2 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時演出関連決定処理のフローチャートである。

【図 4 3】図 4 3 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのバトル演出実行可否決定処理のフローチャートである。

【図 4 4】図 4 4 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での滞在ステージ決定テーブルの一例である。

40

【図 4 5】図 4 5 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での A T 中演出決定処理のフローチャートである。

【図 4 6】図 4 6 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での復活可否演出決定処理のフローチャートである。

【図 4 7】図 4 7 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時処理のフローチャートである。

【図 4 8】図 4 8 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時 A T 中処理のフローチャートである。

【図 4 9】図 4 9 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタ

50

ートレバー操作時特化前兆処理のフローチャートである。

【図 5 0】図 5 0 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時上乗せ特化処理のフローチャートである。

【図 5 1】図 5 1 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時有利 B B 内部中処理のフローチャートである。

【図 5 2】図 5 2 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 1 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

【図 5 3】図 5 3 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 2 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

【図 5 4】図 5 4 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 3 回胴停止時演出関連決定処理のフローチャートである。 10

【図 5 5】図 5 5 は、第 1 実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 3 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

【図 5 6】図 5 6 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における主制御基板側での遊技進行制御処理のフローチャートである。

【図 5 7】図 5 7 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における主制御基板側での打ち止め監視処理のフローチャートである。

【図 5 8】図 5 8 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における主制御基板側での M Y カウンタ監視処理のフローチャートである。

【図 5 9】図 5 9 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における M Y カウンタと差数カウンタに関する図である。 20

【図 6 0】図 6 0 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における打ち止め事前報知状態に関する図である。

【図 6 1】図 6 1 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機におけるボーナス中に差数上限を超過した場合に関する図 1 である。

【図 6 2】図 6 2 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機におけるボーナス中に差数上限を超過した場合に関する図 2 である。

【図 6 3】図 6 3 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機におけるボーナス中に差数上限を超過した場合に関する図 3 である。

【図 6 4】図 6 4 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における小役に当選した遊技に関する作用図 1 である。 30

【図 6 5】図 6 5 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における小役に当選した遊技に関する作用図 2 である。

【図 6 6】図 6 6 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における A T 中状態の遊技中に電源断が発生した場合のイメージ図である。

【図 6 7】図 6 7 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機におけるメダル空エラーに関するイメージ図 1 である。

【図 6 8】図 6 8 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機におけるメダル空エラーに関するイメージ図 2 である。

【図 6 9】図 6 9 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における主制御基板側での遊技進行制御処理（2 枚目）のフローチャートである。 40

【図 7 0】図 7 0 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における主制御基板側での遊技進行制御処理（3 枚目）のフローチャートである。

【図 7 1】図 7 1 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における払出数表示装置の表示に関する図である。

【図 7 2】図 7 2 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における再遊技が停止表示した場合の払出数表示装置に関するイメージ図である。

【図 7 3】図 7 3 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における打ち止め状態となった場合の払出数表示装置に関するイメージ図である。

【図 7 4】図 7 4 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における投入メダル逆流エラーと 50

なった場合の払出数表示装置に関するイメージ図である。

【図 7 5】図 7 5 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における電源断が発生した場合の払出数表示装置に関するイメージ図である。

【図 7 6】図 7 6 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機におけるボーナス中に電源断が発生した場合の払出数表示装置に関するイメージ図である。

【図 7 7】図 7 7 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機における下パネルの表示に関する図である。

【図 7 8】図 7 8 は、第 3 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な打ち止めに関する報知の報知態様に関する図である。

【図 7 9】図 7 9 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における主制御基板側での遊技進行制御処理のフローチャートである。 10

【図 8 0】図 8 0 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における主制御基板側での A T 状態移行制御処理のフローチャートである。

【図 8 1】図 8 1 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における主制御基板側での遊技区間移行制御処理のフローチャートである。

【図 8 2】図 8 2 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における A T 中状態に関するイメージ図 1 である。

【図 8 3】図 8 3 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における獲得枚数表示に関するイメージ図である。

【図 8 4】図 8 4 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における A T 中状態に関するイメージ図 2 である。 20

【図 8 5】図 8 5 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における A T 中状態に関するイメージ図 3 である。

【図 8 6】図 8 6 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における主制御基板側での遊技区間移行制御処理のフローチャートである。

【図 8 7】図 8 7 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における主制御基板側でのゲーム数上乗せ実行処理のフローチャートである。

【図 8 8】図 8 8 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における A T 中状態に関するイメージ図 4 である。

【図 8 9】図 8 9 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における上乗せ特化状態に関するイメージ図である。 30

【図 9 0】図 9 0 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における A T 終了画面に関するイメージ図である。

【図 9 1】図 9 1 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 1 である。

【図 9 2】図 9 2 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 2 である。

【図 9 3】図 9 3 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 3 である。

【図 9 4】図 9 4 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 4 である。 40

【図 9 5】図 9 5 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 5 である。

【図 9 6】図 9 6 は、本例に適用可能な回胴式遊技機における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 6 である。

【図 9 7】図 9 7 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ベットランプの点灯に関する図 1 である。

【図 9 8】図 9 8 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ベットランプの点灯に関する図 2 である。

【図 9 9】図 9 9 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ベットランプの点灯に関する 50

図 3 である。

【図 1 0 0】図 1 0 0 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、クレジット数の増加に関する図である。

【図 1 0 1】図 1 0 1 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、前扉に設けられたランプに関する図 1 である。

【図 1 0 2】図 1 0 2 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、前扉に設けられたランプに関する図 2 である。

【図 1 0 3】図 1 0 3 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リール停止操作に関する図 1 である。

【図 1 0 4】図 1 0 4 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リール停止操作に関する図 2 である。 10

【図 1 0 5】図 1 0 5 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、遊技機の扉を開いた状態の斜視図である。

【図 1 0 6】図 1 0 6 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、モータ駆動基板に関する図である。

【図 1 0 7】図 1 0 7 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ハーネスに関する図である。

【図 1 0 8】図 1 0 8 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、メダルセレクト及びシュート本体に関する図である。

【図 1 0 9】図 1 0 9 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、投入受付センサに関する図である。 20

【図 1 1 0】図 1 1 0 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、遊技機の扉を開いた状態の部分的な斜視図である。

【図 1 1 1】図 1 1 1 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、遊技機の扉を開いた状態の平面図である。

【図 1 1 2】図 1 1 2 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、電源コード D K のコード部分の各種の断面形状を示すイメージ図である。

【図 1 1 3】図 1 1 3 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、遊技機の扉を閉じた状態の平面図である。

【図 1 1 4】図 1 1 4 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、遊技機の扉を開いた状態の平面図である。 30

【図 1 1 5】図 1 1 5 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、筐体本体の傾斜部を示すイメージ図である。

【図 1 1 6】図 1 1 6 は、ハーネスにおけるクランプ間の部位の長さ L_{HN} とホックチューブの長さ L_{HT} との関係を示すイメージ図である。

【図 1 1 7】図 1 1 7 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、クランプのタイプを示すイメージ図である。

【図 1 1 8】図 1 1 8 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、電断情報画面やデモ画面を示すイメージ図である。

【図 1 1 9】図 1 1 9 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リールユニットを示す斜視図である。 40

【図 1 2 0】図 1 2 0 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リールとリールバックランプを示す側面図である。

【図 1 2 1】図 1 2 1 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リールの内部を示す正面図である。

【図 1 2 2】図 1 2 2 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、電源投入後における発光装置の点灯順序の一例を示す図表である。

【図 1 2 3】図 1 2 3 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、＜電源オン・オフに伴う発光制御 2（演出表示装置）＞に関する図である。

【図 1 2 4】図 1 2 4 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、＜電源オン・オフに伴う 50

発光制御 3 (メダル数表示装置) > に関する図である。

【図 1 2 5】図 1 2 5 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、電源投入後におけるメダル数表示装置の表示の変化を示すタイミングチャートである。

【図 1 2 6】図 1 2 6 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、メダル数表示装置と枠ランプの点灯パターンの例を示すタイミングチャートである。

【図 1 2 7】図 1 2 7 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 4 (リールと停止ボタン) > に関する図である。

【図 1 2 8】図 1 2 8 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 5 (リール前面の液晶シャッター) > に関する図である。

【図 1 2 9】図 1 2 9 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 6 (リールと停止ボタン) > に関する図である。

【図 1 3 0】図 1 3 0 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 7 (リールとリールバックランプ) > に関する図である。

【図 1 3 1】図 1 3 1 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 8 (持ちメダル数表示) > に関する図である。

【図 1 3 2】図 1 3 2 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 9 (持ちメダル数表示の表示停止) > に関する図である。

【図 1 3 3】図 1 3 3 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 1 0 (メニュー表示) > に関する図である。

【図 1 3 4】図 1 3 4 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 1 1 (電断時の表示画面の再現) > に関する図である。

【図 1 3 5】図 1 3 5 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、<電源オン・オフに伴う発光制御 1 2 (電断時の表示画面の再現) > に関する図である。

【図 1 3 6】図 1 3 6 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ベットと設定確認に係る各種の態様を示す一覧である。

【図 1 3 7】図 1 3 7 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、脱離を想定したハーネスの長さ (第 2 筐体側基板又は第 2 筐体側基板からの脱離) の一例を示すイメージ図である。

【図 1 3 8】図 1 3 8 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ハーネスの配索例を示すイメージ図である。

【図 1 3 9】図 1 3 9 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、脱離を想定したハーネスの長さ (前扉側に繋がるハーネスとの関係) の一例を示すイメージ図である。

【発明を実施するための形態】

【0 0 0 8】

はじめに、本明細書における各用語の意義について説明する。「乱数」とは、回胴式遊技機において何らかの遊技内容を決定するための抽選 (電子計算機によるくじであり、抽せんとも称することがある) に使用される乱数であり、狭義の乱数の他に擬似乱数も含む (例えば、乱数としてはハード乱数、CPU を含む主制御チップによって生成された内蔵乱数、擬似乱数としてはソフト乱数)。例えば、遊技の結果に影響を与えるいわゆる「基本乱数」、具体的には、特別遊技に移行するための特別役や入賞役 (小役、再遊技役) と関連した「当選乱数」、等を挙げることができる。「CPU」とは、当業界において周知であるものと同義であり、使用されているアーキテクチャ (CISC、RISC、ビット数等) や処理性能等には何ら限定されない。「電断 (電源断)」とは、遊技機に設けられた電源スイッチの操作実行有無に係らず、遊技機に供給される電源電圧が一定レベル以下となったことを指し、例えば、電源供給ユニットの破損や停電等による不測の事態による電源供給の遮断をも包含する。「ROM」とは、当業界において周知であるものと同義であり、情報を物理的に保持する (例えば、データ読み出し用の電流を与えた場合、導通する素子構成であれば「1」、導通しない素子構成であれば「0」となる)。RAMとは、当業界において周知であるものと同義であり、情報を電氣的に保持する (例えば、データ読み出し用の電流を与えた場合、蓄電されていなければ「0」

10

20

30

40

50

となる。尚、RAM内で保持されているデータの一部またはすべてに対して、電断時にはバックアップ電源が供給されるよう構成されていることが一般的である。「遊技状態」とは、例えば、遊技メダルが獲得容易であり遊技者にとって有利な特別遊技状態（いわゆる大当り遊技であり、ボーナス作動中、1種BB作動中、1種BB作動時、2種BB作動中、2種BB作動時などと称することがある）、ボーナスの当選を持ち越している内部中状態（1種BB内部中、2種BB内部中などと称することがある）、再遊技役の当選率があらかじめ定められた値である通常遊技状態よりも再遊技役の当選率が高い（または低い）状態である再遊技確率変動遊技状態（RT状態）、当選した役を入賞させるためのリールの停止順、停止位置（停止操作態様と称することがある）を報知し得るAT（アシストタイム）中状態、前記RT状態とAT中状態とが複合したART（アシストリプレイタイム）状態、ATに関する処理を実行し得る有利区間とATに関する処理を実行しない通常区間、等が挙げられる。また、通常遊技状態においても、RT状態、AT中状態（「AT遊技状態」、「AT状態」、「報知状態」と称することもあり、単に「AT」と称することもある。また、AT中状態でない状態を、「非AT遊技状態」、「非AT状態」、「非報知状態」と称することもあり、単に「非AT」と称することもある。））、また、AT状態にて停止操作態様を報知することを、「ATを実行する」、「ナビを実行する」、「指示を実行する」、「押し順ナビを実行する」、「報知遊技を実行する」などと称することがある。ART中状態への移行抽選確率が異なる、高確率通常遊技状態、低確率通常遊技状態、等（本例では、抽選状態と称している）が挙げられる。また、遊技状態は複合しても問題ない{更に、これらの遊技状態や機能（例えば、AT中状態への移行抽選や、リールの停止順に係る報知指示の出力等）は、遊技進行を制御する主制御基板側ですべて実装してしまっても問題ない}。また、本例においては、ATに関する状態とRT状態とを個別に記載し、RT状態が「RT1」且つATに関する状態が「通常遊技状態」等と称しているが、RT状態とATに関する状態とを纏めてARTに関する状態としてARTに関する状態が「通常遊技状態」等と称してもよい。「当選役」とは、内部抽選（内部注抽せんと称することがある）により当選した条件装置の種類（または、条件装置番号）である。「報知状態」とは、後述する押し順ナビを実行可能なATに関する状態であり、リール停止順によって入賞する役が相違しないために押し順ナビが実行されない条件装置が当選したゲームであっても、ATに関する状態が押し順ナビを実行可能な状態であれば「報知状態」とするよう構成している。「カウンタ値」とは「報知遊技実行可能数」とも称し、後述する、AT残りゲーム数もしくはATカウンタM60のカウンタ値である。例えば、「報知遊技実行可能数」が1以上（「0」となった当該遊技も含めても良い）である場合には後述する押し順ナビが実行され得る。また、「報知遊技実行可能数」として、小役（主に、押し順ベル役）が当選したことに基づいて得られる遊技媒体の差枚数（払出し枚数から投入枚数を引いた枚数）や、押し順ベル役の当選回数、を採用しても良い。また、「特殊報知状態」とは、ATに関する状態のうち遊技者に最も有利となる状態であり、本例では、「上乘せ特化状態」と称している。なお、「所定の遊技状態」とは、本例に記載する遊技状態や報知状態などの全ての状態の1または複数の組み合わせのいずれとしてもよい。また、「特定条件」とは、ATカウンタ値を減算し得る条件であり、例えば、1ゲームが終了した、所定役（例えば、押し順ベル役）が当選した、等が特定条件となる。「第1種特別役物」とは、規定数ごとの入賞に係る図柄の組み合わせの数を増加させ、または規定数ごとの入賞に係る条件装置が作動する確率を上昇させる役物で、あらかじめ定められた場合に作動し12回を超えない回数の遊技の結果が得られるまで作動を継続することができるものであり、RB（レギュラーボーナス）と称することがある。「第1種特別役物連続作動装置」とは、第1種特別役物を連続して作動させることができる装置で、特定の図柄の組み合わせが表示された場合に作動しあらかじめ定められた場合に作動を終了するものであり、BB（ビッグボーナス）や第1種BBと称することがある。「第2種特別役物」とは、役抽選の結果に拘らず入賞に係る条件装置を作動させることとなる役物で、あらかじめ定められた場合に作動し1回の遊技の結果が得られた場合に作動を終了するものであり、CB（チャレンジボーナス）と称することがある。「第2種特別役物連続作動装

10

20

30

40

50

置」とは、第２種特別役物を連続して作動させることができる装置で、特定の図柄の組み合わせが表示された場合に作動しあらかじめ定められた場合に作動を終了するものであり、ＭＢ（ミドルボーナス）や第２種ＢＢと称することがある。「普通役物」とは、規定数毎の入賞に係る図柄の組み合わせの数を増加させ、または、規定数毎の入賞に係る条件装置が作動する確率を上昇させる役物で、特定の図柄の組み合わせが表示された場合に作動し１回の遊技の結果が得られた場合に作動を終了することとされているものであり、ＳＢ（シングルボーナス）と称することがある。「オールＪＡＣＩＮタイプ」とは、第１種ＢＢ役が入賞した場合にＪＡＣＩＮしたものとみなし、第１種ＢＢの実行中においては常にＲＢ中とする構成である。また、「ＪＡＣＩＮ抽選タイプ」とは、第１種ＢＢの実行時に非ＲＢ中とＲＢ中とを繰り返し実行する構成である。また、「無制御リール」とは、停止操作を行った後に実行され得る引込み制御が実行されない状態のリールであり、停止操作を受け付けたリール位置から停止し得る最も近いリール位置にて停止する状態のリールである。「オールＣＢタイプ」とは、第２種ＢＢの実行時に常にＣＢ中となる構成である。「ＣＢ移行抽選タイプ」とは、第２種ＢＢの実行時に非ＣＢ中とＣＢ中とを繰り返し実行する構成である。

10

【０００９】

尚、以下の実施形態は、あくまで一例であり、各手段が存在する場所や機能等、各種処理に関しての各ステップの順序、フラグのオン・オフのタイミング、各ステップの処理を担う手段名等に関し、以下の態様に限定されるものではない。また、上記した実施形態や変更例は、特定のものに対して適用されると限定的に解すべきでなく、どのような組み合わせであってもよい。例えば、ある実施形態についての変更例は、別の実施形態からの変更例であると理解すべきであり、また、ある変更例と別の変更例が独立して記載されていたとしても、当該ある変更例と当該別の変更例を組み合わせたものも記載されていると理解すべきである。

20

【００１０】

<<<第１実施形態>>>

ここで、各構成要素について説明する前に、第１実施形態に係る回胴式遊技機Ｐの特徴（概略）を説明する。以下、図面を参照しながら、各要素について詳述する。

【００１１】

まず、図１（一部の構成については図２）を参照しながら、第１実施形態に係る回胴式遊技機Ｐの前面側の基本構造を説明する。回胴式遊技機Ｐは、主に前扉（フロントドアとも称す）と、裏箱（キャビネット、基体とも称す）と裏箱内に設置されたリールユニット、ホッパ装置、電源供給ユニットＥ、主制御基板Ｍ（ＣＰＵＭＣを含む主制御チップＣが搭載されている基板）、副制御基板Ｓ（ＣＰＵＳＣを含む副制御チップＳＣが搭載されている基板）で構成される。以下、これらを順に説明する。

30

【００１２】

<前扉ＤＵ>

前扉ＤＵは、遊技状態を視認可能にするための機構、遊技媒体の入力を可能にするための機構、リールユニットを操作するための機構、その他の機構等を含む。具体的には、遊技状態を視認可能にするための機構として、リール窓Ｄ１６０、投入数表示灯Ｄ２１０、スタートランプＤ１８０、再遊技ランプＤ２９０、投入可能ランプＤ３００、特別遊技状態表示装置Ｄ２５０、クレジット数表示装置Ｄ２００、払出数表示装置（押し順表示装置）Ｄ２７０（押し順表示装置Ｄ２７０と称することもある）、ＡＴカウンタ値表示装置Ｄ２８０、有利区間表示器ＹＨ等が取り付けられている。また、遊技媒体の投入や賭け数（ベット数）の入力を可能にするための機構として、メダル投入口Ｄ１７０、ベットボタンＤ２２０、投入された遊技媒体の払い出しを可能にするための機構として、精算ボタンＤ６０が取り付けられている。そして、リールを操作するための機構として、スタートレバーＤ５０、停止ボタンＤ４０が取り付けられている。なお、第１実施形態における回胴式遊技機は、スタートレバーＤ５０、停止ボタンＤ４０、メダル投入口Ｄ１７０、ベットボタンＤ２２０、精算ボタンＤ６０、サブ入力ボタンＳＢ、十字キーＳＢ２等が取り付けら

40

50

れている遊技者側にせり出した形状の操作卓を備えている。以下、各要素について詳述する。

【0013】

＜遊技状態を視認可能にするための機構＞

次に、遊技状態を視認可能にするための機構の要部について説明する。リール窓D160は、前扉DUの一部を構成する合成樹脂等によって形成された透明な部材であり、リール窓D160を通して遊技機枠内に設置されたリールユニットを視認可能に構成されている。また、投入数表示灯D210は、3つのLEDによって構成されており、現在ベット（一の遊技を開始するために必要な遊技メダルを投入すること）されているメダル数と同数のLEDが点灯するよう構成されている。具体的には、投入数表示灯D210は、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213の3つのLED（ランプ）によって構成されており、ベットされている遊技メダルが1枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：消灯、3ベットランプD213：消灯となり、ベットされている遊技メダルが2枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：点灯、3ベットランプD213：消灯となり、ベットされている遊技メダルが3枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：点灯、3ベットランプD213：点灯となる（再遊技が停止表示した次ゲームにおいてはその限りではなく、詳細は後述する）。また、スタートランプD180は、LEDによって構成されており、スタートレバーD50の操作が有効（操作を受け付けている）である場合に点灯し、スタートレバーD50の操作が無効（操作を受け付けていない）である場合に消灯するよう構成されている。また、再遊技ランプD290は、LEDによって構成されており、再遊技が停止表示したことを契機として点灯し、再遊技が停止表示した次の遊技が終了したことによって消灯するよう構成されている。また、投入可能ランプD300は、メダル投入口D170への遊技メダルの投入が有効である、または、ベットボタンD220の操作が有効である場合に点灯（点滅としてもよい）し、遊技メダルの投入が無効である、または、ベットボタンD220の操作が無効である場合に消灯するよう構成されている。また、特別遊技状態表示装置D250は、7セグメントディスプレイによって構成されており、特別遊技中に払い出された払出数の総数が表示されるよう構成されている。尚、特別遊技状態表示装置D250を設けない構成としてもよく、そのように構成した場合には、後述する演出表示装置S40（第二情報表示部とも称することがある）にて当該払出数の総数を表示するよう構成することで遊技者は特別遊技中に払い出された払出数の総数を認識することができユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。また、クレジット数表示装置D200は、7セグメントディスプレイによって構成されており、遊技者の持ちメダルとして遊技機内に貯留されているメダル数の総数（クレジット数）が表示されるよう構成されている。また、払出数表示装置（押し順表示装置）D270は、7セグメントディスプレイによって構成されており、現在払出されている遊技メダル数およびリール停止順（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43の停止順）によって入賞する役が相違し得る条件装置（いわゆる押し順役（押し順あり役とも称することがある）であるが、入賞する役や停止表示される図柄組み合わせが相違した場合には、遊技者に付される利益率（払出枚数、その後のRT状態等）が異なり得るよう構成されているものが一般的である）が成立したゲームにて、遊技者に最も有利となるリール停止順を報知し得るよう構成されている（当該報知を押し順ナビと称することがある）。このように、払出数表示装置（押し順表示装置）D270は、現在払出されている遊技メダル数と遊技者に最も高利益となるリール停止順との2つの表示を実行し得るよう構成されており、実行されている表示が2つの表示のうちいずれであるかを遊技者が誤認しないような表示態様となっており、当該表示態様の詳細は後述することとする。また、ATカウンタ値表示装置D280は、ATに関する状態（詳細は後述する）のうち、押し順表示装置D270（第一情報表示部とも称することがある）に表示された押し順ナビ表示（このように、押し順表示装置D270にて、遊技者に停止ボタンの有利な操作態様（停止操作態様）を報知することを、「押し順ナビを実行する」、「A

10

20

30

40

50

Tを実行する」、「ナビを実行する」、「指示を実行する」、「報知遊技を実行する」と称することがある）に従って遊技を進行した場合に保障されることとなる遊技者にとって有利なATに関する状態（本例では、押し順ナビ状態、報知遊技とも称することがあり詳細は後述する）に滞在し得るゲーム数を表示し得るよう構成されている。尚、ATカウンタ値表示装置D280を設けない構成としてもよく、そのように構成した場合には、AT中状態に滞在し得るゲーム数を演出表示装置S40にて表示するよう構成することで遊技者は当該有利なATに関する状態が保障されているゲーム数を認識することができユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。尚、払出数表示装置（押し順表示装置）D270は、払出数表示装置と押し順表示装置との2つの装置に分けるよう構成してもよい。

10

【0014】

また、有利区間表示器YHは、LEDによって構成されており、「有利区間」である場合には点灯し、「有利区間」でない場合には消灯するよう構成されている（点灯および消灯タイミングについては後述する）。ここで、本例に係る回胴式遊技機においては、従来の回胴式遊技機と同様に、遊技メダルが獲得容易であり遊技者にとって有利な特別遊技状態（いわゆる大当り遊技であり、ボーナス遊技や第1種BB・第2種BB等と呼ばれるものが該当する）、再遊技役の当選率があらかじめ定められた値である通常遊技状態よりも再遊技役の当選率が高い（または低い）状態である再遊技確率変動遊技状態（RT状態）、当選した役を入賞させるためのリールの停止順、停止位置を報知し得るAT（アシストタイム）中状態、前記RT状態とAT中状態とが複合したART（アシストリプレイタイム）状態、等を探り得るが、これらの「遊技状態」とは別に、「通常区間」、「待機区間」および「有利区間」という3つの「遊技区間」のいずれかを設定可能となっている。尚、本例においては「待機区間」は設定しておらず、「通常区間」と「有利区間」とのいずれかの遊技区間を設定している。このうち、「有利区間」が他の「遊技区間」よりも、遊技者にとって相対的に有利となるものとして位置付けられており、例えば、「遊技状態」がAT中状態やART状態であることと「有利区間」とが対応付けされている。即ち、「遊技状態」がAT中状態やART状態であると、有利区間表示器YHが点灯するのであるが、後述するように、「遊技区間」の設定制御も「遊技状態」の設定制御と同様に、遊技進行を制御する主制御基板側で行われるため、有利区間表示器YHの点灯／消灯状況によって、遊技進行状況が遊技者にとって相対的に有利なものとなっているか否かが、嘘偽りなく遊技者に対して伝達可能となっている。尚、後述するように、「有利区間」が所定の上限ゲーム数（例えば、1500ゲーム）に達するまで継続すると「通常区間」が強制的に設定されるのであるが、その際には、残存するATに関する状態も強制的に終了させられる（AT中状態を維持するための情報がクリア・初期化される）ため、設定される「遊技区間」の変更が「遊技状態」の移行にも影響を与え得るものとなっており、それにより比較的設計自由度の高いAT中状態やART状態等の「遊技状態」によって、著しく射幸性が高まってしまうことを自動的に抑制できるものとなっているのである。尚、上述したように、「有利区間」が所定の上限ゲーム数（例えば、1500ゲーム）に達するまで継続すると「通常区間」が強制的に設定される、即ち、「有利区間」が終了することとなるが、「有利区間」の終了条件はこれには限定されない。本例に係る回胴式遊技機における「有利区間」の終了条件は、「押し順役（押し順あり役）を構成する小役の中で、払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ1回の実行（例えば、押し順役を構成する小役として、7枚、3枚、1枚の小役がある場合、払出し枚数が最も多い7枚が獲得可能な押し順ナビであって、押し順により7枚、または1枚が獲得可能な押し順役と、押し順により3枚が獲得可能な押し順役があれば、3枚が獲得可能な押し順ナビは、ここでいう押し順ナビには該当しない）」、または、「BB、RB、MB、のいずれかに当選」を満たし、且つ、「任意の終了条件（40G1セットのループ抽選に非当選（AT）、固定32G経過（ガセ前兆）等）」、または、「有利区間1500G」を満たすことが終了条件となっている。尚、押し順ベル役が存在しないような仕様（例：RT状態を移行するためのリプレイの押し順は存在するが、押し順によって払出し枚数が異なる小役が存在しない仕

20

30

40

50

様) の場合には、「払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ 1 回」という有利区間を終了するための条件は除外される。また、第 1 実施形態では、押し順役を構成する小役として 1 1 枚役に対応する小役と 1 枚役に対応する小役を含む小役により構成されているため、「払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ 1 回の実行」とは、1 1 枚のメダルが獲得可能 (1 1 枚役が入賞可能) な押し順を報知することを指す。

【0015】

＜遊技媒体の入力を可能にするための機構＞

次に、遊技媒体の入力を可能にするための機構の要部について説明する。メダル投入口 D 1 7 0 は、遊技メダルの投入口であり、メダル受付可能状態である状況下において当該投入口に投入された遊技メダルは遊技機内部へと誘導される。また、遊技機内部にはメダルの投入を検出するセンサとして、投入受付センサ D 1 0 s と、第 1 投入センサ D 2 0 s と、第 2 投入センサ D 3 0 s と、が設けられており、遊技機内部へと誘導された遊技メダルが正常に投入されたと判断した場合に、投入されたメダルをベットされたメダルとして検出し得るよう構成されている。また、ベットボタン D 2 2 0 は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によって、貯留されているメダル (クレジットのメダル) をベットすることができるよう構成されている。また、精算ボタン D 6 0 は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によって、貯留されているメダル (クレジットのメダル) および／またはベットされているメダルを遊技者に払い戻すことが可能となっている。尚、精算ボタン D 6 0 の操作によって払い戻された遊技メダルは、放出口 D 2 4 0 に払い出されるよう構成されている。

【0016】

＜リールユニットを操作するための機構＞

次に、スタートレバー D 5 0 は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によってリールの動作を開始可能に構成されている。また、停止ボタン D 4 0 は、遊技者によって操作可能な左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2、右停止ボタン D 4 3 を備えており、夫々の停止ボタンを操作することによってリールの動作を順次停止可能に構成されている。

【0017】

＜前扉 D U に設けられたその他の機構＞

次に前扉 D U に設けられたその他の機構の要部について図 2 の前扉 D U を開いて回胴式遊技機 P の内部の構成を示した斜視図も参照しつつ説明する。前扉 D U には、遊技の興趣性を高めるための機構として、予告演出や背景演出等の演出を表示するための演出表示装置 S 4 0、様々な点灯態様にて点灯し得る遊技効果ランプ D 2 6 (不図示)、信号中継用の扉基板 D、投入されたメダルの検出等を行なうメダルセレクト D S、サウンドを出力し得るスピーカ S 2 0、合成樹脂等によって形成された部材である、中パネル (中装飾パネル)、上パネル D 1 3 0 および下パネル D 1 4 0、等が設けられている。演出表示装置 S 4 0 は、上パネルに形成された透視領域を介して演出等を表示する表示部が視認可能となるように前扉 D U の裏面側上部に取り付けられている。また、装飾ランプユニット D 1 5 0 および L E D ランプユニット S 1 0 は、回胴式遊技機 P の遊技の進行に応じて発光する発光源を有しており、下パネル D 1 4 0 を挟んで右側および左側の各々に装飾ランプユニット D 1 5 0 が設けられ、上パネル D 1 3 0 を挟んで右側および左側の各々に L E D ランプユニット S 1 0 が設けられている (装飾ランプユニット D 1 5 0 と L E D ランプユニット S 1 0 とを総称して、ランプユニットと称することがある)。また、前扉 D U の背面におけるリール窓 D 1 6 0 の下方には、扉基板 D が取り付けられており、この扉基板 D には、前述した停止ボタン D 4 0 や、スタートレバー D 5 0、精算ボタン D 6 0 等の入力信号が入力され、入力された信号を直接或いは加工して後述する主制御基板 M に出力する中継基板の機能を有している。また、メダル投入口 D 1 7 0 に対応し、前扉 D U の背面における扉基板 D の付近には、詳細後述するメダルセレクト D S が設けられており、メダル投入口 D 1 7 0 から投入されたメダルの検出並びに簡易的な真贋を行ない、適正なメダルを後述するホッパ H 4 0 に案内し、不適正なメダルを後述するメダル受け皿 D 2 3 0 に返却す

る機能を有している。更に、扉基板 D の下方の左右にスピーカ S 2 0 が夫々 1 つずつ設けられている。中パネルは、操作卓の上側、上パネル D 1 3 0 の下側の部分であり、前述したリール窓を含むパネル部分である。また、前述した操作卓 D 1 9 0 に取り付けられているサブ入力ボタン S B および十字キー S B 2 とは、後述するメニュー画面における操作や副制御基板 S 側でのボタン連打演出（サブ入力ボタン S B を連打操作することによって、ボーナスに当選しているか否かに関する演出を実行する）やミニゲーム（例えば、「A T 中状態」への突入の成否の演出）等の進行等に用いる部材である。なお、回胴式遊技機 P の前扉 D U には、放出口 D 2 4 0 から放出された遊技メダル（或いは単にメダルと呼ぶことがある）を受けるメダル受け皿 D 2 3 0、前扉 D U の開閉状態を検出可能な扉スイッチ D 8 0 が設けられている。また、前扉 D U には鍵穴 D 2 6 0 が設けられており、鍵穴 D 2 6 0 の形状と整合するキー（ドアキー）を鍵穴 D 2 6 0 に差し込む（加えて、所定の方向（例えば、時計回り）に捻る）ことで、前扉 D U を開放し得るよう構成されている。更に、第 1 実施形態においては、ドアキーを鍵穴 D 2 6 0 に差し込む（加えて、所定の方向（例えば、反時計回り）に捻る）ことで、エラー状態（ドア開放エラー等）を解除し得るよう構成されている。また、ベットボタン D 2 2 0 の内部にはベットボタンランプ S 5 0 が設けられており、ベットボタンランプ S 5 0 は、副制御基板 S にて制御される L E D で構成されており、ベットボタンランプ S 5 0 が点灯（または点滅）することにより、ベットボタン D 2 2 0 の操作が有効であることを遊技者に知覚させることができる。また、停止ボタン D 4 0 の内部には停止ボタンランプ S 6 0 が設けられており（左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2、右停止ボタン D 4 3 の 3 つの停止ボタンに夫々設けられている）、停止ボタンランプ S 6 0 は、副制御基板 S にて制御される L E D で構成されており、停止ボタンランプ S 6 0 の点灯（または点滅）の有無および／または点灯色により、停止ボタン D 4 0 の操作が有効であることを遊技者に知覚させることができる。尚、有効である停止ボタン D 4 0 に対応した点灯色にて点灯するのは有効である停止ボタン D 4 0 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 のみとなるよう構成されているため、例えば、左停止ボタン D 4 1 が無効、中停止ボタン D 4 2 が有効、右停止ボタン D 4 3 が有効である場合には、左停止ボタン D 4 1 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 が消灯、中停止ボタン D 4 2 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 が点灯、右停止ボタン D 4 3 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 が点灯のように、3 つの停止ボタンランプ S 6 0 の点灯態様が夫々相違し得るよう構成されている。また、停止ボタンランプ S 6 0 の点灯色や点灯態様を相違させることにより（点灯・点滅のように相違させたり、低速点滅・高速点滅のように相違させてもよい）、押し順ナビが実行されるゲームにて、現在停止操作すべき停止ボタンを遊技者が判別し易くなるよう構成してもよく、例えば、すべてのリールが回転中であり、「左→中→右」の押し順が正解（最大の払出枚数）となる押し順ベルに当選している場合に、左停止ボタンに対応する停止ボタンランプを白色で点滅させ、中停止ボタンに対応する停止ボタンランプと右停止ボタンに対応する停止ボタンランプとを青色に点灯させ、その後、遊技者が左停止ボタンを操作して左リールを停止させた場合には、左停止ボタンに対応する停止ボタンランプを消灯させ、中停止ボタンに対応する停止ボタンランプを白色で点滅させ、右停止ボタンに対応する停止ボタンランプとを青色に点灯させるよう構成してもよい。

【 0 0 1 8 】

次に裏箱（キャビネット、基体とも称す）並びに、裏箱内に設置される各装置について説明する。裏箱の略中央には、リール窓 D 1 6 0 を介してその一部が視認可能となるようにリールユニットが取り付けられている。リールユニットは、リール M 5 0 とリール M 5 0 の駆動源（ステッピングモータ等）とを備えている。また、リール M 5 0 は、左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3 を備えている。ここで、夫々のリール部は合成樹脂等により形成され、リール部の外周上（リール帯 M O 上）には複数の図柄が描かれている。そして、スタートレバー D 5 0 および停止ボタン D 4 0 における各停止ボタンの操作に基づき、夫々のリール部の回転動作および停止動作を可能とするよう構成されている。また、図示しないが、左リール M 5 1、中リール M 5 2 および右リール M 5 3 の内部には L E D（以下、リールバックライトと呼ぶことがある）が設けられており、L E D が点

10

20

30

40

50

灯した際にはリール部外周を透過した光によって、リール部外周が点灯したように視認できるよう構成されている。また、リールM50の上方には、各リール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）を駆動するための後述する回胴基板Kが格納されている。

【0019】

また、リールM50の上方には、遊技全体の制御を司る後述する主制御基板Mが格納され、リールM50の左方には、図1に示した演出表示装置S40、LEDランプユニットS10、スピーカS20等を用いて行われる各種演出の制御を司る後述する副制御基板Sが格納されている。なお、主制御基板Mには、後述する設定変更装置制御処理を実行するため（設定変更を行うため）に使用する設定キースイッチM20、設定値の変更やエラー解除等を実行し得る設定／リセットボタンM30が接続されている。図2において、設定キースイッチM20、設定／リセットボタンM30については何れも不図示としているが、主制御基板Mの基板上等の適宜位置に設けられていればよい（即ち、前扉DUを開かなければ人為的なアクセスが困難な位置に設けられていればよい）。

10

【0020】

リールM50の下方には、投入された遊技メダルが集められるホッパH40や、遊技メダルを払い出すメダル払出装置Hが設けられており、回胴式遊技機P全体に電源を供給するための電源基板Eが格納されている。メダル払出装置Hから払い出された遊技メダルは、コインシュータD90を通して、放出口D240から払い出されるようになっている。また、電源基板E（電源供給ユニットEとも称することがある）の前面には、回胴式遊技機Pの電源を投入するための電源スイッチE10も設けられている。なお、メダル払出装置Hの詳細については後述する。

20

【0021】

<メダルセクタDS>

次に、メダルセクタDSについて、図3を交えつつ詳細に説明する。図3は、回胴式遊技機P内部における、メダル投入口D170に投入された遊技メダルの経路（セクタ）を示した斜視図である。メダルセクタDSは、扉基板Dの付近にメダル投入口D170から投入された遊技メダルの通路となる投入受付センサD10sが設けられており、投入受付センサD10sの下方には、遊技メダルを放出口D240に導くためのコインシュータD90などが設けられている。投入受付センサD10sは、メダル投入口D170から投入された遊技メダルを主に寸法に基づいて選別し、規格寸法に適合した遊技メダルだけを受け入れる機能を有しており、この機能により適合しないと判断されたメダル（または、その他の異物）は、ブロックD100により放出口D240に払い戻されるよう構成されている。遊技者がスタートレバーD50を操作する前に（遊技メダルの投入が有効である状態にて）遊技メダルを投入すると、遊技メダルは投入受付センサD10sによって選別され、規格を満足しているものだけがホッパH40内に投入され、規格を満たしていないメダルは、コインシュータD90を通して、放出口D240に返却されるようになっている。これに対して、スタートレバーD50が操作された後に（遊技メダルの投入が有効でない状態にて）遊技メダルが投入された場合は、規格を満たしているか否かに拘らず、投入された遊技メダルはコインシュータD90を通して、放出口D240に返却される。また、投入受付センサD10sの内部（流路の奥）には、詳細後述するメダル投入に係るセンサが設けられており、寸法規格を満たして受け入れられた遊技メダルが通過すると、第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sによって検出されて、その信号が後述する主制御基板Mに供給されるようになっている。

30

40

【0022】

次に、メダル投入に係るセンサについて詳述する。メダル投入口D170に投入された遊技メダルは、まず投入受付センサD10sを通過する。投入受付センサD10sは機械式のダブルセンサになっており、遊技メダルが通過することによって、2つの突起した機構が押下されることによりオンとなり遊技メダルが正常に通路を通過することができることとなる。また、このような構成により、遊技メダルではない異物（規格を満足していな

50

い異物であり、例えば、遊技メダルよりも径が小さいもの）が投入された場合には、2つの突起した機構が押下されない。このようなメダルは、起立した状態をメダルが維持できないため、通路を通過できず（メダルが倒れこむ）、前述したようにコインシュータD90を通過して放出口D240に払い戻されることとなる。そのほかにも、投入受付センサD10sは、オンとなっている時間が所定時間以上連続した場合等にも、エラーであると判定し得る（その結果、ブロッカD100がオフとなり得る）よう構成されている。

【0023】

遊技メダルがブロッカD100を正常に通過した場合に、通過直後に第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sを通過することとなる。この投入センサ（第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30s）は2つのセンサで構成されており（遊技メダルの規格上の直径よりも小さい間隔で隣接配置されており）、夫々のセンサのオン・オフ状況（第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sのオン・オフの組み合わせの遷移していく順序、等）およびオン・オフとなっている時間を監視することにより様々なエラーを検出可能に構成されている。

【0024】

<メダル払出装置H>

次に、図4のメダル払出装置Hの正面図および上面図を用いてメダル払出装置Hを詳細に説明する。メダル払出装置Hは、クレジット（遊技機内部に電子的に貯留されている遊技メダル）またはベットされているメダル（遊技を開始するために投入されたメダル）が存在する状態で、精算ボタンが操作された、または、入賞により遊技メダルが払い出される場合に作動することとなる。作動する場合には、まず、ホッパモータH80が駆動することにより、ディスク回転軸H50aを中心にディスクH50が回転する。回転によりメダル払出装置H内の遊技メダルは放出付勢手段H70を変位させて遊技メダル出口H60から放出口D240に向かって流下していくこととなる。尚、払出センサ（第1払出センサH10sおよび第2払出センサH20s）は2つのセンサで構成されており、夫々のセンサのオン・オフ状況（第1払出センサH10sおよび第2払出センサH20sのオン・オフの組み合わせの遷移していく順序、等）およびオン・オフとなっている時間を監視することにより様々なエラーを検出可能に構成されている。より具体的には、例えば、遊技メダル出口H60を正常に通過する際には、放出付勢手段H70の変位により、第1払出センサH10s＝オフ・第2払出センサH20s＝オフの状態から、第1払出センサH10s＝オフ・第2払出センサH20s＝オフ→第1払出センサH10s＝オン・第2払出センサH20s＝オン→第1払出センサH10s＝オン・第2払出センサH20s＝オフ→第1払出センサH10s＝オフ・第2払出センサH20s＝オン→第1払出センサH10s＝オフ・第2払出センサH20s＝オフ、というセンサ状態遷移となるため、このセンサ状態遷移と反する動きを検出した場合には、エラーとするよう構成することを例示することができる。

【0025】

次に、図5は、第1実施形態における、回胴式遊技機の基本仕様一覧である。第1実施形態に係る回胴式遊技機は、規定数（1ゲームにてベットできる遊技メダルの最大枚数）が3枚、左リールM51、中リールM52および右リールM53のコマ数はいずれも20コマ、入賞判定される有効ラインは「左リールM51上段、中リールM52中段、右リールM53下段」の1ラインとなっている。尚、最大払出枚数は11枚、最小払出枚数は1枚（入賞役と払出枚数との対応付けは後述）である。また、優先入賞順（引き込み優先順）は、「再遊技役→小役（ベル、スイカ、等）→ボーナス」となっており、例えば、再遊技役とボーナスが同時に成立している場合には、再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示し且つボーナスは入賞不能である。また、ベルとスイカが成立している場合には、どちらも引き込める位置（入賞する停止位置まで4コマ以内の位置）で停止ボタンを押した場合には払出枚数が多い小役を優先して引きこむよう構成されている。尚、同図に示した構成はあくまで一例であり、各リールのコマ数を変更（例えば、21コマに変更）したり、有効ラインの構成を変更（例えば、横3ライン、斜め2ラインの5ラインに変更、左リール

10

20

30

40

50

ル M 5 1 下段、中リール M 5 2 中段、右リール M 5 3 上段の 1 ラインに変更) しても何ら問題ない。また、特に押し順によって遊技者にとって異なる利益が付与される押し順小役が当選したときの引き込み制御としては、予め定められた正解の押し順で操作された場合には払出し枚数の多い小役を優先して引き込むように制御(枚数優先制御)しており、正解の押し順とは異なる不正解の押し順で操作された場合には停止表示可能な(停止操作から 4 コマ以内の位置に配置されている)図柄のうち入賞可能性を高める(入賞可能な複数図柄組み合わせのうち入賞する可能性が最も多くなる)図柄を引き込む制御(個数優先制御)を行っている。

【0026】

次に、図 6 は、第 1 実施形態における、回胴式遊技機のリール配列一覧である。同図に示されるように、左リール M 5 1、中リール M 5 2 および右リール M 5 3 のコマ数はいずれも 20 コマ(0 番～19 番)であり、図柄は「黒セブン」、「白セブン」、「羊」、「ブランク」、「ベル」、「リプレイ A」、「リプレイ B」、「スイカ A」、「スイカ B」、「チェリー」の 10 種類となっている。ここで、「ブランク」は、その他の図柄と同様に当選役を構成する図柄組み合わせに含まれる図柄であり、当選役を構成しない図柄という意味ではなく、「ブランク」を含む当選役を構成する図柄組み合わせとしては、例えば、「スイカ B・リプレイ A・ブランク」で再遊技 0 2 となっている。尚、同図に示した構成はあくまで一例であり、図柄の種類を増減・変更しても何ら問題ない。

【0027】

次に、図 7～図 9 は、第 1 実施形態における図柄組み合わせ一覧 1～3 である。第 1 実施形態においては、夫々の条件装置に対して複数の図柄組み合わせが存在しており、後述するように、左リール M 5 1、中リール M 5 2 および右リール M 5 3 の停止順番や停止位置に応じて、いずれか一の図柄組み合わせが有効ライン(前述した 1 ライン)上に停止表示されるよう構成されている。尚、有効ライン上に同一種類の図柄が揃っていない場合にも遊技者から見ると有効ライン以外のライン上にて一列に同一の図柄が揃いやすく構成されている(スイカの場合には中段に横一直線に揃う等、リール上のいずれかに一直線にスイカ図柄が 3 つ揃うよう構成されている)。また、第 1 実施形態においては、第 1 種 B B 役(いわゆる第 1 種特別役物に係る役物連続作動装置であるが、以下、単に B B 役と呼ぶことがある)となる図柄組み合わせして、1 種 B B - A (R B - A を連続作動させ、264 枚を超える払出で終了)となる「羊・羊・羊」と、1 種 B B - B (R B - B を連続作動させ、132 枚を超える払出で終了)となる「黒セブン・黒セブン・黒セブン」と、1 種 B B - C (R B - B を連続作動させ、132 枚を超える払出で終了)となる「白セブン・白セブン・白セブン」の 3 つの図柄組み合わせを有している。尚、第 1 実施形態においては、第 1 種 B B 役が入賞し、B B が実行された(役物が作動した)場合には、当該 B B 実行中においては、B B 中のすべてのゲームにおいて、1 つの抽選テーブルを参照して、役物以外の当選役(小役、再遊技役)を抽選するよう構成されている(1 回の B B の実行中において役抽選の際に参照するテーブルを切り替えない方式であり、以下、オール J A C I N タイプと呼ぶことがある)。尚、第 1 種 B B 役の形式に関しては、これには限定されず、1 回の B B の実行中において役抽選の際に参照するテーブルを切り替え得るよう構成してもよい。また、R T 状態が「R T 1」である場合に 14 番～16 番に対応する再遊技 0 4 となる図柄組み合わせが停止表示されると、R T 0 に移行するよう構成されている(R T 状態の詳細については後述する)。尚、「R T 1」よりも「R T 0」の方が遊技者に不利な R T 状態であるため、「R T 1」から「R T 0」に移行することを転落すると称することがある。また、17 番に対応する再遊技 0 5 となる図柄組み合わせが停止表示されると、左リール M 5 1、中リール M 5 2 および右リール M 5 3 の下段に「黒セブン」が停止表示され得ることとなり、18 番に対応する再遊技 0 5 となる図柄組み合わせが停止表示されると、左リール M 5 1、中リール M 5 2 および右リール M 5 3 の下段に「白セブン」が停止表示され得ることとなる(詳細は後述することとする)。また、後述する「入賞 - A 1」～「入賞 - A 6」の条件装置である押し順ベルが当選した場合には、遊技者にとって最も有利な押し順にてリールを停止させると、21 番～27 番に対応する「入賞 0

10

20

30

40

50

1」～「入賞03」となる図柄組み合わせが停止表示され、11枚の遊技メダルが払い出される一方、遊技者にとって最も有利な押し順とは異なる押し順にてリールを停止させると、39番～56番に対応する「入賞08」～「入賞11」となる図柄組み合わせが停止表示され、1枚の遊技メダルが払い出されることとなる。尚、同図における「-」はいずれの図柄が停止表示されてもよい旨を示しており、例えば、23番に対応する「ベル・ベル」は左リールM51および右リールM53の有効ライン上にベルが停止表示されれば中リールM52の有効ライン上にはどの図柄が停止表示されても11枚の遊技メダルが獲得できる。

【0028】

次に、図10は、第1実施形態における条件装置一覧である。尚、同図においては、条件装置番号を当選番号と称しており、以降においても条件装置番号を当選番号と称することがある。第1実施形態においては、再遊技役は再遊技-A～再遊技-D3（当選番号1～6）まで設けられており、左リールM51、中リールM52および右リールM53の停止順番や停止位置に応じて、停止表示する再遊技役が相違し得るよう構成されている。ここで、第1実施形態においては、最も右の列である「条件装置」の項目に図示されているように、左リールM51、中リールM52および右リールM53の停止順番や停止位置に応じて複数種類の条件装置が停止表示され得るよう構成されており、当該複数種類の条件装置のうち同一の当選番号となる条件装置を纏めて、右から3番目の列である「条件装置（名称）」の項目にて図示している。具体的には、例えば、当選番号1に対応する条件装置である「再遊技-A」においては、左リールM51、中リールM52および右リールM53の停止順番や停止位置に応じて、「再遊技01」、「再遊技02」、「再遊技03」の3種類の条件装置が停止表示され得るよう構成されている。尚、「条件装置（名称）」を単に条件装置と称することがある。また、「再遊技01」等の再遊技に関する条件装置を再遊技役と称することがあり、「入賞01」等の入賞することで遊技メダルが払い出される条件装置を小役と称することがあり、「1種BB-A」等の停止表示されることによりBBが開始することとなる条件装置をBB役と称することがある。また、当選番号21～23および25～27に当選した場合には、BB役と小役とが重複して当選することとなり、そのような場合には、当選した小役に対応する図柄が停止表示し得る位置にて左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43を操作するとBB役に対応する図柄が停止表示せずに小役に対応する図柄が停止表示する一方、小役に対応する図柄が停止表示しない（引き込めない）位置にて左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43を操作すると小役に対応する図柄が停止表示せずにBB役に対応する図柄が停止表示するよう構成されている。具体的には、例えば、当選番号21の条件装置である「1種BB-B+入賞-C」に当選した場合には、「入賞12」または「入賞13」であるチェリーと、「1種BB-B」である黒セブンとのいずれかが停止表示し得ることとなる。より具体的には、左リールM51→中リールM52→右リールM53の順番にリールを停止させる場合において、（1）第1停止にて左リールM51の上段に図柄番号0～4番（図6のリール配列を参照）が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD41を操作した場合には、左リールM51の上段に「入賞12」に対応する図柄番号4番が停止し、中リールM52および右リールM53の停止位置に拘らず、「入賞12」が停止表示される。（2）第1停止にて左リールM51の上段に図柄番号5～12番が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD41を操作した場合には、左リールM51の上段に「入賞13」に対応する図柄番号6番、11番、または16番が停止し、中リールM52および右リールM53の停止位置に拘らず、「入賞13」が停止表示される。（3-1）第1停止にて左リールM51の上段に図柄番号13～19番が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD41を操作した場合には、左リールM51の上段に「1種BB-B」に対応する図柄番号17番または19番が停止する。（3-2）第2停止にて中リールM52の中段に図柄番号14～18番が位置している操作タイミングにて中停止ボタンD42を操作した場合には、中リールM52の中段に「1種BB-B」に対応する図柄番号18番が停止し、その後、第3停止にて右リールM53の下段に図柄番号13

10

20

30

40

50

～17番が位置している操作タイミングにて右停止ボタンD43を操作した場合には、右リールM53の下段に「1種BB-B」に対応する図柄番号17番が停止し、BB役が停止表示されることとなる。(3-3)第2停止にて中リールM52の中段に図柄番号19～13番が位置している操作タイミングにて中停止ボタンD42を操作した場合には、中リールM52の中段に「1種BB-B」に対応する図柄番号18番が停止できず、いずれの条件装置も停止表示されないこととなる。

【0029】

次に、「役割」の項目には、「条件装置(名称)」がどのような役割となっているかを図示しており、当選番号1に対応する「通常リプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、RT状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であり、当選番号2に対応する「逆押し白7揃いリプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、RT状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であるが、逆押し(右リールM53→中リールM52→左リールM51の順にリールを停止させること)にて、右リールM53の図柄番号18～2番の範囲、中リールM52の図柄番号9～13番の範囲、左リールM51の図柄番号5～10番の範囲が各リールの下段に位置している操作タイミングにて停止ボタンを操作することにより、右リールM53、中リールM52および左リールM51の下段に「白セブン」が停止表示され、遊技者から見ると白セブンが下段に揃っているように見えるよう構成されている。尚、再遊技-Bに当選し、AT上乘せ抽選に当選したゲームにおいて、逆押しで「白セブン」を狙うよう指示する演出(詳細は後述する)を実行することにより、AT上乘せ抽選に当選した旨を遊技者に報知し得るよう構成されている。当選番号3に対応する「順押し黒7揃いリプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、RT状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であるが、順押し(左リールM51→中リールM52→右リールM53の順にリールを停止させること)にて、左リールM51の図柄番号13～19番の範囲、中リールM52の図柄番号14～18番の範囲、右リールM53の図柄番号13～17番の範囲が各リールの下段に位置している操作タイミングにて停止ボタンを操作することにより、左リールM51、中リールM52および右リールM53の下段に「黒セブン」が停止表示され、遊技者から見ると黒セブンが下段に揃っているように見えるよう構成されている。尚、再遊技-Cに当選し、AT上乘せ抽選に当選したゲームにおいて、順押しで「黒セブン」を狙うよう指示する演出(詳細は後述する)を実行することにより、AT上乘せ抽選に当選した旨を遊技者に報知し得るよう構成されている。

【0030】

また、当選番号4に対応する「RT維持RP1** (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを左リールM51とした場合には、RT状態が移行しない再遊技01、再遊技02または再遊技03が停止表示され、第1停止リールを中リールM52または右リールM53とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。また、当選番号5に対応する「RT維持RP*1* (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを中リールM52とした場合には、RT状態が移行しない再遊技03が停止表示され、第1停止リールを左リールM51または右リールM53とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。また、当選番号6に対応する「RT維持RP**1 (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを右リールM53とした場合には、RT状態が移行しない再遊技01または再遊技03が停止表示され、第1停止リールを左リールM51または中リールM52とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。

【0031】

また、当選番号7～12に対応する、「押し順ベル123」～「押し順ベル321」は、リール停止順を6択のいずれとするかによって入賞する小役が相違し得る条件装置であり、例えば、「左リールM51：1、中リールM52：2、右リールM53：3」となっており「123」の場合「左リールM51→中リールM52→右リールM53」の押し順で停止させるという意味であり、例えば、「入賞-A1」（当選番号7）の場合には、「123」＝「左→中→右」の順に停止させる（押し順に正解する）と最大獲得枚数である11枚の遊技メダルが獲得できる「入賞01」となる図柄組み合わせが停止表示することとなる。尚、「押し順ベル123」の「123」等はその当選番号における最大獲得枚数を獲得可能な押し順（リール停止順）を示している。尚、最大獲得枚数を獲得可能な押し順以外の押し順にてリールを停止させた場合には、即ち、押し順に正解できないと1枚の払出となるよう構成されており、このように構成することで、「AT中状態」等のATに関する状態にて再遊技役の押し順やベルの押し順をナビ（押し順表示装置D270にて最高利益となる押し順を表示）し、「通常遊技状態」等のATに関する状態には押し順をナビしないという遊技者の利益率が異なる複数の遊技状態を創出することができる。尚、ATに関する状態については後述する。

10

【0032】

また、当選番号13に対応する、「共通ベル」は、入賞04～入賞07のいずれが停止しても最大獲得枚数である11枚の遊技メダルが獲得できる、即ち、押し順に拘らず最大利益が獲得できる条件装置であり、押し順不問ベルと称することがある。また、当選番号15に対応する、「スイカA」は、平行ラインにスイカ（スイカAとスイカBのいずれか）が3つ揃いし易いよう構成されており、例えば、図9における60番の入賞14は各リール中段にスイカAが3つ揃いすることとなる。また、当選番号16に対応する、「スイカB」は、斜めラインにスイカ（スイカAとスイカBのいずれか）が3つ揃いし易いよう構成されており、例えば、図9における66番の入賞16は左リールM51上段にスイカB、中リールM52中段にスイカB、右リールM53下段にスイカAのように、斜め右下がりにスイカが3つ揃いすることとなる。また、当選番号17に対応する、「BB中弱レア小役（斜めベル揃い）」は、有効ライン上にベルが3つ揃いし得る条件装置であり、詳細は後述するが、BB中に当選することによってAT上乘せ抽選が実行される条件装置である。また、当選番号18に対応する、「BB中強レア小役（V字ベル揃い）」は、左リールM51上段、中リールM52中段、右リールM53上段にベルが停止表示され得る条件装置であり、詳細は後述するが、BB中に当選することによってAT上乘せ抽選が実行される条件装置である。

20

30

【0033】

次に、「ボーナス当選情報」の項目には、0～3までの数値が当選番号毎に振り分けられている。第1実施形態においては、ボーナス（BB役）が含まれない当選番号はボーナス当選情報を0とし、ボーナス（BB役）が含まれる当選番号として、1種BB-Aが含まれる当選番号（19）のボーナス当選情報を1、1種BB-Bが含まれる当選番号（20～23）のボーナス当選情報を2、1種BB-Cが含まれる当選番号（24～27）のボーナス当選情報を3としている。ボーナス当選情報を主制御基板Mが記憶することによっていずれのBB成立の有無やいずれのBB役に当選したかに係る情報を記憶することができる。尚、ボーナス当選情報の詳細については後述する。

40

【0034】

次に、「入賞・再遊技当選情報」の項目には、0～18までの数値が当選番号毎に振り分けられている。第1実施形態においては、再遊技役と小役とが含まれない当選番号（ハズレに対応する当選番号0とボーナスに対応する当選番号19・20・24）は入賞・再遊技当選情報を0とし、再遊技役または小役が含まれる当選番号に対して1～18入賞・再遊技当選情報を条件装置毎に振り分けている。入賞・再遊技当選情報を主制御基板Mが記憶することによっていずれの再遊技役または小役に当選したかに係る情報を記憶することができる。尚、入賞・再遊技当選情報の詳細については後述する。

50

【0035】

次に、「演出グループ番号」の項目には、0～11までの数値が当選番号毎に振り分けられている。演出グループ番号を主制御基板M側から副制御基板S側に送信することによって、副制御基板S側が実行する演出を決定することができるよう構成されている。尚、演出グループ番号の詳細については後述する。

【0036】

次に、「出玉グループ番号」の項目には、0～13までの数値が当選番号毎に振り分けられている。出玉グループ番号を主制御基板Mが記憶し、当該記憶した出玉グループ番号をATに関する抽選（例えば、AT抽選、AT上乗せ抽選）を実行する際に使用することにより、ATに関する抽選処理を実行するためのプログラム、データ容量を削減することができる。尚、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選してもAT抽選およびAT上乗せ抽選は実行されない。一方、出玉グループ番号が0でない条件装置が当選した場合には、AT抽選またはAT上乗せ抽選が実行され得ることとなる。尚、出玉グループ番号の詳細については後述する。また、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選した場合にも、AT抽選またはAT上乗せ抽選が実行され得るよう構成してもよく、そのように構成した場合には、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選してAT抽選またはAT上乗せ抽選が実行された場合には、当該抽選結果がかならずハズレ（非当選）となるよう構成することが好適である。

【0037】

次に、図11は、第1実施形態における小役、再遊技役に関する当選番号（条件装置番号、当選役とも称す）およびボーナス（BB、BB役とも称す）が役抽選手段により決定される抽選確率（当選率、当選確率とも称する）を示す一覧である。同図においては、当選番号の当選率を図示している。

【0038】

まず、BB未作動時である「RT0」、「RT1」および「RT2」における抽選確率について詳述する。第1実施形態においては、RT状態によって当選役（特に、再遊技役）の出現率（抽選確率）が相違し得るよう構成されており、「再遊技役」（すべての再遊技役を合計した出現率）は「RT1」の場合においてその他のRT状態よりも出現率が高くなっている。また、当選番号4～6にて停止表示し得る「再遊技04」（いわゆる転落再遊技役であり、「RT1」であり且つボーナスが当選していない状況下において当該再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されると、以降「RT0」に移行することとなる）は「RT1」にて主に当選し、「RT0」においてはほぼ出現しないようになっている。尚、「RT2」においては、当選番号4～6にて停止表示し得る「再遊技04」が出現し得ることとなるが、「再遊技04」が停止表示されてもRT状態は移行しない。尚、「RT1」において「再遊技04」が停止表示された場合には、「RT0」に移行した、即ち、RT状態が転落した旨を報知する演出である転落演出（例えば、演出表示装置S40に「残念」と表示）を実行し、「RT0」において「再遊技04」が停止表示された場合には、転落演出を実行しないよう構成してもよい。そのように構成することにより、「再遊技04」が停止表示されたにも拘らず、転落演出が実行されなかったことにより、BBに当選していることを認識することができ、遊技の興趣性を高めることができる。尚、そのように構成した場合には、「再遊技04」が停止表示されたことにより出力される効果音と「再遊技04」以外の再遊技役（例えば、RT状態が移行しない「再遊技01」）が停止表示されたことにより出力される効果音とが相違するよう構成してもよく、そのように構成することにより、「再遊技04」が停止表示されたことを遊技者が認識し易く構成することができる。また、押し順ナビが発生しないATに関する状態（例えば、「通常遊技状態」であり、非AT遊技状態と称することがある）である場合と押し順ナビが発生し得るATに関する状態（例えば、「AT中状態」であり、AT遊技状態と称することがある）である場合との両方の場合において「RT1」に滞在することがある。このとき、「RT1」から「RT0」へ移行（転落）する可能性がある当選番号が当選したとき、非AT遊技状態のときにはRT状態が転落する可能性があることを示す特殊な効果音をス

10

20

30

40

50

スタートレバーD50の操作に基づいて出力しないように構成されていても良い。これにより、非AT遊技状態においては「RT0」に転落する可能性があることを遊技者に悟らせることなく、遊技状態を移行させることが可能となる。一方、AT遊技状態のときにはRT状態が転落する可能性があることを示す特殊な効果音をスタートレバーの操作に基づいて出力する（且つ、RT状態が転落しない再遊技役が停止表示される押し順ナビを報知する）ように構成されていても良い。これにより、RT状態が転落しないよう遊技者は気を付けて、特殊な効果音が報知された以降の停止ボタンD40の操作を行なうことが可能となる。また、当選番号2または3にて停止表示し得る「再遊技05」（AT状態にて停止表示された場合にAT上乘せ抽選に当選した旨を報知し得る再遊技役）は主に「RT1」で出現し、その他のRT状態ではほぼ出現しないようになっている。尚、これら再遊技役となる図柄組み合わせの停止表示に伴うRT状態に関する状態の遷移については後述する。また、後述するように、第1実施形態においては、遊技者に最も有利となるリール停止順を報知する押し順ナビを押し順表示装置D270および演出表示装置S40にて実行し得るよう構成されている。尚、当該抽選確率を適宜変更しても何ら問題ない。また、第1実施形態においては、ボーナスは小役と重複し得るよう構成されており、スイカA、スイカB、チェリーの一部と重複している。具体的には、当選番号21～23および当選番号25～27がボーナスと小役とが重複している条件装置となっている。

10

【0039】

また、「RT2」である状況においては、BBに当選しており、且つ、BBが未作動である状況であるため、当選番号20および24のBB役（小役とは重複していない単独のBB役であり、単独BB役、単独BBと称することがある）に当選した場合には、BB役の新たな当選は無効となり、小役の当選のみが有効となる。具体的には、例えば、「RT2」であり、且つ、1種BB-Aに当選している（持ち越している）状況下、当選番号24の「1種BB-C」に当選した場合には、当該当選番号24に係る1種BB-Cは無効となる。即ち、当選番号0の「ハズレ」に当選した場合と同様の状況となる。尚、持ち越している1種BB-Aは当選している状態が継続される。また、「RT2」である状況においては、BBに当選しており、且つ、BBが未作動である状況であるため、当選番号21～23および当選番号25～27の小役とBB役とが重複している条件装置に当選した場合には、BB役の新たな当選は無効となり、小役の当選のみが有効となる。具体的には、例えば、「RT2」であり、且つ、1種BB-Aに当選している（持ち越している）状況下、当選番号21の「1種BB-B+入賞-C」に当選した場合には、当該当選番号21に係る1種BB-Bは無効となり、入賞-Cのみが有効となる。即ち、当選番号14の「入賞-C」に当選した場合と同様の状況となる。尚、持ち越している1種BB-Aは当選している状態が継続される。尚、ボーナスとの重複は小役に限られるものでなく、再遊技役の一部とで重複していても良い。例えば、当選番号4～6の再遊技役の一部でボーナス役と重複しても良い。このように、ボーナスがRT移行リプレイ（RT状態が移行し得る再遊技役）を含む条件装置とも重複するようにすることで、RT移行リプレイを含む条件装置が当選したときにもボーナスが当選する可能性があり、RT移行リプレイが停止表示されても、ボーナスの否定をしないこととなるため、遊技者に期待を持たせることが可能となる。なお、このように構成した場合には、RT移行リプレイが停止表示されてもRT状態は移行しないように制御する。これにより、遊技者はRT状態が移行（リプレイ確率が相対的に低いRT状態に移行）しているはずであるのにリプレイ確率が低確率になっていない（頻繁にリプレイに当選する）こと等から、ボーナスに当選している可能性が高いかもしれないといった遊技に関する興味を高めることが可能となる。

20

30

40

【0040】

次に、BB作動時である「1種BB-A, B, C」における抽選確率について詳述する。第1実施形態においては、BB作動中においては、当選番号13の「共通ベル」と当選番号17の「BB中弱レア小役（斜めベル揃い）」と当選番号18の「BB中強レア小役（V字ベル揃い）」との3つの小役が当選し得るよう構成されており、「AT中状態」にて当選したBBの作動中において「BB中弱レア小役（斜めベル揃い）」または「BB中

50

強レア小役（V字ベル揃い）」に当選した場合にはA T上乘せ抽選が実行されるよう構成されている（詳細は後述することとする）。

【0041】

また、同図上段においては、設定値が1である場合の小役出現率を例示しており、共通ベル（当選番号13）においては、R T状態に拘らず出現率が一律となっているが、同図下段に示すように、共通ベルの出現率は設定値（本例では、6段階）によって相違するよう構成されている。具体的には、設定1における置数が3204、設定2における置数が3404、設定3における置数が3604、設定4における置数が3904、設定5における置数が4204、設定6における置数が4504、となっており、設定値が高くなる程出現率が高くなるよう構成されている。このように構成することにより、例えば、遊技者が共通ベルの出現回数（当選回数）を計測しながら遊技を進行した場合、共通ベルに頻繁に当選することにより、遊技している遊技機に係る設定値が相対的に高い設定値であることに期待を抱きながら遊技を進行することができる。また、設定値が高くなるほど1遊技当たりにおける期待値が高くなり、設定値が高くなるほど出玉率が高くなるように構成されている。なお、共通ベルの出現率は設定値によって相違するよう構成されているが、当該共通ベルの当選によっては、後述するA T抽選、A T上乘せ抽選、および、高確率状態移行抽選は実行されないので、A Tに関する状態の移行抽選（A Tに関する抽選とも称する。）には影響を及ぼさないよう構成されている。

10

【0042】

また、同図中段は、押し順ナビあり時における期待値一覧である。同図においては、「A T中状態」等の押し順表示装置D270および演出表示装置S40にて押し順ナビが実行され得る状態において押し順ナビが実行された場合に、当該ナビに従ってリールを停止させた場合の1遊技あたりの平均払出数（入賞した小役によって払い出される平均のメダルの枚数であり、1ゲームで得られる遊技媒体の期待数とも称する）と、1遊技あたりのメダル増減期待値（3枚ベットにて遊技した場合のメダル投入枚数に対するメダル払出枚数の比率であり、1より大きい場合には期待値がプラスとなりメダルが増加していくこととなる一方、1より小さい場合には期待値がマイナスとなりメダルが減少していくこととなる）とを図示している。尚、1遊技あたりの平均払出数は、「再遊技役の置数の総和（当選番号1～6についての置数の総和）×再遊技役における払出枚数（3枚）+小役（11枚役）の置数（小役出現率）の総和（当選番号7～16についての置数の総和）×小役（11枚役）における払出枚数（11枚）／すべての置数の総和（65536）」のようにして算出することができる。また、1遊技あたりのメダル増減期待値は、「1遊技あたりの平均払出数／1遊技あたりのメダル投入枚数（3枚）」のようにして算出することができる。尚、1ゲームあたりのメダル投入数（1ゲームを行う際の遊技媒体の投入数）は3枚となっており、1遊技あたりの平均払出数が3より大きい場合に1遊技あたりのメダル増減期待値が1より大きくなるよう構成されている。同図に示されるように、第1実施形態においては、「R T1」が1遊技あたりのメダル増減期待値が相対的に最も大きくなっている。尚、同図における数値はボーナスによるメダルの増減は考慮していない。即ち、押し順ナビが発生する状況において遊技を進行した場合（最適操作態様で操作された場合、有利操作態様で操作された場合とも称す）、「R T1」ではメダルが増えていくこととなる。尚、「R T0」および「R T2」においては、不図示であるが、押し順ナビが発生していない状況下においては、1遊技あたりのメダル増減期待値は1より小さい値となっており、メダルが減少していくこととなる。尚、第1実施形態においては、「R T0」または「R T2」においても押し順ナビあり時においては1遊技あたりのメダル増減期待値が1より大きくなっているが、これには限定されず、「R T0」または「R T2」における押し順ナビあり時の1遊技あたりのメダル増減期待値が1より小さくなるよう構成してもよい。尚、再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示した場合には実際には前回遊技における賭け枚数（3枚）が自動ベットされるが、第1実施形態におけるメダル増減期待値を算出するにあたっては、メダル3枚の払出しと仮定して算出している。尚、1遊技を1ゲームと称することがある。

20

30

40

50

【0043】

また、各RT状態における、1遊技あたりの平均払出数は、RT状態が「RT0」の場合には3.511291504であり、RT状態が「RT1」の場合には4.737915039であり、RT状態が「RT2」の場合には3.67137146となっている。また、各RT状態における、1遊技あたりのメダル増減期待値は、RT状態が「RT0」の場合には1.170430501であり、RT状態が「RT1」の場合には1.579305013でありRT状態が「RT2」の場合には1.223790487となっており、押し順ナビあり時においては、RT状態が「RT1」の場合が遊技者にとって最も有利なRT状態となっている。尚、当該数値は設定1である場合の値となっている。尚、上記小役、再遊技役に関する当選番号およびボーナスの抽選確率はあくまで一例であり、例えば、BBが内部成立中となる「RT2」における1遊技あたりのメダル増減期待値（押し順ナビあり時のメダル増減期待値）が1未満となるよう構成してもよい。そのように構成することにより、押し順ナビが発生する状況且つ「RT2」である場合（BBが内部成立中である場合）に、ボーナスを揃えることができるゲームにてボーナスを揃えなかった場合にも、徐々に持ちメダルが減少していくこととなり、押し順ナビが発生する状況且つ「RT2」である場合（BBが内部成立中である場合）に、ボーナスを揃えることができるゲームにて故意にボーナスを揃えないことにより持ちメダルを増加させていくような攻略を防止することができる。具体的には、「RT2」においてハズレとなる確率を、「RT2」において当選する全ての小役（入賞-A1～入賞-I）の当選確率よりも高くなるように設計することが好ましく、そのように設計されるように再遊技役の当選確率を定めることが好ましい（再遊技役の当選確率を高く設計するとその分ハズレとなる確率が低くなってしまいうため、再遊技役の当選確率が高くなり過ぎないように設計することが好ましい）。尚、本例の「RT2」においては、すべての小役を合算した当選確率は18784/65536であり、すべての再遊技の合算した当選確率は、12501/65536であり、ハズレとなる確率は、34251/65536となっており（図11参照）、ハズレとなる確率の方がすべての小役を合算した当選確率よりも高くなるように設計されている。

10

20

【0044】

また、図11に示すように、第1実施形態においては、1種BB-Aの出現率は、設定1～設定6の全てについて同一の置数である40が割り当てられている。また、1種BB-Cの出現率は、設定1～設定6の全てについて同一の置数である160が割り当てられている。これに対して、1種BB-Bの出現率は、設定1に対して160が割り当てられ、設定2に対して180が割り当てられ、設定3に対して200が割り当てられ、設定4に対して220が割り当てられ、設定5に対して240が割り当てられ、設定6に対して270が割り当てられている。即ち、1種BB-Bの出現率は、設定値によって割り当てられている置数が異なっている。このように、1種BB-Aおよび1種BB-Cは、設定差のないBB（1種BB-A、1種BB-Cを設定差なしBB、設定差なしボーナスと称することがある）として機能し、1種BB-Bは、設定差のあるBB（1種BB-Bを設定差ありBB、設定差ありボーナスと称することがある）として機能する。また、1種BB-A、1種BB-Bと1種BB-CのいずれもRT状態に拘らず（「RT0」と「RT1」とで）出現率は一律である。尚、1種BB-Aおよび1種BB-C（合算）の出現率は設定値に拘らず同一であるが、1種BB-B（合算）の出現率は設定値によって相違する。尚、1種BB-Bの出現率として合算した出現率は設定値が相違しても同一であるが、当選番号毎の出現率が設定値によって相違するよう構成してもよく、そのように構成した場合にも1種BB-Bを設定差ありBBと称してもよい。

30

40

【0045】

次に、図12のブロック図を参照しながら、第1実施形態に係る回胴式遊技機Pの電氣的な概略構成を説明する。はじめに、第1実施形態に係る回胴式遊技機は、遊技の進行を制御する主制御基板Mを中心として、副制御基板S、扉基板D、回胴基板K、電源基板E、中継基板IN、設定キースイッチM20、設定／リセットボタンM30等がデータをや

50

り取り可能に接続されて構成されている。尚、図中の実線部がデータのやり取りに関する動きを示したものであり、図中の破線部が電源供給ルートを示したものである。尚、電源供給ルートはこれに限られたものではなく、例えば電源基板 E から主制御基板を介さずに中継基板 I N や扉基板 D に電源を供給しても良い。

【0046】

主制御基板（主制御手段、主基板、メイン制御手段、メイン基板、主遊技部と称することがある）M は、回胴式遊技機 P で行われる遊技全体の進行を司る基板である。主制御基板 M には、主制御チップ C が搭載されており、主制御チップ C には、CPU C 1 0 0（CPUMC とも称することがある）、内蔵 ROM C 1 1 0、内蔵 RAM C 1 2 0 等がバスによって互いにデータをやり取り可能に接続されて搭載されている。そして、主制御基板 M は、前扉 D U に搭載された扉基板 D から、スタートレバー D 5 0 等が操作されたことを示す信号等を受け取って、副制御基板 S や、扉基板 D、回胴基板 K 等に向かって制御コマンド（あるいは制御信号）を出力することにより、これら各種基板の動作を制御している（例えば、副制御基板 S に向かって指示番号（押し順番号、指示情報、操作情報とも称する）を出力することにより、副制御基板 S は演出表示装置 S 4 0 上で押し順ナビを実行することが可能となっている）。

【0047】

また、副制御基板（副制御手段、副基板、サブ制御手段、サブ基板、副遊技部と称することがある）S にも、前述した主制御基板 M と同様に、副制御チップ S C が搭載されており、副制御チップ S C には、CPU S C 1 0 0 や、ROM、RAM 等が設けられていて、バスによって互いにデータをやり取り可能に接続されて構成されている。また、副制御基板 S には、各種 LED ランプ S 1 0（ベットボタンランプ S 5 0 や停止ボタンランプ S 6 0 が含まれている）、スピーカ S 2 0、演出表示装置 S 4 0、回胴バックライト（バックランプとも称する）S 3 0 等が接続されている。ここで回胴バックライト S 3 0 とは、左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3 夫々の内部に設けられ、リールの表面に描かれた図柄を裏側から照らすライトである。副制御基板 S は、主制御基板 M から受け取った制御コマンドを解析して、各種 LED ランプ S 1 0、スピーカ S 2 0、演出表示装置 S 4 0、回胴バックライト S 3 0 等にそれぞれ駆動信号を出力することにより、各種の演出を行っている。尚、本例に係る回胴式遊技機においては、左リールの上段、中段、下段、中リールの上段、中段、下段、右リールの上段、中段、下段、の 9 個の範囲を遊技者が個別に識別できるよう、回胴バックライト S 3 0 として複数の LED が設けられている。一例としては、左リールの上段に対応する LED が点灯し、その他の LED がすべて消灯することによって、遊技者は左リール上段が点灯していると識別することができる。また、本例に係る回胴式遊技機は、所定の図柄組み合わせが停止表示した際に、回胴バックライト S 3 0 の点灯態様を変化させることによって当該所定の図柄組み合わせが停止表示した旨を遊技者に示唆するバックランプ演出（バックライト演出と称することがある）を実行可能に構成されている。

【0048】

扉基板 D には、前述した投入受付センサ D 1 0 s、第 1 投入センサ D 2 0 s、第 2 投入センサ D 3 0 s、回転しているリール M 5 0 を停止するための停止ボタン D 4 0、リール M 5 0 の回転を開始するためのスタートレバー D 5 0、貯留されている遊技メダル（クレジット）や投入された遊技メダルを払い出して遊技を終了するための精算ボタン D 6 0、遊技の状態を表示する各種の表示パネル D 7 0 {不図示であるが、前述した、投入数表示灯 D 2 1 0、スタートランプ D 1 8 0、再遊技ランプ D 2 9 0、投入可能ランプ D 3 0 0、特別遊技状態表示装置 D 2 5 0、払出数表示装置（押し順表示装置）D 2 7 0 は、クレジット数表示装置 D 2 0 0、有利区間表示器 Y H、等の表示装置の集合体}、前扉の開閉判定やエラーの解除や設定値の変更を実行するための扉スイッチ D 8 0、投入された後に適合しないと判断された遊技メダル（または、その他の異物）を放出口 D 2 4 0 に払い戻すためのブロック D 1 0 0 等が接続されている。また、この扉基板 D は、前述した主制御基板 M とデータをやり取り可能に接続されている。このため、前扉 D U に設けられたスタ

ートレバー D 5 0 や、停止ボタン D 4 0、精算ボタン D 6 0 等を操作すると、扉基板 D を介して、操作に係る信号が主制御基板 M に供給されるようになっている。また、投入受付センサ D 1 0 s が遊技メダルの通過を検出した信号も、扉基板 D を介して主制御基板 M に供給される。

【0049】

また、回胴基板 K には、リール M 5 0 を回転させるための回胴モータ K 1 0 と、リール M 5 0 の回転位置を検出するための回胴センサ K 2 0 等が接続されている。回胴基板 K は、当該回胴センサ K 2 0 によって、リール M 5 0 の回転位置を検出しながら回胴モータ K 1 0 を駆動することにより、リール M 5 0 を、決定された停止位置で停止させることが可能となっている。また、第 1 実施形態の回胴式遊技機においては、回胴モータ K 1 0 には、所謂ステップモータ（ステッピングモータと称することがある）が使用されている。尚、ステップモータは、リール M 5 0 が 1 回転するステップ数として、480 ステップが設定されている。また、各リール（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）には略均一の大きさで所定数（例えば、20 個）の図柄が設定されており、1 図柄分に相当するステップ数としては、24 ステップ（ $= 480 / 20$ ）が設定されている。尚、ステップ数、リール 1 周あたりの図柄の数は変更しても何ら問題ない。

【0050】

また、メダル払出装置 H は、中継基板 I N を介して、主制御基板 M に接続されており、主制御基板 M からの制御信号に基づいて、所定枚数（例えば、10 枚）の遊技メダルを払い出す動作を行う。尚、メダル払出装置 H にはメダルが正常に払い出されたか否かの判定や払い出された遊技メダルの数の計測を実行する第 1 払出センサ H 1 0 s および第 2 払出センサ H 2 0 s と、ディスク H 5 0 を回転させるためのホッパモータ H 8 0 と、が接続されている。

【0051】

これら各種制御基板、および基板で消費される電力は、電源基板 E（電源スイッチ E 1 0 により電源供給の有無を制御する基板）から供給されている。図 12 では、電源基板 E から電力が供給される様子を破線の矢印で表している。図示されているように、主制御基板 M および副制御基板 S には、電源基板 E から電力が直接供給されており、各種基板（扉基板 D、回胴基板 K、中継基板 I N）には、主制御基板 M を介して電力が供給されている。電源基板 E には所定量（例えば、100 V）の交流電圧が供給されており、この電力を規定電圧の直流電圧に変換した後、夫々の制御基板および基板に供給している。

【0052】

また、主制御基板 M には、後述する設定変更装置制御処理を実行するため（設定変更を行うため）に使用する設定キースイッチ M 2 0、設定値の変更やエラー解除等を実行し得る設定／リセットボタン M 3 0、が接続されている。また、主制御基板 M は、リール M 5 0（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）の回転や停止を制御するリール制御手段と、遊技者にとって有利な A T に関する状態である「A T 中状態」に移行するための A T 移行抽選を実行する A T 抽選手段と、「A T 中状態」に滞在可能なゲーム数である A T 残りゲーム数（または、A T カウンタ M 6 0 のカウンタ値）を増加させる A T 上乘せ抽選を実行する A T 上乘せ抽選手段と、を有している。

【0053】

次に、図 13 ～ 36 は、第 1 実施形態における、主制御基板 M が行う一般的な処理の流れを示したフローチャートである。

【0054】

尚、フローチャートは主に、処理ステップ（長方形にて図示）、判断（ひし形にて図示）、流れ線（矢印）、開始・終了・復帰等を示す端子（角丸長方形にて図示）によって構成されている。また、処理ステップの内、別のフローチャートにて詳細を図示している場合、当該別のフローチャートを参照するものをサブルーチン（左右の線が二重線である長方形にて図示）として図示している。ここで、遊技機の開発段階においては、スペック違いの遊技機を同時に開発することも行われているが、本例においては、メイン側の処理内

に、スペック違いの遊技機で実行するサブルーチン（通常は使用しないサブルーチン）を残さないよう構成しており、ノイズや不正行為によって、通常時には実行されない未使用サブルーチンに係る処理が実行されることを防止している。

【 0 0 5 5 】

まず、図 1 3 は、回胴式遊技機 P の電源を投入した後（或いはシステムリセットやユーザリセット時において）、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 にて初めて実行される処理の流れを示したフローチャートである。まず、ステップ 1 0 0 0 で、回胴式遊技機 P の電源を投入した後、ステップ 1 0 0 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、タイマ割り込みの初期設定を実行する（ここでは、タイマ割り込みが開始されるのではなくタイマ割り込みの種類をセットするのみであり、以降の処理において、タイマ割り込みが開始されると定期的に後述するタイマ割り込み時処理に係るフローチャートが実行される）。次に、ステップ 1 0 0 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、主制御チップ C の機能設定としてシリアル通信の設定（速度、データの長さ、データ送信方法の設定）等を実行する。次に、ステップ 1 0 0 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、R A M 領域の先頭アドレスからチェックサム領域直前のアドレスまでのチェックサムを算出する。次に、ステップ 1 0 0 8 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、R A M 領域をチェックし（例えば、当該算出したチェックサムとチェックサム領域に保持されているチェックサムデータとに基づき、電源断・電源断復帰により内蔵 R A M C 1 2 0 に格納されているデータが正しく保持されているか否かをチェックし）、電源断復帰データを生成する。次に、ステップ 1 0 1 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、設定キースイッチ M 2 0 のスイッチ状態を確認する。次に、ステップ 1 0 1 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、設定キースイッチ M 2 0 がオフであるか否かを判定する。

【 0 0 5 6 】

ステップ 1 0 1 4 で Y e s の場合、ステップ 1 0 1 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、R A M 内の電源断処理済みフラグのオン・オフ（ステップ 1 9 0 4 でオンとなる）および全 R A M のチェックサム状態（ステップ 1 0 0 6 でのチェック結果）を参照し、R A M 内の電源断復帰データは正常であるか否かを判定する。ステップ 1 0 1 6 で Y e s の場合、ステップ 1 0 2 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、決定された初期化範囲で、R A M 領域の初期化を実行する。次に、ステップ 1 0 2 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、電源断時の処理（ステップ 1 9 0 2 ）にて保存したスタックポインタに係るデータに基づき、スタックポインタを復帰する。次に、ステップ 1 0 3 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、R A M 領域内を参照し、R A M 領域内の設定値に係るデータは正常範囲内（本例では、0 ～ 5 ）であるか否かを判定する。ステップ 1 0 3 6 で Y e s の場合、ステップ 1 0 3 8 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、入力ポートの読み込みを実行する。次に、ステップ 1 0 4 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、ステップ 1 0 0 2 にてセットしたタイマ割り込みを開始する。次に、ステップ 1 0 4 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、電源断処理済みフラグをオフにし、復帰したスタックポインタに従い電源断時の処理に復帰する。

【 0 0 5 7 】

また、ステップ 1 0 1 6 で N o の場合、ステップ 1 0 2 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、バックアップエラー表示をセットする（例えば、レジスタ領域内にエラー番号をセットする）。次に、ステップ 1 3 0 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、後述する、復帰不可能エラー処理を実行する。

【 0 0 5 8 】

また、ステップ 1 0 3 6 で N o の場合、ステップ 1 0 4 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、設定値エラー表示（例えば、払出数表示装置 D 2 7 0 に表示されることとなる）をセットする（例えば、レジスタ領域内にセットする）。次に、ステップ 1 3 0 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、後述する復帰不可能エラー処理を実行する。

【 0 0 5 9 】

また、ステップ 1 0 1 4 で N o の場合、ステップ 1 0 2 8 で、主制御基板 M の C P U C

100は、RAM内の電源断処理済みフラグのオン・オフ（ステップ1904でオンとなる）および全RAMのチェックサム状態（ステップ1006でのチェック結果）を参照し、RAM内の電源断復帰データは正常であるか否かを判定する。ステップ1028でYesの場合、ステップ1030で、主制御基板MのCPU100は、RAMの初期化範囲をRAM内の設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域を除く所定範囲に決定してセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1034に移行する。RAMの初期化範囲に含まれない範囲は、設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域のみには限定されず、「有利区間」の総累計ゲーム数、遊技区間の総累計（有利区間＋通常区間）ゲーム数、「有利区間」の滞在割合を算出した結果、等もRAMの初期化範囲に含まれない範囲となっている。このように構成することにより、遊技における「有利区間」に滞在している比率（有利区間比率）を算出および表示することができることとなる。また、有利区間比率の算出処理は、単位遊技が終了するタイミングで算出するよう構成されている。また、有利区間比率は、遊技機の電源が投入されると表示される（例えば、4桁の7セグメントディスプレイに表示される）。具体的な表示態様としては、「有利区間比率→6000ゲームあたりの連続役物比率→6000ゲームあたりの役物比率→累積の連続役物比率→累積の役物比率」の順に5秒間隔で繰り返し表示される。尚、連続役物比率とは「RBが作動している状態での払出し数／総払出し数」であり、役物比率とは「RB、CB、またはSBが作動している状態での払出し数／総払出し数」である。他方、ステップ1028でNoの場合、ステップ1032で、主制御基板MのCPU100は、RAMの初期化範囲をRAM内の設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域を含む特定範囲に決定してセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1034に移行する。次に、ステップ1034で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1030またはステップ1032にて決定された初期化範囲で、RAM領域の初期化を実行する。次に、ステップ1100で、主制御基板MのCPU100は、後述する、設定変更装置制御処理を実行する。

10

20

【0060】

尚、不図示ではあるが、主制御基板Mが搭載する一時記憶領域（RAM領域等）の初期値（処理開始時の値）は、特別遊技が実行される値とならないよう構成することが好適である（プログラムの処理開始直後に、ノイズや不正行為により、特別遊技の実行判定を行う処理を実行してしまった場合に特別遊技が誤って実行されることを防止するため）。また、不図示ではあるが、主制御基板MのRAM領域内に当選乱数等の乱数を記憶する場合には、専用の記憶領域を確保し、乱数に係る情報を記憶しているバイト内には当該乱数に係る情報のみを記憶する（各種タイマ値等、その他の情報を記憶しない）よう構成することが好適である（同じ1バイト内に記憶した別のデータを操作する際に、ノイズ等によって乱数に係る情報が書き換わってしまうことを防止するため）。

30

【0061】

次に、図14は、図13におけるステップ1100のサブルーチンに係る、設定変更装置制御処理のフローチャートであり、設定変更モードとも称する。まず、ステップ1102で、主制御基板MのCPU100は、スタックポインタをセットする（当該処理の先頭アドレスで初期化する）。次に、ステップ1104で、主制御基板MのCPU100は、タイマ割り込みを起動する。次に、ステップ1106で、主制御基板MのCPU100は、RAM領域内の設定値（設定値データ）は正常範囲内（本例では、0～5）ではないか否かを判定する。尚、設定値（設定値データ）を1～6で管理していた場合、RAMの初期化を実行し設定値が「0」となったときに「1」に戻す処理が必要となる。そこで、本例においては、設定値（設定値データ）の正常範囲を0～5として管理することにより、RAMの初期化を実行した後の設定値（設定値データ）の補正処理（ステップ1106およびステップ1108の処理）を不要とすることができ、処理時間を短縮することや処理の容量を削減することが可能となる。ステップ1106でYesの場合、ステップ1108で、主制御基板MのCPU100は、設定値（設定値データ）に所定値（例えば、0＝遊技者にとって最も不利となる値）をセットし、ステップ1110に移行する。

40

50

他方、ステップ1106でNoの場合にもステップ1110に移行する。次に、ステップ1110で、主制御基板MのCPU100は、エラー表示LED（例えば、払出数表示装置D270）に設定変更装置作動中である旨（例えば、全セグメントを点灯させる「88」）を表示し、設定表示LED（不図示）に設定値を表示（設定値に係る表示はRAM内で保持している設定値（設定値データ）に1を加算した数値となっている）し、ステップ1112に移行する。尚、前述したように、払出数表示装置D270は押し順を報知する際にも使用される。そのように構成されているため、例えば、7セグLEDの一部に故障が発生している（点灯できないセグがある）ような場合において押し順を報知する際、誤った情報を報知することがあり得る。このような事態を防止するため、設定変更装置作動中において払出数表示装置D270に7セグメントを全点灯「88」させることにより、7セグメントが故障しているか否かが確認でき、遊技者に不利益等を与えることを防止できる。また、設定値（設定値データ）の表示に係る構成として、設定値を記憶する記憶領域における設定値（設定値データ）に1を加算したデータを記憶しておく設定値表示用のRAMの記憶領域を有し、当該記憶領域を参照して設定値を表示するよう構成しても良い。尚、不図示であるが、ステップ1110の処理を実行した後、副制御基板S側に設定変更モードに移行していることを示すコマンドを送信するための処理を実行している。

10

20

30

40

50

【0062】

次に、ステップ1112で、主制御基板MのCPU100は、設定／リセットボタンM30がオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ1112でYesの場合、ステップ1114で、主制御基板MのCPU100は、現在の設定値（設定値データ）に1を加算し（加算した結果設定値（設定値データ）が5を超過した場合には、設定値（設定値データ）は0となる）、ステップ1116に移行する。尚、ステップ1112でNoの場合にも、ステップ1116に移行する。次に、ステップ1116で、主制御基板MのCPU100は、スタートレバーD50がオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ1116でNoの場合には、ステップ1112に移行し、ステップ1112～ステップ1116の処理をループする。ステップ1116でYesの場合、ステップ1118で、主制御基板MのCPU100は、設定キースイッチM20がオンからオフに切り替わったか否かを判定する。ステップ1118でNoの場合には、ステップ1118の処理をループする。他方、ステップ1118でYesの場合、ステップ1120で、主制御基板MのCPU100は、エラー表示LED（不図示）に設定変更装置の作動が終了した旨を表示し、設定表示LED（不図示）の設定値（設定値データ）の表示を消去し、ステップ1200の遊技進行制御処理に移行する。尚、不図示であるが、ステップ1120の処理を実行した後、副制御基板S側に設定変更モードを終了することを示すコマンドを送信するための処理を実行している。

【0063】

次に、図15は、図13におけるステップ1300の（および他のフローチャートにおいて呼び出された）サブルーチンに係る、復帰不可能エラー処理のフローチャートである。まず、ステップ1302で、主制御基板MのCPU100は、割り込みを禁止する（以降は、後述するタイマ割り込み時処理に係るフローチャートが実行されない）。次に、ステップ1304で、主制御基板MのCPU100は、出力ポートアドレスおよび出力ポート数をセットする。次に、ステップ1306で、主制御基板MのCPU100は、出力ポート（本例では、0～6であり、各種LEDへの表示出力や各種モータへの駆動出力）をオフにする。次に、ステップ1308で、主制御基板MのCPU100は、次のポート出力アドレスをセットする（この繰り返しにより、各種LEDへの表示出力や各種モータへの駆動出力が順次停止される）。次に、ステップ1310で、主制御基板MのCPU100は、各出力ポートへの出力が終了したか否かを判定する。ステップ1310でYesの場合には、ステップ1312で、主制御基板MのCPU100は、セットされているエラー表示を実行し（本処理を実行する際には何らかのエラーが発生している）、当該処理の実行を繰り返し、電源電圧が低下することでリセット信号が入力されて終了する。（即ち、無限ループに突入するので、復帰を促す一切の操作を受け付けない）。尚

、ステップ1310でNoの場合には、ステップ1306に移行する。尚、ステップ1306～ステップ1310の処理は、LED・モータへの出力をクリアする処理である（但し、外部出力信号はクリアしないので、エラーに関する情報やエラー発生時における遊技進行状況等をホールコンピュータ側へ出力することは可能である）。

【0064】

次に、図16は、図14におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理（1枚目）のフローチャートである。まず、ステップ1202で、主制御基板MのCPU100は、スタックポインタをセットする（当該処理の先頭アドレスで初期化する）。次に、ステップ1203で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに必要なRAM領域内のデータ（例えば、ベット上限数、入賞の有効ライン、等）をセットする。尚、ステップ1203は、前回の遊技で使用したデータ（例えば、条件装置番号（当選番号）、演出グループ番号、指示情報）をクリアするためのデータ（RAMのアドレスをクリアするための「0」のデータ）をRAMにセットする処理も含まれる。尚、条件装置番号、演出グループ番号、指示情報等はクリアせずに、次遊技が実行された際に選択された番号を上書きするように構成するようにしても良い。次に、ステップ1204で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにおけるRT状態（例えば、「RT0」等）をセットする（図27のステップ1704で決定したRT状態をセットする）。次に、ステップ1205で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1204でセットしたRT状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。尚、RT状態をセットする処理は、図27のステップ1704にて実行してもよい。また、ステップ1704にてRT状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットしても良い。また、RT状態をサブ側に送信する場合には常時送信する必要はなく、遊技区間が「有利区間」である場合にのみRT状態をサブ側に送信するよう構成してもよい。次に、ステップ1206で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにおけるATに関する状態（例えば、「AT中状態」等）をセットする（図21のステップ1420、ステップ1429、図22のステップ1435、ステップ1439、ステップ1443、図23のステップ1444-3、ステップ1444-4で決定したATに関する状態をセットする）。次に、ステップ1207で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1206でセットしたATに関する状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。また、ATに関する状態をセットする処理は、図21のステップ1416、ステップ1428、図22のステップ1438、図23のステップ1444-1にて実行してもよい。また、ATに関する状態をサブ側に送信する場合には常時送信する必要はなく、遊技区間が「有利区間」である場合にのみATに関する状態をサブ側に送信するよう構成してもよい。次に、ステップ1208で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにおける遊技区間（例えば、「有利区間」等）をセットする（図31のステップ3510、ステップ3516、ステップ3520で決定した遊技区間をセットする）。次に、ステップ1208-1で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1208でセットした遊技区間に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。次に、ステップ1209で、主制御基板MのCPU100は、メダル払出装置Hが遊技メダルで満杯ではないか否かを判定する。具体的には、メダル払出装置Hから溢れ出たメダルを格納するメダル補助タンクHS（詳細は後述する）を備え、メダル補助タンクHSの内部に侵入可能な2つの満杯検知電極DE（詳細は後述する）による電流の導通／非導通にて判定する（メダルを介して電流が導通した場合には、満杯と判定する）。ステップ1209でYesの場合、ステップ1218に移行する。

【0065】

他方、ステップ1209でNoの場合、ステップ1210で、主制御基板MのCPU100は、メダル満杯エラーフラグをオンにする（例えば、RAM領域のメダル満杯エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1212で、主制御基板MのCPU100は、メダル満杯エラーに対応したエラー番号の表示を7セグLED（例えば、貯留表示LEDまたは獲得枚数LED）で実行する。次に、ステップ1214

で、主制御基板MのCPUC100は、メダル満杯エラーが解除されたか否か（例えば、メダル補助タンクHSに設けられた2つの満杯検知電極による電流が非導通、且つ、設定／リセットボタンM30が押下されたか否か）を判定する。ステップ1214でYesの場合、ステップ1216で、主制御基板MのCPUC100は、メダル満杯エラーフラグをオフにし（例えば、RAM領域のメダル満杯エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し）、ステップ1218に移行する。他方、ステップ1214でNoの場合には、ステップ1212に移行する。次に、ステップ1218で、主制御基板MのCPUC100は、メダル投入受付を許可し（再遊技役の次ゲームにおいては自動にて投入動作が実行されることとなる）、次の処理（ステップ1220の処理）に移行する。ここで、ステップ1218では、ブロックD100のオン処理（メダル流路が形成する処理）を行う。具体的には、前回遊技で再遊技役が成立した場合には、現在の貯留数（クレジット）が所定値（本例では、50枚）未満であることを条件として、ブロックD100のオン処理を実行する。換言すると、現在の貯留数（クレジット）が所定値である場合には、ブロックD100のオン処理を実行しない。一方、前回遊技で再遊技役が成立しなかった場合には、一律にブロックD100のオン処理を実行するようにしている。このように構成することにより、再遊技役が成立した場合であっても貯留数（クレジット）が所定値に達していない場合には、遊技メダルが投入できるように構成され、「RT1」等のRT状態よりも再遊技役の当選確率の高いRT状態（例えば、「RT1」）に滞在しているときや、見た目では再遊技役とは分かり辛い再遊技役（小役に見せかけた再遊技：無効ライン上にブルーレベルや、左リールにチェリーが停止した図柄組み合わせ）が停止した場合であっても、遊技者はリズム良く（違和感なく）遊技を行うことができる。

10

20

【0066】

次に、図17は、図16におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理（2枚目）のフローチャートである。まず、ステップ1220で、主制御基板MのCPUC100は、遊技メダルがベットされていない、または貯蓄されていない（クレジットが存在していない）か否かを判定する。ステップ1220でYesの場合、ステップ1221で、主制御基板MのCPUC100は、設定値表示条件を充足している（例えば、扉スイッチD80、設定キースイッチM20がすべてオンとなると当該条件を充足する）か否かを判定する。ステップ1221でYesの場合、ステップ1222で、主制御基板MのCPUC100は、設定表示LED（不図示だが、払出数表示装置D270、クレジット数表示装置D200、投入数表示灯D210としてもよい）に設定値を表示し（設定確認モードに移行し）、設定キースイッチM20がオフとなったことを条件にステップ1221に移行する。尚、設定変更モードの移行条件を満たしたときには、副制御基板S側に設定変更モードを開始することを示すコマンドを送信するための処理、設定変更モードの終了条件を満たしたときに設定変更モードを終了することを示すコマンドを送信するための処理を実行している。ステップ1220またはステップ1221でNoの場合、ステップ1224で、主制御基板MのCPUC100は、遊技メダルの投入および精算に係る管理を実行する。次に、ステップ1225で、主制御基板MのCPUC100は、遊技メダルの受付可能枚数を確認する。次に、ステップ1226で、主制御基板MのCPUC100は、ブロックD100がオンか否かを判定する。ステップ1226でYesの場合、ステップ1227で、主制御基板MのCPUC100は、第1投入センサD20sまたは第2投入センサD30sがオンであるか否かを判定する（第1実施形態においてはメダルの投入を検出するための投入センサを2つ有しており、第1投入センサD20sまたは第2投入センサD30sがオンとなると、遊技メダルを1枚受け付けたと判定する）。ステップ1227でYesの場合、ステップ1230で、主制御基板MのCPUC100は、第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sがオフであるか否かを判定する（第1投入センサD20sまたは第2投入センサD30sがオンとなった後、第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sがオフとなると、受け付けた1枚の遊技メダルが第1投入センサD20sおよび第2投入センサD30sを通過したと判定する）。ステップ1230でYesの場合、ステップ1231で、主制御基板MのCPUC100は

30

40

50

、1枚の正常な遊技メダルの投入を受け付けたと判定する。不図示であるが、ステップ1231の後、主制御基板MのCPU100は、クレジットが上限数（本例では、50）、且つ、ベット数が最大数（本例では、3）であるか否かを判定し、Yesと判定した場合にはブロックD100をオフ（メダル流路を形成しない状態）に制御する。尚、ステップ1230でNoの場合には、ステップ1230の処理を繰り返し、ステップ1226またはステップ1227でNoの場合には、ステップ1232に移行する。

【0067】

次に、ステップ1232で、主制御基板MのCPU100は、精算ボタンD60の操作があったか否かを判定する。ステップ1232でYesの場合、ステップ1233で、主制御基板MのCPU100は、クレジットの残り枚数またはベットされている遊技メ
10
ダルが存在するか否かを判定する。ステップ1233でYesの場合、ステップ1234で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動フラグ（RAM領域内のフラグであり、ホッパモータH80を駆動している際にオンとするフラグ）をオンにし、遊技メダル1枚の払出を実行する。次に、ステップ1236で、主制御基板MのCPU100は、第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンであるか否かを判定する（第1実施形態においてはメダルの払出を検出するための払出センサを2つ有しており、第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンとなると、遊技メダル1枚の払出動作が行われていると判定する）。ステップ1236でYesの場合、ステップ1247に移行する。ここで、フローチャート上には明記してはいないが、前回遊技が再遊技役であった場合にはクレジットの残り枚数のみが精算の対象となる。
20

【0068】

他方、ステップ1236でNoの場合、ステップ1241で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動後（ステップ1234の処理のタイミング後）から所定時間（例えば、5秒）経過したか否かを判定する。具体的には、ホッパ駆動信号をホッパモータH80に送信している（ホッパモータH80が回転している）のにもかかわらず、メダルが払い出されていないと判定している状況が所定時間継続したか否かを判定する。ステップ1241でYesの場合、ステップ1242で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーフラグをオンにする（例えば、メダル空エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1244で、主制御基板MのCPU100は、メダル空
30
エラー表示を実行する。次に、ステップ1245で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーが解除されたか否か（例えば、設定／リセットボタンM30が押下されたか否か）を判定する。ステップ1245でYesの場合、ステップ1246で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーフラグをオフにし（例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し）、ステップ1247に移行する。他方、ステップ1245でNoの場合、ステップ1244に移行する。

【0069】

次に、ステップ1247で、主制御基板MのCPU100は、第1払出センサH10sおよび第2払出センサH20sがオフであるか否かを判定する（第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンとなった後、第1払出センサH10sおよび第2
40
払出センサH20sがオフとなると、払出動作が行われていた1枚の遊技メダルの払出動作が完了したと判定する）。ステップ1247でYesの場合、ステップ1248で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動フラグをオフにし、ステップ1233に移行する。尚、ステップ1241またはステップ1247でNoの場合には、ステップ1236に移行する。

【0070】

他方、ステップ1232またはステップ1233でNoの場合、ステップ1251で、主制御基板MのCPU100は、スタートレバーD50が有効であり（例えば、ゲームを開始するための規定枚数の遊技メダルが投入された等）、且つ、当該スタートレバーD50の操作があったか否かを判定する。ステップ1251でYesの場合、ステップ1253で、主制御基板MのCPU100は、RAM領域内の設定値は正常範囲内（本例で
50

は、0～5) であるか否かを判定する。ステップ1253でYesの場合、ステップ1254で、主制御基板MのCPUC100は、乱数の取得、ブロックD100をオフにする処理を実行した後に、次の処理(ステップ3600の処理)に移行する。他方、ステップ1253でNoの場合、ステップ1256で、主制御基板MのCPUC100は、設定値エラー表示をセットする(例えば、レジスタ領域内にエラー番号をセットする)。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUC100は、復帰不可能エラー処理を実行する。尚、ステップ1251でNoの場合には、ステップ1220に移行する。

【0071】

次に、図18は、図16におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理(3枚目)のフローチャートである。まず、ステップ3600で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、内部抽選実行処理を実行する。次に、ステップ1259で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態はAT上乗せ抽選可能な状態であるか否かを判定する。ここで、本例においては、AT上乗せ抽選を実行可能なATに関する状態は、「AT中状態」、「上乗せ特化状態」、「特化前兆状態」、「有利BB状態」となっており、「有利BB内部中遊技」においては、ATカウンタ値が0より大きい状態となり得るがAT上乗せ抽選は実行しないよう構成されている。これは、「有利BB内部中遊技」において、遊技者が敢えてBBの図柄組み合わせを揃えさせないことの方が、遊技者にとって有利となってしまうことを防止するためである。尚、「有利BB内部中遊技」にてAT上乗せ抽選を実行し得るよう構成してもよく、そのように構成した場合には、「有利BB内部中遊技」にてAT上乗せ抽選に当選してもすぐには報知せずに、その後BBが終了したタイミングでAT上乗せ抽選に当選した旨、または、ATゲーム数が上乗せされた後のAT残りゲーム数を報知するよう構成してもよい。

【0072】

ステップ1259でYesの場合、ステップ1500で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、ゲーム数上乗せ実行処理を実行し、ステップ1400に移行する。他方、ステップ1259でNoの場合にもステップ1400に移行する。このゲーム数上乗せ実行処理は、ATに関する状態に応じて異なる抽選テーブルを用いて抽選を実行することも可能であるが、設定値に応じては抽選確率が異ならない(同一の抽選テーブルを用いて抽選を実行する)ことが好適である。次に、ステップ1400で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、AT状態移行制御処理を実行する。次に、ステップ1450で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、条件装置番号管理処理を実行する。

【0073】

ここで、本例におけるATに関する状態を列挙し詳述する(図30のAT状態遷移図でも示されている)。(1)「低確率状態」とは、ATに当選していない(「AT中状態」に移行する権利を獲得していない)状態であり、且つ、ボーナス役に当選していない状態である。尚、「低確率状態」とは、所謂「通常状態」であるため、「通常状態」と称することもある。(2)「通常BB内部中遊技」とは、「低確率状態」においてBB役に当選した、且つ、BB役が入賞していない、且つ、AT抽選に当選していない状態である。(3)「通常BB状態」とは、「低確率状態」においてBB役に当選し、且つ、AT抽選に当選していない状況にて、BB役に対応する図柄組み合わせが停止表示されたとき、または、「通常BB内部中遊技」においてBB役に対応する図柄組み合わせが停止表示されたときに実行される状態である。(4)「高確率状態」とは、AT抽選に当選していない(「AT中状態」に移行する権利を獲得していない)状態であり、且つ、ボーナス役に当選していない状態であり、前述した「低確率状態」よりもATに当選し易い状態である。尚、後述するように、新たに「高確率状態」に移行した場合には高確保障ゲーム数が経過するまでは「低確率状態」に移行しないよう構成されている(5)「AT中状態」とは、AT(押し順ナビ)を行い、且つ、AT残りゲーム数(ATカウンタ値)の減算を行う状態である。尚、ATカウンタ値が0となっても、後述する継続抽選に当選した場合には、ATカウンタに所定値がセットされ、「AT中状態」が継続する(6)「特化前兆状態」とは、「AT中状態」よりもATゲーム数が相対的に上乗せされ易い状態である「上乗せ特

化状態」に移行する権利を獲得している状態である。(7)「上乗せ特化状態」とは、「A T 中状態」よりもA T ゲーム数が相対的に上乗せされ易い状態である。(8)「有利B B 内部中遊技」とは、「高確率状態」、「A T 中状態」、「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」においてB B 役に当選し、且つ、B B 役が入賞していない状態である。(9)「待機B B 内部中遊技」とは、「低確率状態」においてB B 役に当選し、且つ、B B 役によってA T 抽選に当選しており、且つ、B B 役が入賞していない状態である。(10)「有利B B 状態」とは、「高確率状態」、「A T 中状態」、「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」においてB B 役に当選しB B 役に対応する図柄組み合わせが停止表示されたとき、または、「有利B B 内部中遊技」においてB B 役に対応する図柄組み合わせが停止表示されたときに実行される状態、または、「低確率状態」においてB B 役に当選し、且つ、B B 役によってA T 抽選に当選しており、且つ、B B 役に対応する図柄組み合わせが停止表示されたとき、または、「待機B B 内部中遊技」においてB B 役に対応する図柄組み合わせが停止表示された時に実行される状態である。(12)「復活可否演出用状態」とは、A T カウンタ値が0となり、かつ、後述する継続抽選に非当選となった場合に移行するA T に関する状態であり。「復活可否演出用状態」においては、後述する復活抽選が実行され、復活抽選に当選した場合には「A T 中状態」に移行(A T カウンタに所定値がセットされる)し、復活抽選に非当選となった場合には「低確率状態」に移行することとなる。

10

【0074】

次に、ステップ1550で、主制御基板MのCPU100は、後述する、全リールの回転を開始し、ステップ1261-1に移行する。次に、ステップ1261-1で、主制御基板MのCPU100は、引き込みポイント作成要求(回転している左リールM51、中リールM52、右リールM53の停止位置を決定するために要求され、停止順番や他のリールの停止位置に応じて適宜要求される)があったか否かを判定する。ステップ1261-1でYesの場合、ステップ1262で、主制御基板MのCPU100は、引き込みポイントを作成し、ステップ1263に移行する。他方、ステップ1261-1でNoの場合にも、ステップ1263に移行する。このように、「B B 内部中遊技」においては、押し順ベルに当選したゲームにおいて、停止ボタンを11枚の払出となる正解の押し順にて停止させなかった(例えば、入賞-A1の場合には停止ボタンを「左→中→右」の順で停止させなかった)場合(不正解の押し順にてリールを停止させた場合)にも、リールの停止制御(以後、「リール停止制御」と称したり、単に「停止制御」と称したりすることもある。)によって11枚の払出となる図柄組み合わせが入賞するよう構成されている。次に、ステップ1263で、主制御基板MのCPU100は、リール停止受付可否チェックを実行する。次に、ステップ1264で、主制御基板MのCPU100は、いずれかの停止ボタン(左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43)の操作があったか否かを判定する。ステップ1264でYesの場合、ステップ1265で、主制御基板MのCPU100は、操作があった停止ボタンに対応したリール(例えば、左停止ボタンD41には左リールM51が対応)の停止位置を決定する。他方、ステップ1264でNoの場合にも、ステップ1266に移行する。次に、ステップ1266で、主制御基板MのCPU100は、全リール停止チェック処理を実行する。次に、ステップ1267で、主制御基板MのCPU100は、すべてのリール(左リールM51、中リールM52、右リールM53)が停止したか否かを判定する。ステップ1267でYesの場合、ステップ1268で、主制御基板MのCPU100は、RAM内の図柄停止位置データと、内部当選役停止可能位置データとを比較する。次に、ステップ1269で、主制御基板MのCPU100は、表示された図柄の組み合わせが正常であるか否かを判定する(内部抽選によって決定された入賞可能となる役と一致していなければ異常であると判定される)。尚、ステップ1269における表示された図柄の組み合わせが正常であるか否かの判定は、停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したか否かを判定しており、入賞役に当選しているゲームにて、当該入賞役が入賞可能な操作態様で停止ボタンの操作が実行された場合において、実際に停止したリール位置が正常で

20

30

40

50

なかった（内部抽選によって決定された入賞可能となる役が遊技者からの見た目上では停止表示なかった）場合であっても、遊技機内部の処理によってリールの停止制御が正常に実行完了した場合には、当該入賞役の入賞に基づく遊技メダルの払い出しが実行されるよう構成されている。ステップ1269でYesの場合にはステップ1274に移行する。他方、ステップ1269でNoの場合、ステップ1270で、主制御基板MのCPU100は、表示判定エラー表示をセットする（例えば、レジスタ領域内にセットする）。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPU100は、復帰不可能エラー処理を実行する。他方、ステップ1267でNoの場合、ステップ1261-1に移行する。

【0075】

次に、ステップ1274で、主制御基板MのCPU100は、入賞による遊技メダルの払出処理を実行する。次に、ステップ1275で、主制御基板MのCPU100は、遊技メダルを払い出す入賞があったか否かを判定する〔入賞によって獲得した遊技メダルが、クレジットの最大数（本例では、50）を超過した場合に、遊技メダルの払出が実行される〕。ステップ1275でYesの場合、ステップ1276で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動フラグ（ホッパモータH80を駆動している際にオンとするフラグ）をオンにし、遊技メダル1枚の払出を実行する。次に、ステップ1277で、主制御基板MのCPU100は、第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンであるか否かを判定する（第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンとなると、遊技メダル1枚の払出動作が行われていると判定する）。ステップ1277でYesの場合にはステップ1286に移行する。

【0076】

他方、ステップ1277でNoの場合、ステップ1279で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動後（ステップ1276の処理のタイミング後）から所定時間（例えば、5秒）経過したか否かを判定する。ステップ1279でYesの場合、ステップ1280で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーフラグをオンにする（例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1281で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラー表示を7セグLEDで実行する。次に、ステップ1282で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーが解除されたか否か（例えば、設定／リセットボタンM30が押下されたか否か）を判定する。ステップ1282でYesの場合、ステップ1283で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーフラグをオフにし（例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し）、ステップ1286に移行する。他方、ステップ1282でNoの場合、ステップ1281に移行する。

【0077】

次に、ステップ1286で、主制御基板MのCPU100は、第1払出センサH10sおよび第2払出センサH20sがオフであるか否かを判定する（第1払出センサH10sまたは第2払出センサH20sがオンとなった後、第1払出センサH10sおよび第2払出センサH20sがオフとなると、払出動作が行われていた1枚の遊技メダルの払出動作が完了したと判定する）。ステップ1286でYesの場合、ステップ1288で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動フラグをオフにし、ステップ1290に移行する。尚、ステップ1279またはステップ1286でNoの場合には、ステップ1277に移行する。次に、ステップ1290で、主制御基板MのCPU100は、当該入賞（ステップ1275でYesとなった入賞）に対応した払出が完了したか否かを判定する。ステップ1290でYesの場合にはステップ3400に移行する。尚、ステップ1286でNoの場合には、ステップ1277に移行し、ステップ1275でNoの場合には、ステップ3400に移行し、ステップ1290でNoの場合には、ステップ1276に移行する。

【0078】

次に、ステップ3400で、主制御基板MのCPU100は、後述する、残りゲーム数管理処理を実行する。次に、ステップ1700で、主制御基板MのCPU100は、

後述する、R T 状態移行制御処理を実行する。次に、ステップ 1 7 5 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、後述する、A T 状態開始制御処理を実行する。次に、ステップ 3 5 0 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、後述する、遊技区間移行制御処理を実行する。次に、ステップ 1 2 9 3 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、遊技終了処理（例えば、ベット数のクリア、遊技状態の移行処理等）を実行し、次の処理（ステップ 1 2 0 2 の処理）に移行する。

【 0 0 7 9 】

次に、図 1 9 は、第 1 実施形態における、図 1 8 のステップ 3 6 0 0 のサブルーチンに係る、内部抽選実行処理のフローチャートである。まず、ステップ 3 6 0 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、内部抽選テーブル（当選番号や取得した乱数と比較するための置数等が記憶されている、内部抽選を実行する際に用いるテーブル）をセットし、ステップ 3 6 0 4 に移行する。次に、ステップ 3 6 0 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る当選番号を取得する。尚、当選番号から入賞・再遊技当選情報を生成することができる。また、ボーナスと小役とが重複して当選したり、ボーナスと再遊技役とが重複して当選したりした場合には、当選番号から入賞・再遊技当選情報とボーナス当選情報との双方の当選情報を生成することができる。具体的な生成の処理については、後述する。次に、ステップ 3 6 0 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る繰り返し回数を取得する。ここで、繰り返し回数とは、出玉グループ番号が同一であり、且つ、取得した乱数と比較するための置数が同一である連続した当選番号の数であり、主制御基板 M の R O M に予め記憶されている。例えば、出玉グループ番号 2 は、当選番号 4 ～ 1 2 の 9 個の当選番号が含まれており、押し順再遊技役である当選番号 4 ～ 6 の連続する 3 個については前記置数が同一となっており、押し順ベル役である当選番号 7 ～ 1 2 の連続する 6 個については前記置数が同一となっているため、押し順再遊技役に係る繰り返し回数は 3 となり、押し順ベル役に係る繰り返し回数は 6 となる。尚、押し順再遊技役である当選番号 4 ～ 6 を取得した際に用いる抽選テーブルと押し順ベル役である当選番号 7 ～ 1 2 を取得した際に用いる抽選テーブルとは単一の抽選テーブルとして構成されている。次に、ステップ 3 6 0 8 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る出玉グループ番号を取得し、ステップ 3 6 1 0 に移行する。

【 0 0 8 0 】

次に、ステップ 3 6 1 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、設定値データを取得する。次に、ステップ 3 6 1 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、指定アドレスデータを取得する。次に、ステップ 3 6 1 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、内部抽選に当選したか否か（取得した乱数が今回検索した内部抽選テーブル内に存在したか否か）を判定する。ステップ 3 6 1 4 で Y e s の場合には、内部抽選に当選したと判定したため、その後の内部抽選テーブルアドレスに関しては判定（抽選）を実行せずに、次の処理（ステップ 1 2 5 9 の処理）に移行する。他方、ステップ 3 6 1 4 で N o の場合、ステップ 3 6 1 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、繰り返し回数を更新する。次に、ステップ 3 6 1 8 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、残っている繰り返し回数があるか否かを判定する。ステップ 3 6 1 8 で Y e s の場合、ステップ 3 6 1 0 に移行し、残っている繰り返し回数がなくなるまたは内部抽選に当選するまで、ステップ 3 6 1 0 ～ ステップ 3 6 1 8 の処理を繰り返し実行する。尚、ステップ 3 6 1 8 で N o の場合、ステップ 3 6 2 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、内部抽選テーブルアドレスを更新（次の出玉グループ番号に係るアドレスに更新）し、ステップ 3 6 0 4 に移行してステップ 3 6 0 4 以降の処理を実行する。尚、内部抽選の具体的な処理については後述することとなる。

【 0 0 8 1 】

次に、図 2 0 は、第 1 実施形態における、図 1 8 のステップ 1 5 0 0 のサブルーチンに係る、ゲーム数上乘せ実行処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 5 0 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、A T に関する状態は「A T 中状態」、「特化前兆状態」または「上乘せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ 1 5 0 2 で Y e s の場合、

ステップ1504で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係る出玉グループ番号はAT中上乗せ役（「AT中状態」において、残りATゲーム数を上乗せし得る当選番号であり、本例では、再遊技-B、再遊技-C、入賞-Dとなっている）に関する出玉グループ番号（本例では、1、3）であるか否かを判定する。ステップ1504でYesの場合にはステップ1514に移行する。また、ステップ1502でNoの場合、換言すると、ATに関する状態が有利BB状態であった場合、ステップ1512で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに関する出玉グループ番号はBB中上乗せ役（「有利BB状態」において、残りATゲーム数を上乗せし得る当選番号であり、本例では、入賞-H、入賞-I）に関する出玉グループ番号（本例では、5、6）であるか否かを判定する。ステップ1512でYesの場合には、ステップ1514に移行し、ステップ1512でNoの場合には、ステップ1518に移行する。また、ステップ1504でNoの場合、ステップ1506で、主制御基板MのCPU100は、ATに関する状態は「上乗せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ1506でYesの場合、ステップ1508で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに関する出玉グループ番号は特化中上乗せ役（「上乗せ特化状態」において、残りATゲーム数を上乗せし得る且つ「AT中状態」においては残りATゲーム数を上乗せしない当選番号であり、本例では、再遊技-A、再遊技-D1～D3、入賞-A1～A6となっている）に関する出玉グループ番号（本例では、2、13）であるか否かを判定する。ステップ1508でYesの場合、ステップ1514に移行する。尚、ステップ1506またはステップ1508でNoの場合にはステップ1518に移行する。

10

20

【0082】

次に、ステップ1514で、主制御基板MのCPU100は、当選時上乗せゲーム数抽選テーブルを参照し、当該ゲームに係る出玉グループ番号に基づいてAT上乗せゲーム数を決定する（例えば、欄外にて示す抽選テーブルにおいて、ラッチした乱数値がいずれの範囲内に収まっているか否かで判定する）。尚、AT上乗せゲーム数を決定することを、AT上乗せ抽選を実行するとも称する。次に、ステップ1516で、主制御基板MのCPU100は、当該決定したAT上乗せゲーム数をATカウンタM60のカウンタ値に加算し、当該加算後のATカウンタ値をATカウンタM60にセットする。次に、ステップ1517で、主制御基板MのCPU100は、当該決定したAT上乗せゲーム数に係るコマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、副制御基板Sは当該コマンドを受信することにより、ATゲーム数上乗せが実行されたか否かと上乗せゲーム数が何ゲームであることを認識することができる）をセットし、ステップ1518に移行する。尚、ボーナスが含まれる当選番号（当選番号19～27）に係る出玉グループ番号である、出玉グループ番号7～11の場合にもATに関する抽選（AT抽選、AT上乗せ抽選）が実行され得る。

30

【0083】

ここで、同図欄外にて示す抽選テーブルは、当選時上乗せゲーム数抽選テーブルの一例であり、第1実施形態においては、押し順ナビが実行されるATに関する状態の一部（本例では、「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」、「有利BB状態」）にて当選時上乗せ役が当選した場合には、当該ゲームに係る出玉グループ番号に基づいて、AT上乗せゲーム数は「0」～「300」が抽選によって決定され、当該決定された値がATカウンタM60のカウンタ値に加算されることとなる。尚、「0」が決定された場合にはAT残りゲーム数は増加しないこととなる（「0」が決定された場合には、AT上乗せ抽選に非当選と称することがある）。

40

【0084】

また、当選時上乗せ役に当選した場合のAT上乗せゲーム数の平均値（期待値）は、図示されるような値となっており、具体的な算出方法としては、当選役がスイカAである場合には、 $\{置数(600) \times AT上乗せゲーム数(0) + 置数(100) \times AT上乗せゲーム数(10) + 置数(300) \times AT上乗せゲーム数(30) + 置数(24) \times AT上乗せゲーム数(100)\} / 置数の総数(1024) = 12.1$ （ゲーム）、のようにし

50

て算出することができる。

【0085】

次に、当選役が再遊技 - B または再遊技 - C である場合には、 $\{ \text{置数} (500) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (0) + \text{置数} (200) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (50) + \text{置数} (300) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (100) + \text{置数} (24) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (300) \} / \text{置数の総数} (1024) = 46.1$ (ゲーム)、のようにして算出することができる。

【0086】

次に、当選役が再遊技 - A または再遊技 - D1 ~ D3、入賞 - A1 ~ A6 である場合には、 $\{ \text{置数} (300) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (10) + \text{置数} (600) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (30) + \text{置数} (124) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (50) \} / \text{置数の総数} (1024) = 26.61$ (ゲーム)、のようにして算出することができる。尚、当選役が再遊技 - A または再遊技 - D1 ~ D3、入賞 - A1 ~ A6 である場合に AT ゲーム数が上乗せされるのは AT に関する状態が「上乗せ特化状態」である場合のみとなっている。

【0087】

次に、当選役が BB 中弱レア役である場合には、 $\{ \text{置数} (800) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (0) + \text{置数} (100) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (10) + \text{置数} (100) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (30) + \text{置数} (24) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (100) \} / \text{置数の総数} (1024) = 6.3$ (ゲーム)、のようにして算出することができる。

【0088】

次に、当選役が BB 中強レア役である場合には、 $\{ \text{置数} (300) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (0) + \text{置数} (300) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (30) + \text{置数} (400) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (50) + \text{置数} (24) \times \text{AT 上乗せゲーム数} (300) \} / \text{置数の総数} (1024) = 35.4$ (ゲーム)、のようにして算出することができる。

【0089】

尚、第1実施形態においては、AT 上乗せ抽選を実行した場合には、当選役の種類によって AT 上乗せゲーム数の平均値が相違し得るよう構成されているが、設定値によっては AT 上乗せゲーム数の平均値は相違しないよう構成されている。ここで、当選番号に基づいて AT 上乗せ抽選を実行するよう構成する場合には、例えば、当選番号7と当選番号8とで AT 上乗せ抽選として同一の処理を実行する場合、当選番号が7であるか8であるかを判断する処理を実行しなければならないが、第1実施形態のように、出玉グループ番号に基づいて AT 上乗せ抽選を実行するよう構成することにより、当選番号7と当選番号8とで AT 上乗せ抽選として同一の処理を実行する場合には、出玉グループ番号が2であるかを判断するのみで当選番号7と当選番号8とのいずれの AT 上乗せ抽選に関する処理も実行することができることとなる。

【0090】

フローチャートの説明に戻ると、次に、ステップ1518で、主制御基板MのCPU C100は、当該ゲームに係る当選番号（または入賞・再遊技当選情報、または出玉グループ番号、等で判断してもよい）は再遊技 - B（逆押しで停止させることによって無効ラインに白セブンが一直線になり得る再遊技である逆押し白7リプレイ）に関する当選番号であるか否かを判定する。ステップ1518で Yes の場合、ステップ1520で、主制御基板MのCPU C100は、再遊技 - B による AT ゲーム数上乗せがあったか否か、換言すると、再遊技 - B に当選したことによる AT 上乗せゲーム数は0ではなかったか否かを判定する。ステップ1520で Yes の場合、ステップ1522で、主制御基板MのCPU C100は、逆押し指示コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、逆押し（「右→中→左」）にて無効ラインに白セブンを揃えるよう指示する演出を実行することとなる）をセットし、ステップ1526に移行する。他方、ステップ1520で No の場合、ステップ1524で、主制御基板MのCPU C100は、逆押し回避コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、逆押し（「右→中→左」）以外の押し順を指示し、無効ラインに白セブンを揃えないようにする演出を実行することとなる）をセットし、ステップ1526に移行する。尚、ステップ1518で No の場合にも、ステップ1526に移行する

。次に、ステップ1526で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係る当選番号（または入賞・再遊技当選情報、または出玉グループ番号、等で判断してもよい）は再遊技 - C（順押しで停止させることによって無効ラインに黒セブンが一直線になり得る再遊技である順押し黒7リプレイ）であるか否かを判定する。ステップ1526でYesの場合、ステップ1528で、主制御基板MのCPU100は、再遊技 - CによるATゲーム数上乗せがあったか否か、換言すると、再遊技 - Cに当選したことによるAT上乗せゲーム数は0ではなかったか否かを判定する。ステップ1528でYesの場合、ステップ1530で、主制御基板MのCPU100は、順押し指示コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、順押し（「左→中→右」）にて無効ラインに黒セブンを揃えるよう指示する演出を実行することとなる）をセットし、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。他方、ステップ1528でNoの場合、ステップ1532で、主制御基板MのCPU100は、順押し回避コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、順押し（「左→中→右」）以外の押し順を指示し、無効ラインに黒セブンを揃えないようにする演出を実行することとなる）をセットし、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。尚、ステップ1526でNoの場合にも、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。尚、第1実施形態においては、逆押し指示コマンド、逆押し回避コマンド、順押し指示コマンド、順押し回避コマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sがこれらコマンドを受信することによって、副制御基板S側にて押し順ナビに関する演出を実行し得るよう構成したが、これには限定されず、AT上乗せ抽選に当選した場合に、AT上乗せ抽選に当選した旨およびAT上乗せゲーム数に係るコマンド（例えば、ステップ1517の処理に係るAT上乗せゲーム数に係るコマンド）を副制御基板S側に送信し、副制御基板S側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板S側で押し順ナビに関する演出の実行タイミングや演出態様を決定するよう構成してもよい。一例としては、再遊技 - Bが当選した遊技であって、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲーム（ATゲーム数上乗せがあるゲーム）にて逆押しを指示する演出態様を選択して実行するよう構成してもよいし、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲームでは逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件（例えば、特定の再遊技役（例えば、再遊技 - BまたはC）に当選した）を充足したゲームにて無効ラインにて7揃いが可能な押し順を指示する演出を実行するよう構成してもよい。または、再遊技 - Bが当選した遊技であって、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲーム（ATゲーム数の上乗せがあるゲーム）では、逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件（例えば、所定ゲーム数後（同時に連続演出を実行しても良く、その場合には連続演出の最終ゲーム）を充足したゲームにてATゲーム数上乗せ演出（演出表示装置S40にて表示されるAT残りゲーム数に係る表示が増加する演出であり、例えば、「+30G」と表示）を実行しても良い。尚、本例においては、演出表示装置S40においても、AT残りゲーム数に係る表示を表示し得るよう構成されており、当該表示と主制御基板側で記憶しているAT残りゲーム数とは同一であってもよいし、相違していてもよい。尚、再遊技 - Bが当選した遊技であって、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲーム（ATゲーム数の上乗せがあるゲーム）で、逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件を充足したゲームにてATゲーム数上乗せ演出を実行する場合の例としては、副制御基板S側でボーナスの当選を煽る特別な演出（例えば、所定の連続演出）を実行しているとき（ボーナス内部中では再遊技 - Bの当選確率が低い（0%も含む）ため、7揃いが可能な押し順を報知してしまうとボーナス当選していないことが遊技者に認識されてしまう）等、副制御基板S側が特別な演出を実行しているときが挙げられる。尚、主制御基板M側にてAT上乗せ抽選に当選し、AT残りゲーム数の上乗せがあったことを副制御基板S側が判断する情報としては、（1）AT残りゲーム数に関する情報をAT上乗せ抽選後に主制御基板M側から副制御基板S側に送信する。その後、副制御基板S側で、前回送信されたAT残りゲーム数に関する情報と今回送信されたAT残りゲーム数に関する情報との差分を算出し、AT上乗せ抽選で当選したAT上乗せゲーム数を把握する、（2）主制御基板M側のAT上乗せ抽選の結果として得られたAT上乗せゲーム数に関するコマンドを副制御基板S側に送信する。また、AT上乗せ

10

20

30

40

50

抽選に当選しなかった場合には、A T 上乗せ抽選に当選しなかった旨に係るコマンドを副制御基板 S 側に送信し、副制御基板 S 側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板 S 側で押し順ナビに関する演出の演出態様を決定するよう構成してもよい。一例としては、再遊技 - B が当選した遊技であって、副制御基板 S 側で前記コマンドを受信したゲーム (A T ゲーム数上乗せがなかったゲーム) にて中押し (第 1 停止として中停止ボタンを操作することであり、7 揃いを回避する押し順) を指示する演出態様を選択して実行するよう構成してもよい。尚、主制御基板 M 側に A T 上乗せ抽選が実行されたが、A T 残りゲーム数の上乗せがなかったことを副制御基板 S 側が判断する情報としては、(1) A T 残りゲーム数に関する情報を A T 上乗せ抽選後に主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に送信する。その後、副制御基板 S 側で、前回送信された A T 残りゲーム数に関する情報と今回送信された A T 残りゲーム数に関する情報との差分を算出し、A T 上乗せ抽選で当選した A T 上乗せゲーム数を把握する (前回送信された A T 残りゲーム数に関する情報から今回送信された A T 残りゲーム数に関する情報を減算した値が 1 である場合に A T 上乗せ抽選に当選しなかったと判断する)、(2) 主制御基板 M 側の A T 上乗せ抽選の結果として A T 上乗せゲーム数が 0 ゲームである旨に関するコマンドを副制御基板 S 側に送信する。

10

20

30

40

50

【0091】

次に、図 21 は、第 1 実施形態における、図 18 のステップ 1400 のサブルーチンに係る、A T 状態移行制御処理のフローチャート (1 枚目) である。まず、ステップ 1402 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、現在の A T に関する状態は、A T 抽選を実行可能な A T に関する状態であるか否かを判定する。尚、第 1 実施形態においては、A T 抽選を実行可能な A T に関する状態は、「高確率状態」のみとなっており、「高確率状態」にて B B に当選することにより「有利 B B 内部中遊技」に移行し、その後 B B 役が入賞することにより、「有利 B B 状態」に移行し、実行された B B が終了することにより、「A T 中状態」に移行すると共に、A T カウンタに A T ゲーム数の初期値である 50 回がセットされることとなる。尚、「低確率状態」にて B B に当選しても、「通常 B B 内部中遊技」に移行して、その後「A T 中状態」には移行しない。尚、これには限定されず、「通常遊技状態」にて B B に当選した場合に B B 役を契機として A T 抽選に当選し得るよう構成してもよい。そのように構成した場合には、「通常遊技状態」にて B B に当選した場合に B B 役を契機として A T 抽選に当選した場合には、「有利 B B 内部中遊技」に移行し、その後 B B を揃えることで「有利 B B 状態」に移行することとなる。尚、「通常遊技状態」にて B B に当選し、且つ、B B を揃えていない内部中の状態においては、遊技区間を「有利区間」としてもよいし、「待機区間」としてもよい。ステップ 1402 で Y e s の場合、ステップ 1404 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、当該ゲームに係る条件装置は A T 抽選役 (本例では、設定差なし B B 役である第 1 種 B B - A または第 1 種 B B - C) であるか否かを判定する。尚、第 1 実施形態においては、設定差なし B B 単独の当選番号 (当選番号 19、24) と設定差なし B B と小役が重複している当選番号 (当選番号、25、26、27) とのいずれもが A T 抽選役となっている。ステップ 1404 で Y e s の場合、ステップ 1406 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、次ゲーム以降の A T に関する状態を「有利 B B 内部中遊技」に決定し、ステップ 1410 に移行する。また、ステップ 1402 またはステップ 1404 で N o の場合にも、ステップ 1410 に移行する。尚、第 1 実施形態においては A T に関する状態が相違した場合に A T 抽選に係る A T 当選率 (当選し得るか当選しないか) が相違するよう構成されているが、A T に関する状態が同一である場合には、設定値が相違しても A T 抽選に係る A T 当選率は同一となっている (「高確率状態」にて B B に当選した場合には設定値に拘らず必ず A T に当選する = その後「A T 中状態」に移行する)。

【0092】

次に、ステップ 1410 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、次ゲーム以降の A T に関する状態が決定されていないか否かを判定する。ステップ 1410 で Y e s の場合、ステップ 1412 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、現在の A T に関する状態は「低確率状態」であるか否かを判定する。ステップ 1412 で Y e s の場合、ステップ 1414

で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る条件装置は状態昇格役（当選することによって「低確率状態」から「高確率状態」に移行し得る小役であり、本例では、チェリー）であるか否かを判定する。ステップ1414でYesの場合、ステップ1416で、主制御基板MのCPUC100は、所定確率（本例では、 $1/2$ であり、設定値によって相違していなければ変更しても問題ない）にて当選する高確率状態移行抽選を実行する。次に、ステップ1418で、主制御基板MのCPUC100は、当該実行した高確率状態移行抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1418でYesの場合、ステップ1420で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「高確率状態」に決定し、ステップ1430に移行する。

【0093】

また、ステップ1412でNoの場合、ステップ1424で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態は「高確率状態」であるか否かを判定する。ステップ1424でYesの場合、ステップ1426で、主制御基板MのCPUC100は、高確保障カウンタKHcのカウント値が1（高確保障最終ゲームであり、「高確率状態」となってから10ゲーム目）であるか否かを判定する。ステップ1426でYesの場合、ステップ1428で、主制御基板MのCPUC100は、低確率移行条件を充足しているか否かを判定する。ここで、第1実施形態においては、ATに関する状態が「高確率状態」である場合には遊技区間が「有利区間」となっており、遊技区間が「有利区間」である場合には、押し順ナビが1回以上実行される、または、所定ゲーム数（本例では、1500ゲーム）「有利区間」が継続することを充足しなければ「有利区間」が終了しないよう構成されている（即ち、低確率状態移行抽選に当選したとしても、押し順ナビが1回以上実行されていない等により低確率移行条件を充足していない場合には、「高確率状態」が終了しないよう構成されている）。尚、「有利区間」中にBB役が当選し、BBを実行した場合には、「有利区間」にて押し順ナビを1回も実行していなくても「有利区間」を任意のタイミングで終了し得るように構成されていてもよい。ステップ1428でYesの場合、ステップ1429で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「低確率状態」に決定し、ステップ1430に移行する。ここで、低確率移行条件は、押し順ナビが1回実行されたことで充足する。尚、押し順役（リール停止順によって入賞する役が相違し、遊技者の利益率が相違する当選番号）として、最大払出枚数が8枚の役と最大払出枚数が11枚の役とを設けた場合には、最大払出枚数が多い最大払出枚数が11枚の役の押し順ナビが1回実行されたことを低確率移行条件としてもよい。尚、ステップ1410、ステップ1414、ステップ1418、ステップ1424、ステップ1426またはステップ1428でNoの場合にもステップ1430に移行する。このように、第1実施形態においては、新たに「高確率状態」に移行した場合には、高確保障カウンタKHcに高確保障ゲームである10ゲームをセットし、当該カウンタ値が0となるまでは「低確率状態」に移行しないよう構成されている。尚、このような抽選方式はあくまで一例であり、例えば、「高確率状態」に移行してから10ゲーム間は低確率状態移行抽選を実行せず（「高確率状態」の滞在が保障される）、当該10ゲーム経過後から毎ゲームで所定の確率（例えば、 $1/20$ ）で「高確率状態」から「低確率状態」に移行する抽選を実行するよう構成してもよい。尚、AT抽選役（低確AT抽選役、高確AT抽選役）、状態昇格役は、全設定値において同一の当選確率となっている。

【0094】

次に、図22は、第1実施形態における、図18のステップ1400のサブルーチンに係る、AT状態移行制御処理のフローチャート（2枚目）である。まず、ステップ1430で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態は「AT中状態」であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1431で、主制御基板MのCPUC100は、ATカウンタM60のカウント値は所定値（本例では、4）以上であるか否かを判定する。ここで、第1実施形態においては、ATに関する状態が「AT中状態」である場合において、ATカウンタ値が4以上である、換言するとAT残りゲーム数が4ゲーム以上である場合においては、スイカBに当選した際の $1/2$ の確率で「上

10

20

30

40

50

乗せ特化状態」への移行権利を獲得し、「特化前兆状態」に移行し得る一方、A Tに関する状態が「A T中状態」である場合において、A Tカウンタ値が3以下である、換言するとA T残りゲーム数が3ゲーム以下である場合においては、スイカBに当選しても「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選（特化状態移行抽選とも称することがある）を実行せず、「特化前兆状態」および「上乗せ特化状態」に移行しないよう構成されている。尚、これには限定されず、A Tカウンタ値が3以下である場合であっても、スイカBに当選して「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選（特化状態移行抽選とも称することがある）を実行し得るよう構成してもよく、そのように構成し、A Tカウンタ値が3以下である状況にてスイカBに当選して「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選に当選した場合には、当該抽選に当選した次ゲームから「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよいし、A Tカウンタ値が所定値（例えば、1または0）となったときに「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよいし、当該抽選に当選した遊技から所定数の遊技の実行後に「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよい。また、「上乗せ特化状態」に移行する場合には、必ずしも「特化前兆状態」を経由する必要はなく、例えば、「A T中状態」から「上乗せ特化状態」に直接移行し得るよう構成してもよい。ステップ1431でYesの場合、ステップ1432で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係る条件装置は特化移行役（「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選を実行し得る小役であり、本例では、スイカB）であるか否かを判定する。ステップ1432でYesの場合、ステップ1433で、主制御基板MのCPU100は、所定確率（本例では、 $1/2$ ）で当選する特化状態移行抽選を実行する。次に、ステップ1434で、主制御基板MのCPU100は、当該実行した特化状態移行抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1434でYesの場合、ステップ1435で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のA Tに関する状態を「特化前兆状態」に決定し、ステップ1444-1に移行する。他方、ステップ1431でNoの場合、ステップ1436で、主制御基板MのCPU100は、A TカウンタM60のカウント値が1（A Tカウンタ値が1の場合はA T最終ゲームとなる）であるか否かを判定する。ステップ1436でYesの場合、ステップ1437で、主制御基板MのCPU100は、所定確率（本例では、 $2/3$ ）で当選する継続抽選を実行する。次に、ステップ1438で、主制御基板MのCPU100は、当該実行した継続抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1438でYesの場合、ステップ1439で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のA Tに関する状態を「A T中状態」に決定し、ステップ1444-1に移行する（A T状態移行可能条件を充足するためA TカウンタにA T初期ゲーム数（本例では、50）がセットされることになる）。他方、ステップ1438でNoの場合、ステップ1443で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のA Tに関する状態を「復活可否演出用状態」に決定し、ステップ1444-1に移行する。尚、ステップ1430、ステップ1432、ステップ1434またはステップ1436でNoの場合にも、ステップ1444-1に移行する。このように、第1実施形態においては、A T最終ゲームにて継続抽選を実行し、継続抽選に当選した場合には、再度A TカウンタM60に初期値である50ゲームがセットされる。即ち、A Tゲーム数上乗せを考慮しない場合、1セットあたり50ゲームのA Tが $2/3$ でループし続ける遊技性となっている。尚、継続抽選の実行タイミングはA T最終ゲームには限定されず、例えば、A Tの最初のゲーム（新たに「A T中状態」となった最初のゲームやA TカウンタM60に初期値がセットされてから最初のゲーム）に継続抽選を実行するよう構成してもよい。そのように構成することにより、「A T中状態」にてすでに次のセット（継続抽選の当選に係るA T）が実行されるか否か（A Tが継続するか否か）が決定されているため、継続抽選に当選している場合と継続抽選に当選しなかった場合とでA T中の演出を相違させることができ、例えば、継続抽選に当選している場合には、A TカウンタM60のカウント値が1以上の状況（A Tの実行途中）にてBGMを変更（歌が流れる、等）したり、継続抽選に当選していることが確定的となる演出を実行することができる。

10

20

30

40

50

【0095】

次に、図23は、第1実施形態における、図18のステップ1400のサブルーチンに係る、AT状態移行制御処理のフローチャート（3枚目）である。まず、ステップ1444-1で、主制御基板MのCPU100は、現在のATに関する状態は復活可否演出用状態であるか否かを判定する。ステップ1444-1でYesの場合、ステップ1444-2で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに関する条件装置は復活役（「復活可否演出用状態」にて当選することにより次のゲームにて「AT中状態」に移行可能となる役、換言すると、ATを引き戻せる役）であるか否かを判定する。ここで、第1実施形態においては復活役は、スイカA、スイカB、チェリー、ボーナス役（設定差なしBB役のみであり、設定差ありBB役は含まない）のいずれかが含まれている役となっており、当該ゲームに関する条件装置が復活役となった場合を、復活抽選に当選すると称している。ステップ1444-2でYesの場合、ステップ1444-3で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「AT中状態」に決定し、ステップ1445に移行する。ここで、AT状態移行可能条件を充足するためATカウンタにAT初期ゲーム数（本例では、50）がセットされることとなる。他方、ステップ1444-2でNoの場合、ステップ1444-4で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「低確率状態」に決定し、ステップ1445に移行する。尚、ステップ1441-1でNoの場合にも、ステップ1445に移行する。このように、第1実施形態においては、AT最終ゲームとなり、かつ、継続抽選に非当選となった場合においても「復活可否演出用状態」に移行し、当該「復活可否演出用状態」にて復活抽選に当選することができれば、次のゲームから「AT中状態」に移行するよう構成されている。尚、「復活可否演出用状態」は「有利区間」となっているが、「AT中状態」におけるATに関する抽選（AT上乘せ抽選、継続抽選、等）は実行されず、復活抽選を実行可能に構成されており、「AT中状態」と「復活可否演出用状態」とではATに関する抽選の実行態様が相違している。

10

20

【0096】

次に、ステップ1445で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態が決定されていないか否かを判定する。ステップ1445でYesの場合、ステップ1446で、主制御基板MのCPU100は、ATに関する状態の移行条件を充足したか否かを判定する（例えば、図30にて示されるように、「特化前兆状態」にて前兆ゲーム数である10ゲームを消化した場合に充足する）。ステップ1446でYesの場合、ステップ1447で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態を決定し、ステップ1448に移行する（例えば、図30にて示されるように、「特化前兆状態」にて前兆ゲーム数を消化した場合には「上乘せ特化状態」に決定）。尚、ステップ1445またはステップ1446でNoの場合にも、ステップ1448に移行する。次に、ステップ1448で、主制御基板MのCPU100は、高確保障カウンタ値コマンド（本例では、サブ側へのコマンドであり、現在の高確保障カウンタ値、換言すると、高確率状態が保障されている残りのゲーム数に係るコマンド）をセットし、ステップ1449-1に移行する。次に、ステップ1449-1で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態は「有利BB内部中遊技」に決定するか否かを判定する。ステップ1449-1でYesの場合、ステップ1449-2で、主制御基板MのCPU100は、高確保障カウンタKHcのカウンタ値をゼロクリアし、次の処理（ステップ1450の処理）に移行する。尚、ステップ1449-1でNoの場合にも、次の処理（ステップ1450の処理）に移行する。

30

40

【0097】

尚、第1実施形態においては、抽選状態によってAT当選率が相違するよう構成されており、「低確率状態」にてBB役（設定差なしBB役）に当選した場合にはAT移行抽選に当選しない（その後「AT中状態」に移行しない）一方、「高確率状態」にてBB役（設定差なしBB役）に当選した場合にはAT移行抽選に当選する（その後「AT中状態」に移行する）よう構成したが、これには限定されず、所定の条件装置である条件装置Aを

50

A T 抽選役とし、「有利区間」である A T に関する状態として「高確率状態 A」と「高確率状態 B」とを有するよう構成した場合に、「高確率状態 A」にて条件装置 A に当選した場合には $1/10$ で A T 移行抽選に当選し、「高確率状態 B」にて条件装置 A に当選した場合には $1/2$ で A T 移行抽選に当選するよう構成してもよい。尚、A T 移行抽選に当選した場合には、A T に関する状態として「A T 中状態」へ移行するまでの準備状態である「A T 準備状態」に移行し、その後所定の終了条件（例えば、「A T 準備状態」に移行してから 10 ゲーム経過）を充足した場合に「A T 中状態」に移行するよう構成してもよい。

【0098】

次に、図 24 は、第 1 実施形態における、図 18 のステップ 1450 のサブルーチンに係る、条件装置番号管理処理のフローチャートである。まず、ステップ 1451 で、主制御基板 M の CPU C100 は、現在の遊技区間は「有利区間」であるか否かを判定する。ステップ 1451 で Yes の場合、ステップ 1452 で、主制御基板 M の CPU C100 は、入賞・再遊技当選情報に係るコマンド（副制御基板 S 側のコマンドであり、例えば、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報に係るコマンド）をセットする。次に、ステップ 1454 で、主制御基板 M の CPU C100 は、当該ゲームに係る条件装置は押し順あり役（押し順によって入賞する役が相違する条件装置であり、例えば、入賞 - A1 等）であるか否かを判定する。ステップ 1454 で Yes の場合、ステップ 1458 で、主制御基板 M の CPU C100 は、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報に基づき、当該ゲーム中における指示番号（押し順番号とも称す）を決定し、指示番号を記憶するための RAM アドレス（押し順ナビを表示するため RAM アドレスとは異なるアドレス）に記憶する。尚、指示番号とは押し順に係る情報であり、本例においては、主制御基板 M が決定し、副制御基板 S に送信されることとなる（詳細は後述する）。また、副制御基板 S は当該指示番号を受信することにより演出表示装置 S40 上で押し順ナビを表示することができることとなる。尚、押し順ナビを実行しない場合にも指示番号が決定（不図示であるが指示番号をクリアすることに基づいて指示番号が初期値となる）されるよう構成されている。尚、押し順当てゲームを実行する場合には、押し順当てゲーム専用の所定の指示番号（例えば、A X）を決定するよう構成してもよい。次に、ステップ 1460 で、主制御基板 M の CPU C100 は、当該ゲームに係る指示番号に基づいて押し順表示装置 D270 にて押し順ナビ表示を実行する（主制御基板側の押し順ナビ表示の表示イメージは図 34 を参照）。次に、ステップ 1466 で、主制御基板 M の CPU C100 は、ステップ 1458 で決定した指示番号に係るコマンド（サブ側へのコマンド）をセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ 1472 に移行する（副制御基板側の押し順ナビ表示の表示イメージは図 34 を参照）。尚、本例では、押し順表示装置 D270 および演出表示装置 S40 にて遊技者に最も高利益となるリールの停止順を表示することを押し順ナビ、押し順ナビ表示を表示する、等と称している。尚、第 1 実施形態においては指示番号に基づいて押し順ナビを表示しており、例えば、「左→中→右」の押し順は押し順表示装置 D270 にて「=1」で表示するよう構成されており、押し順ベルの場合も押し順再遊技の場合もいずれも「=1」で表示するよう構成している。尚、これには限定されず、押し順ベルに係るゲームにて「左→中→右」の押し順ナビを押し順表示装置 D270 に表示する場合と、押し順再遊技に係るゲームにて「左→中→右」の押し順ナビを押し順表示装置 D270 に表示する場合とで異なる表示態様となるよう構成してもよい。即ち、押し順表示装置 D270 に表示される押し順ナビの表示態様の種類数は入賞・再遊技当選情報の種類数と同数となるよう構成してもよい。

【0099】

また、ステップ 1451 またはステップ 1454 で No の場合、ステップ 1468 で、主制御基板 M の CPU C100 は、当該ゲームの入賞・再遊技当選情報にマスク処理を実行し、マスク処理をした情報を RAM の所定アドレスに記憶する。ここで、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を副制御基板 S 側に送信した場合に、不正な行為により当該入賞・再遊技当選情報が認識されてしまうと、当該ゲームに係る高利益となる押し順（リー

ル停止順)が認識されてしまうこととなる。そこで、本例においては、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報にマスク処理{入賞・再遊技当選情報(特に押し順に係る情報)を秘匿的にする処理}を実行してから副制御基板Sに送信するよう構成することにより、高利益な押し順が認識できないよう構成している。尚、第1実施形態における、マスク処理の方法としては、複数の入賞・再遊技当選情報(同様の役割を持った入賞・再遊技当選情報が好適であり、例えば、押し順によってRT状態が移行する再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示し得る複数の入賞・再遊技当選情報)を1つの演出グループ番号(例えば、入賞・再遊技当選情報4~6を演出グループ4とする等)として、演出グループ番号を副制御基板S側に送信するよう構成している。尚、マスク処理の方法としては、これには限定されず、例えば、設けられている入賞・再遊技当選情報(本例では、0~18)の後に、新たにマスク処理後の入賞・再遊技当選情報を設けるよう構成してもよい。また、そのような場合にも、演出グループ番号のように既存の入賞・再遊技当選情報のうち複数の入賞・再遊技当選情報を1つの入賞・再遊技当選情報としてマスク処理後の入賞・再遊技当選情報を設けるよう構成することが望ましい(例えば、入賞・再遊技当選情報4~6を、マスク処理後の入賞・再遊技当選情報である入賞・再遊技当選情報19(新たに設けた入賞・再遊技当選情報)とする等)。尚、主制御基板MにおけるATに関する状態等に基づき、操作情報(押し順ナビ)を報知する遊技であると判断した場合には、副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報を送信し、操作情報を報知しない遊技では副制御基板S側に演出グループ番号を送信するようにしても良い。このように構成した場合、指示番号に係るコマンドを副制御基板S側に送信しても良いし、送信しないように構成しても良い。

10

20

【0100】

次に、ステップ1470で、主制御基板MのCPU100は、当該マスク処理を実行した後の演出グループ番号に係るコマンド(サブ側へのコマンド)をセット(例えば、レジスタ領域内にセット)し、ステップ1472に移行する。次に、ステップ1472で、主制御基板MのCPU100は、ボーナス当選情報(ボーナスに当選したか否かがサブ側で認識できることとなる)に係るコマンド(サブ側へのコマンド)をセット(例えば、レジスタ領域内にセット)し、次の処理(ステップ1550の処理)に移行する。尚、第1実施形態においては、当選番号から入賞・再遊技当選情報とボーナス当選情報とを導出するよう構成されているが、当該導出方法については後述することとする。また、同図下段に示すように、押し順ナビの表示例としては、「AT中状態」の場合には、(1)転落再遊技役が含まれる場合→転落再遊技役が停止表示されない押し順をナビ、(2)ベル(1枚役・11枚役)の場合→最も払出枚数が増える押し順をナビ、等のように構成されている。このように、第1実施形態においては、遊技区間が「有利区間」である場合には、副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報(当選役の種類と遊技者にとって最も有利な押し順とを特定できる番号)や指示番号(遊技者にとって最も有利な押し順を特定できる番号)を送信し得るよう構成されている一方、遊技区間が「通常区間」である場合には、副制御基板S側に演出グループ番号(当選役の概要のみ特定できる番号)を送信し得るよう構成されている。即ち、「有利区間」においては、押し順によって遊技の結果および遊技者の利益が相違する入賞・再遊技当選情報を含めた、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報をそのまま副制御基板S側に送信し得る一方、「有利区間」でない遊技区間においては、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報は送信せずに、押し順によって遊技の結果および遊技者の利益が相違する入賞・再遊技当選情報の場合には押し順に係る情報を秘匿した演出グループ番号を副制御基板S側に送信するよう構成されている。

30

40

【0101】

尚、遊技区間が「有利区間」でない場合等においては、主制御基板Mで決定された入賞・再遊技当選情報を副制御基板Sに送信する際にマスク処理を実行して演出グループ番号を決定し、当該演出グループ番号を副制御基板Sに送信するよう構成している。尚、演出グループ番号とは入賞・再遊技当選情報を、同様の役割となる当選役(例えば、転落再遊技役が含まれる再遊技役、押し順ベル、等)に係る入賞・再遊技当選情報をグループ化して、番号を振り分けたものである。当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報にマスク処理

50

{入賞・再遊技当選情報（特に押し順に係る情報）を秘匿的にする処理}を実行してから副制御基板Sに送信するよう構成することにより、不正な行為により当該入賞・再遊技当選情報に係る情報が認識され、当該ゲームに係る高利益となる押し順（リール停止順）が認識されてしまう事態を防止している。

【0102】

次に、図25は、第1実施形態における、図18のステップ1550のサブルーチンに係る、リール回転開始準備処理のフローチャートである。まず、ステップ1552で、主制御基板MのCPU100は、遊技間隔最小時間タイマM70（減算タイマ）のタイマ値が0であるか否かを判定する。ここで、遊技間隔最小時間タイマM70は、あるゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）から次のゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）までに担保されるべき時間（本例では、4.1秒）を計測するタイマである。ステップ1552でYesの場合、ステップ1554で、主制御基板MのCPU100は、遊技間隔最小時間タイマM70のタイマ値に新たに最小時間（最小遊技時間と称することがあり、本例では、4.1秒）をセットしてスタートする。他方、ステップ1552でNoの場合、主制御基板MのCPU100は、無限ループ処理を実行する。次に、ステップ1556で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係るリール停止順に係る情報および押し順に係る情報をクリアする。次に、ステップ1558で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係るリール停止中に係る情報および引き込みポイント作成要求をクリアする。次に、ステップ1560で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係る図柄停止位置データを初期化する。次に、ステップ1562で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係るリール回転開始待機時の出力要求をセットする。次に、ステップ1564で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係るリール制御コマンドをセットし、次の処理（ステップ1260の処理）に移行する。換言すると、ステップ1562およびステップ1564の処理によって、副制御基板Sにリールが回転開始することを示すためのコマンドが送信可能となる。

【0103】

次に、図26は、第1実施形態における、図18のステップ3400のサブルーチンに係る、残りゲーム数管理処理のフローチャートである。まず、ステップ3402で、主制御基板MのCPU100は、現在の遊技区間は「有利区間」であるか否かを判定する。尚、詳細は後述することとなるが、「有利区間」とは遊技区間のうちの1つであり、ATに関する状態が「AT中状態」である場合などの遊技者にとって有利である遊技の状況にてセットされ易い遊技区間となっている。ステップ3402でYesの場合、ステップ3404で、主制御基板MのCPU100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1（デクリメントカウンタであり、「有利区間」に滞在し得る最大ゲーム数である1500が初期値としてセットされ、「有利区間」である期間にて毎ゲーム減算され得るカウンタ）のカウンタ値を1減算する。

【0104】

次に、ステップ3408で、主制御基板MのCPU100は、現在のATに関する状態は「AT中状態」であるか否かを判定する。ステップ3408でYesの場合、ステップ3410で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタ値を1減算する。次に、ステップ3412で、主制御基板MのCPU100は、ATに関する状態が高確率状態であるか否かを判定する。ステップ3412でYesの場合、ステップ3414で、主制御基板MのCPU100は、高確保障カウンタKHcのカウンタ値を1減算し、次の処理（ステップ1700の処理）に移行する。尚、ステップ3402、ステップ3408またはステップ3412でNoの場合にも、次の処理（ステップ1700の処理）に移行する。このように、第1実施形態においては、押し順ナビが表示し得るATに関する状態として「AT中状態」である場合には、毎ゲームATカウンタ値が減算されるが、「有利BB状態」、「有利BB内部中遊技」、「特化前兆状態」または「上乘せ特化状態」である場合には、ゲームが実行されてもATカウンタ値は減算されないよう構成されている。即ち、ATカウンタ値が残存している（1以上残っている）状況にて「AT中状態」から「

特化前兆状態」に移行した場合には、ATカウンタ値を維持したまま、「AT中状態」→「特化前兆状態」→「上乗せ特化状態」と遷移（移行）することができるように構成されている。尚、ATに関する状態が「AT中状態」であっても、その遊技でボーナス役を含む当選番号が決定された場合に、ATカウンタ値を1減算しないようにすることができる。このとき、例えば、主制御基板MのRAMに記憶されるATカウンタ値は減算しないが、副制御基板Sによって制御される演出表示装置S40に表示される残りATゲーム数は減算するように表示を制御しても良い。例えば、ATカウンタ値が「30」で、演出表示装置S40に表示されている残りAT残りゲーム数が「30」のときに遊技が実行され且つボーナスが当選した場合、ATカウンタ値は「30」を維持、または当該遊技に係るAT上乗せ抽選により得られた値「 α 」を加算した値である「 $30 + \alpha$ 」を記憶するが、スタートレバーD50の操作を契機に、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数として「29」、またはAT上乗せ抽選により得られた値「 α 」を加算した値である「 $29 + \alpha$ 」を表示しても良い（尚、上乗せ抽選により得られた「 α 」は、当該遊技で報知せずに、当該遊技以降の特定の遊技（ボーナス遊技開始時、ボーナス遊技中、ボーナス遊技終了時、またはボーナス遊技終了後から所定の条件を満たした遊技）において「 α 」を報知しても良い）。そして、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数は、「有利BB内部中遊技」においても遊技毎に1ずつ減算し、ボーナス確定を示唆する演出（例えば、ボーナス確定画面）を出力するまでAT残りゲーム数が遊技毎に減算されるように構成することができる。このように構成することによって、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得る状態にてボーナスに当選した場合において、ボーナス当選を遊技者に直ぐに把握されないようにすることができる。つまり、ボーナス役を含む当選番号が決定された後に、ボーナスに当選したか否かを煽る複数遊技に亘る連続演出を演出表示装置S40等を用いて実行し、遊技の興趣を高めることができる。尚、ボーナス遊技が終了した後に演出表示装置S40に表示されるATの残りゲーム数は「30」またはAT上乗せ抽選の結果上乗せに当選し上乗せした結果を報知する場合は、「30」以上の値を表示するように制御するようにすることができる。尚、ATカウンタ値が「1」で、且つ演出表示装置S40に表示されている残りATゲーム数が「1」のときに遊技が実行されボーナスが当選した場合、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数に係る表示は「0」となるが、この状態を維持したまま、ボーナスに当選したか否かを煽る複数遊技に亘る連続演出を実行し、ATカウンタ値が「1」で、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数が「1」のときに遊技が実行され且つAT上乗せ抽選が実行され得る当選番号（または入賞・再遊技当選情報、または出玉グループ番号）が当選し、且つ、AT上乗せ抽選に当選しなかった場合には、ATゲーム数が「0」となるとともに演出表示装置S40に表示されているATゲーム数は「0」となる。また、AT残りゲーム数が少ない場合には、AT残りゲーム数が多い場合よりも連続演出を実行する確率を低く（0%も含む）設定するように構成しても良い。

10

20

30

40

50

【0105】

次に、図27は、第1実施形態における、図18のステップ1700のサブルーチンに係る、RT状態移行制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1702で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにてRT状態移行可能条件が充足したか否かを判定する。ここで、第1実施形態においては、RT状態移行可能条件は、RAMクリアの実行（RAMの初期化）、再遊技の停止表示（本例では、再遊技04の停止表示）、BBの当選・開始・終了にて充足し得るよう構成されている。ステップ1702でYesの場合、ステップ1704で、主制御基板MのCPU100は、当該充足したRT状態移行可能条件に基づきRT状態移行可否および次ゲーム以降のRT状態を決定し（図28のRT状態遷移図を参照）、次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。尚、ステップ1702でNoの場合にも次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。尚、第1実施形態においては、全リールの停止後にRT状態移行制御処理を実行しているが、「RT1」に移行する場合には当該移行タイミングはレバーオン時に移行しても良い。RT状態を移行する（RT番号をRAMに記憶する）タイミングは、適宜定めることができる。

【0106】

次に、図28は、第1実施形態における、RT状態遷移図である。第1実施形態においては、「RT0」～「RT2」および「1種BB-A, B, C」の4つのRT状態が存在しており、図中の矢印に示される条件を満たすことによってRT状態が移行することとなる。RT状態の具体的な移行例としては、RT状態が「RT1」である場合に、RAM初期化が実行される、または、再遊技04が停止表示された場合に「RT0」に移行する。再遊技04が停止表示とは、具体的には、RT状態が「RT1」である状況にて「再遊技-D1」に当選した場合に、第一停止として左停止ボタンを操作した場合には、再遊技01～03が停止表示し、RT状態として「RT1」が維持される。一方、RT状態が「RT1」である状況にて「再遊技-D1」に当選した場合に、第一停止として中停止ボタンまたは右停止ボタンを操作した場合には、再遊技04が停止表示し、RT状態は「RT1」から「RT0」に移行する。

10

【0107】

また、RT状態が「RT0」または「RT1」の場合に、BB役に当選し、当該当選したゲームにてBB役を入賞させない（1種BB-A, B, Cに係る条件装置が作動する）とRT状態が「RT2」に移行する。また、「RT2」にてBB役を入賞させる（1種BB-A, B, Cが作動する）と「1種BB-A, B, C」に移行する。また、「1種BB-A, B, C」にてBBが終了（1種BB-A, B, Cの作動が終了）すると「RT1」に移行する。尚、ATに関する状態が「低確率状態」である場合にBBに当選し、BBが終了した場合には、RT状態は遊技者にとって高利益な「RT1」に移行することとなるが、ATに関する状態は押し順ナビが発生しない状態であるため、「再遊技-D1～D3」に当選した際に不正解の押し順（第1停止が左ボタン、中ボタン、右ボタンの3択であり、3択のうち1つが正解の押し順であり再遊技04以外の再遊技が停止表示され、3択のうち2つが不正解の押し順であり再遊技04が停止表示される）にてリールを停止させることにより再遊技04が停止表示してしまい、「RT1」から「RT0」に移行することとなる。また、ATに関する状態が「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」または「上乘せ特化状態」である場合にBBに当選し、BBが終了した場合には、RT状態は遊技者にとって高利益な「RT1」に移行することとなると共に、ATに関する状態は押し順ナビが発生する状態であり、「再遊技-D1～D3」に当選した際にも、再遊技04が停止表示しない正解の押し順をナビしてくれるため、「RT1」を維持することができることとなる。

20

30

【0108】

次に、図29は、第1実施形態における、図18のステップ1750のサブルーチンに係る、AT状態開始制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1752で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにてAT状態移行可能条件が充足したか否かを判定する。尚、AT状態移行可能条件とは、例えば、（1）「高確率状態」にて当選した設定差なしBBが終了した場合、（2）継続抽選に当選した場合、（3）復活抽選に当選した場合に充足する。ステップ1752でYesの場合、ステップ1754で、主制御基板MのCPU100は、新たに「AT前兆状態」に移行したことを契機として、AT初期ゲーム数（本例では、50であり、「AT中状態」に移行した後から減算が開始されるゲーム数）をATカウンタM60にセットし、ステップ1756に移行する。尚、ステップ1752でNoの場合にも、ステップ1756に移行する。次にステップ1756で、主制御基板MのCPU100は、現在のATに関する状態は高確率状態ではないか否かを判定する。ステップ1756でYesの場合、ステップ1758で、主制御基板MのCPU100は、次のゲームのATに関する状態は高確率状態であるか否かを判定する。ステップ1758でYesの場合、ステップ1760で、主制御基板MのCPU100は、高確保障ゲーム数（本例では、10）を高確保障カウンタにセットし、次の処理（ステップ3500の処理）に移行する。尚、ステップ1756またはステップ1758でNoの場合にも、次の処理（ステップ3500の処理）に移行する。尚、「高確率状態」にてBBに当選し「有利BB内部中遊技」に移行した後、BBを入賞させることにより「有

40

50

利BB状態」に移行し、当該「有利BB状態」にてATゲーム数が上乗せされた場合には、BBが終了し「有利BB状態」から「AT中状態」に移行した時点で、ATカウンタにセットされる初期値は50を超過していることとなる。具体的には、「有利BB状態」でATゲーム数が30ゲーム上乗せされた後、「AT中状態」に移行した場合には、ATカウンタに80（初期値50＋上乗せ30）がセットされることになる。このとき、「有利BB状態」において30ゲーム上乗せされたことを遊技者に報知する演出を行った場合、「AT中状態」の開始時に、AT初期ゲーム数として80ゲームである旨を遊技者に報知するのが望ましいが、別の報知方法として、あえて、「有利BB状態」において30ゲーム上乗せされたことを遊技者に報知する演出を行わずに、「AT中状態」の開始時に初期値である50ゲームを遊技者に提示した後、AT中（例えば、「AT中状態」の開始直後や、演出表示装置S40におけるAT残りゲーム数が少ない状態）に30ゲーム上乗せされたことを遊技者に報知する演出を行う報知方法も考えられる。このようにすることで、遊技者は「有利BB状態」でATゲーム数上乗せが行われたのか、または、何ゲームのゲーム数上乗せが行われたのか、を明確に把握することができないため、AT中（押し順ナビが発生し得る状態）にて原因不明で突如発生する上乗せ演出に対する興味を高めることができる。尚、本例においては、ステップ1754にてAT初期ゲーム数をATカウンタM60にセットするよう構成しているが、AT初期ゲーム数をセットする処理の実行タイミングは本例のものには限定されず、前述したステップ1400のAT状態移行制御処理を実行するタイミングにAT初期ゲーム数をATカウンタM60にセットするよう構成してもよい。また、ATカウンタM60にセットされたゲーム数（AT初期ゲーム数）は、BBが終了した後の遊技（ATに関する状態が「AT中状態」）になったときから減算されるよう構成されている（BB中には減算開始しない）。また、ATカウンタM60のカウント値は主制御基板MのRAMの記憶領域に記憶されるよう構成されている。

10

20

【0109】

次に、図30は、第1実施形態における、AT状態遷移図である。第1実施形態においては、「低確率状態」、「通常BB内部中遊技」、「通常BB状態」、「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」、「有利BB内部中遊技」、「有利BB状態」、「復活可否演出用状態」の10個のATに関する状態が存在しており、図中の矢印に示される条件を満たすことによってATに関する状態が移行することとなる。例えば、「AT中状態」にてスイカBに当選し、1／2で当選する特化状態移行抽選に当選した場合には「特化前兆状態」に移行する。また、「特化前兆状態」に移行してから10ゲームが経過（消化）した場合には「上乗せ特化状態」に移行するよう構成されている。尚、遊技区間としては、「低確率状態」、「通常BB内部中遊技」、「通常BB状態」の3つのATに関する状態が「通常区間」に設定され、「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」、「有利BB内部中遊技」、「有利BB状態」、「復活可否演出用状態」の7つのATに関する状態が「有利区間」に設定される。即ち、「有利区間」となる7つのATに関する状態を遷移（移行）していても、「通常区間」に設定せずに1500ゲーム経過した場合には「有利区間」は強制的に終了して「通常区間」に設定される。また、押し順ナビが表示される報知遊技状態である「AT中状態」、「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」である場合に、再遊技04が停止表示された場合であっても、遊技状態は維持される。

30

40

【0110】

尚、前述したように、「AT中状態」である場合に、ATカウンタM60のカウント値が0であり且つ継続抽選非当選の場合には、「復活可否演出用状態」となる。「復活可否演出用状態」で復活抽選に当選した場合には、再び「AT中状態」に戻ることができる。一方、「復活可否演出用状態」で復活抽選に当選しなかった場合には、「低確率状態」に移行し、「有利区間」から「通常区間」になる。

【0111】

「高確率状態」にて設定差なしBB（1種BB-Aまたは1種BB-C）に当選し、設定差なしBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときには、「AT中状態」に移行す

50

る。また、「A T 中状態」に設定差なし B B (1 種 B B - A または 1 種 B B - C) に当選し、設定差なし B B が作動し、「有利 B B 状態」が終了したときにも、「A T 中状態」に移行する。尚、「復活可否演出用状態」にて設定差なし B B (1 種 B B - A または 1 種 B B - C) に当選し、設定差なし B B が作動し、「有利 B B 状態」が終了したときにも「A T 中状態」に移行する(復活抽選に当選するため)。尚、「復活可否演出用状態」にて設定差あり B B (1 種 B B - B) に当選し、設定差あり B B が作動し、「有利 B B 状態」が終了したときには、設定差あり B B が単独の B B 役に係る当選番号(当選番号 20)であった場合には B B 終了後に「低確率状態」となり(設定差あり B B 役を契機として復活抽選に当選しないため)、設定差あり B B がレア役と重複している当選番号(当選番号 21 ~ 23)であった場合には B B 終了後に「A T 中状態」となる(レア役を契機として復活抽選に当選するため)。

10

【0112】

また、「有利区間」で且つ「高確率状態」である場合に設定差あり B B (1 種 B B - B) に当選し、設定差あり B B が作動し、「有利 B B 状態」が終了したときには、「高確率状態」に移行する。

【0113】

また、「有利 B B 状態」の終了後に移行する A T に関する状態は、A T 中(「A T 中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」)にて当選した B B 終了後(設定差あり B B と設定差なし B B とのいずれも)には「A T 中状態」、「特化前兆状態」または「上乗せ特化状態」のうち B B 当選時の A T に関する状態に移行し、非 A T 中(「高確率状態」)にて当選した設定差なし B B 終了後には、「A T 中状態」に移行する。また、非 A T 中(「高確率状態」)にて当選した設定差あり B B 終了後には、「高確率状態」に移行する。

20

【0114】

尚、A T に関する状態は第 1 実施形態のものには限定されず、例えば、「低確率状態」または「高確率状態」にて所定の当選番号に当選することによって A T 抽選が実行され、当該 A T 抽選に当選することにより「前兆状態」に移行し、16 ~ 32 ゲーム経過後に「A T 中状態」に移行するよう構成してもよいし、そのように構成した場合には、前記所定の条件装置に当選することによって A T 抽選が実行され、当該 A T 抽選に当選しなかった場合には、「ガセ前兆状態」に移行し、16 ~ 32 ゲーム経過後に「低確率状態」または「高確率状態」に移行するよう構成してもよい。また、遊技区間として「有利区間」とも「通常区間」とも異なる「待機区間」を設けてもよく、例えば、「チェリー」に当選することによって A T 抽選が実行される遊技性とした場合に、B B とチェリーが重複した「B B + チェリー」に当選し、A T 抽選に当選した場合には、「B B + チェリー」の「B B」が入賞するまでの B B 内部中の状態を「待機区間」とするよう構成してもよい。このように、「待機区間」を設けることにより、「低確率状態」にて B B に当選、且つ、A T 抽選に非当選である場合と、「低確率状態」にて B B に当選、且つ、A T 抽選に当選している場合とで、B B の図柄組み合わせが揃うまで(有利区間表示器が点灯するまで)の期間においては、有利区間表示器 Y H が消灯しているため、A T 抽選に当選しているか否かを遊技者に対して煽ることができる。また、「上乗せ特化状態」において B B が当選した場合には、当該 B B 終了後に「上乗せ特化状態」が再開するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、当該 B B 中は「上乗せ特化状態」において当選した B B として「A T 中状態」にて当選した B B よりも A T 上乗せ抽選に当選し易い、A T ゲーム数上乗せ 1 回あたりのゲーム数が相対的に多い)よう構成してもよい。また、「特化前兆状態」において B B が当選した場合には、当該 B B 終了後に「上乗せ特化状態」に移行するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、当該 B B 中は「上乗せ特化状態」において当選した B B と同様に A T 上乗せ抽選が実行されるよう構成してもよい。

30

40

【0115】

次に、図 31 は、第 1 実施形態における、図 18 のステップ 3500 のサブルーチンに

50

係る、遊技区間移行制御処理のフローチャートである。はじめに、第1実施形態においては、遊技の状態に係る区間として遊技区間を有しており、遊技区間としては、相対的に遊技者にとって低利益な「通常区間」と、相対的に遊技者にとって高利益な区間である「有利区間」と、の2つの遊技区間を有している。フローチャートの説明としては、まず、ステップ3508で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係る遊技区間は「通常区間」であるか否かを判定する。ステップ3508でYesの場合、ステップ3510で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降の遊技区間を現在のATに関する状態および現在の遊技の状況に対応する遊技区間に決定し、ステップ3528に移行する。他方、ステップ3508でNoの場合、換言すると遊技区間が「有利区間」である場合、ステップ3514で、主制御基板MのCPU100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウンタ値が0であるか否か、換言すると、「有利区間」が継続可能な最大ゲーム数に到達したか否かを判定する。ステップ3514でYesの場合、ステップ3515で、主制御基板MのCPU100は、ATに関連する情報をすべてクリアする（それにより、ATカウンタ値が0となり、「特化前兆状態」の滞在ゲーム数といったものも0となる）。他方、ステップ3514でNoの場合、ステップ3518で、主制御基板MのCPU100は、任意の有利区間終了条件を充足していないか否かを判定する。ここで、任意の有利区間終了条件とは、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウンタ値が0となった場合以外の「有利区間」の終了条件であり、例えば、ATカウンタ値が0となった場合や、押し順ナビが所定回数実行された場合等となっている。ステップ3518でNoの場合、即ち、任意の有利区間終了条件を充足した場合にはステップ3515に移行する。このように、第1実施形態においては、「有利区間」が終了して次ゲーム以降に「通常区間」に設定する場合には、ATに関連する情報（AT継続ゲーム数、AT残りゲーム数、等に係る情報）をすべてクリアするので、以降の「通常区間」において再度「有利区間」となる際の条件が緩和されることがなくなる。尚、ステップ3515の処理（有利区間終了時の処理）によりクリアするATに関連する情報としては、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウンタ値、遊技状態を示すフラグ等がある。また、これらの情報は設定変更時のRAMクリアによってもクリアされることとなるが、設定変更時のRAMクリアによつては、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」、「貯留枚数」等に係る情報もクリアするのに対し、ステップ3515の処理（有利区間終了時の処理）によつては、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」、「貯留枚数」等に係る情報はクリアされない。このように、設定変更時のRAMクリア範囲と「有利区間」終了時（例えば、ステップ3515の処理実行時）のクリア範囲は相違している。尚、設定変更時のRAMクリアによつて、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」を保持するように構成していても良い。また、「有利区間」終了時にクリアする範囲のアドレスは連続している。このように「有利区間」終了時にクリアする範囲のアドレスを連続させることにより、クリア処理時にクリアする先頭アドレスと、クリアするアドレスの範囲を指定するという簡易的な処理でクリアすることができる。また、「有利区間」が終了した場合には、「有利区間」が終了した旨に係るコマンドを主制御基板Mから副制御基板Sに送信する。但し、副制御基板S側は当該コマンドを受信しても、「有利区間」であった旨や、「AT中状態」を何ゲーム実行したかに係る情報等の遊技履歴は消去しないよう構成されている。但し、設定変更時のRAMクリアを実行した場合には、副制御基板S側における、「有利区間」であった旨や、「AT中状態」を何ゲーム実行したかに係る情報等の遊技履歴も消去されることとなる。

10

20

30

40

50

【0116】

尚、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウンタ値が0となったために「有利区間」が終了した場合には、（1）現在のATに関する状態が「高確率状態」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「低確率状態」となる、（2）現在のATに関する状態が「有利BB内部中遊技」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「通常BB内部中遊技」となる、（3）現在のATに関する状態が「有利BB状態」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「通常BB状態」となる、（4）現在の

A Tに関する状態が「A T中状態」、「特化前兆状態」、「上乘せ特化状態」または「復活可否演出用状態」であった場合には、次ゲームにてA Tに関する状態が「低確率状態」となるよう構成されている（A Tに関連する情報がクリアされるため）。

【0117】

次に、ステップ3516で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降の遊技区間を「通常区間」に設定する。次に、ステップ3517で、主制御基板MのCPU100は、「有利区間」が終了したため有利区間表示器YHを消灯し、ステップ3528に移行する。尚、「有利区間」が終了して「通常区間」に設定する際に有利区間表示器YHを消灯するよう構成されているが、詳細な消灯のタイミングは第1実施形態のタイミングには限定されず、例えば、「有利区間」が終了して「通常区間」となるゲームに係る遊技メ
10
ダル投入時に有利区間表示器YHを消灯するよう構成してもよい。換言すると、次遊技が開始可能となるスタートレバーD50が操作される前に有利区間表示器YHを消灯するよう構成していれば良い。他方、ステップ3518でYesの場合、ステップ3520で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降の遊技区間を「有利区間」に決定し、ステップ3528に移行する。

【0118】

次に、ステップ3528で、主制御基板MのCPU100は、次ゲームにて新たに「有利区間」に設定することが決定した（「通常区間」から「有利区間」に設定することが決定した）か否かを判定する。ステップ3528でYesの場合、ステップ3530で、主制御基板MのCPU100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1に所定値を
20
セットする。尚、当該有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1にセットする所定値は、すべての設定値において共通する固定の数値（本例では、1500）となっている。次に、ステップ3534で、主制御基板MのCPU100は、有利区間表示器YHを点灯し、次の処理（ステップ1293の処理）に移行する。尚、ステップ3528でNoの場合にも、次の処理（ステップ1293の処理）に移行する。尚、第1実施形態においては、ステップ3534のタイミングにて有利区間表示器YHの点灯処理を実行したが、有利区間表示器YHの点灯タイミングはこれには限定されず、有利区間表示器YHの点灯タイミ
30
ングは新たに「有利区間」となる前のゲーム（「通常区間」のゲーム）におけるスタートレバーの操作タイミングから新たに「有利区間」となるゲームにおける遊技メダル投入可能となるタイミングまで（新たに「有利区間」となる前のゲームが再遊技に係るゲームであった場合には、新たに「有利区間」となるゲームにおけるスタートレバーの操作が有効となるタイミングまで）の期間にて適宜設定してもよい。

【0119】

次に、図32は、第1実施形態におけるステップ1600のサブルーチンに係る、タイマ割り込み時処理のフローチャートである。当該サブルーチンの処理は、ステップ1040またはステップ1104の処理にて、タイマ割り込みが開始された場合に実行開始され、以降、所定時間（本例では、Tとしているが、例えば、2.235ms程度の時間が設定される）を周期として定期的に行われるよう構成されている。

【0120】

まず、ステップ1602で、主制御基板MのCPU100は、割り込み開始時の処理（例えば、CPU100内のレジスタで保持されているデータの退避、電源断検知信号の入力ポートチェック等）を実行する。次に、ステップ1604で、主制御基板MのCPU100は、現在（今回の割り込み処理にて）電源断を検知していないか否かを判定する。ステップ1604でNoの場合、ステップ1900で、主制御基板MのCPU100は、後述する、電源断時処理を実行する。他方、ステップ1604でYesの場合、ステップ1606で、主制御基板MのCPU100は、タイマ計測（ソフトウェアで管理する各種タイマの更新処理）を開始する。次に、ステップ1608で、主制御基板MのCPU100は、入力ポートデータを生成して、当該データを記憶する（RAM領域内の各入力ポートデータの格納領域を更新する）。ここで、入力ポートデータとは、精算ボタ
40
ンD60、スタートレバーD50、停止ボタンD40、扉スイッチD80、設定キースイ
50

ッチM20、設定／リセットボタンM30、電源断検知信号、投入受付センサD10s、第1投入センサD20s、第2投入センサD30s、第1払出センサH10s、第2払出センサH20s、等の検出に係る情報である（即ち、これらの操作部材での操作有無やセンサ検知状態が、割り込み間隔Tでサンプリングされる）。

【0121】

次に、ステップ1610で、主制御基板MのCPU100は、RAM領域内の入力ポートデータを参照し、各入力ポートデータのサンプリング結果に応じて、扉スイッチフラグ、設定キースイッチフラグのオン・オフを切り替える（例えば、扉スイッチD80のスイッチ状態が複数回のサンプリングに亘って連続してオンである場合に、扉スイッチフラグをオンとすることで、ノイズの影響を受けることなく前扉DUが開状態であることを検出することもできる）。次に、ステップ6100で、主制御基板MのCPU100は、全リール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）の回胴駆動制御処理（リールM50の駆動の制御に係る処理であり、詳細は後述する）を実行する。次に、ステップ1612で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタM60を参照し、当該カウンタ値が0より大きいかなかを判定する。ステップ1612でYesの場合、ステップ1613で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタ値表示装置D280にてAT残りゲーム数（ATゲーム数）を表示し、ステップ1614に移行する。尚、ステップ1612でNoの場合にもステップ1614に移行する。尚、主制御基板Mで制御されるATカウンタ値表示装置D280を備えていない場合には、ステップ1612およびステップ1613の処理は不要である。次に、ステップ1614で、主制御基板MのCPU100は、出力データを出力ポートに出力する。ここで、出力データとは、リールM50、ブロックD100、等を駆動するためのデータである。次に、ステップ1616で、主制御基板MのCPU100は、すべてのエラーフラグがオフ（不図示であるが、投入メダル逆流エラーフラグ、投入枚数エラーフラグ、投入メダル滞留エラーフラグ、投入異常エラーフラグ、払出異常エラーフラグ、払出メダル滞留エラーフラグ、扉スイッチフラグ、等のエラーに係るフラグが全てオフ）であるかなかを判定する。ステップ1616でYesの場合、ステップ1618で、主制御基板MのCPU100は、エラー未検出コマンド（サブ側へのコマンドであり、エラーが検出されていない旨に係るコマンド）をセットし（例えば、レジスタ領域内にセットし）、ステップ1622に移行する。他方、ステップ1616でNoの場合、ステップ1620で、主制御基板MのCPU100は、エラー検出コマンド（サブ側へのコマンドであり、エラーが検出されている旨に係るコマンド）をセットし（例えば、レジスタ領域内にセットし）、ステップ1622に移行する。尚、ステップ1620においては、オンとなっているエラーフラグに対応したエラー（現在発生しているエラー）に係る情報がサブ側に送信されるよう構成されている。また、エラー未検出コマンドはエラーが発生していた状態からエラーが解除された場合にのみ（フラグがオフになったと判定された場合にのみ）セットしても良いし、エラー未検出のときには当該情報のセット処理を実行しなくても良い（ステップ1618が無くて良い）。更に、エラー検出コマンドはエラーが発生していない状態からエラーが発生した場合にのみセット処理を実行しても良いし、第1のエラー（例えば、投入メダル滞留エラー）が発生している状態から第2のエラー（例えば、払出メダル滞留エラー）のようにエラーの種類が変わった場合にセット処理を実行してもよい。

【0122】

次に、ステップ1622で、主制御基板MのCPU100は、制御コマンド（サブ側のコマンド）を送信する（例えば、ステップ1618やステップ1620でレジスタ領域内にセットされている場合には、そのセットされた制御コマンドを送信することとなる）。ここで、副制御基板Sに送信するコマンドとして、スタートレバー操作タイミングに係るコマンド（スタートレバー操作直後に送信される）、第1リール停止受付タイミングに係るコマンド（第1停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、第2リール停止受付タイミングに係るコマンド（第2停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、第3リール停止受付タイミングに係るコマンド（第3停止として停止ボタンを操作

した直後に送信される)、全リールが停止した直後に送信される)、停止表示図柄の停止タイミングに係るコマンド(表示図柄停止として停止ボタンを操作した直後に送信される)、入賞・再遊技当選情報に係るコマンド(スタートレバー操作直後に送信される(有利区間中に限る))、ボーナス当選情報に係るコマンド(スタートレバー操作直後に送信される)、RT状態に係るコマンド(全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される)、ATに関する状態に係るコマンド(全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される)、高確保障カウンタ値コマンド(スタートレバー操作直後に送信される)、AT残りゲーム数に係るコマンド(全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間、または、スタートレバー操作直後に送信される)、遊技区間に関するコマンド(全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される)、等がある。次に、ステップ1624で、主制御基板MのCPU100は、外部端子信号(回胴式遊技機Pから外部のホールコンピュータ等へ情報伝達するための信号)を出力する。尚、当該外部信号にて出力されるエラーに係る情報としては、不図示であるが、ドア開放エラー、投入異常エラー、払出異常エラー、投入受付センサ滞留エラー、等が出力される。尚、ドア開放エラーは、前扉DUが開放されドアスイッチフラグがオンとなった場合にエラーとなるよう構成されており、投入受付センサ滞留エラーは投入受付センサが遊技メダルの滞留を検出した場合にエラーとなるよう構成されている。次に、ステップ1626で、主制御基板MのCPU100は、LED(7セグLEDランプ、等)の出力データ(例えば、複数の7セグLEDユニットのうち、所定の7セグLEDユニットを点灯させ、7セグの所定のセグメントを点灯させる)を出力する(所謂、ダイナミック点灯)。次に、ステップ1628で、主制御基板MのCPU100は、LEDの点灯態様(例えば、LEDの点灯色を変更)を実行する。尚、ステップ1628は実行されなくてもよい。次に、ステップ1630で、主制御基板MのCPU100は、ソフト乱数管理処理(ソフトウェアで管理する乱数値の更新処理等)を実行する。次に、ステップ1632で、主制御基板MのCPU100は、内部情報レジスタデータを取得する(内部情報レジスタには、乱数発生回路に異常が出ると異常フラグ用ビットが立つ領域が存在している)。次に、ステップ1634で、主制御基板MのCPU100は、乱数更新用クロックの周波数は正常であるか否か(当該周波数異常を示す異常フラグ用ビットが立っていないか否か)を判定する。具体的には、乱数更新用クロックの周波数が所定値を下回った場合に異常フラグビットが立つ。ステップ1634でYesの場合、ステップ1636で、主制御基板MのCPU100は、内蔵乱数の更新状態は正常であるか否か(当該更新状態異常を示す異常フラグ用ビットが立っていないか否か)を判定する。ステップ1636でYesの場合、ステップ1638で、主制御基板MのCPU100は、割り込み終了処理を実行し、次の処理(ステップ1602の処理)に移行する。他方、ステップ1634またはステップ1636でNoの場合には、ステップ1640で、主制御基板MのCPU100は、内蔵乱数エラー表示をセットする(例えば、レジスタ領域内にエラー番号をセットする)。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPU100は、前述した、復帰不可能エラー処理を実行する。

【0123】

次に、図33は、第1実施形態における、図32のステップ6100のサブルーチンに係る、回胴駆動制御処理のフローチャートである。尚、本処理においては、1つのリールについての処理を例示しているが、左リールM51、中リールM52、右リールM53のそれぞれに対応する処理を実行することを補足しておく。まず、ステップ6102で、主制御基板MのCPUMCは、リール回転開始待機状態開始タイミング(例えば、図25のステップ1564の処理の実行後のタイミング)に到達したか否かを判定する。ステップ6102でYesの場合、ステップ6104で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール回転開始待機状態に更新し、ステップ6106に移行する。他方、ステップ6102でNoの場合にもステップ6106に移行する。

【0124】

次に、ステップ6106で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速状態開始タイミ

ング（リール回転開始待機状態が終了し、リールの加速処理を実行開始するタイミングであり、例えば、図18のステップ1260の処理の実行タイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6106でYesの場合、ステップ6108で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール加速状態に更新する。次に、ステップ6110で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速処理を実行し、ステップ6112に移行する。尚、リールが停止している場合には、本処理によってリールの回転が開始することとなる。他方、ステップ6106でNoの場合にも、ステップ6112に移行する。

【0125】

次に、ステップ6112で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態はリール加速状態であるか否かを判定する。ステップ6112でYesの場合、ステップ6114で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速状態の終了タイミング（例えば、後述する図35におけるリール加速状態における「割り込み実行回数」分の割り込み処理をすべて実行したタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6114でYesの場合、ステップ6116で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール定速状態に更新する。次に、ステップ6118で、主制御基板MのCPUMCは、リール定速維持処理を実行し、ステップ6120に移行する。尚、ステップ6112またはステップ6114でNoの場合にも、ステップ6120に移行する。

【0126】

次に、ステップ6120で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態はリール定速状態であるか否かを判定する。ステップ6120でYesの場合、ステップ6122で、主制御基板MのCPUMCは、リール定速状態となってから（ステップ6116の処理を実行してから）、リールセンサがリール（本サブルーチンの処理に対応するリール）に設けられたインデックスを検出したか否かを判定する。ここで、不図示であるが、各リールには、1個（2個以上であってもよい）のインデックスが設けられている。インデックスは、リールの例えば周側面に凸状に設けられており、リールが所定位置を通過したか否かや、1回転したか否か等を検出するときに用いられる。そして、各インデックスは、リールセンサにより検知される。リールセンサの信号は、主制御基板Mに電氣的に接続されている。そして、リールセンサがインデックスを検出する（切る）と、その入力信号が主制御基板Mに入力され、そのリールが所定位置を通過したことが検知されるよう構成されている。ステップ6122でYesの場合、リールの回転速度が定速になったと判定し、ステップ6130の処理に移行する。他方、ステップ6122でNoの場合、ステップ6124で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態がリール定速状態となってから所定時間（例えば、割り込み処理を400回実行する時間値）が経過したか否かを判定する。ステップ6124でNoの場合には、リールの回転速度が定速になったと判定し、ステップ6130の処理に移行する。このように、本例においては、リール駆動状態がリール定速状態となってから所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出することでリール回転速度が正常に定速になっているかを判定可能に構成されている。尚、前記所定時間は、本例では割り込み処理400回を実行する時間値となっており（割り込み処理400回で400ステップ回転できるよう構成されている）、リール回転速度が定速である場合にリールが1回転（1周）する時間（例えば、リール1回転分は336ステップであり、割り込み処理を336回実行する時間値）よりも長時間となっている。このように構成することにより、リール駆動状態が定速状態となったタイミングにおけるインデックスとリールセンサとの距離（リールが回転してインデックスがリールセンサに検出されるまでの距離）がどれだけ離れていても、リール回転速度が定速であった場合には、リール駆動状態がリール定速状態となってから前記所定時間以内（割り込み処理を400回実行する時間値）にインデックスをリールセンサが検出することができるよう構成されている。

【0127】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ6124でYesの場合、ステップ6126で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール加速状態に更新する。次に

、ステップ6128で、主制御基板MのCPUMCは、リール再加速処理を実行し、ステップ6130の処理に移行する。このように、本例においては、リール駆動状態がリール定速状態になってから所定時間（例えば、割り込み処理を400回実行する時間値）以内にリールセンサがインデックスを検出しなかった場合には、リール駆動状態をリール加速状態に再度更新し、リール再加速処理（ステッピングモータの励磁態様はリール加速処理と同様となっている）を実行するよう構成されている。尚、ステップ6120でNoの場合にも、ステップ6130の処理に移行することとなる。尚、リール再加速処理は前述したリール加速処理と同一の処理としなくともよく、リール再加速処理とリール加速処理とで、ステッピングモータの励磁する相の組み合わせや励磁する相の組み合わせ毎の割り込み処理の実行回数を相違させてもよい。

10

【0128】

次に、図34は、第1実施形態における、図32のステップ6200のサブルーチンに係る、リール回転停止処理のフローチャートである。まず、ステップ6106で、主制御基板MのCPUMCは、リール減速待機状態開始タイミング（リール定速状態が終了するタイミングであり、例えば、停止ボタンが操作されることによってリール減速待機状態開始タイミングとなったと判定する）に到達したか否かを判定する。ステップ6130でYesの場合、ステップ6132で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール減速待機状態に更新し、ステップ6134に移行する。他方、ステップ6130でNoの場合にも、ステップ6134に移行する。

【0129】

20

次に、ステップ6134で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態は、リール減速待機状態であるか否かを判定する。ステップ6136でYesの場合、主制御基板MのCPUMCは、リール減速待機状態終了タイミング（リール減速処理を実行開始するタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6136でYesの場合、ステップ6138で、主制御基板MのCPUMCは、リールの減速（リール減速処理）を開始する。次に、ステップ6140で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール減速状態に更新し、ステップ6142の処理に移行する。尚、ステップ6134またはステップ6136でNoの場合にも、ステップ6142の処理に移行する。

【0130】

次に、ステップ6142で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態はリール減速状態であるか否かを判定する。ステップ6142でYesの場合、ステップ6144で、主制御基板MのCPUMCは、リール減速状態終了タイミング（リール減速処理を実行終了するタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6144でYesの場合、ステップ6146で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール停止状態に更新し、次の処理（ステップ1612の処理）に移行する。尚、ステップ6142またはステップ6144でNoの場合にも、次の処理（ステップ1612の処理）に移行する。

30

【0131】

次に、図35を用いて、本例に係る回胴式遊技機のリールM50の回転動作について詳述する。本例に係る回胴式遊技機は、スタートレバーD50が操作されたことに基づいてステッピングモータの回転を開始し、リールの回転速度が定速に達すると、以下、定速を維持する（リール駆動状態がリール定速状態となるとリール定速維持処理を実行するが、実際に回転速度が定速に達していない場合もある）。そして、いずれかの停止ボタンが操作されると、操作された停止ボタンに対応するリール（ステッピングモータ）について停止制御を行う。ここで、ステッピングモータは、Φ0、Φ1、Φ2、Φ3という4つの相を有する4相ステッピングモータ（4相ステッピングモータでなくとも問題ない）であり、励磁する相を切り替え、ステッピングモータを1-2相励磁することで回転制御を行う。すなわち、駆動パルスデータ（励磁する相の組み合わせ）を循環的に変化させていくことで、ステッピングモータを正方向に回転させることができる。同図においては、Φ0～Φ3のうち、どの相を励磁するのかを指定している様を表すものを「励磁する相」の列に

40

50

示している（詳細は後述する）。

【0132】

また、同図上段の「リール回転速度イメージ」に示すように、ステッピングモータが回転開始してから停止するまでの駆動状態を6つに分け、各駆動状態に応じた駆動パターンに従って、ステッピングモータを駆動制御している。ここで駆動状態には、「リール停止状態」、「リール回転開始待機状態」、「リール加速状態」、「リール定速状態」、「リール減速待機状態」、「リール減速状態」がある。尚、「リール回転速度イメージ」においては、縦軸はリール回転速度であり上方向に速度が速くなってゆき、横軸は時間であり時間が右方向に時間が経過してゆくよう図示している。また、同図に示す一例は、リールの回転不良が発生しなかった場合を例示しており、リールを手で押さえる、脱調が発生する等の要因でリール回転不良が発生した場合はこの限りではない（リール回転不良が発生した場合については後述することとする）。

10

【0133】

「リール停止状態」は、リールが停止している状態を示すものであり、「リール停止状態」になっているときは、リールは静止した状態になっており、ステッピングモータの4相すべての相が励磁されていない状態になっている。

【0134】

次に、「リール停止状態」である状況にて、図中（1）のタイミングで、スタートレバーD50が操作されたことに基づいて、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」に更新される。ここで、「リール回転開始待機状態」は、スタートレバーD50が操作されてからステッピングモータの加速処理（リール加速処理）を開始するまで待機している状態を示すものである。この待機期間は、リール駆動状態が「リール停止状態」から「リール加速状態」へ移行するまでの期間になっている。例えば、前回の遊技でリールの駆動状態が「リール加速状態」になった時点からの時間を計時し、最小遊技時間（約4.1秒）経過前に今回の遊技に係るスタートレバーD50が操作された場合は、「リール回転開始待機状態」となる。

20

【0135】

次に、図中（2）のタイミングで、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」から「リール加速状態」に更新される。ここで、「リール加速状態」は、リールが静止している状態から定速に到達するためにリールを加速している状態である。本例では、タイマ割り込み処理を220回（「 $100 + 60 + 30 + 15 + 8 + 4 + 2 + 1 = 220$ 」であり、同図左下段のリール加速状態における割り込み実行回数を参照）実行すると加速状態が終了する（リール駆動状態を「リール定速状態」に更新する）よう構成されている。次に、図中（3）のタイミング、換言すると、「リール加速状態」があと1回のタイマ割り込み処理の実行により終了するタイミングで、リール回転速度が定速に到達する。尚、本タイミングでは、リール駆動状態は「リール加速状態」のままとなっている。次に、図中（4）のタイミングにて、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」から「リール加速状態」に更新されてから、タイマ割り込み処理が220回実行されたことにより、リール駆動状態が「リール定速状態」に更新される。このように、本例においては、リール回転速度が定速に到達した後に、タイマ割り込み処理1回分はリール駆動状態が「リール加速状態」のままになる、換言すると、「リール加速状態」における最終の励磁する相の組み合わせである「 $\phi 3$ 、 $\phi 0$ 」では割り込み処理を1回のみ実行するよう構成されており、励磁する相の組み合わせ毎に割り込み処理を1回実行する「リール定速状態」と同様の励磁態様となっている（リールの回転異常が発生しなかった場合）。このように構成することによって、リール回転速度が定速に到達するまでの加速処理を安定して実行することができる。

30

40

【0136】

ここで、同図下段は「ステップモータ励磁イメージ」である。同図においては、リール駆動状態が「リール加速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージと、リール駆動状態が「リール定速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージとを例

50

示する。まず、リール駆動状態が「リール加速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージを、同図左下段を参照して詳述する。尚、「励磁する相」は励磁する相の組み合わせであり、「割り込み実行回数」は、その励磁する相の組み合わせで励磁することとなる割り込み処理を実行する回数を示している。本例においては、リール加速処理を実行する際には、ステップモータ（ステッピングモータ）をタイマ割り込み処理 220 回分励磁するよう構成されており、（K A）「φ 0」にて割り込み処理を 100 回→（K B）「φ 0、φ 1」にて割り込み処理を 60 回→（K C）「φ 1」にて割り込み処理を 30 回→（K D）「φ 1、φ 2」にて割り込み処理を 15 回→（K E）「φ 2」にて割り込み処理を 8 回→（K F）「φ 2、φ 3」にて割り込み処理を 4 回→（K G）「φ 3」にて割り込み処理を 2 回→（K H）「φ 3、φ 0」にて割り込み処理を 1 回、のように割り込み処理を実行してステップモータ（ステッピングモータ）を励磁するよう構成されている（割り込み処理の実行回数はあくまで一例であり変更しても問題ない）。このように、本例においては、リール加速処理の実行時においては、1 の励磁する相の組み合わせにて割り込み処理を実行する回数を徐々に減少させていくよう構成されている。

10

【0137】

次に、リール駆動状態が「リール定速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージを、同図右下段を参照して詳述する。本例においては、リール定速状態である場合（リール定速維持処理を実行する際）には、（T A）「φ 0」にて割り込み処理を 1 回→（T B）「φ 0、φ 1」にて割り込み処理を 1 回→（T C）「φ 1」にて割り込み処理を 1 回→（T D）「φ 1、φ 2」にて割り込み処理を 1 回→（T E）「φ 2」にて割り込み処理を 1 回→（T F）「φ 2、φ 3」にて割り込み処理を 1 回→（T G）「φ 3」にて割り込み処理を 1 回→（T H）「φ 3、φ 0」にて割り込み処理を 1 回→（T A）「φ 0」にて割り込み処理を 1 回→（T B）「φ 0、φ 1」にて割り込み処理を 1 回→・・・、のように（T A）～（T G）を割り込み処理 1 回ずつ繰り返して実行してステップモータ（ステッピングモータ）を励磁するよう構成されている。このように、本例においては、リール定速維持処理の実行時においては、1 の励磁する相の組み合わせにて割り込み処理を実行する回数がすべて 1 回となるよう構成されている。

20

【0138】

次に、リール駆動状態が「リール定速状態」である状況にて、図中（5）のタイミングで、いずれかのリールに対応した停止ボタンが操作され、リール駆動状態が「リール減速待機状態」に更新される。ここで、「リール定速状態」は、リールの回転速度が定速になっている状態（励磁する相の組み合わせを 1 回の割り込み処理毎に切り替えている状態）であり、「リール減速待機状態」は、遊技者によって停止ボタンが操作されてから、停止制御を開始するまでの状態（リール減速待機状態においては、すべりコマ数に対応したリールのすべりが発生している）を示すものである。この駆動状態の期間は、停止ボタンの操作タイミングに基づいて定まる。

30

【0139】

次に、図中（6）のタイミングで、リール駆動状態が「リール減速待機状態」から「リール減速状態」に更新され、リールの減速が開始される。リール駆動状態が「リール減速待機状態」から「リール減速状態」に更新されると、リールの回転を停止すべくステッピングモータの特定の相を所定時間励磁し続けることとなり、一例としては、4 相全てを励磁する 4 相励磁を行う。そして、所定時間励磁を行うと、図中（7）のタイミングにて、リール駆動状態が「リール減速状態」から「リール停止状態」に更新され、リールが停止することとなる。

40

【0140】

上述したように、本例に係る回胴式遊技機は、リール駆動状態がリール定速状態になってから所定時間（例えば、割り込み処理を 400 回実行する時間値）以内にリールセンサがインデックスを検出しなかった場合には、リール駆動状態をリール加速状態に再度更新し、リール再加速処理（ステッピングモータの励磁態様はリール加速処理と同様となっている）を実行するよう構成されているため、リール駆動状態がリール加速状態である場合

50

、換言すると、リール加速処理の実行中にはリールの加速が正常に実行されたか否かを判定していない。また、リールの加速が正常に行われたか、換言すると、リールが定速になっているか（リール回転不良が発生していないか）は、ステップ6124の処理（リール駆動状態がリール定速状態に更新されてから所定時間経過後に判定される）で判定することとなるが、ステップ6124の処理で、リールセンサがインデックスを検出しなかったことからリールが定速になっていない（リール回転不良が発生している）と判定した場合には、リール再加速処理を実行する、即ち、再度リール加速処理を初めから実行するよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中にはリールの加速が正常に実行されたか否かを判定しないよう構成することにより、リール加速処理の実行中にリール回転不良が発生した場合においても、その後、リール回転不良が解消し、リール加速処理を実行終了するまでの残りのリール加速処理によって、リールの回転速度を定速に到達させることができた場合には、リール駆動状態がリール定速状態に更新されてから所定時間経過するまでにリールセンサがインデックスを検出することにより、再加速処理を実行せずにリール定速維持処理を実行することとなり、リール再加速処理の実行によって、遊技者が遊技を進行できない（停止ボタンを操作できない）事態が発生し難くすることができる。また、リール加速処理の実行中において、リールの加速が正常に実行されたか否かを判定する処理を実行しないよう構成することにより、リールの回転に関する処理に要するデータ量を少なくすることができる。尚、このように構成されていることから、本例に係る回胴式遊技機がリール加速処理を実行している途中にてリール回転不良が発生した場合には、以下のように作用することとなる。

10

20

30

40

50

【0141】

<作用1>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行→リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール定速維持処理の実行中にリール回転不良が発生→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。

尚、リール回転不良とは、リール窓D160等のリール近傍に設けられた部材によってリールの回転が阻害される（リール窓D160にリールが擦れる等）、脱調が発生する等によって、リールの加速が正常に実行されなかった場合を称している。このように、リール定速維持処理の実行中にリール回転不良が発生した場合にもリール再加速処理を実行するよう構成することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。

【0142】

<作用2>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行→リール加速処理の実行途中にリール回転不良が発生→リール加速処理を継続して実行→リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中にリール回転不良が発生した場合にも、その後リール回転不良を検知した場合にリール再加速処理を実行するよう構成することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。また、上記のように、リール加速処理の実行途中にて回胴回転不良が発生した場合にも、リール加速処理を継続して実行し、回胴回転不良が発生していない場合と同様の割り込み回数分リール加速処理を実行した場合にリール加速処理の実行を終了することとなる。このように構成することにより、リール加速処理の実行開始直後にリール回転不良が発生した場合等にリール再加速処理を実行せずにリールの回転速度が定速に到達し易いよう構成することができる。

【0143】

<作用3>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行

→リール加速処理の実行途中に電源断処理を実行→電源断から復帰→リール加速処理を継続して実行（未処理のリール加速処理を実行）→リール加速処理の実行途中にリール回転不良が発生→リール加速処理を継続して実行（未処理のリール加速処理を実行）→リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中に電源断処理を実行した場合にも、電源復帰後に継続してリール加速処理を実行し、その後リール駆動状態をリール定速状態に更新した後から所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出しなかった場合にリール再加速処理を実行することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。また、リール加速処理の実行中に電源断処理を実行した場合に、電源復帰後に継続してリール加速処理を実行し、その後リール駆動状態をリール定速状態に更新した後から所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出した場合にはリール再加速処理を実行しないよう構成されており、そのように構成することにより、リール再加速処理によって遊技者が遊技を進行できない（停止ボタンを操作できない）事態が発生し難くすることができる。なお、電源断処理を電源断時処理と称することがある。

10

【0144】

<<最終停止ボタン操作後の作用>>

本例に係る胴式遊技機は、最終停止ボタン（第3停止ボタン）の操作後に最終のリール（最後まで回転しているリールであり、第3リールとも称する）が停止し、入賞役となる図柄組み合わせが停止表示した場合には遊技メダルの払出が実行され得るよう構成されているが、遊技メダルの払出に関する作用として、以下のように構成してもよい。

20

【0145】

<作用1>

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断が発生→第3リールが停止表示位置まで移動（回転）→電源断を検出→電源断時処理を実行→電源復帰→リールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→遊技メダルの払出に関する処理を実行

30

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、前述した共通ベル等の、当選した場合には停止ボタンの操作タイミングに拘わらず入賞させることができる小役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に遊技場の停電などにより電源断が発生した場合にも、第3リールの停止予定位置に拘らず（すべりコマ数が最大であった場合にも）、電源断を検出する前に当該停止予定位置までの移動（回転）が完了するよう構成することができる。また、電源復帰後に入賞役を構成する図柄組み合わせ（例えば、共通ベル）が停止表示されている場合には、正常に遊技メダルの払出を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。

40

【0146】

<作用2>

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ベル役が当

50

選しているゲームにおいて、遊技者から見てリールに入賞役であるベル役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってベル役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→遊技メダルの払出に関する処理を実行

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて入賞役に当選し、且つ当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、遊技メダルの払出を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。尚、リール回転不良が発生するタイミングは上記の例には限定されず、第2リールが停止表示してから遊技メダルの払出に関する処理を実行までの期間にリール回転不良が発生し、結果として第3停止に対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合にはすべて適用可能である（以下に例示するリール回転不良に関する作用にも適用可能である）。尚、上記作用2においては、入賞役に当選したゲームにおける作用を例示している。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良および電源断が発生しなかった場合には、同様の作用となるよう構成してもよい）。

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しており、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→遊技メダルの払出に関する処理を実行

尚、前述または後述する作用における入賞役としては、当選したゲームにて停止ボタンの操作タイミングに拘わらず入賞可能な入賞役（例えば、共通ベル）としてもよいし、当選したゲームにて停止ボタンの操作タイミングによって入賞する場合と入賞しない場合とがある入賞役（例えば、スイカA、スイカB、チェリー）としてもよい。また、所定の遊技状態にて所定の入賞役に当選したゲームにおいて、リール回転不良や電源断が発生せず、当該所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に、リールバックライト（バックランプと称することがある）が点滅する演出（バックランプ演出と称することがある）として当該所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成した場合には、前記所定の遊技状態にて前記所定の入賞役に当選したゲームにて、リール回転不良が発生して、前記所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、前記所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成してもよい。また、本作用においては、第3停止に対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合について例示したが、これには限定されず、第1停止に対応するリールがリール回転不良によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよいし、第2停止に対応するリールがリール回転不良によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよい（他の作用についても同様に適用可能である）。

【0147】

<作用3>

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の安定供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付

ける)→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定(停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ベル役が当選しているゲームにおいて、遊技者から見てリールに入賞役であるベル役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってベル役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合)→遊技メダルの払出に関する処理を実行

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、電源断を検出するタイミング、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミング、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定するタイミング、および電源復帰するタイミングは、上記のタイミングには限定されず、第2リールが停止表示してから遊技メダルの払出に関する処理を実行までの期間に、電源断を検出するタイミング、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミング、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定するタイミング、および電源復帰するタイミングが存在していればよく、電源断の発生によって第3停止ボタンに対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合にはすべて適用可能である(以下に例示する電源断を含む作用についても同様である)。このように構成することで、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直前(または直後)に電源断が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示できなかった場合にも、遊技機の内部処理にて入賞役に当選し、且つ当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール(左リール、中リール、右リール)に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、電源復帰後に遊技メダルの払出(遊技メダルの払出には、ホッパの駆動による放出口からの払出のみではなく、クレジット数表示装置の表示(クレジット数)が増加することとも含まれることとする)を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。尚、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミングを電源断が発生するタイミングと称することがある。また、所定の遊技状態にて所定の入賞役に当選したゲームにおいて、リール回転不良や電源断が発生せず、当該所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に、リールバックライト(バックランプと称することがある)が点滅する演出(バックランプ演出と称することがある)として当該所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成した場合には、前記所定の遊技状態にて前記所定の入賞役に当選したゲームにて、電源断が発生して、前記所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、前記所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成してもよい。また、本作用においては、第3停止に対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合について例示したが、これには限定されず、第1停止に対応するリールが電源断によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよいし、第2停止に対応するリールが電源断によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよい(他の作用についても同様に適用可能である)。なお、本例における、「遊技機への電力の供給が停止」、「遊技機への電力の安定供給が停止」とは、遊技機に供給される電力が0であるということではなく、電源断の発生などにより、遊技機へ供給される電力が、遊技機稼働時に供給される電力未満となった場合、遊技機への電力の供給が遮断された場合などであってもよい。

【0148】

<作用4>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作

10

20

30

40

50

(第3停止ボタンの操作を受け付ける)→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定(停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合)→遊技メダルの払出が実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール(左リール、中リール、右リール)に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルの払出を実行しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用4はハズレのみには限定されず、例えば、ベルに当選していないゲーム(再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等)において、リール回転不良が発生してベルに対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。また、このような場合においては、遊技者から見た停止表示されている図柄組み合わせは、回転不良により内部抽選結果と整合性のとれていない図柄組み合わせとなっているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定しているため、表示判定エラー(復帰不可能エラー)は発生しない(表示判定エラーが発生したと判定しない)よう構成されている。

【0149】

<作用5>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作(第3停止ボタンの操作を受け付ける)→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定(停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合)→電源復帰→遊技メダルの払出が実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果ハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール(左リール、中リール、右リール)に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルの払出を実行しないよう構成することができ、公正な遊技機とす

10

20

30

40

50

ることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用5はハズレのみには限定されず、例えば、ベルに当選していないゲーム（再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等）において、リール回転不良が発生してベルに対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。また、このような場合においては、遊技者から見た停止表示されている図柄組み合わせは、回転不良により内部抽選結果と整合性のとれていない図柄組み合わせとなっているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定しているため、表示判定エラー（復帰不可能エラー）は発生しない（表示判定エラーが発生したと判定しない）よう構成されている。

【0150】

<作用6>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ボーナス役に当選しておらず、且つ、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→ボーナスが開始せず、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていてもボーナスが開始しないよう構成することができる。尚、上記作用6はハズレのみには限定されず、例えば、ボーナス役に当選しておらず（ボーナス内部中でなく）、且つボーナス役に当選しなかったゲーム（再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等）において、リール回転不良が発生してボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。尚、上記作用6においては、ボーナス役に当選しなかったゲームにおける作用を例示している。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良および電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しておらず、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始されない、且つボーナス開始時のフリーズが実行されない

10

20

30

40

50

のような作用となる。一方、ボーナス役に当選したゲームまたはボーナス内部中にて、リール回転不良が発生していなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始される、且つボーナス開始時のフリーズが実行される

10

のような作用を例示することができる。尚、上記では、ボーナスの開始時にフリーズを実行する場合を例示したが、ボーナスの種類（ボーナス役の種類）によって、フリーズが実行されるボーナスとフリーズが実行されないボーナスを有していてもよいし、ボーナス役に当選する遊技状態によってもフリーズの実行有無を相違させてもよい。

【0151】

<作用7>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ボーナス役に当選しておらず、且つ、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→電源復帰→ボーナスが開始せず、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行されない

20

30

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルのボーナスを開始しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用6はハズレのみには限定されず、例えば、ボーナス役に当選しておらず（ボーナス内部中でなく）、且つボーナス役に当選しなかったゲーム（再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等）において、リール回転不良が発生してボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。尚、上記作用6においては、ボーナス役に当選しなかったゲームにおける作用を例示している。即ち、電源断が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良および電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

40

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リ

50

ールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しておらず、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始されない、且つボーナス開始時のフリーズが実行されない

のような作用となる。一方、ボーナス役に当選したゲームまたはボーナス内部中にて、リール電源断が発生していなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始される、且つボーナス開始時のフリーズが実行される

のような作用を例示することができる。尚、上記では、ボーナスの開始時にフリーズを実行する場合を例示したが、ボーナスの種類（ボーナス役の種類）によって、フリーズが実行されるボーナスとフリーズが実行されないボーナスを有していてもよいし、ボーナス役に当選する遊技状態によってもフリーズの実行有無を相違させてもよい。

【0152】

<作用8>

ボーナス内部中に実行されたゲームとして、またはボーナス役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが開始し、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、ボーナスに当選している状況にて実行されたゲーム、またはボーナス役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても、ボーナスを開始し且つボーナス開始時に実行されるフリーズを実行するよう構成することができ、ボーナスが開始されるべき状況でリール回転不良によってボーナスが開始されなくなってしまうような遊技者にとっての著しい不利益を生じさせないよう構成することができると共に、リール回転不良が発生しなかった場合と同様に、ボーナス開始時のフリーズを実行することによって、遊技者は違和感なく遊技を進行することができることとなる。

【0153】

<作用9>

ボーナス内部中に実行されたゲームとして、またはボーナス役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リ

ールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→電源復帰→ボーナスが開始し、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、ボーナスに当選している状況にて実行されたゲーム、またはボーナス役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても、ボーナスを開始し且つボーナス開始時に実行されるフリーズを実行するよう構成することができ、ボーナスが開始されるべき状況で電源断によってボーナスが開始されなくなってしまうような遊技者にとっての著しい不利益を生じさせないよう構成することができると共に、リール回転不良が発生しなかった場合と同様に、ボーナス開始時のフリーズを実行することによって、遊技者は違和感なく遊技を進行することができることとなる。

【0154】

<作用10>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しないこととなる。また、作用10において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に対応する図柄組み合わせが遊技者から見て停止表示していたとしても、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示さ

せるための停止制御が正常に実行された場合には、R T 状態は移行しないこととなる（再遊技役以外の R T 状態が移行することとなる役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも同様に適用可能である）。このように構成することにより、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用 10 はハズレのみには限定されず、例えば、再遊技役に当選していないゲームにおいて、リール回転不良が発生して再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に適用することができることを補足しておく。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良および電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ 1269 の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプ D290 が新たに点灯しない

のような作用となる。

尚、自動ベットとは、再遊技役に当選したゲームにてベットしていた規定数（例えば、3 枚）の遊技メダルが、再遊技役が停止表示したことにより、ベットボタン（マックスベットボタン）の操作やメダル投入口からの遊技メダルの投入がなくとも自動でベットされることとなっている。

一方、再遊技役に当選したゲームにてリール回転不良が発生しなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ 1269 の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが実行される、且つ再遊技ランプ D290 が新たに点灯する（前回のゲームにて再遊技役に当選していた場合には再遊技ランプ D290 は点灯を継続する）

のような作用を例示することができる。

【0155】

<作用 11>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ 1269 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→電源復帰→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプ D290 が新たに点灯しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しないこととなる。また、作用10において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に対応する図柄組み合わせが遊技者から見て停止表示していたとしても、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、RT状態は移行しないこととなる（再遊技役以外のRT状態が移行することとなる役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも同様に適用可能である）。このように構成することにより、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用11はハズレのみには限定されず、例えば、再遊技役に当選していないゲームにおいて、電源断が発生して再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に適用することができることを補足しておく。即ち、電源断が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良および電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しない
のような作用となる。一方、再遊技役に当選したゲームにて電源断が発生しなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが実行される、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する（前回のゲームにて再遊技役に当選していた場合には再遊技ランプD290は点灯を継続する）
のような作用を例示することができる。

【0156】

<作用12>

再遊技に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが

、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果が再遊技となったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて再遊技に当選しており、且つ再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しないことにより、リールを視認しても再遊技役に当選したのか否かが判断できなくとも、自動ベットの実行有無や再遊技ランプD290の点灯を視認することにより、遊技の状況を誤認し難くすることができる。また、作用12において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に当選していた場合には、当該再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していなくとも、RT状態は移行することとなる。このように構成することにより、遊技の進行に不具合が生じ難い遊技機とすることができ、ユーザーフレンドリーな遊技機を構成することができる。

10

20

30

40

50

【0157】

<作用13>

再遊技に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予 positioning まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→電源復帰→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果が再遊技となったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて再遊技に当選しており、且つ再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しないことにより、リールを視認しても再遊技役に当選したのか否かが判断できなくとも、自動ベットの実行有無や再遊技ランプD290の点灯を視認することにより、遊技の状況を誤認し難くすることができる。また、作用13において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に当選していた場合には、当該再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していなくとも、RT状態は移行することとなる。このように構成することにより、遊技の進行に不具合が生じ難い遊技機とすることができ、ユーザーフレンドリーな遊技機を構成することができる。

【0158】

<作用14>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行する

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選したゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて R T 移行役に当選しており、且つ R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても R T 状態が移行することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。尚、R T 移行役とは、所定の R T 状態にて図柄組み合わせが停止表示することにより、当該所定の R T 状態とは異なる R T 状態に移行する役であり、滞在している R T 状態によって R T 移行役となるか否かが相違し得ることとなる。即ち、R T 状態 A では所定役 A は R T 移行役であるが、R T 状態 B では所定役 A は R T 移行役とならない場合があってもよいし、R T 状態 A では所定役 A は R T 移行役であるが、R T 状態 B では所定役 A に当選しない場合があってもよい。

【 0 1 5 9 】

< 作用 1 5 >

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行する（電源復帰後に R T 状態が移行してもよいし、電源復帰前に R T 状態が移行してもよい）

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選したゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて R T 移行役に当選しており、且つ R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても R T 状態が移行することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【 0 1 6 0 】

<作用 1 6>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選していないゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなる。このように構成することにより、例えば、A T 中状態にて遊技者にとって不利な R T 状態に移行させないための押し順ナビが実行された場合に、遊技者が押し順ナビに従って停止ボタンを操作下にも拘わらず、リール回転不良により R T 状態が移行してしまう（転落してしまう）図柄組み合わせが見た目上停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなり、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【0 1 6 1】

<作用 1 7>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選していないゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなる。このように構成することにより、例えば、A T 中状態にて遊技者にとって不利な R T 状態に移行させないための押し順ナビが実行された場合に、遊技者が押し順ナビに従って停止ボタンを操作下にも拘わらず、リール回転不良により R T 状態が移行してしまう（転落してしまう）図柄組み合わせが見た目上停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなり、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【0 1 6 2】

<作用 1 8>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第 2 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動

(回転) できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力されない

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない(第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する)→スピーカからテンパイ音出力される

10

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力される

20

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音出力されない

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止に停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止に停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音出力することとなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は

30

40

【0163】

<作用19>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄

50

組み合わせが停止表示→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力されない
また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力される
上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

10

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力される
また、

20

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音出力されない
上記のように作用するよう構成してもよい。尚、スピーカからテンパイ音出力するタイミングは、電源断時処理の実行終了前であってもよいし、電源断発生後の電源復帰後としてもよい。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音出力することとなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後にリール回転不良が発生した）場合としてもよい。

30

40

【0164】
＜作用20＞

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→

50

第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

また、

ボーナス内部中である、またはボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

10

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス内部中である、またはボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

20

また、

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

30

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、ボーナス確定テンパイ音とは、所定のボーナス図柄を構成する図柄が有効ラインに停止表示（テンパイ）し、且つ当該所定のボーナス図柄が停止表示可能な状況である場合にスピーカから出力され得るテンパイ音である。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレであり、且つボーナス内部中でないゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。

40

また、同様に、役抽選の結果がボーナス役となったゲームまたはボーナス内部中に実行されたゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力することとなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の

50

停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後にリール回転不良が発生した）場合としてもよい。

【0165】

<作用21>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力されない

10

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力される

20

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力される

30

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音出力されない

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、スピーカからテンパイ音を出力するタイミングは、電源断時処理の実行終了前であってもよいし、電源断発生後の電源復帰後としてもよい。

40

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音を出力しないこととなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断の発生によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの

50

停止操作を受け付けた直後に電源断が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音を出力することとなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断の発生によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後に電源断時処理を実行した）場合としてもよい。

【0166】

<作用22>

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

また、

ボーナス内部中である、またはボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス内部中である、またはボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

また、

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リールおよび第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、ボーナス確定テンパイ音とは、所定のボーナス図柄を構成する図柄が有効ラインに停止表示（テンパイ）し、且つ当該所定のボーナス図柄が停止表示可能な状況である場合にスピーカから出力され得るテンパイ音である

10

20

30

40

50

。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレであり、且つボーナス内部中でないゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力しないこととなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。

また、同様に、役抽選の結果がボーナス役となったゲームまたはボーナス内部中に実行されたゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止および第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力することとなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後に電源断時処理を実行した）場合としてもよい。

【0167】

<作用23>

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、再遊技に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、マックスベットランプが点灯しないことにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効でないことをいち早く察知することができる。また、再遊技に当選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合と同様に、マックスベットランプが点灯することにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効であることをいち早く察知することができる。

【0168】

<作用24>

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、再遊技に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、マックスベットランプが点灯しないことにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効でないことをいち早く察知することができる。また、再遊技に当選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合と同様に、マックスベットランプが点灯することにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効であることをいち早く察知することができる。

【0169】

<作用25>

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、ボーナス最終ゲームにて入賞役に当選し、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、ボーナスが終了すると共に、ボーナス終了時フリーズが実行されることにより、遊技者はボーナスが正常に終了したことをいち早く察知することができ、遊技の進行に対する違和感を抱かせることのない遊技機を提供することができる。

【0170】

<作用26>

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者

10

から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される
上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

20

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、ボーナス最終ゲームにて入賞役に当選し、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、ボーナスが終了すると共に、ボーナス終了時フリーズが実行されることにより、遊技者はボーナスが正常に終了したことをいち早く察知することができ、遊技の進行に対する違和感を抱かせることのない遊技機を提供することができる。

30

【0171】

尚、上述した本例に係る回胴式遊技機におけるリール加速処理に関する構成から、リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生しなかった場合のリール加速処理の実行期間 = A

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生するまでのリール加速処理の実行期間 = B

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生した後のリール加速処理の実行期間 = C

とした場合、

$A = B + C$

40

となるよう構成されている。

また、

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生しなかった場合のリール加速処理の割り込み処理実行回数 = D

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生するまでのリール加速処理の割り込み処理実行回数 = E

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生した後のリール加速処理の割り込み処理実行回数 = F

とした場合、

$D = E + F$

50

となるよう構成されている。

【0172】

次に、図36は、図35におけるステップ1900のサブルーチンに係る、電源断時処理のフローチャートである。まず、ステップ1901で、主制御基板MのCPU100は、出力ポートのクリア処理を実行する。ステップ1901の処理を実行することにより、ホッパH40の駆動中（遊技メダルの払出中）に電源断時処理が実行された場合には、ホッパH40が駆動しなくなり、ブロックD100がオンである状態で電源断時処理が実行された場合には、ブロックD100がオフになる。次に、ステップ1902で、主制御基板MのCPU100は、スタックポインタを保存する。次に、ステップ1904で、主制御基板MのCPU100は、電源断処理済みフラグをオンにする（例えば、RAM領域の電源断処理済みフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1906で、主制御基板MのCPU100は、RAM領域の先頭アドレスからチェックサム領域直前アドレスまでのチェックサムを算出し、当該算出したチェックサムに基づく誤り検出用情報（例えば、当該算出したチェックサムにおける下位1バイト、或いは、その補数となるもの）をチェックサム領域にてセットする。次に、ステップ1912で、主制御基板MのCPU100は、RAMの書き込みを禁止し、ステップ1914に移行する。次に、ステップ1914で、主制御基板MのCPU100は、リセットを待機するための無限ループ処理を実行する。

【0173】

次に、図37は、本例に係る回胴式遊技機の押し順表示のイメージ図の一例を示したものである。図上の表は、実行される押し順ナビが示すリール停止順と指示番号（押し順に係る情報であり、本例においては、主制御基板Mが決定し、副制御基板Sに送信される）との対応を示す表である。例えば、押し順として、「中→右→左」を報知する場合の指示番号は、「A5」であることを示している。次に、図中左側は、押し順が「左→中→右」である場合（対応する指示番号は、「A1」）の押し順表示装置D270、有利区間表示器YH、および演出表示装置S40に表示されるイメージを図示している。ここで、本例の押し順表示装置D270は、7セグメントの表示方式であり、払出数表示装置を兼ねている。また、メダルの払出が実行された場合に、当該払い出されたメダルの枚数は押し順表示装置D270にて2桁の数字で表示される。ここで、押し順ナビを実行する際にも、押し順表示装置D270の表示を2桁の数値で表示してしまうと、押し順表示装置D270における表示が、メダルの払出枚数であるか押し順ナビ表示であるかが判別困難になってしまう。そのため、メダルの払出枚数であるか押し順ナビ表示であるかの区別がつくように、押し順表示装置D270には、「=1」のように左側の桁には「=」を表示するよう構成することにより、押し順表示装置D270の表示が2桁の数値であった場合にはメダルの払出枚数の表示であり、押し順表示装置D270の表示として左側が「=」、右側が数字であった場合には押し順ナビの表示であると判別可能に構成し、遊技者の誤認を防ぐことができるように構成している。更に、押し順表示装置D270の右下部に備えられた、有利区間表示器YHにおいて、現在の遊技区間が、「有利区間」であることを示すランプが点灯している。同時に当該「有利区間」（または、「AT中状態」）の残りゲーム数を示す「残り40ゲーム」の表示が演出表示装置S40上にて表示されている。また、図中右側が、押し順が「中→左→右」である場合（対応する指示番号は「A3」）の押し順表示装置D270および演出表示装置S40に表示されるイメージを図示している。加えて、現在の遊技区間が「有利区間」であるため、有利区間表示器YHが点灯し、当該「有利区間」の残りゲーム数を示す「残り25ゲーム」の表示が演出表示装置S40上にて表示されている。尚、押し順あり役（リール停止順によって停止表示される役が相違する条件装置のうち、メダルの払出を伴う条件装置であり、例えば、ベル）と押し順あり再遊技役（リール停止順によって停止表示される役が相違する条件装置のうち、再遊技役に係る条件装置）の指示番号のセグメント表示を異なるものとしてもよいし、押し順表示装置D270の表示方式は7セグメントに限定されるものではなく、例えば、LED表示器を用いて、指示番号に対応する点灯パターンに従い、複数のLEDを点灯させることで、指

示を行うように構成してもよい。尚、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の右下部に、有利区間表示器 Y H を備える構成としてもよい。この場合の有利区間表示器 Y H を点灯させるタイミングは、精算ボタン D 6 0 の操作が有効となるまで、であることが好ましい。遊技者が遊技をやめる際は、クレジット数表示装置 D 2 0 0 を視認してメダルが残っていないかを確認することになる。そして、メダルが残っていれば、精算ボタン D 6 0 が操作される。即ち、精算ボタン D 6 0 が有効となるまでに点灯させることで、次遊技から「有利区間」であるのに、誤って遊技をやめてしまうことを防止することができる、というユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。

【0174】

また、有利区間表示器 Y H における遊技区間の報知態様は、本例には限定されず、2つの7セグメント両方の右下に有利区間表示器 Y H と同様の区間表示器を備える（区間表示器を2つ備える）構成としてもよく、そのように構成した場合には、左側の区間表示器が点灯した場合には、現在の遊技区間が「通常区間」である旨を報知し、他方、右側の区間表示器が点灯した場合には、現在の遊技区間が「有利区間」である旨を報知するよう構成してもよい。更に、区間表示器の点灯時における色彩や点灯態様によって、「通常区間」と「有利区間」を区別する（例えば、「通常区間」においては「緑」、「有利区間」においては「赤」としたり、「通常区間」においては点灯、「有利区間」においては「点滅」とする）よう構成してもよい。更には、「有利区間」における「A T 中 B B 内部中遊技」、「A T 中 B B 状態」、「A T 前兆状態」、「A T 中状態」等によって、区間表示器の表示態様を変更するよう構成してもよい。更に、現在の遊技区間が「待機区間」であることを、「通常区間」および、「有利区間」と区別して認識できるよう構成してもよい。但し、「通常区間」と「有利区間」の区別については使用する区間表示器を異ならせる等、区別し易い態様とし、遊技者が現在の遊技区間が「有利区間」であるか否かを認識し易くすることが好ましい。

【0175】

また、「有利区間」の残りゲーム数を示す演出表示装置 S 4 0 上の表示については、例えば、「A T 前兆状態」や「A T 準備中」においては、当該「有利区間」の残りゲーム数を表示しない構成（遊技者にとって相対的に低利益な状態において、「有利区間」の残りゲーム数が減算されていくという、遊技者にとっての不利益を報知しない）としてもよい。但し、このように構成した場合であっても、区間表示器は点灯させ、遊技者に「有利区間」中である旨を報知することが好適である。同時に、区間表示器は、主制御基板 M 側が制御するよう構成すると共に、当該表示が、遊技者にとって視認容易な位置に区間表示器を設置するよう構成することが好ましい。

【0176】

次に、図 3 8 ～ 図 5 7 を参照して、副制御基板 S 側で実行される制御処理を説明する。

【0177】

<サブ側プログラム開始処理>

はじめに、図 3 8 は、サブ側プログラム開始処理を示すサブルーチンである。このサブ側プログラム開始処理は、電源が投入されたことにより呼び出されて実行される。

【0178】

まず、ステップ 2 0 0 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、割り込みを禁止する。次に、ステップ 2 0 0 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、C P U や R A M の初期化、チェックサムの算出等の各種の初期化処理を実行する。

【0179】

次に、ステップ 2 0 0 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、電源投入時に算出したチェックサム値と、電源断時に算出して記憶しているチェックサム値とが一致するか否かを判断する。ステップ 2 0 0 8 で Y e s の場合、換言すると、ステップ 2 0 0 8 の判断処理で、双方のチェックサム値が一致すると判別した場合には、ステップ 2 0 1 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する 1 コマンド処理の実行中に電源断が発生した状態から復帰した状態であるか否か、すなわち、完全復帰した状態であるか否かを判断する。

【0180】

ステップ2010でYesの場合、換言すると、完全復帰であると判別した場合には、ステップ2012で、副制御基板SのCPUSCは、割り込みを許可し、電源断が発生したときに実行をしていた1コマンド処理に処理を戻す。

【0181】

一方、ステップ2008でNoの場合、換言すると、前述したステップ2008の判断処理で、双方のチェックサム値が一致しないと判別した場合には、ステップ2014で、副制御基板SのCPUSCは、RAMクリアを実行する。尚、ステップ2014の処理を実行した後、または、ステップ2010でNoの場合には、処理をサブメインループ処理に移行させる。

10

【0182】

<サブメインループ処理>

次に、図39は、サブメインループ処理を示すサブルーチンである。サブメインループ処理は、図38に示すサブ側プログラム開始処理が実行された後に、呼び出されて実行される。

【0183】

まず、ステップ2102で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマをクリアする。次に、ステップ2104で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマの作動を開始する。次に、ステップ2106で、副制御基板SのCPUSCは、割り込みを許可する。次に、ステップ2108で、副制御基板SのCPUSCは、コマンド受信処理を実行する。このコマンド受信処理は、主制御基板Mから送信された各種のコマンドを受信する処理である。

20

【0184】

次に、ステップ2250で、副制御基板SのCPUSCは、後述する、1コマンド処理を実行する。この1コマンド処理は、主制御基板Mからの制御コマンドに基づいて実行される処理である。具体的な処理は後述する。ステップ2110で、副制御基板SのCPUSCは、所定時間、例えば16msが経過したか否かを判断し、経過していないと判別したときには、ステップ2108に処理を戻す。一方、所定時間が経過していると判別したときには、ステップ2102に処理を戻す。なお、所定時間は、16msに限られず、処理に応じて適宜に変更することができる。

30

【0185】

<サブ側電源断処理>

次に、図40は、副制御基板S側で実行されるサブ側電源断処理を示すサブルーチンである。サブ側電源断処理は、副制御基板Sが電源断を検知したことにより開始される処理である。

【0186】

まず、ステップ2202で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマを停止する。ステップ2204で、副制御基板SのCPUSCは、サブ側プログラム開始処理の実行中であるか否かを判定する。ステップ2204でYesの場合にはステップ2210に移行する。他方、ステップ2204でNoの場合、ステップ2206で、副制御基板SのCPUSCは、チェックサムを算出する。次に、ステップ2208で、副制御基板SのCPUSCは、各種データ（チェックサムの算出結果や、実行していたプログラムの番地等）を退避させ、ステップ2210に移行する。

40

【0187】

次に、ステップ2210で、副制御基板SのCPUSCは、500msが経過したか否かを判定する。ここで、500msが経過していると判別したときには、電源断処理を終了する。他方、ステップ2210でNoの場合、ステップ2212で、副制御基板SのCPUSCは、電源が復帰したか否かを判定する。ステップ2212でYesの場合、ステップ2214で、副制御基板SのCPUSCは、瞬断発生回数を更新する。次に、ステップ2216で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマの作動を開始し、電

50

源断時に実行していた処理に戻す。尚、ステップ 2 2 1 2 の判断処理で、電源が復帰していないと判別した場合には、前述したステップ 2 2 1 0 に処理に戻す。

【0 1 8 8】

< 1 コマンド処理 >

次に、図 4 1 は、図 3 9 のステップ 2 2 5 0 の処理で呼び出されて実行される 1 コマンド処理を示すサブルーチンである。

【0 1 8 9】

次に、ステップ 2 2 5 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、スタートレバーの操作タイミングではないか否かを判定する。ステップ 2 2 5 2 で N o の場合、換言すると、スタートレバーの操作タイミングであると判別したときには、ステップ 3 0 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述するスタートレバー操作時演出関連決定処理のサブルーチンを呼び出して実行する。次に、ステップ 2 3 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述するスタートレバー操作時処理を実行し、ステップ 7 1 0 0 に移行する。

10

【0 1 9 0】

次に、ステップ 2 2 5 2 で Y e s の場合、換言すると、スタートレバーの操作タイミングでない場合には、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 2 5 4 で、第 1 リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ 2 2 5 4 で N o の場合、換言すると、第 1 リール停止受付タイミングである場合には、ステップ 2 5 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する第 1 回胴停止受付時処理のサブルーチンを呼び出して実行し、ステップ 7 1 0 0 に移行する。

20

【0 1 9 1】

次に、ステップ 2 2 5 4 で Y e s の場合、換言すると、第 1 リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ 2 2 5 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、第 2 リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ 2 2 5 8 で N o の場合、換言すると、第 2 リール停止受付タイミングである場合には、ステップ 2 5 5 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する第 2 回胴停止受付時処理のサブルーチンを呼び出して実行し、ステップ 7 1 0 0 に移行する。

【0 1 9 2】

次に、ステップ 2 2 5 8 で Y e s の場合、換言すると、第 2 リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ 2 2 6 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、第 3 リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ 2 2 6 2 で N o の場合、換言すると、第 3 リール停止受付タイミングである場合には、ステップ 3 2 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する第 3 回胴停止時演出関連決定処理のサブルーチンを呼び出して実行する。次に、ステップ 2 6 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する第 3 回胴停止受付時処理を実行し、ステップ 7 1 0 0 に移行する。

30

【0 1 9 3】

次に、ステップ 2 2 6 2 で Y e s の場合、換言すると、第 3 リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ 2 2 6 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、停止表示図柄の停止タイミングであるか否かを判定する。ステップ 2 2 6 6 で Y e s の場合、換言すると、停止表示図柄の停止タイミングである場合には、ステップ 2 2 6 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、停止表示図柄時処理（図示せず）を実行し、ステップ 7 1 0 0 に移行する。他方、ステップ 2 2 6 6 で N o の場合、換言すると、停止表示図柄の停止タイミングでない場合には、副制御基板 S の C P U S C は、直ちに、ステップ 7 1 0 0 に移行する。

40

【0 1 9 4】

次に、ステップ 7 1 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述するメニュー画面表示制御処理を実行する。次にステップ 7 2 0 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する待機画面表示制御処理を実行し、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行する。

【0 1 9 5】

次に、図 4 2 は、図 4 1 のステップ 3 0 0 0 の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時演出関連決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ 3 0 0 2 で、

50

副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの A T に関する状態は「高確率状態」であるか否かを判定する。ステップ 3002 で Y e s の場合、ステップ 3004 で、副制御基板 S の C P U S C は、主制御基板 M 側から受信した高確保障カウンタ値コマンドに基づき、現時点で残っている高確保障ゲーム数（高確率状態があと何ゲーム保障されているか）を確認する。次に、ステップ 3050 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述するバトル演出実行可否決定処理のサブルーチン呼び出して実行し、ステップ 3006 に移行する。次に、ステップ 3006 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームにおいてはバトル演出が実行されることが決定されているか否かを判定する。ステップ 3006 で Y e s の場合、ステップ 3008 で、副制御基板 S の C P U S C は、現在の滞在ステージと、当該ゲームの A T に関する状態と、次ゲームの A T に関する状態と、現在の高確保障ゲーム数とに基づき、滞在ステージ決定テーブル（図 44 参照）を参照して、滞在ステージ移行抽選（滞在ステージを変更するか否かの抽選）を実行し、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。尚、ステップ 3006 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。他方、ステップ 3002 で N o の場合、ステップ 3010 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの A T に関する状態は「低確率状態」であるか否かを判定する。ステップ 3010 で Y e s の場合、ステップ 3012 で、副制御基板 S の C P U S C は、現在の滞在ステージと、当該ゲームの A T に関する状態と、次ゲームの A T に関する状態とに基づき、滞在ステージ決定テーブル（図 44 参照）を参照して、滞在ステージ移行抽選を実行し、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。他方、ステップ 3010 で N o の場合、ステップ 3014 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの A T に関する状態は「A T 中状態」であるか否かを判定する。ステップ 3014 で Y e s の場合、ステップ 3100 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する A T 中演出決定処理のサブルーチン呼び出して実行し、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。他方、ステップ 3014 で N o の場合、ステップ 3016 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの A T に関する状態は「復活可否演出用状態」であるか否かを判定する。ステップ 3016 で Y e s の場合、ステップ 3150 で、副制御基板 S の C P U S C は、後述する復活可否演出決定処理のサブルーチン呼び出して実行し、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。他方、ステップ 3016 で N o の場合、ステップ 3018 で、副制御基板 S の C P U S C は、現在の滞在ステージと当該ゲームの A T に関する状態と、次ゲームの A T に関する状態とに基づき、予告演出および滞在ステージを決定し、次の処理（ステップ 2300 の処理）に移行する。尚、滞在ステージとは演出表示装置 S 40 にて表示される背景演出を主とした演出のことであり、常にいずれかの滞在ステージが設定されるよう構成されている。尚、滞在ステージが異なると、背景演出、予告演出、等の各種演出の傾向が相違することとなる。

【0196】

次に、図 43 は、図 42 のステップ 3050 の処理で呼び出されて実行されるバトル演出実行可否決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ 3052 で、副制御基板 S の C P U S C は、高確保障ゲーム数は 4 以上であるか否かを判定する。ステップ 3052 で Y e s の場合、ステップ 3054 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る条件装置は B B 役であるか否かを判定する。ステップ 3054 で Y e s の場合、ステップ 3056 で、副制御基板 S の C P U S C は、所定確率（本例では、 $1/2$ ）で当選するバトル演出実行可否抽選（バトル演出（勝利））を実行するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ 3058 で、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 3056 で実行したバトル演出実行可否抽選に当選したか否かを判定する。ステップ 3058 で Y e s の場合、ステップ 3060 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る演出をバトル演出（勝利）に決定し、次の処理（ステップ 3006 の処理）に移行する。他方、ステップ 3058 で N o の場合、ステップ 3062 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る演出をバトル演出以外の演出に決定し、次の処理（ステップ 3006 の処理）に移行する。ここで、バトル演出とは、複数ゲームに亘って実行される連続演出であり、バトル演出に勝利する、即ち、バトル演出（勝利）が実行されることにより、B B 役に当選した

且つ A T 抽選に当選したことが確定的となるよう構成されている。尚、バトル演出に関する構成はこれには限定されず、A T 抽選には当選していなくとも B B 役に当選している場合（B B 終了後には「低確率状態」または「高確率状態」に移行する）にバトル演出（勝利）を実行し得るよう構成してもよい。

【0197】

また、ステップ 3054 で N o の場合、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る条件装置はレア役であるか否かを判定する。ここで、本例においては、レア役は、入賞 - C（チェリー）、入賞 - D（スイカ A）および入賞 - E（スイカ B）となっており、B B 役と重複して当選し得る役となっている。即ち、遊技者はレア役が停止表示されることにより、B B 役と同時当選していることに期待感を抱くこととなるステップ 3064 で Y e s の場合、ステップ 3066 で、副制御基板 S の C P U S C は、所定確率（本例では、 $1/3$ であり、ステップ 3056 における所定確率よりも低い確率となっている）で当選するガセバトル演出実行可否抽選（バトル演出（敗北）を実行するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ 3068 で、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 3066 で実行したガセバトル演出実行可否抽選に当選したか否かを判定する。ステップ 3068 で Y e s の場合、ステップ 3070 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る演出をバトル演出（敗北）に決定し、次の処理（ステップ 3006 の処理）に移行する。また、ステップ 3052、ステップ 3064 またはステップ 3068 で N o の場合、ステップ 3072 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームに係る演出をバトル演出以外の演出に決定し、次の処理（ステップ 3006 の処理）に移行する。ここで、バトル演出（敗北）は「通常区間」であっても実行し得るよう構成してもよい。

【0198】

このように、高確保障ゲーム数が所定数以上である場合、例えば 4 以上である場合に、複数ゲームに亘ってバトル演出のような連続演出を実行し得る一方、高確保障ゲーム数が所定数未満である場合、例えば、4 未満である場合に、バトル演出のような連続演出を実行しないよう構成されているため、連続演出の実行途中であるにもかかわらず、「低確率状態」への移行（「通常区間」が設定されること）によって有利区間表示器 Y H が消灯することを防止でき、バトル演出が終了するまでの有利区間表示器 Y H の点灯を確保できる場合にのみバトル演出を実行することにより、遊技者の B B 当選への期待感を損なうことなく、ユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。

【0199】

また、レア役に当選しているときには、バトル演出（敗北）などの連続演出を実行し得るよう構成されているので、バトル演出の実行頻度を担保でき常に期待感を持って遊技を進行することができる。

【0200】

次に、図 44 は、滞在ステージ決定テーブルの一例である。尚、図 44 に示す滞在ステージ決定テーブルは、一部のみを抜粋したものである。図 44 に示す滞在ステージ決定テーブルは、当該ゲームが「低確率状態」であるときに使用するテーブルと、当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が 4 以上であるときに使用するテーブルと、当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が 3 以下であるときに使用するテーブルとの 3 種類からなる。

【0201】

当該ゲームが「低確率状態」であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、次ゲームの A T に関する状態と、当該ゲームの滞在ステージと、対応する置数との関係が規定されている。「低確率状態」である場合には、現在の滞在ステージとしては、砂漠ステージと街ステージとの 2 種類の演出ステージからなり、移行するステージとしては、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの 4 種類の演出ステージからなる。次ゲームの A T に関する状態として、「低確率状態」、「通常 B B 内部中遊技」と、「高確率状態」との 3 つの状態がある。

【0202】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」または「通常ＢＢ内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として０～９７９が割り当てられている。また、現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」または「通常ＢＢ内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として９８０～９９９が割り当てられている。

【０２０３】

さらに、現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」または「通常ＢＢ内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として０～１９が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」または「通常ＢＢ内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として２０～９９９が割り当てられている。

【０２０４】

また、現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として０～２４９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として２５０～４９９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として５００～７４９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として７５０～９９９が割り当てられている。

【０２０５】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として０～２４９が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として２５０～４９９が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として５００～７４９が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として７５０～９９９が割り当てられている。

【０２０６】

当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が４以上であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、当該ゲームの滞在ステージと、置数との関係が規定されている。現在の滞在ステージおよび移行するステージとして、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの４種類の演出ステージからなる。

【０２０７】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として０～８７９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として８８０～９２９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として９３０～９５９が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として９６０～９９９が割り当てられている。

【０２０８】

現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として０～８７９が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として８８０～９２９が割り

当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として930～959が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として960～999が割り当てられている。

【0209】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～49が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として50～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージが維持される場合の置数として100～949が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として950～999が割り当てられている。

10

【0210】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～49が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として50～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として100～199が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージが維持される場合の置数として200～999が割り当てられている。

20

【0211】

当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が3以下であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、次ゲームのATに関する状態と、当該ゲームの滞在ステージと、置数との関係が規定されている。現在の滞在ステージおよび移行するステージとして、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの4種類の演出ステージからなる。次ゲームのATに関する状態として、「高確率状態」、「有利BB内部中遊技」と、「低確率状態」との3つの状態がある。

【0212】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～979が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として980～999が割り当てられている。

30

【0213】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～19が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として20～999が割り当てられている。

【0214】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～29が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として30～59が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージが維持される場合の置数として60～999が割り当てられている。

40

【0215】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB

50

内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～29が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として30～59が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として60～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」または「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージが維持される場合の置数として100～999が割り当てられている。

10

【0216】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

【0217】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として500～999が割り当てられている。

20

【0218】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

【0219】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで低確率状態に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

30

【0220】

このように、「低確率状態」であるときには、砂漠ステージまたは街ステージの2つのステージが選択され得る（図42のステップ3012）。一方、「高確率状態」であるときには、砂漠ステージ、街ステージ、会議室ステージ、洞窟ステージの4つのステージが選択され得る（図42のステップ3008）。換言すると、「有利区間」である場合には4つの滞在ステージが選択され得る一方、「通常区間」においては2つの滞在ステージが選択され得るよう構成されており、「通常区間」において選択され得る2の滞在ステージは、「有利区間」においても選択され得る。このように構成することで、AT抽選の当選に期待が持てない「通常区間」においても、「有利区間」における滞在ステージとなり得る滞在ステージを選択することにより、「通常区間」においても飽きることなく遊技機を進行することができる。また、「高確率状態」から「低確率状態」に移行する場合、即ち、「有利区間」から「通常区間」となる場合に、「有利区間」の段階で、「通常区間」で選択される演出ステージを選択しておくことで、「有利区間」から「通常区間」に移行することを遊技者に判別しにくくし、期待感を保って遊技を継続させることができる。

40

【0221】

尚、「通常区間」で選択される演出ステージの一部が、「有利区間」で選択される演出

50

ステージと重複する（「通常区間」において選択され得るが「有利区間」では選択されない演出ステージを有する）ようにしてもよい。

【0222】

また、高確保障ゲーム数が4以上であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルと、高確保障ゲーム数が3以下であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルとを相違させ、高確保障ゲーム数が少なくなった（3ゲーム以下になった）場合には、現在の滞在ステージよりも「有利区間」である期待度の高い滞在ステージへの移行（例えば、砂漠ステージ→会議室ステージ）をしないよう構成することにより、より期待度の高い滞在ステージに移行したにもかかわらず、少ないゲーム数にて「通常区間」になってしまい遊技者を落胆させることを防止することができる。尚、滞在ステージは「有利区間」である期待度が低い（「有利区間」にて選択され難い）ものから「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順になっている。

10

【0223】

尚、滞在ステージの構成は本例のものには限定されず、滞在ステージによって示唆され得るものを、「有利区間」である期待度とAT抽選に当選している期待度とBBに当選している期待度を示唆し得るよう構成してもよい。一例としては、BB役やレア役に当選したゲームにて滞在ステージが移行し得るよう構成し（BB役によってAT抽選に当選した場合と単独レア役に当選してAT抽選が実行されていない場合とを含む）、移行した滞在ステージによってAT抽選に当選している期待度が相違するよう構成し、期待度が低い順に「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順に構成してもよいし、移行した滞在ステージによってBB役に当選している期待度が相違するよう構成し、期待度が低い順に「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順に構成してもよい（例えば、会議室ステージに移行した場合には、BB内部当選中またはAT抽選に当選していることが確定的となる、等）。

20

【0224】

次に、図45は、図42のステップ3100の処理で呼び出されて実行されるAT中演出決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3102で、副制御基板SのCPUSCは、AT残りゲーム数は3ゲーム以下であるか否かを判定する。ステップ3102でYesの場合、ステップ3104で、副制御基板SのCPUSCは、AT最終ゲームであるか否かを判定する。ステップ3104でYesの場合、ステップ3106で、副制御基板SのCPUSCは、継続抽選に当選しているか否かを判定する。ステップ3106でYesの場合、ステップ3108で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT継続煽り演出（成功）（ATが継続してATカウンタM60に初期値がセットされる、換言すると、次ゲームのATに関する状態が「AT中状態」となることを報知する演出）またはAT継続煽り演出（失敗）（ATが継続してATカウンタM60に初期値がセットされることが確定的とならず、次ゲームのATに関する状態が「AT中状態」または「復活可否演出用状態」となることを報知する演出）に決定し、ステップ3126に移行する。ここで、継続抽選に当選している場合には、AT継続煽り演出（成功）対AT継続煽り演出（失敗）は、4対1の割合で決定する。即ち、第1実施形態においては、継続抽選に当選している場合においても、AT継続煽り演出（失敗）が実行される場合があり、そのような場合には、次のセットの最初のゲームに該当する次ゲームにおいて、復活演出（成功）が実行されることとなり、遊技者は恰も復活抽選に当選したかのように感じるよう構成されている（実際は継続抽選に当選しており、主制御基板M側の制御としてはAT継続煽り演出（成功）が実行された場合と同様）。このように構成することにより、「復活可否演出用状態」において復活抽選に当選することは稀であるが{1ゲームで2320/65536（設定1の場合）の抽選に当選}、継続演出に当選した場合にも復活演出（成功）を実行し得るよう構成することにより、復活演出が実行された場合に復活演出（成功）が実行される割合を高めることができ、遊技者は復活演出に期待感を高めることができる。

30

40

【0225】

50

また、ステップ3106でNoの場合、ステップ3110で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT継続煽り演出（失敗）に決定し、ステップ3126に移行する。また、ステップ3104でNoの場合、ステップ3112で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT終盤演出に決定し、ステップ3126に移行する。また、ステップ3102でNoの場合、ステップ3114で、副制御基板SのCPUSCは、AT継続煽り演出（失敗）が実行された次ゲームであるか否かを判定する。ステップ3114でYesの場合、ステップ3116で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（成功）（「復活可否演出用状態」にて実行される復活演出（成功）と同様の演出態様であり、本処理では「AT中状態」が継続していた旨に係る演出）に決定し、ステップ3126に移行する。他方、ステップ3114でNoの場合にも、ステップ3126に移行する。

10

【0226】

次に、ステップ3126で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにてATゲーム数上乘せがあったか否かを判定する。ステップ3126でYesの場合、ステップ3028で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を上乗せ演出（AT残りゲーム数が上乗せされた旨を報知する演出であり、例えば、「+50GET」等）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3126でNoの場合、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT中演出（「AT中状態」等のAT中に実行される演出）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

20

【0227】

次に、図46は、図42のステップ3150の処理で呼び出されて実行される復活可否演出決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3152で、副制御基板SのCPUSCは、復活抽選に当選したか否かを判定する。ステップ3152でYesの場合、ステップ3154で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（成功）（前述した、ステップ3116にて実行される演出と同様の演出態様であり、「復活可否演出用状態」にて復活抽選に当選した旨を報知する演出であり、次ゲームにて「AT中状態」に移行し、ATカウンタM60に初期値がセットされることとなる）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3152でNoの場合、ステップ3156で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（失敗）（「復活可否演出用状態」にて復活抽選に非当選であった旨を報知する演出であり、次ゲームにて「低確率状態」に移行することとなる）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

30

【0228】

尚、前述したように、「復活可否演出用状態」も有利区間となっている、即ち、「有利区間」であるAT最終ゲーム（「AT中状態」の最終ゲーム）にて継続抽選に当選しなかった場合にも、次ゲームである「復活可否演出用状態」においても「有利区間」を延長するよう構成されているため、遊技者は有利区間表示器YHが点灯しているか否かを確認しただけでは、復活演出が成功するか否かを判別することが困難となり、復活演出の結果に注目することとなる。また、前述したように「AT中状態」と「復活可否演出用状態」とではATに関する抽選の実行態様が相違している。即ち、復活演出（成功）が実行される継続抽選に当選した次ゲームと、復活演出（成功）が実行される復活抽選に当選したゲームと、ではATに関する抽選の実行態様が相違することとなる。

40

【0229】

尚、第1実施形態においては、AT中状態が終了した次のゲームにて1ゲームの「復活可否演出用状態」に移行し、当該「復活可否演出用状態」にて復活抽選を実行するよう構成することで、復活演出（成功）の実行ゲームと復活演出（失敗）の実行ゲームとのいずれも「有利区間」とする、即ち、有利区間表示器YHを点灯するよう構成することで、演出の結果を確認せずともATが終了するか否かを判別できてしまうことを防止したが、このような構成としては、以下のように構成してもよい。

50

(1) 復活抽選を実行する1ゲームにおいてもATに関する状態を「AT中状態」とし、復活抽選を実行する1ゲームにおいては復活フラグをオンにし、復活抽選を実行するゲーム以前のゲームにおいては復活フラグをオフにすることにより、ATに関する異なる抽選態様とする。

(2) 復活抽選を実行しないよう構成し、主制御基板M側の制御ではあくまで継続抽選に当選するか否かで「AT中状態」が終了するか否かが決定するよう構成し、かつ、継続抽選の実行タイミングをAT最終ゲームよりも前のゲーム(AT最終ゲームの1ゲーム前、実行中のセットの最初のゲーム、等)とする。そのように構成し、AT最終ゲームにて副制御基板S側の演出として復活演出(成功)と復活演出(失敗)とが実行され得る。演出の一例としては、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(成功)→AT最終ゲーム: 次セットのATが開始される旨の演出」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(次ゲームに継続)→AT最終ゲーム: AT継続煽り演出(成功)」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(失敗)→AT最終ゲーム: 復活演出(成功)」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(失敗)→AT最終ゲーム: 復活演出(失敗)」等が実行するよう構成してもよい。即ち、主制御基板M側では継続抽選に当選するか否かによって「AT中状態」が継続する(次セットが実行される)か否かを決定しており、副制御基板S側の演出にてAT継続煽り演出や復活演出を実行するよう構成してもよい。

(3) 復活演出(成功)が実行されるゲームにて、所定のタイミングまで復活演出(失敗)と同様の演出態様にて演出を実行し、当該所定のタイミングから復活演出(成功)である旨を報知する、即ち、当該所定のタイミングにて遊技者にATが継続する旨を報知するよう構成してもよい。そのように構成した場合における、前記所定のタイミングとしては、

(1) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係るベットボタン操作タイミング(遊技メダル投入タイミング)であり、継続抽選に当選している場合に実行可能となる、

(2) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係るスタートレバー操作タイミングであり、スタートレバー操作タイミングとなった場合には復活演出(敗北)と同様の演出態様となる演出は実行されない、

(3) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第1停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第1停止オンとなったタイミング)、

(4) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第1停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第1停止オン→オフとなったタイミング)、

(5) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第2停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第2停止オンとなったタイミング)、

(6) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第2停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第2停止オン→オフとなったタイミング)、

(7) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第3停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第3停止オンとなったタイミング)、

(8) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第3停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第3停止オン→オフとなったタイミング)、
等としてもよいし、

(9) 復活演出(成功)が実行されるゲームの次ゲームに係るベットボタン操作タイミング(遊技メダル投入タイミング)、

(10) 復活演出(成功)が実行されるゲームの次ゲームに係るスタートレバー操作タイミング、

等としてもよい。また、上記の(1)～(10)のような様々なタイミングのうちいずれのタイミングとするかを抽選によって決定するよう構成した場合には、第1停止となる停止ボタンを押下したタイミング以降において、継続抽選と復活抽選とのいずれにも当選していない場合にも有利区間表示器YHが継続して点灯しているため、遊技者は、第3停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング、または、復活演出が実行

10

20

30

40

50

されるゲームの次ゲームに係るスタートレバー操作タイミングまで、A Tが継続することに期待感を抱きながら遊技をすることができる。

【0230】

＜スタートレバー操作時処理＞

次に、図47は、図41のステップ2300の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時処理を示すサブルーチンである。

【0231】

次に、ステップ2302で、副制御基板SのC P U S Cは、A Tに関する状態がA T中状態であるか否かを判定する。ステップ2302でY e sの場合、換言すれば、A Tに関する状態がA T中状態である場合には、ステップ2350で、副制御基板SのC P U S Cは、後述するスタートレバー操作時A T中処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

10

【0232】

次に、ステップ2302でN oの場合、換言すれば、A Tに関する状態がA T中状態でない場合には、ステップ2304で、副制御基板SのC P U S Cは、A Tに関する状態が特化前兆状態であるか否かを判定する。ステップ2304でY e sの場合、換言すれば、A Tに関する状態が特化前兆状態である場合には、ステップ2400で、副制御基板SのC P U S Cは、後述するスタートレバー操作時特化前兆処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

20

【0233】

次に、ステップ2304でN oの場合、換言すれば、A Tに関する状態が「特化前兆状態」でない場合には、ステップ2306で、副制御基板SのC P U S Cは、A Tに関する状態が「上乗せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ2306でY e sの場合、換言すれば、A Tに関する状態が「上乗せ特化状態」である場合には、ステップ2450で、副制御基板SのC P U S Cは、後述するスタートレバー操作時上乗せ特化処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0234】

次に、ステップ2306でN oの場合、換言すれば、A Tに関する状態が「上乗せ特化状態」でない場合には、ステップ2307で、副制御基板SのC P U S Cは、A Tに関する状態は「有利B B内部中遊技」であるか否かを判定する。ステップ2307でY e sの場合、換言すると、A Tに関する状態は「有利B B内部中遊技」である場合には、ステップ2700で、副制御基板SのC P U S Cは、スタートレバー操作時有利B B内部中処理のサブルーチンを呼び出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

30

【0235】

ステップ2307でN oの場合、換言すると、A Tに関する状態は「有利B B内部中遊技」でない場合には、ステップ2308で、副制御基板SのC P U S Cは、R T状態は、「R T1」であるか否かを判定する。ステップ2308でY e sの場合、換言すれば、R T状態は、「R T1」である場合には、ステップ2310で、副制御基板SのC P U S Cは、A Tに関する状態は、押し順ナビなし（押し順ナビが発生しないA Tに関する状態であり、「低確率状態」、「通常B B内部中遊技」、「通常B B状態」等となっている）であるか否かを判定する。ステップ2310でY e sの場合、換言すれば、A Tに関する状態が押し順ナビなしである場合には、ステップ2312で、副制御基板SのC P U S Cは、回避コマンドを受信したか否かを判定する。尚、前述したように、逆押し指示コマンド、逆押し回避コマンド、順押し指示コマンド、順押し回避コマンドを副制御基板S側が受信したことにより、押し順ナビに関する演出を実行し得る構成ではなく、A T上乗せ抽選に当選した場合に、主制御基板M側がA T上乗せ抽選に当選した旨およびA T上乗せゲーム数に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、副制御基板S側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板S側で押し順ナビに関する演出の実行タイミングや演出態様を決定するよう構成してもよい。

40

50

【0236】

ステップ2312でYesの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ2314で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。このように、第1実施形態においては、「RT1」且つ「AT中状態」である状況からゲーム数が経過してATカウンタ値が0となることにより「RT1」且つ「低確率状態」に移行した場合に（再遊技04が停止表示される前に）、逆押し白7揃いリプレイまたは順押し黒7揃いリプレイに当選した場合には、ATゲーム数上乘せが発生しないため、白セブンまたは黒セブンが一直線とならない押し順がナビされるよう構成されている。また、「RT1」且つ「AT中状態」である状況からゲーム数が経過してATカウンタ値が0となることにより「RT1」且つ「低確率状態」に移行した場合には、まだ「有利区間」とし、押し順ベルに当選したゲームにおいては押し順ナビが発生可能であるが、押し順再遊技に当選したゲームにおいては押し順ナビが発生しないよう構成してもよい。

10

【0237】

副制御基板SのCPUSCは、ステップ2308でNoの場合、ステップ2310でNoの場合、ステップ2312でNoの場合には、ステップ2316で、ATに関する状態に基づき演出画像および背景画像を表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0238】

20

<スタートレバー操作時AT中処理>

次に、図48は、図47のステップ2350の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時AT中処理を示すサブルーチンである。

【0239】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2352で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ2354で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2356で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（または、押し順再遊技）が当選したこと、および正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。例えば、押し順ベル実行時の押し順ナビ表示と押し順再遊技の押し順ナビ表示とを同一の表示態様グループ（例えば、数字にて押し順を報知し、且つ、数字に係る表示色が同一）にて表示するように構成した場合に適用することができる。また、そのように構成した場合には、演出表示装置S40にて押し順ナビ実行時に、押し順ナビ表示とは異なる演出用画像（例えば、キャラクタ画像）を表示するよう構成し、押し順ベルに係る押し順ナビ実行時と押し順再遊技に係る押し順ナビ実行時とで異なる演出用画像を表示するよう構成してもよい。

30

40

【0240】

次に、ステップ2358で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞-A1～入賞-A6のいずれかとなっている。

【0241】

ステップ2358でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2360で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態

50

様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンの各々を、左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2 および右停止ボタン D 4 3 に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞 - A 1 に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「左→中→右」に対応する押し順を示唆する数字を、円で囲った表示態様で表示する。

【0242】

次に、ステップ 2358 で N o の場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでない場合には、ステップ 2362 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技 - D 1 ~ D 3 のいずれかとなっている。

10

【0243】

ステップ 2362 で Y e s の場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ 2364 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の 3 択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を演出表示装置 S 4 0 に表示する。ここで、押し順は、3 択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2 または右停止ボタン D 4 3 のいずれかに対応させる情報である。例えば、第一停止ボタンが左停止ボタン D 4 1 である場合には、数字の 1 のみが、押し順ナビ表示として表示される。

【0244】

ステップ 2362 で N o の場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ 2366 で、副制御基板 S の C P U S C は、回避コマンドを受信したか否かを判定する。ここで、順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとを総称して回避コマンドと称している。ステップ 2366 で Y e s の場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ 2368 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。

20

【0245】

次に、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2366 で N o の場合、前述したステップ 2360、2364 または 2368 の処理を実行した後、ステップ 2370 で、A T 中背景画像を演出表示装置 S 4 0 に表示する。

30

【0246】

次に、ステップ 2372 で、副制御基板 S の C P U S C は、A T 残りゲーム数が 3 ゲーム以下であるか否かを判定する。ステップ 2372 で Y e s の場合、換言すれば、A T 残りゲーム数が 3 ゲーム以下である場合には、ステップ S 2374 で、副制御基板 S の C P U S C は、A T 残りゲーム数を表示態様 B（後述する表示態様 A よりも目立たない表示態様）で演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【0247】

次に、ステップ 2376 で、副制御基板 S の C P U S C は、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ 2376 で、Y e s の場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ 2378 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。

40

【0248】

ステップ 2376 で、N o の場合、またはステップ 2378 の処理を実行した場合には、ステップ 2380 で、副制御基板 S の C P U S C は、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ 2380 で、Y e s の場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ 2382 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【0249】

50

副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 3 8 0 で、N o の場合、またはステップ 2 3 8 2 の処理実行した場合には、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行させる。

【0 2 5 0】

ステップ 2 3 7 2 で N o の場合、換言すれば、A T 残りゲーム数が 4 ゲーム以上である場合には、ステップ S 2 3 8 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、A T 残りゲーム数を表示態様 A（前述した表示態様 B よりも目立つ表示態様）で演出表示装置 S 4 0 に表示する。ここで、4 ゲーム以上である場合には、表示態様 A で表示し、3 ゲーム以下である場合には、表示態様 B で表示する。

【0 2 5 1】

次に、ステップ 2 3 8 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ 2 3 8 6 で、Y e s の場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ 2 3 8 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【0 2 5 2】

ステップ 2 3 8 6 で、N o の場合、またはステップ 2 3 8 8 の処理実行した場合には、ステップ 2 3 9 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ 2 3 9 0 で、Y e s の場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ 2 3 9 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【0 2 5 3】

副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 3 9 0 で、N o の場合、またはステップ 2 3 9 2 の処理実行した場合には、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行させる。このように、A T 残りゲーム数が少ない場合、換言すると A T 残りゲーム数の表示を表示態様 A よりも目立つ表示態様である表示態様 B にて表示している場合には、順押し指示コマンドまたは逆押し指示コマンドを受信しても矢印の画像と共に「7 を狙え！」と表示する演出を実行せず、白セブンおよび黒セブンが無効ラインに停止表示しない押し順である中リールを第 1 停止リールとする押し順ナビを実行するよう構成した。このように構成することにより、A T 残りゲーム数が少ない状況において、A T 残りゲーム数が少ないことを遊技者に対して煽る表示態様である表示態様 B にて A T 残りゲーム数を表示している場合には、矢印の画像や「7 を狙え！」の表示によって当該表示態様 B の A T 残りゲーム数の表示の視認性を妨げないように構成することができる。同様に、演出表示装置 S 4 0 に表示されている A T 残りゲーム数が少ない状況にて「A T 中状態」（押し順ナビが実行され得る A T に関する状態）が継続するか否かを煽る連続演出（例えば、バトル演出）を実行するよう構成した場合にも、バトル演出の実行中は矢印の画像や「7 を狙え！」が表示されないよう構成することで、バトル演出の視認性を妨げないように構成することができる。また、このように構成することにより、演出表示装置 S 4 0 における A T 残りゲーム数が 0 となり且つバトル演出に敗北して「A T 中状態」が終了する旨が表示された場合にも、当該バトル演出中に順押し指示コマンドまたは逆押し指示コマンドを受信していた場合には、「A T 中状態」が終了する旨が表示された以降のベットボタン D 2 2 0 の操作タイミング等にて順押し指示コマンドまたは逆押し指示コマンドに基づく（順押し黒 7 リプレイまたは逆押し白 7 リプレイの当選に基づく）A T 上乗せゲーム数を報知する、即ち、A T 上乗せ抽選に当選したゲームでは A T ゲーム数が上乗せされたことを報知せず、以降のタイミングにて当該 A T ゲーム数が上乗せされたことを報知するよう構成することができ、遊技の興趣性が高まることとなる。

【0 2 5 4】

<スタートレバー操作時特化前兆処理>

次に、図 4 9 は、図 4 7 のステップ 2 4 0 0 の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時特化前兆処理を示すサブルーチンである。

【0255】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2402で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ2404で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2406で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（または、押し順再遊技）が当選したこと、および正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

10

【0256】

次に、ステップ2408で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞 - A1～入賞 - A6のいずれかとなっている。

【0257】

ステップ2408でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2410で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第2の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンの各々を、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞 - A2に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「左→右→中」に対応する押し順を示唆する数字を星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループおよび第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

20

【0258】

次に、ステップ2408でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでない場合には、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2412で、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技 - D1～D3のいずれかとなっている。

30

【0259】

ステップ2412でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2414で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第2の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42または右停止ボタンD43のいずれかに対応させる情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、演出表示装置S40における停止すべきリールに対応する停止ボタンD40に近い位置に押し順の情報が表示される。

40

【0260】

次に、ステップ2412でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2416で、副制御基板SのCPUSCは、順押し指示コ

50

マンドを受信したか否かを判断する。ステップ2416でYesの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2418で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。

【0261】

次に、ステップ2416でNoの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2420で、副制御基板SのCPUSCは、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判断する。ステップ2420でYesの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2422で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。

10

【0262】

次に、ステップ2420でNoの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2424で、副制御基板SのCPUSCは、回避コマンドを受信したか否かを判断する。ここで、順押し回避コマンドと、逆押し回避コマンドとを総称して回避コマンドを称している。ステップ2424でYesの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ2426で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第2の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。

20

【0263】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2410、2414、2418、2422、2426の処理を実行した場合、または、ステップ2424でNoの場合には、ステップ2428で、AT中背景画像を演出表示装置S40に表示し、ステップS2430で、AT残りゲーム数を表示態様Aで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0264】

<スタートレバー操作時上乗せ特化処理>

次に、図50は、図47のステップ2450の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時上乗せ特化処理を示すサブルーチンである。

30

【0265】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2452で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ2454で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2456で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（または、押し順再遊技）が当選したこと、および正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

40

【0266】

次に、ステップ2458で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベルまたは共通ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞-A1～入賞-A6、入賞-Bのいずれかとなっている。

【0267】

ステップ2458でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルまたは共通ベルである場合には、ステップ2460で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第

50

1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンの各々を、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞-A4に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「右→左→中」に対応する押し順を示唆する数字を、星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループおよび第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

【0268】

次に、前述したステップ2458でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでも共通ベルでもない場合には、ステップ2462で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技-D1～D3のいずれかとなっている。

【0269】

ステップ2462でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2464で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42または右停止ボタンD43のいずれかに対応させた情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、停止すべきリールに対応するストップスイッチに近い位置に押し順の情報が表示される。

【0270】

次に、前述したステップ2462でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2466で、副制御基板SのCPUSCは、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2466でYesの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2468で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。すなわち、押し順は、順押しであるので、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンは、順に、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43であり、左から右に向く矢印の画像によって押し順を示唆することができる。

【0271】

次に、前述したステップ2466でNoの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2470で、副制御基板SのCPUSCは、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2470でYesの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2472で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。すなわち、押し順は、逆押しであるので、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンは、順に、右停止ボタンD43、中停止ボタンD42および左停止ボタンD41であり、右から左に向く矢印の画像によって押し順を示唆することができる。

【0272】

次に、前述したステップ2470でNoの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2474で、副制御基板SのCPUSCは、回避コマン

10

20

30

40

50

ドを受信したか否かを判定する。ステップ2474でYesの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ2476で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、回避コマンドは、順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとの双方のコマンドを総称する。したがって、順押し回避コマンドを受信した場合でも、逆押し回避コマンドを受信した場合でも、ステップ2476の処理が実行される。例えば、順押し回避コマンドを受信した場合には、順押し「左→中→右」を回避するために、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」を表示して、第一停止ボタンが右停止ボタンD43であるかのような情報を、押し順ナビ表示として表示する。

【0273】

10

次に、副制御基板SのCPUSCは、前述したステップ2460、2464、2468、2472、2476の処理を実行した場合、または2474でNoの場合には、ステップ2480で、AT中背景画像を演出表示装置S40に表示し、ステップ2482で、AT残りゲーム数を表示態様Aで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0274】

<スタートレバー操作時有利BB内部中処理>

次に、図51は、図47のステップ2700の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時有利BB内部中処理を示すサブルーチンである。

【0275】

20

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2702で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ2704で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2706で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（または、押し順再遊技）が当選したこと、および正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

30

【0276】

次に、ステップ2708で、副制御基板SのCPUSCは、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過していないか否かを判定する。ステップ2708でYesの場合、換言すれば、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過していない場合には、ステップ2710で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベルまたは共通ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞-A1～入賞-A6、入賞-Bのいずれかとなっている。

【0277】

40

ステップ2710でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルまたは共通ベルである場合には、ステップ2712で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタンおよび第三停止ボタンの各々を、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42および右停止ボタンD43に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞-A4に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「右→左→中」に対応する押し順を示唆する数字を、星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループおよび第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、

50

数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

【0278】

次に、前述したステップ2710でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでも共通ベルでもない場合には、ステップ2714で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技-D1～D3のいずれかとなっている。

【0279】

ステップ2714でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2716で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42または右停止ボタンD43のいずれかに対応させた情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、停止すべきリールに対応するストップスイッチに近い位置に押し順の情報が表示される。

【0280】

次に、前述したステップ2714でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2718で、副制御基板SのCPUSCは、7リプレイに関するコマンドを受信したか否かを判定する。ここで、順押し指示コマンドと逆押し指示コマンドと順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとを総称して7リプレイコマンドと称する。ステップ2718でYesの場合、換言すれば、7リプレイに関するコマンドを受信した場合には、ステップ2720で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。

【0281】

次に、副制御基板SのCPUSCは、前述したステップ2712、2716、2720の処理を実行した場合、またはステップ2718でNoの場合には、ステップ2722で、AT中背景画像を演出表示装置S40に表示し、ステップS2724で、AT残りゲーム数を表示態様Aで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0282】

ステップ2708でNoの場合、換言すれば、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過した場合には、ステップ2726で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40にて、BBに当選していることを報知し（この処理では、押し順ナビは表示しない）、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【0283】

<第1回胴停止受付時処理>

次に、図52は、図41のステップ2500の処理で呼び出されて実行される第1回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

【0284】

次に、ステップ2502で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ2502でYesの場合、換言すれば、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ2504で、副制御基板SのCPUSCは、第1停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

【0285】

次に、ステップ 2504 で Yes の場合、換言すれば、第 1 停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ 2506 で、副制御基板 S の CPU SC は、押し順ナビ表示における第 1 停止に係る表示を消去し、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

【0286】

次に、ステップ 2504 で No の場合、換言すれば、第 1 停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ 2508 で、副制御基板 S の CPU SC は、順押しナビまたは逆押しナビに係る押し順ナビの表示中であるか否かを判定する。ここで、7 リプレイとは、順押し黒 7 揃いリプレイと逆押し白 7 揃いリプレイとの総称である。ステップ 2508 で、Yes の場合には、ステップ 2510 で、副制御基板 S の CPU SC は、押し順ナビを暗転表示し（当該ゲーム中では暗転表示され続ける）、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

10

【0287】

ステップ 2508 で No の場合、換言すれば、7 リプレイに係る押し順ナビの表示中ではない場合には、ステップ 2512 で、副制御基板 S の CPU SC は、押し順ナビ表示を全て消去し、押し順失敗演出を実行し、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

【0288】

<第 2 回胴停止受付時処理>

次に、図 53 は、図 41 のステップ 2550 の処理で呼び出されて実行される第 2 回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

20

【0289】

次に、ステップ 2552 で、副制御基板 S の CPU SC は、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ 2552 で Yes の場合、換言すると、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ 2554 で、副制御基板 S の CPU SC は、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ステップ 2554 で Yes の場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ 2556 で、副制御基板 S の CPU SC は、第 2 停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

【0290】

30

次に、ステップ 2556 で Yes の場合、換言すると、第 2 停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ 2558 で、副制御基板 S の CPU SC は、押し順ナビ表示における第 2 停止に係る表示を消去し、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

【0291】

次に、ステップ 2556 で No の場合、換言すると、第 2 停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ 2560 で、副制御基板 S の CPU SC は、押し順ナビ表示をすべて消去し、押し順失敗演出を実行し、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

【0292】

40

次に、ステップ 2552 で No の場合、換言すると、押し順ナビが表示中でない場合、または、ステップ 2554 で No の場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルでない場合には、直ちに、次の処理（ステップ 2110 の処理）に移行させる。

【0293】

<第 3 回胴停止時演出関連決定処理>

次に、図 54 は、図 41 のステップ 3200 の処理で呼び出されて実行される第 3 回胴停止時演出関連決定処理を示すサブルーチンである。

【0294】

次に、ステップ 3202 で、副制御基板 S の CPU SC は、BB 役が入賞したか否かを判定する。ステップ 3202 で Yes の場合、換言すると、BB 役が入賞した場合には、

50

ステップ3204で、副制御基板SのCPUSCは、非AT中（「低確率状態」または「高確率状態」）に当選したBB役であるか否かを判定する。ステップ3204でYesの場合、換言すると、非AT中に当選したBB役である場合、ステップ3206で、副制御基板SのCPUSCは、非AT中BB開始演出決定テーブルを参照し、当該ゲームのATに関する状態およびBB役に基づき、BB開始演出（BB役を入賞させると実行される演出）を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行する。

【0295】

次に、ステップ3204でNoの場合、換言すると、AT中（「AT中状態」、「上乗せ特化状態」、「特化準備状態」または「復活可否演出用状態」）に当選したBB役である場合、ステップ3208で、副制御基板SのCPUSCは、AT中BB開始演出決定テーブルを参照し、当該ゲームのATに関する状態およびBB役に基づき、BB開始演出を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行させる。

10

【0296】

次に、ステップ3202でNoの場合、換言すると、BB役が入賞しない場合、ステップ3210で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにて実行された演出に基づき演出を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行させる。

【0297】

図54の下左に示す非AT中BB開始演出決定テーブルは、非AT状態におけるBBの開始時点の演出を決定するためのテーブルである。非AT中BB開始演出決定テーブルは、BB役の種類とATに関する状態とBB開始演出の種類と確率（振分）との関係を規定するためのテーブルである。BB役の種類は、設定差ありBB（1種BB-B）と、設定差なしBB（1種BB-Aおよび1種BB-C）との2種類である。ATに関する状態は、「通常BB内部中遊技」と、「有利BB内部中遊技」との2種類である。BB開始演出は、通常演出と高期待度演出とプレミア演出との3種類である。尚、非AT中にて当選したBBにおける、BB開始演出の種類によって、BB終了後に「AT中状態」に移行する期待度が相違するよう構成されており、期待度の低いものから「通常演出→高期待度演出→プレミア演出」の順になっている。

20

【0298】

BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が通常BB内部中遊技である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミア演出となる確率は、 $0/256$ である。

30

【0299】

BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミア演出となる確率は、 $0/256$ である。

40

【0300】

BB役が設定差なしBB（1種BB-Aおよび1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-Aおよび1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-Aおよび1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常

50

ＢＢ内部中遊技」である場合に、ＢＢ開始演出がプレミア演出となる確率は、 $0 / 256$ である。

【0301】

ＢＢ役が設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）であり、当該ゲームのＡＴに関する状態が「有利ＢＢ内部中遊技」である場合に、ＢＢ開始演出が通常演出となる確率は、 $67 / 256$ である。ＢＢ役が設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）であり、当該ゲームのＡＴに関する状態が「有利ＢＢ内部中遊技」である場合に、ＢＢ開始演出が高期待度演出となる確率は、 $157 / 256$ である。ＢＢ役が設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）であり、当該ゲームのＡＴに関する状態が「有利ＢＢ内部中遊技」である場合に、ＢＢ開始演出がプレミア演出となる確率は、 $32 / 256$ である。

10

【0302】

「通常区間」であるときには、設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）に当選した場合でも、設定差ありＢＢ（１種ＢＢ－Ｂ）に当選した場合でも、プレミア演出が選択されることはなく、高期待度演出よりも通常演出が選択される可能性が高くなるように定められている。

【0303】

有利区間であっても、設定差ありＢＢ（１種ＢＢ－Ｂ）に当選した場合には、プレミア演出が選択されることはなく、高期待度演出よりも通常演出が選択される可能性が高くなるように定められている。

20

【0304】

「有利区間」であり、設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）に当選した場合には、プレミア演出が選択される可能性がある。このように構成したことにより、プレミア演出が選択されることで、設定差なしＢＢに当選したことで、設定差なしＢＢが終了した後に「ＡＴ中状態」に移行することが確定していることを遊技者に示すことができる。また、「有利区間」であり、設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）に当選した場合には、通常演出よりも高期待度演出が選択される可能性が高くなる（通常演出が選択される可能性が低くなる）ように定められている。このようにすることで、遊技者は、ＢＢ開始演出を確認することによって、ＢＢ終了後にＡＴが開始されるのか否かを推測することができ、ＡＴの当選に期待感を抱くことができる。尚、「通常ＢＢ内部中遊技」にて入賞した設定差ありＢＢ（１種ＢＢ－Ｂ）に係るＢＢ開始演出の振分と、「通常ＢＢ内部中遊技」にて入賞した設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）に係るＢＢ開始演出の振分とは同一の振分となっている。尚、これには限定されず、「通常ＢＢ内部中遊技」にて入賞した設定差ありＢＢ（１種ＢＢ－Ｂ）に係るＢＢ開始演出の振分と、「通常ＢＢ内部中遊技」にて入賞した設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）に係るＢＢ開始演出の振分とを相違させてもよく、そのように構成することにより、設定差ありＢＢに関するＢＢ開始演出であるか設定差なしＢＢに関するＢＢ開始演出であるかによって振分が相違するよう構成することができる。

30

【0305】

図５４の下右に示すＡＴ中ＢＢ開始演出決定テーブルは、ＡＴ中におけるＢＢの開始時点の演出を決定するためのテーブルである。ＡＴ中ＢＢ開始演出決定テーブルも、ＢＢ役の種類とＡＴに関する状態とＢＢ開始演出の種類と確率（振分）との関係を規定するためのテーブルである。ＢＢ役の種類は、設定差ありＢＢ（１種ＢＢ－Ｂ）と、設定差なしＢＢ（１種ＢＢ－Ａおよび１種ＢＢ－Ｃ）との２種類である。ＡＴに関する状態は、「有利ＢＢ内部中遊技」との１種類である。ＢＢ開始演出は、上乗せ可能演出と上乗せ不可演出との２種類である。上乗せ可能演出はＢＢの実行中にＡＴ上乗せ抽選が実行され得ることを示唆する演出であり、上乗せ不可演出はＢＢの実行中にＡＴ上乗せ抽選が実行されないことを示唆する演出である。ＡＴ中に当選したＢＢについては、ＡＴ抽選に当選するか否かという要素がなく、ＢＢの種類によってはＡＴ上乗せ抽選が実行されるか否かが相違し得ることとなる。また、ＡＴ中においては、ＡＴ上乗せ抽選が実行されない設定差ありＢ

40

50

Bにおいても、遊技メダルが獲得できることとB B終了後には遊技者に有利なA T中となることにより、実行されるB BがA T上乗せ抽選が実行されるか否かを明確に報知するよう構成されている。以下、具体例を詳述する。

【0306】

B B役が設定差ありB B（1種B B - B）であり、当該ゲームのA Tに関する状態が「有利B B内部中遊技」である場合に、B B開始演出が上乗せ可能演出となる確率は、 $0 / 256$ であり、上乗せ可能演出が実行されることはない。B B役が設定差ありB B（1種B B - B）であり、当該ゲームのA Tに関する状態が「有利B B内部中遊技」である場合に、B B開始演出が上乗せ不可演出となる確率は、 $256 / 256$ であり、必ず上乗せ不可演出が実行される。B B役が設定差なしB B（1種B B - Aおよび1種B B - C）であり、当該ゲームのA Tに関する状態が「有利B B内部中遊技」である場合に、B B開始演出が上乗せ可能演出となる確率は、 $256 / 256$ であり、必ず上乗せ可能演出が実行される。B B役が設定差なしB B（1種B B - Aおよび1種B B - C）であり、当該ゲームのA Tに関する状態が「有利B B内部中遊技」である場合に、B B開始演出が上乗せ不可演出となる確率は、 $0 / 256$ であり、上乗せ不可演出が実行されることはない。

【0307】

<第3回胴停止受付時処理>

次に、図55は、図41のステップ2600の処理で呼び出されて実行される第3回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

【0308】

次に、ステップ2602で、副制御基板SのC P U S Cは、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ2602でY e sの場合、換言すると、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ2604で、副制御基板SのC P U S Cは、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ステップ2604でY e sの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2606で、副制御基板SのC P U S Cは、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

【0309】

次に、ステップ2606でY e sの場合、換言すると、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ2608で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順成功演出として演出表示装置S 40にて「G E T !」を表示する。他方、ステップ2606でN oの場合、換言すると、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ2610で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順成功演出の「G E T !」を表示しない。

【0310】

前述したステップ2602でN oの場合、換言すると、押し順ナビが表示中でない場合、ステップ2604でN oの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルでない場合、または、ステップ2608若しくは2610の処理を実行した場合には、ステップ2612で、副制御基板SのC P U S Cは、メイン側からA T上乗せゲーム数に係るコマンド（ステップ1517にてセットしたコマンド）を受信したか否かを判定する。尚、前述したように、主制御基板MがA T残りゲーム数を示すコマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sは前回受信したA T残りゲーム数を示すコマンドとの差分を算出することによりA Tゲーム数の上乗せが実行されたか否かおよびA T上乗せゲーム数を判断し、A T上乗せゲーム数を表示可能に構成してもよい。

【0311】

次に、ステップ2612でY e sの場合、換言すると、メイン側からA Tゲーム数に係るコマンドを受信した場合には、ステップ2614で、副制御基板SのC P U S Cは、演出表示装置S 40にてA T上乗せゲーム数を表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。他方、ステップ2612でN oの場合、換言すると、メイン側からA Tゲーム数に係るコマンドを受信していない場合には、ステップ2616で、副制御基板S

のCPU SCは、演出表示装置S 4 0にてAT上乘せゲーム数を表示せずに、次の処理（ステップ2 1 1 0の処理）に移行させる。また、AT上乘せゲーム数の報知方法として、（１）上乘せゲーム数の全てを当該遊技で報知する、（２）上乘せゲーム数の一部を当該遊技で報知し、残りの遊技数を当該遊技以降の遊技で報知する、（３）当該遊技では上乘せゲーム数を報知せず、当該遊技以降の遊技（例えば、７リプレイ当選時や、共通ベル当選時（本来上乘せされない役の当選時）や、複数遊技（連続演出）を実行した後や、演出表示装置S 4 0の残り遊技数が「０」となった遊技、または「０」となった遊技の次遊技のベットボタンD 2 2 0操作、スタートレバーD 5 0の操作）で報知したりすることができる。

【0 3 1 2】

なお、「上乘せ特化状態」にて共通ベルに当選した場合には、押し順ナビに従って停止させた場合であっても、AT上乘せゲーム数に関する表示をしない（共通ベルではAT上乘せ抽選をしていない）。

【0 3 1 3】

以上のように構成することにより、第１実施形態に係る回胴式遊技機によれば、「有利区間」において有利区間表示器Y Hが点灯するよう構成した遊技機において、遊技者にとって有利である期間を適切に報知可能に構成することができる。また、「復活可否演出状態」を設けることにより、継続演出に当選し、その後復活演出（成功）が実行される場合においては、当該復活演出（成功）が実行されるゲームのATに関する状態は「AT中状態」であるため有利区間表示器Y Hが点灯しており、一方、継続演出に非当選となり、その後復活演出（失敗）が実行される場合においても、当該復活演出（失敗）が実行されるゲームのATに関する状態を「復活可否演出用状態」とし、当該ATに関する状態を「有利区間」とすることにより、有利区間表示器Y Hは点灯することとなる。このように構成することにより、復活演出を実行するゲームにて有利区間表示器Y Hを視認することにより、復活演出が成功するのか失敗するのかを認識し難いよう構成することができることとなり、遊技者にとって有利である期間を適切に報知可能に構成された遊技機において、興趣性の高い遊技機を担保することができる。

【0 3 1 4】

尚、本例においては「高確率状態」にてB B役に当選した場合にAT抽選に当選し得るよう構成し、当該B B終了後には「AT中状態」に移行し得るよう構成したが、ATに関する構成は本例のものには限定されず、例えば、チェリー等のレア役にAT抽選に当選し得る（B B役でなくとも当選し得る）よう構成し、AT抽選に当選した場合にはATに関する状態として「AT前兆状態」に移行し、「AT前兆状態」にて所定ゲーム数（例えば、１０ゲーム）遊技をすることで「AT中状態」に移行するよう構成してもよい。

【0 3 1 5】

<<<第２実施形態>>>

次に、第２実施形態について説明するが、その説明にあたり、上述の実施形態と同様な箇所には同様の符号や文言を用いることでその説明を省略或いは簡略化するものとする。なお、この第２実施形態のすべての構成は、他の実施形態に適用することが可能であり、他の実施形態のすべての構成は第２実施形態に適用可能である。

【0 3 1 6】

また、第２実施形態は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機となっているが、第２実施形態にて詳述するすべての構成は、遊技メダルを用いないメダルレスの遊技機（封入式遊技機、管理遊技機、スマートスロットなどと称することがある）にも適用することができることを補足しておく。

【0 3 1 7】

第２実施形態においては、第１実施形態との相違点についてのみ、以下に詳述することとする。

【0 3 1 8】

はじめに、図５６は、図１４におけるステップ１２００のサブルーチンに係る、遊技進

10

20

30

40

50

行制御処理のフローチャートである。第1実施形態との相違点は、ステップ3700及びステップ3800であり、すなわち、ステップ1293で、主制御基板MのCPU100は、遊技終了処理を実行した後、ステップ3700で、主制御基板MのCPU100は、後述する打ち止め監視処理を実行する。次に、ステップ3800で、主制御基板MのCPU100は、後述するMYカウンタ監視処理を実行し、次の処理（ステップ1202の処理）に移行する。

【0319】

なお、遊技進行制御処理の構成は図56に図示する構成には限定されず、ステップ3800のMYカウンタ監視処理を実行した後にステップ3700の打ち止め監視処理を実行するよう構成してもよい。また、ステップ3500の遊技区間移行制御処理をステップ1293の遊技終了処理よりも後に実行するよう構成してもよい。

10

【0320】

なお、メダルレスの回胴式遊技機に適用する場合には、ステップ1275乃至ステップ1288などの遊技機外に遊技メダルを払い出すことに関する処理は実行されない。

【0321】

次に、図57は、図56におけるステップ3700のサブルーチンに係る、打ち止め監視処理のフローチャートである。まず、ステップ3702で、主制御基板MのCPU100は、打ち止め予約フラグがオフであるか否かを判定する。打ち止め予約フラグとは後述する打ち止め状態に関するフラグであり、詳細は後述する。

【0322】

ステップ3702でYesの場合、ステップ3704で、主制御基板MのCPU100は、停止している図柄組み合わせは再遊技図柄（再遊技役に対応する図柄組み合わせを再遊技図柄と称することがある）ではないか否かを判定する。ステップ3704でYesの場合、ステップ3706で、主制御基板MのCPU100は、差数カウンタのカウンタ値を読み出してセットする。詳細は後述することとなるが、差数カウンタは、遊技機の電源投入時以降の差数を計測するカウンタであり、差数カウンタを用いることで、遊技機の電源投入時以降の、差数が最も少なくなっているタイミングを基準として、当該基準から差数が最も多くなっているタイミングまでの差数（電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数と称することがある）を計測することができるよう構成されている。

20

30

【0323】

なお、所定の基準となるタイミングからの、遊技機から払い出された遊技メダル数から遊技機に投入された遊技メダル数を減算した値を差数と称している。例えば、遊技機の電源投入時を基準として最も多くなっている差数が5000であり、最も少なくなっている差数が-2000である場合には、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数は「 $5000 - (-2000) = 7000$ 」となっている。

【0324】

次に、ステップ3708で、主制御基板MのCPU100は、実行終了した当該遊技に関するベット数が払出数よりも小さいか否かを判定する。ステップ3708でYesの場合、換言すると、当該遊技によって差数が増加した場合、ステップ3710で、主制御基板MのCPU100は、実行終了した当該遊技の差数を算出する。なお、当該遊技の差数は、例えば、当該遊技に関する払出数からベット数を減算することが算出することができる。なお、払出数を払出枚数と称することがあり、いずれの場合においても、メダルを用いる回胴式遊技機にも、メダルレスの回胴式遊技機にも適用可能である。

40

【0325】

次に、ステップ3712で、主制御基板MのCPU100は、差数カウンタのカウンタ値を更新し、ステップ3720の処理に移行する。より具体的には、ステップ3710で算出した差数を差数カウンタのカウンタ値から減算する。

【0326】

なお、第2実施形態においては、差数カウンタはデクリメントカウンタであり、カウ

50

タ値の初期値は19000であり、カウンタ値の上限値は19000であり、カウンタ値の下限值は0となっており、カウンタ値を更新した際の演算結果が19000を上回ったときに19000をセットし直し、カウンタ値を更新した際の演算結果が0を下回ったときに打ち止め予約フラグがオンとなる。また、詳細は後述するが、差数カウンタをインクリメントカウンタとしてもよく、このように構成した場合には、カウンタ値の初期値は0であり、カウンタ値の上限値は19000であり、カウンタ値の下限值は0であり、カウンタ値を更新した際の演算結果が0を下回ったときに0をセットし直し、カウンタ値を更新した際の演算結果が19000を上回ったときに打ち止め予約フラグがオンとなる。

【0327】

また、ステップ3708でNoの場合、ステップ3714で、主制御基板MのCPUC100は、実行終了した当該遊技の差数を算出する。次に、ステップ3716で、主制御基板MのCPUC100は、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果は上限値を超過したか否かを判定する。すなわち、ステップ3714で算出した差数を差数カウンタのカウンタ値から減算した結果が19000よりも大きい値となったか否かを判定している。ステップ3716でYesの場合、ステップ3718で、主制御基板MのCPUC100は、差数カウンタのカウンタ値に上限値（本例では、19000）をセットし、ステップ3720に移行する。他方、ステップ3716でNoの場合、ステップ3712に移行することとなる。

【0328】

なお、差数カウンタに関する構成は図57の構成のみには限定されず、変形例として以下のように構成してもよい。

（1）ステップ3712では、前回の遊技で保存されている差数カウンタのカウンタ値から今回の遊技の差数であるステップ3710またはステップ3714で算出した差数を減算（演算）する。

（2）上記（1）の演算結果が0以上であった場合には、当該演算結果を差数カウンタのカウンタ値として保存する。

（3）上記（1）の演算結果が0未満であった場合には、上記（2）の保存する処理を実行せずに、ステップ3722にて打ち止め予約フラグをオンにする。

【0329】

ステップ3708乃至ステップ3718の処理の具体例としては、以下のような作用が例示できる。

【0330】

＜ステップ3710の処理を実行する場合1＞

（1）実行終了した当該遊技のベット数は3であり、払出数は10であり、ステップ3710にて、「 $10 - 3 = 7$ 」が当該遊技の差数として算出される。

（2）ステップ3710で算出した差数が7であり、差数カウンタのカウンタ値が10010であった場合には、ステップ3712で、差数カウンタのカウンタ値からステップ3710で算出した差数が減算され、「 $10010 - 7 = 10003$ 」となり、差数カウンタのカウンタ値は10003となる。

【0331】

＜ステップ3710の処理を実行する場合2＞

（1）実行終了した当該遊技のベット数は3であり、払出数は10であり、ステップ3710にて、「 $10 - 3 = 7$ 」が当該遊技の差数として算出される。

（2）ステップ3710で算出した差数が7であり、差数カウンタのカウンタ値が5であった場合には、ステップ3712で、差数カウンタのカウンタ値からステップ3710で算出した差数が減算され、「 $5 - 7 = -2$ 」となり、差数カウンタのカウンタ値の下限值は0であり、当該下限値を下回るため、差数カウンタのカウンタ値は5のままとなる。なお、上記（2）においては、演算結果が下限値である0を下回る場合には、差数カウンタのカウンタ値として下限値である0をセットし直すように構成してもよいし、0を下回った演算結果（上記（2）の場合には-2）を差数カウンタのカウンタ値とするよう構成し

10

20

30

40

50

てもよい。

【0332】

＜ステップ3716で上限値を超過する場合＞

(1) 実行終了した当該遊技のベット数は3であり、払出数は0であり、ステップ3714にて、「 $0 - 3 = -3$ 」が当該遊技の差数として算出される。

(2) ステップ3714で算出した差数が-3であり、差数カウンタのカウンタ値が18998であった場合には、「 $18998 - (-3) = 19001$ 」となり、演算結果が19000よりも大きい結果となるため、ステップ3716でYesと判定される。

(3) ステップ3718で、差数カウンタのカウンタ値に上限値である19000がセットされる。

【0333】

＜ステップ3716で上限値を超過しない場合＞

(1) 実行終了した当該遊技のベット数は3であり、払出数は0であり、ステップ3714にて、「 $0 - 3 = -3$ 」が当該遊技の差数として算出される。

(2) ステップ3714で算出した差数が-3であり、差数カウンタのカウンタ値が15100であった場合には、「 $15100 - (-3) = 15103$ 」となり、演算結果が19000よりも大きい結果とならないため、ステップ3716でNoと判定される。

(3) ステップ3712で、差数カウンタのカウンタ値からステップ3714で算出した差数が減算され、「 $15100 - (-3) = 15103$ 」となり、差数カウンタのカウンタ値は15103となる。

【0334】

次に、ステップ3720で、主制御基板MのCPU100は、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果は0未満であるか否かを判定する。換言すると、ステップ3712で、前回の遊技で保存されている差数カウンタのカウンタ値から今回の遊技の差数であるステップ3710またはステップ3714で算出した差数を減算（演算）した結果が0未満であったか否かを判定する。ステップ3720でYesの場合、ステップ3722で、主制御基板MのCPU100は、打ち止め予約フラグをオンにし、ステップ3724に移行する。なお、ステップ3702でNoの場合にも、ステップ3724に移行する。また、ステップ3720でNoの場合、打ち止め状態への移行条件を充足しないため、次の処理（ステップ3800の処理）に移行する。

【0335】

次に、ステップ3724で、主制御基板MのCPU100は、次の遊技はボーナス中の遊技ではないか否かを判定する。なお、ステップ3724におけるボーナス中とは、1種BB、2種BB、RB等が相当する。ステップ3724でYesの場合、ステップ3726で、主制御基板MのCPU100は、打ち止め予約フラグをオフにする。次に、ステップ3728で、主制御基板MのCPU100は、打ち止めフラグをオンにして、次の処理（ステップ3800の処理）に移行する。なお、ステップ3724でNoの場合にも、打ち止め状態への移行条件を充足しないため、次の処理（ステップ3800の処理）に移行する。

【0336】

このように、差数カウンタのカウンタ値の更新処理は、ステップ1293の遊技終了処理よりも後のタイミングで実行するよう構成されており、ベット数に関しても、ベットされた時点では差数カウンタのカウンタ値は更新されず、遊技終了後にベット数と払出数とに基づいた差数カウンタのカウンタ値の更新が実行されることとなる。

【0337】

なお、図57においては、ステップ3726で打ち止め予約フラグがオフとなるよう構成したが、これには限定されず、以下のように構成してもよい。なお、以下の構成は1つのみを適用してもよいし、複数を適用してもよい。

(1) 打ち止め予約フラグがオンの状態で遊技機への電源供給が遮断され、その後RAMクリアを伴う電源復帰（例えば、設定キースイッチがオンの状態で電源投入されて、設定

10

20

30

40

50

変更モードに移行することとなる電源復帰）が行われた場合には、打ち止め予約フラグがオフになる。

（２）打ち止め予約フラグがオンの状態で遊技機への電源供給が遮断され、その後ＲＡＭクリアを伴わない電源復帰（例えば、設定キースイッチがオフの状態で電源投入される通常の電源復帰）が行われた場合には、打ち止め予約フラグがオフにならない。

（３）打ち止め予約フラグがオンの状態で有利区間が終了し、有利区間に関する所定の情報（詳細は後述する）が初期化された場合には、打ち止め予約フラグがオフにならない。

【０３３８】

第２実施形態においては、打ち止めフラグがオンになると、打ち止め状態となるよう構成されている。打ち止め状態については後述することとする。

【０３３９】

ここで、図５７にて図示した、第２実施形態に係る差数カウンタについて、以下に詳述する。

【０３４０】

<差数カウンタに関する構成>

（１）差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が０未満となると、打ち止め予約フラグがオンになり、次の遊技がボーナス中でない場合には、打ち止めフラグがオンになって打ち止め状態となる。

（２）差数カウンタのカウンタ値は初期値である１９０００よりも大きい値とならないようになっているため（ステップ３７１８を参照）、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が０未満となった場合は、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が１９０００を上回ったことになる。

（３）ボーナス中に差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が０未満となった場合には、打ち止め予約フラグはオンになるが、打ち止めフラグはオンにならず、その後、ボーナス終了時（次の遊技がボーナス中でない場合）に、打ち止めフラグがオンになって打ち止め状態となる。

（４）電源断が発生した後電源復帰（ＲＡＭクリアを伴わない電源復帰の場合と、ＲＡＭクリアを伴う電源復帰とのいずれも）すると、差数カウンタのカウンタ値は初期化され、初期値として１９０００がセットされる。

【０３４１】

なお、ＲＡＭクリアを伴う電源復帰とは、例えば、設定キースイッチがオンの状態で電源投入されて、設定変更モードに移行することとなる電源復帰が相当し、ＲＡＭクリアを伴わない電源復帰とは、設定キースイッチがオフの状態で電源投入される通常の電源復帰が相当する。なお、設定キースイッチがオフの状況を所定の状況下と称することがある。

【０３４２】

また、上述したように、第２実施形態に係る打ち止めフラグがオンになる条件は、電源投入時からの差数が所定数（本例では、１９０００）を上回ることではなく、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が１９０００を上回ることとなっている。

【０３４３】

次に、図５８は、図５６におけるステップ３８００のサブルーチンに係る、ＭＹカウンタ監視処理のフローチャートである。まず、ステップ３８０２で、主制御基板ＭのＣＰＵＣ１００は、実行終了した当該遊技は有利区間における遊技であったか否かを判定する。ステップ３８０２でＹｅｓの場合、ステップ３８０４で、主制御基板ＭのＣＰＵＣ１００は、ＭＹカウンタのカウンタ値を読み出してセットする。詳細は後述することとなるが、ＭＹカウンタは、有利区間開始時からの差数を計測するためのカウンタである。

【０３４４】

次に、ステップ３８０６で、主制御基板ＭのＣＰＵＣ１００は、当該遊技の差数を算出する。なお、当該遊技の差数は、例えば、当該遊技に関する払出数からベット数を減算することで算出することができる。次に、ステップ３８０８で、主制御基板ＭのＣＰＵＣ１

10

20

30

40

50

00は、MYカウンタのカウンタ値を更新する。より具体的には、ステップ3806で算出した差数をMYカウンタのカウンタ値から減算する。

【0345】

なお、第2実施形態においては、MYカウンタはデクリメントカウンタであり、カウンタ値の初期値は2400であり、カウンタ値の上限値は65535であり、カウンタ値の下限値は0となっている。

【0346】

次に、ステップ3810で、主制御基板MのCPU100は、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満であるか否かを判定する。換言すると、ステップ3810で、前回の遊技で保存されているMYカウンタのカウンタ値から今回の遊技の差数であるステップ3806で算出した差数を減算（演算）した結果が0未満であったか否かを判定する。ステップ3810でYesの場合、ステップ3812で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降の遊技区間を通常区間に決定する。次に、ステップ3814で、主制御基板MのCPU100は、有利区間に関する所定の情報（ATに関する情報と称することがあり、MYカウンタのカウンタ値、有利区間残りゲーム数カウンタのカウンタ値、遊技状態を示すフラグ等が相当する）を初期化し、次の処理（ステップ1202の処理）に移行する。なお、ステップ3802、またはステップ3810でNoの場合にも、次の処理（ステップ1202の処理）に移行する。

10

【0347】

なお、ステップ3814の処理が実行された場合、MYカウンタのカウンタ値が初期化されることとなるが、差数カウンタのカウンタ値は初期化されないよう構成されている。

20

【0348】

ここで、図58にて図示した、第2実施形態に係るMYカウンタについて、以下に詳述する。

【0349】

<MYカウンタに関する構成>

（1）MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満になると、次ゲーム以降の遊技区間が通常区間となり、有利区間に関する所定の情報が初期化される。

（2）電源断が発生した後電源復帰（RAMクリアを伴わない電源復帰）しても、MYカウンタのカウンタ値は初期化されない。

30

（3）新たに有利区間が開始された場合に、MYカウンタに初期値である2400がセットされる。

（4）MYカウンタのカウンタ値は初期値である2400よりも大きい値となり得るようになっているため、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満となった場合は、有利区間開始時からの差数が2400を上回ったことになる。

【0350】

また、電源断が発生した後にRAMクリアを伴う電源復帰が行われると、MYカウンタのカウンタ値は初期化されることとなる。

【0351】

<<MYカウンタと差数カウンタに関する図>>

40

次に、図59は、電源投入時からのMYカウンタと差数カウンタとのカウンタ値に関する具体例を図示した図である。同図においては、差数が増加した場合には差数カウンタのカウンタ値とMYカウンタのカウンタ値は減少し、差数が減少した場合には差数カウンタのカウンタ値とMYカウンタのカウンタ値は増加することとなる。なお、MYカウンタのカウンタ値が増加または減少するのは有利区間である場合となっている。

【0352】

同図上部は、差数の推移に関するグラフであり、縦軸が差数を示し、横軸がゲーム数を示している。なお、電源投入時以降の差数を単に差数と称することがある。

【0353】

まず、図中（1）のタイミングで、遊技機に電源が投入され、電源投入時の初期処理が

50

実行される。遊技区間は通常区間となっている。その後、通常区間にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中（２）のタイミングで、通常区間から有利区間となる。図中（１）のタイミングから図中（２）のタイミングまでは、通常区間であるため、差数カウンタのカウント値は更新されていくが、MYカウンタのカウント値は更新されない。

【０３５４】

その後、有利区間（例えば、AT中状態）にて遊技が進行し、差数が増加していき、図中（３）のタイミングで、任意の条件を充足して（例えば、AT残りゲーム数が０となって）有利区間が終了し、有利区間から通常区間となる。図中（２）のタイミングから図中（３）のタイミングまでは、有利区間であるため、差数カウンタのカウント値もMYカウンタのカウント値も更新されていく。なお、図中（２）のタイミングが、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングとなっている。

10

【０３５５】

ここで、電源投入時の初期処理とは、例えば、図１３にて前述した処理が相当する。

【０３５６】

その後、通常区間にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中（４）のタイミングで、通常区間から有利区間となる。図中（３）のタイミングから図中（４）のタイミングまでは、通常区間であるため、差数カウンタのカウント値は更新されていくが、MYカウンタのカウント値は更新されない。その後、有利区間（例えば、高確率状態）にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中（５）のタイミングで、当該有利区間における差数が最も少なくなっているタイミングとなる。また、図中（５）のタイミングで、ATに関する状態が移行される（例えば、高確率状態からAT中状態）。その後、有利区間（例えば、AT中状態）にて遊技が進行し、差数が増加していき、図中（６）のタイミングで、有利区間開始時からの差数（図中（４）以降の差数）が特定値（本例では、２４００）を上回ったことにより、有利区間が終了し、有利区間から通常区間となる。なお、図中（６）のタイミングにてMYカウンタのカウント値に係る演算結果が０未満となるよう構成されている。図中（４）のタイミングから図中（６）のタイミングまでは、有利区間であるため、差数カウンタのカウント値もMYカウンタのカウント値も更新されていく。

20

【０３５７】

このように、MYカウンタのカウント値に係る演算が０を下回って（０未満となってと称することがある）有利区間が終了する場合は、有利区間開始時からの差数が特定値（本例では、２４００）を上回った（超えたと称することがある）場合となっている。すなわち、図中（５）のタイミングのような、有利区間開始時から差数が減少した場合においても、当該（５）のタイミングが基準とはならず、図中（４）のタイミングの有利区間開始時を基準とした差数によって、有利区間が終了する条件を充足したか否かが決定されるよう構成されている。

30

【０３５８】

また、図中（６）のタイミングの後、通常区間にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中（７）のタイミングで、通常区間から有利区間となる。図中（６）のタイミングから図中（７）のタイミングまでは、通常区間であるため、差数カウンタのカウント値は更新されていくが、MYカウンタのカウント値は更新されない。

40

【０３５９】

その後、有利区間（例えば、AT中状態）にて遊技が進行し（途中で通常区間にも滞在しながら）、差数が増加していき、図中（８）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回ったことにより、打ち止めフラグがオンとなり、打ち止め状態となる。なお、図中（８）のタイミングにて差数カウンタのカウント値に係る演算結果が０未満になるよう構成されている。図中（７）のタイミングから図中（８）のタイミングまでは、有利区間であるため、差数カウンタのカウント値もMYカウンタのカウント値も更新されていく。

【０３６０】

このように、差数カウンタのカウント値に係る演算結果が０未満になって打ち止め状態

50

となる場合は、遊技機の電源投入時を基準とした差数が最も少なくなっているタイミングである図中（２）のタイミングからの差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合となっている。すなわち、図中（２）のタイミングのような、電源投入時から差数が減少した場合においては、電源投入時を基準とした差数が所定値（本例では、１９０００）を上回っていなくても、打ち止め状態となるよう構成されている。なお、図中（２）のタイミングから図中（８）のタイミングまでの差数が約１９０００となっている。なお、当該差数を約１９０００としているのは、図中（８）のタイミングが、図中（２）のタイミングを基準とした差数が１９０００を初めて超過したタイミングであるためであり、例えば、払出枚数が１１枚である小役が入賞した場合においては、図中（２）のタイミングから図中（８）のタイミングまでの差数は、１９００１から１９０１１までのいずれかの値となる。

10

【０３６１】

このように構成することにより、遊技場の管理者が、遊技場の営業開始前に遊技を進行させて差数を減少させた場合にも、営業開始後に打ち止め状態となるまでの差数が所定値（本例では、１９０００）を大幅に超過することはなく、打ち止め状態になりにくくして遊技者にアピールするといった不正な経営をできないようにすることができるとともに、適切に打ち止め状態とすることができる。

【０３６２】

また、ＭＹカウンタのカウンタ値に係る演算結果が０未満になって有利区間が終了する場合は、有利区間開始時からの差数（有利区間開始時を基準とした差数）が特定値（本例では、２４００）を上回った場合であり、図中（４）のタイミングから図中（６）のタイミングまでの差数が約２４００となっている。なお、当該差数を約２４００としているのは、図中（６）のタイミングが、図中（４）のタイミングを基準とした差数が２４００を初めて超過したタイミングであるためであり、例えば、払出枚数が１１枚である小役が入賞した場合においては、図中（４）のタイミングから図中（６）のタイミングまでの差数は、２４０１から２４１１までのいずれかの値となる。

20

【０３６３】

<<各種条件を充足した場合の作用>>

次に、同図下部は、ＭＹカウンタと差数カウンタに関する各種条件を充足した場合の作用をまとめた表である。「終了条件」は、有利区間が終了する条件または打ち止め状態に移行して遊技が終了する条件であり、「終了条件（カウンタ値）」は、上記終了条件を充足した際のカウンタ値であり、「通常区間」は、通常区間におけるカウンタ値の更新有無であり、「有利区間終了時」は、有利区間終了時にカウンタ値を初期化するか否かであり、「電源投入時」は、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入時にカウンタ値を初期化するか否かであり、「設定変更時」は、設定変更モードに移行する電源投入時（ＲＡＭクリアを伴う設定変更時）にカウンタ値を初期化するかであり、「カウンタ値０未満時」は、カウンタ値に係る演算結果が０未満となった以降に遊技の進行が可能か否かであり、「カウンタ値上限超過時」は、カウンタ値が上限値を上回った以降に遊技の進行が可能か否かである。

30

【０３６４】

<ＭＹカウンタ>

終了条件：有利区間の開始時からの差数が２４００を上回ると終了
 終了条件（カウンタ値）：ＭＹカウンタのカウンタ値に係る演算結果が０未満となる
 通常区間：ＭＹカウンタのカウンタ値を更新しない
 有利区間終了時：ＭＹカウンタのカウンタ値を初期化する
 電源投入時：ＭＹカウンタのカウンタ値を初期化しない
 設定変更時：ＭＹカウンタのカウンタ値を初期化する
 カウンタ値０未満時：遊技可能
 カウンタ値上限超過時：遊技可能

40

【０３６５】

50

< 差数カウンタ >

終了条件：電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が 19000 を上回ると終了

終了条件（カウンタ値）：差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となる通常区間：差数カウンタのカウンタ値を更新する

有利区間終了時：差数カウンタのカウンタ値を初期化しない

電源投入時：差数カウンタのカウンタ値を初期化する

設定変更時：差数カウンタのカウンタ値を初期化する

カウンタ値 0 未満時：打ち止め状態となり遊技不可能

カウンタ値上限超過時：遊技可能

10

【0366】

このように、有利区間で更新可能な MY カウンタに加えて、電源投入後のすべての遊技で更新可能な差数カウンタを設け、差数カウンタに基づいて打ち止め状態に移行可能とすることで、従来の遊技機よりも射幸性を抑えることができる。

【0367】

なお、第 2 実施形態の構成をメダルレスの回胴式遊技機に適用する場合には、「遊技メダル」を「遊技価値」に置き換えて適用することができる。

【0368】

< 打ち止め状態 >

第 2 実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となった場合には打ち止めフラグがオンとなり、打ち止め状態となるよう構成されており、打ち止め状態となった場合には、クレジットとして貯留されている遊技メダルやベットされている遊技メダルが精算ボタンの操作をしなくとも自動的に精算（当該自動的な精算を自動精算と称することがある）され、新たな遊技メダルの投入や、ベットボタンの操作や、スタートレバーの操作が無効になる。

20

【0369】

また、打ち止め状態となった場合には、電源をオフにした後、RAM クリアを伴わない電源投入（通常電源投入と称することがある）がされても、電源投入後においても打ち止め状態となっており（打ち止めフラグがオン）、電源をオフにした後、RAM クリアを伴う電源投入（RAM クリアボタンを操作した状態での電源投入や、設定キースイッチをオンにした状態での電源投入など）がされると、電源投入後には打ち止め状態ではなくなっている（打ち止めフラグがオフ）。なお、打ち止め状態に関する報知態様については後述する。

30

【0370】

このように構成することで、遊技場や遊技機の設計者が意図しないほどの差数（遊技者への遊技メダルの付与）が発生してしまった場合にも、打ち止め状態に移行することにより、それ以上の差数が発生しないよう構成することができ、遊技場が意図しない損失を被ることを防止することができるとともに、過度に遊技者の射幸心を煽ることがないよう構成することができる。

【0371】

また、打ち止め状態に移行する条件を満たすこととなる、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となることを、第 2 の条件を満たしたと称することがある。また、有利区間に関する所定の情報が初期化される条件を満たすこととなる、MY カウンタのカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となることを、第 1 の条件を満たしたと称することがある。

40

【0372】

< 差数カウンタに関する変更例 >

なお、第 2 実施形態における差数カウンタは、デクリメントカウンタであり、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合にカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となるよう構成されていた

50

が、これには限定されず、以下のように構成してもよい。なお、以下に示す各種数値はあくまで一例であり、変更しても問題ない。

【0373】

(構成1)

差数カウンタは、デクリメントカウンタであり、初期値は19000であり、上限値は65535であり、下限値は0である。電源投入時からの差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満となり、打ち止め状態となる。すなわち、電源投入時からの差数が所定値（本例では、19000）となった場合に打ち止め状態となるよう構成され、電源投入時から差数が減少した期間があったとしても、電源投入時を基準とした差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に打ち止め状態となるよう構成されている。

10

【0374】

(構成2)

差数カウンタは、インクリメントカウンタであり、初期値は0であり、上限値は19000であり、下限値は0である。電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が19000を上回り、打ち止め状態となる。すなわち、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）となった場合に打ち止め状態となるよう構成され、電源投入時から差数が減少した期間があった場合には、電源投入時からの最も差数が減少したタイミングを基準とした差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に打ち止め状態となるよう構成されている。

20

【0375】

(構成3)

差数カウンタは、インクリメントカウンタであり、初期値は11000であり、上限値は30000であり、下限値は0である。差数カウンタのカウンタ値は、電源投入時からの差数が所定値（本例では、19000）を上回ることとなる、30000を上回る場合に打ち止め状態となる。すなわち、電源投入時からの差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に打ち止め状態となるよう構成され、電源投入時から差数が減少した期間があったとしても、電源投入時を基準とした差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に打ち止め状態となるよう構成されている。なお、このように構成した場合には、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が下限値を下回った場合には、当該カウンタ値が0未満の値とならないため、その後、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が30000を上回って打ち止め状態となった場合には、電源投入時からの差数が所定値（本例では、19000）以下の状況で打ち止め状態になる。また、差数カウンタのカウンタ値の初期値を調整する（例えば、11000よりも大きい値）ことで、差数カウンタのカウンタ値が0を下回り難くすることができる。

30

【0376】

なお、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数を電源投入後の前記所定タイミング以降の差数と称することがあり、上記構成1における電源投入時からの差数を電源投入後の前記所定タイミング以降の差数と称することがある。

40

【0377】

<MYカウンタに関する変更例>

なお、第2実施形態におけるMYカウンタは、デクリメントカウンタであり、有利区間開始時からの差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合にカウンタ値に係る演算結果が0未満となるよう構成されていたが、これには限定されず、以下のように構成してもよい。なお、以下に示す各種数値はあくまで一例であり、変更しても問題ない。

【0378】

(構成1)

MYカウンタは、デクリメントカウンタであり、初期値は2400であり、上限値は2

50

400であり、下限値は0である。有利区間開始時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満となり、有利区間が終了して通常区間となる。すなわち、有利区間開始時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成され、有利区間開始時から差数が減少した期間があった場合には、有利区間開始時からの差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成されている。

【0379】

（構成2）

10

MYカウンタは、インクリメントカウンタであり、初期値は0であり、上限値は2400であり、下限値は0である。有利区間開始時からの差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が2400を上回り、有利区間が終了して通常区間となる。すなわち、有利区間開始時からの差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成され、有利区間開始時から差数が減少した期間があったとしても、有利区間開始時を基準とした差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成されている。

【0380】

（構成3）

20

MYカウンタは、インクリメントカウンタであり、初期値は5600であり、上限値は8000であり、下限値は0である。有利区間開始時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が8000を上回り、有利区間が終了して通常区間となる。すなわち、有利区間開始時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成され、有利区間開始時から差数が減少した期間があった場合には、有利区間開始時からの差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定値（本例では、2400）を上回った場合に有利区間が終了して通常区間となるよう構成されている。なお、このように構成した場合には、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が下限値を下回った場合には、当該カウンタ値が0未満の値とならないため、その後、MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が8000を上回って有利区間が終了した場合には、有利区間開始時からの差数が特定値（本例では、2400）未満の状況で有利区間が終了する。また、MYカウンタのカウンタ値の初期値を調整することで、MYカウンタのカウンタ値が0を下回り難くすることができる。

30

【0381】

なお、本明細書における、所定値（本例では、19000）を上回ったことを、所定値（例えば、19001）以上となったと称することがあり、所定値（本例では、19000）以下であることを、所定値（例えば、19001）未満であると称することがある。また、特定値（本例では、2400）を上回ったことを、特定値（例えば、2401）以上となったと称することがあり、特定値（本例では、2400）以下であることを、特定値（例えば、2401）未満であると称することがある。

40

【0382】

<<打ち止め事前報知状態に関する図>>

次に、図60は、打ち止め事前報知状態に関する図である。前述したように、第2実施形態においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に打ち止め状態となり、遊技が実行できなくなるよう構成している。

【0383】

遊技者が遊技を進行している途中で、突然打ち止め状態となった場合には、遊技者は突

50

然遊技が進行できなくなり、事前に認識していれば遊技を終了していたにも拘らず、認識していなかったために遊技を継続してしまい、獲得できると期待していた利益が獲得できなくなってしまう事態が発生し得る。そこで、第2実施形態においては、打ち止め状態となる前の段階、換言すると、打ち止め状態となるより少ない差数にて、打ち止め状態に近い旨を遊技者に報知することで、遊技者に不測の不利益が発生する事態を防止することができるよう構成している。

【0384】

なお、図60においては、遊技が実行される毎に差数カウンタのカウンタ値が更新され得るよう構成されている。

【0385】

まず、図中(1)のタイミングで、遊技機に電源が投入され、電源投入時の初期処理が実行される。その後、例えば、通常区間にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中(2)のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを迎える。その後、有利区間と通常区間とを遷移しながら差数が増加していき、図中(3)のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第1の値(本例では、16950)以上となる。なお、図中(3)のタイミングでは、演出表示装置S40には後述する打ち止め状態示唆表示は表示されない。

【0386】

その後、例えば、有利区間にて遊技が進行し、差数が増加していき、図中(4)のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第2の値(本例では、17000)以上となり、打ち止め事前報知状態となる。

【0387】

このように、第2実施形態においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第2の値(本例では、17000)以上となると、副制御基板S側にて打ち止め事前報知状態に移行するよう構成されている。なお、打ち止め事前報知状態は遊技者に打ち止め状態に近いことを報知するための状態であり、遊技の状況には変化が生じない。すなわち、打ち止め事前報知状態となっても、遊技は進行することができる。また、打ち止め事前報知状態となった場合、副制御基板S側で打ち止め状態示唆表示が表示されることとなる。なお、打ち止め事前報知状態となった場合に、スピーカS20から「もうすぐ打ち止め状態となります」などの音声を出力するよう構成してもよい。また、装飾ランプユニットD150などによって打ち止め事前報知状態である旨を報知するよう構成してもよい。

【0388】

また、副制御基板S側が打ち止め事前報知状態に移行する構成としては、以下のように構成してもよい。

(1) 差数カウンタのカウンタ値に関する情報を主制御基板M側から副制御基板S側に送信し、副制御基板S側は当該カウンタ値に関する情報に基づいて打ち止め事前報知状態に移行するか否かを判断する。

(2) ベット数及び払出数を主制御基板M側から副制御基板S側に遊技毎に送信し、副制御基板S側で差数を算出し、当該差数に基づいて打ち止め事前報知状態に移行するか否かを判断する。

【0389】

また、第2の値(本例では、17000)は、打ち止め状態となる差数である所定値(本例では、19000)よりも小さい値となっている。なお、不図示であるが、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第2の値(本例では、17000)以上となった場合には、主制御基板M側の所定のフラグをオンにするよう構成してもよい。

【0390】

図中(4)のタイミングで、打ち止め事前報知状態となった後、例えば、有利区間にて遊技が進行し、しばらく差数が増加していった後、例えば、通常区間にて遊技が進行して

10

20

30

40

50

差数が減少していき、図中（５）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第２の値（本例では、１７０００）未満となるが、打ち止め事前報知状態は終了しないよう構成されている。

【０３９１】

その後、例えば、通常区間にて遊技が進行し、差数が減少していき、図中（６）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第１の値（本例では、１６９５０）未満となり、打ち止め事前報知状態が終了し、副制御基板Ｓ側の打ち止め状態示唆表示も非表示となる。

【０３９２】

同図においては、図中（４）のタイミングから図中（６）のタイミングまで、打ち止め事前報知状態となっている。

10

【０３９３】

その後、例えば、通常区間にて遊技が進行し、しばらく差数が減少していった後、例えば、有利区間にて遊技が進行して差数が増加していき、図中（７）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第１の値（本例では、１６９５０）以上となるが、打ち止め事前報知状態には移行しないよう構成されている。

【０３９４】

その後、例えば、有利区間にて遊技が進行し、差数が増加していき、図中（８）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第２の値（本例では、１７０００）以上となり、再度打ち止め事前報知状態に移行し、副制御基板Ｓ側で打ち止め状態示唆表示が表示されることとなる。

20

【０３９５】

このように、第２実施形態においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が打ち止め状態となる所定値（本例では、１９０００）より小さい値である第２の値（本例では、１７０００）以上となった場合に、打ち止め事前報知状態に移行し、副制御基板Ｓ側で打ち止め状態示唆表示が実行されるよう構成されている。このように構成することで、遊技者は、打ち止め状態となる事前の段階で打ち止め状態が近いことを認識することができ、遊技を続行するか否かを判断することができる。

【０３９６】

30

また、打ち止め事前報知状態に移行した後は、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第２の値（本例では、１７０００）未満となっても打ち止め事前報知状態を終了せず、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第２の値（本例では、１７０００）よりも小さい値である第１の値（本例では、１６９５０）未満となることで打ち止め事前報知状態を終了するよう構成されている。このように構成することで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第２の値（本例では、１７０００）に近い値である状況で、共通ベルなどの小役に当選して、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第２の値（本例では、１７０００）を上回ったり下回ったりすることが頻繁に発生した場合においても、打ち止め事前報知状態が終了しないため、副制御基板Ｓ側で打ち止め状態示唆表示が表示されたり非表示となったりを繰り返すことがなく、遊技者に煩わしさを感ぜさせないよう構成することができる。

40

【０３９７】

また、第２実施形態においては、図中（６）のタイミングで前述したように、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第１の値（本例では、１６９５０）未満となることで打ち止め事前報知状態を終了した後は、その後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第１の値（本例では、１６９５０）以上となっても打ち止め事前報知状態には移行せず、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第２の値（本例では、１７０００）以上となることで、再度打ち止め事前報知状態に移行するよう構成されている。このように構成

50

することで、打ち止め事前報知状態に移行する条件を、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第2の値（本例では、17000）以上となることに統一することができ、打ち止め事前報知状態に関する処理を簡素化することができる。また、副制御基板S側で打ち止め状態示唆表示が表示されたり非表示となったりを繰り返すことがなく、遊技者に煩わしさを感じさせないよう構成することができる。

【0398】

また、図60にて「A」と図示した、第2の値（本例では、17000）と第1の値（本例では、16950）の差分は、第2実施形態においては50となっており、第2実施形態における1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数は11枚となっており（例えば、図8に図示する「入賞01」）、第2の値（本例では、17000）と第1の値（本例では、16950）の差分は、1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも多くなっている。

10

【0399】

なお、2枚賭けの遊技で当選したボーナスの内部中における3枚賭けの遊技にて押し順ナビを実行可能であり、且つ3枚賭けの遊技にてAT抽選を実行可能な遊技機に図60の「A」に関する構成を適用した場合には、AT抽選を実行可能な規定数である3枚賭けの遊技にて入賞し得る小役（入賞役）の払出枚数のうち、最大の払出枚数よりも図60の「A」が大きくなるよう構成してもよい。換言すると、当該遊技機においては、AT抽選を実行可能な規定数である3枚賭け以外の遊技においては、図60の「A」よりも多い払出枚数となる小役（入賞役）が入賞してもよい。

20

【0400】

また、ATを実行せず、ボーナスの実行により遊技メダル（遊技価値）を獲得する遊技機（Aタイプと称することがある）においては、少なくとも一の規定数（例えば、遊技を進行する際に主に適用する3枚賭け）にて入賞し得る小役（入賞役）の払出枚数のうち、最大の払出枚数よりも図60の「A」が大きくなるよう構成してもよい。換言すると、当該遊技機においては、前記一の規定数以外の規定数による遊技では、図60の「A」よりも多い払出枚数となる小役（入賞役）が入賞してもよい。

【0401】

なお、第2実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値は、規定数がいずれであるか、及び遊技状態がいずれであるかに拘らず、電源投入時以降における遊技の実行毎に更新可能に構成されている。このように構成することで、規定数を変更しながら遊技を進行したり、遊技状態が複数回遷移した場合においても、差数カウンタのカウンタ値を適切に更新することができ、射幸性を抑制することができる。

30

【0402】

なお、差数カウンタは規定数に拘らず、遊技の実行毎にカウンタ値を更新可能に構成されているため、複数の規定数で遊技を実行可能な遊技機の場合には、当該複数の規定数のそれぞれで入賞し得る小役（入賞役）の払出枚数のうち、最大の払出枚数よりも図60の「A」が大きくなるよう構成してもよい。

【0403】

このように構成することで、複数種類の規定数を用いて遊技を進行させた場合においても、副制御基板S側で打ち止め状態示唆表示が表示されたり非表示となったりを繰り返すことがなく、遊技者に煩わしさを感じさせないよう構成することができる。

40

【0404】

このように構成することにより、打ち止め事前報知状態が終了した（例えば、図600の（6）のタイミング）次の遊技では、当該次の遊技の抽選結果がいずれであっても、再度打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成することができ、副制御基板S側で打ち止め状態示唆表示が表示されたり非表示となったりを繰り返すことがないよう構成することができる。

【0405】

なお、1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数を、1回の遊

50

技で遊技者に付与される最大の遊技価値数と称することがある。当該払出枚数は、遊技機外に払い出される遊技メダルの枚数のみではなく、クレジットとして貯留される遊技メダルも含んでおり、メダルレスの回胴式遊技機においては、総得点表示装置に加算される遊技メダル数としてもよい。

【0406】

なお、第2実施形態における、「第1の値（本例では、16950）以上となる」を「第1の値（本例では、16950）を上回る」に置き換えて、「第1の値（本例では、16950）未満」を「第1の値（本例では、16950）以下」に置き換えてもよい。また、「第2の値（本例では、17000）以上となる」を「第2の値（本例では、17000）を上回る」に置き換えて、「第2の値（本例では、17000）未満」を「第2の値（本例では、17000）以下」に置き換えてもよい。

10

【0407】

<打ち止め事前報知状態に関する構成>

打ち止め事前報知状態に関する構成として、以下の一または複数の構成を適用してもよい。

（1）打ち止め事前報知状態に移行した後は電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が第2の値（本例では、17000）未満となると、打ち止め事前報知状態が終了する。このように構成することで、打ち止め事前報知状態に関して使用する容量を削減することができる。

（2）演出表示装置S40には待機デモが表示されている状況においても、打ち止め状態示唆表示が視認可能な態様で表示される。

20

（3）演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示が表示されている状況で、サブ入力ボタンSB等に対する所定の操作を行うと、演出表示装置S40にメニュー画面が表示可能であり、メニュー画面の表示中においては、打ち止め状態示唆表示は表示されない（視認できない、視認性が低下する、としてもよい）。

（4）打ち止め事前報知状態においては、スピーカS20から「打ち止め状態まで残り〇〇枚です」などの、打ち止め状態までの残りの差数に関する音声を出力可能である。

（5）打ち止め事前報知状態において打ち止め状態までの残りの差数に関する音声を出力するタイミングは、打ち止め事前報知状態となったタイミングの1回のみである。

（6）打ち止め事前報知状態において打ち止め状態までの残りの差数に関する音声を出力するタイミングは、打ち止め状態までの残りの差数が予め定められた値となったタイミングであり、当該タイミングを1または複数回有している。

30

（7）演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示を表示する場合は、所定時間毎（例えば、0.5秒毎）に切り替わる点滅表示にて表示し、打ち止め状態示唆表示と表示領域が重複している画像（または、後面に表示されている画像）が視認可能となっている。

（8）打ち止め状態示唆表示はAT獲得枚数表示等（図66参照）よりも表示優先度が高い。

（9）打ち止め状態示唆表示は押し順ナビ表示よりも表示優先度が高い。

（10）打ち止め状態示唆表示はAT獲得枚数表示等（図66参照）よりも表示優先度が低い。

40

（11）打ち止め状態示唆表示は押し順ナビ表示よりも表示優先度が低い。

【0408】

<<ボーナス中に差数条件を上回った場合に関する図1>>

次に、図61は、ボーナス中（例えば、RBの作動中）に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合に関する図である。同図における、「ボーナス」の「実行中」は、ボーナスが実行されていることを示しており、「ボーナス」の「非実行中」は、ボーナスが実行されていないことを示している。また、「打ち止め状態」の「打ち止め状態中」は、打ち止めフラグがオンであり、打ち止め状態となっていることを示しており、「打ち止め状態ではない」は、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め状態となっていないことを示している。

50

【0409】

まず、図中（１）のタイミングで、ボーナスが新たに実行開始される。電源投入時以降の最大の差枚は、所定値（本例では、１９０００）を上回っていないため、打ち止め状態にはなっていない。その後、図中（２）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回るが、ボーナスの実行中であるため、打ち止め状態には移行しない。なお、図中（２）のタイミング以降は、打ち止め予約フラグがオンであり、打ち止めフラグがオフとなっている（図５７を参照）。

【0410】

なお、打ち止め予約フラグがオンであり、打ち止めフラグがオフとなっている状態を、打ち止め予約状態と称することがある。また、不図示であるが、打ち止め予約状態となった場合には、主制御基板Ｍ側から副制御基板Ｓ側に打ち止め予約状態である旨のコマンドが送信され、副制御基板Ｓ側の演出表示装置Ｓ４０に「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」との打ち止め予約表示を表示するよう構成されている。なお、副制御基板Ｓ側での報知はあくまで一例であり、報知する手段の追加や変更をしてもよいし、報知態様を変更してもよい。

【0411】

図中（２）のタイミング以降、ボーナス中の遊技が進行していき、図中（３）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回っている状況でボーナスの終了条件を充足し、ボーナスが終了し、打ち止め状態に移行する。

【0412】

なお、同図においては、ボーナスとしてＲＢが作動している場合を例示しているが、１種ＢＢや２種ＢＢにも同様の構成を適用することができる。また、１種ＢＢに適用した場合であって、１種ＢＢが作動しており且つＲＢが作動していない１種ＢＢ一般中を有する場合においては、以下のように構成してもよい。

（１）１種ＢＢが作動しており且つＲＢが作動している状況にて、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合には、当該上回ったタイミングで打ち止め状態に移行する。

（２）１種ＢＢが作動しており且つＲＢが作動している状況にて、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合には、当該上回ったタイミングで打ち止め状態に移行せず、実行中のＲＢが終了し、次の遊技が１種ＢＢ一般中となるタイミングで打ち止め状態に移行する。

（３）１種ＢＢが作動しており且つＲＢが作動している状況にて、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合には、当該上回ったタイミングで打ち止め状態に移行せず、実行中の１種ＢＢが終了するタイミングで打ち止め状態に移行する。

【0413】

なお、このような構成は、後述する図６２及び図６３に例示する構成にも適用可能である。

【0414】

<<ボーナス中に差数条件を上回った場合に関する図２>>

次に、図６２は、ボーナス中（例えば、ＲＢの作動中）に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合に関する図である。同図における、「ボーナス」の「実行中」は、ボーナスが実行されていることを示しており、「ボーナス」の「非実行中」は、ボーナスが実行されていないことを示している。また、「打ち止め状態」の「打ち止め状態中」は、打ち止めフラグがオンであり、打ち止め状態となっていることを示しており、「打ち止め状態ではない」は、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め状態となっていないことを示している。

【0415】

まず、図中（１）のタイミングで、ボーナスが新たに実行開始される。電源投入時以降の最大の差数は、所定値（本例では、１９０００）を上回っていないため、打ち止め状態にはなっていない。その後、図中（２）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回るが、ボーナスの実行中であるため、打ち止め状態には移行しない。なお、図中（２）のタイミング以降は、打ち止め予約フラグがオンであり、打ち止めフラグがオフとなっている（図５７を参照）。

【０４１６】

図中（２）のタイミング以降、ボーナス中の遊技が進行していき、図中（３）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）以下となる。その後、図中（４）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）以下の状況でボーナスの終了条件を充足し、ボーナスが終了する。図中（４）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）以下となっているが、打ち止め状態に移行することとなる。なお、図中（４）のタイミングでは、ボーナスの実行終了時に打ち止め予約フラグがオンであることに基づいて、打ち止め状態に移行するよう構成されている。

【０４１７】

このように構成することで、ボーナスの実行中のいずれかのタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合には、当該ボーナスの実行終了後に打ち止め状態に移行させることができるため、射幸性を抑えた遊技機とすることができる。

【０４１８】

なお、図６２の（２）にて、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った後は、ボーナスが終了するまで差数カウンタのカウンタ値を更新しないよう構成してもよいし、ボーナスが終了するまでにおいても差数カウンタのカウンタ値を更新するよう構成してもよい。

【０４１９】

また、ボーナス中において電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合にも、ボーナスの終了時において電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）以下であった場合には打ち止め状態に移行しないよう構成してもよい。

【０４２０】

また、ボーナス中であっても、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合には、当該タイミングで打ち止め状態に移行するよう構成してもよい。このように構成した場合には、図５７に図示した打ち止め予約フラグや、図５７のステップ３７２４のようなボーナス中の遊技であるか否かに関する処理を有する必要がなくなる。

【０４２１】

<<ボーナス中に差数条件を上回った場合に関する図３>>

次に、図６３は、ボーナス中（例えば、ＲＢの作動中）に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回った場合に関する図である。同図における、「ボーナス」の「実行中」は、ボーナスが実行されていることを示しており、「ボーナス」の「非実行中」は、ボーナスが実行されていないことを示している。また、「打ち止め状態」の「打ち止め状態中」は、打ち止めフラグがオンであり、打ち止め状態となっていることを示しており、「打ち止め状態ではない」は、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め状態となっていないことを示している。

【０４２２】

まず、図中（１）のタイミングで、ボーナスが新たに実行開始される。電源投入時以降

10

20

30

40

50

の最大の差枚は、所定値（本例では、19000）を上回っていないため、打ち止め状態にはなっていない。その後、図中（2）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回るが、ボーナスの実行中であるため、打ち止め状態には移行しない。なお、図中（2）のタイミング以降は、打ち止め予約フラグがオンであり、打ち止めフラグがオフとなっている（図57を参照）。

【0423】

図中（2）のタイミング以降、ボーナス中の遊技が進行していき、図中（3）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となる。その後、図中（4）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状況で、遊技機への電源供給が遮断され、遊技機が電源断を検知して電源断時処理が実行される。なお、遊技機への電源供給が遮断され、遊技機が電源断を検知して電源断時処理が実行されることを、電源断が発生すると称することがある。

【0424】

その後、RAMクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行された図中（5）のタイミングで、電源断前に実行されていたボーナスが続きから再開される。また、電源断が発生し、RAMクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタのカウンタ値が初期化され（差数カウンタのカウンタ値に初期値である19000がセットされ）、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が0となり、打ち止め状態とはなっていない。なお、図中（5）のタイミングでは、打ち止め予約フラグはオンとなっている。

【0425】

その後、ボーナス中の遊技が進行していき、図中（6）のタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状況でボーナスの終了条件を充足し、ボーナスが終了する。図中（6）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となっているが、打ち止め状態に移行することとなる。なお、図中（6）のタイミングでは、ボーナスの実行終了時に打ち止め予約フラグがオンであることに基づいて、打ち止め状態に移行するよう構成されている。すなわち、電源断が発生した場合も、電源復帰後には、打ち止め予約フラグのオンに関する情報は復帰するよう構成されている。

【0426】

このように構成することで、ボーナスの実行中のいずれかのタイミングで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合には、当該ボーナスの実行中で電源断が発生した場合においても、その後、電源復帰し、ボーナスが終了した際に打ち止め状態に移行させることができるため、射幸性を抑えた遊技機とすることができる。

【0427】

なお、図63の（2）にて電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った後から図63の（4）にて電源断時処理が実行されるまで、及び／または、図63の（5）にて電源復帰してから図63の（6）にてボーナスが終了するまでは、差数カウンタのカウンタ値を更新しないよう構成してもよいし、差数カウンタのカウンタ値を更新するよう構成してもよい。差数カウンタのカウンタ値を更新しないよう構成する場合には、打ち止め予約フラグがオンであることに基づいて判断するよう構成してもよい。

【0428】

<<ボーナス最終遊技で再遊技に当選した場合>>

なお、RBの実行中において、図60乃至図62の構成を適用した場合には、以下のような作用となるよう構成してもよい。

【0429】

<構成1>

- (1) RBが実行されている。
- (2) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。
- (3) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回っている状態で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。
- (4) 打ち止め状態となり、自動精算が実行される。再遊技役に対応する自動ベットが実行されない。

10

【0430】

<構成2>

- (1) RBが実行されている。
- (2) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。
- (3) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となる。
- (4) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状態で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。
- (5) 打ち止め状態となり、自動精算が実行される。再遊技役に対応する自動ベットが実行されない。

20

【0431】

<構成3>

- (1) RBが実行されている。
- (2) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。
- (3) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となる。
- (4) 電源断が発生する。
- (5) 電源復帰し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状態で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。
- (6) 打ち止め状態となり、自動精算が実行される。再遊技役に対応する自動ベットが実行されない。

30

【0432】

<構成4>

- (1) RBが実行されている。
- (2) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。
- (3) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回っている状態で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。
- (4) 再遊技役に対応する自動ベットが実行されるが、打ち止め状態となるため、スタートレバーの操作は無効であり、自動精算が実行される。なお、自動ベットされた遊技メダル（遊技価値）は、自動精算されないよう構成してもよい。

40

【0433】

<構成5>

- (1) RBが実行されている。
- (2) RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とし

50

た最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。

（3）RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となる。

（4）電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状況で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。

（5）再遊技役に対応する自動ベットが実行されるが、打ち止め状態となるため、スタートレバーの操作は無効であり、自動精算が実行される。なお、自動ベットされた遊技メダル（遊技価値）は、自動精算されないよう構成してもよい。

【0434】

<構成6>

（1）RBが実行されている。

（2）RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る。

（3）RBの実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下となる。

（4）電源断が発生する。

（5）電源復帰し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）以下の状況で、RBの最終ゲームが実行され、再遊技役に当選し、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示する。

（6）再遊技役に対応する自動ベットが実行されるが、打ち止め状態となるため、スタートレバーの操作は無効であり、自動精算が実行される。なお、自動ベットされた遊技メダル（遊技価値）は、自動精算されないよう構成してもよい。

【0435】

なお、図60乃至図62にて前述したように、第2実施形態においては、ボーナスの実行中に電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回っても、当該タイミングでは自動精算は実行されないよう構成されている。他方、ボーナスの実行中に一度でも電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合には、ボーナスが終了することとなる最終ゲームが実行されると、当該最終ゲームに対応する遊技メダルの払出が終了した後に、自動精算が実行されるよう構成されている（図60乃至図62においては当該構成となっている）。

【0436】

なお、ボーナス中に電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回り、その後ボーナスが終了する際に打ち止め状態となる場合においては、以下のように構成してもよい。なお、ボーナスが終了する際には、打ち止め状態に移行するか否かに拘らず、終了画面が表示され、終了画面の表示開始から所定時間（例えば、5秒間）は、ベットができず、スタートレバーの操作も無効となるボーナス終了ウェイト期間となっている。

（1）ボーナスの最終ゲームとなるゲームが終了→ボーナス終了ウェイト期間となり、演出表示装置S40には、終了画面とともに打ち止め状態中表示が表示される→ボーナス終了ウェイト期間が終了し、自動精算が実行される

（2）ボーナスの最終ゲームとなるゲームが終了→ボーナス終了ウェイト期間となり、演出表示装置S40には、終了画面が表示される→ボーナス終了ウェイト期間が終了し、自動精算が実行される→自動精算終了後に、演出表示装置S40にて打ち止め状態中表示が表示される

【0437】

<<小役に当選した遊技に関する作用図>>

次に、小役に当選した遊技が実行され、当該小役に基づく遊技メダルの払出が実行された場合に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定

10

20

30

40

50

値（本例では、19000）を上回る場合について、図64及び図65を用いて詳述する。なお、図64及び図65においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18995の状況であり、10枚役のベルに当選した遊技が実行されており、2つのリールが停止されており、最終リールである1つのリールが回転している場合について例示している。

【0438】

また、図示している、「最終リール」の「回転中」は、2つのリールが停止されており、最終リールである1つのリールが回転していることを示しており、「最終リール」の「停止中」は、すべてのリールが停止していることを示している。また、「停止ボタン」の「押下中」は、停止ボタンの操作が有効か否かに拘らず、最終リールに対応する停止ボタンが物理的に押下されていることを示しており、「停止ボタン」の「非押下中」は、停止ボタンが物理的に押下されていないことを示している。また、「払出処理」の「実行中」は、クレジットへの加算処理または遊技機外に遊技メダルを払い出すための処理を実行していることを示しており、払出処理には、例えば、図17のステップ1232乃至ステップ1248や図56のステップ1275乃至1290などが相当する。「払出処理」の「非実行中」は、クレジットへの加算処理及び遊技機外に遊技メダルを払い出すための処理を実行していないことを示している。なお、払出処理を付与処理と称することがある。また、メダルレスの回胴式遊技機に適用した場合においては、「払出処理」の「実行中」は、総得点表示装置への得点の加算処理を実行していることを示すこととなる。また、「打ち止めフラグ」は、主制御基板M側で制御している打ち止めフラグのオンオフ（または電源投入時処理の実行中）に関する状況を図示したものであり、「副制御基板側の状態」は、副制御基板S側がどのような状態であるかを図示したものである。

【0439】

また、図64及び図65における各タイミングは、数字が同じものは同一または略同一のタイミングであることとする。また、図64及び図65にて例示している遊技機は、小役に対応する図柄組み合わせが停止表示した際は、最終停止ボタン（最終リールに対応した停止ボタン）が押下されている状況から押下されていない状況となった（最終停止ボタンが離された）場合には、払出処理が実行されるよう構成されている。

【0440】

< A：電源断時処理前に払出処理が終了する場合 >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態である状況下、図中（1）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

【0441】

その後、図中（2）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となり、10枚役のベルに対応した図柄組み合わせが停止表示したため、払出処理が実行される。その後、図中（4）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（6）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、遊技機が電源断時処理を実行する前のタイミングである、図中（7）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った（19005となった）ため、打ち止めフラグがオンとなり、打ち止め状態に移行する。その後、図中（8）のタイミングで、遊技機が電源断時処理を実行する。

【0442】

その後、図中（10）のタイミングで、RAMクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理（電源投入時処理と称することがある）が実行開始される。その後、図中（12）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、打ち止めフラグがオンとなり、再度打ち止め状態に移行することとなる。

【0443】

< B : 電源断時処理前に払出処理が終了しない場合 1 >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態である状況下、図中（１）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

【 0 4 4 4 】

その後、図中（３）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となり、１０枚役のベルに対応した図柄組み合わせが停止表示したため、払出処理が実行される。その後、図中（４）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（６）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、図中（８）のタイミングで、払出処理が完了していない状況にて、遊技機が電源断時処理を実行する。

10

【 0 4 4 5 】

その後、図中（１０）のタイミングで、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行開始される。その後、図中（１２）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、払出処理が途中から再開し、打ち止めフラグがオフとなり、打ち止め事前報知状態となる。なお、電源断が発生し、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタが初期化され（差数カウンタのカウント値に初期値である１９０００がセットされ）、図中（１２）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が０となっているが、電源投入時以降では差数カウンタの更新処理（例えば、図５７のステップ３７１２の処理）が実行されていないため、電源断前の打ち止め事前報知状態が復帰することとなる。

20

【 0 4 4 6 】

その後、図中（１３）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回っていないため、打ち止め状態には移行せず、通常状態に移行する。なお、同図においては、打ち止め状態でも打ち止め事前報知状態でもない、遊技が進行可能な状態を通常状態と称している。また、（Ｂ）においては、１０枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウント値から減算されるよう構成されている。なお、図６４及び図６５における、電源投入後に払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値を差数カウンタのカウント値から減算することを、差数に関する更新処理を実行すると称することがある。なお、電源断が発生した場合にも、電源復帰すると電源断前に記憶していたベット数に関する情報が復帰するため、電源復帰後に差数カウンタのカウント値の更新処理を実行することができる。

30

【 0 4 4 7 】

なお、第２実施形態においては、差数カウンタのカウント値の初期値（本例では、１９０００）と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウント値（本例では、２０００）との差は、１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数（本例では、１１）よりも大きくなるよう構成されているため、（Ｂ）における図中（１３）のタイミングでは打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成されている。

40

【 0 4 4 8 】

また、差数カウンタのカウント値の初期値と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウント値との差が１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも小さくなるよう構成した場合には、（Ｂ）における図中（１３）のタイミングにて打ち止め事前報知状態を維持することがある。

【 0 4 4 9 】

< C : 電源断時処理前に払出処理が終了しない場合 2 >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態

50

である状況下、図中（１）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

【０４５０】

その後、図中（４）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（５）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となり、１０枚役のベルに対応した図柄組み合わせが停止表示したため、払出処理が実行される。その後、図中（６）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、図中（８）のタイミングで、払出処理が完了していない状況にて、遊技機が電源断時処理を実行する。

【０４５１】

その後、図中（１０）のタイミングで、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行開始される。その後、図中（１２）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、払出処理が途中から再開し、打ち止めフラグがオフとなり、打ち止め事前報知状態となる。なお、電源断が発生し、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタが初期化され（差数カウンタのカウント値に初期値である１９０００がセットされ）、図中（１２）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が０となっているが、電源投入時以降では差数カウンタの更新処理（例えば、図５７のステップ３７１２の処理）が実行されていないため、電源断前の打ち止め事前報知状態が復帰することとなる。

【０４５２】

その後、図中（１４）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回っていないため、打ち止め状態には移行せず、通常状態に移行する。また、（Ｃ）においては、１０枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウント値から減算されるよう構成されている。

【０４５３】

なお、第２実施形態においては、差数カウンタのカウント値の初期値（本例では、１９０００）と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウント値（本例では、２０００）との差は、１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数（本例では、１１）よりも大きくなるよう構成されているため、（Ｃ）における図中（１４）のタイミングでは打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成されている。

【０４５４】

また、差数カウンタのカウント値の初期値と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウント値との差が１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも小さくなるよう構成した場合には、（Ｃ）における図中（１４）のタイミングにて打ち止め事前報知状態を維持することがある。

【０４５５】

< D：電源断時処理前に払出処理が終了しない場合３ >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態である状況下、図中（１）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

【０４５６】

その後、図中（４）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（６）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、図中（７）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となり、１０枚役のベルに対応した図柄組み合わせが停止表示したため、払出処理が実行される。その後、図中（８）のタイミングで、払出処理が完了していない状況にて、遊技機が電源断時処理を実行する。

【０４５７】

その後、図中（１０）のタイミングで、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行開始される。その後、図中（１２）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、払出処理が途中から再開し、打ち止めフラグがオフとなり、打ち止め事前報知状態となる。なお、電源断が発生し、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタが初期化され（差数カウンタのカウンタ値に初期値である１９０００がセットされ）、図中（１２）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が０となっているが、電源投入時以降では差数カウンタの更新処理（例えば、図５７のステップ３７１２の処理）が実行されていないため、電源断前の打ち止め事前報知状態が復帰することとなる。

【０４５８】

10

その後、図中（１５）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、１９０００）を上回っていないため、打ち止め状態には移行せず、通常状態に移行する。また、（Ｄ）においては、１０枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウンタ値から減算されるよう構成されている。

【０４５９】

なお、第２実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値の初期値（本例では、１９０００）と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値（本例では、２０００）との差は、１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数（本例では、１１）よりも大きくなるよう構成されているため、（Ｄ）における図中（１５）のタイミングでは打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成されている。

20

【０４６０】

また、差数カウンタのカウンタ値の初期値と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値との差が１回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも小さくなるよう構成した場合には、（Ｄ）における図中（１５）のタイミングにて打ち止め事前報知状態を維持することがある。

【０４６１】

< E：電源断中に停止ボタンを離した場合 >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態である状況下、図中（１）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

30

【０４６２】

その後、図中（４）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（６）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、図中（８）のタイミングで、払出処理が実行されていない状況にて、遊技機が電源断時処理を実行する。その後、遊技機の電源が投入されていない状況（電源断中と称することがある）である、図中（９）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となるが、遊技機の電源が投入されていないため、当該タイミングでは払出処理は実行されない。

40

【０４６３】

その後、図中（１０）のタイミングで、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行開始される。その後、図中（１２）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、払出処理が実行開始され、打ち止めフラグがオフとなり、打ち止め事前報知状態となる。なお、電源断が発生し、ＲＡＭクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタが初期化され（差数カウンタのカウンタ値に初期値である１９０００がセットされ）、図中（１２）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が０となっているが、電源投入時以降では差数カウンタの更新処理（例えば、図５７のステップ３７１２の処理）が実行されていないため、電源断前の打ち止め事前報知状態が復帰することとなる。

50

【0464】

その後、図中（16）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回っていないため、打ち止め状態には移行せず、通常状態に移行する。また、（E）においては、10枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウンタ値から減算されるよう構成されている。

【0465】

なお、第2実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値の初期値（本例では、19000）と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値（本例では、2000）との差は、1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数（本例では、11）よりも大きくなるよう構成されているため、（E）における図中（16）のタイミングでは打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成されている。

10

【0466】

また、差数カウンタのカウンタ値の初期値と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値との差が1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも小さくなるよう構成した場合には、（E）における図中（16）のタイミングにて打ち止め事前報知状態を維持することがある。

【0467】

< F：電源投入後に停止ボタンを離した場合 >

まず、最終リールが回転中であり、最終リールに対応する停止ボタンが押下されておらず、払出処理が実行されておらず、打ち止めフラグがオフであり、打ち止め事前報知状態である状況下、図中（1）のタイミングで、最終停止ボタンが押下され、最終リールが停止する。なお、最終停止ボタンが押下されてから最終リールが停止するまでには、わずかな時間を要するが、説明の簡略化のため、同一のタイミングとして図示している。

20

【0468】

その後、図中（4）のタイミングで、遊技機への電源供給が遮断される。その後、図中（6）のタイミングで、遊技機が電源断を検知する。その後、図中（8）のタイミングで、払出処理が実行されていない状況にて、遊技機が電源断時処理を実行する。

【0469】

その後、図中（10）のタイミングで、RAMクリアを伴わない電源投入がされ、電源投入時の初期処理が実行開始される。その後、図中（11）のタイミングで、最終停止ボタンが非押下となるが、電源投入時の初期処理を実行しているため、払出処理は実行されない。その後、図中（12）のタイミングで、電源投入時の初期処理が実行終了し、払出処理が実行開始され、打ち止めフラグがオフとなり、打ち止め事前報知状態となる。なお、電源断が発生し、RAMクリアを伴わない電源投入がされたことにより、差数カウンタが初期化され（差数カウンタのカウンタ値に初期値である19000がセットされ）、図中（12）のタイミングでは、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が0となっているが、電源投入時以降では差数カウンタの更新処理（例えば、図57のステップ3712の処理）が実行されていないため、電源断前の打ち止め事前報知状態が復帰することとなる。

30

40

【0470】

その後、図中（16）のタイミングで、払出処理が終了し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回っていないため、打ち止め状態には移行せず、通常状態に移行する。また、（F）においては、10枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウンタ値から減算されるよう構成されている。

【0471】

なお、第2実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値の初期値（本例では、19000）と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値（本例では、2000）との差は、1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払

50

出枚数（本例では、11）よりも大きくなるよう構成されているため、（F）における図中（16）のタイミングでは打ち止め事前報知状態に移行しないよう構成されている。

【0472】

また、差数カウンタのカウンタ値の初期値と打ち止め事前報知状態に移行することとなる差数カウンタのカウンタ値との差が1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも小さくなるよう構成した場合には、（F）における図中（16）のタイミングにて打ち止め事前報知状態を維持することがある。

【0473】

図64及び図65の（B）乃至（F）にて図示したように、所定数の遊技メダル（遊技価値と称してもよい）が付与されることとなる所定の遊技が実行され、所定数の遊技メダルが付与されることで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る場合において、当該所定の遊技における当該所定の遊技メダルが付与される前に電源断時処理が実行され、その後RAMクリアを伴わない電源投入がされ、当該所定数の遊技メダルが付与された場合には、打ち止め状態に移行せず、当該所定数から当該所定遊技のベット数を減算した値が差数カウンタの初期値から減算されることとなる。

【0474】

このように構成することで、遊技の途中で電源断が発生した場合でも、その後の電源投入後に付与された遊技メダルから電源断となる前のベット数を差し引いた値を差数カウンタのカウンタ値から減算することができるため、電源断の発生有無に左右されずに、差数カウンタのカウンタ値の更新を正確に行うことができる。

【0475】

なお、図64及び図65においては、最終停止ボタンを押下し続けた状態から非押下として払出処理が実行される場合について、例示したが、払出処理の実行開始タイミングが同一であれば、最終停止ボタンの押下タイミングは変更しても問題ない。また、最終停止ボタンを新たに押下することで払出処理が実行開始されるよう構成した場合においても、払出処理が同一のタイミングであれば、同一の構成を適用することができる。

【0476】

なお、図64及び図65における図中（10）の電源投入後にて、副制御基板S側における打ち止め事前報知状態に関する情報を含む所定の記憶領域を初期化するよう構成してもよい（例えば、払出処理の終了後に差数カウンタのカウンタ値に関する情報が主制御基板M側から副制御基板S側に送信される）。このように構成した場合には、図64及び図65の図中（10）の電源投入後における「打ち止め事前報知状態」となっている期間が「打ち止め事前報知状態」ではない状態となる（例えば、「通常状態」としてもよい）。このように構成することで、電源投入後に打ち止め事前報知状態を介さないため、電源断が発生したにも拘らず差数カウンタのカウンタ値が初期化されていないのではないかと遊技者が誤認することを防止することができる。

【0477】

<<AT中状態の遊技中に電源断が発生した場合のイメージ図>>

次に、図66は、AT中状態の遊技中に電源断が発生した場合のイメージ図である。まず、図中（a）で、差数カウンタのカウンタ値は2500であり、ATに関する状態がAT中状態にて遊技が実行されており、押し順ナビが実行され、演出表示装置S40には、押し順ナビ表示（図中の「123」の表示）と、AT獲得枚数表示等が表示されている。

【0478】

ここで、AT獲得枚数表示等とは、今回のAT中状態（または有利区間）で遊技者が獲得した遊技メダル数に対応する表示であるAT獲得枚数表示（図中の「GET883」）と、今回のAT中状態（または有利区間）で実行されたゲーム数に対応する表示であるATゲーム数表示と、今回の遊技における遊技メダルの払出枚数を表示する払出枚数表示と、現在のクレジット数（クレジット数表示装置D200に表示されている遊技メダル数と称することがある）を表示するクレジット数表示との総称である。

【0479】

図中（a）の後、AT中状態にて遊技が実行されていき、図中（b）で、差数カウンタのカウンタ値は1998であり、ATに関する状態がAT中状態にて遊技が実行されており、押し順ナビが実行され、演出表示装置S40には、押し順ナビ表示と、AT獲得枚数表示等が表示されている。また、差数カウンタのカウンタ値が所定値（例えば、2000）以下となった、換言すると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第2の値（本例では、17000）を上回ったため、演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示として「あと1998枚で打ち止め状態となります」が表示される。このように、打ち止め状態示唆表示は、打ち止め状態となるまでの残りの差数を報知するよう構成されている。なお、これには限定されず、打ち止め状態示唆表示として、演出表示装置S40に「もうすぐ打ち止め状態となります」などと表示するよう構成してもよい。

10

【0480】

その後、図中（c）で、押し順ナビが実行されている遊技の実行中であり、演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示が表示されている状況下、電源断が発生し、遊技機への電源供給が遮断される。

【0481】

その後、図中（d）で、RAMクリアを伴わない電源投入がされ、演出表示装置S40には、押し順ナビ表示と、AT獲得枚数表示等が再度表示される。また、電源断が発生した後、RAMクリアを伴わない電源投入がされたため、差数カウンタのカウンタ値は初期化され、カウンタ値は19000となり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示が表示されていない。なお、図中（d）のタイミングを、電源が投入された以降の特定タイミングと称することがある。

20

【0482】

このように、第2実施形態においては、AT中状態にて、演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示とAT獲得枚数表示等が表示されている状況下、電源断が発生して遊技機への電源供給が遮断され、その後、RAMクリアを伴わない電源投入がされた場合には、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示は表示されない一方、AT獲得枚数表示等が表示されるよう構成されている。

【0483】

このように構成することにより、電源断が発生して遊技機への電源供給が遮断された後に、再度電源投入がされたにもかかわらず、演出表示装置S40に打ち止め状態示唆表示が再度表示されてしまうことによって、遊技者が打ち止め状態に近いのではないかと誤った認識を持ってしまい、遊技を終了してしまうことを防止することができる。

30

【0484】

なお、図66においては、リールの回転中に電源断が発生した場合を例示したが、リールが停止している状況で電源断が発生した場合も、図66と同様の構成を適用することができる。この場合の図66の構成との相違点は、押し順ナビ表示が表示されていないことであり、獲得枚数表示等と打ち止め状態示唆表示の構成は同様となっている。

【0485】

また、図66（d）においては（上述したリールが停止している状況で電源断が発生した場合には、電源投入後のリールが停止している状況）、打ち止め状態示唆表示が表示されるよう構成してもよい。また、このように構成した場合には、電源投入後において、ペットボタン、停止ボタン、スタートレバー、サブ入力ボタン等の操作部材（一部の操作部材のみを適用してもよいし、すべての操作部材を適用してもよい）が操作された場合に、打ち止め状態示唆表示を非表示とするよう構成してもよい。

40

【0486】

なお、図66の図中（d）のように、有利区間にて電源断が発生し、その後、RAMクリアを伴わない電源投入がされた場合には、電源投入後の遊技区間は有利区間となる。

【0487】

50

また、図 6 6 の図中 (c) のように、電源断が発生した後、設定変更モードに移行する電源投入 (例えば、設定キースイッチをオンにした状態で電源投入) した場合には、RAM クリアを伴う電源投入であるため、電源投入後の遊技区間は通常区間となり、次の遊技では AT は実行されず、演出表示装置 S 4 0 には、押し順ナビ表示も獲得枚数表示等も表示されないこととなる (打ち止め状態示唆表示も表示されない)。

【0488】

また、RAM クリアを伴う電源投入がされた場合においても、電源投入後には差数カウンタのカウント値は初期化されるよう構成されている。また、打ち止め状態にて電源断が発生し、その後、RAM クリアを伴う電源投入がされた場合には、電源投入後には打ち止め状態ではなくなっているよう構成されている。

【0489】

＜ボーナス中における打ち止め状態示唆表示＞

なお、ボーナス中 (例えば、RB の作動中) にて演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示が表示されている場合においては、以下のように構成してもよい。

(1) ボーナス中にて演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示として「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示されている→ボーナス中の遊技が実行され、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値 (本例では、19000) を上回る→演出表示装置 S 4 0 にて、打ち止め状態示唆表示が非表示となり、打ち止め予約表示として「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と表示される。

(2) ボーナス中にて演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示として「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示されている→ボーナス中の遊技が実行され、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値 (本例では、19000) を上回る→演出表示装置 S 4 0 にて、打ち止め状態示唆表示として「あと 0 枚で打ち止め状態となります」と表示され、打ち止め予約表示として「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と表示される。

(3) ボーナス中にて演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示として「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示されている→ボーナス中の遊技が実行され、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値 (本例では、19000) を上回る→演出表示装置 S 4 0 にて、打ち止め状態示唆表示と打ち止め予約表示とが表示されるのだが、打ち止め状態示唆表示よりも打ち止め予約表示の方が表示優先度が高いため、打ち止め予約表示である「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」との表示のみが視認可能となっている。

【0490】

このように、ボーナスの実行中に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値 (本例では、19000) を上回った場合には、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め予約表示を表示するよう構成することで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値 (本例では、19000) を上回っているにも拘らず打ち止め状態に移行しないことで、遊技機が故障したのではないかと誤認させてしまう事態を防止することができる。

【0491】

なお、打ち止め状態示唆表示に関する構成はこれには限定されず、例えば、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、前記所定値 (本例では、19000) に近い値である第 3 の値 (例えば、18800) を上回っている状況で、所定のボーナス (すべてのボーナスでもよいし、予め定められた種類のボーナスでもよい) が開始された場合、ボーナス開始時に、演出表示装置 S 4 0 にて開始時打ち止め示唆表示として「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と表示するよう構成してもよい (この場合、演出表示装置 S 4 0 の表示は、打ち止め状態示唆表示から開始時打ち止め示唆表示に切り替わることとなる)。なお、開始時打ち止め示唆表示が表示される際にスピーカ S 2 0 から「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」との音声を出力するよう構成してもよいし、当該ボーナス開始時にて、開始時打ち止め示唆表示を表示せずに、スピーカ

10

20

30

40

50

S 2 0 から「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」との音声を出力するよう構成してもよい。

【0 4 9 2】

また、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、1 9 0 0 0）を上回った際には、打ち止め状態示唆表示として「あと 0 枚で打ち止め状態となります」との表示ではなく、「あと - 3 枚で打ち止め状態となります」などのように負の値を表示するよう構成してもよい。

【0 4 9 3】

<<メダル空エラーに関するイメージ図 1>>

次に、図 6 7 は、メダル空エラーに関するイメージ図 1 である。まず、図中（a）で、差数カウンタのカウンタ値は 4 であり、A T に関する状態が A T 中状態にて遊技が実行されており、押し順ナビが実行され、演出表示装置 S 4 0 には、押し順ナビ表示（図中の「1 2 3」の表示）と、A T 獲得枚数表示等と、が表示されている。また、差数カウンタのカウンタ値が所定値（例えば、2 0 0 0）以下となっている、換言すると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第 2 の値（本例では、1 7 0 0 0）を上回っているため、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示として「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 には、クレジット数として 4 7 が表示され、払出数表示装置 D 2 7 0 には 0 0 が表示されている。なお、図 6 7 及び図 6 8 における払出数表示装置 D 2 7 0 の 0 0 は非表示としてもよい。

10

20

【0 4 9 4】

図中（a）の後、遊技者による停止ボタンの停止操作が実行され、1 1 枚役である押し順ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示し、演出表示装置 S 4 0 にて、A T 獲得枚数表示等が更新され（例えば、A T 獲得枚数表示が「G E T 1 5 3 6」と表示される）、打ち止め状態示唆表示が「あと 0 枚で打ち止め状態となります」に更新される。また、演出表示装置 S 4 0 に獲得表示として「G E T 1 1 !!」と表示される。また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示は 5 0 となり、払出数表示装置 D 2 7 0 には 1 1 が表示されている。

【0 4 9 5】

なお、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、1 9 0 0 0）を上回る場合には、「あと 0 枚で打ち止め状態となります」との打ち止め状態示唆表示を表示しない（払出処理が実行された際に非表示となる）、または表示してすぐに非表示とするよう構成してもよい。

30

【0 4 9 6】

図中（b）の後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、1 9 0 0 0）を上回ったため、打ち止め状態に移行し、図中（c）で、差数カウンタのカウンタ値は 0 であり、演出表示装置 S 4 0 には、打ち止め状態である旨の表示である打ち止め状態中表示として「打ち止め状態中 遊技を停止します 係員をお呼びください」と表示される。また、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示された後、自動精算が実行されて、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示が減算されていくが、遊技機内の遊技メダル（ホッパに貯留されている遊技メダル）がなくなったため、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示は 1 4 で止まっている。また、払出数表示装置 D 2 7 0 には打ち止め状態に対応した表示として E d が表示される。

40

【0 4 9 7】

なお、図 6 7 の（c）においては、払出数表示装置 D 2 7 0 には 0 0 が表示されているよう構成してもよい。

【0 4 9 8】

このように、第 2 実施形態においては、打ち止め状態となった場合（電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、1 9 0 0 0）を上回った場合）には、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示された後に自動

50

精算が実行されるよう構成されている。なお、自動精算の実行開始タイミングは、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されたタイミングと略同時としてもよい。

【0499】

また、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されたタイミング（または、略同時のタイミング）で、スピーカ S 2 0 から打ち止め状態に関する所定の音声（例えば、「遊技を終了して係員をお呼びください」との音声）を出力するよう構成してもよく、当該音声の出力は、所定期間（例えば、5 秒）で終了するよう構成してもよいし、打ち止め状態中は常に出力するよう構成してもよい。

【0500】

また、上述した「GET 1 1 !!」などの獲得表示の表示開始タイミングは、以下のいずれかとしてもよい。なお、以下のタイミングは完全に同一のタイミングという意味ではなく、略同時のタイミングでよい。例えば、主制御基板 M 側から副制御基板 S 側にコマンドを送信することなどによって、下記のタイミングと獲得表示の表示開始タイミングとに短時間のずれがあった場合にも、略同一のタイミングとすることができる。

（1）最終停止操作に対応した停止ボタンが非押下となった（停止ボタンを離した）タイミング

（2）払出処理が実行開始されたタイミング

（3）払出処理が終了したタイミング

なお、上記（3）の構成を適用した場合には、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値を上回ることとなる遊技に係る獲得表示は表示されないよう構成してもよい（打ち止め状態に移行するため）。

【0501】

図中（c）の後、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示の減算が止まった状態が所定時間経過した図中（d）で、メダル空エラーとなり（メダル空エラーが発生し）、演出表示装置 S 4 0 と払出数表示装置 D 2 7 0 とに、メダル空エラーに対応した表示が表示される。具体的には、演出表示装置 S 4 0 には、「メダル空エラー 係員をお呼びください」と表示され、払出数表示装置 D 2 7 0 には「HE」と表示される。また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 には 1 4 が表示されている。

【0502】

なお、図中（d）のメダル空エラーとなっている状態を、メダル空エラー状態と称することがある。また、メダル空エラーに対応した表示を、メダル空エラー情報と称することがある。

【0503】

また、図示するように、演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合には、打ち止め状態中表示は視認できなくなる。

【0504】

このように構成することで、打ち止め状態に移行した際の自動精算（打ち止め状態に係る自動精算と称することがある）の途中でメダル空エラーが発生しても、打ち止め状態中表示よりもメダル空エラーに対応した表示を優先して表示するため、クレジットとして貯留されている遊技メダルが残っている状態で遊技者が遊技を終了してしまう事態を防止することができるとともに、遊技場の管理者がエラーであることをすぐに認識することができる。

【0505】

なお、図 6 7 における図中（c）のタイミングで打ち止め状態フラグがオンになるよう構成してもよいし、図中（d）の後にメダル空エラーが解除され、自動精算が終了した後に打ち止め状態フラグがオンになるよう構成してもよい。

【0506】

なお、図 6 7 に図示したように、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されている状況下、演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合の構成としては、以下の構成を適用してもよい。

(1) 演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合には、演出表示装置 S 4 0 にて打ち止め状態中表示は非表示となる。

(2) 演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合には、演出表示装置 S 4 0 にて打ち止め状態中表示は表示されているのだが、打ち止め状態中表示よりもメダル空エラーに対応した表示の方が表示優先度が高いため、打ち止め状態中表示は視認できなくなり、メダル空エラーに対応した表示のみが視認可能となる（メダル空エラーに対応した表示の表示領域は打ち止め状態中表示の表示領域よりも大きい）。

(3) 演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合には、演出表示装置 S 4 0 にて打ち止め状態中表示は表示されているのだが、打ち止め状態中表示よりもメダル空エラーに対応した表示の方が表示優先度が高いため、メダル空エラーに対応した表示はすべて視認可能であるが、打ち止め状態中表示に関しては、メダル空エラーに対応した表示と表示領域が重複していない一部の表示のみが視認可能となる。

(4) 演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合においても、演出表示装置 S 4 0 における打ち止め状態中表示とメダル空エラーに対応した表示との表示領域が重複しないため、打ち止め状態中表示とメダル空エラーに対応した表示との両方の表示が視認可能となる。

なお、上記構成においては、打ち止め状態中表示を打ち止め状態示唆表示に置き換えて適用することが可能であり、上記打ち止め状態中表示を A T 獲得枚数表示等に置き換えて適用することが可能である。

【0507】

<<メダル空エラーに関するイメージ図 2>>

次に、図 6 8 は、メダル空エラーに関するイメージ図 2 である。同図においては、第 2 実施形態からの変更例として、第 2 実施形態に適用可能な打ち止め状態に関する構成を詳述する。図 6 8 に図示する構成は、打ち止め状態となった場合（電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回った場合）には、自動精算が実行され、自動精算の実行が終了すると、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されるよう構成されている。なお、図 6 8 の構成においても、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されたタイミング（または、略同時のタイミング）で、スピーカ S 2 0 から打ち止め状態に関する所定の音声（例えば、「遊技を終了して係員をお呼びください」との音声）を出力するよう構成してもよい。

【0508】

まず、図中（a）で、差数カウンタのカウンタ値は 4 であり、A T に関する状態が A T 中状態にて遊技が実行されており、押し順ナビが実行され、演出表示装置 S 4 0 には、押し順ナビ表示（図中の「123」の表示）と、A T 獲得枚数表示等と、が表示されている。また、差数カウンタのカウンタ値が所定値（例えば、2000）未満となっている、換言すると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が、第 2 の値（本例では、17000）を上回っているため、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態示唆表示として「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 には、クレジット数として 47 が表示され、払出数表示装置 D 2 7 0 には 00 が表示されている。

【0509】

図中（a）の後、遊技者による停止ボタンの停止操作が実行され、11 枚役である押し順ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示し、演出表示装置 S 4 0 にて、A T 獲得枚数表示等が更新され（例えば、A T 獲得枚数表示が「GET1536」と表示される）、打ち止め状態示唆表示が「あと 0 枚で打ち止め状態となります」に更新される。また、演出表示装置 S 4 0 に獲得表示として「GET11!!」が表示される。また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示は 50 となり、払出数表示装置 D 2 7 0 には 11 が表示されている。

【0510】

図中（b）の後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差

10

20

30

40

50

数が所定値（本例では、19000）を上回ったため、打ち止め状態に移行し、自動精算が実行され、自動精算が終了すると（クレジットとして貯留されている遊技メダルがすべて精算されると）、図中（c）のように、差数カウンタのカウンタ値は0であり、演出表示装置S40には、打ち止め状態である旨の表示である打ち止め状態中表示として「打ち止め状態中 遊技を停止します 係員をお呼びください」と表示される。また、クレジット数表示装置D200の表示は00となり、払出数表示装置D270には打ち止め状態に対応した表示としてEdが表示される。

【0511】

なお、図中（c）のように、自動精算が終了し、クレジット数が0である状況においては、クレジット数表示装置D200に打ち止め状態に対応した表示としてEdを表示してもよい。このように構成した場合には、払出数表示装置D270には打ち止め状態に対応した表示としてEdが表示されるよう構成してもよいし、表示されないよう構成してもよい。

10

【0512】

他方、図中（b）の後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回ったため、打ち止め状態に移行し、自動精算が実行されて、クレジット数表示装置D200の表示が減算されていくが、図中（d）のように、遊技機内の遊技メダル（ホッパに貯留されている遊技メダル）がなくなった場合には、クレジット数表示装置D200の表示は14で止まっている。また、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示と、AT獲得枚数表示等と、が表示されている。また、払出数表示装置D270には00が表示されている。

20

【0513】

図中（d）の後、クレジット数表示装置D200の表示の減算が止まった状態が所定時間経過した図中（e）で、メダル空エラーとなり（メダル空エラーが発生し）、演出表示装置S40と払出数表示装置D270とに、メダル空エラーに対応した表示が表示される。具体的には、演出表示装置S40には、「メダル空エラー 係員をお呼びください」と表示され、払出数表示装置D270には「HE」と表示される。また、クレジット数表示装置D200には14が表示されている。

【0514】

また、図示するように、演出表示装置S40にメダル空エラーに対応した表示が表示された場合には、打ち止め状態示唆表示と、AT獲得枚数表示等とは視認できなくなる。

30

【0515】

その後、遊技機への電源供給が遮断され、電源断時処理が実行された後、RAMクリアを伴わない電源投入がされ、メダル空エラーが解除された場合、図中（f）のように、途中で止まっていた自動精算が続きから実行されて、クレジット数表示装置D200の表示が0となった後に、演出表示装置S40には、打ち止め状態である旨の表示である打ち止め状態中表示として「打ち止め状態中 遊技を停止します 係員をお呼びください」と表示される。また、クレジット数表示装置D200の表示は00となり、払出数表示装置D270には打ち止め状態に対応した表示としてEdが表示される。

【0516】

40

なお、図中（f）のように、自動精算が終了し、クレジット数が0である状況においては、クレジット数表示装置D200に打ち止め状態に対応した表示としてEdを表示してもよい。このように構成した場合には、払出数表示装置D270には打ち止め状態に対応した表示としてEdが表示されるよう構成してもよいし、表示されないよう構成してもよい。

【0517】

なお、図中（f）においては、差数カウンタのカウンタ値は初期化されて19000となっている。

【0518】

このように、図68においては、打ち止め状態に移行した際の自動精算の途中でメダル

50

空エラーが発生した場合には、当該メダル空エラーの発生中においては、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示を表示しないよう構成される。

【0519】

このように構成することで、打ち止め状態に係る自動精算が完了していない状況では、打ち止め状態中表示の表示などの打ち止め状態である旨の報知を実行しないため、クレジットとして貯留されている遊技メダルが残っている状態で遊技者が遊技を終了してしまう態を防止することができるとともに、遊技場の管理者がエラーであることをすぐに認識することができる。

【0520】

また、図 6 8 においては、打ち止め状態に移行した際の自動精算の途中でメダル空エラーが発生し、メダル空エラーが解除される前に遊技機の電源供給が遮断され、電源断時処理が実行され、その後、RAM クリアを伴わない電源投入がされ、メダル空エラーが解除された場合、途中で止まっていた自動精算が続きから実行されて、クレジット数表示装置 D 2 0 0 の表示が 0 となり、差数カウンタのカウンタ値は初期値（本例では、1 9 0 0 0）となっているが、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示を表示するよう構成される。

10

【0521】

このように構成することで、打ち止めに係る自動精算の途中でエラーが発生し、電源断が発生した場合であっても、電源復帰後にエラーが解除され、自動精算が完了すると、演出表示装置 S 4 0 に打ち止め状態中表示が表示されるため、従来の遊技機よりも射幸性を抑えることができる。

20

【0522】

なお、図 6 8 に図示した構成においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、1 9 0 0 0）を上回ったことで打ち止め状態に移行する、換言すると、打ち止め状態に係る自動精算の実行前に打ち止め状態に移行する（または、打ち止めフラグがオンになる）よう構成したが、これには限定されず、打ち止め状態に係る自動精算の実行後に打ち止め状態に移行する（または、打ち止めフラグがオンになる）よう構成してもよい。

【0523】

<<打ち止め状態に関する適用可能な構成>>

30

ここで、遊技メダルを用いる回胴式遊技機においては、打ち止め状態に関する構成として、以下の一または複数の構成を適用してもよい。

（１）打ち止め状態となった場合、クレジットとして貯留されている遊技メダルやベットされている遊技メダルが精算ボタンの操作をしなくとも自動的に精算される。

（２）打ち止め状態となった場合、クレジットとして貯留されている遊技メダルやベットされている遊技メダルが精算ボタンの操作をしない場合には自動的に精算されない。

（３）打ち止め状態となった場合、遊技者が精算ボタンを操作することによって、クレジットとして貯留されている遊技メダルやベットされている遊技メダルが精算される。

（４）打ち止め状態となると、新たな遊技メダルの投入や、ベットボタンの操作や、スタートレバーの操作が無効になる。

40

（５）打ち止め状態となると、演出表示装置 S 4 0 に「サブ入力ボタンの操作でメニュー画面を表示します」との表示がされ、サブ入力ボタン S B を操作することによってメニュー画面が表示され、当該メニュー画面の表示中に所定の操作（例えば、サブ入力ボタン S B の所定の操作）を行うことで、インターネットサーバとの通信を介して遊技者の携帯情報端末（スマートフォンなど）と情報通信を行うための、遊技者に対する情報提供用の 2 次元コードを表示する。

（６）打ち止め状態となってから所定時間が経過しても（遊技が実行されていない時間が所定時間となっても）、演出表示装置 S 4 0 には待機デモが表示されない（待機デモに移行しない）。

（７）打ち止め状態となってから所定時間が経過すると（遊技が実行されていない時間が

50

所定時間となると)、演出表示装置 S 4 0 には待機デモが表示される(待機デモに移行すると称することがある)。

(8) 打ち止め状態中においては、設定確認モードに移行することができる(例えば、設定キースイッチをオンにする)。

(9) 打ち止め状態中においては、設定変更モードに移行することができない。

(10) 打ち止め状態に移行した場合、所定時間(例えば、30秒)に亘って所定の外部信号を出力する(オン信号を出力する)。

(11) 打ち止め状態に移行した場合、打ち止め状態中は常に所定の外部信号を出力する(オン信号を出力する)。

【0524】

なお、上記(2)を適用した場合においては、例えば、スピーカ S 2 0 による「精算ボタンを操作してください」との音声や演出表示装置 S 4 0 における「精算ボタンを操作してください!」との表示によって、クレジット数などの精算を促す報知をするよう構成することが好適である。また、クレジット数などが0となり精算が終了した場合には、当該報知を終了するよう構成してもよい。

【0525】

なお、メダルレスの回胴式遊技機においては、打ち止め状態にて、総得点表示装置の得点(遊技メダル、遊技価値と称することがある)を貸機(貸出ユニットと称することがある)に移動させるために操作される計数ボタンの操作を有効にしてもよい。このように構成することで、打ち止め状態となっても、総得点表示装置の得点を遊技者に返却することができる。このように構成した場合においては、例えば、スピーカ S 2 0 による「計数ボタンを操作してください」との音声や演出表示装置 S 4 0 における「計数ボタンを操作してください!」との表示によって、計数を促す報知をするよう構成することが好適である。また、総得点表示装置の得点が0となった場合には、当該報知を終了するよう構成してもよい。

【0526】

また、メダルレスの回胴式遊技機においては、打ち止め状態にて、貸機から総得点表示装置に得点を移動させるために操作される貸出ボタンの操作を有効にしてもよい。このように構成することで、貸機が故障したのではないかと遊技者が誤認してしまう事態を防止することができる。

【0527】

また、メダルレスの回胴式遊技機においては、打ち止め状態にて、貸機から総得点表示装置に得点を移動させるために操作される貸出ボタンの操作を無効にしてもよい。このように構成することで、打ち止め状態にも拘らず、遊技機に得点が移動してしまう事態を防止することができる。

【0528】

また、打ち止め状態において、一部のエラーの監視を継続可能に構成してもよい。一例としては、打ち止め状態においては、ドア開放エラーを含む一または複数のエラーを監視し、メダル空エラーを含む一または複数のエラーを監視しないよう構成してもよい。すなわち、打ち止め状態においては、メダル空エラー状態とはならない(メダル空エラーに対応した報知(例えば、演出表示装置 S 4 0 にメダル空エラーに対応した表示を表示する)が実行されない)一方、前扉が開放するとドア開放エラー状態となりドア開放エラーに対応した報知が実行されることとなる。

【0529】

なお、打ち止め状態において監視するエラーの一例としては、前述したエラーのうち、ドア開放エラー、払出異常エラー、投入メダル滞留エラー、投入異常エラーなどが挙げられる。

【0530】

<<打ち止め状態中表示に関する適用可能な構成>>

また、打ち止め状態中表示に関する構成として、以下の一または複数の構成を適用して

10

20

30

40

50

もよい。

(1) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る遊技が実行された場合、当該遊技の最終停止操作に対応する停止ボタンの押下を終了した（離れた）タイミングで、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示される。

(2) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る遊技が実行された場合、当該遊技の最終停止操作に対応する停止ボタンを押下したタイミングで、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示される。

(3) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値（本例では、19000）を上回る遊技が実行された場合、当該遊技の最終停止操作がされた後、自動精算が実行され、当該自動精算が終了すると、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示される。

(4) 設定確認モード中は、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示される。

(5) 設定確認モード中は、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示されない。

(6) メニュー画面の表示中は、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示される。

(7) メニュー画面の表示中は、演出表示装置 S 40 に打ち止め状態中表示が表示されない。

(8) 打ち止め状態中表示は、遊技中に表示される演出画像よりも表示優先度が高い。

(9) 打ち止め状態中表示は、所定のエラーに対応した表示よりも表示優先度が低い。

【0531】

<<打ち止め状態となるまでに要する時間>>

打ち止め状態を有する遊技機は、以下の式が成り立つように設計してもよい。

(打ち止め状態に移行することとなる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数である所定値／遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数) × 最小遊技時間 (s) / 3600 < 風営法で定められた遊技場の営業可能な時間 (h)

【0532】

なお、上記式における3600は、秒を時間に変換するための定数であり、1時間 = 60分 × 60秒 = 3600秒となっている。また、風営法を、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律と称することがある。

【0533】

また、「期待増加数」とは、ある状態における1遊技あたりの遊技メダルの平均の払出枚数から、当該ある状態における（平均の）ベット数を減算したものである。例えば、1/2でハズレが決定され、1/2で10枚役の共通ベルが決定され、3枚賭けで遊技する状態においては、 $0 \times 1/2 + 10 \times 1/2 - 3 = 2$ が「期待増加数」となる。

【0534】

なお、押し順ベルなどの停止ボタンの操作態様によって、払出枚数が相違する条件装置に当選した遊技においては、押し順ナビを実行する遊技状態の場合には押し順ナビに従って停止操作を行った場合で「期待増加数」を算出し、押し順ナビを実行しない遊技状態の場合には、ランダムな停止操作を行った場合または予め定められた任意の停止タイミングで停止操作を行った場合で「期待増加数」を算出することとなる。

【0535】

また、「遊技者にとって最も有利な状態」とは、ボーナスの中で最も有利なボーナス中やAT（押し順ナビ）を実行する状態の中で最も有利なATなどが相当する。また、ボーナスとATとを実行可能な遊技機（A + AT機と称することがある）においては、以下のいずれかを「遊技者にとって最も有利な状態」としてもよい。

(1) すべてのボーナスのうち遊技者にとって最も有利なボーナス

(2) すべてのATを実行可能な状態のうち遊技者にとって最も有利なATを実行可能な

状態

(3) すべてのボーナスとすべてのATを実行可能な状態のうち遊技者にとって最も有利な状態

(4) すべてのATを実行可能な状態のうち遊技者にとって最も有利なATを実行可能な状態となってから当該状態が終了するまでの、ボーナスを含めた状態

【0536】

また、風営法で定められた遊技場の営業可能な時間は18時間となっている。なお、風営法第13条には、『風俗営業者は、深夜（午前零時から午前六時までの時間をいう。以下同じ。）においては、その営業を営んではならない。』と記載されている。

【0537】

なお、上述した式は、以下のように表すこともできる。

(打ち止め状態に移行することとなる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数である所定値／遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数) × 最小遊技時間 (s) < 風営法で定められた遊技場の営業可能な時間 (h) × 3600

【0538】

また、第2実施形態においては、あるゲームに係るリール回転開始から次のゲームのリール回転開始までの最短の時間である最小遊技時間は4.1秒であり、1ゲームあたりの最大の払出枚数は11枚であり、打ち止め状態に移行することとなる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数(所定値)は19000となっており、遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数は3となっているため、上述した式に第2実施形態の数値を当て嵌めると、

$(19000 / 3) \times 4.1 \div 3600 < 18 (h)$

$7.21 < 18 (h)$

となり、上述した式が成立していることとなる。

【0539】

なお、上述した式における、「打ち止め状態に移行することとなる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数である所定値／遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数」は、電源投入時から打ち止め状態となるまでに要する最短のゲーム数の設計値であり、上述した式における左辺である「(打ち止め状態に移行することとなる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数である所定値／遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数) × 最小遊技時間 (s) / 3600」は、電源投入時から打ち止め状態となるまでに要する最短の時間 (h) の設計値である。

【0540】

このことから、上述した式が成立している場合には、風営法で定められた遊技場の営業可能な時間内に電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値(本例では、19000)を上回ることが可能である、換言すると、1日の営業時間内に電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値(本例では、19000)を上回って打ち止め状態となることが可能となる。

【0541】

第2実施形態のように上述した式が成立するよう構成することにより、遊技場の営業開始直後に遊技者にとって最も有利な状態となり、当該最も有利な状態が継続した場合にも、当日中に打ち止め状態とすることができ、遊技機の射幸性を抑えることができる。

【0542】

なお、上述したように、風営法で定められた遊技場の営業可能な時間は18時間となっているが、各都道府県で定められた営業可能な時間のうち最も短時間となる営業可能な時間は13時間となっているため、上述した式の右辺である18(h)を13(h)に置き換えて、上述した式が成立するよう構成することがより好適である。

【0543】

10

20

30

40

50

また、「遊技者にとって最も有利な状態における1ゲームあたりの期待増加数」が低い（例えば、1枚）遊技機の場合は、上述した式が成り立たないこととなるが、このような場合には、打ち止め状態に移行しなくとも射幸性が抑えられた遊技機とすることができる。

【0544】

<<演出表示装置S40を有していない回胴式遊技機に関する構成>>

演出表示装置S40（液晶と称することがある）を有していない回胴式遊技機（または、表示領域が小さい演出表示装置S40のみを有する回胴式遊技機）においても、第2実施形態で前述した打ち止め状態に関する構成を適用することが可能である。なお、演出表示装置S40を有していない回胴式遊技機を非液晶機と称することがある。

10

【0545】

なお、非液晶機に関する構成を以下に詳述することとなるが、表示領域が小さい演出表示装置S40のみを有する回胴式遊技機にも同様の構成を適用することが可能であるし、第2実施形態で前述した演出表示装置S40を有する回胴式遊技機にも適用することが可能である。

【0546】

なお、以下に詳述する構成は、第2実施形態と同様の差数カウンタの構成を適用している。すなわち、差数カウンタはデクリメントカウンタでありカウンタ値の上限値が19000であり下限値が0である。なお、差数カウンタの構成は、上述したすべての構成が適用可能である。また、以下における「差数カウンタのカウンタ値が500以下になると」は、「電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値を上回るまでの残りの差数が500以下になると」と置き換えることができる。また、他のカウンタ値についても同様に置き換えることができる。

20

【0547】

非液晶機においては、打ち止め事前報知状態となった場合に、スピーカS20から「もうすぐ打ち止め状態となります」などの音声を出力するよう構成してもよい。しかしながら、このように構成した場合、打ち止め事前報知状態となった以降、スピーカS20から常時音声を出力してしまうと、遊技者の遊技意欲が減退してしまうおそれがある。

【0548】

<打ち止め状態に関する音声報知を複数回実行する構成1>

30

そこで、非液晶機においては、以下のように構成してもよい。

- (1) 差数カウンタのカウンタ値が500以下になると、スピーカS20から「残り500枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。
- (2) 差数カウンタのカウンタ値が250以下になると、スピーカS20から「残り250枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。
- (3) 差数カウンタのカウンタ値が100以下になると、スピーカS20から「残り100枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。
- (4) 差数カウンタのカウンタ値が50以下になると、スピーカS20から「残り50枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。
- (5) 差数カウンタのカウンタ値が15以下になると、スピーカS20から「残り15枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。

40

【0549】

このように、打ち止め状態が近くなるにつれて、「500→250→100→50→15」のように、スピーカS20にて報知する間隔（差数の間隔）が短くなるよう構成してもよい。このように構成することにより、打ち止め状態に近いことを認識せずに打ち止め状態に移行してしまい、遊技場にてトラブルが発生してしまうことを防止することができる。なお、打ち止め事前報知状態となる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数は、第2実施形態と同一の17000としてもよいし、18500など任意の値に変更しても問題ない。

【0550】

50

なお、打ち止め事前報知状態となる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数と打ち止め状態となる電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数との差は、1回の小役（入賞役）の入賞によって払い出される最大の払出枚数よりも大きくなるよう構成してもよい。このように構成することで、打ち止め事前報知状態となった次遊技は打ち止め状態にならず、遊技者に打ち止め状態に近い旨を適切に伝えることができ、遊技者と遊技場の管理者との間でトラブルが発生してしまうことを防止することができる。

【0551】

＜打ち止め状態に関する音声報知を複数回実行する構成2＞

また、上記（1）乃至（5）に示した差数カウンタの閾値については、差数カウンタのカウント値が初めて当該閾値以下となった場合に、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声を出し、2回目以降となる差数カウンタのカウント値が当該閾値以下となった場合には、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声を出さないよう構成してもよい（図60で前述した構成と同様）。なお、前述したように、遊技終了後に差数カウンタのカウント値から「払出数－ベット数」を減算するよう構成されている。

10

【0552】

具体例としては、以下のような作用となるよう構成してもよい。

（1）差数カウンタのカウント値が255である状態で、3枚賭けのゲームが実行され、10枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示する。

（2）差数カウンタのカウント値が248となり、当該カウント値が250以下になったため、スピーカS20から「残り250枚で打ち止め状態となります」と音声を出しする。

20

（3）3枚賭けのゲームが実行され、当該ゲームの内部抽選の結果はハズレであったため、遊技メダルは払出はなく、差数カウンタのカウント値が251となる。

（4）3枚賭けのゲームが実行され、10枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示して、差数カウンタのカウント値が244となるが、当該カウント値が250以下になったのが2回目であるため、スピーカS20からは「残り250枚で打ち止め状態となります」との音声は出力されない。

【0553】

＜打ち止め状態に関する音声報知を複数回実行する構成3＞

30

また、2回目以降に差数カウンタのカウント値が上記閾値以下となった場合であっても、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声を出し得るよう構成してもよく、一例としては、遊技者による遊技メダルの精算が実行された場合や、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声が出力されてから所定時間が経過した状態で、2回目以降となる差数カウンタのカウント値が上記閾値以下となった場合には、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声（閾値に関する音声と称することがある）を出しするよう構成してもよい。

【0554】

（構成1）

具体例としては、以下のような作用となるよう構成してもよい。

40

（1）差数カウンタのカウント値が255である状態で、3枚賭けのゲームが実行され、10枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示する。

（2）差数カウンタのカウント値が248となり、当該カウント値が250以下になったため、スピーカS20から「残り250枚で打ち止め状態となります」と音声を出しする。

（3）3枚賭けのゲームが実行され、当該ゲームの内部抽選の結果はハズレであったため、遊技メダルの払出はなく、差数カウンタのカウント値が251となる。

（4）遊技者による遊技メダルの精算が実行される。

（5）その後、次の遊技者による遊技が開始され、3枚賭けのゲームが実行され、10枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示して、差数カ

50

ウンタのカウンタ値が 2 4 4 となり、当該カウンタ値が 2 5 0 以下になったため、スピーカ S 2 0 から「残り 2 5 0 枚で打ち止め状態となります」と音声出力する。

【0 5 5 5】

(構成 2)

他の具体例としては、以下のような作用となるよう構成してもよい。

(1) 差数カウンタのカウンタ値が 2 5 5 である状態で、3 枚賭けのゲームが実行され、1 0 枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示する。

(2) 差数カウンタのカウンタ値が 2 4 8 となり、当該カウンタ値が 2 5 0 以下になったため、スピーカ S 2 0 から「残り 2 5 0 枚で打ち止め状態となります」と音声出力する。

(3) 3 枚賭けのゲームが実行され、当該ゲームの内部抽選の結果はハズレであったため、遊技メダルの払出はなく、差数カウンタのカウンタ値が 2 5 1 となる。

(4) (3) のタイミングから所定時間が経過する。

(5) その後、次の遊技者による遊技が開始され、3 枚賭けのゲームが実行され、1 0 枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示して、差数カウンタのカウンタ値が 2 4 4 となり、当該カウンタ値が 2 5 0 以下になったため、スピーカ S 2 0 から「残り 2 5 0 枚で打ち止め状態となります」と音声出力する。

【0 5 5 6】

このように構成することで、遊技者が入れ替わった場合であっても、新たに遊技を開始する遊技者は、打ち止め状態に近いことを確実に認識することができるため、打ち止め状態に近いことを認識せずに打ち止め状態に移行してしまい、遊技場にてトラブルが発生してしまうことを防止することができる。

【0 5 5 7】

なお、上記構成 1 と構成 2 との一方のみを適用することも可能であるし、双方を適用することも可能である。

【0 5 5 8】

< 打ち止め状態に関する音声報知を複数回実行する構成 4 >

また、2 回目以降に差数カウンタのカウンタ値が上記閾値以下となった場合であっても、スピーカ S 2 0 から打ち止め状態に関する音声出力し得る構成としては、遊技者による遊技メダルの精算が実行された場合や、スピーカ S 2 0 から打ち止め状態に関する音声出力されてから所定時間が経過した状況となってから、最初のゲームが実行された場合（実行終了した場合、最終停止操作が終了した場合などのタイミングとしてもよい）に、差数カウンタのカウンタ値が閾値以下となっている上記閾値のうち（差数カウンタのカウンタ値がすでに下回っている上記閾値のうち）、差数カウンタのカウンタ値に最も近い閾値に対応する打ち止め状態に関する音声をスピーカ S 2 0 から出力するよう構成してもよい。

【0 5 5 9】

具体例としては、以下のような作用となるよう構成してもよい。

(1) 差数カウンタのカウンタ値が 2 5 5 である状態で、3 枚賭けのゲームが実行され、1 0 枚役である共通ベルに当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせが停止表示する。

(2) 差数カウンタのカウンタ値が 2 4 8 となり、当該カウンタ値が 2 5 0 以下になったため、スピーカ S 2 0 から「残り 2 5 0 枚で打ち止め状態となります」と音声出力する。

(3-1) (2) から所定時間以上経過している状況にて、次の遊技者による最初のゲームとして、3 枚賭けのゲームが実行され、1 0 枚役である共通ベルに当選した場合、当該ゲームの実行終了後には、差数カウンタのカウンタ値が 2 4 1 となり、差数カウンタのカウンタ値が下回っている閾値は、2 5 0 と 5 0 0 であるため、現在の差数カウンタのカウンタ値に最も近い閾値である 2 5 0 に対応した打ち止め状態に関する音声として、スピーカ S 2 0 から「残り 2 5 0 枚で打ち止め状態となります」と音声出力する。

(3-2) (2) から所定時間以上経過している状況で、次の遊技者による最初のゲーム

として、3枚賭けのゲームが実行され、内部抽選の結果がハズレであった場合、当該ゲームの実行終了後には、差数カウンタのカウンタ値が251となり、差数カウンタのカウンタ値が下回っている閾値は、500のみであるため、現在の差数カウンタのカウンタ値に最も近い閾値である500に対応した打ち止め状態に関する音声として、スピーカS20から「残り500枚で打ち止め状態となります」と音声を出力する。

【0560】

なお、上記(3-1)及び(3-2)においては、打ち止め状態に関する音声を出力するタイミングとして、遊技者による遊技メダルの特算が実行された場合や、スピーカS20から打ち止め状態に関する音声が出力されてから所定時間が経過した状況となってから、最初のゲームの実行が終了したタイミングとしたが、これには限定されず、当該最初のゲームに係るスタートレバーの操作を受け付けたタイミングや、当該最初のゲームに係るリールの回転が開始したタイミングにて打ち止め状態に関する音声を出力するよう構成してもよい。

【0561】

このように構成することで、遊技者が入れ替わった場合であっても、新たに遊技を開始する遊技者は、打ち止め状態に近いことを確実に認識することができるため、打ち止め状態に近いことを認識せずに打ち止め状態に移行してしまい、遊技場にてトラブルが発生してしまうことを防止することができる。

【0562】

<<非液晶機における打ち止め状態に関する構成>>

非液晶機においては、打ち止め状態に関する構成として、以下の構成を適用してよい。なお、以下に詳述する構成は、1つのみを適用することも可能であるし、複数を組み合わせて適用することも可能である。また、以下に詳述する構成は、表示領域が小さい演出表示装置S40のみを有する回胴式遊技機にも適用することが可能である。

【0563】

<ボーナス中に差数カウンタのカウンタ値が0となった場合>

ボーナス(例えば、1種BB、2種BB、RBなど)の実行中において、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定値(本例では、19000)を上回った場合(差数カウンタのカウンタ値が0となった場合)には、当該上回ったゲームの実行が終了した(最終停止操作が終了した)後で、スピーカS20から「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と音声を出力する(当該音声を待機中報知と称することがある)。

【0564】

ボーナスの実行中に待機中報知を1回実行した後においては、基本的にはボーナスが終了するまで待機中報知を実行しないよう構成するとともに、遊技者による遊技メダルの特算が実行された場合や、新たにゲームが実行されない状況(遊技が進行しない状況としてもよい)が所定時間継続した場合や、電源断が発生した後に再度電源投入された場合は、その後の最初のゲームが実行終了した後で、再度待機中報知を実行するよう構成してもよい。

【0565】

このように構成することで、ボーナスの実行中に待機中報知を何度も実行することによって、遊技者に煩わしさを感じさせないよう構成するとともに、遊技者が入れ替わった場合であっても、新たに遊技を開始する遊技者は、ボーナスの終了後に打ち止め状態となることを認識することができる。

【0566】

なお、上述したボーナス中に待機中報知を再度実行する条件である、遊技者による遊技メダルの特算が実行された場合と、新たにゲームが実行されない状況(遊技が進行しない状況としてもよい)が所定時間継続した場合と、電源断が発生した後に再度電源投入された場合とは、1つのみを適用してもよいし複数を適用してもよい。

【0567】

<非液晶機における音量に関する構成>

非液晶機において、打ち止め状態に移行した際には、スピーカ S 2 0 から「遊技を停止します 係員をお呼びください」との音声（打ち止め報知と称することがある）を出力するよう構成してもよい。このように構成した場合、以下の音声（またはサウンド）については、以下の大小関係が成立するよう構成してもよい。

A：所定の遊技状態において、待機中報知を出力しているときの、待機中報知以外のサウンド（BGM、演出音などと称することがある）の音量

B：所定の遊技状態において、待機中報知を出力していないときの、前記待機中報知以外のサウンドの音量

C：所定の遊技状態において、待機中報知を出力しているときの、待機中報知の音量とした場合において、

式 1：A < C

式 2：B < C

式 3：A < B

上記式 1 乃至式 3 の一または複数が成立するように構成してもよい。なお、上記 A 乃至 C においては、同一の演出が実行されている（待機中報知以外）場合を例示している。

【0568】

このように構成することで、待機中報知を実行しているときに、待機中報知以外に所定の演出が実行されていた場合にも、待機中報知の音量が相対的に大きいため、待機中報知が聞き取りやすくなり、例えば、待機中報知が実行される前のゲームの演出が、待機中報知が実行されるゲームに跨って実行された場合においても、待機中報知が聞き取りやすくなる。また、待機中報知が実行されるゲームの演出音の音量と待機中報知が実行されないゲームの演出音の音量とを相違させることにより、待機中報知が実行される前のゲームの演出が、待機中報知が実行されるゲームに跨って実行された場合においても、遊技者は演出音の音量が小さくなったことに違和感を抱き、待機中報知が実行されていることに気づくことができる。

【0569】

また、待機中報知または閾値に関する音声出力されている場合には、待機中報知または閾値に関する音声以外のサウンドの音量を小さくするよう構成してもよく、このように構成した場合においても、待機デモに関するサウンドや、所定のエラーに関するサウンドの一または複数については、待機中報知または閾値に関する音声出力されていても音量が小さくならないように構成してもよい。また、一部のエラーに関するサウンドの音量は小さくなるが、他のエラーに関するサウンドの音量は小さくならないよう構成してもよい。

【0570】

なお、本明細書におけるすべての構成はメダルレスの回胴式遊技機（メダルレス遊技機、遊技機、管理遊技機、封入式遊技機と称することがある）にも適用可能であり、メダルレス遊技機は、概して、遊技メダル（センサに検出させるための物理的なメダルや金属片なども含む）を使用せず、得点を使用するものである。

【0571】

メダルレスの回胴式遊技機は、概して、メダル投入口 D 1 7 0、メダル受け皿 D 2 3 0、メダルセレクト D S、ホッパ H 4 0、メダル払出装置 H、メダル補助タンク H S 等といった遊技メダル関連のものが設けられていない点、貸機との通信が可能な点等が、遊技メダルを用いる回胴式遊技機と異なる。この場合、実体的な遊技メダルを投入・払出する必要がない分だけ、遊技機内部への不正アクセスの防止効果を上げたり（例えば、遊技メダルの投入開口部や払出開口部を有さない、前面扉と裏箱とが一体化されている等により、異物が挿入される間隙を封鎖する）、不正な遊技メダルが使用される危険性を低下させたり、といった不正行為（いわゆるゴト行為）に対するセキュリティ性も向上させるよう構成することができる。尚、前記クレジット及びクレジット数表示装置 D 2 0 0 を有しておらず、代わりに、払出制御基板 H（遊技価値制御基板、遊技価値制御手段、メダル数制御

10

20

30

40

50

基板、メダル数制御手段とも称することがある）にて、総得点の増減処理を実行し、総得点表示装置（メダル数表示装置とも称す）にて表示処理を実行してもよい。

【0572】

なお、メダルレスの回胴式遊技機に設けられた計数ボタンを操作することによって計数処理が実行される。計数処理が実行されると、メダルレスの回胴式遊技機における総得点が貸機側に移動することとなる。また、メダルレスの回胴式遊技機に設けられた貸出ボタンを操作することによって貸出処理が実行される。貸出処理が実行されると、貸機側からメダルレスの回胴式遊技機における総得点に（総得点表示装置に）得点が移動することとなる。

【0573】

また、一般的な回胴式遊技機Pで用いられる実体的な遊技メダルに相当し、メダルレスの回胴式遊技機で遊技を行うために用いられる擬似的な遊技媒体として「得点」を有するよう構成することができる。なお、「得点」を「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」、「遊技メダル」と称することもある。物理的に実在する実体的な遊技メダルは、遊技者が直接に手にして取り扱うことができる。これに対して、メダルレスの回胴式遊技機では、遊技者が実体的な遊技メダルを直接に扱うことなく遊技を進めることができる。得点は、実体的な遊技メダルではなく、主制御基板等のCPUが演算処理できるようにデータ化された擬似的な遊技媒体である。また、「総得点」とは、メダルレスの回胴式遊技機に投入し得るすべての得点であり、主制御基板や払出制御基板にて管理されるデータとしてもよい。「総得点」は、実体的な遊技メダルを用いる一般的な回胴式遊技機Pのメダル受け皿に載せられている遊技メダルの数に相当する。尚、上述の回胴式遊技機Pの構成を本実施形態に適用する場合には、本明細書内において「遊技メダル」と称しているものを、「得点」、「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」等として扱うことは何等問題なく、適宜、「得点」、「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」として称することに何ら問題無い。尚、「クレジット」を有しておらず、代わりにクレジット数表示装置を、総得点表示装置として置き換えることも問題ない。

【0574】

<<<第3実施形態>>>

次に、第3実施形態について説明するが、その説明にあたり、上述の実施形態と同様な箇所には同様の符号や文言を用いることでその説明を省略或いは簡略化するものとする。なお、第3実施形態のすべての構成は、他の実施形態に適用することが可能であり、他の実施形態のすべての構成は第3実施形態に適用可能である。

【0575】

また、第3実施形態は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機となっているが、第3実施形態にて詳述する構成のうち遊技メダルを用いない構成については、メダルレスの回胴式遊技機にも適用することができることを補足しておく。

【0576】

第3実施形態においては、第2実施形態との相違点についてのみ、以下に詳述することとする。

【0577】

はじめに、図69は、図14におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理のフローチャートである。第2実施形態との相違点は、ステップ1219-1であり、すなわち、ステップ1219-1で、主制御基板MのCPU100は、エラー関連処理を実行し、ステップ1220に移行する。また、ステップ1251でNoの場合には、ステップ1219-1に移行することとなる。

【0578】

ここで、ステップ1219-1のエラー関連処理においては、打ち止め状態への移行に関する処理等を含む打ち止め状態に関する処理が実行されるよう構成されており、より具体的には、打ち止めフラグがオンである場合に打ち止め状態に移行する処理、後述する払

10

20

30

40

50

出数表示装置 D 2 7 0 における打ち止め事前報知や打ち止め報知、貸機（貸出ユニットと称することがある）への打ち止め状態に関する信号の出力などが実行される。なお、ステップ 1 2 1 9 - 1 のエラー関連処理においては、打ち止め状態に関する処理以外にも、所定のエラー監視処理や所定のエラー停止処理（遊技の進行を停止する処理）が実行されるよう構成されている。

【0579】

なお、主制御基板 M 側において、遊技の進行に関する記憶領域である第 1 R A M 領域と、エラー関連等の遊技の正常な進行とは異なる処理に関する記憶領域である第 2 R A M 領域とを有するよう構成してもよく、このように構成した場合には、打ち止めフラグ、差数カウンタのカウンタ値などは第 2 R A M 領域に記憶するよう構成してもよい。

10

【0580】

また、ステップ 1 2 1 9 - 1 のエラー関連処理にて打ち止め状態となった場合には、自動精算処理（操作部材の操作を伴わずに、クレジットに貯留されている遊技メダルをすべて払い出す処理）を実行するよう構成してもよいし、自動精算処理を実行しないよう構成してもよい。

【0581】

なお、打ち止め状態となった場合に、ステップ 1 2 1 9 - 1 のエラー関連処理にて自動精算処理を実行するように構成した場合であっても、所定のエラーにより遊技の進行を停止する場合には、ステップ 1 2 1 9 - 1 のエラー関連処理にて自動精算処理を実行しないよう構成されることとなる。

20

【0582】

次に、図 7 0 は、図 1 4 におけるステップ 1 2 0 0 のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理のフローチャートである。第 2 実施形態との相違点は、ステップ 3 7 0 0 及びステップ 3 8 0 0 であり、すなわち、ステップ 1 2 9 0 で入賞に対応した払出が完了した場合（Y e s の場合）、または、ステップ 1 2 7 5 で遊技メダルを払い出す入賞がなかった場合（N o の場合）は、ステップ 3 7 0 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、前述した打ち止め監視処理を実行する。次に、ステップ 3 8 0 0 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、前述した M Y カウンタ監視処理を実行し、ステップ 3 4 0 0 に移行する。

【0583】

このように、第 3 実施形態においては、ステップ 3 4 0 0 乃至ステップ 1 2 9 3 までの遊技状態の更新に関する処理よりも前のタイミングで、ステップ 3 7 0 0 及びステップ 3 8 0 0 の処理を実行するよう構成されている。換言すると、遊技状態の更新に関する処理よりも前に、差数カウンタのカウンタ値の更新（及び／または算出）と M Y カウンタのカウンタ値の更新（及び／または算出）に関する処理を実行するよう構成されている。

30

【0584】

また、図 6 9 及び図 7 0 にて詳述したように、第 3 実施形態においては、遊技進行制御処理（メインループ処理と称することがある）において、打ち止め状態に関する処理を含むステップ 1 2 1 9 - 1 のエラー関連処理を実行した後に、差数カウンタの更新に関する処理を含むステップ 3 7 0 0 の打ち止め監視処理を実行するよう構成されている。すなわち、ある遊技進行制御処理にて打ち止め監視処理が実行され、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が 0 未満となり打ち止めフラグがオンになった場合は、当該ある遊技進行制御処理の次の遊技進行制御処理におけるエラー関連処理にて打ち止め状態に移行するよう構成されている。

40

【0585】

また、エラー関連処理にて打ち止め状態に移行した場合には、遊技停止となるその他のエラーと同様に、その後、エラー関連処理における所定のエラー監視処理や所定のエラー停止処理が実行されないよう構成してもよい。

【0586】

<<払出数表示装置の表示に関する図>>

次に、図 7 1 は、第 3 実施形態における払出数表示装置 D 2 7 0 の表示に関する図であ

50

る。第3実施形態においては、払出数表示装置D270にて、払出数表示、押し順ナビ、エラー報知に加え、打ち止め事前報知と予約状態報知と打ち止め報知とを実行（表示）し得るよう構成されている。以下、払出数表示装置D270における具体的な表示態様について詳述する。

【0587】

なお、第3実施形態における払出数表示装置D270は、2桁の7セグメントディスプレイにて構成されている。

【0588】

＜打ち止め事前報知と予約状態報知と打ち止め報知＞

同図（a1）乃至（a5）は、打ち止め事前報知の表示態様であり、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）以上となった場合に、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知が表示され得るよう構成されている。

【0589】

ここで、打ち止め事前報知とは、遊技者に、打ち止め状態となるまでの差数が少ない旨を報知する、換言すると、打ち止め状態までの残りの差数を示唆する報知であり、第3実施形態においては、主制御基板M側で制御する払出数表示装置D270にて表示するよう構成しているが、これには限定されず、後述するように、主制御基板M側で制御する他の表示装置等（ランプ等でもよい）にて報知するよう構成してもよいし、副制御基板S側で制御する表示装置等にて報知するよう構成してもよいし、主制御基板M側で制御する表示装置等と副制御基板S側で制御する表示装置等との複数の表示装置等にて報知するよう構成してもよい。

【0590】

なお、第3実施形態においては、第2実施形態とは異なり、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500以上となった場合に、打ち止め事前報知状態に移行し得るよう構成されている。換言すると、差数カウンタのカウンタ値が500以下となった場合に打ち止め事前報知状態に移行し得るよう構成されている。

【0591】

払出数表示装置D270における打ち止め事前報知の具体的な表示態様としては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500以上且つ18600未満の場合には、（a1）に図示するように「L5」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18600以上且つ18700未満の場合には、（a2）に図示するように「L4」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18700以上且つ18800未満の場合には、（a3）に図示するように「L3」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18800以上且つ18900未満の場合には、（a4）に図示するように「L2」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18900以上且つ19000未満の場合には、（a5）に図示するように「L1」にて点灯するよう構成されている。すなわち、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）以上となると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が100増加する毎に、「L5」→「L4」→「L3」→「L2」→「L1」の順に表示態様が切り替わっていくよう構成されている。

【0592】

このように構成することで、打ち止め状態に移行するまでにおいて、差数に対応した情報である打ち止め事前報知が切り替わる際の制御を簡便にすることができる。また、一の打ち止め事前報知に対応する差数カウンタのカウンタ値の範囲をすべて一定の値（本例では、100）とすることで、遊技者が混乱しないようにすることができる。

【0593】

なお、上記一定の値（本例では、100）を所定数分の差数と称することがあり、電源

投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数における、18500以上且つ18600未満、18600以上且つ18700未満、18700以上且つ18800未満、18800以上且つ18900未満、18900以上且つ19000未満を、所定数分の差数の範囲と称することがある。

【0594】

また、第3実施形態においては、上記一定の値を100としたが、これには限定されず、変更しても問題ない。上記一定の値を小さい値とすることで、より詳細な打ち止め事前報知を遊技者に報知することができ、前記一定の値を大きい値とすることで、打ち止め事前報知に使用するデータ容量を削減することができる。また、打ち止め事前報知の表示態様が切り替わることとなる差数の範囲を一定ではない値としてもよく、一例としては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500以上且つ18700未満の場合には、「L5」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18700以上且つ18850未満の場合には、「L4」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18850以上且つ18920未満の場合には、「L3」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18920以上且つ18970未満の場合には、「L2」にて点灯し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18970以上且つ19000未満の場合には、「L1」にて点灯するといったように、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が打ち止め状態となる所定数（本例では、19000）に近づくにつれて、打ち止め事前報知に対応した差数の範囲が狭くなっていくように構成してもよい。

【0595】

また、払出数表示装置D270にて打ち止め事前報知として「L1」が表示されている状況下、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、19000）に到達した場合、当該到達タイミングでボーナスの実行中である場合には、第2実施形態と同様に打ち止め予約状態となり、払出数表示装置D270の表示態様は、(a6)に図示するように打ち止め予約状態に対応した予約状態報知として「L0」に切り替わり、当該タイミングでボーナスの実行中でない場合には、打ち止め状態となり、払出数表示装置D270には、(a7)に図示するように打ち止め状態に対応した打ち止め報知として「CP」が表示されることとなる。

【0596】

なお、ボーナスの実行中に電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、19000）に到達した場合も、当該所定数に到達した遊技終了後に打ち止め状態に移行するよう構成してもよく、このように構成した場合には、打ち止め予約状態を有していないよう構成してもよい。

【0597】

なお、所定数（本例では、19000）を第1の値と称することがある。

【0598】

また、打ち止め状態であることを、コンプリート状態である、コンプリート機能が作動していると称することがある。また、予約状態報知を含めて打ち止め事前報知と称してもよい。

【0599】

また、打ち止め状態になった場合においては、スピーカS20から打ち止め状態となった旨の音声を出力させたり、ランプユニットを打ち止め状態に対応した点灯態様にて点灯させるよう構成してもよい。また、打ち止め予約状態になった場合においては、スピーカS20から打ち止め予約状態となった旨の音声を出力させたり、ランプユニットを打ち止め予約状態に対応した点灯態様にて点灯させるよう構成してもよい。

【0600】

<払出数表示>

また、払出が発生する図柄組み合わせが停止表示した場合には、当該図柄組み合わせに

10

20

30

40

50

対応した払出数が払出数表示装置 D 2 7 0 に表示されることとなる。具体例としては、(b 1) に図示するように、1 0 枚の払出があった場合には「1 0」が表示される。

【0 6 0 1】

ここで、1 0 枚の払出があった場合には、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示態様は、「非表示→1 0」のように表示されるよう構成してもよいし、「非表示→1→2→・・・→8→9→1 0」のように1 ずつカウントアップして表示されるよう構成してもよい。なお、上記非表示を 0 に置き換えてもよい。

【0 6 0 2】

<エラー報知>

また、エラーが発生した場合には、当該エラーに対応したエラー報知が払出数表示装置 D 2 7 0 に表示されることとなる。具体例としては、(c 1) に図示するように、投入メダル逆流エラーが発生している場合には「E E」が表示されることとなる。なお、エラーが発生とは、エラーが発生していることを遊技機が検知することであり、エラーが発生している状況においては、遊技機は当該発生中のエラーに関するエラー報知を実行する。エラー報知の具体例としては、主制御基板 M 側の各種ランプにて報知したり、副制御基板 S 側のスピーカ S 2 0 や演出表示装置 S 4 0 にて報知したりすればよい。また、エラーが発生していることを遊技機が検知することを、エラー状態と称することがある。

【0 6 0 3】

なお、不図示であるが、第 3 実施形態においては、複数種類のエラーを有しており（復帰可能エラーを複数有しており、復帰不可能エラーを複数有している）、それぞれのエラーに対応したエラー報知を払出数表示装置 D 2 7 0 に表示し得るよう構成されている。一例としては、投入メダル滞留エラーが発生している場合は払出数表示装置 D 2 7 0 に「E 1」を表示するなどであり、エラーの種類によってエラー報知の表示態様が相違していれば変更しても問題ない。

【0 6 0 4】

ここで、第 3 実施形態においては、前述したように、複数のエラーを有しており、発生したエラーに対応したエラー報知を、払出数表示装置 D 2 7 0 の左側の桁（1 桁目と称することがある）と右側の桁（2 桁目と称することがある）とに表示するよう構成されており、いずれのエラーが発生した場合においても、エラー報知における払出数表示装置 D 2 7 0 の左側の桁と、打ち止め事前報知、予約状態報知、または打ち止め報知（3 つの報知を総称して打ち止めに関する報知と称することがある）における払出数表示装置 D 2 7 0 の左側の桁との表示態様が異なるように構成されている（図 7 1 においては、エラー報知における払出数表示装置 D 2 7 0 の左側の桁は、「E」であるのに対し、打ち止め事前報知、予約状態報知、または打ち止め報知における払出数表示装置 D 2 7 0 の左側の桁は、「L」または「C」となっている）。

【0 6 0 5】

このように構成することで、払出数表示装置 D 2 7 0 におけるエラー報知と打ち止めに関する報知とを遊技者や遊技場の管理者が混同することがないように構成することができる。

【0 6 0 6】

なお、打ち止めに関する報知を、電源投入後の所定タイミング以降の差数に対応した情報、差数に対応した情報、と称することがあり、打ち止め事前報知を、電源投入後の所定タイミング以降の差数に対応した情報、差数に対応した情報、と称することがある。

【0 6 0 7】

このように、払出数表示装置 D 2 7 0 には様々な情報が表示されるよう構成されており、表示態様や表示タイミングを異ならせることにより、遊技者が現在何の情報を表示しているのかを把握できるよう構成されている（詳細については後述する）。

【0 6 0 8】

なお、第 3 実施形態における、払出数表示装置 D 2 7 0 などの 7 セグメントディスプレイには、D P（円状の点灯箇所であり、ドットポイントと称することがある）を有するよ

10

20

30

40

50

う構成してもよく、例えば、右下の領域に設けてもよい（点灯可能な箇所は8個となる）。このように構成した場合には、投入メダル逆流エラーに対応するエラー報知は、払出数表示装置D270にて「CE」と表示し、打ち止め報知は、払出数表示装置D270にて「C.P」と表示してもよく、すなわち、払出数表示装置D270の左側の桁を「C」と「C.」のように表示することで、エラー報知における払出数表示装置D270の左側の桁と、打ち止めに関する報知における払出数表示装置D270の左側の桁との表示態様が異なるように構成することができる。換言すると、払出数表示装置D270の左側の桁を同じアルファベットを示す点灯態様で点灯させた場合であっても、DPの点灯有無によって区別することができるため、異なる点灯態様とすることができる。

【0609】

10

また、遊技者や遊技場の管理者が払出数表示装置D270を視認した場合に、エラー報知であるか打ち止めに関する報知であるかを判別できればよく、エラー報知における払出数表示装置D270の左側の桁と、打ち止めに関する報知における払出数表示装置D270の左側の桁との表示態様が同一であってもよい。

【0610】

<再遊技が停止表示した場合の払出数表示装置に関する図>

次に、図72は、第3実施形態に係る、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合の払出数表示装置D270の表示に関する図である。

【0611】

20

まず、図中（a）にて、所定の遊技状態（押し順ナビを実行するAT中状態であってもよいし、AT中状態とは異なる遊技状態であってもよい）にて3枚賭けの遊技が実行されている。差数カウンタのカウンタ値は480であり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと480枚で打ち止め状態となります」と表示されている。

【0612】

その後、リールに対する停止操作が実行され、ハズレに対応した図柄組み合わせが停止表示され、差数カウンタのカウンタ値は483となり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと483枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、すべてのリールが停止表示した後の図中（b）のタイミングにて、遊技メダルが投入可能となり、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として差数カウンタ値483に対応した「L5」が表示される。

30

【0613】

このように、第3実施形態においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知が表示される場合には、遊技メダルが投入可能となったタイミングで表示されることとなる。

【0614】

なお、打ち止め事前報知が表示されることとなる、遊技メダルが投入可能となったタイミングを、ベットが可能となった特定タイミングと称することがある。

【0615】

40

なお、第3実施形態においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知などの打ち止めに関する報知が表示開始されるタイミングを遊技メダルが投入可能となったタイミングとしたが、これには限定されず、すべてのリールが停止表示してから所定時間が経過したタイミングや、すべてのリールが停止表示したタイミングや、払出処理が終了したタイミングなどとしてもよい。

【0616】

その後、3枚の遊技メダルがベットされ、スタートレバーD50が操作されると（スタートレバーD50の操作を受け付けると）、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知が非表示となり、その後、図中（c）のタイミングにて、図中（a）の遊技の次の遊技（3枚賭けの遊技）に係るリールの回転が開始する。

【0617】

50

なお、同図における払出数表示装置D270が非表示となっている場合に、「00」や

「 0 」を表示するよう構成してもよい（その他の構成においても同様に、非表示を「 0 0 」や「 0 」に変更することが可能である）。

【 0 6 1 8 】

また、第 3 実施形態においては、第 2 実施形態と同様に、遊技メダルの払出処理の終了後に差数カウンタのカウンタ値を更新するよう構成しているが、差数カウンタのカウンタ値を更新するタイミングは変更してもよいし、遊技メダルが投入された場合の差数カウンタのカウンタ値の更新処理のタイミングと遊技メダルが払い出された場合の差数カウンタのカウンタ値の更新処理のタイミングとを相違させてもよい。具体例としては、図中（ c ）でベットされたタイミングで差数カウンタのカウンタ値を増加（ 3 ベットの場合は 3 増加）させてもよい。

10

【 0 6 1 9 】

その後、リールに対する停止操作が実行され、再遊技に対応した図柄組み合わせが停止表示され、再遊技図柄に対応する自動ベットが実行される。また、差数カウンタのカウンタ値は 4 8 3 のままであり（図 5 7 のステップ 3 7 0 4 で No と判定される）、演出表示装置 S 4 0 には、打ち止め状態示唆表示として、「あと 4 8 3 枚で打ち止め状態となります」と表示されたままとなっている。また、すべてのリールが停止表示した後の図中（ d ）のタイミングにて、遊技メダルが投入可能となるが、払出数表示装置 D 2 7 0 には打ち止め事前報知は表示されず非表示となっている。

【 0 6 2 0 】

このように、第 3 実施形態においては、再遊技に対応した図柄組み合わせが停止表示した場合には、差数カウンタのカウンタ値の更新処理を実行しないよう構成されているとともに、払出数表示装置 D 2 7 0 には打ち止め事前報知は表示されないよう構成されている。

20

【 0 6 2 1 】

また、図 7 2 にて図示したように、第 3 実施形態においては、差数カウンタのカウンタ値が打ち止め事前報知を表示する値となっている状況においては、遊技メダルの投入が可能となってからスタートレバー D 5 0 の操作を受け付けるまでの期間にて、払出数表示装置 D 2 7 0 には打ち止め事前報知を表示し得るよう構成されているが、当該期間においても再遊技に対応した図柄組み合わせ（再遊技図柄と称することがある）が停止表示している場合には、打ち止め事前報知が表示されないこととなる。すなわち、差数カウンタのカウンタ値が打ち止め事前報知を表示する値となっている状況で再遊技図柄が停止表示すると、その後、スタートレバー D 5 0 の操作を受け付けるまでの期間（自動ベットが行われてからスタートレバー D 5 0 の操作を受け付けるまでの期間としてもよい）は、打ち止め事前報知が表示されないこととなる。

30

【 0 6 2 2 】

なお、再遊技図柄が停止表示した場合には、スピーカ S 2 0 から再遊技図柄が停止表示した旨の音声出力されたり、ランプユニットが再遊技に対応した点灯態様にて点灯したりするよう構成してもよい。

【 0 6 2 3 】

再遊技図柄が停止表示している場合には、遊技者が入れ替わる可能性が低く、遊技者が入れ替わったとしても、次の遊技者が不利益となる可能性は低いため、上述したように、再遊技図柄が停止表示している場合には、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め事前報知が表示されないよう構成することで、消費電力を抑制することができる。

40

【 0 6 2 4 】

なお、これには限定されず、再遊技図柄が停止表示している場合においても、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め事前報知が表示され得る（例えば、自動ベットが行われたタイミングからスタートレバー D 5 0 の操作を受け付けるまで（具体的には、図 7 2 の図中（ d ）の状況で）表示され得る）よう構成してもよく、このように構成することで、打ち止め事前報知に関する処理を簡便にすることができる。

【 0 6 2 5 】

50

なお、打ち止め予約状態に対応した予約状態報知である「L0」についても、「L5」などと同様に、遊技メダルの投入が可能となってからスタートレバーD50の操作を受け付けるまでの期間にて表示されるよう構成されている。また、「L0」は、「L5」などと同様に、再遊技に対応した図柄組み合わせが停止表示している場合に表示しないよう構成してもよいし、「L0」については、再遊技に対応した図柄組み合わせが停止表示している場合であっても表示し得るよう構成してもよい。

【0626】

＜打ち止め状態となった場合の払出数表示装置に関する図＞

次に、図73は、第3実施形態に係る、打ち止め状態となった場合の払出数表示装置D270の表示に関する図である。

【0627】

まず、図中(a)にて、押し順役(例えば、押し順ベルなどのリール停止順によって払い出される遊技メダル数が相違し得る役)に当選した遊技にて押し順ナビを実行する遊技状態(ATに関する状態)であるAT中状態にて3枚賭けの遊技が実行されている。当該遊技においては押し順役に当選していないため押し順ナビは実行されておらず、差数カウンタのカウント値は4であり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと4枚で打ち止め状態となります」と表示されている。

【0628】

その後、リールに対する停止操作が実行され、ハズレに対応した図柄組み合わせが停止表示され、差数カウンタのカウント値は7となり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと7枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、すべてのリールが停止表示した後の図中(b)のタイミングにて、遊技メダルが投入可能となり、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として差数カウンタ値7に対応した「L1」が表示される。

【0629】

その後、3枚の遊技メダルがベットされ、スタートレバーD50が操作されると(スタートレバーD50の操作を受け付けると)、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知が非表示となり、その後、図中(c)のタイミングにて、図中(a)の遊技の次の遊技(3枚賭けの遊技)に係るリールの回転が開始し、払出数表示装置D270には「左→中→右」に対応した押し順ナビである「=1」が表示される。また、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと7枚で打ち止め状態となります」と表示され、押し順ナビ画像として「123」が表示される。なお、第3実施形態においては、押し順ナビ画像よりも打ち止め状態示唆表示の方が、表示優先度が高くなっているが、これには限定されず、打ち止め状態示唆表示よりも押し順ナビ画像の方が、表示優先度が高くなるよう構成してもよい。

【0630】

また、演出表示装置S40における押し順ナビ画像は、スタートレバーD50の操作を受け付けたことを契機として表示してもよいし、リールが回転開始したことを契機として表示してもよい。また、払出数表示装置D270における押し順ナビは、スタートレバーD50の操作を受け付けたことを契機として表示してもよいし、リールが回転開始したことを契機として表示してもよい。

【0631】

また、押し順ナビが実行される遊技が実行される場合において、最小遊技時間が経過していない状況でスタートレバーD50が操作された場合には、演出表示装置S40における押し順ナビ画像よりも払出数表示装置D270における押し順ナビが先に表示されるよう構成してもよいし、後に表示されるよう構成してもよい。

【0632】

また、押し順ナビが実行される遊技が実行される場合において、最小遊技時間が経過している状況でスタートレバーD50が操作された場合には、演出表示装置S40における押し順ナビ画像よりも払出数表示装置D270における押し順ナビが先に表示されるよう

10

20

30

40

50

構成してもよいし、後に表示されるよう構成してもよい。

【0633】

その後、リールに対する停止操作（左→中→右の順で停止操作）が実行され、ベルに対応した図柄組み合わせが停止表示され、10枚の払出が実行される。払出処理が終了した図中（d）のタイミング（例えば、図70のステップ3700の処理を実行したタイミング）では、差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満となったため、打ち止めフラグがオンとなっており、払出数表示装置D270にはベルの払出数に対応した「10」が表示されており、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと7枚で打ち止め状態となります」と表示されている。

【0634】

なお、図中（d）のタイミングで、打ち止め状態示唆表示として、「あと0枚で打ち止め状態となります」と表示してもよいし、打ち止め状態示唆表示を非表示としてもよい。

【0635】

その後、図中（e）のタイミング（例えば、図69のステップ1219-1の処理を実行したタイミング）にて、打ち止め状態となり、払出数表示装置D270には、打ち止め報知として「CP」が表示され、演出表示装置S40には、打ち止め状態中表示として、「打ち止め状態中 遊技を停止します係員をお呼びください」と表示される。

【0636】

なお、図中（d）における払出数表示である「10」は、所定時間が経過すると非表示となるよう構成してもよいし、所定の操作部材の操作を受け付けると非表示になるよう構成してもよいし、他の表示が払出数表示装置D270に表示されるまで表示を継続するよう構成してもよい。

【0637】

このように、払出数表示装置D270においては、打ち止め事前報知の左側の桁（1桁目と称することがある）は「L」となっており、打ち止め報知の左側の桁は「C」となっており、異なる報知態様となっている。このように構成することで、打ち止め状態となって遊技の進行ができなくなったのか否かを遊技者が容易に認識することができる。

【0638】

なお、払出数表示装置D270の左側の桁を、所定の表示部の所定の表示領域と称することがある。

【0639】

ここで、前述したように、第3実施形態においては、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知は、スタートレバーD50の操作を受け付けると非表示となるよう構成されているため、例えば、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知として「L5」が表示されている状況下、スタートレバーD50が操作され、遊技が実行された後に差数カウンタのカウンタ値が400以下となり、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知として「L4」が表示されるように、打ち止め事前報知の表示態様が切り替わる場合には、払出数表示装置D270は非表示となる期間を有するよう構成されている。

【0640】

このように構成することで、打ち止め事前報知の表示が切り替わったことを遊技者が認識し易くなる。

【0641】

なお、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知として「L5」が表示されている状況下、スタートレバーD50が操作され、払出数表示装置D270に押し順ナビとして「=1」が表示される場合においても、「L5」と「=1」との間に非表示の期間を有するよう構成してもよい。また、その後、遊技が実行された後に差数カウンタのカウンタ値が400以下となり、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知として「L4」が表示される場合においても、払出数表示である「10」（払出数はあくまで一例であり、停止表示した図柄組み合わせによって相違する）と「L4」との間に非表示の期間を有するよう構成してもよい。

10

20

30

40

50

【0642】

また、払出数表示装置D270における「L5」から「=1」に切り替わる場合に、「L5」と「=1」との間に非表示の期間を有する構成としては、以下のいずれかの構成を適用することができる。なお、「L5」と「=1」はあくまで一例であり、払出数表示装置D270の表示が切り替わる場合のすべてに適用することが可能である。

(1) 「L5」の表示期間における最後の所定時間（例えば、100ms）に非表示の期間を有する。

(2) 「=1」の表示期間における最初の所定時間（例えば、100ms）に非表示の期間を有する。

(3) 「L5」の表示期間が終了した後に、所定時間（例えば、100ms）の間、非表示となる所定のウェイト（所定のフリーズ）が実行される。

10

【0643】

また、図73に図示したように、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知を表示する期間と、払出数表示装置D270における払出数表示を表示する期間とが重複しないよう構成されているため、遊技者が打ち止め事前報知と払出数表示とを誤認することを防止することができる。

【0644】

また、遊技メダルが投入可能となって、払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知が表示される場合においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知が表示されるタイミングと、払出数表示装置D270に予約状態報知が表示されるタイミングと、払出数表示装置D270に打ち止め報知が表示されるタイミング（表示開始されるタイミング）とは、同一のタイミング（例えば、遊技メダルが投入可能となってから100ms後）となっている。

20

【0645】

また、払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知が表示される場合においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知が表示されるタイミングと、払出数表示装置D270に予約状態報知が表示されるタイミングと、払出数表示装置D270に打ち止め報知が表示されるタイミングとが、異なるタイミングとなるよう構成してもよい。具体例としては、以下のように構成してもよい。

【0646】

30

<打ち止め事前報知が表示されるタイミング>

打ち止め事前報知は、すべてのリールが停止した後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）以上且つ所定数（本例では、19000）未満の状況である場合に、遊技メダルが投入可能となったタイミングで表示される。

【0647】

<予約状態報知が表示されるタイミング>

予約状態報知は、ボーナスの実行中におけるすべてのリールが停止した後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、19000）以上である場合に、遊技メダルが投入可能となったタイミングで表示される。

40

【0648】

<打ち止め報知が表示されるタイミング>

打ち止め報知は、ボーナスが実行されていない状況においてすべてのリールが停止した後、停止表示した図柄組み合わせに対応する払出が発生し、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、19000）以上である場合には、その後第1の時間所定のフリーズが発生し、当該所定のフリーズの終了後に表示される。また、ボーナスの実行中であり打ち止め予約状態である状況下、当該ボーナスの最終遊技に係るすべてのリールが停止した後、ボーナス終了画面にて第2の時間所定のフリーズが発生し（ボーナス終了画面が演出表示装置S40に表示されている状況にて所定のフリーズが発生する）、当該所定のフリーズの終了後に表示される。なお、第1の時

50

間と第2の時間とは同一の時間値であってもよいし、異なる時間値であってもよい。

【0649】

このように、すべてのリールが停止してから払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知が表示されるまでの時間（打ち止めに関する報知が表示されるタイミング）は、打ち止め事前報知と予約状態報知と打ち止め報知で相違するよう構成してもよい。

【0650】

また、上述したように、払出数表示装置D270に打ち止め報知が表示される場合には所定のフリーズが発生した後に表示されるよう構成されている一方、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知が表示される場合には、所定のフリーズが発生せずに表示されるよう構成してもよい。

【0651】

＜投入メダル逆流エラーとなった場合の払出数表示装置に関する図＞

次に、図74は、第3実施形態に係る、投入メダル逆流エラーが発生した場合の払出数表示装置D270の表示に関する図である。

【0652】

まず、図中（a）にて、所定の遊技状態（押し順ナビを実行するAT中状態であってもよいし、AT中状態とは異なる遊技状態であってもよい）にて3枚賭けの遊技が実行されている。差数カウンタのカウンタ値は480であり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと480枚で打ち止め状態となります」と表示されている。

【0653】

その後、リールに対する停止操作が実行され、ハズレに対応した図柄組み合わせが停止表示され、差数カウンタのカウンタ値は483となり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと483枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、すべてのリールが停止表示した後の図中（b）のタイミングにて、遊技メダルが投入可能となり、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として差数カウンタ値483に対応した「L5」が表示される。

【0654】

その後、遊技メダルが投入可能な状況下、投入メダル逆流エラーが発生し、図中（c）にて、払出数表示装置D270には、投入メダル逆流エラーに対応したエラー報知である「EE」が表示される（「L5」から「EE」に切り替わる）。また、演出表示装置S40には、投入メダル逆流エラーに対応したエラー表示として、「投入メダル逆流エラー発生中！係員を呼んでください」と表示される。

【0655】

その後、投入メダル逆流エラーが解除された図中（d）においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として差数カウンタ値483に対応した「L5」が再度表示される（「EE」から「L5」に切り替わる）。また、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと483枚で打ち止め状態となります」と表示される。

【0656】

このように、第3実施形態においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知を表示している状況下、所定のエラー（復帰可能エラーであり、図74においては投入メダル逆流エラー）が発生した場合には、払出数表示装置D270には当該所定のエラーに対応したエラー報知が表示され、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置D270には打ち止め事前報知が再度表示され得るよう構成されている。

【0657】

このように構成することにより、所定のエラーが発生した場合には、払出数表示装置D270の表示を所定のエラーに対応したエラー報知に切り替えることができるとともに、払出数表示装置D270に一の表示のみを表示することができ、遊技者や遊技場の管理者に適用な報知を行うことができる。

【0658】

なお、払出数表示装置D270の表示が、「EE」から「L5」に切り替わる場合や、

10

20

30

40

50

「L 5」から「E E」に切り替わる場合に、非表示となる期間を有するよう構成してもよい。

【0659】

なお、第3実施形態においては、打ち止めに関する報知とエラー報知とを払出数表示装置D270にて報知するよう構成したが、これには限定されず、打ち止めに関する報知を第1の表示装置で報知し、エラー報知を第2の表示装置で報知するなど、打ち止めに関する報知とエラー報知とを異なる表示装置にて報知するよう構成してもよい。

【0660】

なお、打ち止めに関する報知を表示する上記第1の表示装置の具体例としては、以下の構成を適用することができる。

- (1) 払出数表示装置D270
- (2) 図78の報知態様Aにて後述する打ち止め表示装置
- (3) 図78の報知態様Bにて後述する打ち止めに関する報知専用のLED
- (4) クレジット数表示装置D200
- (5) 演出表示装置S40
- (6) 副制御基板S側で制御する、遊技中の演出として使用する4桁の演出用7セグメントディスプレイ

【0661】

また、エラー報知を表示する上記第2の表示装置の具体例としては、以下の構成を適用することができる。

- (1) 払出数表示装置D270
- (2) クレジット数表示装置D200
- (3) 演出表示装置S40
- (4) エラー報知専用の表示装置

【0662】

なお、打ち止めに関する報知とエラー報知とのいずれか一方を払出数表示装置D270にて報知するよう構成してもよいし、打ち止めに関する報知もエラー報知も、払出数表示装置D270とは異なる表示装置にて報知するよう構成してもよい。

【0663】

このように構成することで、エラー報知を第2の表示装置で行っている最中に、打ち止めに関する報知を第1の表示装置で行うことができ、2つの報知を同時に行うことができる。

【0664】

また、前述したように、エラーが発生した場合には、払出数表示装置D270にてエラー報知を表示する以外にも、副制御基板S側のスピーカS20や演出表示装置S40にてエラー報知を実行するよう構成してもよい。

【0665】

また、所定のエラーが発生し、払出数表示装置D270にエラー報知が表示されるとともに、スピーカS20からエラー音が出力され、演出表示装置S40にてエラー表示が表示され、その後、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置D270のエラー報知は非表示となるが、スピーカS20からエラー音及び／または演出表示装置S40におけるエラー表示が当該所定のエラーの解除後も所定時間に亘って実行されるよう構成してもよい。

【0666】

また、払出数表示装置D270にて打ち止めに関する報知が表示されている状況において、所定のエラーが発生した場合には、払出数表示装置D270にエラー報知が表示されるとともに、スピーカS20からエラー音が出力され、演出表示装置S40にてエラー表示が表示され、その後、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置D270においてはエラー報知が非表示となって打ち止めに関する報知が表示されるが、スピーカS20からエラー音及び／または演出表示装置S40におけるエラー表示が当該所定のエラー

10

20

30

40

50

の解除後も所定時間に亘って実行されるよう構成してもよい。

【0667】

また、払出数表示装置D270にて打ち止めに関する報知が表示されている状況において、所定のエラーが発生した場合には、払出数表示装置D270にエラー報知が表示されるとともに、スピーカS20からエラー音が出力され、演出表示装置S40にてエラー表示が表示され、その後、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置D270においてはエラー報知が非表示となり、スピーカS20からエラー音及び／または演出表示装置S40におけるエラー表示が当該所定のエラーの解除後も所定時間に亘って実行され、当該所定時間が経過すると払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知が表示されるよう構成してもよい。

10

【0668】

また、一または複数のリールの回転中に所定のエラーが発生する場合には、以下のように構成してもよい。

【0669】

(構成1)

(1) 払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知が表示されている状況下、スタートレバーD50が操作され、払出数表示装置D270にて打ち止めに関する報知が非表示となり、リールの回転が開始する。

(2) リール回転中に所定のエラーが発生した場合、払出数表示装置D270には、打ち止めに関する報知もエラー報知も表示されない。

20

(3) その後、所定のエラーが解除されないまま、すべてのリールが停止すると、払出数表示装置D270には、打ち止めに関する報知は表示されず、所定のエラーに対応したエラー報知が表示される。

【0670】

(構成2)

(1) 差数カウンタのカウンタ値が4であり、ボーナスが実行されておらず、払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知として「L1」が表示されている状況下、スタートレバーD50が操作され、内部抽せんの結果が10枚の払出となる共通ベル（押し順や停止操作タイミングに拘らず10枚の払出となる図柄組み合わせが停止表示する抽選結果）となり、払出数表示装置D270にて打ち止めに関する報知が非表示となり、リールの回転が開始する。

30

(2) リール回転中に所定のエラーが発生した場合、払出数表示装置D270には、打ち止めに関する報知もエラー報知も表示されない。

(3) その後、所定のエラーが解除されないまま、すべてのリールが停止すると、共通ベルに対応する10枚の払出が発生し、当該払出が終了すると、払出数表示装置D270には、所定のエラーに対応したエラー報知が表示されず、打ち止め報知（「CP」）が表示される。

【0671】

(構成3)

(1) 差数カウンタのカウンタ値が4であり、ボーナスが実行されておらず、払出数表示装置D270に打ち止めに関する報知として「L1」が表示されている状況下、スタートレバーD50が操作され、内部抽せんの結果が10枚の払出となる共通ベル（押し順や停止操作タイミングに拘らず10枚の払出となる図柄組み合わせが停止表示する抽選結果）となり、払出数表示装置D270にて打ち止めに関する報知が非表示となり、リールの回転が開始する。

40

(2) リール回転中に所定のエラーが発生した場合、払出数表示装置D270には、打ち止めに関する報知もエラー報知も表示されない。

(3) その後、所定のエラーが解除されないまま、すべてのリールが停止すると、共通ベルに対応する10枚の払出が発生せず、払出数表示装置D270には、所定のエラーに対応したエラー報知が表示され、打ち止め報知は表示されない。

50

(4) その後、所定のエラーが解除されると、共通ベルに対応する10枚の払出が発生し、当該払出が終了すると、払出数表示装置D270には、打ち止め報知(「CP」)が表示される。

【0672】

なお、上記所定のエラーには様々なエラーを適用することが可能であり、一例として、以下のエラーを適用してもよい。なお、以下に記載するエラー報知の表示態様(払出数表示装置D270における表示態様)はあくまで一例であり、変更しても何ら問題ない。

- (1) ドア開放エラー(エラー報知の表示態様は「DO」)
- (2) 投入メダル逆流エラー(エラー報知の表示態様は「EE」)
- (3) 投入メダル滞留エラー(エラー報知の表示態様は「E1」)
- (4) メダル空エラー(エラー報知の表示態様は「E2」)
- (5) 設定値エラー(エラー報知の表示態様は「E3」)
- (6) メダル満杯エラー(エラー報知の表示態様は「E4」)
- (7) 表示判定エラー(エラー報知の表示態様は「E5」)
- (8) 投入枚数エラー(エラー報知の表示態様は「E6」)
- (9) 投入異常エラー(エラー報知の表示態様は「E7」)
- (10) 払出異常エラー(エラー報知の表示態様は「E8」)
- (11) 払出メダル滞留エラー(エラー報知の表示態様は「E9」)

10

【0673】

＜電源断が発生した場合の払出数表示装置に関する図＞

20

次に、図75は、第3実施形態に係る、電源断が発生した場合の払出数表示装置D270の表示に関する図である。

【0674】

まず、図中(a)にて、所定の遊技状態(押し順ナビを実行するAT中状態であってもよいし、AT中状態とは異なる遊技状態であってもよい)にて3枚賭けの遊技が実行されている。差数カウンタのカウンタ値は480であり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと480枚で打ち止め状態となります」と表示されている。

【0675】

その後、リールに対する停止操作が実行され、ハズレに対応した図柄組み合わせが停止表示され、差数カウンタのカウンタ値は483となり、演出表示装置S40には、打ち止め状態示唆表示として、「あと483枚で打ち止め状態となります」と表示される。また、すべてのリールが停止表示した後の図中(b)のタイミングにて、遊技メダルが投入可能となり、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として差数カウンタ値483に対応した「L5」が表示される。

30

【0676】

その後、図中(c)にて、遊技メダルが投入可能な状況下、遊技機への電源供給が遮断され(電源断が発生し)、払出数表示装置D270は非表示となる。

【0677】

その後、設定キースイッチがオフの状況で電源が投入されると(設定変更モードに移行しない電源投入がされると)、図中(d)にて、差数カウンタのカウンタ値が初期化されて19000となり、払出数表示装置D270は、電源断前に表示されていた「L5」は表示されずに非表示となっており、演出表示装置S40には打ち止め状態示唆表示が表示されていない。

40

【0678】

このように、第3実施形態においては、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更モードに移行しない電源復帰をした場合には、払出数表示装置D270には打ち止め事前報知が再度表示されず、非表示となるよう構成されている。

【0679】

このように構成することにより、遊技場の営業中に電源断が発生してしまった場合にお

50

いても、現在の差数に関する状況を払出数表示装置 D 2 7 0 にて適切に報知することができる。

【0680】

なお、図中（c）の後、設定キースイッチがオンの状態で電源が投入されると（設定変更モードに移行する電源投入がされると）、差数カウンタのカウンタ値が初期化されて 1 9 0 0 0 となり、払出数表示装置 D 2 7 0 は、電源断前に表示されていた「L 5」は表示されずに非表示となっており、演出表示装置 S 4 0 には打ち止め状態示唆表示が表示されないよう構成されている。

【0681】

なお、クレジット数表示装置 D 2 0 0 に第 1 の数（例えば、1 0）が表示されており、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯している状態で、遊技機への電源供給が遮断され、その後、設定変更を伴わない電源投入がされる（設定キースイッチがオフの状態で電源がオンとなる）と、クレジット数表示装置 D 2 0 0 に第 1 の数（例えば、1 0）が表示され、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯するよう構成されている。

10

【0682】

また、クレジット数表示装置 D 2 0 0 に第 1 の数（例えば、1 0）が表示されており、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯している状態で、遊技機への電源供給が遮断され、その後、設定変更を伴う電源投入がされる（設定キースイッチがオンの状態で電源がオンとなる）と、クレジット数表示装置 D 2 0 0 に 0 が表示され（非表示としてもよい）、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯しないよう構成されている。

20

【0683】

なお、上記 3 ベットランプ D 2 1 3 は、1 ベットランプ D 2 1 1 または 2 ベットランプ D 2 1 2 に置き換えても問題ない。

【0684】

＜ボーナス中に電源断が発生した場合の払出数表示装置に関する図＞

次に、図 7 6 は、第 3 実施形態に係る、ボーナスの実行中に電源断が発生した場合の払出数表示装置 D 2 7 0 の表示に関する図である。

【0685】

まず、図中（a）にて、ボーナス中にて 3 枚賭けの遊技が実行されている。差数カウンタのカウンタ値は 4 であり、演出表示装置 S 4 0 には、打ち止め状態示唆表示として、「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示されている。なお、演出表示装置 S 4 0 には、実行中のボーナスにて獲得した遊技メダル数（払い出された遊技メダル数としてもよい）の表示として「GET 1 5 7」と表示されている。なお、実行中のボーナスにて獲得した遊技メダル数の表示として、ベットされた遊技メダルの分を減算表示するタイミングは、同図においてはすべてのリールが停止した後のタイミングとしているが、これには限定されず、ベットが実行されたタイミングとしてもよいし、スタートレバー D 5 0 の操作を受け付けたタイミングとしてもよい。

30

【0686】

なお、図 7 6 におけるボーナスは、BB や RB など、前述したいずれのボーナスに適用してもよいし、後述する電源断が発生するタイミングは、第 1 種特別役物連続作動装置の作動中且つ第 1 種特別役物の非作動中に適用してもよい。

40

【0687】

図中（a）の後、リールに対する停止操作が実行され、ベルに対応した図柄組み合わせが停止表示され、図中（b）にて、1 0 枚の払出が発生する。払出数表示装置 D 2 7 0 には払出数表示として「1 0」が表示される。なお、図中（b）では、演出表示装置 S 4 0 の表示は、ベルに対応した更新がされておらず、打ち止め状態示唆表示として、「あと 4 枚で打ち止め状態となります」と表示されており、実行中のボーナスにて獲得した遊技メダル数の表示として「GET 1 5 7」と表示されたままとなっている。

【0688】

また、図中（b）では、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最

50

大の差数が19000以上となり、ボーナスの実行中であるため、打ち止め予約フラグがオンとなる。

【0689】

その後、遊技メダルが投入可能となった図中(c)にて、打ち止め予約フラグがオンであるため、打ち止め予約状態となっており、払出数表示装置D270には予約状態報知として「L0」が表示され、演出表示装置S40には、打ち止め予約表示として「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と表示される。なお、図中(c)では、演出表示装置S40の表示は、ベルに対応した更新がされ、実行中のボーナスにて獲得した遊技メダル数の表示として「GET164」と表示されている。

【0690】

なお、図中(c)にて、演出表示装置S40に打ち止め予約表示として「ボーナス終了後に打ち止め状態となります」と表示され、実行中のボーナスにて獲得した遊技メダル数の表示として「GET164」と表示されているよう構成してもよい。

【0691】

その後、図中(d)にて、遊技メダルが投入可能な状況下、遊技機への電源供給が遮断され(電源断が発生し)、払出数表示装置D270は非表示となる。

【0692】

その後、設定キースイッチがオフの状況で電源が投入されると(設定変更モードに移行しない電源投入がされると、または、設定変更を伴わない電源投入がされると)、図中(e)にて、ボーナスの実行が再開し、打ち止め予約フラグはオンになっており、払出数表示装置D270には、電源断前に表示されていた「L0」が表示されており、演出表示装置S40には、打ち止め予約表示が表示されている。

【0693】

このように、第3実施形態においては、ボーナスの実行中であり、払出数表示装置D270に予約状態報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更モードに移行しない電源復帰をした場合には、払出数表示装置D270には予約状態報知が再度表示されるよう構成されている。

【0694】

このように構成することにより、遊技場の営業中に電源断が発生してしまった場合においても、現在の差数に関する状況や打ち止め状態に関する状況を払出数表示装置D270や演出表示装置S40にて適切に報知することができる。

【0695】

なお、図76にて詳述したように、ボーナスの実行中であり、払出数表示装置D270に予約状態報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更を伴わない電源復帰(設定キースイッチがオフの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行しない電源投入がされる)をした場合には、ボーナスの実行中となり、払出数表示装置D270には予約状態報知が再度表示されるよう構成されているが、ボーナスの実行中であり、払出数表示装置D270に予約状態報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更を伴う電源復帰(設定キースイッチがオンの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行する電源投入がされる)をした場合には、ボーナスの実行中ではなくなり、払出数表示装置D270には予約状態報知が表示されないよう構成されている。

【0696】

また、払出数表示装置D270に打ち止め報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更を伴わない電源復帰(設定キースイッチがオフの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行しない電源投入がされる)をした場合には、払出数表示装置D270には打ち止め報知が再度表示されるよう構成されているが、払出数表示装置D270に打ち止め報知を表示している状況下、電源断が発生し、その後設定変更を伴う電源復帰(設定キースイッチがオンの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行する電源投入がされる)をした場合には、払出数表示装置D270には打ち止め報知が表示されないよう構成されている。

10

20

30

40

50

【0697】

また、払出数表示装置D270に予約状態報知として「L0」が表示されている状況下、実行中のボーナスが終了すると、打ち止め状態となるよう構成されているが、当該ボーナスの最終遊技が再遊技に当選した遊技であった場合（例えば、遊技の実行回数に基づいてボーナスが終了し得るよう構成した場合）においても、再遊技図柄が停止表示したタイミングで打ち止め状態となるよう構成してもよい。

【0698】

また、図76の図中(a)のタイミングで電源断が発生し、その後設定変更を伴わない電源復帰（設定キースイッチがオフの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行しない電源投入がされる）をした場合には、ボーナスの実行中となり、リールが回転し、払出数表示装置D270は非表示であり、演出表示装置S40の打ち止め状態示唆表示は表示されない（差数カウンタのカウンタ値が初期化されるため）よう構成されている。また、図76の図中(a)のタイミングで電源断が発生し、その後設定変更を伴う電源復帰（設定キースイッチがオンの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行する電源投入がされる）をした場合には、ボーナスの実行中ではなくなり、リールは回転せず、払出数表示装置D270は非表示であり、演出表示装置S40の打ち止め状態示唆表示は表示されない（差数カウンタのカウンタ値が初期化されるため）よう構成されている。

【0699】

また、ボーナスの実行中であり、差数カウンタのカウンタ値が4（カウンタ値はあくまで一例であり、変更しても問題ない）であり、リールが停止しており、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として「L1」が表示されている状況で、電源断が発生し、その後設定変更を伴わない電源復帰（設定キースイッチがオフの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行しない電源投入がされる）をした場合には、ボーナスの実行中となり、リールは回転せず、払出数表示装置D270は非表示であり、演出表示装置S40の打ち止め状態示唆表示は表示されない（差数カウンタのカウンタ値が初期化されるため）よう構成されている。また、ボーナスの実行中であり、差数カウンタのカウンタ値が4であり、リールが停止しており、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知として「L1」が表示されている状況で、電源断が発生し、その後設定変更を伴う電源復帰（設定キースイッチがオンの状況で電源が投入される、設定変更モードに移行する電源投入がされる）をした場合には、ボーナスの実行中ではなくなり、リールは回転せず、払出数表示装置D270は非表示であり、演出表示装置S40の打ち止め状態示唆表示は表示されない（差数カウンタのカウンタ値が初期化されるため）よう構成されている。

【0700】

なお、第3実施形態における払出数表示装置D270が非表示である状況は、払出数表示装置D270に「00」または「0」が表示されている状況に置き換えることが可能である。

【0701】

<<下パネルの表示に関する図>>

次に、図77は、第3実施形態に係る下パネルD140の表示に関する図である。第3実施形態においては、正面視にて下パネルD140の右上方に位置する打ち止め説明領域D141にて、打ち止め事前報知と予約状態報知と打ち止め報知とに関する説明（打ち止め状態に関する説明と称することがある）を表示するよう構成されている。

【0702】

打ち止め状態に関する説明の具体例としては、以下のように構成することができる。

<払出数表示装置の表示について>

L5：打ち止め状態まで残り500枚以下

L4：打ち止め状態まで残り400枚以下

L2：打ち止め状態まで残り300枚以下

L2：打ち止め状態まで残り200枚以下

L1：打ち止め状態まで残り100枚以下

L 0：打ち止め予約状態

C P：打ち止め状態

【0703】

このように構成することで、遊技の状況に拘らず、打ち止め状態に関する説明を視認することで、遊技者は、払出数表示装置 D 2 7 0 における打ち止めに関する報知の内容を理解することができる。

【0704】

なお、下パネル D 1 4 0 における打ち止め状態に関する説明は、遊技者に認識され易いよう構成することが好適であり、一例としては、打ち止め状態に関する説明の表示領域は、下パネル D 1 4 0 における遊技機の機種名に関する表示の表示領域よりも大きくなるよう構成してもよいし、下パネル D 1 4 0 における遊技機メーカー名に関する表示の表示領域よりも大きくなるよう構成してもよい。

【0705】

また、下パネル D 1 4 0 には、打ち止め状態を搭載している旨を表示するよう構成してもよく、具体例としては、「打ち止め状態搭載機」のように表示してもよい。なお、打ち止め状態を搭載している旨の表示の表示領域は、下パネル D 1 4 0 における打ち止め状態に関する説明の表示領域よりも大きくしてもよいし、小さくしてもよい。また、打ち止め状態を搭載している旨の表示の表示領域は、下パネル D 1 4 0 における遊技機の機種名に関する表示の表示領域よりも大きくなるよう構成してもよいし、下パネル D 1 4 0 における遊技機メーカー名に関する表示の表示領域よりも大きくなるよう構成してもよい。

【0706】

また、打ち止め状態に関する説明や打ち止め状態を搭載している旨は、下パネル D 1 4 0 以外に表示するよう構成してもよく、一例としては、中パネルや上パネルなどの下パネル D 1 4 0 以外のパネルや、操作卓に表示されるよう構成してもよいし、演出表示装置 S 4 0 において待機デモの表示中（待機デモが表示される期間の一部であってもよいし、全部であってもよい）に表示されるよう構成してもよい。

【0707】

このように構成することで、遊技者が遊技を開始する前に、遊技者に打ち止め状態を有する機種であるか否かを認識させることができ、遊技者と遊技場とのトラブルを未然に防止することができる。

【0708】

<<打ち止めに関する報知の報知態様に関する図>>

次に、図 7 8 は、第 3 実施形態に適用可能な打ち止めに関する報知の報知態様に関する図である。第 3 実施形態にて前述した打ち止めに関する報知の報知態様はあくまで一例であり、図 7 8 に図示するように、様々な報知態様を適用することが可能である。

【0709】

<報知態様 A>

まず、図 7 8 上段の報知態様 A について詳述する。報知態様 A においては、打ち止めに関する報知専用の 4 桁の 7 セグメントディスプレイからなる打ち止め表示装置（例えば、遊技機正面から視認可能な位置に設ける）を有しており、打ち止めに関する報知は、第 3 実施形態の払出数表示装置 D 2 7 0 ではなく打ち止め表示装置にて実行するよう構成されている。

【0710】

打ち止め表示装置においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が 1 8 5 0 0 に到達すると打ち止め事前報知が表示され、（A 1）のように、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が 1 8 5 0 0（差数カウンタのカウンタ値が 5 0 0）の場合には、「L 5 0 0」と表示される。

【0711】

（A 1）の状況から 1 0 枚の払出が発生すると、差数カウンタのカウンタ値が 4 9 0 となり、（A 2）にて、打ち止め表示装置には、「L 4 9 0」と表示される。その後、電源

10

20

30

40

50

投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が増加していき、（A 3）にて、打ち止め表示装置には、「L 0 0 3」と表示される。

【0 7 1 2】

（A 3）の状況から10枚の払出が発生すると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が19000に到達し、ボーナスの実行中ではない場合には、打ち止め状態となり、（A 4）のように、打ち止め表示装置には、「CP」と表示される。他方、ボーナスの実行中である場合には、打ち止め予約状態となり、（A 5）のように、打ち止め表示装置には、「LL」と表示される。

【0 7 1 3】

このように、打ち止め表示装置は4桁の7セグメントディスプレイにて構成され、打ち止め事前報知を表示する場合には、左から1桁目に「L」が表示され、左から2桁目から4桁目までの3桁で差数カウンタのカウンタ値に対応した値、換言すると、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が打ち止め状態となる所定数（本例では、19000）に到達するまでの残りの差数（または、差数カウンタのカウンタ値）を表示するよう構成されている。また、第3実施形態とは異なり、報知態様Aにおいては、打ち止め事前報知を差数1枚ごとに表示することができるよう構成されており、このように構成することで、遊技者は打ち止め状態までの差数を正確に把握することができるようになる。

【0 7 1 4】

なお、報知態様Aにおいては、打ち止めに関する報知専用の4桁の7セグメントディスプレイからなる打ち止め表示装置にて打ち止めに関する報知を実行するよう構成したが、これには限定されず、打ち止め表示装置と同様の4桁の7セグメントディスプレイからなる主制御基板M側で制御する表示装置であって、打ち止めに関する報知とその他の表示とを兼用するよう構成してもよい。

【0 7 1 5】

また、副制御基板S側で制御する、遊技中の演出として使用する4桁の演出用7セグメントディスプレイにて、「7 7 7 7」のように4桁の数字が同一となった場合に遊技者に利益が付与されることを示す演出を実行し、当該4桁の演出用7セグメントディスプレイにて、報知態様Aにて前述した打ち止めに関する報知を実行するよう構成してもよい。

【0 7 1 6】

なお、上述した4桁の7セグメントディスプレイは、いずれにおいても桁数を変更しても問題ない。一例としては、3桁の7セグメントディスプレイにて打ち止めに関する報知を実行する場合には、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500（差数カウンタのカウンタ値が500）の場合には、「5 0 0」と表示される、すなわち、4桁の7セグメントディスプレイの場合の左から1桁目に表示していた「L」以外の3桁を表示するよう構成することで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が打ち止め状態となる所定数（本例では、19000）に到達するまでの残りの差数を1ずつ表示することができる。

【0 7 1 7】

<報知態様B>

次に、図78下段の報知態様Bについて詳述する。報知態様Bにおいては、点灯可能な連続した5個のLEDからなる打ち止め表示装置を有しており、打ち止めに関する報知は、第3実施形態の払出数表示装置D270ではなく打ち止め表示装置にて実行するよう構成されている。

【0 7 1 8】

打ち止め表示装置においては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500に到達すると打ち止め事前報知が表示される。打ち止め事前報知は（B 1）乃至（B 5）となっており、具体的には以下のように点灯する。

（B 1）電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18500以上、且つ、18600未満の場合には、打ち止め表示装置の左から1桁目のみが点

10

20

30

40

50

灯する。

(B2) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18600以上、且つ、18700未満の場合には、打ち止め表示装置の左から1桁目と2桁目が点灯する。

(B3) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18700以上、且つ、18800未満の場合には、打ち止め表示装置の左から1桁目乃至3桁目が点灯する。

(B4) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18800以上、且つ、18900未満の場合には、打ち止め表示装置の左から1桁目乃至4桁目が点灯する。

(B5) 電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が18900以上、且つ、19000未満の場合には、打ち止め表示装置の左から1桁目乃至5桁目がすべて点灯する。

【0719】

また、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が19000に到達し、ボーナスの実行中ではない場合には、打ち止め状態となり、打ち止め表示装置では打ち止め報知が実行される。打ち止め報知は(B6)であり、打ち止め表示装置の左から1桁目乃至5桁目がすべて点滅する。

【0720】

また、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が19000に到達し、ボーナスの実行中である場合には、打ち止め予約状態となり、打ち止め表示装置では予約状態報知が実行される。予約状態報知は(B7)であり、打ち止め表示装置の左から1桁目と5桁目が点滅する。

【0721】

このように、打ち止め表示装置は点灯可能な連続した5つのLEDにて構成され、打ち止めに関する報知を実行する場合には、5つのLEDの点灯態様によって報知するよう構成されている。また、報知態様Bにおいては、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が打ち止め状態となる所定数(本例では、19000)に到達するまでの残りの差数を、5つのLEDの点灯態様によって100ずつ報知することができるよう構成されている。

【0722】

なお、報知態様Bに係る打ち止め表示装置のLEDの数や点灯態様はあくまで一例であり、変更しても問題ないし、報知態様Bにおける点灯と点滅においては、あくまで一例であり、遊技者が視認して異なる点灯態様であることが判別できればよい。

【0723】

<<打ち止めに関する適用可能な構成>>

次に、本明細書に係る遊技機に適用可能な打ち止めに関する構成を以下に詳述する。以下の構成は上述したすべての実施形態に適用可能である。また、以下の構成を1つのみ適用してもよいし、複数の構成を組み合わせてもよい。

【0724】

<払出数表示に関する構成>

10枚の払出があった場合に、払出数表示装置D270にて、「非表示→1→2→・・・→8→9→10」のように1ずつカウントアップして表示され、その後、遊技メダルが投入可能となったタイミングで、払出数表示装置D270にて「L1」が表示される場合において、「1」から「2」など数値が切り替わるのに要する時間を払出数表示の更新時間とし、最後に表示される払出数表示である「10」が表示されている時間を払出数表示の維持時間とした場合には、「払出数表示の更新時間<払出数表示の維持時間」となるよう構成してもよい。

【0725】

このように、払出数表示の最後に表示される払出数表示の維持時間を長時間とすること

10

20

30

40

50

によって、払出数表示装置 D 2 7 0 にて打ち止めに関する報知が表示されるまでに、遊技者が払出枚数を確実に認識することができる。

【0726】

また、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示が、払出数表示から打ち止めに関する報知に切り替わる場合には、払出数表示装置 D 2 7 0 が非表示となる期間を有する（例えば、100ms 非表示となる）よう構成してもよい。具体例としては、「100ms 非表示→L1を表示」のように、打ち止めに関する報知の報知態様に非表示を含めたり、打ち止めに関する報知の開始時に所定のフリーズを実行するよう構成してもよい。

【0727】

このように構成することで、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示が、打ち止めに関する報知に切り替わったことを容易に把握することができる。

10

【0728】

また、払出数表示装置 D 2 7 0 に払出数表示が表示された際に、演出表示装置 S 4 0 にも払出数表示の最後に表示される払出数表示に対応する表示を表示するよう構成してもよく、このように構成した場合には、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示が、払出数表示の最後に表示される払出数表示から打ち止めに関する報知に切り替わった場合にも、当該切り替わったタイミングから所定時間が経過するまで（または、所定の操作部材が操作されるまで）は、演出表示装置 S 4 0 に当該払出数表示の最後に表示される払出数表示に対応する表示を表示するよう構成してもよい。

【0729】

20

<ベットランプに関する構成>

遊技が実行開始され、その後すべてのリールが停止し、3ベットランプ D 2 1 3（1ベットランプ D 2 1 1 または 2ベットランプ D 2 1 2 としてもよい）が点灯しており、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、19000）に到達したため、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「CP」）が表示された場合、その後の所定のタイミングで3ベットランプ D 2 1 3 が消灯するが、打ち止め報知は表示されたままとなっているよう構成してもよい（打ち止め報知は時間経過で非表示とならないよう構成してもよい）。

【0730】

このように構成することで、打ち止め状態であっても、3ベットランプ D 2 1 3 が時間経過で消灯することとなり、遊技者は3ベットランプ D 2 1 3 が消灯していることを視認することで、遊技が進行されないことを認識することができるとともに、払出数表示装置 D 2 7 0 を視認することで打ち止め状態であることを認識することができる。

30

【0731】

<ドア開放エラーに関する構成>

遊技の進行が可能な所定の遊技状態で、前扉 D U を開くと、ドア開放エラーとなり（ドア開放エラーが発生し）、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「DO」）に切り替わるよう構成してもよく、このように構成した場合には、以下のいずれかの構成を適用してもよい。

（１）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「CP」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放されると、ドア開放エラーとなり（ドア開放エラーが発生し）、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「DO」）に切り替わる。

40

（２）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「CP」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放されても、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、打ち止め報知（「CP」）が表示されているままであり、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「DO」）は表示されない。

【0732】

なお、上記（２）の構成に適用した場合、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「CP」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放された場合には、スピーカ S 2 0 から

50

前扉 D U が開放した旨の音声を出力させたり、ランプユニットを前扉 D U の開放に対応した点灯態様にて点灯させるよう構成してもよい。

【 0 7 3 3 】

上記（１）のように構成することにより、打ち止め状態においてもエラー報知を適切に実行することができる。

【 0 7 3 4 】

上記（２）のように構成することにより、当日の遊技が終了することとなる打ち止め状態の報知を各種エラー報知よりも優先させることができる。

【 0 7 3 5 】

＜設定確認モードに関する構成＞

打ち止め状態に設定確認モードに移行した場合の構成として、以下の一または複数の構成を適用してもよい。

（１）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「C P」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放され、設定キースイッチがオフからオンとなると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、現在の設定値に切り替わる。その後、設定キースイッチがオンからオフになると、設定確認モードが終了し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、打ち止め報知（「C P」）に切り替わる。

（２）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「C P」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「D O」）に切り替わる。その後、前扉 D U が開放された状態で設定キースイッチがオフからオンとなると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、現在の設定値に切り替わる。その後、設定キースイッチがオンからオフになると、設定確認モードが終了し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「D O」）に切り替わる。その後、前扉 D U が閉鎖されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、打ち止め報知（「C P」）に切り替わる。

（３）払出数表示装置 D 2 7 0 が非表示である状態で、前扉 D U が開放され、設定キースイッチがオフからオンとなると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 に現在の設定値が表示される。その後、設定確認モード中に所定のエラー（例えば、投入メダル逆流エラー）が発生するが、払出数表示装置 D 2 7 0 には、当該所定のエラーに対応したエラー報知は表示されない。その後、当該所定のエラーが解除されないまま設定キースイッチがオンからオフになると、設定確認モードが終了し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、当該所定のエラーに対応したエラー報知（例えば、「E E」）が表示される。

（４）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「C P」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放され、設定キースイッチがオフからオンとなると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、現在の設定値に切り替わる。その後、設定確認モード中に所定のエラー（例えば、投入メダル逆流エラー）が発生するが、払出数表示装置 D 2 7 0 には、当該所定のエラーに対応したエラー報知は表示されない。その後、当該所定のエラーが解除されないまま設定キースイッチがオンからオフになると、設定確認モードが終了し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、当該所定のエラーに対応したエラー報知（例えば、「E E」）が表示される。その後、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、打ち止め報知（「C P」）に切り替わる。

（５）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「C P」）が表示されている状態で、前扉 D U が開放されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「D O」）に切り替わる。その後、前扉 D U が開放された状態で設定キースイッチがオフからオンとなると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、現在の設定値に切り替わる。その後、設定確認モード中に所定のエラー（例えば、投入メダル逆流エラー）が発生するが、払出数表示装置 D 2 7 0 には、当該所定のエラーに対応したエラー報知は表示されない。その後、当該所定のエラーが解除されないまま設定キースイッチがオンからオフになると、設定確認モードが終了し、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、当該所定のエラーに対応したエラー報知（例えば、「E E」）が表

10

20

30

40

50

示される。その後、当該所定のエラーが解除されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、ドア開放エラーに対応したエラー報知（例えば、「D O」）に切り替わる。その後、前扉 D U が閉鎖されると、払出数表示装置 D 2 7 0 の表示は、打ち止め報知（「C P」）に切り替わる。

（６）払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知（「C P」）が表示されている状況で、前扉 D U が開放され、設定キースイッチがオフからオンとなると、払出数表示装置 D 2 7 0 には打ち止め報知（「C P」）が表示されたままとなっている（設定確認モードに移行してもよいし、設定確認モードに移行しなくてもよい）。

【 0 7 3 6 】

また、設定確認モードにおける設定値の表示は、払出数表示装置 D 2 7 0 に表示しなくてもよく、一例としては、前扉 D U の内側（前扉 D U が開放されないと視認不可能な位置）に、設定値表示用の表示装置を有するよう構成してもよい。このように構成した場合には、設定確認モード中においては、当該設定値表示用の表示装置に設定値が表示されるため、払出数表示装置 D 2 7 0 （または、打ち止めに関する報知が表示されるその他の表示装置）には、打ち止めに関する報知が表示されるよう構成することができる。同様に、設定確認モード中に所定のエラーが発生した場合（所定のエラーの原因が発生した場合）においても、設定確認モード中においては、当該設定値表示用の表示装置に設定値が表示されるため、払出数表示装置 D 2 7 0 には、当該所定のエラーに対応するエラー報知が表示されるよう構成することができる。

【 0 7 3 7 】

また、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め事前報知が表示されている状況にて設定キースイッチがオフからオン（前扉 D U が開放していることを条件に追加してもよい）になると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 に予約状態報知が表示されている状況にて設定キースイッチがオフからオン（前扉 D U が開放していることを条件に追加してもよい）になると、設定確認モードに移行し、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知が表示されている状況にて設定キースイッチがオフからオンになっても、設定確認モードに移行しないよう構成してもよい。

【 0 7 3 8 】

< 試験信号に関する構成 >

ここで、型式試験を行う際に、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数である 1 9 0 0 0 に到達して打ち止め状態または打ち止め予約状態となった場合には、電源をオフにした後、設定変更を伴う電源投入を行う必要が生じ、遊技に関する情報がクリアされてしまう。そこで、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数（本例では、1 9 0 0 0）に到達する前の、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、1 8 5 0 0）に到達したことに基づき、打ち止め状態に係る試験信号を出力開始するよう構成してもよく、このように構成することで、試験官は打ち止め状態に近いことを認識し、遊技機の電源を遮断して設定変更を伴わない電源復帰を行うことで、差数カウンタのカウント値がクリアされる一方、遊技に関する情報が維持されて、型式試験を継続することができる。

【 0 7 3 9 】

また、試験信号の出力に関して上記のように構成した場合には、遊技機が遊技場にて稼働する際は、遊技機外に試験信号が出力されることはないが、試験信号を出力するための処理は実行されるよう構成されている。すなわち、遊技機が遊技場にて稼働する際においても、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、1 8 5 0 0）に到達したことに基づいて出力開始される打ち止め状態に係る試験信号を出力するための処理が実行されるよう構成することができる。

【 0 7 4 0 】

< 遊技機外部に出力する信号 >

第 3 実施形態のような遊技メダルを用いる回胴式遊技機においては、外部信号（外部出

10

20

30

40

50

力信号と称することがある)として、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数(本例では、19000)に到達したことに基づいて、打ち止め状態に関する外部信号を出力開始し、所定時間(例えば、30秒)が経過することで出力終了するよう構成してもよい。

【0741】

また、遊技メダルを用いない回胴式遊技機(メダルレスの回胴式遊技機)においては、貸機(貸出ユニットと称することがある)に送信する信号として、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数(本例では、19000)に到達したことに基づいて、打ち止め状態に関する信号を出力開始し、所定時間(例えば、30秒)が経過することで出力終了するよう構成してもよい。

10

【0742】

<差数カウンタの更新タイミング>

差数カウンタを更新する処理であるステップ3700の打ち止め監視処理の実行タイミングは、遊技におけるすべてのリールが停止してから新たに遊技メダルが投入可能となるまで(または、新たにベットが可能となるまで)の期間にて毎遊技実行することが好適である。また、打ち止め事前報知を副制御基板S側(例えば、演出表示装置S40)のみで行う場合であっても、差数カウンタの更新処理は主制御基板M側で実行し、差数カウンタのカウント値に関するコマンドを、主制御基板M側から副制御基板S側に出力するよう構成してもよい。

20

【0743】

<差数カウンタのカウント値の初期化に関する構成>

第3実施形態においては、遊技機の電源供給が遮断され、その後、電源復帰(設定変更を伴わない電源投入、設定変更を伴う電源投入、RAM異常が発生した場合の電源投入)すると、差数カウンタのカウント値が初期化されるよう構成しているが、遊技機への電源供給が遮断される前に所定の条件を充足した場合には、設定変更を伴わない電源投入、設定変更を伴う電源投入、RAM異常が発生した場合の電源投入のいずれかが実行された場合であっても、差数カウンタのカウント値を初期化しないよう構成してもよい。所定の条件の一例としては、遊技機への電源供給が遮断される前に操作されると、遊技機への電源供給が遮断され、その後、電源復帰しても差数カウンタのカウント値が初期化されない操作部材を有するよう構成してもよい。なお、設定変更を伴わない電源投入、設定変更を伴う電源投入、RAM異常が発生した場合の電源投入のいずれかのみに適用してもよいし、複数に適用してもよい。

30

【0744】

また、打ち止め状態及び／または打ち止め予約状態において、遊技機の電源供給が遮断され、その後、設定変更を伴わない電源投入がされた場合には、差数カウンタのカウント値が初期化されないよう構成してもよい。

【0745】

<差数カウンタのカウント値に関する構成>

差数カウンタのカウント値を記憶するRAM領域は2バイト以上とすることが好適である。また、差数カウンタのカウント値を用いて、ATに関する処理(指示機能に関する処理と称することがある)を実行しないよう構成することが好適である。

40

【0746】

<打ち止め事前報知の表示期間>

第3実施形態においては、払出数表示装置D270における打ち止め事前報知の表示期間を、遊技メダルが投入可能になってからスタートレバーD50の操作を受け付けるまでの期間としたが、これには限定されず、例えば、リールの回転中においても、払出数表示装置D270に打ち止め事前報知を表示するよう構成してもよい。

【0747】

<音声出力に関する構成>

払出数表示装置D270に所定の表示態様の打ち止め事前報知が新たに表示された場合

50

には、スピーカ S 2 0 から当該打ち止め事前報知に対応する音声は出力されないが、払出数表示装置 D 2 7 0 に打ち止め報知が新たに表示された場合には、スピーカ S 2 0 から当該打ち止め報知に対応する音声出力されるよう構成してもよい。また、払出数表示装置 D 2 7 0 に予約状態報知が新たに表示された場合には、スピーカ S 2 0 から当該予約状態報知に対応する音声出力されるよう構成してもよい。また、払出数表示装置 D 2 7 0 に所定の表示態様の打ち止め事前報知が新たに表示された場合にも、スピーカ S 2 0 から当該打ち止め事前報知に対応する音声出力されるよう構成してもよい。

【0748】

＜打ち止め事前報知の消去及び再表示＞

第3実施形態においては、払出数表示装置 D 2 7 0 の打ち止め事前報知は、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）以上となった場合に新たに表示されるよう構成したが、その後の作用としては、以下のいずれかを適用してもよい。

（1）電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）未満となった場合に、払出数表示装置 D 2 7 0 の打ち止め事前報知が非表示となる。

（2）電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）未満となっても、払出数表示装置 D 2 7 0 の打ち止め事前報知は表示を継続し、その後、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数よりも少ない第1の数（例えば、17000）未満となった場合に、払出数表示装置 D 2 7 0 の打ち止め事前報知が非表示となる。

【0749】

また、上記（1）においても、上記（2）においても、払出数表示装置 D 2 7 0 の打ち止め事前報知が非表示となった後は、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、18500）以上となった場合に再度表示されるよう構成してもよい。

【0750】

なお、第3実施形態の構成をメダルレスの回胴式遊技機に適用した場合には、前述した遊技メダルが投入可能となったタイミングを、ベットが可能となったタイミングとしてもよいし、得点の貸出が可能となったタイミングとしてもよいし、貸出ボタンの操作が有効になったタイミングとしてもよい。

【0751】

なお、第2実施形態や第3実施形態にて詳述した打ち止め状態は、従前の打ち止め機能とは異なるものとなっている。具体的には、従前の打ち止め機能は、遊技場の管理者が作動の有無を設定でき（例えば、所定の操作部材を操作した状態で電源投入すると打ち止め機能がオンとなり、所定の操作部材を操作していない状態で電源投入すると打ち止め機能がオフとなる）、打ち止め機能がオンである場合に所定の条件を充足すると打ち止めとなる一方、打ち止め機能がオフである場合に所定の条件を充足すると打ち止めにはならないよう構成されているのに対し、本明細書における打ち止め状態は、所定の条件を充足する（本例では、ボーナスが実行されていない状況で、電源投入時以降の差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が19000に到達するなど）と必ず打ち止め状態に移行するものであり、遊技者や遊技場の管理者は、打ち止め状態に移行し得るか否かを変更することはできず、遊技機毎に打ち止め状態に移行し得るか否かを設定することもできないよう構成されている。

【0752】

このように構成することにより、遊技場の管理者が打ち止め状態に移行しないように設定することで、遊技機の射幸性を高くした状態で稼働させることを防止することができ、公正な遊技機とすることができる。また、同じ機種を遊技しているのにも拘らず、遊技場によって打ち止め状態となったりならなかったりして、遊技者が混乱してしまう事態を防止することができる。なお、この従前とは異なる打ち止め状態の構成は、本明細書におけ

るすべての打ち止め状態に適用することができる。

【0753】

＜＜＜一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関する構成＞＞＞

次に、本明細書の回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を抑制することに関する構成を、以下に詳述する。ここで、一の契機とは、A T初当り時（A T抽選当選時）のA Tゲーム数が決定されることやA Tゲーム数上乘せ抽選に当選することであり、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値とは、遊技者にとって有利な一の契機が発生した場合に、当該一の契機の発生に基づいて遊技者に付与される利益の期待値のうち、最大となる期待値である。詳細は後述することとなるが、一例としては、A T初当り時（A T抽選当選時）のA Tゲーム数が決定されたことが一の契機である場合には、A T初当りから当該A T初当りで決定されたA Tゲーム数分のA T中状態における遊技が実行されるまでに、遊技者に付与される遊技メダルの最大の期待値が、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値であり、A Tゲーム数上乘せ抽選に当選したことが一の契機である場合には、A Tゲーム数上乘せ抽選に当選してから、当該A Tゲーム数上乘せ抽選（または、当該A Tゲーム数上乘せ抽選に関連する複数回のA Tゲーム数上乘せ抽選）で決定された上乘せゲーム数分のA T中状態における遊技が実行されるまでに、遊技者に付与される遊技メダルの最大の期待値が、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値である。なお、これらはあくまで一例であり、後述するような、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関する構成を適用しても何ら問題ない。

【0754】

一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が過度に大きくなり過ぎないようにすることで、射幸性を抑えることができるとともに、遊技場が意図しない不利益を被ることも防止することができる。なお、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を、一の契機に基づいて遊技者に付与される利益の最大の期待値や、一の契機に基づいて遊技者に付与される遊技価値の増加期待値の最大値などと称することがある。

【0755】

なお、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を抑制することに関する説明にあたり、上述の実施形態と同様な箇所には同様の符号や文言を用いることでその説明を省略或いは簡略化するものとする。なお、以下に詳述するすべての構成は、他の実施形態に適用することが可能であり、他の実施形態のすべての構成は以下に詳述するすべての構成に適用可能である。

【0756】

また、以下に詳述する構成は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機に適用してもよいし、メダルレスの回胴式遊技機に適用してもよい。

【0757】

また、以下に詳述する構成は、第1実施形態の構成を基本として、以下の詳述する相違点が第1実施形態とは相違しているよう構成されているのだが、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を抑制することに関する構成を適用可能なスペックはどのようなものであってもよく、一例として、以下の特徴構成を有する回胴式遊技機に適用するよう構成してもよい。

【0758】

＜特徴構成＞

（１）通常区間においては、高確率（例えば、 $1/1.1$ ）で有利区間への移行抽選に当選する。

（２）ボーナス非内部中の内部抽選においては、高確率（例えば、 $65532/65536$ ）でボーナスに係る条件装置が決定される。

（３）３枚賭けでのみ遊技が可能である。

（４）ボーナス内部中においては、遊技方法（停止順や停止タイミング）に拘らず、ボーナスに対応する図柄組み合わせが停止表示しない。

(5) 所定の停止順で遊技した場合の方が、特定の停止順で遊技した場合よりも、小役による払出枚数の期待値が高い。

(6) 所定の停止順で遊技した場合の方が、特定の停止順で遊技した場合よりも、A Tに関するすべての抽選が遊技者にとって不利である。

【0759】

なお、上記(6)における、A Tに関するすべての抽選とは、例えば、A T抽選、A Tゲーム数上乘せ抽選、A Tに関する状態の移行抽選などがあり、上述したように、所定の停止順で遊技した場合の方が、特定の停止順で遊技した場合よりも、A Tに関するすべての抽選が遊技者にとって不利となるよう構成してもよいし、A Tに関する一部の抽選が不利となるよう構成してもよい。また、当該「不利となる」には、A Tに関する抽選を実行しないことを含めてもよい。

10

【0760】

なお、上述した特徴構成は、一部のみを適用してもよいし、全部の構成を適用してもよい。

【0761】

また、以下においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を抑制することに関する構成として複数の構成を詳述するが、当該複数の構成のうち一の構成のみを適用してもよいし、複数の構成の一部または全部を組み合わせ適用してもよい。

【0762】

以下に詳述する構成においては、第1実施形態との相違点についてのみ、詳述することとする。

20

【0763】

はじめに、図79は、図16におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理のフローチャートである。第1実施形態との相違点は、ステップ1400及びステップ3500の処理であり、ステップ1700で、主制御基板MのCPUC100は、R T状態移行制御処理を実行した後、ステップ1400で、主制御基板MのCPUC100は、A T状態移行制御処理を実行する。次に、ステップ1750で、主制御基板MのCPUC100は、A T状態開始制御処理を実行する。次に、ステップ3500で、主制御基板MのCPUC100は、遊技区間移行制御処理を実行し、ステップ1293に移行する。

30

【0764】

次に、図80は、図79におけるステップ1400のサブルーチンに係る、A T状態移行制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1401-1で、主制御基板MのCPUC100は、現在の遊技区間は有利区間であるか否かを判定する。ステップ1401-1でYesの場合、ステップ1401-2で、主制御基板MのCPUC100は、現在のA Tに関する状態はA T抽選を実行可能な状態であるか否かを判定する。

【0765】

ステップ1401-2でYesの場合、ステップ1401-3で、主制御基板MのCPUC100は、当該遊技に係る条件装置はA T抽選役であるか否かを判定する。ステップ1401-3でYesの場合、主制御基板MのCPUC100は、ステップ1401-4で、主制御基板MのCPUC100は、当該遊技の停止順はA T抽選を実行可能な停止順であるか否かを判定する。

40

【0766】

ここで、本例においては、左第1停止（左中右または左右中）の停止順で遊技を実行した場合には、他の停止順で遊技を実行した場合と比較して、小役による払出枚数の期待値が低くなっており、且つ、A T抽選の当選確率が高くなっている（本例では、他の停止順で遊技を実行した場合には、A T抽選を実行しない）。なお、前述した所定の停止順が他の停止順に相当し、前述した特定の停止順が左第1停止の停止順に相当する。

【0767】

ステップ1401-4でYesの場合、ステップ1401-5で、主制御基板MのCP

50

UC100は、所定確率にて当選するAT抽選を実行する。次に、ステップ1401-6で、主制御基板MのCPUC100は、ステップ1401-5で実行したAT抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1401-6でYesの場合、ステップ1401-7で、主制御基板MのCPUC100は、次回以降の遊技のATに関する状態をAT前兆状態に決定し、次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。

【0768】

また、ステップ1401-1、ステップ1401-2、ステップ1401-3、ステップ1401-4、またはステップ1401-6でNoの場合、ステップ1401-8で、主制御基板MのCPUC100は、現在の遊技状態や当該遊技に係る条件装置などに基づき、次の遊技のATに関する状態を決定し、次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。

10

【0769】

なお、ステップ1401-1における次の遊技のATに関する状態を決定する条件は、現在の遊技状態や当該遊技に係る条件装置以外にも、様々な構成を適用することができ、一例としては、有利区間に滞在可能な遊技数が所定数以上であるか否かによって決定態様が相違するよう構成してもよい。

【0770】

なお、同図の構成はあくまで一例であり、ステップ1401-5のAT抽選の実行条件は、変更しても問題ない。一例としては、所定の押し順ベルに係る条件装置が決定された遊技にてAT抽選を実行するよう構成してもよいし、条件装置に拘らずAT抽選を実行するよう構成してもよい。また、AT抽選に当選し易いATに関する状態（例えば、CZ（チャンスゾーン））を有するよう構成してもよい。

20

【0771】

また、AT抽選の実行態様としては、1回の遊技におけるすべてのリールが停止した後に、リールの停止順に基づいて実行するよう構成してもよいし、1回の遊技におけるすべてのリールが停止する前のタイミングにてAT抽選を実行し、すべてのリールが停止した後に、リールの停止順に基づいて当該AT抽選を有効とするか否かを決定するよう構成してもよい。

【0772】

次に、図81は、図79におけるステップ3500のサブルーチンに係る、遊技区間移行制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3501-1で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲーム（遊技と称することがある）に係る遊技区間は通常区間であるか否かを判定する。ステップ3501-1でYesの場合、ステップ3501-2で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を決定（例えば、当該ゲームで決定された条件装置に基づいて有利区間移行抽選を実行し、当該有利区間移行抽選に当選した場合には、次ゲームの遊技区間は有利区間に決定される）し、ステップ3501-10に移行する。

30

【0773】

なお、通常区間を第1区間と称することがあり、有利区間を第2区間と称することがある。

40

【0774】

また、ステップ3501-1でNoの場合、ステップ3501-3で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間残りゲーム数カウンタのカウンタ値は終了条件を充足（本例では、カウンタ値が0となることで終了条件を充足する）していないか否かを判定する。なお、本例においては、有利区間残りゲーム数カウンタのカウンタ値の初期値は4000となっており、換言すると、有利区間が4000ゲーム継続すると強制的に終了するよう構成されている。

【0775】

なお、前述したメダルレスの回胴式遊技機とした場合には、有利区間残りゲーム数カウンタを有していないよう構成してもよく、このように構成した場合には、4000ゲーム

50

などの実行された遊技回数によって有利区間が強制終了する構成を有していないよう構成してもよい。

【0776】

ステップ3501-3でYesの場合、ステップ3501-4で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間差数カウンタのカウンタ値は終了条件を充足していないか否かを判定する。ここで、本例においては、有利区間開始時からの差数（遊技者が獲得した遊技メダル数であり、差枚数と称することがある）が、所定数（本例では、2400）に到達することで、有利区間が強制的に終了するよう構成されている。なお、第2実施形態においては、MYカウンタを用いており、すなわち、一の有利区間における最大の差数が2400に到達した場合に有利区間が強制的に終了するよう構成していたが、本例においては、有利区間開始時からの差数が2400に到達した場合に有利区間が強制的に終了するよう構成されているため、例えば、有利区間に移行した後に持ちメダルが減少してしまった場合にも、その後、「当該減少分+2400枚」の遊技メダルを獲得するまで有利区間が強制的に終了しないよう構成することができる。

10

【0777】

なお、一例として、有利区間差数カウンタはデクリメントカウンタであり、有利区間差数カウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満になると有利区間が強制的に終了するよう構成されている。また、有利区間開始時からの差数が、所定数（本例では、2400）に到達することを、第2区間に移行してから、第2区間での差数が所定数に到達すると称することがある。

20

【0778】

ステップ3501-4でYesの場合、主制御基板MのCPUC100は、任意の有利区間終了条件（例えば、AT中状態の終了条件）を充足していないか否かを判定する。ステップ3501-6でYesの場合、ステップ3501-7で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を有利区間に決定し、ステップ3501-10に移行する。

【0779】

また、ステップ3501-3、ステップ3501-4、またはステップ3501-6でNoの場合、ステップ3501-8で、主制御基板MのCPUC100は、ATに関連する情報をすべてクリアする。次に、ステップ3501-9で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を通常区間に決定し、ステップ3501-10に移行する。

30

【0780】

次に、ステップ3501-10で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲームにて新たに有利区間に移行することが決定されたか否かを判定する。ステップ3501-10でYesの場合、ステップ3501-11で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間残りゲーム数カウンタ及び有利区間差数カウンタに初期値（本例では、有利区間残りゲーム数カウンタの初期値は4000、有利区間差数カウンタの初期値は2400となっている）をセットし、次の処理（ステップ1293の処理）に移行する。また、ステップ3501-10でNoの場合にも、次の処理（ステップ1293の処理）に移行する。

40

【0781】

<<AT状態に関するイメージ図1>>

次に、図82は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能なAT状態に関するイメージ図1である。同図の構成は、図79乃至81の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する（その他のスペックの）回胴式遊技機に適用してもよい。なお、AT中状態などの押し順ナビを実行し得る状態を総称してAT状態と称することがある。

【0782】

<AT中状態の内容1>

まず、同図における「AT中状態の内容1」に記載しているように、同図の構成におい

50

ては、A T 中状態として A T 中状態 1 と A T 中状態 2 とを有しており、A T 中状態 1 は、純増が +3 枚であり、滞在期間が 50 G となっており、A T 中状態 2 は、純増が -1 枚であり、滞在期間が 10 G となっている。なお、A T 中状態 2 のような、純増が負の値である区間を減少区間と称することがある。減少区間においては、押し順ナビを実行し得るよう構成してもよいし、押し順ナビを実行しないよう構成してもよい。

【0783】

ここで、純増とは、一の A T に関する状態にて遊技を 1 回実行した場合の、遊技メダルの増減に関する期待値である。一例として、「純増の計算例」に記載しているように、内部抽選結果として、以下の 3 種類の条件装置が決定され得るよう構成した場合について詳述する。なお、すべて 3 枚賭けで遊技を実行した場合を例示している。

内部抽選結果：押し順ベル（高め）、払出枚数：10 枚、抽選確率（当選確率）：4 / 8

内部抽選結果：再遊技、払出枚数：3 枚、抽選確率（当選確率）：1 / 8

内部抽選結果：ハズレ、払出枚数：0 枚、抽選確率（当選確率）：3 / 8

【0784】

なお、押し順ベル（高め）とは、A T 中状態にて押し順ベルに当選した場合には、押し順ナビが実行されることから、最も払出枚数の多い図柄組み合わせが停止表示することを示している。

【0785】

上記のように構成した場合、「押し順ベルの払出枚数 × 押し順ベルの当選確率 + 再遊技の払出枚数（自動ベットの 3 枚） × 再遊技の当選確率 + ハズレの払出枚数 × ハズレの当選確率 - ベット数」が純増となり、すなわち、「 $10 \times 4 / 8 + 3 \times 1 / 8 + 0 \times 3 / 8 - 3 = 2.375$ （枚）」となっている。なお、再遊技の払出枚数を 0 枚として、再遊技が抽選結果として決定された遊技においては、ベット数も払出枚数も 0 枚として純増を算出するよう構成してもよい。

【0786】

なお、純増を、1 遊技あたりの遊技メダルの増加期待値と称することがある。

【0787】

また、同図の構成においては、A T 中状態はセット数で管理されており、A T 初当たり時（A T 抽選に当選したとき、A T 中状態が開始するときなど）にセット数が決定されるよう構成されている。また、A T 中状態 2 が 10 ゲーム実行された後、A T 中状態 1 が 50 ゲーム実行される、合計の 60 ゲームが 1 セットとなっており、A T 初当たり時に決定されたセット数分繰り返し実行されるよう構成されている。

【0788】

より具体的には、図中（1）にて、A T 中状態が開始し、A T 中状態の 1 セット目として、A T 中状態 2 が開始される。その後、図中（2）にて、1 セット目の A T 中状態 2 が 10 ゲーム実行されたことで終了し、A T 中状態 1 に移行する。その後、図中（3）にて、1 セット目の A T 中状態 1 が 50 ゲーム実行されたことで、1 セット目の A T 中状態が終了し、2 セット目の A T 中状態 2 に移行する。なお、A T 初当たり時に決定されたセット数が 1 セットであった場合には、図中（3）にて A T 中状態が終了する。

【0789】

その後、図中（4）にて、2 セット目の A T 中状態 2 が 10 ゲーム実行されたことで終了し、A T 中状態 1 に移行する。その後、図中（5）にて、2 セット目の A T 中状態 1 が 50 ゲーム実行されたことで、2 セット目の A T 中状態が終了し、3 セット目の A T 中状態 2 に移行する。その後、A T 中状態が継続していき、25 セット目の A T 中状態 1 が 50 ゲーム実行されたことで、図中（6）にて、25 セット目の A T 中状態が終了し、A T 初当たり時に決定されたセット数が 25 セットであったため、A T 中状態が終了する。なお、A T 初当たり時に決定されたセット数としては 25 セットが最大となっている。

【0790】

< A T 中状態の内容 2 >

次に、同図における「A T 中状態の内容 2」に記載しているように、同図の構成におい

10

20

30

40

50

ては、以下のように設計されている。

1セットあたりの遊技メダル増加期待値：140枚

A T初当り時の最大セット数：25セット

最大セット数におけるA T中状態1での遊技メダル増加期待値：3750枚

最大セット数におけるA T中状態2での遊技メダル増加期待値：-250枚

最大セット数における遊技メダル増加期待値：3500枚

【0791】

上述したように、同図の構成においては、A T中状態の1セットにおいて、純増が負の値（-1）であるA T中状態2と純増が正の値（+3）であるA T中状態1とに滞在するよう構成されている。

【0792】

また、A T初当り時の最大セット数は25セットとなっており、A T初当り時に決定されたセット数が最大の25セットであった場合における遊技メダルの増加期待値は3500枚となっており、特定数である3600枚以下となっている。

【0793】

なお、前述した一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を同図の構成に当て嵌めると、「一の契機」は、A T初当り時に決定されたセット数が最大の25セットであった場合が相当する。すなわち、同図の構成においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、特定数（本例では、3600）以下である3500枚となっている。

【0794】

＜特定数に関する構成＞

ここで、前述したように、本例の構成は、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が過度に大きくなり過ぎないようにすることで、射幸性を抑えることができるとともに、遊技場が意図しない不利益を被ることを防止することも目的としており、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を特定数以下とすることで当該目的を達成可能に構成されている。

【0795】

また、本例においては、特定数は3600となっており、当該特定数は、有利区間差数カウンタのカウンタ値の初期値である2400の1.5倍の値となっている。このように構成することで、有利区間に移行した後に持ちメダルが減少してしまった場合にも、その後、有利区間差数カウンタのカウンタ値の初期値である2400の半分の1200枚分まで減少分を補填することが可能となり、射幸性を抑えつつも、遊技者の過度な不利益を防止することができることとなる。

【0796】

また、当該特定数は、有利区間残りゲーム数カウンタのカウンタ値の初期値である4000よりも少ない値となっている。このように構成することで、有利区間が上限の4000ゲーム継続した場合にも、1ゲームあたり1枚以上のペースで遊技メダルが増加しないこととなり、射幸性を抑えることが可能となっている。

【0797】

同図の説明に戻ると、A T初当り時に決定されたセット数が最大の25セットであった場合における遊技メダルの増加期待値は、特定数（本例では、3600枚）以下の3500枚となっている。

【0798】

他方、A T初当り時に決定されたセット数が最大の25セットであった場合における、A T中状態1のみでの遊技メダルの増加期待値は、特定数（本例では、3600枚）より大きい3750枚となっており、このように構成することで、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が過度に大きくなることを抑制しつつも、遊技メダルが増加する区間（A T中状態1）においては、特定数（本例では、3600枚）より多い遊技メダルが獲得可能に構成することで、遊技者は、出玉を獲得する爽快感を得ることができること

10

20

30

40

50

となる。

【0799】

なお、図82においては、AT初当り時に決定されたセット数に対応する期間にてAT中状態に滞在するよう構成したが、これには限定されず、AT中状態における遊技においても、AT中状態に滞在可能なセット数が上乘されたり（セット数の上乘せ抽選を実行したり）、セット数とは別にATゲーム数上乘せ抽選を実行するように構成してもよい。

【0800】

<<獲得枚数表示に関するイメージ図>>

次に、図83は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な獲得枚数表示に関するイメージ図である。同図の構成は、図82と同様の構成となっている。

10

【0801】

まず、図中（a）にて、AT中状態の1セット目が開始し、AT中状態2となっている。演出表示装置S40には、AT中状態2に対応した「アニマルラッシュ準備中」との表示と、「GET0」との獲得枚数表示が表示されている。

【0802】

その後、59回の遊技が実行され、図中（b）にて、AT中状態の1セット目の最終遊技である60回目の遊技が開始される。ATに関する状態はAT中状態1となっている。演出表示装置S40には、中左右の押し順ナビ画像が表示されており、獲得枚数表示として「GET137」が表示されており、AT中状態1に対応した「アニマルラッシュ中！」との表示がされている。

20

【0803】

その後、中左右の停止順でリールが停止され、押し順ベル（高め）に対応した図柄組み合わせが停止表示し、10枚の払出が発生する。演出表示装置S40の獲得枚数表示は、10枚の払出から3枚のベット数を減算した7枚分増加し、「GET144」と表示されている。

【0804】

ここで、同図においては、獲得枚数表示に関しては、すべてのリールが停止した後に、払出枚数分の加算とベット数分の減算がされるよう構成したが、これには限定されず、獲得枚数表示に関して、払出枚数分の加算はすべてのリールが停止した後に実行される一方、ベット数分の減算はベットが実行された後に実行されるよう構成してもよい。

30

【0805】

図中（c）の後、次回の遊技が開始した図中（d）にて、AT中状態の2セット目が開始し、AT中状態2となっている。演出表示装置S40には、AT中状態2に対応した「アニマルラッシュ準備中」との表示と、「GET144」との獲得枚数表示が表示されている。

【0806】

その後、リールが停止され、ハズレに対応した図柄組み合わせが停止表示する。演出表示装置S40には、AT中状態2に対応した「アニマルラッシュ準備中」との表示と、ベット数分の3が減算された「GET141」との獲得枚数表示が表示されている。

【0807】

40

このように、同図においては、AT中状態においては、AT中状態1とAT中状態2とのいずれにおいても、演出表示装置S40に獲得枚数表示を表示し得るよう構成されており、獲得枚数表示は、純増が負の値であるAT中状態2においても更新される（増減される）よう構成されている。このように構成することで、AT中状態1における増加した遊技メダル数が特定数（本例では、3600）を超過していた場合にも、獲得枚数表示においては、AT中状態2にて減少した遊技メダル数の分が減算されるため、獲得枚数表示が特定数（本例では、3600）を超過しないようにすることができる。

【0808】

<<AT状態に関するイメージ図2>>

次に、図84は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能なAT状態に関するイメージ

50

図 2 である。同図の構成は、図 7 9 乃至 8 1 の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する（その他のスペックの）回胴式遊技機に適用してもよい。

【0809】

＜A T 中状態の内容 1＞

まず、同図における「A T 中状態の内容 1」に記載しているように、同図の構成においては、A T 中状態として A T 中状態 1 と A T 中状態 2 とを有しており、A T 中状態 1 は、純増が + 3 枚であり、滞在比率が 5 0 % となっており、A T 中状態 2 は、純増が + 1 枚であり、滞在比率が 5 0 % となっている。また、A T 中状態 2 で $1 / 5 0$ の移行抽選に当選した場合に A T 中状態 1 に移行し、A T 中状態 1 で $1 / 5 0$ の移行抽選に当選した場合に A T 中状態 2 に移行するよう構成されている。

10

【0810】

なお、滞在比率とは、A T 中状態全体において滞在するゲーム数の理論値の割合であり、例えば、1 0 0 ゲーム間 A T 中状態に滞在した場合には、滞在比率が 5 0 % ずつであるため、理論上、A T 中状態 1 に 5 0 ゲーム、A T 中状態 2 に 5 0 ゲーム滞在することとなる。

【0811】

同図上段に図示するように、同図の構成においては、A T 中状態に移行すると、図中（1）にて A T 中状態 1 が開始し、その後、図中（2）にて $1 / 5 0$ の移行抽選に当選したに基づき、A T 中状態 2 に移行し、その後、図中（3）にて $1 / 5 0$ の移行抽選に当選したに基づき、A T 中状態 1 に移行し、その後、図中（4）にて $1 / 5 0$ の移行抽選に当選したに基づき、A T 中状態 2 に移行する。このように、A T 中状態 1 と A T 中状態 2 とを交互に遷移していくよう構成されている。

20

【0812】

＜A T 中状態の内容 2＞

A T 中状態 1 の純増が + 3 枚であり、A T 中状態 2 の純増が + 1 枚であり、滞在比率が 5 0 % ずつであることから、A T 中状態全体の純増の平均値は + 2 枚となっている。

【0813】

＜A T 中状態の内容 3＞

初当り時の A T ゲーム数抽選テーブルは、以下のように構成されている。

ゲーム数：5 0 G、確率：7 0 %

30

ゲーム数：1 0 0 G、確率：2 6 %

ゲーム数：5 0 0 G、確率：3 %

ゲーム数：1 5 0 0 G、確率：1 %

初当り時の平均 A T ゲーム数は 9 1 G となっている。

【0814】

＜A T 中状態の内容 4＞

A T ゲーム数上乗せ抽選テーブルは、以下のように構成されている。なお、A T ゲーム数上乗せ抽選は、A T ゲーム数上乗せ抽選テーブルを参照して毎ゲーム実行されるよう構成されている。

ゲーム数：0 G、確率：9 9 %

40

ゲーム数：1 0 G、確率：0 . 5 %

ゲーム数：2 0 G、確率：0 . 3 %

ゲーム数：3 0 G、確率：0 . 2 %

上乗せ時の平均ゲーム数は 1 7 G となっている。

【0815】

なお、A T ゲーム数上乗せ抽選は毎ゲーム実行しなくてもよく、所定の条件装置に当選したゲームでのみ実行するよう構成してもよい。

【0816】

＜A T 中状態の内容 5＞

次に、同図の構成においては、以下のように設計されている。

50

初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）：3000枚

初当たり時最大G数（1500G）の場合且つAT中状態1のみ滞在した場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）：4500枚

初当たり時最大G数（1500G）の場合且つAT中状態2のみ滞在した場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）：1500枚

初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ含む）：3204枚

なお、「上乗せ除く」は、ATゲーム数上乗せ抽選にて上乗せされたゲーム数を含まないAT初当たり時に決定されたゲーム数における期待獲得枚数であることを示しており、「上乗せ含む」は、ATゲーム数上乗せ抽選にて上乗せされたゲーム数とAT初当たり時に決定されたゲーム数とを合算したゲーム数における期待獲得枚数を示している。

10

【0817】

ここで、前述した一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を同図の構成に当て嵌めると、一の契機は、AT初当たり時に決定されたATゲーム数が1500ゲームであった場合が相当する。

【0818】

また、同図の構成の場合においては、「AT中状態の内容4」で図示したように、ATゲーム数上乗せ抽選テーブルを参照したATゲーム数上乗せ抽選の当選確率、換言すると、上乗せゲーム数（AT上乗せゲーム数と称することがある）の獲得確率（0Gとならない確率）は、1%であり、相対的に高確率ではないため、ATゲーム数上乗せ抽選に基づいた利益の期待値を考慮しなくても、遊技者や遊技場の利益に大きな影響は生じない。よって、上乗せゲーム数の獲得確率が相対的に高確率ではないATゲーム数上乗せ抽選を考慮せずに、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が大きくなり過ぎないように構成すればよい。なお、上乗せゲーム数の獲得確率が相対的に高確率ではないことを、指示権利の獲得が高確率ではないと称することがある。

20

【0819】

また、同図の構成のように、一のAT中状態において、純増の異なる複数のATに関する状態を遷移する場合には、滞在比率を考慮した平均の純増を用いて一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出することが好適である。すなわち、同図における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、AT初当たり時に決定されたATゲーム数が最大値である1500ゲームを、純増2枚で消化した場合である。すなわち、同図における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）」である3000枚となる。

30

【0820】

このように、同図の構成においては、「初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）」は3000枚であり、特定数（本例では、3600）以下の値となっており、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が過度に大きくなり過ぎないようにすることで、射幸性を抑えることができるとともに、遊技場が意図しない不利益を被ることも防止することができる。

【0821】

また、上述したように、滞在比率を考慮した平均の純増を用いて一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出するため、「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数（1500G）の場合且つAT中状態1のみ滞在した場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）」が特定数（本例では、3600）より大きくなっていても問題なく、同図においては、4500枚となっている。

40

【0822】

また、前述したように、同図における一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ除く）」である3000枚であり、「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数（1500G）の場合の期待獲得枚数（上乗せ含む）」が特定数（

50

本例では、3600)より大きくなっていても問題ない。なお、同図の構成においては、「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数(1500G)の場合の期待獲得枚数(上乗せ含む)」においても、3204枚となっており、特定数(本例では、3600)より小さくなっている。同図の構成のように、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値とは異なる「AT中状態の内容5」で前述した「初当たり時最大G数(1500G)の場合の期待獲得枚数(上乗せ含む)」においても、特定数(本例では、3600)以下となるよう構成することで、より射幸性を抑えた遊技機とすることができる。

【0823】

また、図84においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値における一の契機を、AT初当たりゲーム数が最大値に決定された場合としたが、これには限定されず、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値における一の契機を、上乗せゲーム数として最大値が決定された場合としてもよい。具体例としては、ATゲーム数上乗せ抽選が実行され、上乗せゲーム数として最大値である1000ゲームが決定された(図84の構成とは異なるATゲーム数上乗せ抽選テーブルを参照する場合を例示している)ことを一の契機として、当該1000ゲームを純増2枚(遷移し得るATに関する状態の純増の平均値)で消化した場合を一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値とし、特定数(本例では、3600)以下となるよう構成してもよい。また、AT上乗せゲーム数として最大値である1000ゲームが決定されたことを一の契機として、当該1000ゲームと当該上乗せが決定された以降のATゲーム数上乗せ抽選の結果とを合算したAT中状態の継続ゲーム数を、純増2枚(遷移し得るATに関する状態の純増の平均値)で消化した場合の期待値が、特定数(本例では、3600)以下となるよう構成してもよい。

【0824】

<<AT状態に関するイメージ図3>>

次に、図85は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能なAT状態に関するイメージ図3である。同図の構成は、図79乃至81の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する(その他のスペックの)回胴式遊技機に適用してもよい。

【0825】

<AT中状態の内容1>

まず、同図における「AT中状態の内容1」に記載しているように、同図の構成においては、AT中状態としてAT中状態1とAT中状態2とを有しており、AT中状態1は、純増が+1枚であり、AT中状態が開始したときに滞在するATに関する状態である。また、AT中状態2は、純増が+4枚であり、AT中状態1において1/1000で当選する移行抽選に当選した場合に移行するATに関する状態である。

【0826】

ここで、AT中状態1とAT中状態2との純増を相違させる構成としては、例えば、AT中状態2では、押し順ベルなどのリール停止順によって払出枚数が異なる図柄組み合わせが停止表示し得る条件装置(押し順役と称することがある)が決定された遊技のすべてで押し順ナビを実行し、AT中状態1では、一部の押し順役が決定された遊技では押し順ナビを実行する一方、他の押し順役が決定された遊技では押し順ナビを実行しないように構成することで、純増を相違させてもよいし、AT中状態2では、押し順役が決定された遊技のすべてで押し順ナビを実行し、AT中状態1では、押し順役が決定された遊技において所定確率(例えば、1/2)の抽選に当選した場合に押し順ナビを実行するように構成することで、純増を相違させてもよい。

【0827】

同図上段に図示するように、同図の構成においては、AT中状態に移行すると、図中(1)にてAT中状態1が開始し、その後、図中(2)にて1/1000の移行抽選に当選したことに基づき、AT中状態2に移行し、その後、AT中状態2が継続していくよう構成されている。

【0828】

<AT中状態の内容2>

A T 初当り時においては、A T 中状態 1 に移行し、A T ゲーム数は 1 0 0 ゲームとなるよう構成されている。

【0 8 2 9】

< A T 中状態の内容 3 >

A T ゲーム数上乘せ抽選は A T 中状態 1 にて $1 / 3 0 0$ で当選し、当選時には、上乘せゲーム数は 1 0 0 0 ゲームとなる。A T 中状態 2 においては、A T ゲーム数上乘せ抽選は実行されない。なお、A T 中状態 1 においては、毎ゲーム $1 / 3 0 0$ で当選する A T ゲーム数上乘せ抽選を実行するよう構成してもよいし、所定の条件装置が決定されたゲームにおいて A T ゲーム数上乘せ抽選を実行し、当該 A T ゲーム数上乘せ抽選の合計の当選確率が $1 / 3 0 0$ となるよう構成してもよい。なお、A T ゲーム数上乘せ抽選と A T 抽選（A T 初当りの抽選）と A T 中状態 1 において $1 / 1 0 0 0$ で当選する A T 中状態 2 に移行するための抽選とは、それぞれが独自に実行される異なる抽選となっている。

【0 8 3 0】

< A T ゲーム数上乘せ発生時の期待獲得枚数 >

図 8 5 の構成において、A T 中状態 1 で A T ゲーム数上乘せが発生した場合の期待獲得枚数は以下のように算出することができる。

A T 中状態 1 の純増数 : A 枚

A T 中状態 2 の純増数 : B 枚

A T 中状態 2 への移行抽選当選確率 : $1 / C$

最大となる A T ゲーム数上乘せ当選時の上乘せゲーム数 : D ゲーム

とした場合において、

A T ゲーム数上乘せ発生時の期待獲得枚数 $= A \times (D - D / C) + B \times (D / C)$

のように算出することができる。

【0 8 3 1】

すなわち、図 8 5 の構成における A T ゲーム数上乘せ発生時の期待獲得枚数は、
 $1 \times (1 0 0 0 - 1 0 0 0 / 1 0 0 0) + 4 \times (1 0 0 0 / 1 0 0 0) = 1 0 0 3$
 となり、特定数（本例では、3 6 0 0）以下となっている。

【0 8 3 2】

なお、前述した一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を同図の構成に当て嵌めると、一の契機は、A T 中状態 1 で 1 0 0 0 ゲームの A T ゲーム数上乘せが発生した場合が相当する。

【0 8 3 3】

このように構成することで、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が過度に大きくなり過ぎないようにすることで、射幸性を抑えることができるとともに、遊技場が意図しない不利益を被ることも防止することができる。

【0 8 3 4】

なお、本例では、上乘せ抽選として A T ゲーム数を上乘せする A T ゲーム数上乘せ抽選を実行する場合を例示したが、これには限定されず、A T 中状態において押し順ナビの実行回数（押し順ナビの実行回数が残存している状況では、押し順役が決定された遊技で押し順ナビが実行される）を上乘せする上乘せ抽選を実行するよう構成してもよい。このように構成した場合の一例として、押し順ナビの発生確率（押し順役の当選確率）を $1 / X$ 、押し順ナビの上乗せ抽選にて決定され得る最大となる押し順ナビの実行回数を Y 回とした場合、押し順ナビの発生確率（押し順役の当選確率）の逆数である X と、押し順ナビの上乗せ抽選にて決定され得る最大となる押し順ナビの実行回数である Y とを乗算した値を上記 D として適用することができる。

【0 8 3 5】

< 有利区間終了条件に関する変更例 >

次に、図 8 1 にて前述した遊技区間移行制御処理の変形例を、図 8 6 を用いて以下に詳述する。なお、図 8 6 に関する構成は、本明細書のいずれの実施形態にも適用することが可能である。

【0836】

図86は、図79におけるステップ3500のサブルーチンに係る、遊技区間移行制御処理のフローチャートである。図81との相違点は、ステップ3501-5及びステップ3501-11である。

【0837】

ステップ3501-4で、有利区間差数カウンタのカウンタ値は終了条件を充足していない場合（Yesの場合）には、ステップ3501-5で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間MYカウンタのカウンタ値は終了条件を充足していないか否かを判定する。

【0838】

ここで、有利区間MYカウンタとは、一の有利区間における差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数を計測可能なカウンタであり、当該カウンタ値が終了条件を充足すると、有利区間が強制的に終了するよう構成されている。本例においては、有利区間MYカウンタは初期値が3600のデクリメントカウンタであり、有利区間MYカウンタのカウンタ値に係る演算結果が0未満になると有利区間が強制的に終了するよう構成されている。

【0839】

ステップ3501-5でYesの場合には、ステップ3501-6に移行し、Noの場合には、ステップ3501-1に移行して有利区間が強制的に終了することとなる。

【0840】

また、ステップ3501-10で、次ゲームにて新たに有利区間に移行する場合（Yesの場合）には、ステップ3501-11で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間残りゲーム数カウンタ、有利区間差数カウンタ、及び有利区間MYカウンタに初期値（本例では、有利区間残りゲーム数カウンタの初期値は4000、有利区間差数カウンタの初期値は2400、有利区間MYカウンタの初期値は3600となっている）をセットし、次の処理（ステップ1293の処理）に移行する。

【0841】

このように、図86の構成においては、有利区間MYカウンタのカウンタ値の初期値は3600であり、前述した特定数（本例では、3600）と同一の値となっている。すなわち、有利区間の終了条件として、一の有利区間における差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が特定数（本例では、3600）に到達すると、有利区間が強制的に終了するよう構成されている。

【0842】

このように構成することで、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、3600）より大きくなる予定となってしまった（上乘せされたATゲーム数が期待値を大幅に超過してしまった）場合においても、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、3600）に到達した場合に有利区間（AT中状態）が強制的に終了するため、一の契機で遊技者に付与される利益が大きくなり過ぎないように構成することができ、射幸性が高くなることを防止することができる。

【0843】

なお、図86の構成においては、有利区間MYカウンタのカウンタ値の初期値を特定数（本例では、3600）としたが、これには限定されず変更してもよい。一例としては、有利区間MYカウンタのカウンタ値の初期値を特定数（本例では、3600）よりも小さい3550とすることで、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、3600）より大きくなり過ぎないように構成することができる。また、有利区間MYカウンタのカウンタ値の初期値を、「特定数（本例では、3600）-1回の遊技における最大の払出枚数+当該遊技におけるベット数」としてもよい。このように構成した場合、有利区間が強制的に終了する遊技の結果（当選した小役）に拘らず、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、3600）より大きくなり過ぎず、有利区間が終了するよう構成することができる。なお、3550などの3600よりも小さい値を特定数と称すること

10

20

30

40

50

がある。

【0844】

< A Tゲーム数上乗せ抽選に関する構成 >

次に、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な A Tゲーム数上乗せ抽選に関する構成を、図 8 7 を用いて以下に詳述する。なお、図 8 7 に関する構成は、本明細書のいずれの実施形態にも適用することが可能である。

【0845】

図 8 7 は、図 7 9 におけるステップ 1 5 0 0 のサブルーチンに係る、ゲーム数上乗せ実行処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 5 0 1 - 1 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、当該遊技は A Tゲーム数上乗せ抽選を実行する遊技であるか否かを判定する。ステップ 1 5 0 1 - 1 で Y e s の場合、ステップ 1 5 0 1 - 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、A Tゲーム数上乗せ抽選テーブルを参照し、A Tゲーム数上乗せ抽選を実行する。なお、A Tゲーム数上乗せ抽選テーブルの内容は、本明細書にて詳述した内容としてもよいし、その他の内容としてもよい。

10

【0846】

次に、ステップ 1 5 0 1 - 3 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、ステップ 1 5 0 1 - 2 の A Tゲーム数上乗せ抽選に当選したか否かを判定する。ステップ 1 5 0 1 - 3 で Y e s の場合、ステップ 1 5 0 1 - 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、当選した A Tゲーム数上乗せ抽選に係る上乗せゲーム数を参照して、上乗せ後の、一の契機で遊技者に付与される利益の期待値を算出する。

20

【0847】

ここで、上乗せ後の、一の契機で遊技者に付与される利益の期待値とは、現状における、一の契機で遊技者に付与される利益に今回の上乗せに係る獲得枚数の期待値を加算した値であり、例えば、一の契機が A T初当りであり、一の契機で遊技者に付与される利益が 3 0 0 0 枚となっている状況で、3 0 0 ゲームの上乗せが発生し、A T中状態の純増が + 3 枚である場合には、上乗せ後の、一の契機で遊技者に付与される利益の期待値は、「 $3 0 0 0 + 3 0 0 \times 3 = 3 9 0 0$ 」となる。なお、上乗せゲーム数に係る遊技にて、さらに A Tゲーム数上乗せ抽選に当選することを考慮して、上乗せ後の、一の契機で遊技者に付与される利益の期待値を算出するよう構成してもよい。

【0848】

次に、ステップ 1 5 0 1 - 5 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、ステップ 1 5 0 1 - 4 で算出した期待値（上乗せ後の、一の契機で遊技者に付与される利益の期待値）は、規制値（本例では、3 4 0 0）未満であるか否かを判定する。ステップ 1 5 0 1 - 5 で Y e s の場合、ステップ 1 5 0 1 - 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、決定された上乗せゲーム数を A T残りゲーム数に加算し、次の処理（ステップ 1 4 5 0 の処理）に移行する。

30

【0849】

また、ステップ 1 5 0 1 - 5 で N o の場合、ステップ 1 5 0 1 - 7 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、上乗せゲーム数として所定値（本例では、1 0）を A T残りゲーム数に加算し、次の処理（ステップ 1 4 5 0 の処理）に移行する。

40

【0850】

また、ステップ 1 5 0 1 - 1 及びステップ 1 5 0 1 - 3 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 1 4 5 0 の処理）に移行する。

【0851】

このように、本例においては、A Tゲーム数上乗せ抽選に当選した場合に、上乗せゲーム数に係る期待獲得枚数を考慮すると、一の契機で遊技者に付与される利益が規制値（本例では、3 4 0 0）以上になってしまう場合には、A Tゲーム数上乗せ抽選にて決定された上乗せゲーム数ではなく、所定値（本例では、1 0）を上乗せするよう構成されている。

【0852】

50

このように構成することで、一の契機で遊技者に付与される利益が規制値以上となってしまう場合には、上乗せゲーム数をＡＴゲーム数上乗せ抽選にて決定されたゲーム数よりも相対的に小さいゲーム数とすることにより、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、３６００）を超過しないよう構成することができる。

【０８５３】

なお、ＡＴゲーム数上乗せ抽選にて決定された上乗せゲーム数を所定の利益と称することがあり、ＡＴゲーム数上乗せ抽選にて上乗せが決定されることを、所定の条件を充足すると称することがあり、一の契機で遊技者に付与される利益が規制値（本例では、３４００）以上となってしまう場合を、特定条件を充足している場合と称することがある。

【０８５４】

なお、上述した規制値は３４００以外の値に変更しても問題ないが、特定数（本例では、３６００）未満の値とすることが好適である。また、ステップ１５０１－７における所定値を１０ゲーム以外の値に変更しても問題ないが、ＡＴゲーム数上乗せ抽選にて決定される上乗せゲーム数の平均値よりも小さい値とすることが好適であり、ＡＴゲーム数上乗せ抽選にて決定される最も小さい上乗せゲーム数以下の値としてもよい。

【０８５５】

また、本例においては、一の契機で遊技者に付与される利益が規制値以上となってしまう場合に、上乗せゲーム数を固定の値とすることで、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、３６００）を超過しないよう構成したが、これには限定されず、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、３６００）を超過しないよう、Ａ

【０８５６】

一例としては、ＡＴゲーム数上乗せ抽選に当選したことにより、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、３６００）を超過する予定となった場合には、上乗せを実行しない（上乗せゲーム数を０にする）よう構成してもよいし、一の契機で遊技者に付与される利益の状況に基づいて、参照するＡＴゲーム数上乗せ抽選テーブル（当選確率や上乗せゲーム数が相違する）を相違させてもよい。

【０８５７】

<<ＡＴ状態に関するイメージ図４>>

次に、図８８は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能なＡＴ状態に関するイメージ図４である。同図の構成は、図７９乃至８１の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する（その他のスペックの）回胴式遊技機に適用してもよい。

【０８５８】

<ＡＴ中状態の内容１>

まず、同図における「ＡＴ中状態の内容１」に記載しているように、同図の構成においては、ＡＴ中状態は、純増が＋３枚であり、１セットの滞在期間が１００ゲームである。また、図８８におけるＡＴ中状態は、１００ゲームのセットが９０％の継続率で継続していく、いわゆるループタイプのＡＴとなっている。また、図８８におけるＡＴ中状態は、１２００ゲーム継続することで強制終了条件を充足し、ＡＴ中状態が強制的に終了するよう構成されている。なお、９０％で当選する継続抽選の実行タイミングは、どのように構成してもよく、例えば、１セットの最初の遊技に係るスタートレバーの操作を受け付けたタイミングとしてもよいし、１セットの最後の遊技に係る最終停止ボタンの操作を受け付けたタイミングとしてもよい。

【０８５９】

同図上段に図示するように、同図の構成において、９０％の継続抽選に当選し続けた場合は、ＡＴ中状態に移行すると、図中（１）にて１セット目が開始し、その後、図中（２）にて２セット目が開始し、その後、図中（３）にて３セット目が開始し、その後、図中（４）にて、ＡＴ中状態が１２００ゲーム継続することで強制終了条件を充足し、ＡＴ中状態が終了するよう構成されている。

【0860】

< A T 中状態の内容 2 >

強制終了条件を充足した場合の A T 中状態における期待獲得枚数は、純増 3 枚 × 1 2 0 0 ゲーム = 3 6 0 0 枚となっている。

【0861】

このように、A T 中状態がループして継続する場合、何セット継続するのかが不定となってしまうため、図 8 8 の構成のように、強制終了条件を設けることで、一の契機で遊技者に付与される利益が大きくなり過ぎないように構成することができ、射幸性を抑制することが可能となる。

【0862】

なお、強制終了条件を充足することを、リミッタに到達すると称することがある。

【0863】

また、図 8 8 の構成においては、強制終了条件を充足した場合の A T 中状態における期待獲得枚数を特定数（本例では、3 6 0 0）としたが、一の契機で遊技者に付与される利益が特定数（本例では、3 6 0 0）を超過する可能性をより低くしたい場合には、強制終了条件のゲーム数を少なくしてもよい（例えば、1 1 5 0 ゲーム）。

【0864】

なお、図 8 8 に構成においても、図 8 2 で前述した減少区間を有していてもよく、例えば、1 セットを、増加区間である A T 中状態 1 と減少区間である A T 中状態 2 とで構成してもよく、このように構成した場合には、増加区間である A T 中状態 1 と減少区間である A T 中状態 2 の双方を考慮した 1 セットあたりの獲得枚数期待値に基づいて、強制終了条件となるゲーム数（またはセット数）を決定するよう構成してもよい。

【0865】

また、図 8 8 にも図示したように、「（A T 中状態における純増数の平均 × 強制終了条件を充足した場合の継続ゲーム数） ≤ 特定数（本例では、3 6 0 0）」となるよう構成されている。

【0866】

また、図 8 8 にて詳述した、強制終了条件を設ける構成については、本明細書のすべての構成に適用することができる。

【0867】

また、A T 中状態における純増数の平均を操作報知状態における 1 遊技あたりの遊技価値の増加期待値と称することがあり、強制終了条件を充足した場合の継続ゲーム数を所定回数の遊技と称することがある。

【0868】

<< 獲得枚数表示に関するイメージ図 >>

次に、図 8 9 は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な上乘せ特化状態に関するイメージ図である。同図の構成は、図 7 9 乃至 8 1 の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する（その他のスペックの）回胴式遊技機に適用してもよく、A T 中状態を有するすべての構成に適用可能である。

【0869】

まず、図中（a）にて、A T 中状態にて遊技が進行している。演出表示装置 S 4 0 には、A T 中状態に対応した「アニマルラッシュ中！！」との表示と、「GET 1 5 8」との獲得枚数表示と、中左右の押し順に対応した押し順ナビ画像とが表示されている。

【0870】

その後、上乘せ特化状態（A T ゲーム数上乘せ抽選が相対的に有利な A T に関する状態）に移行し、図中（b）にて、上乘せ特化状態における 1 遊技目が開始し、演出表示装置 S 4 0 に中左右の押し順に対応した押し順ナビ画像が表示される。また、演出表示装置 S 4 0 には、上乘せ特化状態に対応した「スーパーアニマルラッシュ中！！！！」との表示と、「GET 2 0 0」との獲得枚数表示が表示されている。

【0871】

その後、上乗せ特化状態における1遊技目のすべてのリールが中左右の停止順で停止され、図中(c)にて、押し順ベル(高め)に対応した図柄組み合わせが停止表示し、10枚の払出が発生する。演出表示装置S40には、上乗せゲーム数表示として「+500G」が表示される。

【0872】

その後、上乗せ特化状態における2遊技目が実行され、すべてのリールが押し順ナビに対応した中左右の停止順で停止され、図中(d)にて、押し順ベル(高め)に対応した図柄組み合わせが停止表示し、10枚の払出が発生する。演出表示装置S40には、上乗せゲーム数表示として「+300G」が表示される。

【0873】

その後、上乗せ特化状態における3遊技目が実行され、すべてのリールが押し順ナビに対応した中左右の停止順で停止され、図中(e)にて、押し順ベル(高め)に対応した図柄組み合わせが停止表示し、10枚の払出が発生する。演出表示装置S40には、上乗せゲーム数表示として「+500G」が表示される。

【0874】

その後、上乗せ特化状態における最終遊技である3遊技目が終了し、図中(f)にて、演出表示装置S40には、上乗せ特化状態の上乗せ結果表示としてライオンの画像と肉の画像と「GET!」が表示される。

【0875】

このように、図89の構成においては、上乗せ特化状態の各遊技における上乗せゲーム数表示は、「+500G」などの数字を含む表示態様で表示される一方、上乗せ特化状態における最終遊技が終了した際の上乗せ結果表示は、数字を含まない表示態様で表示されるよう構成されている。

【0876】

ここで、上乗せ特化状態の各遊技で相対的に大きい上乗せゲーム数が決定された場合においては、上乗せ結果表示として、上乗せ特化状態における上乗せゲーム数の合計を、数字を含む表示態様で表示してしまうと、表示される上乗せゲーム数が大きい値となりすぎて、遊技者の射幸心を煽ってしまうおそれがある。他方、図89のように構成することにより、上乗せ特化状態の各遊技で決定された上乗せゲーム数に拘らず、遊技者の射幸心を煽ってしまうことを防止することができる。

【0877】

なお、図89においては、上乗せ特化状態における各遊技の結果に拘らず、上乗せ特化状態における最終遊技が終了した際の上乗せ結果表示を、数字を含まない表示態様で表示されるよう構成したが、これには限定されず、例えば、上乗せ特化状態における各遊技にて決定された上乗せゲーム数の合計とAT中状態及び上乗せ特化状態の純増(または純増の平均値)とを乗算した値が特定数(本例では、3600)以下の場合には、上乗せ結果表示を、数字を含む表示態様で表示(例えば、「TOTAL+2000G!!」と表示)し、上乗せ特化状態における各遊技にて決定された上乗せゲーム数の合計とAT中状態及び上乗せ特化状態の純増(または純増の平均値)とを乗算した値が特定数(本例では、3600)より大きい場合には、上乗せ結果表示を、数字を含まない表示態様で表示するよう構成してもよい。

【0878】

また、上乗せ結果表示の数字を含まない表示態様として、図89においては、ライオンの画像と肉の画像と「GET!」を表示するよう構成したが、これには限定されず、例えば、肉のアイコン1つが上乗せゲーム数100ゲームに対応するよう構成し、上乗せ特化状態における各遊技にて決定された上乗せゲーム数の合計が1000ゲームの場合には、肉のアイコンを10個表示させたり、「肉のアイコン×10」のように表示させたりして、上乗せゲーム数の合計を遊技者に示唆するよう構成してもよい。

【0879】

なお、上乗せ特化状態における最終遊技が終了した際の上乗せ結果表示を、第2操作報

10

20

30

40

50

知状態において遊技者に付与された前記操作報知状態に滞在可能な遊技の回数の合計に対応する情報と称することがあり、上乗せ特化状態の各遊技における上乗せゲーム数表示を、当該遊技にて遊技者に付与された前記操作報知状態に滞在可能な遊技の回数に対応する情報と称することがある。

【0880】

なお、図89における、図中(a)から図中(b)のように、AT中状態から上乗せ特化状態に移行する場合には、AT中状態にて所定の移行抽選に当選した次の遊技から上乗せ特化状態に移行するよう構成してもよいし、AT中状態にて所定の移行抽選に当選した後に、所定回数の遊技（いわゆる前兆であり、演出表示装置S40にて上乗せ特化状態への移行を煽る演出を実行してもよい）を実行した後に上乗せ特化状態に移行するよう構成してもよい。

10

【0881】

<<AT終了画面に関するイメージ図>>

次に、図90は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能なAT終了画面に関するイメージ図である。同図の構成は、図79乃至81の構成を有する回胴式遊技機に適用してもよいし、その他の構成を有する（その他のスペックの）回胴式遊技機に適用してもよく、AT中状態を有するすべての構成に適用可能である。

【0882】

まず、図中(a)にて、AT中状態にて遊技が進行している。演出表示装置S40には、AT中状態に対応した「アニマルラッシュ中!!」との表示と、「GET158」との獲得枚数表示と、中左右の押し順に対応した押し順ナビ画像とが表示されている。

20

【0883】

その後、遊技が進行していき、図中(b)にて、AT中状態における残り3ゲームに係る遊技が実行され、演出表示装置S40には、AT中状態に対応した「アニマルラッシュ中!!」との表示と、「GET3800」との獲得枚数表示とが表示されている。また、演出表示装置S40には、残りゲーム数表示として、リール回転開始時に残り3ゲームに対応する「LAST3」と表示される。ここで、残りゲーム数表示とは、AT中状態の残りゲーム数を遊技者に示唆する表示であり、リール回転開始後の所定タイミングにて演出表示装置S40に表示されるよう構成されている。

【0884】

30

その後、遊技が進行していき、図中(c)にて、AT中状態における最終遊技が実行され、演出表示装置S40には、AT中状態に対応した「アニマルラッシュ中!!」との表示と、「GET3807」との獲得枚数表示と、中左右の押し順に対応した押し順ナビ画像と、最終遊技に対応する「最終ゲーム」との残りゲーム数表示が表示されている。

【0885】

その後、AT中状態における最終遊技に係るすべてのリールが停止表示され、図中(d)にて、押し順ベル（高め）に対応した図柄組み合わせが停止表示し、10枚の払出が発生する。

【0886】

その後、図中(d)から所定時間が経過した図中(e)にて、AT中状態の最終遊技が終了し、演出表示装置S40には、AT終了画面が表示されている。ここで、AT終了画面とは、AT中状態が継続したゲーム数とAT中状態にて獲得した遊技メダル数である最終獲得枚数表示とを表示する画面であり、同図においては、AT中状態が継続したゲーム数として1298が表示され、最終獲得枚数表示として特定数である3600より大きい3814が表示されている。

40

【0887】

このように、図90の構成においては、AT終了画面における最終獲得枚数表示は、特定数（本例では、3600）よりも大きい数字が表示され得るよう構成されている。ここで、図90の構成と図89にて前述した構成とを組み合わせた場合、上乗せ特化状態における各遊技にて決定された上乗せゲーム数の合計が特定数（本例では、3600）より大

50

きい場合には、上乗せ結果表示を数字を含まない表示態様で表示する一方、A T終了画面における最終獲得枚数表示は、特定数（本例では、3600）よりも大きい数字が表示され得るよう構成することができる。

【0888】

このように構成することで、上乗せ特化状態における各遊技にて決定された上乗せゲーム数の合計などの、その後遊技者に付与される利益に関する表示は、特定数（本例では、3600）よりも大きい数字を表示しないよう構成することで、遊技者の射幸心を煽ってしまうことを防止しつつ、A T終了画面における最終獲得枚数表示などの過去に遊技者に付与された利益に関する表示は、特定数（本例では、3600）よりも大きい数字を表示し得るよう構成することで、遊技者に満足感を与えることができる。

10

【0889】

なお、A T終了画面における最終獲得枚数表示を、操作報知状態にて遊技者に付与された遊技価値の合計と称することがある。

【0890】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図1>>

次に、図91は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図1である。同図においては、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したA T中状態の構成について詳述する。

【0891】

20

<A Tゲーム数上乗せ抽選の内容>

図91の構成では、上乗せ特化状態を有しており、上乗せ特化状態においては、1回の遊技にて、A Tゲーム数上乗せ抽選1と、A Tゲーム数上乗せ抽選2と、A Tゲーム数上乗せ抽選3と、の3回のA Tゲーム数上乗せ抽選を実行するよう構成されている。一例として、上乗せ特化状態が1回の遊技で終了する場合を例示している。

【0892】

<A Tゲーム数上乗せ抽選1>

A Tゲーム数上乗せ抽選1はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照して実行されるよう構成されており、A Tゲーム数上乗せ抽選テーブル1は、以下のように構成されている。

30

ゲーム数：30G、確率：49.9%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：500G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は40.5Gとなっている。

【0893】

<A Tゲーム数上乗せ抽選2>

A Tゲーム数上乗せ抽選2はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照して実行されるよう構成されており、A Tゲーム数上乗せ抽選テーブル2は、以下のように構成されている。

40

ゲーム数：0G、確率：49.9%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：400G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は25.4Gとなっている。

【0894】

<A Tゲーム数上乗せ抽選3>

A Tゲーム数上乗せ抽選3はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル3を参照して実行されるよう構成されており、A Tゲーム数上乗せ抽選テーブル3は、以下のように構成されている。

ゲーム数：0G、確率：49.9%

ゲーム数：50G、確率：50%

50

ゲーム数：280 G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は25.3 Gとなっている。

【0895】

このように構成した場合においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、1回の遊技で必ず3回のATゲーム数上乗せ抽選が実行されるため、ATゲーム数上乗せ抽選1乃至3のそれぞれで最大の上乗せゲーム数が決定された場合とすることが好適である。

【0896】

すなわち、同図上部に図示するように、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、ATゲーム数上乗せ抽選1の最大値である500ゲームとATゲーム数上乗せ抽選2の最大値である400ゲームとATゲーム数上乗せ抽選3の最大値である280ゲームとの合計したゲーム数とAT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値を乗算した値となり、同図におけるAT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値が+3枚であることから、「 $(500 + 400 + 280) \text{ G} \times 3 \text{ 枚} = 3540$ 」となる。

【0897】

同図に図示したように算出した、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が、特定数（本例では、3600）を超過しないように構成することで、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0898】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図2>>

次に、図92は、本明細書に係る胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図2である。同図においては、本明細書に係る胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したAT中状態の構成について詳述する。

【0899】

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>

図92の構成では、AT中状態における所定の状況（例えば、上乗せ特化状態）では、1回の遊技にて、ATゲーム数上乗せ抽選1（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照した抽選）を実行した後、ATゲーム数上乗せ抽選2（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照した抽選）を実行し、ATゲーム数上乗せ抽選2にてループ終了が決定されるまで、ATゲーム数上乗せ抽選2を繰り返し実行するよう構成されている。また、AT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値は+3枚となっている。

【0900】

<ATゲーム数上乗せ抽選1>

ATゲーム数上乗せ抽選1はATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30 G、確率：49.9%

ゲーム数：50 G、確率：50%

ゲーム数：500 G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は40.5 Gとなっている。

【0901】

<ATゲーム数上乗せ抽選2>

ATゲーム数上乗せ抽選2はATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2は、以下のように構成されている。

ループ終了、確率：20%

ゲーム数：100 G、確率：40%

ゲーム数：200 G、確率：40%

上乗せ時の平均ゲーム数は150 Gであり、平均ループ回数は4回となっている。

【0902】

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>

このように構成した場合においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、A Tゲーム数上乘せ抽選1（A Tゲーム数上乘せ抽選テーブル1を参照した抽選）にて最大の500Gが決定された場合であり、この場合においては、A Tゲーム数上乘せ抽選2（A Tゲーム数上乘せ抽選テーブル2を参照した抽選）にて、平均である4回のループが実行された場合の平均上乘せゲーム数は、「4回×150G=600」であるため、期待される上乘せゲーム数は1100ゲームとなり、期待獲得枚数は「3×1100=3300枚」であり、特定数である3600枚未満となるのだが、A Tゲーム数上乘せ抽選2がループ抽選となっており、ループ回数が不定であるため（結果にばらつきが生じやすいため）、リミッタを設けることが好適である。

10

【0903】

同図におけるリミッタとは、A Tゲーム数上乘せ抽選2の実行回数の上限であり、同図においては、4回とすることで、上述したように、期待獲得枚数が特定数である3600枚より大きくならないように構成することができる。

【0904】

また、これには限定されず、特定数（本例では、3600）を純増である+3で除算した1200ゲームを上乘せゲーム数の上限として、上乘せゲーム数が上限以上となる可能性がある場合には、A Tゲーム数上乘せ抽選2のループを終了するリミッタを設けるよう構成してもよい。

20

【0905】

同図に図示したようにリミッタを設けることにより、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値（または、一の契機で遊技者に付与される利益）が、特定数（本例では、3600）を超過しないように構成することで、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0906】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図3>>

次に、図93は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図3である。同図においては、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したA T中状態の構成について詳述する。

30

【0907】

<A Tゲーム数上乘せ抽選の内容>

図93の構成では、A T中状態に移行する前の遊技にてC Z（A T中状態への移行権利を獲得する期待度が相対的に高い遊技状態であり、チャンスゾーンと称することがある）に移行するよう構成されている。C Zは11遊技あり、1～10回目の遊技では、初当たり時A Tゲーム数抽選1を実行し、11回目の遊技にて、初当たり時A Tゲーム数抽選2を実行し、当選した場合には、1～10回目の遊技で決定されたゲーム数の合計が初当たり時のA Tゲーム数となり、非当選の場合は初当たり時のA Tゲーム数は0となる（A T中状態に移行しない）。また、A T中状態（及び上乘せ特化状態）における純増の平均値は+3枚となっている。

40

【0908】

<初当たり時A Tゲーム数抽選1>

初当たり時A Tゲーム数抽選1は初当たり時A Tゲーム数抽選テーブル1を参照して実行されるよう構成されており、初当たり時A Tゲーム数抽選テーブル1は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30G、確率：40%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：500G、確率：10%

平均ゲーム数は87Gとなっている。

50

【0909】

<初当たり時ATゲーム数抽選2>

初当たり時ATゲーム数抽選2は初当たり時ATゲーム数抽選テーブル2を参照して実行されるよう構成されており、初当たり時ATゲーム数抽選テーブル2は、以下のように構成されている。

当選、確率：20%

非当選、確率：80%

【0910】

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>

このように構成した場合においては、CZにおける1～10回目の遊技で決定される合計のATゲーム数の平均値は「 $87G \times 10 = 870G$ 」であり、当該870Gが初当たり時のATゲーム数として決定された場合には、期待獲得枚数は、「 $3 \times 870 = 2610$ 枚」となる。

【0911】

すなわち、ATゲーム数上乗せ抽選2に当選した場合にも、期待獲得枚数は特定数（本例では、3600）以下となるのだが、初当たり時ATゲーム数抽選の抽選態様（特に、初当たり時ATゲーム数抽選1の決定され得るATゲーム数）が不定であるため、（結果にばらつきが生じやすいため）、期待獲得枚数が特定数（本例では、3600）を超過しないようにする処理を設けることが好適である。一例としては、特定数（本例では、3600）を純増である+3で除算した1200ゲームを初当たり時のATゲーム数の上限として、初当たり時のATゲーム数が当該上限に到達した場合には、初当たり時ATゲーム数抽選1の結果を0Gにするよう構成したり、初当たり時のATゲーム数が当該上限に近い値となった場合には、初当たり時ATゲーム数抽選1にて参照するテーブルを初当たり時ATゲーム数抽選テーブル1以外のテーブルに切り替えるよう構成してもよい。

【0912】

このように構成することにより、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値（または、一の契機で遊技者に付与される利益）が、特定数（本例では、3600）を超過せず、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0913】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図4>>

次に、図94は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図4である。同図においては、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したAT中状態の構成について詳述する。

【0914】

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>

図94の構成では、上乗せ特化状態を有しており、上乗せ特化状態は3遊技滞在し、1遊技目ではATゲーム数上乗せ抽選1（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照した抽選）を実行する。ATゲーム数上乗せ抽選1にて上乗せゲーム数の最大値である500ゲーム（詳細は後述する）が決定されなかった場合は、次の遊技においてもATゲーム数上乗せ抽選1（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照した抽選）を実行し、ATゲーム数上乗せ抽選1にて上乗せゲーム数の最大値である500ゲームが決定された場合は、次の遊技以降においては、ATゲーム数上乗せ抽選2（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照した抽選）を実行するよう構成されている。また、AT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値は+3枚となっている。

【0915】

<ATゲーム数上乗せ抽選1>

ATゲーム数上乗せ抽選1はATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30G、確率：49.9%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：500G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は40.5Gとなっている。

【0916】

<ATゲーム数上乗せ抽選2>

ATゲーム数上乗せ抽選2はATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30G、確率：0%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：500G、確率：50%

上乗せ時の平均ゲーム数は275Gとなっている。

【0917】

このように構成した場合においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、1遊技目にATゲーム数上乗せ抽選1にて上乗せゲーム数の最大値である500ゲームが決定された場合となり、この場合における、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、1遊技目のATゲーム数上乗せ抽選1の最大値である500ゲームと、2遊技目のATゲーム数上乗せ抽選2の平均値である275ゲームと、3遊技目のATゲーム数上乗せ抽選2の平均値である275ゲームとを合計した値とAT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値を乗算した値となり、同図におけるAT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値が+3枚であることから、 $(500 + 275 + 275) \text{ G} \times 3 \text{ 枚} = 3150$ となる。このように、図94の構成では、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、1遊技目にATゲーム数上乗せ抽選1にて上乗せゲーム数の最大値である500ゲームが決定された場合であり、2遊技目以降においては、上乗せゲーム数が確定されていない（不定である）ため、ATゲーム数上乗せ抽選2の平均値を使用している。

【0918】

同図に図示したように、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が、特定数（本例では、3600）を超過しないように構成することで、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0919】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図5>>

次に、図95は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図4である。同図においては、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したAT中状態の構成について詳述する。

【0920】

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>

図95の構成では、上乗せ特化状態を有しており、上乗せ特化状態は3遊技滞在し、1遊技目ではATゲーム数上乗せ抽選1（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照した抽選）を実行し、2遊技目ではATゲーム数上乗せ抽選2（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照した抽選）を実行し、3遊技目ではATゲーム数上乗せ抽選3（ATゲーム数上乗せ抽選テーブル3を参照した抽選）を実行するよう構成されている。また、AT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値は+3枚となっている。

【0921】

<ATゲーム数上乗せ抽選1>

ATゲーム数上乗せ抽選1は、上乗せ特化状態の1遊技目に、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30G、確率：30%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：500G、確率：20%

上乗せ時の平均ゲーム数は134Gとなっている。

【0922】

<ATゲーム数上乗せ抽選2>

ATゲーム数上乗せ抽選2は、上乗せ特化状態の2遊技目に、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル2は、以下のように構成されている。

ゲーム数：30G、確率：49.9%

ゲーム数：50G、確率：50%

ゲーム数：700G、確率：0.1%

上乗せ時の平均ゲーム数は40.7Gとなっている。

【0923】

<ATゲーム数上乗せ抽選3>

ATゲーム数上乗せ抽選3は、上乗せ特化状態の3遊技目に、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル3を参照して実行されるよう構成されており、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル3は、以下のように構成されている。

ゲーム数：20G、確率：10%

ゲーム数：40G、確率：20%

ゲーム数：200G、確率：70%

上乗せ時の平均ゲーム数は150Gとなっている。

【0924】

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>

このように構成した場合においては、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、2遊技目にATゲーム数上乗せ抽選2にて上乗せゲーム数の最大値である700ゲームが決定された場合となり、この場合における、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、1遊技目のATゲーム数上乗せ抽選1の平均値である134ゲームと、2遊技目のATゲーム数上乗せ抽選2の最大値である700ゲームと、3遊技目のATゲーム数上乗せ抽選3の平均値である150ゲームとを合計した値と、AT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値を乗算した値となり、同図におけるAT中状態（及び上乗せ特化状態）における純増の平均値が+3枚であることから、「 $(134 + 700 + 150) \text{ G} \times 3 \text{ 枚} = 2952$ 」となる。このように、図95の構成では、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、2遊技目にATゲーム数上乗せ抽選2にて上乗せゲーム数の最大値である700ゲームが決定された場合であり、この場合における1遊技目と3遊技目においては、上乗せゲーム数が確定されていない（不定である）ため、ATゲーム数上乗せ抽選1とATゲーム数上乗せ抽選3については平均値を使用している。

【0925】

同図に図示したように算出した、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が、特定数（本例では、3600）を超過しないように構成することで、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0926】

<<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図6>>

次に、図96は、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図6である。同図においては、本明細書に係る回胴式遊技機に適用可能な、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を考慮したAT中状態の構成について詳述する。

【0927】

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>

図 9 6 の構成では、上乗せ特化状態を有しており、上乗せ特化状態は 3 遊技滞在し、1 遊技目では A T ゲーム数上乗せ抽選 1 (A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 1 を参照した抽選) を実行する。A T ゲーム数上乗せ抽選 1 にて上乗せゲーム数の最大値である 5 0 0 ゲーム (詳細は後述する) が決定されなかった場合は、次の遊技においても A T ゲーム数上乗せ抽選 1 (A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 1 を参照した抽選) を実行し、A T ゲーム数上乗せ抽選 1 にて上乗せゲーム数の最大値である 5 0 0 ゲームが決定された場合は、次の遊技以降においては、A T ゲーム数上乗せ抽選 2 (A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 2 を参照した抽選) を実行するよう構成されている。

【0928】

また、A T ゲーム数上乗せ抽選 2 にて上乗せゲーム数の最大値である 2 0 0 ゲーム (詳細は後述する) が決定されなかった場合は、次の遊技においても A T ゲーム数上乗せ抽選 2 (A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 2 を参照した抽選) を実行し、A T ゲーム数上乗せ抽選 2 にて上乗せゲーム数の最大値である 2 0 0 ゲームが決定された場合は、次の遊技以降においては、A T ゲーム数上乗せ抽選 3 (A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 3 を参照した抽選) を実行するよう構成されている。また、A T 中状態 (及び上乗せ特化状態) における純増の平均値は + 3 枚となっている。

10

【0929】

< A T ゲーム数上乗せ抽選 1 >

A T ゲーム数上乗せ抽選 1 は A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 1 を参照して実行されるよう構成されており、A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 1 は、以下のように構成されている。

20

ゲーム数 : 3 0 G、確率 : 4 9 . 9 %

ゲーム数 : 5 0 G、確率 : 5 0 %

ゲーム数 : 5 0 0 G、確率 : 0 . 1 %

上乗せ時の平均ゲーム数は 4 0 . 5 G となっている。

【0930】

< A T ゲーム数上乗せ抽選 2 >

A T ゲーム数上乗せ抽選 2 は A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 2 を参照して実行されるよう構成されており、A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 2 は、以下のように構成されている。

30

ゲーム数 : 3 0 G、確率 : 3 0 %

ゲーム数 : 5 0 G、確率 : 5 0 %

ゲーム数 : 2 0 0 G、確率 : 2 0 %

上乗せ時の平均ゲーム数は 7 4 G となっている。

【0931】

< A T ゲーム数上乗せ抽選 3 >

A T ゲーム数上乗せ抽選 3 は A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 3 を参照して実行されるよう構成されており、A T ゲーム数上乗せ抽選テーブル 3 は、以下のように構成されている。

40

ゲーム数 : 2 0 G、確率 : 1 0 %

ゲーム数 : 4 0 G、確率 : 2 0 %

ゲーム数 : 4 0 0 G、確率 : 7 0 %

上乗せ時の平均ゲーム数は 2 9 0 G となっている。

【0932】

このように構成した場合においては、A T ゲーム数上乗せ抽選 3 で最大値である 4 0 0 G が決定される場合には、A T ゲーム数上乗せ抽選 1 で最大値である 5 0 0 G が決定されており、A T ゲーム数上乗せ抽選 2 で最大値である 2 0 0 G が決定されていることとなるため、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値を算出する際の一の契機は、A T ゲーム数上乗せ抽選 1 ~ 3 のすべてで最大値が決定された場合となり、この場合における、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値は、1 遊技目の A T ゲーム数上乗

50

せ抽選 1 の最大値である 500 ゲームと、2 遊技目の A T ゲーム数上乘せ抽選 2 の最大値である 200 ゲームと、3 遊技目の A T ゲーム数上乘せ抽選 2 の最大値である 400 ゲームとを合計した値と A T 中状態（及び上乘せ特化状態）における純増の平均値を乗算した値となり、同図における A T 中状態（及び上乘せ特化状態）における純増の平均値が +3 枚であることから、「 $(500 + 200 + 400) G \times 3 \text{ 枚} = 3300$ 」となる。

【0933】

同図に図示したように、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が、特定数（本例では、3600）を超過しないように構成することで、射幸性が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0934】

<エンディング状態に関する構成>

また、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関する構成として、エンディング状態に移行可能に構成してもよい。エンディング状態は、押し順ナビを実行可能な A T に関する状態であり、エンディング状態にて所定回数の遊技が実行されると、エンディング状態が終了して通常区間となるよう構成することができる。

【0935】

エンディング状態では、演出表示装置 S 40などで専用の演出（例えば、遊技機に関するストーリーのエンディングに関する場面の動画像）を実行することで、遊技者は達成感を得ることができる。

【0936】

なお、エンディング状態は、A T に関する状態として有するよう構成してもよいし、主制御基板 M 側では A T 中状態のままとし、副制御基板 S 側の状態として有するよう構成してもよい。

【0937】

エンディング状態には、所定条件（例えば、A T 中状態における獲得枚数が 3300 枚に到達）を充足することで移行し得るよう構成されており、エンディング状態に移行した場合において、エンディング状態に移行するまでの A T 中状態における獲得枚数と、エンディング状態での獲得枚数との和が、特定数（本例では、3600）以下となるよう構成することで、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が特定数（本例では、3600）以下となるよう構成することができ、射幸性が高くなりすぎない遊技機とすることができる。

【0938】

また、有利区間開始時からの差数が所定数 A（本例では、2400）よりも少ない第 1 の値（例えば、2100）に到達すると、エンディング状態 A に移行し、エンディング状態 A が終了すると通常区間となり、一の有利区間における差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数（M Y と称することがある）が所定数 B（本例では、3600）よりも少ない第 2 の値（例えば、3300）に到達すると、エンディング状態 B に移行し、エンディング状態 B が終了すると通常区間となるよう構成してもよい。

【0939】

このように構成した場合に、エンディング状態 A とエンディング状態 B とは、同一の状態（主制御基板 M 側でも副制御基板 S 側でも同一の状態であり、同一の演出が実行される）としてもよいし、異なる状態（主制御基板 M 側及び／または副制御基板 S 側で異なる状態であり、異なる演出が実行される）としてもよい。

【0940】

エンディング状態 A である状況で、一の有利区間における差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数 B（本例では、3600）よりも少ない第 2 の値（例えば、3300）に到達した場合には、エンディング状態 B が新たに開始しないよう構成してもよい。また、エンディング状態 B である状況で、有利区間開始時からの差数が所定数 A（本例では、2400）よりも少ない第 1 の値（例えば、2100）に到達した場合には、エンディング状態 A が新たに開始しないよう構成してもよい。このように構成するこ

10

20

30

40

50

とで、一の契機で遊技者に付与される利益が高くなり過ぎないように構成することができる。

【0941】

エンディング状態 A である状況で、一の有利区間における差数が最も少ないタイミングを基準とした最大の差数が所定数 B（本例では、3600）よりも少ない第2の値（例えば、3300）に到達した場合には、エンディング状態 B が新たに開始するよう構成してもよい。また、エンディング状態 B である状況で、有利区間開始時からの差数が所定数 A（本例では、2400）よりも少ない第1の値（例えば、2100）に到達した場合には、エンディング状態 A が新たに開始するよう構成してもよい。

【0942】

<ATに関する構成>

なお、前述した一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が大きくなり過ぎないようにするための構成は、一又は複数の構成を組み合わせることが可能であるし、AT中状態などの押し順ナビを実行可能なATに関する状態の構成はどのようなものとしても適用することが可能である。

【0943】

ATに関する状態の構成の概要として、以下のいずれの構成にも、前述した一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値が大きくなり過ぎないようにするための構成を適用することが可能である。なお、以下の構成は、複数組み合わせても問題ない。

（1）図82で詳述した、減少区間を有する。

（2）図82で詳述した、初当り時に決定されたセット数分のAT中状態を実行する。

（3）図84で詳述した、複数のAT中状態を遷移可能にする。

（4）図88で詳述した、リミッタを設ける。

（5）図88で詳述した、ループ抽選を実行する。

（6）ATゲーム数上乘せ抽選を実行する。

（7）上乘せ特化状態を有する。

（8）図91で詳述した、1遊技で複数回のATゲーム数上乘せ抽選を実行する。

（9）図91で詳述した、ループ抽選を実行する。

（10）図93で詳述した、CZを有する。

（11）図94乃至96で詳述した、複数のATゲーム数上乘せ抽選テーブルを参照し得る。

（12）AT中状態は、ゲーム数管理ではなく、獲得枚数で管理する。すなわち、決定されている獲得枚数分の遊技メダルを遊技者が獲得することで、AT中状態が終了する。

（13）ATゲーム数上乘せ抽選ではなく、AT獲得枚数上乘せ抽選を実行し、当該決定された獲得枚数を獲得するまでAT中状態が継続する。

（14）AT中状態において、転落抽選を実行し、当該転落抽選に当選すると、AT中状態が終了する。

（15）上乘せ特化状態においては、一のテーブルのみを参照してATゲーム数上乘せ抽選を実行する。

【0944】

<<<処理の実行に要する時間に関する構成>>>

次に、本明細書に係る遊技機に適用可能な所定の処理（所定の命令と称することがある）の実行に要する時間に関する構成を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、本明細書におけるすべての構成に適用可能であることを補足しておく。以下に詳述する構成は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機となっているが、遊技メダルを用いる構成以外の構成は、遊技メダルを用いないメダルレスの遊技機（封入式遊技機、管理遊技機、スマートスロットなどと称することがある）にも適用することができることを補足しておく。

【0945】

また、以下に詳述する構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせてもよい。

10

20

30

40

50

【0946】

また、図示する一の命令は、一の命令のみで構成されていてもよいし、複数の命令を含んでいてもよいし、ある命令とある命令との間に図示していない命令を含んでいてもよいし、ある命令を除いて構成してもよいし、命令の実行順序を変更してもよい。

【0947】

また、以下の構成においては、特徴的な構成のみ詳述しており、その他の命令については「・・・」を表示し、実行されている命令の概要のみを説明している。「・・・」で表示した部分は、一の命令のみで構成されていてもよいし、複数の命令を含んでいてもよいし、呼び出した先のモジュールで実行される処理を含んでいてもよい。

【0948】

<<ベットランプの点灯に関する図1>>

まず、図97は、本明細書に係る遊技機に適用可能なベットランプの点灯に関する図1である。同図に係る遊技機は、前述した1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213の3つのベットランプを有している。また、同図に図示する処理は図16等で前述したメインループ処理（割り込み処理とは異なる主制御基板M側の処理であり、メイン処理などと称することがある）における処理となっている。

【0949】

<M_MEDAL_START：遊技メダル受付開始>

まず、遊技メダル受付開始処理が実行される。遊技メダル受付開始処理は、再遊技に対応する図柄組合せが停止表示した遊技、または遊技メダルの払出がない図柄組合せが停止表示した遊技の後においては、当該遊技終了後に実行され、遊技メダルの払出があった遊技においては、当該払出の終了後に実行される処理である。

【0950】

まず、命令1で、所定のパラメータをセットする。次に、命令2で、投入コマンドの送信処理を実行する。ここで、投入コマンドとは、遊技メダルの投入の受付開始情報、メダル投入口からの遊技メダルの投入情報、クレジットからの遊技メダルの投入情報、クレジット数情報などの遊技メダルの投入情報に関するコマンドとなっている。

【0951】

次に、命令3で、遊技メダルの読み込み（例えば、投入された遊技メダル数の読み込み）を実行する。次に、命令4で、設定変更フラグを更新する。ここで、設定変更フラグとは、設定変更可能な状況であるか否かに関するフラグである。設定変更フラグがオンの状況で遊技機への電源供給が遮断され、その後電源投入時に所定の条件（例えば、設定キースイッチオン）を充足している場合には設定変更モードとなるが、設定変更フラグがオフの状況で遊技機への電源供給が遮断された場合には、その後電源投入時に所定の条件を充足しても設定変更モードとならないよう構成されている。なお、設定変更フラグを有さず、どのような状況であっても、遊技機への電源供給が遮断された後の電源投入時に所定の条件を充足している場合には設定変更モードとなるよう構成してもよい。

【0952】

次に、命令5で、所定のRAM領域に記憶されている投入枚数データをクリアする。次に、命令6で、データのクリアに関する命令であるCLR WQとして、投入枚数表示データ及びLED表示データをクリアする。なお、投入枚数表示データは、1ベットランプD211を点灯させるか否かに関するデータと、2ベットランプD212を点灯させるか否かに関するデータと、3ベットランプD213を点灯させるか否かに関するデータとから構成されており、LED表示データは、再遊技ランプD290を点灯させるか否かのデータと、投入可能ランプD300を点灯させるか否かのデータと、スタートランプD180を点灯させるか否かのデータとから構成されている。

【0953】

より具体的には、主制御基板MのRAM領域は、投入枚数表示データに対応する記憶領域（投入枚数表示データ記憶領域と称することがある）を有しており、D0～D7ビットで構成される投入枚数表示データ記憶領域における、1ベットランプ信号に対応するD0

10

20

30

40

50

ビットが1であれば1ベットランプD 2 1 1を点灯させることとなり、D 0ビットが0であれば1ベットランプD 2 1 1を消灯させることとなる。同様に、2ベットランプ信号に対応するD 1ビットが1であれば2ベットランプD 2 1 2を点灯させることとなり、D 1ビットが0であれば2ベットランプD 2 1 2を消灯させることとなる。同様に、3ベットランプ信号に対応するD 2ビットが1であれば3ベットランプD 2 1 3を点灯させることとなり、D 2ビットが0であれば3ベットランプD 2 1 3を消灯させることとなる。

【0954】

また、投入枚数表示データをクリアとは、1ベットランプ信号に対応するビットと2ベットランプ信号に対応するビットと3ベットランプ信号に対応するビットとに0が記憶されることである（その他のクリア処理に関しても同様の構成を適用することができる）。

10

【0955】

また、主制御基板MのRAM領域は、LED表示データに対応する記憶領域（LED表示データ記憶領域と称することがある）を有しており、D 0～D 7ビットで構成されるLED表示データ記憶領域における、投入可能ランプ信号に対応するD 3ビットが1であれば投入可能ランプD 3 0 0を点灯させることとなり、D 3ビットが0であれば投入可能ランプD 3 0 0を消灯させることとなる。同様に、スタートランプ信号に対応するD 4ビットが1であればスタートランプD 1 8 0を点灯させることとなり、D 4ビットが0であればスタートランプD 1 8 0を消灯させることとなる。同様に、再遊技ランプ信号に対応するD 5ビットが1であれば再遊技ランプD 2 9 0を点灯させることとなり、D 5ビットが0であれば再遊技ランプD 2 9 0を消灯させることとなる。

20

【0956】

また、LED表示データをクリアとは、投入可能ランプ信号に対応するビットとスタートランプ信号に対応するビットと再遊技ランプ信号に対応するビットとに0が記憶されることである。

【0957】

次に、命令7で、再遊技作動時であるか否か（再遊技図柄が停止表示したか否かとしてもよい）を判定し、再遊技作動時である場合には、再遊技ランプ表示LED信号をオン（再遊技ランプが点灯することとなる）にする。次に、命令8で、所定のパラメータをセットする。次に、命令9で、投入コマンドの送信処理を実行し、命令10に移行する。

【0958】

30

<M_MEDAL_INC:遊技メダル1枚加算>

まず、命令10で、獲得枚数データをクリアする。次に、命令11で、遊技メダルの読み込みを実行する。次に、命令12で、投入枚数データに1を加算し、命令13に移行する。命令12における加算は、再遊技作動に係る加算である。なお、3枚賭けの遊技にて再遊技に当選し、再遊技が作動した場合には、投入枚数データには3が加算されることとなる。すなわち、命令12が3回実行されることとなる。

【0959】

<M_INSERT_DAT:投入枚数表示データ生成>

まず、命令13で、投入枚数データを取得する。次に、命令14で、投入枚数表示データを生成する。次に、命令15で、データの読み出し及び格納に関する命令であるLDQ命令として、投入枚数表示データを所定のRAM領域に保存し、命令16に移行する。

40

【0960】

<C_MDLMAX_CHK:遊技メダル限界チェック>

まず、命令16で、遊技メダル限界枚数（最大のベット数）として3枚をセットする。次に、命令17で、遊技メダルの読み込みを実行する。次に、命令18で、投入要求枚数を生成し、命令19に移行する。

【0961】

次に、「M_MEDAL_START:遊技メダル受付開始」の命令として、命令19で、遊技メダルが限界の場合（3ベットされている場合）には、RETURN（次の処理に移行）となり、遊技メダルが限界でない場合（3ベットされていない場合）には、M_MEDAL

50

L_INCにジャンプする。

【0962】

同図の構成においては、このように構成されているため、3枚賭けの遊技にて再遊技に当選し、再遊技が作動した場合における処理を抜粋すると、以下のような流れとなる。

(1) 命令6で、投入枚数表示データがクリアされる。

(2) 命令15で、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

(3) 命令19で、遊技メダルが限界でないため、M_MEDAL_INC(命令10)にジャンプする。

(4) 命令15で、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

(5) 命令19で、遊技メダルが限界でないため、M_MEDAL_INC(命令10)にジャンプする。

(6) 命令15で、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

(7) 命令19で、遊技メダルが限界であると判定される。

【0963】

また、同図の構成においては、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213の点灯は、タイマ割り込み処理における所定の処理にて投入枚数表示データの内容に基づいて実行されるよう構成されており、例えば、命令6にて投入枚数表示データがクリアされた状況にてタイマ割り込み処理における所定の処理が実行された場合には、1ベットランプD211、2ベットランプD212、及び3ベットランプD213はすべて消灯することとなる(または、消灯したままとなる)。

【0964】

ここで、3枚賭けの遊技にて再遊技に当選し、再遊技が作動した場合においては、上記のような処理の流れとなっており、投入枚数表示データがクリアされてから、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に記憶されるまでの時間は、「命令6乃至19を実行→命令10乃至19を実行→命令10乃至15を実行」となるまでの時間であり、当該命令(処理)の実行時間をタイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも短時間とすることにより、投入枚数表示データがクリアされてから、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に記憶されるまでの期間にてタイマ割り込み処理における所定の処理が実行され難くなることで、再遊技の作動時にベットランプが消灯し難くなり、再遊技が当選した場合において、再遊技の当選遊技から次遊技に亘ってベットランプの点灯を維持することができ、遊技者が再遊技の当選を把握し易いように構成することができる。

【0965】

なお、所定のRAM領域を所定の記憶領域と称することがあり、投入枚数表示データまたは投入枚数データを、1ベットランプの点灯に関する情報、2ベットランプの点灯に関する情報、または3ベットランプの点灯に関する情報と称することがある。

【0966】

なお、再遊技が作動した場合において、投入枚数データがクリアされてから、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に記憶されるまでの時間である、「命令5乃至19を実行→命令10乃至19を実行→命令10乃至15を実行」となるまでの時間を、タイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも短時間としてもよい。

【0967】

なお、ベットランプの点灯をダイナミック点灯方式にて点灯させるよう構成してもよいし、スタティック点灯方式にて点灯させるよう構成してもよい。ベットランプの点灯をダイナミック点灯方式にて点灯させるよう構成した場合には、投入枚数表示データがクリアされてから、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領

10

20

30

40

50

域に記憶されるまでの時間を、3ベットランプD 2 1 3に係るデジットの周期よりも短時間となるよう構成してもよい。3ベットランプD 2 1 3に係るデジットの周期とは、例えば、タイマ割り込み処理5回毎に3ベットランプD 2 1 3の点灯に係る所定の処理が実行される場合には、タイマ割り込み処理の周期の5倍（例えば、 $2.235\text{ms} \times 5$ ）である。

【0968】

また、同図の構成においては、投入枚数表示データがクリアされてから、3ベットランプD 2 1 3の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に記憶されるまでの処理の実行時間をタイマ割り込み処理の周期よりも短時間となるよう構成したが、これには限定されずタイマ割り込み処理の周期以外の時間値よりも短時間となるよう構成してもよい。一例としては、以下のいずれかの時間値よりも短時間となるよう構成してもよい。

10

（1）タイマ割り込み処理の周期

（2）あるタイマ割り込み処理が開始されてから当該あるタイマ割り込み処理におけるベットランプの点灯に係る処理を実行するまで（例えば、図32のステップ1626やステップ1628の処理を実行するまで）の時間値

（3）あるタイマ割り込み処理が開始されてから当該あるタイマ割り込み処理における入力ポートデータを記憶する処理を実行するまで（例えば、図32のステップ1608を実行するまで）の時間値

（4）あるタイマ割り込み処理が開始されてから当該あるタイマ割り込み処理におけるエラーに関する処理を実行するまで（例えば、図32のステップ1616の処理を実行するまで）の時間値

20

（5）あるタイマ割り込み処理が開始されてから当該あるタイマ割り込み処理における副制御基板S側へのコマンド送信に係る処理を実行するまで（例えば、図32のステップ1622の処理を実行するまで）の時間値

【0969】

なお、後述するタイマ割り込み処理の周期との時間値を比較している構成においても、タイマ割り込み処理の周期を上記（2）～（5）のいずれかに置き換えて適用することが可能である。

【0970】

<<ベットランプの点灯に関する図2>>

30

次に、図98は、本明細書に係る遊技機に適用可能なベットランプの点灯に関する図2である。同図に係る遊技機は、前述した1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3の3つのベットランプと、操作することで遊技メダルを1枚ベット可能な1ベットボタンと、操作することで遊技メダルを3枚ベット可能なマックスベットボタンと、を有している。また、同図に図示する処理は図16等で前述したメインループ処理（割り込み処理とは異なる主制御基板M側の処理であり、メイン処理などと称することがある）における処理となっている。

【0971】

<M_BET_IN：貯留投入>

まず、貯留投入処理が実行される。貯留投入処理は、遊技メダルの払出がなかった遊技の後においては、当該遊技終了後に実行され、遊技メダルの払出があった遊技においては、当該払出の終了後に実行される処理であり、1ベットボタンまたはマックスベットボタンが操作されることにより、クレジット数を使用してベットが実行される場合に係る処理である。

40

【0972】

まず、命令1で、データの読み出し及び格納に関する命令であるLDQ命令と判定に関する命令であるRAND命令として、1ベットボタンまたはマックスベットボタン信号の立ち上がりがあるか否かを判定し、1ベットボタンまたはマックスベットボタン信号の立ち上がりがある場合には命令2を実行する。

【0973】

50

次に、命令 2 で、前述した遊技メダル限界チェック (C_MDLMAX_CHK) を実行する。具体的には、図 9 7 の命令 1 6 乃至 1 8 を実行する。次に、命令 3 で、貯留枚数データ (クレジット数に関するデータ) を取得する。次に、命令 4 で、命令 1 において立ち上がりがあった信号がマックスベットボタン信号であるか否かを判定し、マックスベットボタン信号の立ち上がりである場合には M_BET_IN3 にジャンプする。

【0974】

<M_BET_IN3>

まず、命令 5 で、投入要求枚数 = 0 であるか否かを判定し、投入要求枚数 = 0 でない場合には命令 6 を実行する。次に、命令 6 で、貯留枚数 (クレジット数) があるか否か (1 以上であるか否か) を判定し、貯留枚数がある場合には命令 7 を実行する。次に、命令 7 で、貯留枚数 ≥ 投入要求枚数であるか否かを判定し、貯留枚数 ≥ 投入要求枚数である場合には M_BET_IN4 にジャンプする。

10

【0975】

<M_BET_IN4>

まず、命令 8 で、所定のパラメータをセットする。

【0976】

<M_MEDAL_INC: 遊技メダル 1 枚加算>

まず、命令 9 で、獲得枚数データをクリアする。次に、命令 10 で、遊技メダルの読み込みを実行する。次に、命令 11 で、投入枚数データに 1 を加算する。なお、マックスベットボタンが操作されて 3 枚のベットがされる場合には、投入枚数データには 3 が加算されることとなる。すなわち、命令 11 が 3 回実行されることとなる。

20

【0977】

<M_INSERT_DAT: 投入枚数表示データ生成>

まず、命令 12 で、投入枚数データを取得する。次に、命令 13 で、投入枚数表示データを生成する。次に、命令 14 で、データの読み出し及び格納に関する命令である LDQ 命令として、投入枚数表示データを保存する。

【0978】

同図の構成においては、このように構成されているため、マックスベットボタンが操作されて 3 枚のベットが実行される場合における、1 ベットランプに係る投入枚数表示データを保存するまでにおける処理を抜粋すると、以下のような流れとなる。

30

(1) 命令 1 で、マックスベットボタン信号の立ち上がりが検出される。

(2) 命令 14 で、1 ベットランプ D 2 1 1 の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

【0979】

マックスベットボタンが操作されて 3 枚のベットがされる場合においては、上記のような処理の流れとなっており、マックスベットボタン信号の立ち上がりが検出されてから (マックスベットボタンの操作が受け付けられてから)、1 ベットランプ D 2 1 1 の点灯に係る投入枚数表示データが所定の RAM 領域に記憶されるまでの時間は、「命令 1 乃至 14 を実行」となるまでの時間であり、当該命令 (処理) の実行時間をタイマ割り込み処理の周期 (例えば、2.235ms) よりも短時間とすることが好適である。このように構成することにより、マックスベットボタンの操作から 1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯するまでの時間を短時間とすることができるため、遊技のテンポが阻害されず、遊技者はストレスなく遊技を進行することができる。

40

【0980】

なお、命令 1 のマックスベットボタン信号の立ち上がりを検出する処理を、マックスベットボタンの操作を受け付けたことを判定する処理と称することがある。

【0981】

また、1 ベットボタンが操作されて 1 枚のベットがされる場合においても、1 ベットボタン信号の立ち上がりが検出されてから (1 ベットボタンの操作が受け付けられてから)、1 ベットランプ D 2 1 1 の点灯に係る投入枚数表示データが所定の RAM 領域に記憶さ

50

れるまでの時間をタイマ割り込み処理の周期（例えば、2.235ms）よりも短時間としてもよい。なお、当該時間は、図98の「命令1乃至14」を実行となるまでの期間であるが、命令4以降に実行される処理の内容が図98とは異なっているため、マックスベットボタンの操作から1ベットランプD211が点灯するまでの時間と、1ベットボタンの操作から1ベットランプD211が点灯するまでの時間とは異なる時間値となっている。

【0982】

なお、同図の構成においては、操作することで遊技メダルをベット可能なベットボタンとして、1ベットボタンとマックスベットボタンとを有している構成を例示したが、これには限定されず、1ベットボタンを有していなくともよいし、操作することで2枚の遊技メダルをベット可能な2ベットボタンを有しているよう構成してもよい。また、図98の命令1においては、1ベットボタンと2ベットボタンとマックスベットボタンとのうち、有しているベットボタンに関する信号の立ち上がりを判定することとなる。

【0983】

<<ベットランプの点灯に関する図3>>

次に、図99は、本明細書に係る遊技機に適用可能なベットランプの点灯に関する図3である。同図に係る遊技機は、前述した1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213の3つのベットランプと、操作することで遊技メダルを1枚ベット可能な1ベットボタンと、操作することで遊技メダルを3枚ベット可能なマックスベットボタンと、を有している。また、同図に図示する処理は図16等で前述したメインループ処理（割り込み処理とは異なる主制御基板M側の処理であり、メイン処理などと称することがある）における処理となっている。

【0984】

また、図99に係る命令1乃至9は図98と同様の構成であり、不図示となっている。また、図99に係る命令9乃至14は図98の命令9乃至14と同様の構成となっている。

【0985】

<M_MEDAL_INC:遊技メダル1枚加算>

まず、命令9で、獲得枚数データをクリアする。次に、命令10で、遊技メダルの読み込みを実行する。次に、命令11で、投入枚数データに1を加算する。なお、マックスベットボタンが操作されて3枚のベットがされる場合には、投入枚数データには3が加算されることとなる。すなわち、命令11が3回実行されることとなる。

【0986】

<M_INSERT_DAT:投入枚数表示データ生成>

まず、命令12で、投入枚数データを取得する。次に、命令13で、投入枚数表示データを生成する。次に、命令14で、データの読み出し及び格納に関する命令であるLDQ命令として、投入枚数表示データを保存する。

【0987】

次に、「M_BET_IN:貯留投入」の命令として、命令15で、貯留枚数データから1を減算する。次に、命令16で、投入要求枚数の投入が終了しているか否かを判定し、投入要求枚数の投入が終了していない場合には、M_MEDAL_INCにジャンプする。

【0988】

同図の構成においては、このように構成されているため、マックスベットボタンが操作されて3枚のベットがされる場合における、3ベットランプに係る投入枚数表示データを保存するまでにおける処理を抜粋すると、以下のような流れとなる。

（1）図98の命令1で、マックスベットボタン信号の立ち上がりが検出される。

（2）命令14で、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

（3）命令16で、投入要求枚数の投入が終了していないため、M_MEDAL_INC（命令9）にジャンプする。

10

20

30

40

50

(4) 命令 14 で、2 ベットランプ D 2 1 2 の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

(5) 命令 16 で、投入要求枚数の投入が終了していないため、M_MEDAL_INC (命令 9) にジャンプする。

(6) 命令 14 で、3 ベットランプ D 2 1 3 の点灯に係る投入枚数表示データが保存される。

(7) 命令 16 で、投入要求枚数の投入が終了したと判定される。

【0989】

マックスベットボタンが操作されて3枚のベットがされる場合においては、上記のような処理の流れとなっており、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間は、「命令14乃至19を実行→命令9乃至14を実行」となるまでの時間であり、当該命令(処理)の実行時間をタイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも長時間とすることにより、1ベットランプD211が点灯してから2ベットランプD212が点灯するまでの間にタイマ割り込み処理を実行することができ、1ベットランプD211と2ベットランプD212とが同時に点灯せずに、1つずつ点灯させることができる。

【0990】

なお、命令14にて投入枚数表示データを保存した後(命令14の後や、命令15の後)に、所定の待機時間をセットする処理を設け、当該待機時間を有することによって、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間がタイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも長時間となるよう構成してもよい。

【0991】

具体例としては、命令14にて、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存された後であって、命令14にて、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるよりも前の所定のタイミングにて、所定の待機時間として50msを所定のタイマにセットして当該所定のタイマの計測を開始し、当該所定のタイマが50msの計測を終了した後に、命令14にて、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるよう構成することで、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間がタイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも長時間となるよう構成してもよい。

【0992】

また、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間について上述したが、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間に関して同様に、タイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも長時間としてもよい。

【0993】

また、命令14にて、1ベットランプD211の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されてから、その後の命令14にて、2ベットランプD212の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存され、その後の命令14にて、3ベットランプD213の点灯に係る投入枚数表示データが所定のRAM領域に保存されるまでの時間値を、タイマ割り込み処理の周期(例えば、2.235ms)よりも短時間としてもよい。

【0994】

10

20

30

40

50

換言すると、命令 14 にて、1 ベットランプ D 2 1 1 の点灯に係る投入枚数表示データが所定の RAM 領域に保存されてから、その後の命令 14 にて、2 ベットランプ D 2 1 2 の点灯に係る投入枚数表示データが所定の RAM 領域に保存され、その後の命令 14 にて、3 ベットランプ D 2 1 3 の点灯に係る投入枚数表示データが所定の RAM 領域に保存されるまでを、あるタイマ割り込み処理が実行されてから当該あるタイマ割り込み処理の次のタイマ割り込み処理が実行されるまでに実行され得るよう構成することで、当該次のタイマ割り込み処理にて、1 ベットランプ D 2 1 1 と 2 ベットランプ D 2 1 2 と 3 ベットランプ D 2 1 3 を同時（または略同時）に点灯させるよう構成してもよい。

【0995】

<<クレジット数の増加に関する図>>

10

次に、図 100 は、本明細書に係る遊技機に適用可能なクレジット数の増加に関する図である。同図に図示する処理は図 16 等で前述したメインループ処理（割り込み処理とは異なる主制御基板 M 側の処理であり、メイン処理などと称することがある）における処理であり、遊技が実行されてリールが停止した後に実行される処理となっている。また、同図においては、入賞に係る遊技メダルの付与が発生し、クレジット数が複数増加する場合について例示している。

【0996】

<M_WIN_PAY：入賞による遊技メダル払出し>

まず、命令 1 で、遊技メダルの払出があるか否かを判定し、遊技メダルの払出がある場合には命令 2 を実行する。

20

【0997】

<M_WIN_PAY2>

まず、命令 2 で、入賞払出ステータス（入賞に係る払出の実行時である旨のステータス）をセットする。次に、命令 3 で、貯留枚数が限界（例えば、クレジット数の上限は 50 となっている）であるか否かを判定し、貯留枚数が限界ではない場合には命令 4 を実行する。

【0998】

次に、命令 4 で、加算に係る INC 命令として、貯留枚数データに 1 を加算する。次に、命令 5 で、メダル 1 枚減算処理を実行する。次に、命令 6 で、払出が終了しているか否かを判定し、払出が終了していない場合には命令 7 を実行する。次に、命令 7 で貯留枚数加算待機時間をセットする。次に、命令 8 で、2 バイト時間待ち処理を実行する。次に、命令 9 で、M_WIN_PAY2 にジャンプする。

30

【0999】

このように、同図の構成においては、払出が終了するまで、命令 2 乃至 9 が繰り返し実行されるよう構成されている。

【1000】

同図の構成においては、このように構成されているため、入賞に係る遊技メダルの付与が発生し、クレジット数が複数増加する場合における処理を抜粋すると、以下のような流れとなる。

（１）命令 4 で、貯留枚数データに 1 を加算する。

40

（２）貯留枚数加算待機時間が経過した後、命令 9 で、M_WIN_PAY2（命令 2）にジャンプする。

（３）上記（１）乃至（２）を繰り返す。

（４）命令 4 で、払出が終了することとなる最後の貯留枚数データへの加算が実行される。

【1001】

入賞に係る遊技メダルの付与が発生し、クレジット数が複数増加する場合においては、上記のような処理の流れとなっており、貯留枚数データ（クレジット数）が 1 増加してから貯留枚数データ（クレジット数）がさらに 1 増加するまでの時間は、「命令 4 乃至 9 を実行→命令 2 乃至 4 を実行」となるまでの時間であり、当該命令（処理）の実行時間をタ

50

イマ割り込み処理の周期（例えば、2.235ms）よりも長時間とすることにより、貯留枚数データ（クレジット数）が1増加してから貯留枚数データ（クレジット数）がさらに1増加するまでの間にタイマ割り込み処理を実行することができ、クレジット数を1ずつ増加させることができ、遊技者がクレジット数を視認して混乱する事態を防止することができる。

【1002】

なお、貯留枚数データをクレジット数に関する情報と称することがあり、命令4の貯留枚数データに1を加算する処理をクレジット数に関する情報に1を加算する処理と称することがある。

【1003】

＜処理時間に関する適用可能な構成1＞

本明細書に係る遊技機は、精算ボタンの操作受付に係る処理の実行から貯留枚数データを所定のRAM領域に記憶する処理の実行までに要する時間（処理の実行時間）は、タイマ割り込み処理の周期（例えば、2.235ms）よりも短時間となるよう構成してもよい。

【1004】

このように構成することで、最新の貯留枚数データをクレジット数の表示に反映させることができる。

【1005】

また、本明細書に係る遊技機においては、精算ボタンの操作受付に係る処理の実行から貯留枚数データを所定のRAM領域に記憶する処理の実行までに要する時間（処理の実行時間）は、タイマ割り込み処理の周期（例えば、2.235ms）よりも長時間となるよう構成してもよい。

【1006】

このように構成することで、貯留枚数データ（クレジット数）が1減少してから貯留枚数データ（クレジット数）がさらに1減少するまでの間にタイマ割り込み処理を実行することができ、クレジット数を1ずつ減少させることができ、遊技者がクレジット数を視認して混乱する事態を防止することができる。

【1007】

＜処理時間に関する適用可能な構成2＞

本明細書に係る遊技機においては、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーの操作の検出）に関する処理の実行から、当該スタートレバー信号に係る遊技の内部抽選結果を決定する処理を実行するまでに要する時間（処理の実行時間）は、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーの操作の検出）に関する処理の実行から、当該スタートレバー信号に係るスタートランプD180が消灯するまでの時間よりも短時間となるよう構成してもよい。

【1008】

ここで、前述したように、主制御基板MのRAM領域は、LED表示データに対応する記憶領域（LED表示データ記憶領域と称することがある）を有しており、D0～D7ビットで構成されるLED表示データ記憶領域における、スタートランプ信号に対応するD4ビットが1であればスタートランプD180を点灯させることとなり、D4ビットが0であればスタートランプD180を消灯させることとなる。

【1009】

すなわち、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーの操作の検出）に関する処理の実行から、当該スタートレバー信号に係る遊技の内部抽選結果を決定する処理を実行するまでに要する時間（処理の実行時間）は、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーの操作の検出）に関する処理の実行から、LED表示データをクリアする処理を実行するまでの時間よりも短時間となるよう構成してもよい。

【1010】

なお、前述したように、LED表示データをクリアする処理を実行した場合には、投入

10

20

30

40

50

可能ランプ信号に対応するビットとスタートランプ信号に対応するビットと再遊技ランプ信号に対応するビットとに0が記憶されることとなる。

【1011】

このように構成することで、スタートランプD180が消灯することを視認した時点で内部抽選が完了していることを担保できることとなり、公正な遊技機とすることができる。

【1012】

本明細書に係る遊技機においては、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーの操作の検出）に関する処理の実行から、当該スタートレバー信号に係る遊技の内部抽選結果を決定する処理を実行するまでに要する時間（処理の実行時間）は、スタートレバー信号の立ち上がりの検出（スタートレバーD50の操作の検出）に関する処理の実行から、当該スタートレバー信号に係るスタートランプD180が消灯するまでの時間よりも長時間となるよう構成してもよい。

【1013】

このように構成することで、スタートランプD180が消灯したことで、これから内部抽選を実行することを示唆することができる。

【1014】

なお、スタートランプD180の点灯期間の一例としては、規定数（例えば、3枚）の遊技メダルが投入されると点灯し、スタートレバーD50の操作を受け付けると消灯する。

【1015】

<<<ランプの点灯タイミングに関する構成>>>

次に、本明細書に係る遊技機に適用可能な遊技機が有するランプの点灯タイミングに関する構成を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、本明細書におけるすべての構成に適用可能であることを補足しておく。以下に詳述する構成は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機となっているが、遊技メダルを用いる構成以外の構成は、遊技メダルを用いないメダルレスの遊技機（封入式遊技機、管理遊技機、スマートスロットなどと称することがある）にも適用することができることを補足しておく。

【1016】

また、以下に詳述する構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせて適用してもよい。

【1017】

<<前扉に設けられたランプに関する図1>>

まず、図101は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、前扉DUに設けられた複数のランプの点灯順序に関する構成を図示している。

【1018】

同図に関する回胴式遊技機の構成は、前述した回胴式遊技機と同様の部材を有しており、同図に関する回胴式遊技機が有する一部の部材を図示している。同図に図示するように、同図に関する回胴式遊技機は前扉DUを有しており、前扉DUには、停止ボタンD40、スタートレバーD50、マックスベットボタン、下パネルD140、演出表示装置S40、LEDランプユニットS10、スピーカS20を有しており、遊技機正面からリールM50が視認可能となっている。

【1019】

また、停止ボタンD40として、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43の3つの停止ボタンを有しており、それぞれに（それぞれの停止ボタン内に）停止ボタンランプが設けられている（左停止ボタンランプ、中停止ボタンランプ、右停止ボタンランプ）。なお、停止ボタンランプは、副制御基板S側で制御されるランプとなっているが、主制御基板M側で制御するよう構成してもよい。また、マックスベットボタン内にはマックスベットランプ（マックスベットボタンランプと称することがある）が設けられており、マックスベットランプも、副制御基板S側で制御されるランプとなっている。

が、主制御基板 M 側で制御するよう構成してもよい。

【1020】

また、後述する図102～104においても、図101と同様の構成を適用してもよい。

【1021】

<a：新たに電源を投入する場合>

まず、同図右上段の(a1)～(a3)について詳述する。当該構成は、遊技機に電源供給がされていない状況から新たに電源を投入する場合である。

【1022】

まず、図中(a1)にて、リールが停止しており、遊技が進行していない状況にて電源断が発生し、遊技機には電源が投入されていない。なお、遊技が進行していない状況とは、例えば、リールが回転していない状況となっている。

【1023】

次に、図中(a1)から新たに電源が投入された後の所定のタイミングである図中(a2)では、前扉DUに設けられた報知部のうち停止ボタンランプがはじめに点灯する。なお、図中(a2)では、左停止ボタンランプ、中停止ボタンランプ、右停止ボタンランプの3つのボタンランプが点灯することとなるが、当該3つのランプは同時に点灯してもよいし、略同時に点灯してもよい。また、図中(a2)に係る電源投入は、設定変更モードや設定確認モードには移行しない場合を例示している。なお、本明細書に係る電源投入に関しては、特に記載のない場合においては、設定変更モードや設定確認モードには移行しない場合とすることができる。

【1024】

ここで、前扉DUに設けられた報知部とは、前扉DUに設けられたランプと表示部との総称である。同図においては、停止ボタンランプ、マックスベットランプ、下パネルD140、演出表示装置S40、LEDランプユニットS10が前扉DUに設けられた報知部に該当する。また、不図示であるが、クレジット数表示装置D200、払出数表示装置(押し順表示装置)D270、特別遊技状態表示装置D250、スタートランプD180、投入可能ランプD300、再遊技ランプD290、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213なども前扉DUに設けられた報知部に含めてよい。また、これらの一部を有していなくてもよいし、これらの一部を報知部に含めなくてもよい。

【1025】

なお、演出表示装置S40を表示手段と称することがある。

【1026】

また、ランプが点灯することを報知態様となると称することがあり、図中(a2)の停止ボタンランプは、報知態様として無効態様にて点灯することとなる。なお、停止ボタンランプの点灯態様としては、非報知態様である非点灯、報知態様である無効態様(停止操作が無効である期間を示す点灯態様)、報知態様である有効態様(停止操作が有効である期間を示す点灯態様)を有している。

【1027】

図中(a2)から所定時間が経過した図中(a3)にて、停止ボタンランプ以外の前扉DUに設けられた報知部が報知態様となっている。なお、停止ボタンランプ以外の前扉DUに設けられた報知部が報知態様となる順序については、どのような順序で構成してもよい。

【1028】

このように、新たに電源投入された場合には、前扉DUに設けられた報知部のうち遊技者から見て手前側(最も手前側であってもよい)に位置する停止ボタンランプを、前扉DUに設けられた報知部のうち最初に報知態様となるよう構成することができ、遊技者は、認識し易い停止ボタンランプを視認することで、電源投入されたことをいち早く察知することができる。

【1029】

なお、前扉D Uに設けられた報知部を前扉が備える複数の報知手段と称することがある。

【1030】

ここで、同図の構成においては、新たに電源投入された場合には、停止ボタンランプを前扉D Uに設けられた報知部で最初に報知態様となるよう構成したが、これには限定されず、以下の報知部のうち最初に報知態様となるよう構成してもよい。

(1) 前扉D Uに設けられた報知部

(2) 前扉D Uに設けられた報知部のうち主制御基板M側で制御される報知部

(3) 前扉D Uに設けられた報知部のうち副制御基板S側で制御される報知部

10

【1031】

なお、後述する前扉D Uに設けられた報知部に関する構成においても、前扉D Uに設けられた報知部を上記(2)または(3)に置き換えて適用することが可能である。

【1032】

また、同図においては、リールが停止しており、遊技が進行していない状況にて電源断が発生した場合について例示したが、これには限定されず、以下の状況にて電源断が発生した場合においても、その後新たに電源投入された場合には、前扉D Uに設けられた報知部のうち停止ボタンランプが最初に報知態様となるよう構成してもよい。

(1) すべてのリールが回転しており、停止ボタンランプが報知態様である有効態様となっている状況

20

(2) 一部のリールが回転しており、当該一部のリールに対応する停止ボタンランプが報知態様である有効態様となっており、その他のリールに対応する停止ボタンランプが報知態様である無効態様となっている状況

(3) 所定のエラーが発生しており、当該所定のエラーに関するエラー報知が実行されていない状況

(4) 全部または一部のリールが回転しており、設定／リセットボタンM 30が押下されている状況

(5) 全部または一部のリールが回転しており、スタートレバーD 50が操作されている状況

(6) 全部または一部のリールが回転しており、精算ボタンD 60が押下されている状況

30

(7) 設定確認モードである状況

(8) 設定変更モードである状況

なお、上記構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせ適用してもよい。

【1033】

なお、上記(1)～(8)において、電源断時に停止していたリールに対応する停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として無効態様となっており、電源投入後においても報知態様として無効態様となるよう構成してもよい。

【1034】

また、上記(3)において、電源断時に回転していたリールに対応する停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として有効態様となっており、電源投入後においては報知態様として無効態様となるよう構成してもよい(電源投入後においてリールが回転してもよいし、停止していてもよい)。

40

【1035】

また、上記(4)～(6)において、電源断時に停止していたリールに対応する停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として無効態様となっており、電源投入後においても報知態様として無効態様となるよう構成してもよいし、電源断前においては報知態様として有効態様となっており、電源投入後においても報知態様として有効態様となるよう構成してもよい。

【1036】

50

また、上記（７）または（８）において、電源断時の停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として無効態様となっており、電源投入後においても報知態様として無効態様となるよう構成してもよい。

【１０３７】

＜b：電源断が発生する場合＞

次に、同図右下段の（b１）～（b３）について詳述する。当該構成は、リールが停止しており、遊技が進行していない状況にて電源断が発生する場合である。

【１０３８】

まず、図中（b１）にて、リールが停止しており、遊技が進行していない状況であり、前扉ＤＵに設けられた各種報知部が報知態様となっている。その後、図中（b１）の状況から電源断が発生した後（遊技機への電源供給が遮断された後）の所定タイミングである図中（b２）にて、前扉ＤＵに設けられた報知部のうち、停止ボタンランプ以外の報知部が非報知態様となる（消灯する）。なお、停止ボタンランプ以外の前扉ＤＵに設けられた報知部が非報知態様となる順序については、どのような順序で構成してもよい。

10

【１０３９】

図中（b２）から所定時間が経過した図中（b３）にて、停止ボタンランプが非報知態様となる。すなわち、前扉ＤＵに設けられた報知部のうち、停止ボタンランプが最後に非報知態様となる。なお、図中（b３）では、左停止ボタンランプ、中停止ボタンランプ、右停止ボタンランプの３つのボタンランプが消灯することとなる（非報知態様となる）が、当該３つのランプは同時に消灯してもよいし、略同時に消灯してもよい。

20

【１０４０】

なお、図中（b１）を、リールが停止しており、遊技が進行していない状況としたが、これには限定されず、リールが回転している状況としてもよく、このように構成した場合には、図中（b１）では停止ボタンランプは無効態様（リール駆動状態がリール定速状態以外である場合）または有効態様（リール駆動状態がリール定速状態の場合）となる。

【１０４１】

このように、電源断が発生した場合には、前扉ＤＵに設けられた報知部のうち遊技者から見て手前側（最も手前側であってもよい）に位置する停止ボタンランプを、前扉ＤＵに設けられた報知部のうち最後に非報知態様となるよう構成することができ、遊技者は、電源断が発生した場合においても、認識し易い停止ボタンランプを視認することで、より遅いタイミングまで遊技の状況を把握することができる。

30

【１０４２】

なお、同図における図中（a１）～（a３）の構成と、図中（b１）～（b３）の構成との、いずれかの構成のみを適用してもよい。

【１０４３】

また、同図においては、リールが停止しており、遊技が進行していない状況にて電源断が発生した場合について例示したが、これには限定されず、以下の状況にて電源断が発生した場合においても、前扉ＤＵに設けられた報知部のうち停止ボタンランプが最後に非報知態様となるよう構成してもよい。

（１）すべてのリールが回転しており、停止ボタンランプが報知態様である有効態様となっている状況

40

（２）一部のリールが回転しており、当該一部のリールに対応する停止ボタンランプが報知態様である有効態様となっており、その他のリールに対応する停止ボタンランプが報知態様である無効態様となっている状況

（３）所定のエラーが発生しており、当該所定のエラーに関するエラー報知が実行されていない状況

（４）全部または一部のリールが回転しており、設定／リセットボタンＭ３０が押下されている状況

（５）全部または一部のリールが回転しており、スタートレバーＤ５０が操作されている状況

50

- (6) 全部または一部のリールが回転しており、精算ボタン D 6 0 が押下されている状況
- (7) 設定確認モードである状況
- (8) 設定変更モードである状況

なお、上記構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせ適用してもよい。

【1044】

また、上記(1)～(8)において、電源断時に回転していたリールに対応する停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として有効態様となっているよう構成してもよい。

【1045】

また、上記(4)～(6)において、電源断時に停止していたリールに対応する停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として無効態様となっているよう構成してもよいし、有効態様となっているよう構成してもよい。

【1046】

また、上記(7)または(8)において、電源断時の停止ボタンランプは、電源断前においては報知態様として無効態様となっているよう構成してもよい。

【1047】

<<前扉に設けられたランプに関する図2>>

次に、図102は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、前扉DUに設けられた複数のランプの点灯順序に関する構成を図示している。

【1048】

まず、図中(a)にて、リールが停止しており、遊技が進行していない状況にて電源断が発生し、遊技機には電源が投入されていない。なお、遊技が進行していない状況とは、例えば、リールが回転していない状況となっている。

【1049】

次に、図中(a)から新たに電源が投入された後の所定のタイミングである図中(b)では、前扉DUに設けられた報知部のうち停止ボタンランプがはじめに点灯する(報知態様となる)。なお、停止ボタンランプは無効態様にて点灯する。また、図中(b)に係る電源投入は、設定変更モードや設定確認モードには移行しない場合を例示している。

【1050】

図中(b)の後、図中(c)にて、演出表示装置S40に第1画像(例えば、「画面準備中」と表示される)が表示される。ここで、第1画像とは、報知態様ではない表示態様の画像であり、すなわち、遊技機の電源投入後において、演出表示装置S40が報知態様となるまでの準備を行っている期間である旨を報知するために、演出表示装置S40に第1画像を表示するよう構成されている。

【1051】

このように、演出表示装置S40においては、遊技機の電源投入後において、演出表示装置S40に各種演出画像を表示する準備が完了した以降の表示態様(例えば、後述する第2画像)を報知態様と称しており、遊技機の電源投入後において、演出表示装置S40に各種演出画像を表示する準備を行っている期間にて表示される第1画像と、非表示となっている表示態様とを非報知態様と称している。

【1052】

なお、第1画像は、電源投入直後にのみ演出表示装置S40に表示される画像となっており、遊技進行中における演出としては表示されないよう構成されている。他方、第2画像は、遊技進行中における演出として表示され得る画像となっている。

【1053】

また、第2画像を、所定時間遊技が進行していない場合などに表示されることとなるデモ画面(待機デモ画面、待機デモ画像、デモ画像などと称することがある)としてもよい。

【1054】

10

20

30

40

50

次に、演出表示装置 S 4 0 に第 1 画像が表示されている状況下、マックスベットランプが報知態様となる。図中 (d) の後の所定タイミングである図中 (e) にて、前扉 D U に設けられた報知部のうち演出表示装置 S 4 0 以外の報知部が報知態様となっている。なお、停止ボタンランプ及び演出表示装置 S 4 0 以外の前扉 D U に設けられた報知部が報知態様となる順序については、どのような順序で構成してもよい。

【1055】

その後、図中 (f) にて、演出表示装置 S 4 0 に報知画像である第 2 画像（例えば、主人公が歩いている画像）が表示される。第 2 画像とは、例えば、遊技を進行可能な状況で表示される各種演出表示である。

【1056】

このように、新たに電源投入された場合においては、演出表示装置 S 4 0 に非報知態様である第 1 画像が表示された後に、マックスベットランプが報知態様となり、その後、演出表示装置 S 4 0 に報知態様である第 2 画像が表示されるよう構成されている。このように、演出表示装置 S 4 0 を最後に報知態様とすることにより、表示領域（報知領域）が相対的に大きい演出表示装置 S 4 0 が報知態様になったことを視認することで、電源投入後の遊技機の起動が完了したことを遊技者が把握し易いよう構成することができる。

【1057】

また、主制御基板 M にて制御される操作部材に関するランプであるマックスベットランプを、演出表示装置 S 4 0 よりも先に報知態様とすることで、前扉 D U に設けられた報知部のすべてが報知態様となる前に、遊技の進行が可能である（操作部材の操作を受け付け可能な状況である）旨を遊技者に認識させることができる。

【1058】

また、同図においては、新たに電源投入された場合においては、前扉 D U に設けられた報知部のうち演出表示装置 S 4 0 が最も遅く報知態様となるよう構成されている。このように、演出表示装置 S 4 0 を最後に報知態様とすることにより、表示領域（報知領域）が相対的に大きい演出表示装置 S 4 0 が報知態様になったことを視認することで、電源投入後の遊技機の起動が完了したことを遊技者が把握し易いよう構成することができる。

【1059】

なお、新たに電源投入された場合において、演出表示装置 S 4 0 に非報知態様である第 1 画像が表示された後に、マックスベットランプが報知態様となり、その後、演出表示装置 S 4 0 に報知態様である第 2 画像が表示される構成と、前扉 D U に設けられた報知部のうち演出表示装置 S 4 0 が最も遅く報知態様となる構成とは、いずれかのみを適用してもよいし、双方を適用してもよい。

【1060】

なお、演出表示装置 S 4 0 に表示される画像としては、第 1 画像よりも第 2 画像の方が明るい（視認性が高い、平均的な明るさが高い、使用している色の種類が多い、等としてもよい）ように構成されている。

【1061】

<<リール停止操作に関する図 1>>

次に、図 103 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リール回転中に電源断が発生した場合に関する図である。

【1062】

まず、図中 (a) にて、リールが回転しており、リール駆動状態がリール定速状態となっている。マックスベットランプを除く前扉 D U に設けられた報知部はすべて報知態様となっており、停止ボタンランプは報知態様である有効態様となっており、停止ボタンの操作の受付は可能（停止ボタンが操作されることでリールが停止可能）となっている。なお、マックスベットランプについては、リール回転中には非報知態様である消灯となるよう構成されており、図中 (a) について換言すると、リール回転中に報知態様となる前扉 D U に設けられた報知部はすべて報知態様となっている。

【1063】

10

20

30

40

50

その後、電源断が発生し、図中（b）にて、リールの回転が停止し、前扉D Uに設けられた報知部はすべて非報知態様となる。その後、新たに電源が投入された後の所定期間である図中（c）にて、リールは停止したままであるが、停止ボタンランプが有効態様にて点灯する。なお、図中（c）では、左停止ボタンランプ、中停止ボタンランプ、右停止ボタンランプの3つのボタンランプが点灯することとなるが、当該3つのランプは同時に点灯してもよいし、略同時に点灯してもよい。

【1064】

なお、図中（c）では、リールが回転していないが、停止ボタンの操作の受付は可能となっている。また、図中（c）に係る電源投入は、設定変更モードや設定確認モードには移行しない場合を例示している。

【1065】

その後、リールの回転が開始し、図中（d）にて、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されていない状況であるが、停止ボタンの操作の受付は可能となっている。

【1066】

このように、リール回転中に電源断が発生し、その後電源投入された場合においては、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されていない状況であっても、停止ボタンランプは有効態様となっており、停止ボタンの停止操作が可能となっている。

【1067】

このように構成することで、電源投入後においてできるだけ早く停止操作を実行可能に構成することができ、換言すると、電源投入後においてできるだけ早く遊技を進行可能にすることができる。

【1068】

このように、同図においては、リール回転中に電源断が発生し、その後電源投入された場合においては、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるよりも前のタイミングで停止ボタンの操作が有効となり得るよう構成されている。また、リール回転中に電源断が発生し、その後電源投入された場合においては、電源投入以降においてリールが1周回転するよりも前のタイミングで停止ボタンの操作が有効となり得るよう構成してもよいし、電源投入以降においてリールが回転開始するよりも前のタイミングで停止ボタンの操作が有効となり得るよう構成してもよい。

【1069】

なお、図中（d）の後の所定期間（例えば、インデックスがリールセンサに検出されるタイミング）にて停止ボタンの操作の受付が不可能（停止ボタンが操作されてもリールが停止しない）となるよう構成してもよいし、図中（d）以降においては停止ボタンの停止操作が可能である状態を維持するよう構成してもよい。また、図中（b）にて電源断が発生して停止したリールの位置によって、図中（d）の後の所定期間にて停止ボタンの操作の受付が不可能となる場合と、図中（d）以降においては停止ボタンの停止操作が可能である状態を維持する場合があるよう構成してもよい。

【1070】

また、図中（b）の後に電源が投入された後であって図中（c）となる前の所定期間（電源投入直後の所定期間と称することがある）においては、停止ボタンの操作の受付は不可能（停止ボタンが操作されてもリールが停止しない）であり、当該所定期間においては、停止ボタンランプは消灯または無効態様で点灯するよう構成してもよい。また、当該所定期間の後、図中（c）のように停止ボタンランプが有効態様で点灯するタイミングと略同時（同時でもよい）のタイミングで停止ボタンの操作の受付が可能となるよう構成してもよい。

【1071】

また、図中（d）のように、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるよりも前に停止ボタンの操作の受付が可能となっている期間に

10

20

30

40

50

おいては、少なくとも1つの停止ボタンの操作によるリール停止は可能であるが、他の2つの停止ボタンまたは他の1つの停止ボタンについては停止操作ができない、換言すると、他の2つの停止ボタンまたは他の1つの停止ボタンの停止操作をする前に当該停止ボタンの操作が有効となっている期間が終了するよう構成してもよい。このように構成することで、遊技進行が早くなりすぎないこととなり、射幸性が高くなりすぎないようにすることができる。

【1072】

また、図中（a）のように、すべてのリールが回転しており、停止ボタンの操作の受付が可能となっている状況にて、2つのリール（例えば、左リール、中リール）に対して停止操作が行われ、1つのリール（例えば、右リール）のみが回転している状況にて、電源断が発生し、その後、電源が投入された場合においては、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されていない所定の状況であっても、電源断の直前に回転していた1つのリール（例えば、右リール）に対応する停止ボタンランプは有効態様となっており、電源断の直前に回転していた1つのリール（例えば、右リール）に対応する停止ボタンの停止操作が可能となっているよう構成してもよい。このように構成した場合においては、電源断の直前に回転していた1つのリール（例えば、右リール）は、回転開始前またはインデックスがリールセンサに検出される前に停止される（停止制御が行われる）こととなり、見た目上は、当該遊技（電源断前に内部抽選が行われた遊技）の内部抽選の結果と対応していない図柄組合せが停止表示することとなるが、内部的には、内部抽選の結果と対応した図柄組合せが正規の停止位置に停止されているため、当該正規の停止位置に停止された図柄組合せが払出を伴うものである場合には、当該正規の停止位置に停止された図柄組合せに対応した払出処理が実行されることとなる。

【1073】

このように構成することで、一部のリールが回転している状況で電源断が発生した場合においても、電源復帰後の停止操作のタイミングに拘らず、内部抽選の結果に対応した遊技結果となり、遊技者が不利益を被る事態を防止することができる。

【1074】

なお、すべてのリールが回転しており、停止ボタンの操作の受付が可能となっている状況にて、1つのリール（例えば、左リール）に対して停止操作が行われ、2つのリール（例えば、中リール、右リール）のみが回転している状況にて、電源断が発生し、その後、電源が投入された場合においても、上記構成と同様の作用となり、すなわち、電源投入以降においてリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されていない所定の状況であっても、電源断の直前に回転していた2つのリール（例えば、中リール、右リール）に対応する停止ボタンランプは有効態様となっており、電源断の直前に回転していた2つのリール（例えば、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの停止操作が可能となっているよう構成してもよい。

【1075】

また、遊技機の電源が投入されてからリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるよりも前に停止ボタンの操作の受付が可能となるまでの時間は、リールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるよりも前に停止ボタンの操作の受付が可能となってから停止ボタンの操作の受付が不可能となるまでの時間よりも長時間となるよう構成してもよい。このように構成することで、停止ボタンの操作の受付が可能な期間が長くなり過ぎないようにすることができ、遊技進行が早くなりすぎないこととなり、射幸性が高くなりすぎないようにすることができる。

【1076】

なお、リール回転中に電源断が発生し、その後電源投入した場合においては、リールの脱調を検出するための情報（例えば、所定のカウンタのカウンタ値）を、クリアするよう構成してもよいし、クリアしないよう構成してもよい。リールの脱調を検出するための情報をクリアしないよう構成した場合においては、電源断が発生したタイミングと電源断に係るリール停止時のインデックスの位置との関係によっては、図中（d）の状況にて、停

止ボタンの停止操作が可能でない期間を有する場合がある（図 3 3 にて前述したように、脱調が検出されて、リール再加速処理が実行されるため）。

【1077】

また、図中（c）において、停止ボタンランプが有効態様となる場合においては、停止ボタンランプの点灯態様は、「非点灯→有効態様」のように遷移するよう構成してもよいし、「非点灯→無効態様→有効態様」のように遷移するよう構成してもよい。

【1078】

また、図中（b）の後に電源が投入された場合において、電源が投入されてからリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるまでの期間にて、停止ボタンの操作の受付が不可能となるよう構成してもよい。具体例としては、電源が投入された後、リール再加速処理が実行されるまで（リール再加速処理が実行されてリールが定速となるまで）は、停止ボタンの操作の受付が不可能となるよう構成してもよい。このように構成した場合には、電源が投入されてからリールに設けられたインデックスがリールセンサに検出されるまでにおいては、停止ボタンランプの点灯態様は、「非点灯→無効態様」のように遷移することとなる。

【1079】

<<リール停止操作に関する図 2>>

次に、図 104 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、リール回転中に電源断が発生した場合に関する図である。同図に係る遊技機は、正面視にてリールの手前側に透過液晶を有している。透過液晶の表示領域は、正面視におけるリールの視認可能な領域（リール窓）よりも大きくなっている。また、透過液晶とは、リールバックランプが点灯することで透過状態となり、正面視にて透過液晶よりも奥側のリールが遊技者に視認可能（視認容易としてもよい）となり、リールバックランプが消灯することで非透過状態となり、正面視にて透過液晶よりも奥側のリールが遊技者に視認不可能（視認困難としてもよい）となるよう構成されている。

【1080】

なお、リールバックランプは、リール（リールユニット）の内側に設けられており、リールの裏側からリールを照らすことが可能となっている。

【1081】

なお、遊技機の有する液晶全体を透過液晶としてもよいし、液晶の一部の領域は透過液晶であり、その他の領域は透過液晶でないよう構成してもよい。

【1082】

まず、図中（a）にて、リールが回転しており、透過液晶は透過状態となっている。また、停止ボタンランプは報知態様である有効態様となっている。なお、リール駆動状態はリール定速状態となっている。

【1083】

その後、電源断が発生し、図中（b）にて、停止ボタンランプが報知態様である無効態様となる。なお、図中（b）においては、透過液晶は透過状態のままであり、リールは回転している。

【1084】

その後、図中（c）にて、リールバックランプが消灯して透過液晶が非透過状態となるが、リールは回転しているため、遊技者は、電源断後のリールの停止態様（遊技機への電源供給が遮断されることによって、リールが強制的に停止した際の停止態様）を視認できない（または、視認困難である）。

【1085】

その後、図中（d）にて、遊技機への電源供給が遮断されたことによって、リールが強制的に停止するが、透過液晶が非透過状態であるため、遊技者は、電源断後のリールの停止態様を視認できない（または、視認困難である）。また、図中（d）では、停止ボタンランプは消灯している。なお、停止ボタンランプが消灯するタイミングは、リールが強制的に停止するタイミングよりも前であってもよいし、後であってもよい。また、停止ボタ

10

20

30

40

50

ンの操作タイミングによって、停止ボタンランプが消灯するタイミングとリールが強制的に停止するタイミングとの前後関係が相違してもよい。

【1086】

その後、新たに電源が投入され、リールが回転を開始した後の所定タイミングである図中（e）においては、停止ボタンランプは報知態様である有効態様（無効態様であってもよい）となっているが、リールバックランプは消灯したままであり、透過液晶は非透過状態となっている。なお、リールが回転を開始したタイミングにおいては、透過液晶は非透過状態となっているため、遊技者は、電源断後のリールの停止態様がどのような態様であったかを視認できない（または、視認困難である）よう構成されている。

【1087】

その後、図中（f）にて、リールバックランプが点灯し、透過液晶は透過状態となり、遊技者は、回転しているリールを視認することができる（または、視認容易となる）。

【1088】

このように、透過液晶を有する図104の構成においては、電源断が発生した場合において、リールバックランプが点灯しており、透過液晶が透過状態のままである状況にて、停止ボタンランプが有効態様から無効態様となる。換言すると、リールバックランプが消灯してリールを視認できなくなる（または、視認困難となる）前に停止ボタンランプが有効態様から無効態様となるよう構成されている。

【1089】

このように構成することにより、停止ボタンの操作が有効である期間においては、リールの図柄の視認性をできるだけ長期間担保することができる。

【1090】

また、透過液晶を有する図104の構成においては、電源断が発生した場合において、リールが回転している状況にてリールバックランプが消灯して透過液晶が非透過状態となる。換言すると、遊技機への電源供給が遮断されたことによってリールが強制的に停止するよりも前に、リールバックランプが消灯して透過液晶が非透過状態となり、遊技者は、電源断後のリールの停止態様を視認できない（または、視認困難である）よう構成されている。

【1091】

このように構成することにより、遊技者は、遊技機への電源供給が遮断されることによって、リールが強制的に停止した際の停止態様を視認できない（または、視認困難である）ため、当該停止態様が、見た目上7揃い（ボーナス図柄が有効ラインに停止表示すること）のような遊技者にとって有利となる図柄組合せとなっていた場合にも、当該停止態様を視認することで遊技意欲が減少する事態を防止することができる。

【1092】

また、透過液晶を有する図104の構成においては、電源断が発生した場合において、透過液晶は非透過状態となっている状況でリールが回転を開始する。換言すると、リールバックランプが点灯するよりも前にリールが回転を開始するよう構成されている。

【1093】

このように構成することにより、遊技者は、リールバックランプが点灯して透過液晶が透過状態となり、リールを視認できるようになった（リールが視認容易となった）タイミングでは、すでにリールが回転しているため、遊技機への電源供給が遮断されることによって、リールが強制的に停止した際の停止態様を視認できない（または、視認困難である）ため、当該停止態様が、見た目上7揃いのような遊技者にとって有利となる図柄組合せとなっていた場合にも、当該停止態様を視認することで遊技意欲が減少する事態を防止することができる。

【1094】

また、図中（b）の後において、遊技機への電源供給が遮断されたことによって、リールが強制的に停止した後、透過液晶が透過状態から非透過状態となる（リールバックランプが消灯する）よう構成してもよい。このように構成することにより、遊技者は、電源断

10

20

30

40

50

が発生した場合であっても停止している図柄を確認することができ、現在のリールの状況を把握することができる。

【1095】

また、図中（d）の後において、新たに電源が投入された場合においては、透過液晶が非透過状態から透過状態となった後（リールバックランプが点灯した後）、リールが回転を開始するよう構成してもよい。このように構成することにより、遊技者は、新たに電源が投入された場合であっても、リール回転前に停止している図柄を確認することができ、リールの状況を把握することができる。

【1096】

<<<不正対策に関する構成>>>

次に、本明細書に係る遊技機に適用可能な不正対策に関する構成を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、本明細書におけるすべての構成に適用可能であることを補足しておく。以下に詳述する構成は、遊技メダルを用いる回胴式遊技機となっているが、遊技メダルを用いる構成以外の構成は、遊技メダルを用いないメダルレスの遊技機（封入式遊技機、管理遊技機、スマートスロットなどと称することがある）にも適用することができることを補足しておく。

【1097】

また、以下に詳述する構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせて適用してもよい。

【1098】

まず、図105は、遊技機の前扉DUが開放した状態の斜視図である。同図の構成においては、筐体左側面（遊技者から見て右側）の内側に外部端子板G（外部端子基板と称することがある）を有している。なお、点線で図示しているのは、筐体左側面の内側に設置されていることを示している。外部端子板Gは、遊技機から外部のホールコンピュータ等へ情報伝達するための信号である外部信号を出力するための端子を有する基板である。

【1099】

また、同図の構成に係る遊技機は、リールユニットの遊技者から見て上側に、リールを駆動するための回胴モータK10やホッパH40を駆動するためのホッパモータH80を制御するモータ駆動基板K（回胴基板Kと称することがある）と、主制御基板Mとを有しており、リールユニットの遊技者から見て左側に副制御基板Sを有している。また、前扉DUの上部には演出表示装置S40を有している。

【1100】

なお、同図における演出表示装置S40の位置に副制御基板Sを設けてもよい。

【1101】

<<モータ駆動基板に関する図>>

次に、図106は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、モータ駆動基板Kに関する図である。同図においては、図105にて図示したモータ駆動基板Kの設置位置を、保持部材を用いることにより変更して不正を防止し易くした構成となっている。具体的な構成について以下に詳述する。

【1102】

まず、同図左部は、モータ駆動基板Kとリールユニットに関する正面図であり、同図右部は、モータ駆動基板Kとリールユニットに関する側面図であり、図示するように、リールユニットとモータ駆動基板Kとの間に2つの保持部材が介在しており、当該保持部材によってモータ駆動基板Kが支持されることで、リールユニットとモータ駆動基板Kとの間にdの距離を有している。dは任意の距離としてよいが、一例としては、10cmである。

【1103】

このように構成することにより、遊技場の管理者は、前扉DUを開放することによって、遊技機筐体正面側からモータ駆動基板Kの裏面（正面視にて下側の面）を視認することができ、モータ駆動基板Kの裏面に対して不正が行われている場合であっても、モータ駆

10

20

30

40

50

動基板 K の裏面を視認することで当該不正を発見することができる。

【1104】

なお、同図の構成においては、モータ駆動基板 K の裏面は、前扉 D U を開放されている状況において遊技機正面から視認可能であればよい。また、モータ駆動基板 K においては、所定の I C が設けられている側の面が表面であり、所定の I C が設けられていない側の面が裏面となっている。

【1105】

なお、図 106 の構成に係る遊技機におけるモータ駆動基板 K の位置以外の構成は、図 105 の構成と同様となっている。

【1106】

また、モータ駆動基板 K に対する不正としては、ホップモータ H 80 を誤作動させて払出数を改ざんする不正や、リールの回転を遅くすることで所定の図柄組合せを停止させやすくする不正等がある。

【1107】

さらに、同図の構成に係る遊技機は、不図示であるが、主制御基板 M と外部端子板 G とは、他の基板を介さずに接続されており、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とは、他の基板を介さずに接続されている。すなわち、一のハーネス（ケーブルと称することがある）の一方の接続部が主制御基板 M に接続されており、当該一のハーネスの他方の接続部が外部端子板 G に接続されている。また、一のハーネスの一方の接続部が主制御基板 M に接続されており、当該一のハーネスの他方の接続部がモータ駆動基板 K に接続されている。

【1108】

このように構成することによって、主制御基板 M と外部端子板 G とを複数の基板を介して接続した場合や、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを複数の基板を介して接続した場合と比較して、不正な部品が取り付けられる領域を少なくすることができ、不正を防止し易くすることができる。

【1109】

なお、モータ駆動基板 K の設置位置を図 106 のようにする構成と、主制御基板 M と外部端子板 G とを他の基板を介さずに接続し、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを他の基板を介さずに接続する構成とは、一方のみを適用してもよいし、双方を適用してもよい。

【1110】

また、モータ駆動基板 K の設置位置については、図 106 の構成はあくまで一例であり、前扉 D U の開放時にモータ駆動基板 K の裏面が視認できればよい。具体例としては、筐体背面の内側に図 106 と同じ角度でモータ駆動基板 K を設置するよう構成してもよい。また、モータ駆動基板 K を手で動かせるようにしてもよい。

【1111】

<<ハーネスに関する図>>

次に、図 107 は、本明細書に係る遊技機に適用可能な、ハーネスに関する図である。同図の構成は、図 105 や図 106 にて前述したいずれの構成に対しても適用可能である。

【1112】

まず、同図（a）にて、リールが回転しており、停止ボタンランプは報知態様である有効態様となっている。その後、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスの主制御基板 M 側の接続が外れた後、図中（b）にて、前扉 D U が閉鎖している状況にてリール窓（リール表示窓と称することがある）を介してハーネスが視認可能となるよう構成されている。

【1113】

なお、リール窓は前扉 D U に設けられた窓であり、前扉 D U が閉鎖されている状況にて、リール窓を介してリールを視認可能となっている。

【1114】

なお、同図の構成においては、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネス

10

20

30

40

50

の主制御基板 M 側の接続が外れた場合であっても、外れた後のハーネスの方向によっては、リール窓を介してハーネスが視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスにおける、主制御基板 M 側の接続が外れた場合においては、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となるように、ハーネスの長さを設計すればよい。

【1115】

より具体的には、ハーネスの長さを X、モータ駆動基板 K におけるハーネスを接続する端子からリール窓までの距離を Y1 としたときに、

10

$$X > Y1$$

となるよう構成すればよい。

【1116】

なお、ハーネスを所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れたハーネスがリール窓を介して視認可能となっていればよい。

【1117】

このように構成することによって、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスが不正によって外れている場合においても、リール窓を介して当該不正を察知することができる。

20

【1118】

また、図 107 の構成と同様に、リールが回転しており、停止ボタンランプは報知態様である有効態様となっている状況にて、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスのモータ駆動基板 K 側の接続が外れた後、前扉 DU が閉鎖している状況にてリール窓を介してハーネスが視認可能となるよう構成してもよい。

【1119】

なお、当該構成においては、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスのモータ駆動基板 K 側の接続が外れた場合であっても、外れた後のハーネスの方向によっては、リール窓を介してハーネスが視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスにおける、モータ駆動基板 K 側の接続が外れた場合においては、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となるように、ハーネスの長さを設計すればよい。

30

【1120】

より具体的には、ハーネスの長さを X、主制御基板 M におけるハーネスを接続する端子からリール窓までの距離を Y2 としたときに、

$$X > Y2$$

となるよう構成すればよい。

【1121】

40

なお、ハーネスを所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れたハーネスがリール窓を介して視認可能となっていればよい。

【1122】

このように構成することによって、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスが不正によって外れている場合においても、リール窓を介して当該不正を察知することができる。

【1123】

また、図 107 の構成と同様に、リールが回転しており、停止ボタンランプは報知態様である有効態様となっている状況にて、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネ

50

スの主制御基板 M 側の接続が外れた後、前扉 D U が閉鎖している状況にてリール窓を介してハーネスが視認可能となるよう構成してもよい。

【1124】

なお、当該構成においては、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネスの主制御基板 M 側の接続が外れた場合であっても、外れた後のハーネスの方向によっては、リール窓を介してハーネスが視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネスにおける、主制御基板 M 側の接続が外れた場合においては、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れたハーネスがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓を介して視認可能となるように、ハーネスの長さを設計すればよい。

10

【1125】

より具体的には、ハーネスの長さを X、副制御基板 S におけるハーネスを接続する端子からリール窓までの距離を Y 3 としたときに、

$$X > Y 3$$

となるよう構成すればよい。

【1126】

なお、ハーネスを所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れたハーネスがリール窓を介して視認可能となっていればよい。

20

【1127】

このように構成することによって、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネスが不正によって外れている場合においても、リール窓を介して当該不正を察知することができる。

【1128】

また、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネスは、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスよりも長いよう構成してもよい。

【1129】

なお、前述した主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスにおける、主制御基板 M 側の接続が外れた後、前扉 D U が閉鎖している状況にてリール窓を介してハーネスが視認可能な構成と、主制御基板 M とモータ駆動基板 K とを接続するハーネスにおける、モータ駆動基板 K 側の接続が外れた後、前扉 D U が閉鎖している状況にてリール窓を介してハーネスが視認可能な構成と、主制御基板 M と副制御基板 S とを接続するハーネスにおける、主制御基板 M 側の接続が外れた後、前扉 D U が閉鎖している状況にてリール窓を介してハーネスが視認可能な構成とは、一の構成のみを適用してもよいし、複数の構成を適用してもよい。

30

【1130】

上述した不正対策に関する構成において、不正の有無に拘らず、払出が発生した場合には、スピーカ S 2 0 から払出音を出力するよう構成してもよい。このように構成することによって、モータ駆動基板 K に対する不正が行われ、ホップモータ H 8 0 を誤作動させて不正な払出が発生してしまった場合にも、スピーカ S 2 0 から出力される払出音によって、不正の発生が察知され易いよう構成することができる。また、モータ駆動基板 K に対する不正が行われ、ホップモータ H 8 0 を誤作動させて不正な払出が発生した場合には、正常な遊技による入賞で払出が発生した場合よりも、払出に要する時間が長時間となるため（なり易いため）、払出音が出力される時間も長時間となり、払出音が通常よりも長時間であることによって、不正の発生が察知され易いよう構成することができる。

40

【1131】

<<<メダルセレクト及びシュート本体に関する構成>>>

次に、本明細書に係る遊技機に適用可能なメダルセレクト D S 及びシュート本体 D S H に関する構成を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、本明細書におけるすべて

50

の構成に適用可能であることを補足しておく。

【1132】

また、以下に詳述する構成は一のみを適用してもよいし、複数の構成を組み合わせて適用してもよい。

【1133】

まず、図108は、本明細書に係る遊技機に適用可能なメダルセクタDS及びシュート本体DSHに関する図である。同図に係る遊技機は、シュート本体DSHを有している。メダル投入口D170から投入された遊技メダルは、メダルセクタDS内のメダル流路DRを流下していき、投入受付センサD10sに検出され、第1投入センサD20sに検出され、第2投入センサD30sに検出され、その後、シュート本体DSHを流下していき、シュートセンサD40sに検出され、ホッパH40に向かって流下していくよう構成されている。

10

【1134】

なお、同図の構成においては、遊技メダルがセンサに検出されている状況をオン、遊技メダルがセンサに検出されていない状況をオフと称している。

【1135】

また、前述したシュート本体DSHを有する構成との相違点は、投入受付センサD10sとシュートセンサD40sとの構成であり、詳細は後述するが、同図の構成における投入受付センサD10sは、遊技メダルによってセクタ可動片が動かされることで、投入受付センサD10sがオンとなるよう構成されており、同図の構成におけるシュートセンサD40sは、遊技メダルによってシュート可動片が動かされることで、シュートセンサD40sがオンとなるよう構成されている。

20

【1136】

なお、本明細書に係る遊技機は、同図のようにシュート本体DSH及びシュートセンサD40sを有するよう構成してもよいし、シュート本体DSH及びシュートセンサD40sを有していないよう構成してもよい。また、シュート本体DSH及びシュートセンサD40sを有するよう構成した場合には、投入受付センサD10sを有していないよう構成してもよい。

【1137】

<<投入受付センサに関する図>>

30

次に、図109は、本明細書に係る遊技機に適用可能な投入受付センサD10sに関する図である。同図における投入受付センサD10sは、図108と同様の構成となっている。なお、同図に図示する投入受付センサD10sのみを投入受付センサD10sと称してもよいし、同図に図示する投入受付センサD10sと回転軸と投入受付可動片とを総称して投入受付センサD10sと称してもよい。

【1138】

< A：遊技機が正常に設置されている状況 >

同図左部のAにて、遊技機が正常に設置されている状況について詳述する。遊技機が正常に設置されている状況とは、遊技機筐体の底面が床に接している状況であり、例えば、図1に図示する状況である。

40

【1139】

<投入受付センサの構成>

まず、遊技機が正常に設置されている状況における投入受付センサD10sの構成について詳述する。同図左部のAにおける(a)及び(b)においては、同図における上方向が正面視における上方向、同図における下方向が正面視における下方向、同図における右方向が正面視における奥方向、同図における左方向が正面視における手前方向となっている。

【1140】

図中(a)のように、遊技機が正常に設置されている状況における初期状態では、投入受付可動片が投入受付センサを遮光することによって、投入受付センサがオフとなってい

50

る。

【1141】

次に、メダル投入口D170から投入された遊技メダルが、メダルセクタDS内のメダル流路DRを流下していき、投入受付センサD10sの位置に到達すると、図中（b）のように、遊技メダルが投入受付可動片を押しつけて、回転軸を支点として回転し、投入受付可動片が投入受付センサを遮光しなくなることによって、投入受付センサがオンとなっている。

【1142】

このように、同図に係る投入受付センサD10sは、投入受付可動片が動くことによって、オンオフが切り替わるよう構成されている。

【1143】

< B：左側面が床に接している状況 >

ここで、同図右部のBは、図101にて前述した遊技機の筐体左側面が床に接している状況を図示している。

【1144】

< 遊技機筐体の構成 >

同図右部のBにおける遊技機筐体の構成においては、同図における上方向が正面視における上方向、同図における下方向が正面視における下方向、同図における右方向が正面視における右方向、同図における左方向が正面視における左方向となっている。

【1145】

このように、遊技場における何らかの事故などにより、遊技機の筐体左側面が床に接してしまった場合に遊技を進行可能としてしまうと、遊技者にとっても、遊技場にとっても、不測の事態が発生する可能性があるため、遊技の進行ができないように構成することが好適である。また、遊技場の管理者が遊技機の筐体左側面が床に接した状態などの正常でない設置方法で営業を行ってしまったり、遊技者が自宅などで遊技をするために中古市場などで遊技機を購入し、遊技機の筐体左側面が床に接した状態などの正常でない設置方法で遊技を行ってしまうことで、安全性を担保できない可能性があるため、遊技機の筐体左側面が床に接した状態などの正常でない設置がされている場合においては、遊技の進行ができないように構成することが好適である。

【1146】

< 投入受付センサの構成 >

次に、同図右部のBにおける、遊技機筐体の左側面が床に接している状況における投入受付センサD10sの構成について詳述する。同図右部のBにおける（c）においては、同図における上方向が正面視における左方向、同図における下方向が正面視における右方向、同図における右方向が正面視における奥方向、同図における左方向が正面視における手前方向となっている。

【1147】

図中（c）のように、遊技機筐体の左側面が床に接している状況においては、遊技メダルが投入受付センサD10sに到達しておらず、遊技メダルによって投入受付可動片が押されていない状況であっても、投入受付可動片が図中（a）の位置から回転軸を支点として回転しており、投入受付可動片が投入受付センサD10sを遮光していないため、投入受付センサD10sがオンとなっている。

【1148】

ここで、同図に係る遊技機においては、投入受付センサD10sがオンのままである状況が継続すると所定のエラー状態となるよう構成されており、遊技機筐体の左側面が床に接している状況においては、所定のエラー状態となって遊技の進行ができなくなる。このように構成することにより、遊技機が正常に設置されている状況以外で遊技が進行してしまうことを防止することができ、遊技者や遊技場の監視者にとって不測の事態が発生することを防止することができる。

【1149】

なお、投入受付センサ D 1 0 s がオンのままである状況が継続した場合に所定のエラー状態となる条件の具体例としては、(1) 投入受付センサ D 1 0 s がオンの状況が第 1 の時間継続した、(2) 投入受付センサ D 1 0 s がオフからオンとなつてから、第 1 投入センサ D 2 0 s (または、第 2 投入センサ D 3 0 s) がオフのままの状況が第 2 の時間継続した、などとしてもよい。

【1150】

また、同図(c)においては、遊技機筐体の左側面が床に接している状況において、投入受付可動片が奥方向に回転(移動)する場合を例示したが、遊技機筐体の左側面が床に接している状況において、遊技メダルが投入受付センサ D 1 0 s に到達しておらず、遊技メダルによって投入受付可動片が押されていない状況であっても、投入受付センサ D 1 0 s がオンとなっているよう構成すればよく、例えば、遊技機筐体の左側面が床に接している状況になると、投入受付可動片が下方向(重力方向)に移動して投入受付センサ D 1 0 s がオンとなるよう構成してもよい。また、遊技機筐体に対する投入受付センサ D 1 0 s を設置する向きや、投入受付可動片の可動範囲(可動方向)についても、どのように構成してもよい。

【1151】

また、同図においては、遊技機が正常に設置されていない状況として、遊技機筐体の左側面が床に接している状況を例示したが、これには限定されず、遊技機筐体の背面が床に接している状況など、遊技機筐体のいずれかの面が床に接している状況において、同図の構成を適用してもよい。また、同図の構成は、床に接している面として一の面のみに適用してもよいし、複数の面に適用してもよい。

【1152】

また、同図においては投入受付センサ D 1 0 s に関する構成を例示したが、これには限定されず、同図における投入受付センサ D 1 0 s を図 1 0 8 にて前述したシュートセンサ D 4 0 s に置き換えて適用してもよい。なお、このように構成した場合には、シュートセンサ D 4 0 s がオンのままである状況が継続すると所定のエラー状態となるよう構成してもよい。

【1153】

また、同図の構成においては、遊技機が正常に設置されていない状況であっても、不正により、メダルセレクト D S が取り外された場合など、メダルセレクト D S の角度が変更された状況が所定時間継続した場合には、所定のエラーとなるよう構成してもよく、このように構成することで、メダルセレクト D S に対する不正を防止することができる。

【1154】

<ケーブル類に関する工夫 1 (ケーブルのサイズ)>

図 1 1 0 は、遊技機筐体に開閉可能に備えられた前扉 D U と、遊技機筐体を構成する筐体本体 K M との、ヒンジ部分における関係を概略的に示している。前扉 D U は、筐体本体 K M に対し、ヒンジ装置 H J 1 を介して連結され、筐体本体 K M により支持されている。図 1 1 0 には、上段のヒンジ装置 H J 1 のみが示されているが、図 2 や図 1 0 5 に示すように、上下のヒンジ装置 H J 1、H J 2 により、前扉 D U の支持が行われている。図 1 1 0 では、前扉 D U における各部の肉厚(一定ではない)や形状、筐体本体 K M の肉厚(一定であってもよい)や形状は、模式的に簡略化して示されている。

【1155】

なお、図 2 や図 1 0 5 では、前扉 D U の輪郭を示すために、ヒンジ装置 H J 1、H J 2 は、各々が途中で分断されているように示されているが、図 1 1 0 のヒンジ装置 H J 1 のように、前扉 D U と、筐体本体 K M とに跨った状態で固定されている。図 1 1 0 は、前扉 D U をある程度(例えば 9 0 度程度)開けて、回胴式遊技機 P の内部が露出した状態を概略的に示している。図 1 1 0 では、一部の機器の図示が省略されている。また、図 1 1 0 では、ヒンジ装置 H J 1 が、直方体の図形の組み合わせにより概略的に示されている。

【1156】

図 1 1 1 には、前扉 D U を開いた状態を上方から見た状態が示されている。前扉 D U の

開閉の際の変位軌跡は、単純な円弧運動の軌跡に限定されない。前扉 D U の開閉の際の変位軌跡は、ヒンジ装置 H J 1、H J 2 の機構により、例えば、円弧の方向のみでなく、左右方向（遊技機正面から見た場合の左右方向）へも一旦変位するものであってもよい。ここで、例えば、「上」、「下」、「左」、「右」、「前」、「後」などといったように向きや方向を表す用語は、特に説明がない限りは、遊技機が正常に設置されている状況での向きや方向を表す。「上方」や「左右方向」は、遊技機が正常に設置されている状況に係る上方や左右方向を意味している。ただし、例えば、遊技機の筐体（ここでは筐体本体 K M）の左右のいずれかの側面が床に接した状態であっても、前扉 D U、筐体本体 K M、及び、後述する電源コード D K、ハーネス H N、及び、ホックチューブ（「ホック留めチューブ」などともいう） H T 等に係る寸法関係は成立する。

10

【1157】

図 111 には、電源コード D K が示されている。電源コード D K の一端部は、電源供給ユニット E（図 2）に電氣的に接続されている。電源コード D K は、他端部に電源プラグ D P を有しており、電源プラグ D P は電力供給用のコンセントに差し込まれる。この電源コード D K を介して、回胴式遊技機 P への電力（例えば 100 V の交流電圧）の供給が行われる。電力は、規定電圧の直流電圧に変換された後、夫々の制御基板および基板に供給される。

【1158】

図 111 において、符号 W A は、電源コード D K におけるコード部分 D C の幅を示している。コード部分 D C は、電源供給ユニット E（図 2）に電氣的に接続される一端部や、電源プラグ D P が形成されている他端部を除いた大部分である。コード部分 D C の形状（断面形状）は、例えば、図 112（a）に概略的に示す真円形状のほか、同図（b）に示す楕円形状や、同図（c）に示す平坦（フラット）形状等であってもよい。符号 W A が示す幅は、電源コード D K に係る各種の断面形状において、最大幅となる部位の幅である。換言すれば、符号 W A が示す幅は、電源コード D K の幅の最大長さであるといえる。

20

【1159】

電源コード D K の幅の最大長さ W A は、前扉 D U の開放時における、前扉 D U と筐体側（筐体本体 K M）との間の透き間 S K の距離 W B よりも長い。つまり、 $W A > W B$ の関係が成立している。ここで、図 111 では、W B が W A よりも大きく描かれているが、これは透き間 S K を明確に示すためであり、実際には $W A > W B$ となっている。透き間 S K の距離 W B は、前扉 D U の角度により変化する。透き間 S K は、前扉 D U と筐体本体 K M との間に発生する空間である。前扉 D U を筐体本体 K M に閉じて整合させている際には、図 113 に示すように、透き間 S K は最小となる。透き間 S K は、図 111 に示すように、前扉 D U を解放した際に広がる。ここで、「透き間」は、「隙間」や「間隙」などと言い換えることもできる。また、透き間 S K の距離は、単に「透き間 S K」と言い表すことも可能である。また、透き間 S K の距離は、透き間 S K に係る「幅」、「開口幅」、「大きさ」、「前扉 D U と筐体側（筐体本体 K M）との間隔」などと言い換えることもできる。

30

【1160】

筐体本体 K M の上辺部 K M 10 における前縁部 K M 12 には、板状の遮蔽部 S H が、前方へ突出するように設けられている。前扉 D U を閉じている際には、前扉 D U の上縁部が、遮蔽部 S H の上に接近して重なる。そして、前扉 D U を閉じると、透き間 S K の一部は、遮蔽部 S H に臨み、遮蔽部 S H によって塞がれる。このため、前扉 D U を閉じている際には、例えば不正を試みる者が、透き間 S K に異物を進入させたとしても、異物が遮蔽部 S H に当たり、異物を遮蔽部 S H よりも奥（遮蔽部 S H から先）に進入させることは困難である。不正に用いられ得る「異物」としては、例えば、棒状、線状、紐状、及び、板状のものなどが挙げられる。

40

【1161】

図 111 及び図 113 の例では、筐体本体 K M の上辺部 K M 10 における一端部（ヒンジ装置 H J 1 側の端部）には、前扉 D U の回動時に、前扉 D U の角部と干渉しないよう、逃げ用凹部 K M 14 が形成されている。透き間 S K の距離 W B は、例えば、逃げ用凹部 K

50

M 1 4 の最も外側の端部（最もヒンジ装置 H J 1 側の端部）K M 1 6 と、前扉 D U との、「前後方向距離」として定義できる。または、透き間 S K の距離 W B は、例えば、逃げ用凹部 K M 1 4 の最も外側の端部 K M 1 6 と、前扉 D U との、「最短距離」としても定義できる。

【1 1 6 2】

上述のいずれの定義についても、図 1 1 1 及び図 1 1 3 に示す逃げ用凹部 K M 1 4 の全長（曲線部分の全長）に亘り、 $W A > W B$ の関係が成立している。なお、逃げ用凹部 K M 1 4 の全長において、 $W A > W B$ の関係が成立することに限らず、例えば、逃げ用凹部 K M 1 4 の少なくとも一部において、 $W A > W B$ の関係が成立するようにしてもよい。

【1 1 6 3】

透き間 S K は、逃げ用凹部 K M 1 4 の部分に連続して、遊技機筐体の左右方向にも存在する。透き間 S K は、逃げ用凹部 K M 1 4 から、筐体本体 K M の上辺部 K M 1 0 における他端部（ヒンジ装置 H J 1 側とは逆側の端部、遊技機正面から見て右側の端部（前扉 D U の自由端側の端部）K M 1 6）に達する。少なくとも、前扉 D U を閉じた状況や、前扉 D U の開放角度を少なく抑えた状況（例えば開放角度を 5 度以下程度とした状況）では、前扉 D U の自由端側の端部 K M 1 6 においても、 $W A > W B$ の関係が成立する。なお、これに限定されず、例えば、前扉 D U を閉じた状況や、前扉 D U の開度を少なく抑えた状況で、透き間 S K の少なくとも一部において、 $W A > W B$ の関係が成立するようにしてもよい。

【1 1 6 4】

透き間 S K は、遊技機の上下方向の全長（上端部から下端部）にも延びている。透き間 S K は、遊技機の上下方向の全長に亘り一定であってもよい。この場合、 $W A > W B$ の関係は、遊技機の上下方向の全長に亘り成立することとなる。また、透き間 S K は、遊技機の上下方向の全長に亘り必ずしも一定でなくてもよい。この場合、 $W A > W B$ の関係が、遊技機の上下方向の全長のうちで部分的に成立するようにすることが可能である。

【1 1 6 5】

なお、電源コード D K の幅の最大長さ W A と、透き間 S K の距離 W B との関係（ここでは $W A > W B$ ）については、種々に定めることが可能である。例えば、透き間 S K は、前扉 D U の開放度合い（開放角度）に応じて変化する。また、透き間 S K は、位置（どの位置の透き間 S K の距離と、前扉 D U の開放度合いとの組み合わせによっても変化する。そして、一例としては、前扉 D U の開放度合いに応じて透き間 S K の距離 W B が変化し得ることを前提として、以下のように関係（関係 1）を定めるようにする。

- ・極大開放（例えば、開放角度 90 度以上）のときに、 $W A > W B$ が成立する。
- ・大開放（例えば、開放角度 60 ～ 90 度（90 度未満））のときに、 $W A > W B$ が成立する。
- ・中開放（例えば、開放角度 45 ～ 60 度（60 度未満））のときに、 $W A > W B$ が成立する。
- ・小開放（例えば、開放角度 30 ～ 45 度（45 度未満））のときに、 $W A > W B$ が成立する。
- ・極小開放（例えば、開放角度 10 ～ 30 度（30 度未満））のときに、 $W A > W B$ が成立する。
- ・極々小開放（例えば、開放角度 0 ～ 10 度（10 度未満））のときに、 $W A > W B$ が成立する。

【1 1 6 6】

また、 $W A > W B$ が成立する透き間 S K の長さについても種々に定めることができる。例えば、透き間 S K の大きさ W B は、遊技機の下端から上端の間で変化し、位置に応じて、最長から最短までの種々の値をとる。一例としては、以下のように関係（関係 2）を定めるようにする。

- ・透き間 S K の距離が最短となる部位の距離を W B としたとき、 $W A > W B$ が成立する。
- ・透き間 S K の長さの最長となる部位の距離を W B としたとき、 $W A > W B$ が成立する。

・透き間 S K の長さの最短となる部位の距離と最長となる部位の距離との平均を W B としたとき、 $W A > W B$ が成立する。なお、前述の関係 1 と関係 2 は、特に支障がない限りは、適宜組み合わせることが可能である。

【1167】

以上説明したように、透き間 S K の幅を定めることにより、電源コード D K が、透き間 S K に入り込んだ状態となることを防止できる。そして、閉じられた前扉 D U を開放し、再び閉じる間において、電源コード D K が、透き間 S K から外部に飛び出し難くなったり、前扉 D U と筐体本体 K M との間に挟まれ難くなったりする。さらに、電源コード D K が傷付くことや、電源コード D K の断線により火災が生じること等を効果的に防止できる。

【1168】

このような電源コード D K の挟み込み防止は、電源コード D K の断面形状がどのような形状（例えば、図 112 (a) ~ (c) に示す各種形状）であっても発揮される。また、電源コード D K の幅の最大長さ W A は、電源コード D K を、例えば圧迫して変形させたりしていない、通常使用状態での大きさとするのが望ましい。さらに、電源コード D K の電源プラグ D P が、電力供給用のコンセントから外れていたとしても、電源コード D K に係る挟み込みの防止効果は発揮される。また、電源プラグ D P は、電源コード D K のコード部分 D C よりも幅が大となっているため、電源プラグ D P についても、挟み込みの防止効果は発揮される。

【1169】

なお、ケーブルとして電源コード D K を例として説明したが、例えば、各種基板間での通信に用いられるハーネス（例えば、後述するハーネス H N など）に係る幅の最大長さにも適用が可能である。

【1170】

また、前扉 D U の、筐体本体 K M による支持は、図 2、図 105、及び、図 110 に示すようなタイプに限定されない。例えば、図 114 に示すような、ヒンジ装置 H J 10 を用いることも可能である。図 114 に例示されたヒンジ装置 H J 10 は、遊技機の上下方向に延びる各パイプ状の筒状部材 H J 10 A を備え、筒状部材 H J 10 A を介して、前扉 D U を支持する。筒状部材 H J 10 A は水平方向に回動可能であり、前扉 D U と一体に回動変位する。

【1171】

なお、図 110 の例では、図 2 や図 105 と同様に、逃げ用凹部 K M 14 は示されていないが、図 110（及び図 2、図 105 の例）でも、逃げ用凹部 K M 14 を形成することは可能である。また、逃げ用凹部 K M 14 が設けられていない場合（例えば、図 2、図 105、図 110 の例など）でも、 $W A > W B$ の関係が成立するよう、遊技機枠と電源コード D K との関係を定めることが可能である。

【1172】

＜ケーブル類に関する工夫 2（筐体本体 K M における傾斜部 K M 18）＞

図 111 に示したように、筐体本体 K M の上辺部 K M 10 には、逃げ用凹部 K M 14 が形成されている。図 111 の例では、逃げ用凹部 K M 14 は、全体的に円弧状に形成されている。ここでいう「円弧状」は、例えば、直径、円周率、及び、中心角の値を用いて長さを計算できる 1 つの円弧により表されるものであってもよく、或いは、複数の円弧の組み合わせにより表されるものであってもよい。また、「円弧状」は、円弧と直線の組み合わせにより表されるものであってもよく、或いは、複数の直線の組み合わせにより表されるものであってもよい。

【1173】

図 115 は、逃げ用凹部 K M 14 を拡大して概略的に示している。逃げ用凹部 K M 14 は、少なくとも、ヒンジ装置 H J 1 の側の部分が斜めに切除されたような形状となっている。そして、筐体本体 K M における上辺部 K M 10 の、逃げ用凹部 K M 14 に面した縁部は、傾斜部 K M 18 となっている。傾斜部 K M 18 は、図 115 に実線で示すように円弧状に形成されたものであってもよく、或いは、二点鎖線で示すように直線状に傾斜したも

10

20

30

40

50

のであってもよい。円弧状の傾斜部については、例えば、曲線（円弧）の接線が斜めの直線により表されるもの、などということもできる。

【1174】

このように傾斜部KM18を設けることにより、前扉DUを閉じる際に、前扉DUと、筐体本体KMの上辺部KM10との間に、電源コードDKが挟み込まれたとしても、電源コードDKに、傾斜部KM18に沿った方向（筐体本体KMの左右方向や前後方向に対する斜め方向）の力を作用させ易くなる。そして、電源コードDKが、傾斜部18により案内されて移動する。このため、電源コードDKは、逃げ用凹部KM14の最も外側の端部（最もヒンジ装置HJ1側の端部）KM16の側へ押し出され（排出され）、前扉DUと筐体本体KMとの間から離脱する。したがって、電源コードDKが、前扉DUの角部DU10と、筐体本体KMとの間に留まるのを防止でき、電源コードDKに係る挟み込みの防止効果が発揮される。

10

【1175】

電源コードDKの挟み込み防止や、傷付け防止の効果をより良好に発揮するために、筐体本体KMの上辺部KM10における、少なくとも逃げ用凹部KM14の周囲の部分は、例えば、合成樹脂材料を用いて形成することが望ましい。また、少なくとも逃げ用凹部KM14の周囲の部分を、ゴム等の弾性部材により形成してもよい。さらに、逃げ用凹部KM14の周囲の部分を金属製（例えば板金製）とする場合であっても、十分な面取り加工や、R（アール、曲面）加工を施すことにより、電源コードDKの挟み込み防止や、傷付け防止の効果をより良好に発揮することが可能である。

20

【1176】

<ケーブル類に関する工夫3（ホックチューブHTの長さなど）>

図110には、ハーネスHNが示されている。ハーネスHNの両端には、コネクタHN10、HN12が設けられており、コネクタHN10、HN12は、主制御基板Mのコネクタ（図示略）と、副制御基板Sのコネクタに接続されている。主制御基板Mと副制御基板Sは、それぞれ透明な基板ケースM110、S110に収容され、コネクタ（図示略）を基板ケースM110、S110から露出させている。ハーネスHNは、複数（多数）の導線（導線部分）を帯状に一体化した所謂フラットリボンケーブル式のものであってもよく、或いは、導線を一体化せずコネクタHN10、HN12に接続したタイプのものであってもよい。

30

【1177】

図110の例では、主制御基板Mは、図105等の例と同様に、筐体本体KMの側に設けられている。しかし、副制御基板Sは、図105等の例と異なり、前扉DUの側に設けられている。このため、ハーネスHNは、筐体本体KMと、前扉DUとの間に掛け渡されている。ここで、ハーネスHNは、あくまでも一例として示されたものであり、筐体本体KMと、前扉DUとの間に跨るように設けられるハーネスであれば、他の基板に接続されるハーネスであってもよい。同様に、主制御基板Mや副制御基板Sを、他の基板の組み合わせに置き換えてもよい。他の基板の組み合わせ例として、例えば、主制御基板Mとメダル数制御基板（メダルレスの回胴式遊技機の場合）の組み合わせや、副制御基板Sと画像制御基板（図示略、演出表示装置S40における画像表示を制御する基板）の組み合わせ等を挙げることができる。

40

【1178】

ハーネスHNの長さは、主制御基板Mに対する接続位置と、副制御基板Sに対する接続位置との直線距離よりも長く設定されている。主制御基板Mと副制御基板Sとの距離は、前扉DUの開放角度に応じて変化する。ハーネスHNの長さは、前扉DUを最大角度で開放した場合であっても、弛みが生じるように設定されている。図110の例では、前扉DUの開放角度が90度程度であり、ハーネスHNは、アルファベットの「W」の文字を描くように弛んでいる。

【1179】

ハーネスHNの途中の部位は、第1クランプCP10と第2クランプCP12により支

50

持されている。第1クランプCP10と第2クランプCP12は、前扉DUと筐体本体KMに1個ずつ固定されている。ハーネスHNは、前扉DUの開閉に伴って、第1クランプCP10や第2クランプCP12に支持されながら、且つ、接触しながら、第1クランプCP10や第2クランプCP12に対して変位する。第1クランプCP10、及び、第2クランプCP12としては、ハーネスHNを部分的に支持できるものであれば、種々のタイプのものを採用できる。図110の例において、第1クランプCP10、及び、第2クランプCP12は、上向きに開放したU字状の部材であり、その素材は合成樹脂である。さらに、第1クランプCP10、及び、第2クランプCP12は、弾性変形が可能な剛性や形状を有している。

【1180】

しかし、これに限定されず、第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12を、例えば、バンド状（帯状）で両端がビス止めされるものとしたり、先端（上端）がフック状に曲がっているものとしたりすることが可能である。また、第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12を、金属製とすることも可能である。また、ハーネスHNを、一方のクランプ（例えば、前扉DUの側の第1クランプCP102）に対しては変位できないように固定して拘束する、といったことも可能である。

【1181】

ハーネスHNの、第1クランプCP10に支持された部位と、第2クランプCP12により支持された部位との間には、ホックチューブ（「ホック留めチューブ」などともいう）HTが設けられている。ホックチューブHTは、可撓性を有するシート状の素材を管状に丸め、ホック（例えばボタン状のホック）により、縁部を繋ぎ合わせて形成されている。図110の例では、ホックチューブHTにおいて、丸印（楕円図形）で示す箇所がボタン状のホックを表している。ホックチューブHTは、ハーネスHNの所定の範囲を包むよう、ハーネスHNの導線（導線部分）に巻き付けられている。ホックチューブHTは、ハーネスHNの弛みの形状に追従して変形している。ホックチューブHTは、ボタンを外すことで展開可能となり、ボタンを外すことにより、ハーネスHNからの分離が可能となる。ホックチューブHTの素材や形状として、必要な柔軟性を発揮する種々のタイプの素材や形状を採用できる。

【1182】

図110の例において、ホックチューブHTは、透明な合成樹脂製のシートにより形成されている。このため、ホックチューブHTの外側から、ハーネスHNを視認できる。そして、ホックチューブHTの内側に、例えば、不正行為に利用される異物（ここでは回路基板等）が設置されていても、当該異物を容易に発見できる。

【1183】

ホックチューブHTの長さは、ハーネスHNに追従して変形した状態で、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間に収まり、且つ、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間の距離よりも短くなるように設定されている。ここでいう第1クランプCP10と第2クランプCP12との間の距離は、直線距離（最短距離）ではなく、弛んだハーネスHNの形状に沿った距離（「実体長さ」、「実測長さ」などともいう）である。前扉DUの開閉に伴って、ハーネスHNの形状（弛みの態様）は変化する。このようなハーネスHNの形状（弛みの態様）の変化は、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間でも生じる。

【1184】

ホックチューブHTの長さについては、例えば、ハーネスHNの長さに対して1／2以上とすることが考えられる。また、ホックチューブHTの長さを、第1クランプCP10と第2クランプCP12との距離に基づいて定めることも可能である。例えば、図116に模式化して示すように、ハーネスHNに係る、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間に位置する部分の長さ（「実体長さ」、「実測長さ」などともいう）を符号 L_{HN} で表す。図116では、ハーネスHNやホックチューブHTが、弛みを省略して、直線的に表されている。そして、このハーネスHNの長さ L_{HN} （弛みの分を含む）に対

10

20

30

40

50

し、ホックチューブHTの長さ L_{HT} （弛みの分を含む）を、 $1/2$ 以上とする。すなわち、ホックチューブHTの長さ L_{HT} を、 $L_{HT} \geq L_{HN}/2$ の関係が成立するように定める。なお、前扉DUを閉じた場合（開放角度が0度の場合）と、前扉DUを所定の角度（例えば0度超～最大角度）で開放した場合とでは、第1クランプCP10と第2クランプCP12との距離が変わり、ハーネスHNに係る長さ L_{HN} が変化すること考えられる。これらのいずれの場合にも、ホックチューブHTの長さ L_{HT} を、 $L_{HT} \geq L_{HN}/2$ の関係が成立するように定めることが考えられる。

【1185】

前述したように、ハーネスHNは、前扉DUの開閉に伴って、第1クランプCP10や第2クランプCP12に接触しながら、第1クランプCP10や第2クランプCP12に対して変位する。ホックチューブHTは、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間で、ハーネスHNの形状に追従しながら、ハーネスHNに対して、滑りながら変位が可能である。そして、ホックチューブHTは、ハーネスHNに巻き付けられた状態のまま、例えば人手により、第1クランプCP10、又は、第2クランプCP12に寄せられて接するよう、変位することが可能である。図110の例では、ホックチューブHTは、第2クランプCP12の側へ寄せられている。

10

【1186】

ホックチューブHTは、第1クランプCP10に接触する（到達する）位置まで移動した場合であっても、第2クランプCP12に接触する（到達する）位置まで移動した場合も、前扉DUと筐体本体KMとの間の透き間SKに対向する。つまり、ホックチューブHTの長さは、第1クランプCP10と第2クランプCP12との間で、第1クランプCP10に寄せられた場合も、第2クランプCP12に寄せられた場合も、少なくともその一部が、透き間SKに臨む（面する）。このことは、前扉DUが閉じられた状況であっても、或いは、前扉DUがどのような角度で開放されている状況であっても、同様である。したがって、透き間SKに面した位置において、常に、ホックチューブHTによりハーネスHNを保護することができる。そして、ハーネスHNが、透き間SK入り込むことや、前扉DUと筐体本体KMとの間に挟まれて傷付いたりするのを防止できる。

20

【1187】

また、透き間SKに面した位置において、常に、ハーネスHNがホックチューブHTにより保護されることから、例えば、第三者が、透き間SKからハーネスHNに対して何らかの不正を試みたとしても、当該第三者は、ホックチューブHTに阻止されて、ハーネスHNに直接的にアクセス（接近、接触）することができない。

30

【1188】

なお、ハーネスHNを保護するための手段（ハーネス保護部材）は、ホックチューブHTに限定されるものではない。例えば、合成樹脂製の帯状の部材を、電気コードに螺旋状に巻き付けて、電気コードの所望の範囲を保護するようなスパイラルチューブを採用することが可能である。また、ハーネスHNの弛みの形状に十分に追従できれば、収縮チューブや、蛇腹管などを利用してもよい。

【1189】

また、ハーネスHNは、主制御基板Mと副制御基板Sとを繋ぐハーネスに限定されない。例えば、主制御基板Mと中継基板IN（図12）などを繋ぐハーネスや、その他の基板間のハーネスであってもよい。さらに、基板は、前扉DUの側に設置される基板（扉側基板）と、筐体本体KMの側に設置される基板（本体側基板）であればよい。

40

【1190】

<ケーブル類に関する工夫4（クランプ部材の変位自由度）>

第1クランプCP10、第2クランプCP12などのクランプ部材に関しては、その変位の自由度を種々の態様で設定できる。例えば、第1クランプCP10については、回転変位できないように固定し、第2クランプCP12については、回転できるように固定する、といったことが可能である。

【1191】

50

この場合、第1クランプCP10としては、図117(a)に示すように、筐体本体KMに固定されている支持軸CP10Aに対してハーネス支持部CP10Bが変位できないように形成されているもの（固定式のもの）を使用することが考えられる。ここでいう「固定式のもの」には、一体に加工されているもののほか、接着剤等の溶剤で固定されているものや、嵌め合わせにより固定されているものなども含む。図117(a)では、回転変位できないことを、楕円状の矢印と「×」印との組み合わせにより表している。これに対し、第2クランプCP12としては、図117(b)に示すように、前扉DUに固定されている支持軸CP12Aに対してハーネス支持部CP12Bが自由に正逆回転できるように形成されたもの（自由回転式のもの）を使用することが考えられる。図117(b)では、回転変位できることを、楕円状の矢印と「○」印との組み合わせにより表している。

10

【1192】

このように、片方のクランプ（ここでは第1クランプCP10）を固定する（固定式のものとする）ことで、両方のクランプを自由回転式のものとした場合に比べて、前扉DUの開閉時におけるハーネスHNの変位を規制でき（挙動を制限でき）、ハーネスHNが、前扉DUと筐体本体KMとの間の透き間SKに挟まれてしまうのを防止できる。

【1193】

なお、ハーネスHNの挙動を十分に制限できれば、第1クランプCP10及び第2クランプCP12の両方を自由回転式のものとしてもよい。また、必要に応じて、第1クランプCP10及び第2クランプCP12の両方を固定式としてもよい。また、自由回転式のものとした場合に、例えば摩擦による回転抵抗を与え、回転にある程度の大きさの力が必要になるようにしてもよい。この場合の摩擦抵抗としては、例えば、人手（手指）によりクランプ（例えば第1クランプCP10）を操作して回すことが必要となる程度の摩擦抵抗や、ハーネスHNを支持した状態で、ハーネスHNが、例えば、人手（手指）により引っ張られることにより回すことが必要となる程度の摩擦抵抗を想定できる。

20

【1194】

<ケーブル類に関する工夫5（クランプ部材からの脱落を想定したハーネスHNの長さ）>

ハーネスHNが、クランプ（ここでは第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12）により支持されている状況では、ハーネスHNの可動範囲がクランプにより制限される。図110の例では、ハーネスHNは、上方向には移動させ易いが、その他の方向には移動させ難くなっている。ハーネスHNが、クランプから脱落した場合について考えると、ハーネスHNの拘束が緩むため、ハーネスHNの可動範囲が拡大する。このような場合でも、ハーネスHNが、前扉DUと筐体本体KMとの間に挟まれないよう、ハーネスHNの長さを設定する。

30

【1195】

ハーネスHNが、第1クランプCP10及び第2クランプCP12の両方からから脱落した状態で、例えば手指により、前扉DUと筐体本体KMとの間の透き間SKの側へ最大限引っ張られた場合でも、透き間SKに到達しないように、ハーネスHNの長さを設定することが可能である。ここでいう「最大限引っ張られた場合」は、例えば、ハーネスHNが、主制御基板Mと副制御基板Sに接続された状態で最も張力が高まるよう引っ張られた状態や、透き間SKに最も近付くように引っ張られた状態等ということもできる。このようにすることで、より確実に、ハーネスHNが、透き間SK入り込むことや、前扉DUと筐体本体KMとの間に挟まれて傷付いたりするのを防止できる。

40

【1196】

なお、ハーネスHNの長さを、前扉DUを閉じた状態の遊技機を正面視した場合における左側の部分（左辺部）の上部からは、クランプ（ここでは第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12）から脱落したハーネスHNの一部が透き間SKに到達するが、ハーネスHNのそれ以外の部分は、上述のように「最大限引っ張られた場合」に、透き間SKに到達しない、といった長さに設定することも可能である。また、この場合の

50

ハーネスHNの長さを、前扉DUを閉じた状態の遊技機を正面視した場合における右辺部からは、クランプ（ここでは第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12）から脱落したハーネスHNの一部が、上述のように「最大限引っ張られた場合」に、透き間SKに到達しない、といった長さに設定することが可能である。さらに、ハーネスHNの長さは、クランプ（ここでは第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12）からの脱落があった場合に、前扉DUを開いた状態でも、上述のように「最大限引っ張られた場合」に、透き間SKへ到達しないように設定することが可能である。また、ハーネスHNの長さは、クランプ（ここでは第1クランプCP10、及び／又は、第2クランプCP12）からの脱落があった場合に、上述のように「最大限引っ張られた場合」であっても、筐体本体KMの下辺部にも到達しないように設定することが可能である。

10

【1197】

<サブ電断に係る処理1（デモ画面の非表示）>

通常は、所定時間遊技が進行していない場合などにデモ画面（待機デモ画面、待機デモ画像、デモ画像などと称することがある）が表示される場合がある。デモ画面が表示されるタイミングとしては、具体的には、全リールM50が停止して、遊技終了処理を実行した後の所定のタイミングから所定時間経過したときを挙げることができる。デモ画面としては、例えば、機種名や遊技機メーカー（販売会社を含む）名を表示する画面（表示画面）などを例示できる。図118（b）には、デモ画面の一例が示されているが、図118（b）では、機種名が「〇〇〇〇」の伏字により示されている。また、デモ画面としては、機種名の表示や、遊技機メーカー名の表示などの複数種類の表示をループさせるものも例示できる。なお、デモ画面の表示中に、遊技が進行されるようになると、デモ画面が終了し、画面表示が遊技中の表示に移行する。ここで、「遊技が進行していない」状況は、前述のようにリールM50が回転していない状況を含む。また、「遊技が進行していない」状況は、例えば、何らの入賞もなく1遊技が終了した後の状況であって、新たなベット操作が行われていないような状況（ベット数が0でベットを待っている状況）や、遊技が進行していない遊技待機の状況、などを含む。

20

【1198】

上述のような遊技が進行していない遊技待機の状況（デモ画面の表示前の状況を含む）で、副制御基板Sに電断（電源断）が発生することが想定される。副制御基板Sに電断が発生する状況としては、遊技機全体への電源供給は行われているが、副制御基板Sへの電源供給が断たれる状況などが想定される。具体的には、遊技機における他の部分（主制御基板Mなど）への電源供給が行われている状況で、副制御基板Sに関し、例えば、ハーネス抜け、ハーネス断線、落雷、及び、ノイズの影響による瞬停などが発生した状況を挙げることができる。

30

【1199】

これらの電断のうち、ここでは、副制御基板Sへの電源供給が断たれる状況を想定する。具体的には、例えば、遊技機における他の部分（主制御基板Mなど）への電源供給が行われている状況で、副制御基板Sに電源を供給している他の基板（例えば電源基板E）と、副制御基板Sとの間のハーネス（副制御基板電源ハーネス）の少なくとも一端が抜かれた場合（コネクタが分離された場合）を考えることができる。以下ではこのような電断を「サブ電断」、「所定の電断」、又は、「所定電断」と称する。そして、遊技待機中に副制御基板Sが所定電断し、その後に復帰（電源断復帰、電源復帰）した場合、遊技が進行していない状況で、通常であればデモ画面（図118（b））に移行する時間（所定時間）が経過しても、デモ画面への移行を行わないようにする。

40

【1200】

図118（a）は、電源復帰後、デモ画面（図118（b））に移行する前に表示される電断情報画面（「電源投入画面」、「電源投入表示」、「復帰画面」などともいう）の表示例を示している。図118（a）の例では、全体的に黒い画面（黒画面）が表示され、黒画面上に「電源が投入されました」の文字表示が行われている。これ以外に、「電源投入中」や「電源投入処理中」などの文字表示を行うことも可能である。さらに、図11

50

8 (a) に示すように、メータ表示やインジケータ表示などを単独で、又は、文字表示とともに、メータやインジケータの指示値が 0 ~ 100 % へ増えるにしたがい、電断復帰（ここでは副制御基板 S の電断復帰）の処理の終了が近づいていると遊技者等に思わせ得るようにすることも可能である。

【1201】

所定電断以外の電断が発生した状況（非所定電断の状況）であれば、電断復帰が行われる際に、電断復帰のための処理が終わり、遊技が進行していない状況で所定時間が経過すると、画面表示は、図 118 (a) の電断情報画面から、図 118 (b) に示すデモ画面へ移行する。非所定電断の状況とは、具体的には、電源ボタン（電源スイッチ E10）が OFF になった後に電源ボタン（電源スイッチ E10）が ON になった状況や、遊技機の主電源（遊技機全体の電源）が OFF になった後に主電源が ON となった状況である。デモ画面への移行前には、電断情報画面とは異なる画面表示が行われる。「電断情報画面とは異なる画面表示」としては、例えば、遊技機の機種で採用されたモチーフに係る登場人物や場面の表示（いわゆる通常画面や通常演出ステージの表示）を、例として挙げることができる。以下では、「電断情報画面とは異なる画面表示」である通常画面や通常演出ステージの表示を「通常画面」と称する。これに対し、所定電断の状況であれば、非所定電断の場合であればデモ画面が表示される所定時間が経過しても、デモ画面（図 118 (b)）への移行が行われず、通常画面の表示が継続する。なお、図 118 (a) に示す電断情報画面（又は「通常画面」）の表示が継続するようにしてもよい。例えば、図 118 (a) の例のようなメータ表示やインジケータ表示が 100 % のまま維持されている画面表示を行うことが可能である。また、デモ画面への移行が行われないようにするために、サブ電断からの復帰後にデモ画面に移行させるためのタイマ値を更新しないようにすることも可能である。

【1202】

以上のように構成することで、所定電断が発生した場合には、電断復帰後に、遊技が進行していない状況で所定時間が経過しても、副制御基板 S に係る電断情報画面（図 118 (a)）や通常画面を残すことができる。このような制御態様は、換言すれば、主制御基板 M と副制御基板 S とが、電源の立ち上がりに関して、同時に立ち上がる場合と、主制御基板 M は継続して立ち上がったままの状況で副制御基板 S だけが立ち上がる場合とで異なるものであるといえる。

【1203】

副制御基板 S による電断（所定電断）の検知は、例えば、副制御基板 S が、電源ハーネスが抜かれたのを検知することにより行うことが可能である。電源ハーネスが抜かれたことの検知は、例えば、電源の波形のエッジ（電断時の切り替わり）や、電源の波形の立ち上がりを検知し、その旨の情報（副制御基板電断情報）を記憶し、情報バックアップを行うことにより可能となる。そして、バックアップされた情報の状態（「1」か「0」かの状態）を確認し、所定電断があった旨の情報が記憶されていれば、上述のように、デモ画面（図 118 (b)）への移行を行わず、電断情報画面（図 118 (a)）を継続する制御を行う。

【1204】

また、副制御基板 S による電断復帰の検知は、例えば、副制御基板 S が、電源ハーネスが接続されたのを検知することにより行うことが可能である。この場合も、所定電断の検知時と同様に、例えば、電源の波形のエッジや、電源の波形の立ち上がりを検知することにより可能となる。また、所定の信号レベルが得られているか否かを検知すること等により、電源ハーネスが接続されたことの検知を行ってもよい。

【1205】

<サブ電断に係る処理 2（所定画面の非表示）>

通常は、遊技機の電源投入時に、表示装置（ここでは演出表示装置 S40）に、前述したような電断情報画面を実行した後、所定の画面を表示することが可能となっている。電断情報画面としては、図 118 (a) の例のように、例えば、黒画面上に文字表示やメー

タ表示などの表示が行われる。さらに、前述したように、所定時間が経過して電断情報画面からデモ画面（図118（b））の表示が行われたり、デモ画面（図118（b））への移行前に、前述したような通常画面（図示略）の表示が行われたりする。

【1206】

しかし、前述の所定電断が発生し、その後、副制御基板Sが電断復帰した場合、演出表示装置S40で電断情報画面の表示が行われた後、その後の所定の画面が表示されないようにする。ここでいう「所定の画面」には、通常画面やデモ画面がある。通常画面は、前述のように、電断情報画面の後、デモ画面に移行する前に表示される画面である。また、例えば、ベットボタンの操作などのような遊技の進行に係る入力があった場合に、異なる内容の表示に切り替わることがある。ただし、このように、遊技の進行に係る入力があった後の表示画面は、ここでいう「通常画面」には含めないことも可能である。

10

【1207】

このようにすることで、所定電断が発生した場合には、電断復帰後に、遊技が進行していない状況で所定時間が経過しても、副制御基板Sに係る電断情報画面（図118（a））を残すことができる。このような制御態様も、換言すれば、主制御基板Mと副制御基板Sとが、電源の立ち上がりに関して、同時に立ち上がる場合と、主制御基板Mは継続して立ち上がったままの状況で副制御基板Sだけが立ち上がる場合とで異なるものであるといえる。

【1208】

なお、所定の画面として、通常画面と、その後のデモ画面を例に挙げたが、例えば、デモ画面のみを所定の画面としてもよい。この場合は、電断情報画面（図118（a））の後、通常画面（図示略）には移行するが、デモ画面（図118（b））へは移行しない、という態様で画面表示が行われることとなる。そして、この場合は、所定電断が発生した場合には、電断復帰後に、通常画面を残すことができる。また、デモ画面の後に通常画面の表示が行われるようにしてもよい。この場合（所定電断からの電断復帰でない場合）は、通常画面→デモ画面→通常画面→遊技中画面、などのように画面表示が移行することとなる。

20

【1209】

＜サブ電断に係る処理3（ドア開放音の停止）＞

遊技の進行が可能な所定の遊技状態で、前扉DUを開くと、ドア開放エラーとなる（ドア開放エラーが発生する）。ここでいう「所定の遊技状態」としては、例えば、ベット待ちの状態や、リール回転中の状態等がある。この場合、スピーカS20から前扉DUが開放した旨の音声（ドア開放音）を出力させる。ドア開放音としては、例えば、「ピーピー」などと表現できるような効果音等や、「ドアが開いています」といった音声等がある。さらに、ドア開放音出力されている状況で、所定電断が発生すると、ドア開放音を停止し、ドア開放音出力されなくなるようにする。その後、ドア開放状態（前扉DUが開放している状態）で、電断復帰があると、ドア開放音が再度出力される。再度の出力の際には、例えば、音声の文言の最初から再開することや、音楽の旋律の先頭から再開することなどが考えられる。また、停止時における文言や、旋律の途中から継続性をもって再開することも考えられる。

30

40

【1210】

このようにすることで、所定電断からの復帰後もドア開放（ドア開放エラー）を報知できる。なお、ドア開放の検知は、主制御基板Mにおいて行ってもよく、副制御基板Sにおいて行ってもよい。または、主制御基板Mと副制御基板Sの両方で行えるようになっていてもよい。副制御基板Sにおいて、電断復帰時にドア開放の検知を行うために、ドア開放エラーの有無の検知結果を利用することが可能である。

【1211】

さらに、所定電断からの電断復帰時に、ドア開放音の出力は再開するが、演出表示装置S40の表示は再開しない、といったことも可能である。例えば、所定電断の発生前には、「扉が開いています」のようなドア開放があった旨の文字表示を行っているが、電断復

50

帰時には、このような表示を行わないことが可能である。この場合、画面表示を黒表示のみにし、ドア開放の旨の文字表示等は行わないことや、電断情報画面の表示後にデモ画面に移行しない、デモ画面までは移行するがその後の画面（例えば、通常画面）には移行しない、といった制御態様を採用することが可能である。さらに、電断情報画面、通常画面、デモ画面のいずれの場合も、ドア開放エラーが発生している旨の文字表示や記号表示等を重畳表示することも可能である。

【1212】

＜サブ電断に係る処理4（エラーの選択的報知）＞

エラーが発生した場合には、当該エラーに対応したエラー報知を行う。エラー報知には、図1に示す払出数表示装置D270を用いて行われるものや、スピーカS20を用いて行われるもの（音声報知）、及び、演出表示装置S40を用いて行われるもの（液晶報知）などを含む。払出数表示装置D270で行われるエラー報知は、主に、主制御基板Mの制御に係るエラーである。払出数表示装置D270で行われるエラー報知は、2桁の7セグメントディスプレイに、例えば、「DO」（ドア開放エラーの意味）や、「E1」（投入メダル滞留エラーの意味）といった文字等を表示して行われる。ここでは、音声報知、及び、液晶報知を「サブ報知」と称することとする。また、払出数表示装置D270で行われるエラー報知を、「メイン報知」と称することとする。払出数表示装置D270で報知されるエラーには、復帰可能エラーが含まれる。また、メダルレスの回胴式遊技機の場合は、復帰可能エラーとして、主制御手段（主制御基板など）が、メダル数制御手段（払出制御基板H）との通信ができないことを検知すると発生するメダル数制御通信エラーや、メダル数制御手段が、主制御手段との通信ができないことを検知すると発生する主制御通信エラー等がある。

10

20

【1213】

エラー報知中に、所定電断が発生すると、サブ報知は行われなくする。または、メイン報知及びサブ報知が行われている場合には、サブ報知が停止されるが、メイン報知は継続するようにする。その後、電断復帰が行われると、サブ報知は復帰しないが（再開しないが）、所定電断に関する報知（サブ電断に関する報知）とメイン報知が実行されるようにする。換言すれば、所定電断からの電断復帰が行われた状況下において、所定電断の発生前に発生していたエラーのうち、一部のエラー報知（メイン報知など）が行われつつ他のエラー報知（サブ報知など）が行われなくなり、その後、一部のエラー報知が行われつつ一部のエラー報知とも他のエラー報知とも異なる別のエラー報知（所定電断に関する報知（サブ電断に関する報知）など）が行われる。ここでいう「所定電断に関する報知」には、副制御基板Sにより制御され、前述の所定電断からの電断復帰時に、演出表示装置S40に電断情報画面等を表示することによる報知や、スピーカS20を用いて音声を出力することによる報知、及び／又は、各種ランプを点灯や点滅させることによる報知などがある。また、リセットスイッチの操作により、メインエラー（ここではメイン報知されるエラー）を解除し、メイン報知を終了することは可能であるが、所定電断に係るエラー（サブ電断エラー）が解除されず継続するようにする。そして、サブ電断エラーの報知中であっても、メインエラーを解除可能とする。なお、この場合は、「所定電断に関する報知」が所定時間行われた後に、サブ電断エラーをサブ報知する制御が行われることが前提となっている。

30

40

【1214】

ここでは、メインエラーとしては、遊技の進行や計数に係る、投入要求エラー、払い出し要求エラー、精算（ベット数をもとに戻す）要求エラー、VLエラー（貸し出しユニットとの通信エラー）などを挙げることができる。これらのエラーは、前述したメダルレスの回胴式遊技機（メダルレス遊技機、遊技機、管理遊技機、封入式遊技機と称することがある）において検出が行われるエラーである。メインエラーは、リセットスイッチの操作によって解除できるようにしたエラーであるといえる。また、リセットスイッチは、メインエラーの解除スイッチであるといえる。

【1215】

50

<サブ電断に係る処理 5（電断復帰直後の遊技音出力）>

遊技中には、各種の遊技音がスピーカ S 2 0 から出力される。遊技音には、ベットが行われた場合の音、スタートレバー D 5 0 が操作された場合の操作レバー音、停止ボタン D 4 0 が操作された場合の停止音がある。所定電断が発生した場合、所定電断中には、遊技音は出力されない。さらに、所定電断の後の電断復帰の直後は、遊技音の出力が行われる。しかし、電断復帰から所定時間が経過し、電断復帰の処理が終わった後には、遊技音が出力されないようにする。このようにすることで、所定電断からの電断復帰直後には、遊技音を出力する遊技を、遊技者に楽しませることが可能となる。つまり、所定電断が発生しても、主制御基板 M の制御は通常と同様に行うことが可能であるから、所定電断からの電断復帰直後に遊技音の出力を可能とすることにより、遊技者に楽しませることが可能な時間を、可能な限り長く確保することができる。そして、サブ（副制御基板 S）の電断復帰に関する所定の処理（電源投入処理やその後の初期設定処理等）が終わった後には、遊技音が出力されず、所定電断に係るエラー（サブ電断エラー）の報知を行うことが可能となる。

10

【1 2 1 6】

なお、上述の遊技音が出力されない（出力が禁止されている）状況における演出表示装置 S 4 0 の表示内容は、電断情報画面であっても、通常画面（遊技進行に係る入力があった場合の画面を含む）であってもよい。また、エラーが発生したことを報知する表示画面であってもよい。

20

【1 2 1 7】

<サブ電断に係る処理 6（メイン操作の無効化）>

所定電断が発生した場合におけるメイン操作に関して、以下のような制御態様を採用することが可能である。サブ電断中（所定電断中）はメイン操作が有効であるようにする。さらに、サブ電断復帰（所定電断復帰）から所定期間内はメイン操作が無効であるが、サブ電断復帰から所定期間後はメイン操作が有効であるようにする。ここで言う「メイン操作」は、ベットボタン操作、スタートレバー操作、リール停止操作等の遊技の進行に係る操作を意味しており、遊技進行に関する操作とも言える。

【1 2 1 8】

このようにすることで、サブ電断復帰中にメイン操作があっても遊技が進行しないようにすることができる。なお、リール回転中にサブ電断が発生した状況では、リール M 5 0 の回転を維持し、サブ電断復帰後から所定期間が経過する前は、リール M 5 0 の回転が停止するようにすることも可能である。また、遊技が進行しないようにするために、副制御基板 S の電断復帰を主制御基板 M が検知してメイン操作を無効にする制御を行うことや、副制御基板 S の電断復帰中に主制御基板 M に通常の電源供給が行われなくようにすること（電力が不足するようにすること）、などが可能である。また、主制御基板 M が副制御基板 S の電断復帰を検知するために、副制御基板 S から主制御基板 M へ信号（コマンド）を送信することや、副制御基板 S の電断復帰により主制御基板 M に係る電源供給が通常の状態に戻る（復帰する）ようにすること、などが可能である。

30

【1 2 1 9】

<リール関連機器に係る異物対策 1（透き間の大きさ）>

前述したように、リールユニットは、リール M 5 0、リール M 5 0 の駆動源（回胴モータ K 1 0（図 1 2）として用いられるステッピングモータ等）、及び、リールバックランプ等を備えている。リールバックランプは、リール（リールユニット）の内側に設けられており、リール M 5 0（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）の裏側からリール M 5 0 を照らすことが可能となっている。リール M 5 0 における各リール（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）の外周上（リール帯 M O 上）には複数（例えば 2 0 個）の図柄（図 6）が描かれている。

40

【1 2 2 0】

図 1 1 9 は、リールユニット（符号「R U」を付す）を斜めから見た状態を概略的に示している。図 1 2 0（a）は、リール M 5 0 を側面から見た状態を概略的に示している。

50

リールM50の内側に、リールバックランプ（符号「RB」を付す）が配置されている。リールバックランプRBは、バックランプハウジング（筐体、ケーシング）BHを有している。バックランプハウジングBHは、図120（a）に示すように、複数のリブ部BH10を有しており、リブ部BH10の間には透き間BH20、BH30、BH40が形成されている。図119では、リブ部BH10や、透き間BH20、BH30、BH40の図示は省略されている。図119に示すように、バックランプハウジングBHは、リールM50における回転軸の軸心方向における一方の端部から他方の端部に亘って、リールM50に面している。そして、バックランプハウジングBHの左右（遊技機正面から見て左右）の端部は、左リールM51、中リールM52、右リールM53を回転軸の軸心方向に並べて構成されたリールM50の左右の端部に面している。

10

【1221】

図119及び図120（a）に示すように、リールM50（左リールM51、中リールM52、右リールM53）の側面には、ガード部GDが環状に設けられている。ガード部GDは、各リール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）において、幅方向（回転軸の軸心方向）の両側面（両端部）に、周方向（回転方向）の全体（全周）に亘り、環状に形成されている。ガード部GDは、リールM50の半径方向（軸心に向かう方向）に延びる壁を構成している。ガード部GDにより形成される壁の高さGD10は、各リール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）の全周に亘り一定である。さらに、ガード部GDにより形成される壁の高さGD10は、例えば、メダル（遊技メダル）の厚みM2（例えば、直径が25mmの場合は1.6mm、直径が30mmの場合は1.7mm）の数枚分（1～6枚程度分など）となっている。具体的には、ガード部GDにより形成される壁の高さGD10を、1.6mm（1.6mm×1枚）～10.2mm（1.7mm×6枚）の範囲内とすることが考えられる。また、メダルの厚みM2を基準とすることに限らず、例えば、遊技球（パチンコ玉）の直径（11mm）を基準とし、ガード部GDにより形成される壁の高さGD10を、11mm以上とすることなども考えられる。

20

【1222】

図120（a）に示すように、ガード部GDは、バックランプハウジングBHの透き間BH20、BH30、BH40に対向している。透き間BH20、BH30、BH40は、リールM50の側面越しに露出している。図120（a）に示すように、リールM50を側面から見た状況において、バックランプハウジングBHにおける透き間BH20、BH30、BH40の一部は、ガード部GDにより隠されるが、透き間BH20、BH30、BH40の他の部分は、ガード部GDにより隠されず露出する。図120（a）においては、透き間BH20、BH30、BH40の露出する部分の幅（露出幅）が符号BW10により示されている。この露出幅BW10は、バックランプハウジングBHの透き間BH20、BH30、BH40において、リールM50の半径方向に一致する方向の幅である。また、図120（a）に符号BW20、BW30、BW40で示すのは、個々の透き間BH20、BH30、BH40の長さ（露出長さ）である。図120（a）に示すように、リールM50を側面から見た状況では、透き間BH20、BH30、BH40が、露出幅BW10と、露出長さBW20、BW30、BW40を有するほぼ矩形（あるいは台形、円弧状などともいえる）の穴として視認できる。露出長さBW20、BW30、BW40は、透き間BH20、BH30、BH40の形状が、例えば台形である場合などには、測定する位置より変化し得る。そのような場合は、例えば、台形の上底の長さ、下底の長さ、又は、上底と下底の間の位置（任意の位置や中間の位置など）の長さ、などを露出長さBW20、BW30、BW40として定めることが可能である。

30

40

【1223】

ここで、図120（a）の例では、複数（ここでは3個）の透き間BH20、BH30、BH40について、露出幅BW10は共通であり、露出長さ（リールM50の円周方向に対応する長さ、符号省略）は異なっている。図120（a）では、1つの透き間（透き間BH20）についてのみ露出幅BW10の符号が示されている。しかし、これに限られ

50

ず、例えば、露出幅 $BW10$ が、透き間 $BH20$ 、 $BH30$ 、 $BH40$ の間で異なってもよい。この場合、最も大きい露出幅を、露出幅 $BW10$ とすることが可能である。また、透き間 $BH20$ 、 $BH30$ 、 $BH40$ における露出長さ（リール $M50$ の円周方向に対応する長さ、符号省略）が共通であってもよい。

【1224】

遊技機においては、各種の部品の取り付けのため、例えば、図120（b）に示したようなネジ（以下では、先の説明と同様に「ネジ SC 」と称する）が多数用いられている。リールユニット RU について用いられるネジ SC は、例えば「リールビス」、「リールネジ」等と称することが可能である。露出幅 BW は、ネジ SC の各部の寸法との間で、以下のような関係が成り立つように構成されている。例えば、ネジ SC の長手方向の寸法である C （長さ C ）と、露出幅 $BW10$ と、ネジ SC の頭部の寸法である E （幅 E ）は、 $BW < C$ 、且つ、 $BW > E$ の関係が成り立つように構成されている。ネジの幅 E の具体例は、例えば 4 mm であり、長さ C の具体例は、例えば 10 mm である。

10

【1225】

このような関係となるよう構成することで、露出幅 $BW10$ は、ネジ SC よりも狭いものとなる。このため、何らかの理由でネジ SC が外れた場合、外れたネジ SC （異物）が、透き間 $BH20$ 、 $BH30$ 、 $BH40$ を通過して、バックランプハウジング BH の内側に入ってしまうのを防止できる。この結果、ネジ SC が、リールバックランプの光を遮り、リール $M50$ にネジ SC の影が映ることなどを防止できる。ここで、図119に斜線を引いて仮想的に示す領域 $RB10$ は、リールバックランプの光が照射される領域である。また、上述のような構成とすることにより、バックランプハウジング BH の透き間 $BH20$ 、 $BH30$ 、 $BH40$ が、リール $M50$ の内側に、空間的に繋がっている場合には、ネジ SC が、透き間 $BH20$ 、 $BH30$ 、 $BH40$ の内部に落下するのを防止できる。

20

【1226】

なお、露出幅 $BW10$ の大きさは、ネジ SC だけでなく、他の異物となり得る物品を想定して決めることが可能である。異物となり得る物品としては、ネジ SC のほか、遊技メダルや、設定キースイッチ $M20$ （不図示）に差し込んで使用される設定キーなどを挙げることができる。露出幅 $BW10$ の大きさを、これらの物品の厚みや太さ（最大厚みや最大太さ）等よりも小さくすることが考えられる。また、露出幅 $BW10$ の大きさを、遊技メダルや、設定キースイッチ $M20$ の厚みや太さ（最大厚みや最大太さ）等よりも大きくし、これらの物品は侵入し得るようにしてもよい。

30

【1227】

＜リール関連機器に係る異物対策2（摩擦抵抗）＞

リールユニット RU の内部にネジ SC が入り込んだ場合を想定する。リール $M50$ にはガード部 GD が設けられている。このため、例えば図121に示すように、リール $M50$ （左リール $M51$ 、中リール $M52$ 、右リール $M53$ ）の内側にネジ SC 等が落下した場合、リール $M50$ が回転しても、ガード部 GD により阻止され、ネジ SC がリール $M50$ の外側に排出され難い場合があると考えられる。図121は、リール $M50$ （ここでは左リール $M51$ 、中リール $M52$ 、右リール $M53$ のいずれか）におけるリールテープの装着状態を示している。リール $M50$ は、2つのリング部 $LG10$ を複数のリブ $LG20$ で繋ぎ合わせた骨組みに、帯状のリールテープ $LG30$ を装着することにより形成されている。ガード部 GD は、リング部 $LG10$ に、半径方向の中心（回転軸の軸心方向）に向かって突出するよう形成されている。

40

【1228】

リール $M50$ の内側にネジ SC が落下した場合、リール $M50$ の底部を構成するリールテープ $LG30$ の内側面（裏面） $LG40$ に、ネジ SC が載ることとなる。リール $M50$ が回転すると、ネジ SC に、回転するリール $M50$ の力（遠心力や周方向に移動させようとする力など）が伝わる。リールテープ $LG30$ の内側面 $LG40$ における摩擦抵抗（摩擦係数、表面粗さ等でもよい）が大きいと、リールテープ $LG30$ の内側面 $LG40$ とネジ SC との間に摩擦力が発生し易い。このため、リール $M50$ の回転に伴い、ネジ SC も

50

、リールM50の最下点（最下部に位置する点）から、リールテープLG30の内側面LG40に沿って上方へ移動する。ネジSCの移動を防ぐため、リールテープLG30の内側面LG40は滑らかに加工されており、摩擦抵抗が十分に低く（小さく）抑えられている。

【1229】

以上説明したように構成することで、リールユニットRUの内部にネジSCが入り込んでも、ガード部GDにより、外側に出ないように堰き止められる。さらに、リールテープLG30の内側面LG40の摩擦抵抗が十分に小さいので、リールM50が回転しても、リールテープLG30の内側面LG40とネジSCとの間に滑りが生じ、ネジSCはリールM50の下部に留まる。この結果、リールM50の内側にネジSCが落下したとしても、ネジSCがリール窓D160（図1、図2）の位置まで上がってくることを防止でき、遊技者に気付かせないようにすることができる。

10

【1230】

なお、リールテープLG30の内側面LG40と、外側面LG50との間の摩擦抵抗の関係を定めておくことが有効である。例えば、内側面LG40の摩擦抵抗を、外側面LG50の摩擦抵抗よりも大きくする。さらに、内側面LG40の摩擦抵抗を、リールM50の回転時に、ネジSCとの間で、或る程度の大きさの音（異音、摩擦音）が生じるようにする。この音の大きさは、以下のように定めることができる。例えば、前扉DUに係る状況を「状況1」と定め、所定の演出音の出力の有無に係る状況を「状況2」と定める。そして、遊技機の内部を点検する管理者等に摩擦音が聞こえるか否か（認識可能か否か）の結果を「結果」と定める。「所定の演出音」としては、例えば、所定の遊技状態（AT（アシストタイム）、CZ（チャンスゾーン）、又は、通常の各遊技状態など）における所定のBGMや、所定の操作手段（スタートレバーD50、停止ボタンD40、ベットボタンD220、精算ボタンD60など）の操作があると出力される所定の操作音、等を挙げることができる。そして、状況1が、前扉DUの閉鎖時となっており、状況2が所定の演出音の出力時となっている場合、結果については、摩擦音が演出音によりかき消されて、管理者等に摩擦音が認識困難になる（認識できない）ようにする。しかし、状況1が、前扉DUの開放時となっており、状況2が所定の演出音の出力時となっている場合、結果については、耳を澄ませば、管理者等に摩擦音が認識可能となる（認識できる）ようにする。これらのいずれの組み合わせの場合も、遊技者には演出音によりかき消されて摩擦音が聞こえない（認識可能でない）ようにする。このようにすることで、前扉DUの閉鎖時（扉閉鎖時）に演出音が出力されているときは、摩擦音は遊技者が認識困難なため、遊技の進行を妨げないようにすることができ、扉開放時に演出音が出力されているときは、摩擦音は管理者が認識可能なため、外れたネジSCの発見が可能となり、メンテナンス性を高めることができる。

20

30

【1231】

なお、「状況1」に関し扉閉鎖中であって、「状況2」に関し演出音出力される状況において、「結果」として、管理者等に摩擦音が聞こえる場合があってもよい。そして、「状況1」、「状況2」、及び、「結果」の組み合わせの態様として、以下の各態様を挙げることができる。

40

- （1）扉閉鎖中かつ演出音出力で、摩擦音が聞こえる。
- （2）扉閉鎖中かつ演出音なしで、摩擦音が聞こえる。
- （3）扉開放中かつ演出音出力で、摩擦音が聞こえる。
- （4）扉開放中かつ演出音なしで、摩擦音が聞こえる。
- （5）扉閉鎖中かつ演出音出力で、摩擦音が聞こえない。
- （6）扉閉鎖中かつ演出音なしで、摩擦音が聞こえない。
- （7）扉開放中かつ演出音出力で、摩擦音が聞こえない。
- （8）扉開放中かつ演出音なしで、摩擦音が聞こえない。

ここでいう「扉開放中」は前扉DUが開放していることを意味しており、「扉閉鎖中」は前扉DUが閉鎖していることを意味している。また、「演出音出力」は、演出音出力

50

されている演出音ありの状況を意味しており、「演出音なし」は、演出音が出力されていない状況を意味している。そして、演出音（少なくとも一部の演出音）の大きさと、リールM50に係る摩擦抵抗との関係により、これらのいずれの態様に設定することも可能である。

【1232】

また、リールユニットRU内に落下し得る物品としては、ネジSCのほか、遊技メダルや設定キーなどを挙げることができる。リールテープLG30の内側面LG40は、摩擦抵抗が、これらの物品（異物）との間に十分な滑りを発生させ、これらの物品を、リール窓D160（図1、図2）の高さまで到達させない程度となるように加工されている。

【1233】

＜リール関連機器に係る異物対策3（異物の移動距離）＞

リールテープLG30の内側面LG40における摩擦抵抗について、ネジSC等の異物の移動距離を基準にして決定することが可能である。例えば、リールユニットRUにネジSC等が入り込んだままリールが回転しても、バックランプの照射範囲まで移動しないようにすることが考えられる。この場合、内側面LG40における摩擦抵抗を、使用されているネジSC等との間に十分な滑りを発生させ、リールM50の回転速度が、回転開始、加速、定速のいずれの段階にあっても、ネジSCを、リール窓D160（図1、図2）の高さまで到達させない程度とすることが考えられる。より具体的には、リールテープLG30の内側面LG40の摩擦抵抗が、リールM50の回転中におけるネジSCの移動量（複数回の実験における平均移動量）が、リールテープLG30に描かれた図柄を基準にして、例えば、図柄2つ分（2図柄分）以下となるように、リールテープLG30の加工を行う。この程度の移動量であれば、ネジSCがリール窓D160に到達するのを十分に防止できる。なお、「図柄2つ分」や「2図柄分」は、リールM50の円周の長さを図柄の数（例えば20）で割った長さ（円弧の長さ）であってもよい。また、円周方向において、隣り合った（連続した）2つの図柄の一方の端から他方の端までの長さ（円弧の長さ）であってもよい。また、或る一つの図柄の中心がリールM50の中心（回転軸）の直下にある状態で、ネジSCが、図柄2つ分手前側（前側）に移動したときに、「図柄2つ分」の移動があったとすることが可能である。また、或る一つの図柄の中心がリールM50の中心（回転軸）の直下にある状態で、ネジSCが、図柄2つ分手前側（前側）に移動したときでも、ネジSCは、バックランプの照射範囲の下端部に届かない（到達しない）。

【1234】

このようにすることで、ネジSCが、リールM50の回転に伴い、リール窓D160（図1、図2）の高さまで引っ張られて上昇しても、ネジSCは、バックランプの照射範囲の下端部に到達しない。したがって、ネジSC等自体が遊技者から見えたり、リールバックランプの光が当たったネジSC等の影がリールM50に映ったりすることを防止できる。そして、ネジSC等の異物がリールユニットRUに存在することを、遊技者に気付かせないようにすることができる。

【1235】

＜リール関連機器に係る異物対策4（異音の音量）＞

リールテープLG30の内側面LG40と、ネジSC等の擦れにより発生する音の音量について、基準を定めることが考えられる。例えば、ネジSC等の擦れにより発生する音の音量を、モータ駆動音（ここでは回胴モータK10の駆動音）の音量よりも小さくなるようにする。例えば、モータ駆動音の大きさが約80dBの場合、擦れにより発生する音の大きさを約70dBとする。このようにすることで、ネジSC等の異物がリールユニットRUに存在することを、遊技者に気付かせないようにすることができる。

【1236】

＜電源オン・オフに伴う発光制御1（停止ボタンランプ）＞

電源オン（電源投入）を行った際に、遊技者や遊技場の管理者が認識可能な前扉DUの発光装置（発光機器）のうち、どの発光装置をどのタイミングで発光させるかについて考えることができる。なお、種々の発光制御のより具体的な態様を検討するにあたり、こ

10

20

30

40

50

では、これまでに説明している内容と重複する部分も部分的に含まれる。このことは、本項以降に説明する発光制御と、これまでに説明した発光制御との重複部分についても同様である。ここでいう発光装置には、各種のランプ類や、表示装置（演出表示装置 S 4 0 など）を含むものとする。また、発光装置の発光は、継続的な点灯のほか、点滅も含むものとする。さらに、発光装置の発光色としては、例えば、白、赤、青等のように、種々の色を採用することが可能である。また、電源オン・オフに伴う発光制御に関する説明において、遊技者や遊技場の管理者に関し、特に区別しない場合には、両者を含む意味で「遊技者等」と称する場合がある。

【1237】

また、以降の各種の発光制御の説明においては、特に主要な構成の発光制御について説明するが、その他の構成の発光制御の態様（報知態様、非報知態様、有効態様、無効態様のいずれとするかなど）については、機能の発揮に支障がない範囲で適宜決めることや、他の発光制御の制御態様を組み合わせることが可能である。

【1238】

例えば、図 1 0 1 の例と同様に、電源スイッチ E 1 0 が操作され、遊技機 P の電源が投入された状況では、前扉 D U に設けられ、遊技者等が認識可能な各種の発光装置のうち、停止ボタンランプ S 6 0 を最初に発光させる。さらに、電源オフ（電断）の際には、前扉 D U における各種の発光装置のうち、停止ボタンランプ S 6 0 を最後に消灯させる。停止ボタン D 4 0（図 1）は、例えば、遊技機 P の前面中央部のように、遊技者等が認識し易く、操作し易い位置に設けられている。また、停止ボタン D 4 0 は、前方（斜め前方を含む）に突出するよう設けられている。このため、停止ボタンランプ S 6 0 を最初に発光させて、停止ボタン D 4 0 を内側から照らすようにすることにより（停止ボタン D 4 0 が光るようにすることにより）、遊技者等が、遊技機 P の電源が投入されたことを把握し易い。また、停止ボタンランプ S 6 0 は、遊技機 P が、停止ボタン D 4 0 によりリール M 5 0 を停止させることが可能であるように制御されている状況で、点灯している。このため、停止ボタンランプ S 6 0 が点灯している間は、停止ボタン D 4 0 が有効である。そして、停止ボタンランプ S 6 0 を最後に消灯させることにより、遊技者等に、停止ボタンランプ S 6 0 が、最後まで有効であることを認識させることが可能となる。

【1239】

なお、遊技機 P の電源が投入された状況で最初に発光させる停止ボタンランプ S 6 0 は、左停止ボタン D 4 1 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 と中停止ボタン D 4 2 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 と右停止ボタン D 4 3 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 とのいずれであってもよいし、左停止ボタン D 4 1 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 と中停止ボタン D 4 2 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 と右停止ボタン D 4 3 に対応した停止ボタンランプ S 6 0 とのうち、複数の停止ボタンランプ S 6 0 を同時に点灯させるようにしてもよい。

【1240】

また、リール M 5 0 が回転している状況で電断（電源断と称することがある）が発生した場合、電源投入時には、例えば、リール M 5 0 を低速な状態で動かしたり（回転させたり）、リール定速状態のリール駆動状態で回転させたりすることが可能である。このような状況で、電源投入時に最初に停止ボタンランプ S 6 0 を発光させることにより、遊技者等は、電源投入後、停止ボタン D 4 0 が有効であり、リール M 5 0 を停止させることが可能であることを迅速に認識できる。ここで、電源投入時にリール M 5 0 を回転させる制御は、主制御基板 M 及び副制御基板 S の何れで行うようにしてもよい。

【1241】

また、電源投入時（電源投入後と称することがある）において、前扉 D U に設けられた発光装置の中で最初に停止ボタンランプ S 6 0 を発光させることにより、演出表示装置 S 4 0 は、電源投入時には停止ボタンランプ S 6 0 よりも後に発光することとなる。なお、最初に停止ボタンランプ S 6 0 を発光させる態様は、必ずしも一番最初に発光させる態様に限定されるわけではない。一番最初ではなくても、例えば、遊技が可能となる前まで（

電源投入時処理の実行中)に発光させる態様などであってもよい。また、電断時(遊技機への電源供給が遮断された後と称することがある)に最後に停止ボタンランプS60を消灯させることにより、演出表示装置S40は、電断時には停止ボタンランプS60よりも先に消灯することとなる。したがって、遊技者等が、演出表示装置S40が発光しているのを視認できる間は、停止ボタンD40の操作が有効であることを認識できる。

【1242】

ここで、図122に示すのは、メダルレスの遊技機について電源投入した場合における、各種発光装置の発光順序の一例である。なお、メダルレスの遊技機は、これまでも説明しているように、物理的に実在する遊技メダルを用いずに遊技を行えるように構成されているが、実在の遊技メダルを用いない点を除いては、実在の遊技メダルを用いる遊技機と同様である。図122の例では、停止ボタンD40(停止ボタンランプS60)の赤色での発光が最初に行われている。停止ボタンランプS60の発光開始の後に各種の発光装置の発光が、順次時間差をもって開始されている。

10

【1243】

図122の例においては、各種のイベントが、単独で、又は、他のイベントとの組み合わせで発光を開始する。図122の例におけるイベントには、「停止ボタン(赤)」、「メダル数表示装置(テストパターン)」、「下パネル(白)」、「下パネル(赤)」、「枠ランプ(赤)」、「演出表示装置(復帰画面)」、「メダル数表示装置(持ちメダル数)」、「下パネル(白)」、「枠ランプ(白)」、「MAX(マックス)ベットランプ(白点灯)」、「演出表示装置(復帰画面消去)」、「サブ入力ボタン」、及び、「メニューボタン(赤点灯)」がある。

20

【1244】

これらのうち「停止ボタン(赤)」は、停止ボタンランプS60が赤色系の色で発光すること示している。「メダル数表示装置(テストパターン)」は、メダルレスの遊技機のメダル数表示装置が、例えば、全7セグメントディスプレイが「88888」などのようなテストパターンで表示(例えば点滅表示)されることを意味している。メダル数表示装置のテストパターンの詳細については、後述する<電源オン・オフに伴う発光制御3(メダル数表示装置)>の項で説明する。

【1245】

「下パネル(白)」は、下パネルD140が白色系の色で発光することを示している。「下パネル(赤)」は下パネルD140が赤色系の色で発光することを示しており、「枠ランプ(赤)」は、例えば、装飾ランプユニットD150やLEDランプユニットS10が赤色系の色で発光することを示している。「演出表示装置(復帰画面)」は、演出表示装置S40で復帰画面の表示が行われることを示している。「メダル数表示装置(持ちメダル数)」は、メダル数表示装置において、テストパターンではなく、遊技者が保有しているメダル数(持ちメダルの数、総得点)が表示されることを示している。

30

【1246】

「下パネル(白)」は前述したのと同様であり、「枠ランプ(白)」は、例えば、装飾ランプユニットD150やLEDランプユニットS10等が白色系の色で発光することを示している。「MAX(マックス)ベットランプ(白点灯)」は、マックスベットランプ(マックスベットボタンランプ)が白色系の色で発光することを示している。「演出表示装置(復帰画面消去)」は、演出表示装置S40で復帰画面の表示が消去されて、次段階の表示(通常画面やデモ画面など)の表示が行われることを示している。

40

【1247】

「サブ入力ボタン」は、サブ入力ボタンSBが点灯することを示しており、「メニューボタン(赤点灯)」は、メニュー画面の表示のために操作されるメニューボタン(例えば、十字キーSB2の左右のキーなど)が赤色系の色で発光することを示している。例えば、サブ入力ボタンSBを、サブボタンの操作を伴う演出(サブボタン入力演出)が実行されていない状況で操作することでメニュー表示が行われるようになっている場合には、メニューボタンの設置を省略できる。

50

【1248】

図122の例では、電源投入から5.58秒後に「停止ボタン（赤）」が開始され、同じく電源投入から5.95秒後に「メダル数表示装置（テストパターン）」が開始されている。さらに、電源投入から7.05秒後に「下パネル（白）」が開始され、同じく電源投入から7.09秒後に「下パネル（赤）」、「枠ランプ（赤）」、及び、「演出表示装置S40（復帰画面）」が開始されている。

【1249】

電源投入から7.75秒後に「メダル数表示装置（持ちメダル数）」が開始され、同じく電源投入から15.18秒後に、「下パネル（白）」、「枠ランプ（白）」、及び、「MAX（マックス）ベットランプ（白点灯）」が開始されている。電源投入から15.28秒後には「演出表示装置（復帰画面消去）」が開始されている。そして、電源投入から15.52秒後には「サブ入力ボタン」が開始されている。なお、図122では、メニューボタンが設けられた場合に、電源投入から16.92秒後に「メニューボタン（赤点灯）」を開始する例が示されている。

【1250】

図122の例では、「停止ボタン（赤）」と「メダル数表示装置（テストパターン）」との時間差は0.37秒であり、「メダル数表示装置（テストパターン）」と「下パネル（白）」の時間差は1.10秒である。また、「下パネル（白）」と、「下パネル（赤）」、「枠ランプ（赤）」、及び、「演出表示装置（復帰画面）」との時間差は0.04秒であり、「下パネル（赤）」、「枠ランプ（赤）」、及び、「演出表示装置（復帰画面）」と、「メダル数表示装置（持ちメダル数）」との時間差は0.66秒である。

【1251】

「メダル数表示装置（持ちメダル数）」と「下パネル（白）」、「枠ランプ（白）」、及び、「MAX（マックス）ベットランプ（白点灯）」との時間差は7.43秒であり、「下パネル（白）」、「枠ランプ（白）」、及び、「MAX（マックス）ベットランプ（白点灯）」と、「演出表示装置（復帰画面消去）」との時間差は0.10秒である。「演出表示装置（復帰画面消去）」と、「サブ入力ボタン」の時間差は、0.24秒であり、「サブ入力ボタン」と「メニューボタン（赤点灯）」との時間差は1.40秒である。

【1252】

図122の例のように、「停止ボタン（赤）」を最初に開始することにより、前述したような各種の効果が奏される。なお、発光装置については、図122に挙げられているものに限定されず、例えば、リプレイ時であることを示す発光装置や、リールバックランプRBなどの発光装置と、停止ボタンランプ等との関係を定めることも可能である。また、発光装置は、主制御基板Mで制御されるものと副制御基板Sで制御されるものが混在していてもよい。

【1253】

また、図示は省略するが、例えば、発光装置の点灯制御の順番は、図122の例以外にも種々な態様を採用することができる。例えば、「停止ボタン」→「演出表示装置（白画面表示）」→「リールバックランプ」及び「下パネル」→「メダル数表示装置（持ちメダル数）」→「MAX（マックス）ベットランプ」→「演出表示装置（復帰画面）」→「演出表示装置（復帰画面消去）」+「リールバックランプによるデモパターン点灯」+「枠ランプ」といった順序での発光装置の点灯制御を行うことも可能である。このようにすることで、多様性をもって、停止ボタンを最初に発光させることが可能となる。

【1254】

<電源オン・オフに伴う発光制御2（演出表示装置）>

電源オン（電源投入）を行った際に、演出表示装置S40に、どのような画像をどのような順番で表示するかを考えることができる。例えば、図123に左から順に示すように、電源投入時に、演出表示装置S40に第1A画像（暗い画像など）が表示され（同図（b））、その後、MAXベットランプ（マックスベットランプ、マックスベットボタンランプ）の点灯後に（同図（c））、演出表示装置S40に第2A画像（通常画面又はデモ

画面など）が表示されるようにする（同図（d））。

【1255】

ここで、図に関して、遊技機Pの構成として、図101と同様の構成が適用されている。この点は、以降の図においても同様であるが、図101に対して付加された構成（メダル数表示装置、計数ボタン、精算ボタンなど）については名称が示されている。また、図123（b）に示す第1A画像は黒の画像である。第1A画像の表示は、演出表示装置S40の電源をオンした状態で（演出表示装置S40の通電状態）で、例えば画面全体に黒色の表示を行うことにより実行される。第1A画像としては、黒色の表示のみの画像（例えば、ブラックアウトを表す画像など）や、黒色の背景に、電源投入時であることを示す文字が重畳された表示等を例示できる。黒色の背景に電源投入時であることを示す文字が重畳された表示としては、例えば、図118（a）を援用して示す電断情報画面を例示できる。図123（a）における演出表示装置S40は、図中では黒色で示されていないが、電源投入されていない状態にあり、黒く視認される状態となっている。ただし、図123（a）、（b）における演出表示装置S40について、互いに黒色の状態であっても、同図（a）は電源投入されていないことによる黒色であり、同図（b）は画像として表示され、演出表示装置S40のバックライトで照らされている黒色である。したがって、視認した場合に、互いに見分けがつく黒色となっている。

10

【1256】

これに対して第2A画像は、通常画面やデモ画面などのように、遊技者等に積極的に表示内容を示す画面である。通常画面としては、例えば、遊技機の機種で採用されたモチーフに係る登場人物や場面の表示画面（いわゆる通常演出ステージの表示を含む）を例示できる。デモ画面としては、例えば、図118（b）を援用して示すように、機種名や遊技機メーカー（販売会社を含む）名を表示する画面（表示画面）などを例示できる。

20

【1257】

演出表示装置S40の画面は、演出のための表示装置であり、マックスベットが可能であることの報知に用いられるマックスベットボタン（ここではベットボタンD220）に比べて大きいのが通常である。例えば、演出表示装置S40とマックスベットボタンの面積について考えると、演出表示装置S40のほうがマックスベットボタンよりも大きいのが通常である。ここでいう「面積」については、実際の面積のほか、例えば、遊技場において遊技機Pに対応した椅子に座っている遊技者が視認できる面積（投影面積など）を考

30

【1258】

そして、マックスベットボタンは、1回の遊技の進行において最初（序盤）に操作されるボタンである。このため、マックスベットランプの点灯の後に、演出表示装置S40に明るい第2A画像を表示することにより、遊技者等に対し遊技機Pが起動したことを報知した後は、遊技者等は、確実に遊技を進行できることとなる。

40

【1259】

なお、ここでは、マックスベットランプを基準に説明したが、その他のランプ類（発光装置）の点灯の後に、第2A画像を表示してもよい。その他のランプ類としては、例えば、以下のものなどを例示できる。

（1-1）特別遊技状態表示装置D250

（1-2）クレジット数表示装置D200

（1-3）払出数表示装置（押し順表示装置）D270（押し順表示装置D270と称することもある）

（1-4）ATカウンタ値表示装置D280

50

(1-5) 有利区間表示器 YH

これらは、主制御基板 M により制御されるランプである「メイン系ランプ」と称することが可能である。そして、第 2 A 画像の表示よりも先にメイン系ランプを点灯させ、遊技の進行が可能となるように制御することで、遊技機 P を、遊技の進行に迅速に反応させることが可能となる。さらに、遊技を進行できる状況では第 2 A 画像が表示されているようになり、第 2 A 画像の表示後には、確実に遊技を進行することが可能となる。

【1260】

また、第 2 A 画像の表示タイミング（第 2 A 画像への移行タイミング）を、設定変更に関連して決定することも考えられる。例えば、以下の態様のように制御することが可能である。

(2-1) 設定変更を伴う電源投入時に、電源投入から設定変更が行われている間（設定変更装置の作動中）は、演出表示装置 S 40 において設定変更中であることを示す文字表示（黒背景とすることが可能）を行う。

(2-2) 設定変更を伴う電源投入時に、電源投入から設定変更が行われている間（設定変更装置の作動中）は、前扉 D U のランプ類（枠ランプなど）を所定の色（赤色など）で点灯させる。

(2-3) 上記 (2-1) と (2-2) の組み合わせの出力を実行する。

【1261】

また、設定変更中は、マックスベットランプは点灯しないようにすることが可能である。そして、設定変更が終了すると（設定変更装置の作動が終了すると）、演出表示装置 S 40 の表示が、第 1 A 画像から第 2 A 画像に移行したり、枠ランプ等の発光色が変化したりして、設定変更時に固有な表示や発光が行われなくなるようにする。このようにすることで、設定変更が終了し、遊技を開始できる状態となったことを、演出表示装置 S 40 における表示内容の変化により、効果的に報知することが可能となる。

【1262】

< 電源オン・オフに伴う発光制御 3（メダル数表示装置） >

メダルレスの遊技機について、電源オン（電源投入）を行った際に、メダル数表示装置をテストパターンで点灯させてから（例えば、点滅態様での発光をさせてから）、表示内容を変化させるまでのタイミングについて考えることができる。これまでに説明したように、メダルレスの遊技機には、メダル数表示装置（総得点表示装置とも称す）が設けられ、メダル数表示装置に、遊技者の総得点（貸し出されたものも含む）が、持ちメダル数として表示される。メダル数表示装置は、複数桁（例えば 5 桁や 6 桁）の 7 セグメントディスプレイを備えており、「0」から所定の数値（「16383」など）の表示を行うことができるようになってい

【1263】

メダル数表示装置においては、遊技機 P の電源投入時に、「88888」のようなテストパターンの表示が、全桁の全セグメントを点滅（継続的な点灯でもよい）させて行われる。図 124 (b) には、「88888」のテストパターンがメダル数表示装置（図中の中段右側に示す）に表示されている。このテストパターンが示す数値（「88888」）は、メダル数表示装置に遊技メダル数（遊技価値数、持ちメダル数）として表示される得る最大値（ここでは「16383」）よりも大きな値であり、メダル数表示装置に遊技メダル数（持ちメダル数）として表示され得ない値となっている。以下では、テストパターンが表示されることを、メダル数表示装置の表示が「復帰」したと称する場合がある。図 125 に示すように、電源投入から（例えば、電源スイッチ E 10 が操作されてから）メダル数表示装置がテストパターンで復帰するまでの時間を T1 とする。さらに、メダル数表示装置の表示がテストパターンで復帰した後、メダル数表示装置の表示は、そのときの（現在の）メダル数（総得点、持ちメダル数）の値に変化する。このようにメダル数表示装置の表示がテストパターンで復帰してから、持ちメダル数の表示が行われるまでの時間

10

20

30

40

50

を T_2 とする。そして、これらの時間 T_1 、 T_2 の関係を、 $T_1 < T_2$ とする。

【1264】

このようにすることで、テストパターンを迅速に表示することが可能になるとともに、テストパターンの表示時間を可能な限り長くすることができる。そして、メダル数表示装置の異常が生じている場合には、持ちメダル数の表示に移行する前に、電源をオフ（電源断）するための時間を確保し易くなる。

【1265】

具体的には、電源投入時、メダル数表示装置に異常が生じている場合、テストパターンが正常に表示されない事態が生じ得る。テストパターンが正常に表示されない事態としては、以下の態様等がある。

- (1) テストパターンの全体が表示されない。
- (2) セグメントの一部が点灯せずテストパターンの一部が欠落する。
- (3) 点滅すべきでない状況で表示の全部又は一部が点滅する。
- (4) 点滅すべき状況で表示の全部又は一部が点滅しない（点灯し続けている）。
- (5) 点滅の態様が正常な場合の点滅の態様と異なる。

【1266】

これらのような表示の異常が生じている場合、テストパターンの表示の開始から（時間 T_1 が経過してから）、テストパターンの表示が終了するまで（時間 T_2 が経過するまで）の間に、遊技場の管理者（遊技者であっても良い）が異常を認識可能である。異常に気付いた遊技場の管理者は、遊技機 P を電断させることが可能である。また、異常に気付いた遊技者が、遊技場の管理者にその旨を伝えて、遊技場の管理者が、遊技機 P を電断させることも可能である。そして、管理者が、遊技機 P を電断させることにより、持ちメダル数の表示が異常な態様で開始されるまでに、表示を中止（停止、取りやめ）することが可能となる。このように、メダル数表示装置に異常が発見された場合に、即座に遊技機 P を電断させることにより、時間 T_2 後に誤ったメダル数の表示が行われるのを防止できる。

【1267】

なお、メダル数表示装置の異常をセンシング技術により自動的に検知し、異常が検出された場合に、自動的に遊技機 P を電断させるようにしてもよい。ただし、メダル数表示装置における異常の要因は、例えば、ケーブルや基板配線の断線、LED 異常などのように複数考えられる。このため、異常の要因を個々に検知できるようにすると、構成や制御が複雑化する。したがって、異常を発見した段階で手作業により電断することで、簡便な構成で的確に、不正確なメダル数表示が行われるのを防止できる。

【1268】

なお、 T_2 をメダル数表示装置の表示がテストパターンで表示されている時間としてもよい。また、上記 T_1 、 T_2 の関係が、 $T_1 > T_2$ となるよう構成してもよい。

【1269】

また、メダル数表示装置のテストパターンを点滅させる場合、他の発光装置の点滅との関係を考えることができる。テストパターンの点滅の際の発光色としては、赤や白等のように種々の色を採用可能である。他の発光装置としては、例えば、枠ランプを挙げることができる。枠ランプとしては、例えば、装飾ランプユニット D150 や LED ランプユニット S10 等がある。これらの枠ランプの発光色としても、赤や白等のように種々の色を採用可能である。しかし、メダル数表示装置のテストパターンの点滅と、枠ランプの点滅とに、どちらも赤色を採用しておくことで、点滅を強調でき、遊技機 P がテスト状態（遊技を行うことができない状態）にあることを示唆できる。また、メダル数表示装置のテストパターンに係る点滅の点灯と消灯を、図 126 (a) の左から右に示すように、枠ランプの点滅の点灯と消灯のタイミングと、交互に入れ替わるように行うことが可能である。このように、点灯と消灯が交互に行われるようにすることにより、例えば、メダル数表示装置の点灯と、枠ランプの点灯とが同じ色で行われたとしても、両者が同時に発光して見難くなる（識別し難くなる）といった事態が生じるのを防止できる。

【1270】

なお、メダル数表示装置と枠ランプとを交互に点灯及び消灯させる場合、点灯時間と消灯時間を同じ時間（例えば0.3～0.8秒、好ましくは0.4～0.7秒、より好ましくは0.5～0.6秒程度）とすることが可能である。また、メダル数表示装置と枠ランプにおける点滅が継続して行われているうちに、途中で、点灯（又は消灯）の時期が重複（オーバーラップ）する場合があるようにしてもよい。さらに、図126（b）に示すように、点灯時間と消灯時間を異ならせ、点灯と消灯の組み合わせに係る1周期（又は所定の複数周期）を、メダル数表示装置と枠ランプとで同じにする、といったことも可能である。図126（b）では、1周期の区切りが一点鎖線により示されている。なお、メダル数表示装置と枠ランプの同期を特に図らず、同期する場合や同期しない場合が混在するようにしてもよい。

10

【1271】

<電源オン・オフに伴う発光制御4（リールと停止ボタン）>

リールM50の回転中に電断が発生した後、電源オン（電源投入）を行った際に、リールM50と停止ボタンD40のランプ（停止ボタンランプ）をどのように制御するかについて考えることができる。例えば、図127に左から示すように、リールM50の定速回転中に電断が発生した後の電源投入時に、リールM50を、駆動制御して回転させ（動かし）、回転量が1周（360°）に達するよりも前に、停止ボタンD40が有効な状態（有効態様）となり、停止ボタンD40の停止ボタンランプを点灯させる。つまり、リールM50が正常な回転を再開する前から、停止ボタンD40の停止ボタンランプを有効態様とする。電源投入後におけるリール制御の開始から、停止ボタンD40によりリールM50を停止させることが可能な時間（期間）は、例えば、「電断復帰時停止可能時間」又は「電断復帰時停止可能期間」などと称することが可能である。このように電断復帰時停止可能時間を設けることで、電源投入後速やかに、リールM50を、遊技者等による停止可能な状態とすることができる。

20

【1272】

なお、ここでいう回転には、例えば、以下のような態様の回転（回動）の少なくともいづれかを含んでいる。

- （1）視認が容易な程度の量（15°超程度）動く。
- （2）5～15°程度動く。
- （3）5°未満程度動く。
- （4）一瞬動いたように見える。
- （5）人によっては動いていることが分からない。

30

上記（2）～（5）のように、相対的に少量の回転の場合でも、制御上は、リールM50の停止前に、停止ボタンD40が有効な状態とされ、停止ボタンD40の停止ボタンランプが点灯する。

【1273】

電断時にリール駆動状態がリール定速状態であったため、電源投入後のリールM50の駆動状態は、電断発生前の状態に制御され、リール定速状態となる。しかし、リールM50の実際の動作状態は、リール定速状態とは異なる状態（低速度の回転状態など）となる。このため、リールセンサが対応するリールに設けられたインデックスを検出できず、回転不良検出カウンタ（後述する）がオーバーフローし、リールM50は、脱調などのリール回転不良の状態となり得る。このリール回転不良の状態でも、停止ボタンD40が有効化されて停止ボタンランプが早期に点灯し得ることとなり、リールM50を停止させることが可能となる。

40

【1274】

上述の回転不良検出カウンタは、回転不良発生の判定に用いられるカウンタである。より具体的には、タイマ割り込み（2.235ms周期）2回毎にカウントを1加算し、カウント値が、リールM50の1周+ α （一周超）を示す値（例えば、1周が336ステップのステッピングモータが用いられている場合に「200」など）に到達すると、制御基板のCPU（ここでは主制御基板MのCPUMC）において、回転不良の判定が行われ、

50

再加速処理（停止ボタンD40が無効態様となる）が行われる。回転不良検出カウンタの値は、インデックスを検出する毎に初期化され「0」になる。なお、リールが定速で回転している状況ではタイマ割り込み1回ごとにステッピングモータを1ステップ動かすように制御しており、定速回転中のリールが1周するには336回のタイマ割り込み処理が実行されることになる。

【1275】

制御上、リール回転不良が検出されると、停止ボタンランプが消灯され、停止ボタンD40は無効態様となる。リールM50を停止させない場合には、リールM50の再加速処理が実行され、リールM50の回転速度は定速に達する。リールM50の再加速処理が実行された場合には、停止ボタンランプが消灯され、リールM50が定速に達するまでは停止ボタンが無効態様となる。そして、リールセンサがインデックス（リールインデックス）を検出した後には、停止ボタンD40が有効になり、停止ボタンD40のボタンランプが点灯し、停止ボタンD40によって対応するリールM50を停止させることができる状態となる。このように、前述の電断復帰時停止可能時間の後、停止ボタンD40によりリールM50を停止させることができなくなってから再度リールM50を停止ボタンD40により停止可能になるまでの時間（期間）は、例えば、「電断復帰時停止不可能時間」又は「電断復帰時停止不可能期間」などと称することが可能である。このように電断復帰時停止不可能時間を設けることで、リールM50の制御状態を正常な状態に戻すための処理（再加速処理など）を、停止ボタン操作の影響を受けずに行うことが可能となる。なお、リールM50が再加速されている時間は、最小遊技時間（4.1秒）のカウントに含まれないようにすることが可能である。

【1276】

ここで、上述のように、電源投入後におけるリール制御の開始から、停止ボタンD40によりリールM50を停止させることが可能な時間（電断復帰時停止可能時間）と、その後、停止ボタンD40によりリールM50を停止させることができなくなってから再度リールM50を停止ボタンD40により停止可能になるまでの時間（電断復帰時停止不可能時間）との関係について考えることができる。例えば、電断復帰時停止可能時間を電断復帰時停止不可能時間よりも短くなるようにする（短くなり易いようにする）ことが可能である。また、逆に、電断復帰時停止可能時間を電断復帰時停止不可能時間よりも長くなるようにする（長くなり易いようにする）ことも可能である。さらに、電断復帰時停止可能時間と電断復帰時停止不可能時間とを同程度（又は同じ）とする（同程度（又は同じ）となり易いようにする）ことも可能である。

【1277】

つまり、電断復帰時停止可能時間と電断復帰時停止不可能時間との関係は、設計の違いや、そのときにおけるリールM50の停止位置（インデックスの位置）などの要因によって変動する。

（1）パターン1

電断、及び電源投入に、上述した回転不良検出カウンタの値を初期化しない設計が行われているパターン（パターン1）を考えることができる。例えば、リールM50が1周する毎にインデックス（リールインデックス）を検出し、インデックスを検出したタイミングで電断し、その後に電断復帰（電源投入）した場合を考えると、電断復帰時の回転不良検出カウンタの値は「0」である。このため、回転不良を検出するまでの時間は、電源投入後の最初の割り込み処理から再加速処理までの時間（電断復帰時停止可能時間）として約894ms（＝約2.235×2×200）になる。ここで「200」は、前述したように、リールM50の1周+α（一周超）を示す値として設計された値である。そして、再加速処理において200ステップ分リールM50を回転させる設計である場合は、再加速処理時間（電断復帰時停止不可能時間）は、約447ms（＝約2.235×200）になる。このような設計の場合は、約半分の割合で、電断復帰時停止可能時間が電断復帰時停止不可能時間よりも長くなる（電断復帰時停止可能時間>電断復帰時停止不可能時間の関係になる）ようにすることができる。換言すると、回転不良検出カウンタの値が「1

00」のときに電断した場合は、電源投入後の最初の割り込み処理から再加速処理までの時間（電断復帰時停止可能時間）として約447msになるため、このときに電断復帰時停止可能時間＝電断復帰時停止不可能時間になる。そして、現実的に電源投入後の最初の割り込み処理から遊技者や管理者がリールを停止できると認識しリールの停止操作をするのに300ms程度要することから1/2以上の割合で電断復帰時停止可能時間＞電断復帰時停止不可能時間とすることができ、リール定速回転中に電断し、その後電断復帰した場合に遊技者や管理者に対してリールを停止可能な期間を或る程度担保することが可能となり、遊技中の電断があったとしても、電断復帰時にリールを停止させ速やかに遊技を進行させることができる。

【1278】

10

再加速処理のステップ数は、モータの性能により変動するが、例えば、再加速処理のステップ数を「200」に固定にした場合、回転不良検出カウンタの値を「200」よりも大きくすれば、電断復帰時停止可能時間の方が電断復帰時停止不可能時間よりも長くなる割合を多くすることができる。また、回転不良検出カウンタの値を「200」よりも小さくすれば、電断復帰時停止可能時間の方が電断復帰時停止不可能時間よりも短くなる割合を多くすることができる。なお、電断復帰時停止可能時間の方が電断復帰時停止不可能時間よりも短くなるようにすることで、速やかに再加速処理を実行することで、遊技の進行の遅延を少なくして継続させることができる。

【1279】

（2）パターン2

20

上記パターン1と異なり、電断、及び電源投入に、上述した回転不良検出カウンタの値を初期化する設計が行われているパターン（パターン2）を考えることができる。このパターン2においては、電断し、その後に電断復帰（電源投入）した場合、電断時におけるインデックスの位置に関わらず、電断復帰時の回転不良検出カウンタの値は「0」となる。パターン2においても、パターン1と同様に、例えば、再加速処理のステップ数を「200」に固定にした場合、電断時におけるインデックスの位置に関わらず、回転不良を検出するまでの時間は、電源投入後の最初の割り込み処理から再加速処理までの時間（電断復帰時停止可能時間）として約894ms（＝約2.235×2×200）になる。このため、インデックスがどの位置であっても、電源投入後の最初の割り込み処理から再加速処理までの時間（電断復帰時停止可能時間）は約894msになる。このような設計の場合は、回転不良検出カウンタの値が「0」のときに電断復帰したとき以外は全て、電断復帰時停止可能時間が電断復帰時停止不可能時間よりも長くなる（電断復帰時停止可能時間＞電断復帰時停止不可能時間の関係になる）ようにすることができる。換言すると、電断復帰時停止可能時間の方が電断復帰時停止不可能時間よりも長くなる割合を多くすることができる。また、回転不良検出カウンタの値を「200」よりも小さくしたとしても、再加速処理時間よりも短くならないと電断復帰時停止可能時間の方を電断復帰時停止不可能時間よりも短くすることができない。このように構成することで、リール定速回転中に電断し、その後電断復帰した場合に遊技者や管理者に対してリールを停止可能な期間を或る程度（回転不良検出カウンタが200をカウントするまで）担保することが可能となり、遊技中の電断があったとしても、電断復帰時にリールを停止させ速やかに遊技を進行させることができる。

30

40

【1280】

＜電源オン・オフに伴う発光制御5（リール前面の液晶シャッター）＞

リールM50の回転中に電断が発生した後、リールM50の見え方をどのように制御するかについて考えることができる。例えば、図128に左から示すように、リールM50の前面に液晶シャッター（透過液晶）を配置する。液晶シャッターとしては種々のものを採用できる。液晶シャッターとしては、例えば、光の透過状態（透光状態）と非透過状態（遮光状態）との切り替え制御が行われるタイプのものや、単にバックランプを消灯して光の非透過状態（遮光状態であり、この遮光状態は例えば「非発光状態」などと言い換えることができる）となるタイプのものなどを例示できる。液晶シャッターは、通常時には

50

、遊技者等がリールM50を容易に視認できる透光状態となっている。しかし、所定の場合には、液晶シャッターは、遊技者等によるリールM50の視認を妨げる遮光状態となる。

【1281】

ここでいう「所定の場合」には、例えば、以下の態様がある。

(1-1) リールM50の定速回転中(リール定速状態での回転中又はリール減速準備状態での回転中)に電断となった場合。

(1-2) リールM50の定速回転中(リール定速状態での回転中又はリール減速準備状態での回転中)に電断となり、リールM50が停止しきる前の状況である場合。

(1-3) リールM50の低速回転中(リール減速状態での回転中)に電断となった場合。

(1-4) リールM50の低速回転中(リール減速状態での回転中)に電断となり、リールM50が停止しきる前の状況である場合。

【1282】

また、「遮光状態」は、以下の態様を含む。

(2-1) 遊技者等によるリールM50の視認が困難な状態。

(2-2) 遊技者等によるリールM50の視認ができない状態。

(2-3) 液晶シャッターによってリールM50が隠されているが、遊技者等が凝視しなくてもリールM50の存在を視認できる状態。

(2-4) 遊技者等が凝視しなければ、リールM50の存在を視認できない状態。

(2-5) ほとんどの遊技者等は凝視してもリールM50を視認できない状態。

【1283】

このようにすることで、リールM50上の停止図柄の視認が妨げられるので、例えば、7揃いのような特別な図柄組合せが揃ったとしても、遊技者が残念に思う感覚(残念感)を和らげることができる。そして、前述した場合(図104など)に比べ、より効果的に液晶シャッターを活用することが可能となる。なお、液晶シャッターを遮光状態とする場合には、リールバックランプRBを消灯することで、リールM50の視認困難性を高めることができる。なお、液晶シャッターは、リールM50により構成される停止図柄の組み合わせを隠すことができる領域に設けられていればよい。例えば、図104を援用して示すように、表示窓の外側にも液晶画面が広がっている場合に、リールM50の前面のリール表示窓D160(図1)の領域のみを遮光状態としてもよい。また、リール回転中の電断後の電源投入の際に7揃いのような特別な図柄組合せが揃った場合に、例えば、以下の態様の少なくともいずれかの状態となるようにすることが可能である。

(3-1) スピーカS20から、正常に特別な図柄組合せが揃った場合の音出力されないようにする。

(3-2) また、枠ランプが、正常に特別な図柄組合せが揃った場合の発光態様で発光しないようにする。

なお、電源投入後であり、液晶シャッターが透過状態であり、停止ボタンが操作されて正常に特別な図柄組合せが揃った場合には、リールM50が視認可能となり、スピーカS20から図柄組合せに対応した音出力され、枠ランプが図柄組合せに対応した発光態様で発光するようにすることが可能である。

【1284】

<電源オン・オフに伴う発光制御6(リールと停止ボタン)>

リールM50の回転中に電断が発生した後、リールM50と停止ボタンD40のランプ(停止ボタンランプ)をどのように制御するかについて、前述の<電源オン・オフに伴う発光制御4(リールと停止ボタン)>とは別の制御を考えることができる。例えば、図129に左から示すように、リールM50の回転中(リール定速状態の回転中)に電断が発生した場合、リールバックランプRBの消灯前に、停止ボタンD40を無効態様に制御する。この際、停止ボタンランプは消灯状態とする。バックランプRBが消灯されると、リールM50における図柄の視認性が、バックランプRBの点灯時に比べて低下する。この

ようにすることで、停止ボタンD40の有効時には、可能な限り、リールM50における図柄の視認性を担保することができる。ここで、停止ボタンD40の無効態様としては、例えば、以下のような態様がある。

(1-1) 停止ボタンD40が光っていない(停止ボタンランプが消灯している)。

(1-2) 停止ボタンD40のランプの発光色が操作有効時とは異なる色に変化する(停止ボタンランプの色が変化する)。例えば、操作有効時には青色(又は赤色)であるところ、操作無効時には赤色(又は青色)で発光する態様など。

(1-3) 停止ボタンD40が点滅する(停止ボタンランプが点滅する)。

【1285】

また、以下のような制御を行うことも可能である。例えば、すべてのリールM50がリール定速状態である状況にて、左リールM51の停止ボタン(左停止ボタンD41)が操作され、リール減速状態であるタイミングで電源断が発生した場合に、以下の制御を行う。

(2-1) リールバックランプRBの、左リールM51に対する照明を、消灯したままとする。

(2-2) リールバックランプRBの、中リールM52に対する照明、及び、右リールM53に対する照明を、無効態様とする。

(2-3) その後に、リールバックランプRBを消灯する。

なお、すべてのリールM50がリール定速状態である状況にて、中リールM52の停止ボタン(中停止ボタンD42)が操作され、リール減速状態であるタイミングで電源断が発生した場合に、中リールM52に対する照明を、消灯したままとし、リールバックランプRBの、左リールM51に対する照明、及び、右リールM53に対する照明を、無効態様とし、その後に、リールバックランプRBを消灯することも可能である。

さらに、すべてのリールM50がリール定速状態である状況にて、右リールM53の停止ボタン(右停止ボタンD43)が操作され、リール減速状態であるタイミングで電源断が発生した場合に、右リールM53に対する照明を、消灯したままとし、リールバックランプRBの、左リールM51に対する照明、及び、中リールM52に対する照明を、無効態様とし、その後に、リールバックランプRBを消灯することも可能である。なお、バックランプRBの点灯/消灯の切り替えに限らず、例えば、液晶シャッター(透過液晶)の光透過状態の変化によって図柄の視認性を変化させる態様であってもよい。

【1286】

<電源オン・オフに伴う発光制御7(リールとリールバックランプ)>

リールM50の回転中に電断が発生した後、電源オン(電源投入)を行った際に、リールM50とリールバックランプRBをどのように制御するかについて考えることができる。例えば、図130に左から示すように、リールM50の回転中(リール定速状態の回転中)に電断が発生し、その後の電源投入が行われた場合には、リールバックランプRBが点灯するよりも前に、リールM50の回転を開始(再開)させる。その後、リールバックランプRBが点灯するようにする。

【1287】

このようにすることで、リールM50の再開前の停止図柄が、遊技上有効な停止図柄であったと、遊技者に認識させないようにすることができる。そして、本来何らの役にも当選していないにも関わらず、何らかの役の図柄組み合わせでリールM50が停止したとの誤認や、何らかの役に当選しているのに外れの組み合わせでリールM50が停止したとの誤認が生じるのを防止できる。この結果、遊技者からクレームが出されるのを防止できる。なお、液晶シャッター(透過液晶)を組み合わせ、液晶シャッターが透過状態となる前にリールM50の回転を開始(再開)させるようにすることで、より確実に誤認を防止できる。

【1288】

また、同様に電源投入が行われた場合に、リールバックランプRBが点灯するよりも前に、リールM50の回転を開始(再開)させ、リールM50を、回転させ(動かし)、回

転量が1周（360°）に達するよりも前に、停止ボタンD40が有効な状態とし、停止ボタンD40の停止ボタンランプを点灯させる。つまり、リールM50が正常な回転を再開する前から、停止ボタンD40の停止ボタンランプを有効態様とする。このようにすることで、電源投入後速やかに、リールM50を、遊技者等による停止可能な状態とすることができる。

【1289】

電断時にリール駆動状態がリール定速状態であったため、電源投入後のリールM50の駆動状態は、電断発生前の状態に制御され、リール定速状態となる。しかし、リールM50の実際の動作状態は、リール定速状態とは異なる状態（低速度の回転状態など）となる。このため、リールセンサが対応するリールに設けられたインデックスを検出できず、回転不良検出カウンタ（回転不良発生の判定に用いられるカウンタ）がオーバーフローし、リールM50は、脱調などのリール回転不良の状態となり得る。このリール回転不良の状態でも、停止ボタンD40が有効化されて停止ボタンランプが早期に点灯し得ることとなり、リールM50を停止させることが可能となる。このような制御状態にある時間は、電断復帰時停止可能時間に該当する。

【1290】

制御上、リール回転不良が検出されると、停止ボタンランプが消灯され、停止ボタンD40は無効態様となる。リールM50を停止させない場合には、リールM50の再加速処理が実行され、リールM50の回転速度は定速に達する。リールM50の再加速処理が実行された場合には、停止ボタンランプが消灯され、リールM50が定速に達するまでは停止ボタンが無効態様となる。そして、リールセンサがインデックス（リールインデックス）を検出した後には、停止ボタンD40が有効になり、停止ボタンD40のボタンランプが点灯し、停止ボタンD40によって対応するリールM50を停止させることができる状態となる。このような制御状態にある時間は、電断復帰時停止不可能時間に該当する。そして、リールバックランプRBの点灯開始のタイミングは、リールM50が正常な回転を再開した後（例えば、電断復帰時停止不可能時間後など）とすることが可能である。また、液晶シャッター（透過液晶）を組み合わせた場合には、液晶シャッターが透過状態となるタイミングを、リールM50が正常な回転を再開した後（例えば、電断復帰時停止不可能時間後など）とすることが可能である。なお、リールM50が再加速されている時間は、最小遊技時間（4.1秒）のカウントに含まれないようにすることが可能である。

【1291】

<電源オン・オフに伴う発光制御8（持ちメダル数表示）>

メダルレスの遊技機について、電源オン（電源投入）を行った際に、どのようなタイミングでメダル数表示装置に持ちメダル数を表示するかについて考えることができる。例えば、図131に左から示すように、電源投入後に、メダル数表示装置に持ちメダル数が表示された後（援用する図125のT2よりも後）、遊技の進行が可能となるように制御する。ここでは、遊技の進行が可能となるように制御された状況としては、例えば、以下のような態様がある。

（1）マックスベットボタン（その他のベットボタンでもよい）が点灯し、ベットが可能となる。

（2）スタートレバーD50が有効になり、スタートが可能となる。

（3）精算ボタンD60が有効になり、精算（例えば、ベット数の精算、ベット数のメダル数表示装置への移動）が可能となる。

（4）リールM50の回転中に停止ボタンD40が有効になり、リールM50の停止が可能となる。

このようにすることで、確実に、持ちメダル数の表示が行われた後に遊技が進行されるようになる。

なお、以下のような場合には、遊技が不可能となっている。

・電源オンから、メダル数表示装置にテストパターンが表示されるまでの間。

・メダル数表示装置にテストパターンが表示されて持ちメダル数が表示されるまでの間。

【1292】

＜電源オン・オフに伴う発光制御 9（持ちメダル数表示の表示停止）＞

メダルレスの遊技機について、電断時に、どのようなタイミングでメダル数表示装置における持ちメダル数の表示を停止するかについて考えることができる。例えば、図132に左から示すように、電断直後において、演出表示装置S40が消えた（電源オフとなった）後に、メダル数表示装置における持ちメダル数の表示を停止する（表示を消す、電源オフとする、非表示にするなど）。このようにすることで、メダル数の表示を、演出表示装置S40の表示が消えた後まで残すことができる。そして、その後に遊技機Pの電源投入が行われず、遊技者が景品交換を行うことになっても、可能な限り遊技者がメダル数を明確に記憶しておくことができ得るようになる。

10

【1293】

持ちメダル数の表示を、可能な限り最後まで残しておくことにより、メダル数の表示が消えてしまった後でも、遊技者のメダル数の記憶が残り易くなる。このため、その後に電源投入がされて、メダル数表示装置に持ちメダル数が表示された際に、遊技者の記憶との整合が図りやすい。なお、電断時に、メダル数表示装置に表示されているメダル数の数値を、他の表示装置（例えば演出表示装置S40など）に表示してもよい。この場合、遊技者がメダル数を記憶し易くなると考えられる。

【1294】

＜電源オン・オフに伴う発光制御 10（メニュー表示）＞

メダルレスの遊技機において、電源オン（電源投入）を行った際に、どのような順番で演出に係る発光制御を可能にするかについて考えることができる。例えば、図133に左から示すように、電源投入後に、計数が可能となり、その後にベットと精算（例えば、ベット数の精算、ベット数のメダル数表示装置への移動）が可能となり、さらにその後にメニュー表示が可能となるようにする。計数、ベット、精算が可能となった場合には、それぞれに係るランプ（LED）が点灯し、各々に係る操作が有効であることが報知される。このようにすることで、遊技の進行に必要な（必須な）メダルの管理に係る制御（発光制御を含む）を終えてから、演出に係る発光制御（副制御の有効化）を行うことが可能となる。

20

【1295】

ここで、メダルレスの遊技機においては、計数ボタンが設けられ、計数ボタンを操作することによって計数処理が実行される。計数処理が実行されると、メダルレスの回胴式遊技機における総得点が貸機側に移動することとなる。計数時には、計数ボタンの操作（長押し）が行われると、例えば、300msごとに50枚分のデータが、遊技機Pから貸機側に送信される。しかし、メダル数表示装置においては、メダル数が例えば1枚ずつ減少するような態様のデクリメント表示が行われる。また、精算は、例えば、遊技者がベット分を精算し、ベット数をメダル数表示装置への移動させるときに行われる。

30

【1296】

遊技機Pにおいては、電源投入後に、このような計数が可能となった後に、ベットと精算が可能となるように制御が行われる。ベットと精算の関係については、以下のように制御することが可能である。

40

（1）ベットと精算は同時期に行うことができるようにする。

（2）上記（1）に関し、ベットと精算を同時に行うことができるのは、規定数が「3」の場合の1ベット時又は2ベット時であり、マックスベット時（3枚ベット時）には、ベットはできないが、精算は行えるようにする。換言すれば、メダル枚数が「規定数（ここでは3枚）－1」以下の場合には、ベットと精算を同時期に行うことができるようにする。

（3）精算は、メダル数表示装置に表示されているメダル数が上限値（例えば「16383」など）の場合には行えないようにする。なお、このようにすることで、メダル数表示装置において、上限値を超えるメダル数が加算されるのを防止できる。

（4）メダルの残数が、遊技機Pと貸機側における計数の単位（ここでは50枚）を超え

50

ている場合には、計数中にベットが可能であるようにする。具体的には、メダルレスの遊技機側での総得点が単位枚数（ここでは50枚）を超える状況において、計数中（50枚の移動処理中）でもメダルレス遊技機側には、1枚以上残ることが確定的なので、残っている分を使って（300msごとの今回の送信処理中に）ベット可能であるようにする。なお、単位枚数（ここでは50枚）は、メダルレスの遊技機から貸機へ単位時間（ここでは300ms）ごとの送信で1度に移動可能な得点の最大値である。

（5）上記（4）に関し、メダルの残数が、遊技機Pと貸機側における計数の単位（ここでは50枚）以下である場合における表示上のデクリメント中には、計数中にベットができないようにする。具体的には、メダルレスの遊技機側での総得点が単位枚数（ここでは50枚）を下回る状況において、メダルレス遊技機側には遊技メダルが1枚も残らないことが確定的なので、ベットができないようにする。

10

（6）精算は、ベットされたメダルのデータの移動に関してのみ行うことができるようにする。

【1297】

なお、精算が可能かどうかを遊技者が認識可能となるように構成してもよい。例えば、精算できる場合には、精算ボタンD60を光らせて、精算ボタンD60が有効である旨を報知することが可能である。また、精算できない状況で精算ボタンD60が操作された場合には、演出表示装置S40に「精算できません」の文字表示を行うことや、「精算できません」の音声を出力することなどが可能である。さらに、これらの報知を、適宜組み合わせで行うことも可能である。

20

【1298】

＜電源オン・オフに伴う発光制御11（電断時の表示画面の再現）＞

電断時の表示画面と、設定変更に伴う電源投入時の表示画面との関係について考えることができる。例えば、図134に左から示すように、通常画面（遊技の進行が可能な所定の画面）が演出表示装置S40に表示されている状況にて電断し、設定キースイッチM20をオンに維持した状態のまま電源投入した場合（前扉DUは開放中となっている）は、演出表示装置S40の表示が、「復帰画面」（例えば、電源投入後1～3秒間）→「通常画面」（例えば、電源投入後3秒超～5秒間）→「設定変更中画面」（例えば、電源投入後5秒超以降）の順で切り替わる（推移する、移行する）。「設定変更中画面」は、設定変更中であることを示す文字表示（黒背景とすることが可能）を伴う表示等とすることが

30

【1299】

また、設定変更中であり「設定変更中画面」が表示されているときに電断し、設定キースイッチM20をオンに維持した状態のまま電源投入した場合は、「復帰画面」（例えば、電源投入後1～3秒間）→「設定変更中画面」（例えば、電源投入後3秒超以降）の順で切り替わる（推移する、移行する）ようにすることも可能である。このようにすることで、上述の「復帰画面」（例えば、電源投入後1～3秒間）→「通常画面」（例えば、電源投入後3秒超～5秒間）→「設定変更中画面」（例えば、電源投入後5秒超以降）で表示が切り替わる場合における「通常画面」の表示タイミングと、「復帰画面」（例えば、電源投入後1～3秒間）→「設定変更中画面」（例えば、電源投入後3秒超以降）の順で表示が切り替わる場合における「設定変更中画面」の表示タイミングが同様になる。

40

【1300】

なお、例えば、電断時の表示が、「通常画面」以外の表示（例えば、「デモ画面」や「電断情報画面」など）であった場合には、「設定変更中画面」の表示の直前に、これらの表示を行ってもよい。また、電断時の表示が、遊技中の画面表示であった場合に、「設定変更中画面」の表示の直前に、「通常画面」や「デモ画面」の表示を行ってもよい。

【1301】

＜電源オン・オフに伴う発光制御12（電断時の表示画面の再現）＞

50

メダルレスの遊技機において、V L 異常の表示が行われている状態で電断した場合の V L 異常画面と、電源投入時の表示画面との関係について考えることができる。V L 異常は、遊技機 P と接続される貸出ユニット（貸し出しユニット）との通信エラー（「V L エラー」、「V L 異常」ともいう）である。例えば、図 135 に左から示すように、演出表示装置 S 40 の表示が通常画面である際に V L 異常が発生し、V L 異常が発生したことを示す画面（V L 異常画面）が、例えば、演出表示装置 S 40 に表示される。その後、V L 異常画面が表示されている状態で電断が発生し、さらにその後に、V L 接続状態（非 V L 異常状態）で電源投入した場合（前扉 D U は閉鎖中となっている）、演出表示装置 S 40 の表示が、「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」の順で切り替わる（推移する、移行する）。このようにすることで、V L 異常が発生した状態で電断した後、V L 異常が発生しない状態で電源投入された場合であっても、電源投入前に V L 異常が発生していたことを報知することができる。なお、「V L 異常画面」の表示は、例えば、所定時間（例えば、1 秒～6 秒程度、好ましくは 2～5 秒程度、より好ましくは 3～4 秒程度）で自動復帰して次の表示に切り替わるようにすることが可能である。なお、演出表示装置 S 40 には、各種の演出表示装置が含まれる。例えば、リール表示窓 D 160 や、リール表示窓 D 160 の周囲で演出表示を行えるタイプの遊技機にあっては、これらの表示装置も演出表示装置 S 40 に含まれるものとするのが可能である。

10

【1302】

また、通常画面が表示されている状態で電断が発生し、V L 接続状態（非 V L 異常状態）で電源投入した場合（前扉 D U は閉鎖中となっている）は、演出表示装置 S 40 の表示が、「復帰画面」→「通常画面」の順で切り替わる（推移する、移行する）ようにする。このときの「通常画面」が表示開始されるタイミングは、上述の「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」の順の表示における「V L 異常画面」の表示開始のタイミングと同じにすることが考えられる。例えば、「V L 異常画面」で電断し、「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」となる場合の、「通常画面」の開始タイミングが電源投入から 3 秒後だとした場合に、「通常画面」で電源断して、「復帰画面」→「通常画面」となる場合の、「通常画面」の開始タイミングも電源投入から 3 秒後にすることが考えられる。このようにすることで、上述の「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」の順の表示における「復帰画面」の表示を延長することなく、「通常画面」の表示を行うことが可能となる。

20

30

【1303】

なお、「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」の順で表示を行う場合には、スピーカ S 20 からの音の出力や、粹ランプの点灯態様を、画面に対応した内容とすることが可能である。さらに、「復帰画面」→「V L 異常画面」→「通常画面」の順の表示における「復帰画面」では、遊技の進行ができないよう制御することが可能である。また、「復帰画面」→「通常画面」の順の表示における「復帰画面」では、遊技の進行ができるようにすることが可能である。

【1304】

また、メダル数表示装置と演出表示装置 S 40 については、以下のいずれかのような順序で表示を行うことが考えられる。

40

（１）メダル数表示装置にてテストパターンを表示→演出表示装置 S 40 にて「復帰画面」を表示→メダル数表示装置にて持ちメダル数を表示→演出表示装置 S 40 にて「V L 異常画面」を表示→演出表示装置 S 40 にて「通常画面」を表示

（２）演出表示装置 S 40 にて「復帰画面」を表示→メダル数表示装置にてテストパターンを表示→メダル数表示装置にて持ちメダル数を表示→演出表示装置 S 40 にて「V L 異常画面」を表示→演出表示装置 S 40 にて「通常画面」を表示

【1305】

なお、V L 異常が発生している状況においては、遊技が止まり、遊技機 P は、遊技の進行ができない状態に制御される。このため、例えば、ベット、精算、スタート（リール M 50 の回転スタート）は行うことができない。ただし、ストップ（停止ボタン D 40 によ

50

るリールM50の停止)は行うことが可能である。このようにストップは行えるようにすることにより、回胴モータK10が、所謂焼き切れること(又は焼き付くこと)等を防止できる。

【1306】

＜ベットと設定確認との関係＞

遊技機Pは、設定確認の際に設定確認モードとなり、設定値の表示が行われる。設定確認モードでは、設定変更はできないが、設定値の確認が可能である。そして、この設定確認とベットの関係について考えることが可能である。図136は、ベットと設定確認との関係について考え得る多数の態様が示されている。図136において、左端の列は、考え得る態様の項番(1~18)を示している。その右隣の列(次列)には前提条件が示されており、「※1」は、前提条件の1つとして、ベット中は設定確認に移行しないこと(設定確認モードへの移行を行わないこと)を示している。また、「※2」は、前提条件の他の1つとして、ベット中と前扉DUの閉鎖中は設定確認移行しないこと(設定確認モードへの移行を行わないこと)を示している。そして、図136の上から7行の場合における前提条件は「※1」となっており、残りの場合における前提条件は「※2」となっている。

【1307】

図136中、「ベット可能状態」は、ベットが可能にあることを示しており、「⇒」は次の段階に移行することを示している。「ベットされていない」は、ベットが行われていないことを示しており、「ベットされている」は、ベットが行われていることを示している。「リプレイによる自動ベット」は、再遊技役に当選して再遊技のための自動ベットが行われたことを示している。

【1308】

「前扉開放検知」は、前扉DUの開放が検知されたことを示している。「前扉開いているが閉鎖検知中」は、前扉DUが物理的に開放されているが、前扉DUの開放を検知可能なセンサ(ドア開放を検知するセンサ)が前扉DUの開放を検知されていないような状況であることを示している。「設定キーON」は、設定キースイッチM20がオンとなったことを示している。「設定確認モード」は、設定確認モードに移行したことを示しており、「設定確認モード移行しない」は、設定確認モードに移行しないことを示している。「精算」は、精算が行われることを示しており、「1遊技終了」は、1回の遊技が終了することを示している。「-」は、空白を示している。

【1309】

例えば、項番1の態様では、ベット中は設定確認に移行しないこと(※1)を前提条件とし、「ベット可能状態」で「ベットされていない」状態から、前扉DUが開放され、「前扉開放検知」があった状態で「設定キーON」となると、「設定確認モード」となる。項番2の態様では、「ベットされている」状態から、前扉DUが開放され、「前扉開放検知」があった状態で「設定キーON」となると、「設定確認モード移行しない」状態となる。

【1310】

項番4の態様では、項番2と同様に、「前扉開放検知」があった状態で「設定キーON」となり、その後に「精算」となって「設定確認モード移行しない」状態となる。つまり、「精算」によって「ベットされていない」状態となり、前提条件の「※1」に基づけば、ベット中は設定確認に移行しないこと(ベットがなければ設定確認モードへ移行する)ところ、「設定キーON」になったときに「ベットされている」ことを優先適用して設定確認モードへ移行しないようになっている。

【1311】

項番6の態様では、「ベット可能状態」から「リプレイによる自動ベット」となり、「前扉開放検知」があった状態で「設定キーON」となり、その後に「1遊技終了」となっても「設定確認モード移行しない」状態となる。つまり、「リプレイによる自動ベット」の状態となり、前提条件の「※1」に基づけば、ベット中は設定確認に移行しないこと(

ベットがなければ設定確認モードへ移行する) ところ、「設定キー ON」になったときに「ベットされている」ことを優先適用して設定確認モードへ移行しないようになっている。

【1312】

項番 8 の態様では、「前扉開放検知」の状態となり、前提条件の「※ 2」に基づけば、ベット中と前扉 D U の閉鎖中は設定確認移行しない(ベット中と前扉 D U の閉鎖中でない場合は設定確認モードへ移行する) ところ、「設定キー ON」になったときに前扉 D U が閉鎖中だったことを優先適用して、設定確認モードへ移行しないようになっている。

【1313】

項番 13 の態様では、ベット中と前扉 D U の閉鎖中は設定確認移行しないこと(※ 2) を前提条件とし、「ベット可能状態」から「ベットされている」となり、「前扉開いているが閉鎖検知中」から「設定キー ON」となり、「精算」、「設定確認モード移行しない」の後、「前扉開放検知」となっても「設定確認モード移行しない」状態となる。項番 18 の態様では、「ベット可能状態」から「リプレイによる自動ベット」となり、「前扉開いているが閉鎖検知中」から「設定キー ON」となり、「前扉開放検知」、「設定確認モード移行しない」の後、「1 遊技終了」しても「設定確認モード移行しない」状態となる。なお、図 136 におけるその他の態様については説明を省略するが、項番 1 の態様以外では、「設定確認モード移行しない」状態となる。

【1314】

よって、「設定キー ON」になったときに「ベットされている」場合、及び／又は、「設定キー ON」になったときに前扉 D U が閉鎖中だった場合には、以降、「設定キー ON」が維持されたまま「ベットされていない」「前扉開放検知」となっても、設定確認モードへ移行しないようになる。この状態に陥った場合には、一度設定キーを OFF にして、「ベットされていない」且つ「前扉開放検知」の状態を設定キーを ON にし直す必要があるので、例えば、遊技中に意図せず設定値が表示されてしまうという事態を回避することができる。

【1315】

＜脱離を想定したハーネスの長さ 1 (第 1 筐体側基板からの脱離)＞

遊技機 P の筐体本体 K M において、基板同士を接続するハーネスの一端が離脱した場合を想定し、ハーネスの長さを考えることができる。ここでは、筐体本体 K M に配置される 2 つの基板を第 1 筐体側基板 K K 1、及び、第 2 筐体側基板 K K 2 とする。ここで、各基板 K K 1、K K 2 は、コネクタの接続が可能な状態で基板ケースに収納されていてもよい。

【1316】

図 137 (a) は、第 1 筐体側基板 K K 1、及び、第 2 筐体側基板 K K 2 と、両基板 K K 1、K K 2 を接続するハーネス H N を示している。図 137 (a) の上下方向は、遊技機 P の上下方向に一致している。基板 K K 1、K K 2 の配置は、前扉 D U が閉鎖された場合に、リール表示窓(リール窓 D 160)よりも高い位置(例えば、正面視にて、リール表示窓を介して視認困難な位置)である。そして、基板 K K 1、K K 2 は、前扉 D U が閉鎖された場合に、リール窓 D 160 よりも上方に位置する。図 137 の各図では、前扉 D U が閉鎖された場合におけるリール窓 D 160 が、二点鎖線により仮想的に示されている。

【1317】

図 137 (a) の例では、第 1 筐体側基板 K K 1 は、第 2 筐体側基板 K K 2 の上方に配置されている。ハーネス H N の一端は、第 1 筐体側基板 K K 1 における下側の部位に接続され、ハーネス H N の他端は、第 2 筐体側基板 K K 2 における上側の部位に接続されている。

【1318】

図 137 (b) は、ハーネス H N が、第 2 筐体側基板 K K 2 との接続を維持した状態で、第 1 筐体側基板 K K 1 から外れて脱離した状態を示している。図 137 (b) の例では

、ハーネスHNの一端側（非脱離側）が第2筐体側基板KK2に繋がっており、他端（脱離側）が、リールM50（図示略）の手前側で垂れ下がっている。ハーネスHNは、リール窓D160の内側（開口内）の位置に達し、リール窓D160を通して視認できる状態となっている。つまり、ハーネスHNの長さは、第1筐体側基板KK1から離脱し、第2筐体側基板KK2に接続されている状態となった場合に、ハーネスHNが、リール窓D160を通して視認可能となる長さに設定されている。このようにすることで、ハーネスHNが第1筐体側基板KK1から離脱している場合に、リール窓D160を介して、ハーネスHNが離脱していることを発見できる。

【1319】

近年、第1筐体側基板KK1や第2筐体側基板KK2に、何らかの不正が行われていないか、不正な機器が取り付けられていないか、等といった事項の確認が行われる場合がある。実際に、基板の、コネクタが実装された領域の背面に、第三者により不正な機器が装着されていたという報告もある。このような基板背面の確認は、例えば、第1筐体側基板KK1や第2筐体側基板KK2を取り外したり、裏返したりすることによって行われている。第1筐体側基板KK1や第2筐体側基板KK2を裏返せるようにする機構として、図示は省略するが、例えば、ヒンジや係止爪を介して第1筐体側基板KK1や第2筐体側基板KK2の各端部を支持し、一旦の係止爪を解除し、他端のヒンジを回転させるものなどがある。そして、ハーネスHNを外さなければ、背面を視認できないように、第1筐体側基板KK1や第2筐体側基板KK2が設けられていることもある。

【1320】

また、メダルレスの遊技機においては、ホッパやメダルセレクト等が省略され、メダル数制御基板（メダル数制御手段）が備えられている。さらに、メダル数制御に関しては、主制御基板MのCPU（CPUMC）と、遊技メダル数制御用のCPUとが分けられ、両CPUが1枚の基板に実装されているタイプや、各CPUが異なる基板に分けて実装されているタイプ、及び、主制御基板MのCPU（CPUMC）がメダル数制御も併せて行うタイプなどがある。また、メダルレスの遊技機においては、遊技機Pが外部の貸出装置と接続されるが、主制御基板Mやメダル数制御基板と、貸出装置との中継を行う遊技球等貸出装置接続端子板が備えられている。このように、メダルレスの遊技機においては、メダル数制御や貸出のための基板に対する不正が行われる可能性がある。なお、上述したような基板背面の確認が行われる（背面確認の対象となる）基板として、例えば、メダル数制御基板や、遊技球等貸出装置接続端子板を例示することができる。

【1321】

このように、実在の遊技メダルを使用するタイプの遊技機であっても、メダルレスの遊技機であっても、各種のハーネスHNが基板から外される場合がある。そして、ハーネスHNが外された場合に、接続忘れが生じることも想定される。したがって、ハーネスの長さを、ハーネスの離脱を発見できる長さとすることは重要である。また、不正によりハーネスの一端が外された場合であっても、ハーネスの長さの設定により、不正の痕跡を発見することが可能となる。

【1322】

なお、外れた後のハーネスHNの方向によっては、リール窓D160を介してハーネスHNが視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、ハーネスHNの第1筐体側基板KK1との接続が外れた場合においては、当該外れたハーネスHNがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓D160を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れたハーネスHNがリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓D160を介して視認可能となるように、ハーネスの長さを設計すればよい。

【1323】

より具体的には、ハーネスHNの長さをX11、第2筐体側基板KK2におけるハーネスHNを接続する端子からリール窓D160までの距離をY11としたときに、 $X11 > Y11$ となるよう構成すればよい。

【1324】

ここでいう「視認可能」は、例えば、リール窓D160（遊技機Pであってもよい）を正面視した場合に視認可能となること含んでいる。また、リール窓D160（遊技機Pであってもよい）を、斜めの上方、下方、左方、右方、左上方、右上方、右下方、左下方などから見た場合に視認可能となること含んでいてもよい。このことは、ハーネス（ハーネスHN等）をリール窓D160から視認可能とした実施形態について同様である。

【1325】

なお、ハーネスHNを所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れたハーネスHNがリール窓D160を介して視認可能となっていればよい。

10

【1326】

また、第1筐体側基板KK1及び第2筐体側基板KK2の組み合わせは、筐体本体KMに配置されたものであればよい。筐体本体KMに配置され得る基板としては、主制御基板M、副制御基板S、モータ駆動基板（回胴基板）K、電源基板E、外部中継端子板、及びその他の基板がある。第1筐体側基板KK1及び第2筐体側基板KK2には、これらの任意の組み合わせを適用することができる。また、メダルレスの遊技機の場合は、主制御基板M、副制御基板S、モータ駆動基板（回胴基板）K、電源基板E、メダル数制御基板、遊技球等貸出装装置接続端子板、及び、その他の基板がある。第1筐体側基板KK1及び第2筐体側基板KK2には、これらの任意の組み合わせを適用することができる。

【1327】

なお、ハーネスHNとしては、フレキシブルな種々のタイプのものを採用できる。例えば、FFC（Flexible Flat Cable、フラットなケーブルタイプ）や、FPC（Flexible Printed Circuits、基板タイプ）のものを採用できる。FPCについては、例えば、主制御基板Mとモータ駆動基板Kの接続に使用することが考えられる。また、FFCとしては、個々の導線が結合されず分離しているタイプや、個々の導線がリボン状に結合されたタイプなどを採用可能である。

20

【1328】

また、図138（a）に一例を示すように、ハーネスHNを、基板（ここでは第2筐体側基板KK2）の背後に回り込ませて引き回す（配索する）ことが可能である。例えば、主制御基板Mとモータ駆動基板Kとを接続するハーネスが、例えばFFCやFPCのようなフレキシブルなハーネスである場合、ハーネスHNが、主制御基板Mの裏側に折りたたまれて収納されている場合がある。このようにすることで、ハーネスHNの長さを大としても、基板を隠すことなく引き回すことが可能となる。そして、例えば、図138（b）に示すように、ハーネスHNの一端（ここでは第1筐体側基板KK1）の側が外れた場合に、ハーネスHNをリール窓D160に到達させ易くなる。なお、このような場合のハーネスHNの長さを、ハーネスHNを最大限伸ばした長さ（最大伸長）とすることが可能である。

30

【1329】

<ハーネスの脱離を想定した長さ2（第2筐体側基板からの脱離）>

ハーネスHNの長さを設定する場合に、遊技機Pの筐体本体KMにおいて、ハーネスHNが、第1筐体側基板KK1との接続を維持したまま、第2筐体側基板KK2から離脱した場合を想定することができる。ここでも、筐体本体KMに配置される2つの基板を第1筐体側基板KK1、及び、第2筐体側基板KK2とする。

40

【1330】

図137（c）は、ハーネスHNが、第1筐体側基板KK1との接続を維持した状態で、第2筐体側基板KK2から外れて脱離した状態を示している。図137（c）の例では、ハーネスHNの一端側（非脱離側）が第1筐体側基板KK1に繋がっており、他端（脱離側）が、リールM50（図示略）の手前側で垂れ下がっている。ハーネスHNは、リール窓D160の内側（開口内）の位置に達し、リール窓D160を通して視認できる状態となっている。つまり、ハーネスHNの長さは、第2筐体側基板KK2から離脱し、第1

50

筐体側基板 K K 1 に接続されている状態となった場合に、ハーネス H N が、リール窓 D 1 6 0 を通して視認可能となる長さに設定されている。このようにすることで、図 1 3 7 (b) の例と同様に、ハーネス H N が第 2 筐体側基板 K K 2 から離脱している場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して、ハーネス H N が離脱していることを発見できる。

【 1 3 3 1 】

なお、外れた後のハーネス H N の方向によっては、リール窓 D 1 6 0 を介してハーネス H N が視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、ハーネス H N の第 2 筐体側基板 K K 2 との接続が外れた場合においては、当該外れたハーネス H N がリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れたハーネス H N がリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して視認可能となるように、ハーネスの長さを設計すればよい。

10

【 1 3 3 2 】

より具体的には、ハーネス H N の長さを X 1 2 、第 2 筐体側基板 K K 2 におけるハーネス H N を接続する端子からリール窓 D 1 6 0 までの距離を Y 1 2 としたときに、 $X 1 2 > Y 1 2$

となるよう構成すればよい。

【 1 3 3 3 】

なお、ハーネス H N を所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れたハーネス H N がリール窓 D 1 6 0 を介して視認可能となっていればよい。また、第 1 筐体側基板 K K 1 及び第 2 筐体側基板 K K 2 の組み合わせは、図 1 3 7 (b) の例と同様に、筐体本体 K M に配置されたものであればよい。

20

【 1 3 3 4 】

＜ハーネスの脱離を想定した長さ 3 (前扉側に繋がるハーネスとの関係) ＞

遊技機 P の筐体本体 K M 内で用いられる第 1 ハーネス H N 1 (図示略) と、筐体本体 K M と前扉 D U 間で用いられる第 2 ハーネス H N 2 (図示略) との関係について考えることができる。筐体本体 K M 内で用いられる第 1 ハーネス H N 1 は、図 1 3 7 (b) 、 (c) の例のハーネス H N と同様の長さのものとする。図 1 3 9 に示すように、筐体本体 K M と前扉 D U 間で用いられる第 2 ハーネス H N 2 は、筐体本体 K M 内の基板 (ここでは第 1 筐体側基板 K K 1) と、前扉 D U に設けられた基板 M K とに接続されたハーネスである。

【 1 3 3 5 】

例えば、主制御基板 M が筐体本体 K M に設けられ、副制御基板 S が前扉 D U に設けられている場合には、これらに接続されたハーネスが、第 2 ハーネス H N 2 に該当する。そして、筐体本体 K M と前扉 D U の間の第 2 ハーネス H N 2 の長さ (X 1 4) を、筐体本体 K M 内の第 1 ハーネス H N 1 (長さ X 1 3) よりも長くする。第 2 ハーネス H N 2 の長さ (X 1 4) は、第 2 ハーネス H N 2 の筐体本体 K M 側が外れ、前扉 D U 側が接続を維持している状況、及び、第 2 ハーネス H N 2 の前扉 D U 側が外れ、筐体本体 K M 側が接続を維持している状況、のいずれにおいても、前扉 D U が閉鎖された状態において、第 2 ハーネス H N 2 が、リール窓 D 1 6 0 の内側 (開口内) の位置に達し、リール窓 D 1 6 0 を通して視認できる長さに設定されている。このようにすることで、第 2 ハーネス H N 2 のいずれかの端部が基板から離脱している場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して、第 2 ハーネス H N 2 が離脱していることを発見できる。

30

40

【 1 3 3 6 】

なお、外れた後の第 2 ハーネス H N 2 の方向によっては、リール窓 D 1 6 0 を介して第 2 ハーネス H N 2 が視認可能とならない場合があってもよく、すなわち、第 2 ハーネス H N 2 といずれかの基板との接続が外れた場合においては、当該外れた第 2 ハーネス H N 2 がリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して視認可能となっていればよい。換言すると、当該外れた第 2 ハーネス H N 2 がリールの手前側に向かって垂れ下がった場合に、リール窓 D 1 6 0 を介して視認可能となるように、第 2 ハーネス H N 2 の長さ (X 1 4) を設計すればよい。

【 1 3 3 7 】

50

より具体的には、第2ハーネスHN2の長さをX14、第2ハーネスHN2が接続される基板における第2ハーネスHN2を接続する端子からリール窓D160までの距離をY14としたときに、

$X14 > Y14$

となるよう構成すればよい。

【1338】

なお、第2ハーネスHN2を所定の留め具を使用して束ねている場合には、当該所定の留め具が外れている場合において、外れた第2ハーネスHN2がリール窓D160を介して視認可能となっていればよい。また、筐体本体KM側基板、及び、前扉DU側基板の組み合わせは、特に限定されず、筐体本体KM側に設けられる基板、及び、前扉DU側に設けられる基板の組み合わせであればよい。筐体本体KM側基板としては、主制御基板Mのほか、図137(b)、(c)の例と同様の基板を挙げることができる。また、前扉DU側基板としては、副制御基板Sのほか、画像制御基板(図示略、演出表示装置S40における画像表示を制御する基板)や、メダル数制御基板(メダルレスの回胴式遊技機の場合)などを挙げることができる。

【1339】

(まとめ)

尚、以上の実施例において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出(列記)することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離(上位概念化)は勿論のこと、以上の実施例において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【1340】

本態様(J1)に係る遊技機は、

前面に配置された前扉(前扉DUなど)と、

前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、リール(リールM50など)の停止のために遊技者により操作される停止ボタン(停止ボタンD40など)を照らす停止ボタンランプ(停止ボタンランプS60など)を含み、

電源投入があった状態で、前記停止ボタンランプを、前記発光装置の中で最初に発光させる

ことを特徴とする遊技機である。

【1341】

本態様(J2)に係る遊技機は、

前面に配置された前扉(前扉DUなど)と、

前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、

遊技の進行が可能となったことを示す機能を有する遊技進行開始報知装置(マックスベットランプなど)と、

遊技中の演出表示に用いることが可能な演出表示装置(演出表示装置S40など)と、を含み、

電源投入があった状態で、前記演出表示装置が第1A画像(暗い画像など)を表示し、遊技の進行が可能になると(マックスベットランプが点灯して遊技の進行が可能であることを報知することなど)、前記演出表示装置が前記第1A画像とは異なる第2A画像(通常画面、デモ画面など)を表示する

ことを特徴とする遊技機である。

【1342】

本態様(J3)に係る遊技機は、

前面に配置された前扉(前扉DUなど)と、

前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、遊技価値数(遊技メダル数など)の表示が可能な遊技価値数表示装

置（遊技メダル数表示装置など）を含み、

電源投入があった状態で、前記遊技価値数表示装置が、所定のテストパターン、獲得されている遊技価値数の順番で表示を行い、

電源投入から前記所定のテストパターンが表示されるまでの時間 $T1$ と、前記所定のテストパターンが表示されてから前記獲得されている遊技価値数が表示されるまでの時間 $T2$ との関係が、 $T1 < T2$ の関係を満たすことを特徴とする遊技機である。

【1343】

本態様（J4）に係る遊技機は、

前面に配置された前扉（前扉DUなど）と、

前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、リール（リールM50など）の停止のために遊技者により操作される停止ボタン（停止ボタンD40など）を照らす停止ボタンランプ（停止ボタンランプS60など）を含み、

前記リールの回転中に電断があり、その後に電源投入があった状態で、前記リールを回転させ、前記リールが1回転するよりも前に前記停止ボタンが操作されると前記リールの停止が可能であり、前記リールが1回転するよりも前に前記停止ボタンランプを有効態様（操作が有効であることの報知態様など）にて発光させることを特徴とする遊技機である。

【1344】

本態様（J5）に係る遊技機は、

前面に配置された前扉（前扉DUなど）と、

リール（リールM50など）を視認可能な透光状態、及び、前記リールの視認を妨げる遮光状態に変化可能な遮光装置（液晶シャッタなど）と、を備え、

電断があった状態で、前記リールが停止する前に前記遮光装置が遮光状態となることを特徴とする遊技機である。

【1345】

本態様（J6）に係る遊技機は、

筐体（遊技機筐体など）と、

前記筐体に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、

リール（リールM50など）の停止のために遊技者により操作される停止ボタン（停止ボタンD40など）を照らす停止ボタンランプ（停止ボタンランプS60など）と、

前記リールの照明に用いられるリールバックランプ（リールバックランプRBなど）と、を含み、

前記リールの回転中に電断があった状態で、前記リールバックランプの消灯前に、前記停止ボタンを無効とし、前記停止ボタンランプを無効態様（操作が無効であることの報知態様など、有効態様と点灯態様を変更すること、色を変更することなど）にすることを特徴とする遊技機である。

【1346】

本態様（J7）に係る遊技機は、

筐体（遊技機筐体など）と、

前記筐体に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、

前記発光装置には、リール（リールM50など）の照明に用いられるリールバックランプ（リールバックランプRBなど）を含み、

前記リールの回転中に電断があり、その後の電源投入があった状態で、前記リールバックランプが点灯するよりも前に、前記リールの回転を開始させることを特徴とする遊技機である。

【1347】

本態様（J8）に係る遊技機は、

10

20

30

40

50

前面に配置された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、遊技価値数（遊技メダル数など）の表示が可能な遊技価値数表示装置（遊技メダル数表示装置など）を含み、
電源投入があった状態で、前記遊技価値数表示装置に獲得されている遊技価値数が表示された後、遊技の進行が可能となる（ベットが可能になるなどの）ように制御することを特徴とする遊技機である。

【１３４８】

本態様（Ｊ９）に係る遊技機は、
前面に配置された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
遊技中の演出表示に用いることが可能な演出表示装置と、
遊技価値数（遊技メダル数など）の表示が可能な遊技価値数表示装置（遊技メダル数表示装置など）と、を含み、
電断があった状態で、前記演出表示装置が非表示となった後に、前記遊技価値数表示装置における遊技価値数の表示を非表示とする
ことを特徴とする遊技機である。

【１３４９】

本態様（Ｊ１０）に係る遊技機は、
前面に配置された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
演出に係るメニュー表示が可能な演出表示装置と、
遊技価値（遊技メダルなど）に係る操作に用いられる遊技価値管理ボタン（計数ボタン、ベットボタン、精算ボタンなど）を照明する遊技価値管理ボタンランプと、を含み、
前記遊技価値管理ボタンには、計数のための第１遊技価値管理ボタン（計数ボタンなど）と、
前記第１遊技価値管理ボタンとは異なる第２遊技価値管理ボタン（ベットボタン、精算ボタンなど）とを含み、
遊技価値の数量を記憶可能であり、
前記計数により前記遊技価値の数量の情報が外部に出力され、
電源投入があった状態で、前記第１遊技価値管理ボタンが有効となった後に前記第２遊技価値管理ボタンが有効となる
ことを特徴とする遊技機である。

【１３５０】

本態様（Ｊ１１）に係る遊技機は、
前面に配置された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
演出表示に用いることが可能な演出表示装置を含み、
前記演出表示装置は、
電源投入があったことを示す復帰画面と、
通常状態となったことを示す通常画面と、
設定変更中であることを示す設定変更中画面と、を表示可能であり、
前記通常画面が表示されている状態で電断があり、その後に設定変更を伴う電源投入があった状況において、前記演出表示装置の表示が、復帰画面、通常画面、設定変更中画面の順で遷移する
ことを特徴とする遊技機である。

【１３５１】

本態様（Ｊ１２）に係る遊技機は、
前面に配置された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記前扉に設けられた複数種類の発光装置と、を備え、
前記発光装置には、
演出表示に用いることが可能な演出表示装置を含み、
前記演出表示装置は、
電源投入があったことを示す復帰画面と、
通常状態となったことを示す通常画面と、
遊技機外部の貸出機との通信異常であるＶＬ異常があったことを示すＶＬ異常画面と、
を表示可能であり、

10

前記ＶＬ異常画面が表示されている状況で電断があり、その後に電源投入があった状況において、前記演出表示装置の表示が、前記復帰画面、前記ＶＬ異常画面、前記通常画面の順で遷移する

ことを特徴とする遊技機である。

【１３５２】

本態様（Ｋ１）に係る遊技機は、
筐体（筐体本体ＫＭなど）と、
前記筐体に開閉可能に設けられリール表示窓（リール表示窓Ｄ１６０など）が形成された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記筐体に設けられた第１筐体側基板（第１筐体側基板ＫＫ１など）及び第２筐体側基板（第２筐体側基板ＫＫ２など）と、
前記第１筐体側基板と前記第２筐体側基板とを電氣的に繋ぐハーネス（ハーネスＨＮなど）と、を備え、
前記第１筐体側基板が前記第２筐体側基板よりも前記リール表示窓から遠くに配置され、

20

前記ハーネスの長さが、前記ハーネスが、前記第１筐体側基板から外れ、前記第２筐体側基板から垂れ下がった場合に、前記リール表示窓内に正面視にて視認可能な長さであることを特徴とする遊技機である。

【１３５３】

本態様（Ｋ２）に係る遊技機は、
筐体（筐体本体ＫＭなど）と、
前記筐体に開閉可能に設けられリール表示窓（リール表示窓Ｄ１６０など）が形成された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記筐体に設けられた第１筐体側基板（第１筐体側基板ＫＫ１など）及び第２筐体側基板（第２筐体側基板ＫＫ２など）と、
前記第１筐体側基板と前記第２筐体側基板とを電氣的に繋ぐハーネス（ハーネスＨＮなど）と、を備え、
前記第２筐体側基板が前記第１筐体側基板よりも前記リール表示窓から近くに配置され、

30

前記ハーネスの長さが、前記ハーネスが、前記第２筐体側基板から外れ、前記第１筐体側基板から垂れ下がった場合に、前記リール表示窓内に正面視にて視認可能な長さであることを特徴とする遊技機である。

40

【１３５４】

本態様（Ｋ３）に係る遊技機は、
筐体（筐体本体ＫＭなど）と、
前記筐体に開閉可能に設けられリール表示窓（リール表示窓Ｄ１６０など）が形成された前扉（前扉ＤＵなど）と、
前記筐体に設けられた第１筐体側基板（第１筐体側基板ＫＫ１など）及び第２筐体側基板（第２筐体側基板ＫＫ２など）と、
前記前扉に設けられた扉側基板と、

50

前記第 1 筐体側基板と第 2 筐体側基板とを電氣的に繋ぐ第 1 ハーネス（第 1 ハーネス H N 1 など）と、

前記第 1 筐体側基板又は第 2 筐体側基板と、前記扉側基板とを繋ぐ第 2 ハーネス（第 2 ハーネス H N 2 など）と、を備え、

前記第 1 ハーネスよりも前記第 2 ハーネスの方が長いことを特徴とする遊技機である。

【符号の説明】

【 1 3 5 5 】

P	回胴式遊技機、D U	前扉（ドア）	
D	扉基板、D 1 0 s	投入受付センサ	10
D 2 0 s	第 1 投入センサ、D 3 0 s	第 2 投入センサ	
D 4 0	停止ボタン、D 4 1	左停止ボタン	
D 4 2	中停止ボタン、D 4 3	右停止ボタン	
D 5 0	スタートレバー、D 6 0	精算ボタン	
D 7 0	表示パネル、D 8 0	扉スイッチ（開閉検知装置）	
D 9 0	コインシュータ、D 1 0 0	ブロッカ	
D 1 3 0	上パネル、D 1 4 0	下パネル	
D 1 5 0	装飾ランプユニット、D 1 6 0	リール窓	
D 1 7 0	メダル投入口、D 1 8 0	スタートランプ	
D 2 9 0	再遊技ランプ、D 3 0 0	投入可能ランプ	20
D 2 0 0	クレジット数表示装置、D 2 1 0	投入数表示灯	
D 2 2 0	ベットボタン、D 2 3 0	メダル受け皿	
D 2 4 0	放出口、D 2 5 0	特別遊技状態表示装置	
D 2 6 0	鍵穴、D 2 7 0	払出数表示装置（押し順表示装置）	
D 2 8 0	A T カウンタ値表示装置		
D 3 1 0	リール窓枠ランプ		
D 3 4 0	メダル返却部材（所定連絡通路）		
D 3 4 1	メダル受入口		
D 3 4 2	メダル落下面		
D 3 4 3	メダル非落下面		30
M	主制御基板		
M 2 0	設定キースイッチ、M 3 0	設定／リセットボタン	
C	主制御チップ、M 5 0	リール	
M 5 1	左リール、M 5 2	中リール	
M 5 3	右リール、M 6 0	A T カウンタ	
M 7 0	遊技間隔最小タイマ		
S	副制御基板、S 1 0	L E D ランプ	
S 2 0	スピーカ、S 3 0	回胴バックライト	
S 4 0	演出表示装置、S C	副制御チップ	
E	電源基板、E 1 0	電源スイッチ	40
H	メダル払出装置（遊技媒体払出装置）、H 1 0 s	第 1 払出センサ	
H 2 0 s	第 2 払出センサ、H 4 0	ホッパ	
H 5 0	ディスク、H 5 0 a	ディスク回転軸	
H 6 0	遊技メダル出口、H 7 0	放出付勢手段	
H 8 0	ホッパモータ		
S 5 0	ベットボタンランプ、S 6 0	停止ボタンランプ	
K	回胴基板、K 1 0	回胴モータ	
K 2 0	回胴センサ		
I N	中継基板、S B	サブ入力ボタン	
K H c	高確保障カウンタ、Y K c - 1	有利区間残りゲーム数カウンタ	50

H S メダル補助タンク、M O リール帯

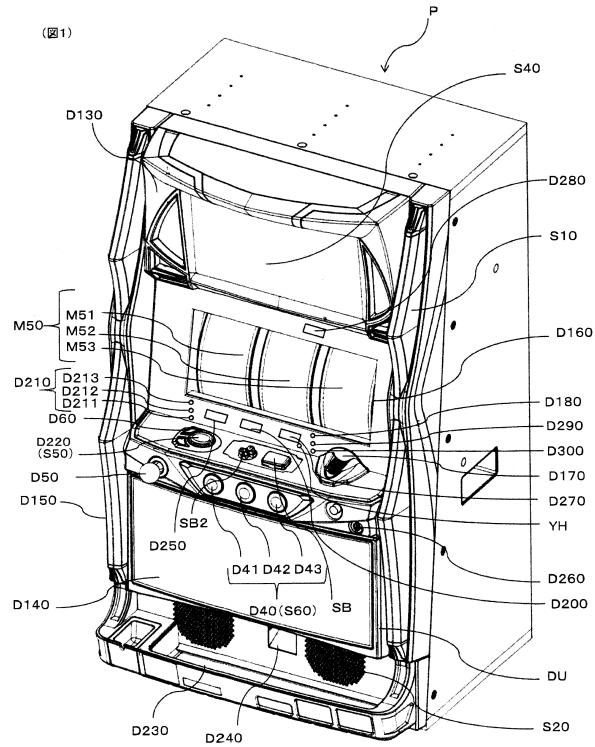
M 主制御基板

C P U M C マイクロプロセッサ、S H 性能表示装置

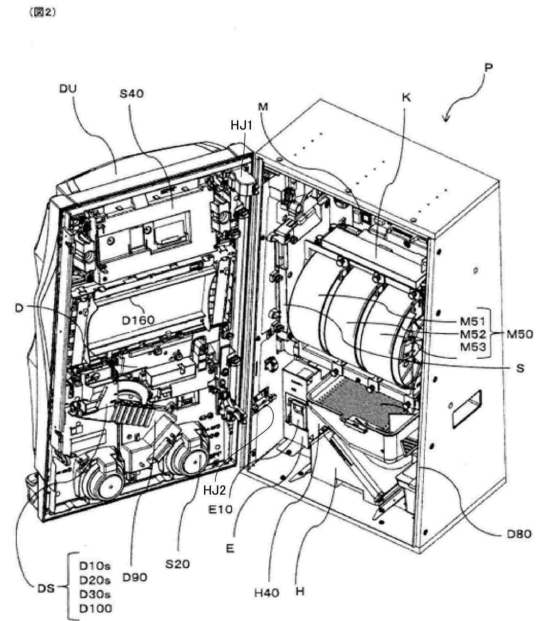
S H 1 0 識別セグ、S H 2 0 比率セグ

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

20

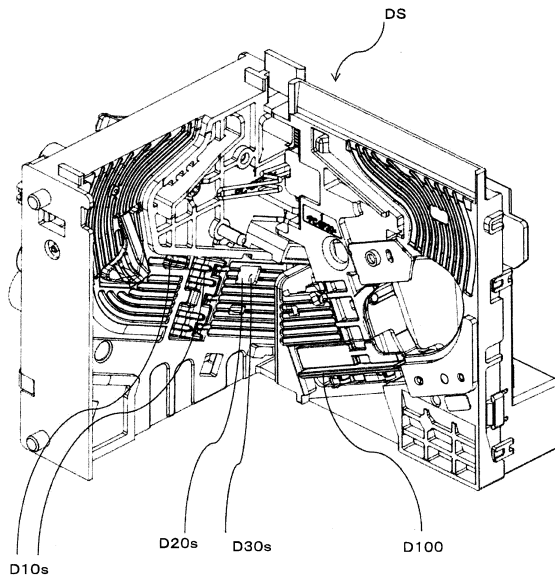
30

40

50

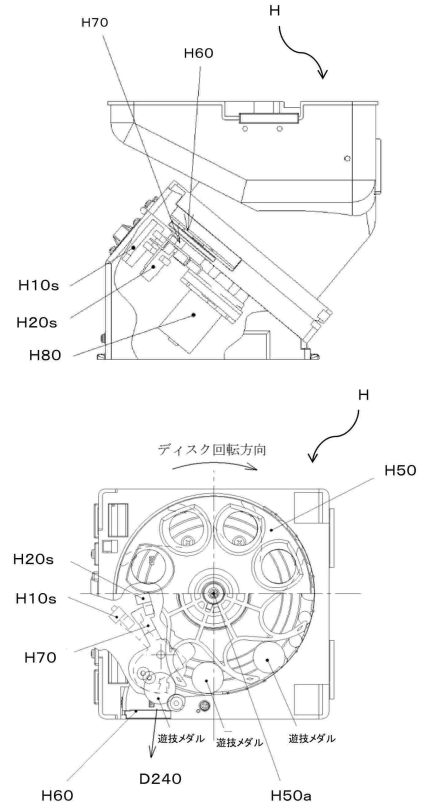
【図 3】

(図3)



【図 4】

(図4)



10

20

【図 5】

(図5)

【基本仕様一覧】

(1) 規定数

遊技状態	規定数
役物未作動時	3枚
1種BB-A～C作動時	3枚

(2) リールの名称及び停止ボタンとの関係

各リール20コマで構成

メイン	メイン	メイン
左リール	中リール	右リール

停止ボタン	停止リール
左ボタン	左リール
中ボタン	中リール
右ボタン	右リール

(3) 有効ライン

規定数3枚
有効ライン1

	左リール	中リール	右リール
上段			
中段			
下段			

【図 6】

(図6)
【リール配列一覧】

	左リール	中リール	右リール
0	リプレイ	ベル	ベル
19	黒ワフ	チェリー	リプレイ
18	スイカ	黒ワフ	スイカ
17	黒ワフ	スイカ	黒ワフ
16	ベル	リプレイ	チェリー
15	リプレイ	ベル	ベル
14	チェリー	チェリー	リプレイ
13	スイカ	白ワフ	スイカ
12	リプレイ	スイカ	星
11	ベル	リプレイ	チェリー
10	白ワフ	ベル	ベル
9	白ワフ	スイカ	リプレイ
8	スイカ	スイカ	スイカ
7	リプレイ	スイカ	チェリー
6	ベル	リプレイ	チェリー
5	リプレイ	ベル	ベル
4	チェリー	チェリー	リプレイ
3	星	星	リプレイ
2	スイカ	スイカ	白ワフ
1	ベル	リプレイ	チェリー

	図柄名称
1	黒ワフ
2	白ワフ
3	星
4	チェリー
5	ベル
6	リプレイ
7	リプレイ
8	スイカ
9	スイカ
10	チェリー

30

40

50

【図 7】

(図7)

【図柄組み合わせ一覧1】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
1				1種BリーA	1種B B	※B Aを連続作動、2と4枚の払出しで終了
2				1種BリーB	1種B B	※B Bを連続作動、1と2枚の払出しで終了
3				1種BリーC	1種B B	※B Bを連続作動、1と2枚の払出しで終了
4				再遊技01	再遊技	
5				再遊技01	再遊技	
6				再遊技02	再遊技	
7				再遊技02	再遊技	
8				再遊技02	再遊技	
9				再遊技02	再遊技	
10				再遊技03	再遊技	
11				再遊技03	再遊技	
12				再遊技03	再遊技	
13				再遊技03	再遊技	
14				再遊技04	再遊技	※T0へ移行（和楽）する図柄組合せ
15				再遊技04	再遊技	※T0へ移行（和楽）する図柄組合せ
16				再遊技04	再遊技	※T0へ移行（和楽）する図柄組合せ
17				再遊技05	再遊技	黒セブン下段揃い用
18				再遊技05	再遊技	白セブン下段揃い用
19				再遊技05	再遊技	
20				再遊技05	再遊技	

【図 8】

(図8)

【図柄組み合わせ一覧2】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
21				入賞01	11	
22				入賞01	11	
23				入賞02	11	
24				入賞03	11	
25				入賞03	11	
26				入賞03	11	
27				入賞03	11	
28				入賞04	11	
29				入賞04	11	
30				入賞04	11	
31				入賞05	11	
32				入賞06	11	
33				入賞06	11	
34				入賞06	11	
35				入賞06	11	
36				入賞07	11	
37				入賞07	11	
38				入賞07	11	
39				入賞08	1	押し順ペロ揃し目用
40				入賞08	1	押し順ペロ揃し目用

10

20

【図 9】

(図9)

【図柄組み合わせ一覧3】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
41				入賞08	1	押し順ペロ揃し目用
42				入賞08	1	押し順ペロ揃し目用
43				入賞09	1	押し順ペロ揃し目用
44				入賞09	1	押し順ペロ揃し目用
45				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
46				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
47				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
48				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
49				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
50				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
51				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
52				入賞10	1	押し順ペロ揃し目用
53				入賞11	1	押し順ペロ揃し目用
54				入賞11	1	押し順ペロ揃し目用
55				入賞11	1	押し順ペロ揃し目用
56				入賞11	1	押し順ペロ揃し目用
57				入賞12	11	
58				入賞12	11	
59				入賞13	11	
60				入賞14	11	
61				入賞14	11	
62				入賞14	11	
63				入賞15	11	
64				入賞15	11	
65				入賞16	11	
66				入賞16	11	
67				入賞17	11	

【図 10】

(図10)

【条件装置一覧】

条件装置	図柄	条件装置(名称)	条件装置(記号)	条件装置(説明)
1		再遊技01	1	再遊技01
2		再遊技02	2	再遊技02
3		再遊技03	3	再遊技03
4		再遊技04	4	再遊技04
5		再遊技05	5	再遊技05
6		再遊技06	6	再遊技06
7		再遊技07	7	再遊技07
8		再遊技08	8	再遊技08
9		再遊技09	9	再遊技09
10		再遊技10	10	再遊技10
11		再遊技11	11	再遊技11
12		再遊技12	12	再遊技12
13		再遊技13	13	再遊技13
14		再遊技14	14	再遊技14
15		再遊技15	15	再遊技15
16		再遊技16	16	再遊技16
17		再遊技17	17	再遊技17
18		再遊技18	18	再遊技18
19		再遊技19	19	再遊技19
20		再遊技20	20	再遊技20
21		再遊技21	21	再遊技21
22		再遊技22	22	再遊技22
23		再遊技23	23	再遊技23
24		再遊技24	24	再遊技24
25		再遊技25	25	再遊技25
26		再遊技26	26	再遊技26
27		再遊技27	27	再遊技27

30

40

50

【図 1 1】

(211)

当年度番号	事件名(要旨)・内容	役所	RTD	RT1	RT2	1件目 A、B、C
1	パレロ	パレロ	37444	11350	34261	
2	高田正一-A	高田正一	9000	1	9000	
3	高田正一-B	高田正一	1	4000	1	
4	高田正一-C	高田正一	1	4000	1	
5	高田正一-D	高田正一	1	10000	13000	
6	高田正一-E	高田正一	1	10000	13000	
7	高田正一-F	高田正一	1	10000	13000	
8	A-A1	高田正一	21730	21730	21730	
9	A-A2	高田正一	21730	21730	21730	
10	A-A3	高田正一	21730	21730	21730	
11	A-A4	高田正一	21730	21730	21730	
12	A-A5	高田正一	21730	21730	21730	
13	A-A6	高田正一	21730	21730	21730	
14	A-A7	高田正一	21730	21730	21730	
15	A-A8	高田正一	21730	21730	21730	
16	A-A9	高田正一	21730	21730	21730	
17	A-A10	高田正一	21730	21730	21730	
18	A-A11	高田正一	21730	21730	21730	
19	A-A12	高田正一	21730	21730	21730	
20	A-A13	高田正一	21730	21730	21730	
21	A-A14	高田正一	21730	21730	21730	
22	A-A15	高田正一	21730	21730	21730	
23	A-A16	高田正一	21730	21730	21730	
24	A-A17	高田正一	21730	21730	21730	
25	A-A18	高田正一	21730	21730	21730	
26	A-A19	高田正一	21730	21730	21730	
27	A-A20	高田正一	21730	21730	21730	
28	A-A21	高田正一	21730	21730	21730	
29	A-A22	高田正一	21730	21730	21730	
30	A-A23	高田正一	21730	21730	21730	
31	A-A24	高田正一	21730	21730	21730	
32	A-A25	高田正一	21730	21730	21730	
33	A-A26	高田正一	21730	21730	21730	
34	A-A27	高田正一	21730	21730	21730	
35	A-A28	高田正一	21730	21730	21730	
36	A-A29	高田正一	21730	21730	21730	
37	A-A30	高田正一	21730	21730	21730	
38	A-A31	高田正一	21730	21730	21730	
39	A-A32	高田正一	21730	21730	21730	
40	A-A33	高田正一	21730	21730	21730	
41	A-A34	高田正一	21730	21730	21730	
42	A-A35	高田正一	21730	21730	21730	
43	A-A36	高田正一	21730	21730	21730	
44	A-A37	高田正一	21730	21730	21730	
45	A-A38	高田正一	21730	21730	21730	
46	A-A39	高田正一	21730	21730	21730	
47	A-A40	高田正一	21730	21730	21730	
48	A-A41	高田正一	21730	21730	21730	
49	A-A42	高田正一	21730	21730	21730	
50	A-A43	高田正一	21730	21730	21730	
51	A-A44	高田正一	21730	21730	21730	
52	A-A45	高田正一	21730	21730	21730	
53	A-A46	高田正一	21730	21730	21730	
54	A-A47	高田正一	21730	21730	21730	
55	A-A48	高田正一	21730	21730	21730	
56	A-A49	高田正一	21730	21730	21730	
57	A-A50	高田正一	21730	21730	21730	
58	A-A51	高田正一	21730	21730	21730	
59	A-A52	高田正一	21730	21730	21730	
60	A-A53	高田正一	21730	21730	21730	
61	A-A54	高田正一	21730	21730	21730	
62	A-A55	高田正一	21730	21730	21730	
63	A-A56	高田正一	21730	21730	21730	
64	A-A57	高田正一	21730	21730	21730	
65	A-A58	高田正一	21730	21730	21730	
66	A-A59	高田正一	21730	21730	21730	
67	A-A60	高田正一	21730	21730	21730	
68	A-A61	高田正一	21730	21730	21730	
69	A-A62	高田正一	21730	21730	21730	
70	A-A63	高田正一	21730	21730	21730	
71	A-A64	高田正一	21730	21730	21730	
72	A-A65	高田正一	21730	21730	21730	
73	A-A66	高田正一	21730	21730	21730	
74	A-A67	高田正一	21730	21730	21730	
75	A-A68	高田正一	21730	21730	21730	
76	A-A69	高田正一	21730	21730	21730	
77	A-A70	高田正一	21730	21730	21730	
78	A-A71	高田正一	21730	21730	21730	
79	A-A72	高田正一	21730	21730	21730	
80	A-A73	高田正一	21730	21730	21730	
81	A-A74	高田正一	21730	21730	21730	
82	A-A75	高田正一	21730	21730	21730	
83	A-A76	高田正一	21730	21730	21730	
84	A-A77	高田正一	21730	21730	21730	
85	A-A78	高田正一	21730	21730	21730	
86	A-A79	高田正一	21730	21730	21730	
87	A-A80	高田正一	21730	21730	21730	
88	A-A81	高田正一	21730	21730	21730	
89	A-A82	高田正一	21730	21730	21730	
90	A-A83	高田正一	21730	21730	21730	
91	A-A84	高田正一	21730	21730	21730	
92	A-A85	高田正一	21730	21730	21730	
93	A-A86	高田正一	21730	21730	21730	
94	A-A87	高田正一	21730	21730	21730	
95	A-A88	高田正一	21730	21730	21730	
96	A-A89	高田正一	21730	21730	21730	
97	A-A90	高田正一	21730	21730	21730	
98	A-A91	高田正一	21730	21730	21730	
99	A-A92	高田正一	21730	21730	21730	
100	A-A93	高田正一	21730	21730	21730	
101	A-A94	高田正一	21730	21730	21730	
102	A-A95	高田正一	21730	21730	21730	
103	A-A96	高田正一	21730	21730	21730	
104	A-A97	高田正一	21730	21730	21730	
105	A-A98	高田正一	21730	21730	21730	
106	A-A99	高田正一	21730	21730	21730	
107	A-A100	高田正一	21730	21730	21730	
108	A-A101	高田正一	21730	21730	21730	
109	A-A102	高田正一	21730	21730	21730	
110	A-A103	高田正一	21730	21730	21730	
111	A-A104	高田正一	21730	21730	21730	
112	A-A105	高田正一	21730	21730	21730	
113	A-A106	高田正一	21730	21730	21730	
114	A-A107	高田正一	21730	21730	21730	
115	A-A108	高田正一	21730	21730	21730	
116	A-A109	高田正一	21730	21730	21730	
117	A-A110	高田正一	21730	21730	21730	
118	A-A111	高田正一	21730	21730	21730	
119	A-A112	高田正一	21730	21730	21730	
120	A-A113	高田正一	21730	21730	21730	
121	A-A114	高田正一	21730	21730	21730	
122	A-A115	高田正一	21730	21730	21730	
123	A-A116	高田正一	21730	21730	21730	
124	A-A117	高田正一	21730	21730	21730	
125	A-A118	高田正一	21730	21730	21730	
126	A-A119	高田正一	21730	21730	21730	
127	A-A120	高田正一	21730	21730	21730	
128	A-A121	高田正一	21730	21730	21730	
129	A-A122	高田正一	21730	21730	21730	
130	A-A123	高田正一	21730	21730	21730	
131	A-A124	高田正一	21730	21730	21730	
132	A-A125	高田正一	21730	21730	21730	
133	A-A126	高田正一	21730	21730	21730	
134	A-A127	高田正一	21730	21730	21730	
135	A-A128	高田正一	21730	21730	21730	
136	A-A129	高田正一	21730	21730	21730	
137	A-A130	高田正一	21730	21730	21730	
138	A-A131	高田正一	21730	21730	21730	
139	A-A132	高田正一	21730	21730	21730	
140	A-A133	高田正一	21730	21730	21730	
141	A-A134	高田正一	21730	21730	21730	
142	A-A135	高田正一	21730	21730	21730	
143	A-A136	高田正一	21730	21730	21730	
144	A-A137	高田正一	21730	21730	21730	
145	A-A138	高田正一	21730	21730	21730	
146	A-A139	高田正一	21730	21730	21730	
147	A-A140	高田正一	21730	21730	21730	
148	A-A141	高田正一	21730	21730	21730	
149	A-A142	高田正一	21730	21730	21730	
150	A-A143	高田正一	21730	21730	21730	
151	A-A144	高田正一	21730	21730	21730	
152	A-A145	高田正一	21730	21730	21730	
153	A-A146	高田正一	21730	21730	21730	
154	A-A147	高田正一	21730	21730	21730	
155	A-A148	高田正一	21730	21730	21730	
156	A-A149	高田正一	21730	21730	21730	
157	A-A150	高田正一	21730	21730	21730	
158	A-A151	高田正一	21730	21730	21730	
159	A-A152	高田正一	21730	21730	21730	
160	A-A153	高田正一	21730	21730	21730	
161	A-A154	高田正一	21730	21730	21730	
162	A-A155	高田正一	21730	21730	21730	
163	A-A156	高田正一	21730	21730	21730	
164	A-A157	高田正一	21730	21730	21730	
165	A-A158	高田正一	21730	21730	21730	
166	A-A159	高田正一	21730	21730	21730	
167	A-A160	高田正一	21730	21730	21730	
168	A-A161	高田正一	21730	21730	21730	
169	A-A162	高田正一	21730	21730	21730	
170	A-A163	高田正一	21730	21730	21730	
171	A-A164	高田正一	21730	21730	21730	
172	A-A165	高田正一	21730	21730	21730	
173	A-A166	高田正一	21730	21730	21730	
174	A-A167	高田正一	21730	21730	21730	
175	A-A168	高田正一	21730	21730	21730	
176	A-A169	高田正一	21730	21730	21730	
177	A-A170	高田正一	21730	21730	21730	
178	A-A171	高田正一	21730	21730	21730	
179	A-A172	高田正一	21730	21730	21730	
180	A-A173	高田正一	21730	21730	21730	
181	A-A174	高田正一	21730	21730	21730	
182	A-A175	高田正一	21730	21730	21730	
183	A-A176	高田正一	21730	21730	21730	
184	A-A177	高田正一	21730	21730	21730	
185	A-A178	高田正一	21730	21730	21730	
186	A-A179	高田正一	21730	21730	21730	
187	A-A180	高田正一	21730	21730	21730	
188	A-A181	高田正一	21730	21730	21730	
189	A-A182	高田正一	21730	21730	21730	
190	A-A183	高田正一	21730	21730	21730	
191	A-A184	高田正一	21730	21730	21730	
192	A-A185	高田正一	21730	21730	21730	
193	A-A186	高田正一	21730	21730	21730	
194	A-A187	高田正一	21730	21730	21730	
195	A-A188	高田正一	21730	21730	21730	
196	A-A189	高田正一	21730	21730	21730	
197	A-A190					

RT2(BB内郎中)において、当選番号19、20又は24のBB役が当選した場合には、BB役は無効となりハズレと同様の停止表示態様となる。

RT形式	RT0	RT1	RT2
西渡抜	9004	35800	12501
11枚位	18464	18464	18464
分冊	65536	65536	65536
1遊抜ありの 反転抽出	3.511291504	4.737915032	3.67137146
1遊抜ありの モデル増減期待補	1.176430501	1.578305013	1.223790487

【共通ベル出現率】

共通ベル (RT状態に拘らず出願番号は一律)			
設定1	3204	設定2	3404
設定4	3904	設定5	4204
		設定6	4504

※共通ベルの出現率(抽選確率)は設定値によって相違する。

また、共通選べルに当選しても、AT抽選、AT上乗せ抽選及び高確率状態移行抽選は実行されない。

【1種B-B-A出現率】

設定1	設定2	設定3
40	40	40
設定4	設定5	設定6
40	40	40

※1種BB-A及び1種BB-C(含算)の出現率は
約90%に約10%と、ほぼ等しい。

1種BB-B(含算)の出現率

1種BB-B(古舞)の出現率
設定値によって相違する

【1種BB-B出現率】

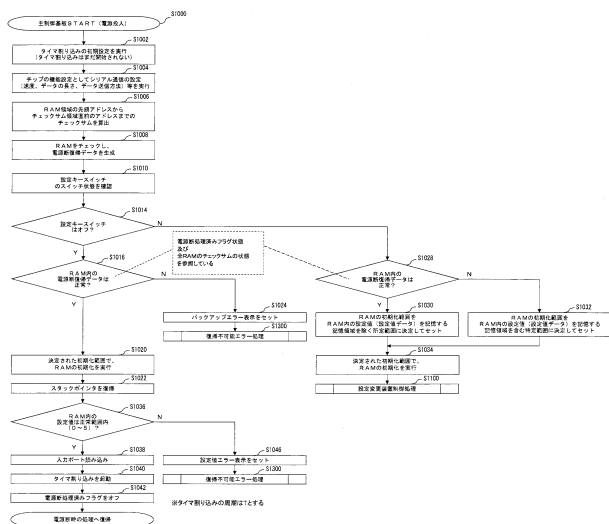
設定1	設定2	設定3	設定4
	150	180	200
設定5	設定6	設定7	設定8
220	240	260	270

【1種目B-C出現率】

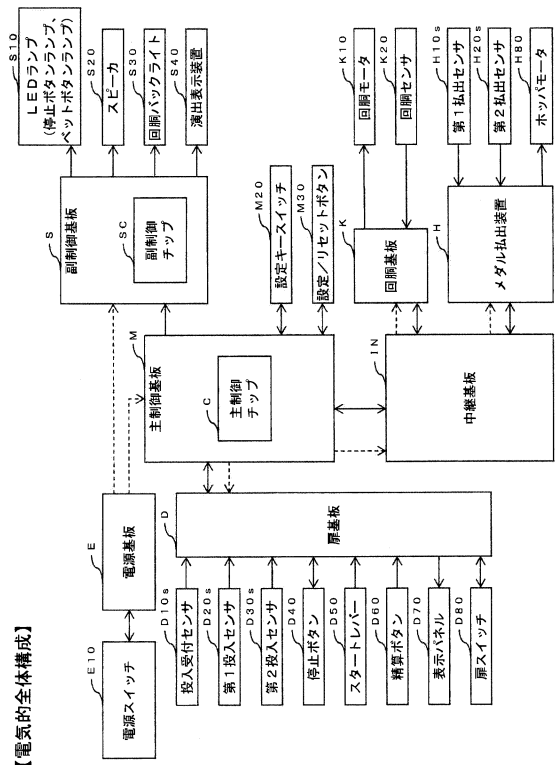
設定1	設定2	設定3
180	160	160
設定4	設定5	設定6
180	180	180

【図 13】

(圖13)



【圖 12】

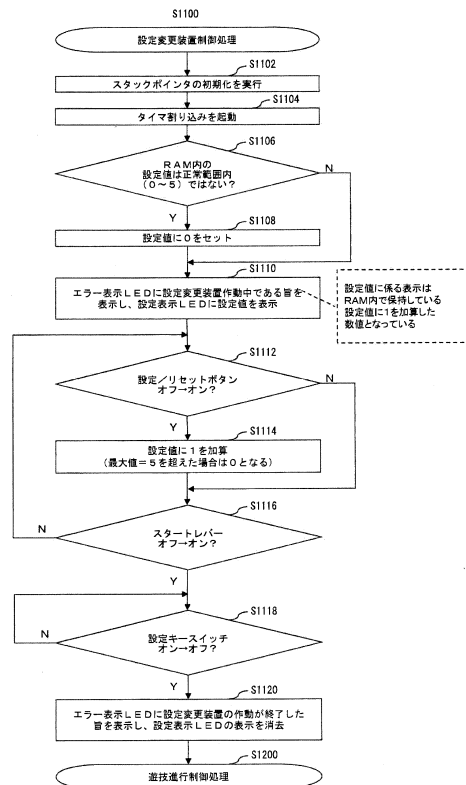


(X12)

【電氣の全体構成】

【圖 14】

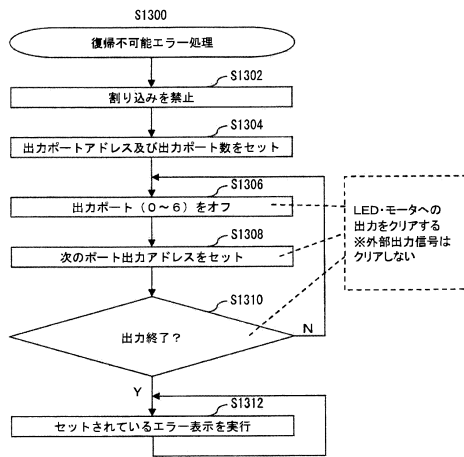
(图14)



1

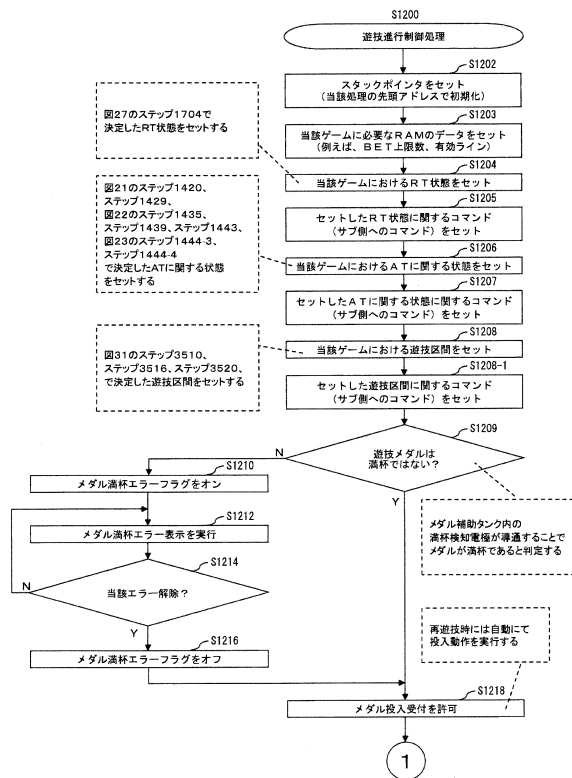
【図 15】

(図15)



【圖 16】

(图16)

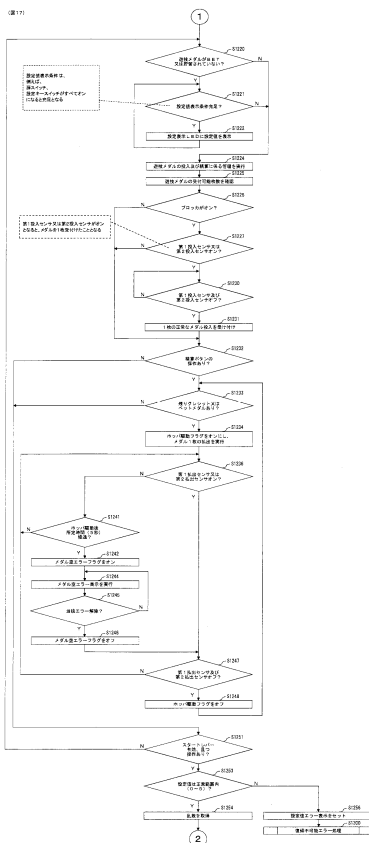


10

20

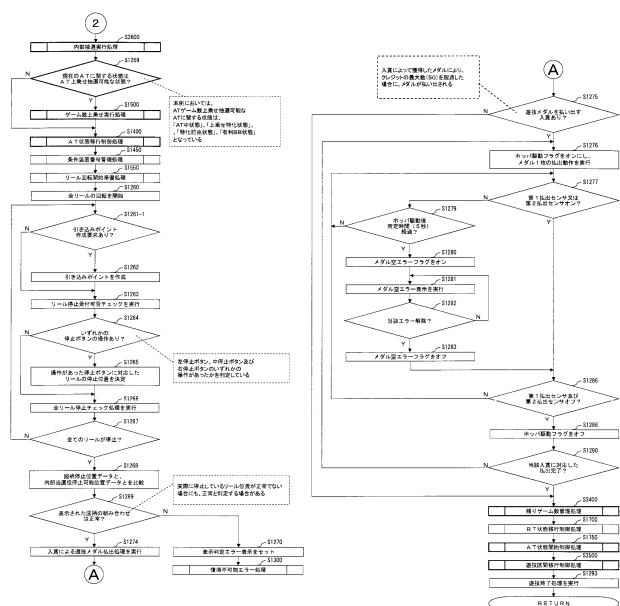
【圖 17】

(圖17)



【圖 18】

(圖18)



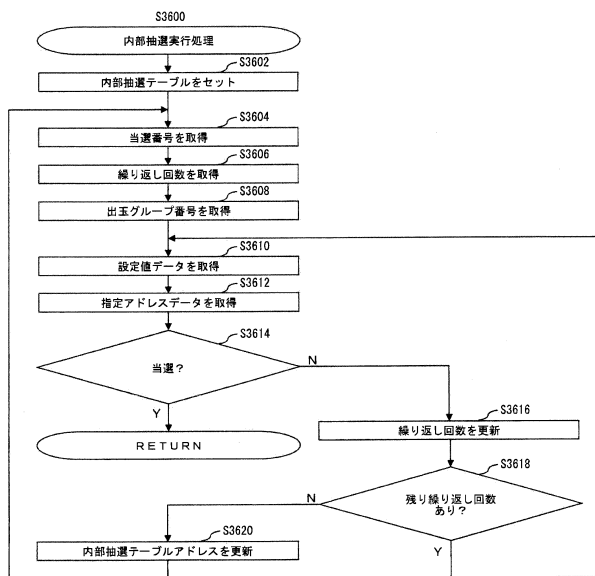
30

40

50

【図 19】

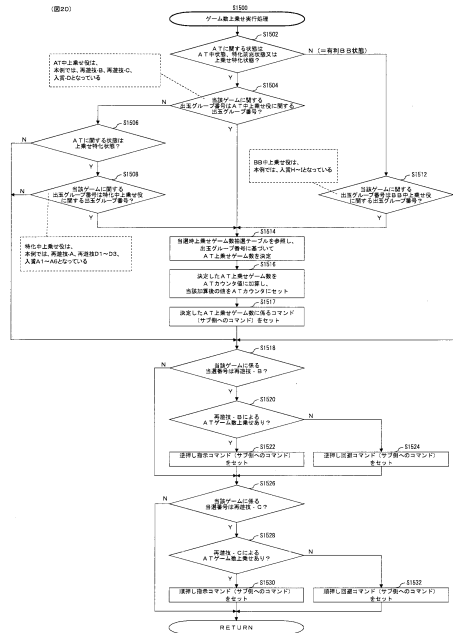
(图19)



10

【圖 20】

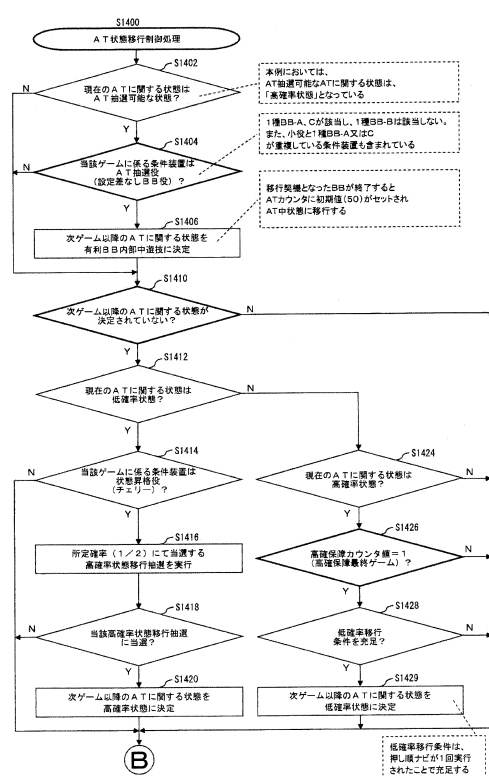
(20)



20

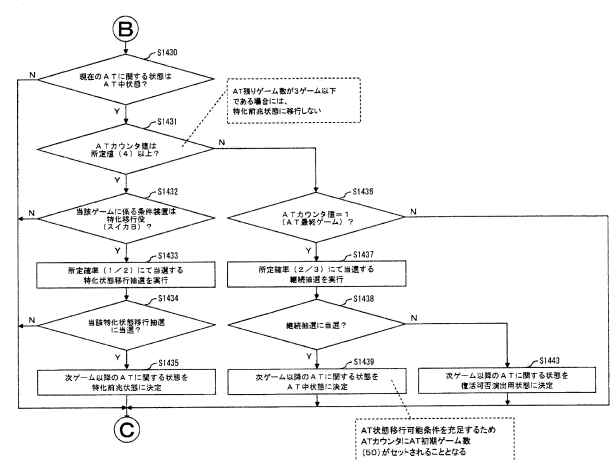
【図 2 1】

(圖21)



【圖 2 2】

(图22)

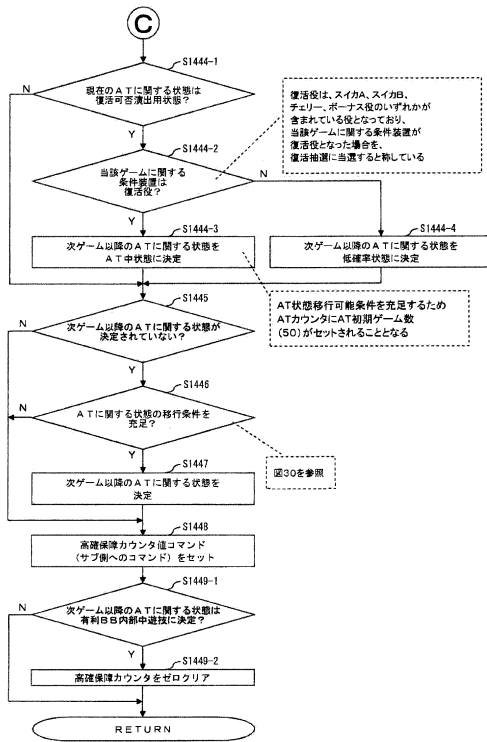


30

40

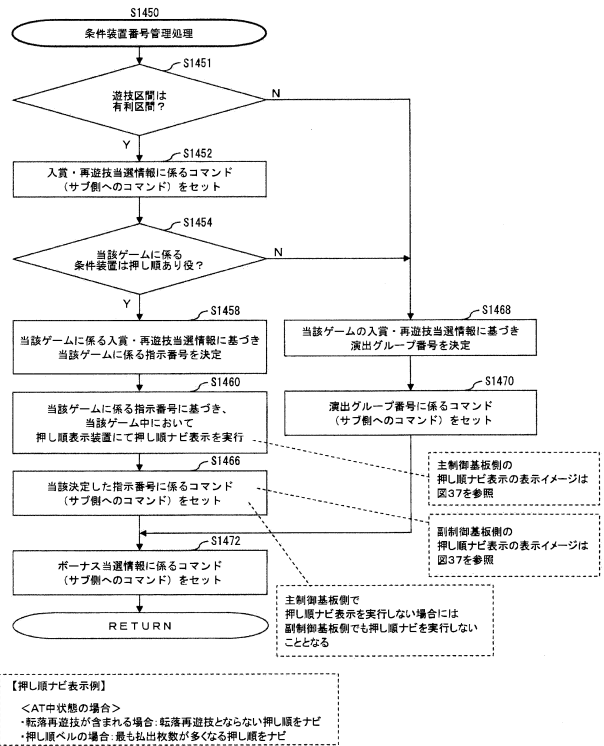
【図 23】

(図23)



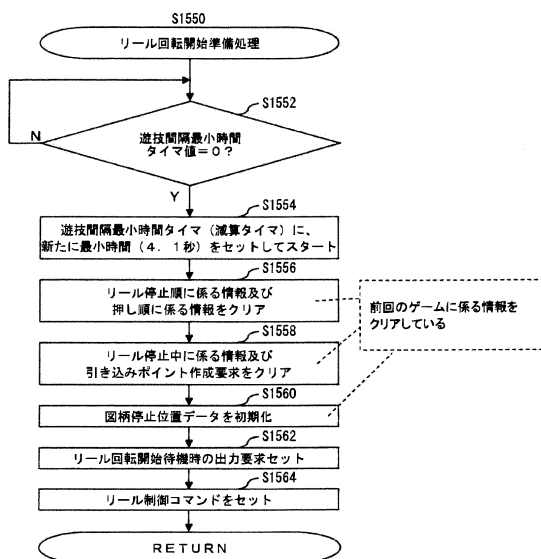
【図 24】

(図24)



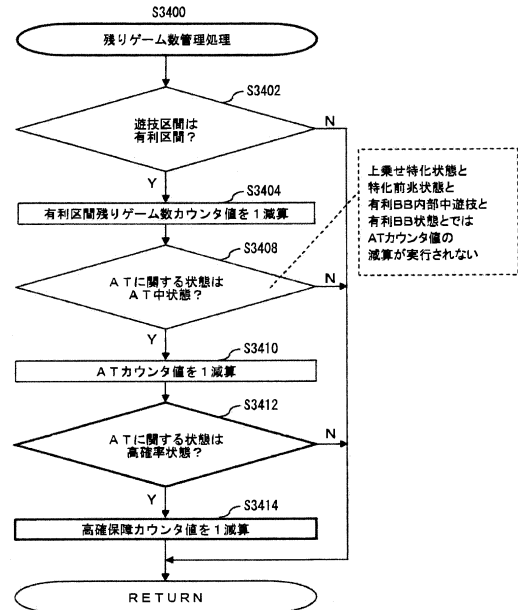
【図 25】

(図25)



【図 26】

(図26)



10

20

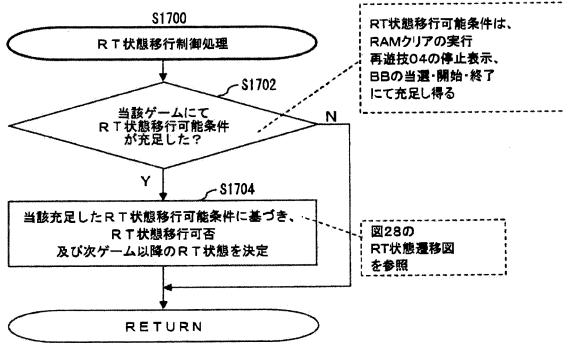
30

40

50

【図 27】

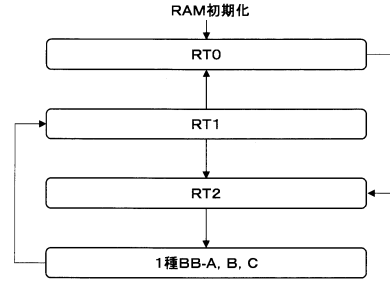
(圖27)



【圖 28】

(図28)

【RT狀態遷移図】



【RT状態の変動条件】

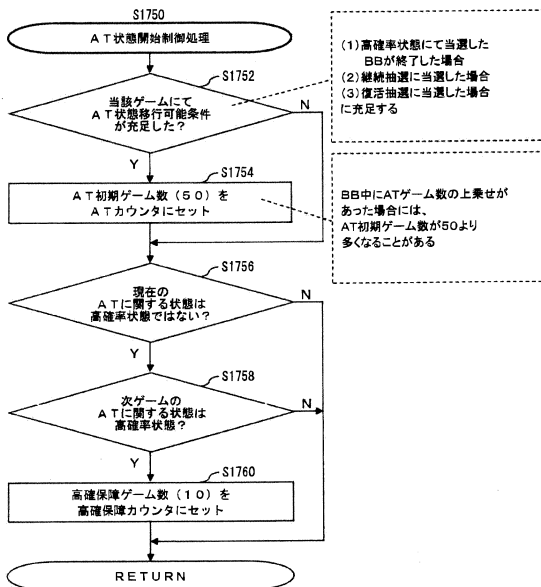
名称	遊技数	開始条件	終了条件	移行先
RT0	∞	RAM初期化 再遊技04図柄表示	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	RT2
RT1	∞	1種BB-A、B、C 作動終了	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	RT2
			再遊技04図柄表示	RT0
RT2	∞	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	1種BB-A、B、C 作動	1種BB-A、 B、C
1種BB-A、B、C	—	1種BB-A、B、C 作動	1種BB-A、B、C 作動終了	RT1

10

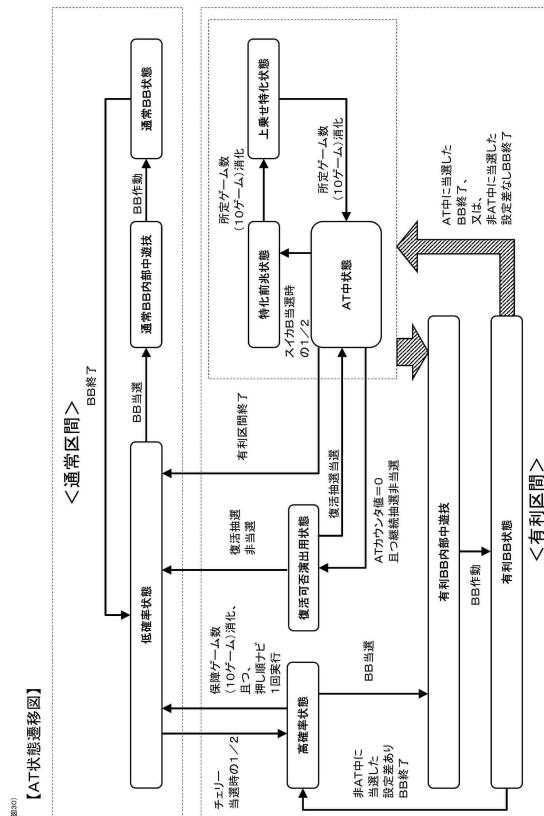
20

【圖 29】

(圖29)



【図 30】



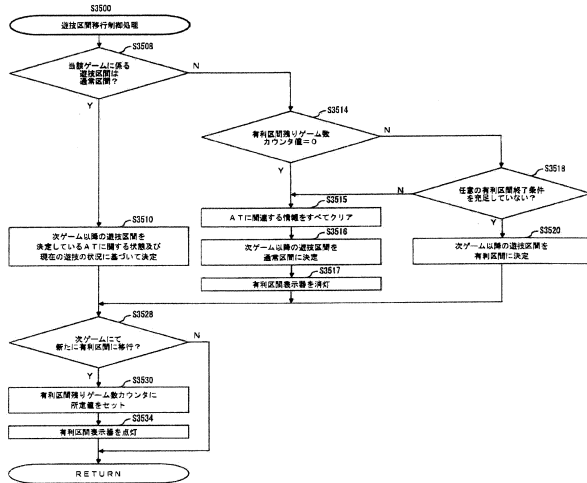
30

40

50

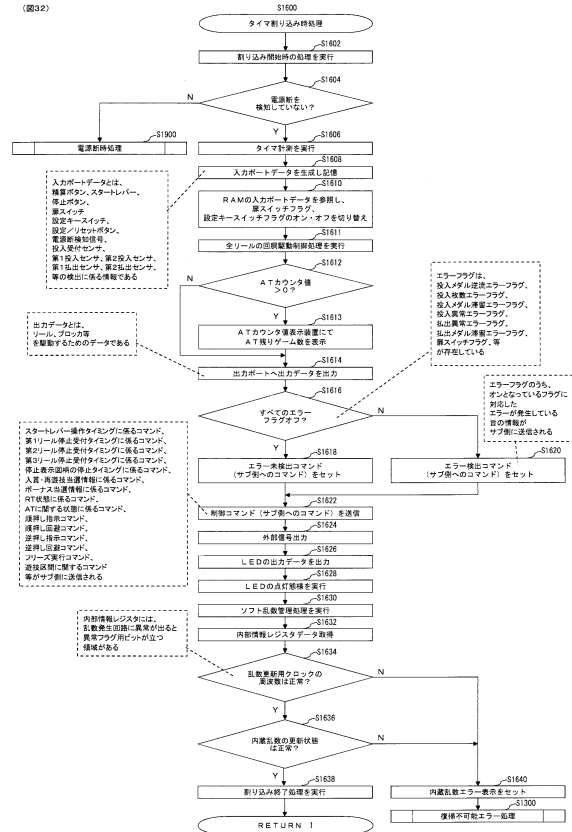
【図 3 1】

〔圖31〕



【圖 3 2】

(圖32)

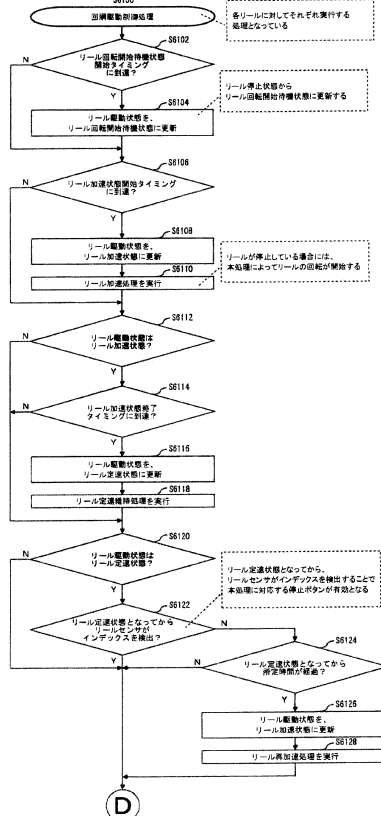


10

20

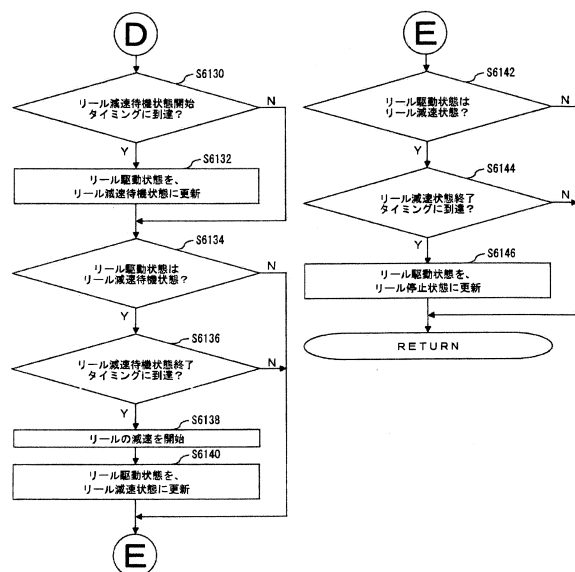
【図 3 3】

{M33}



【圖 3 4】

(图34)

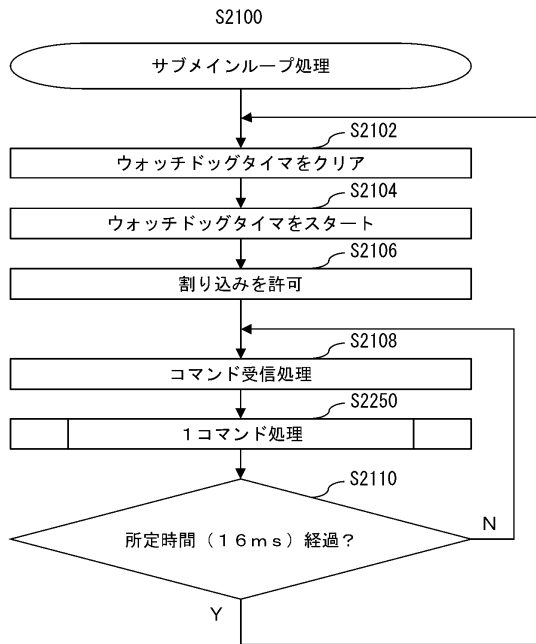


30

40

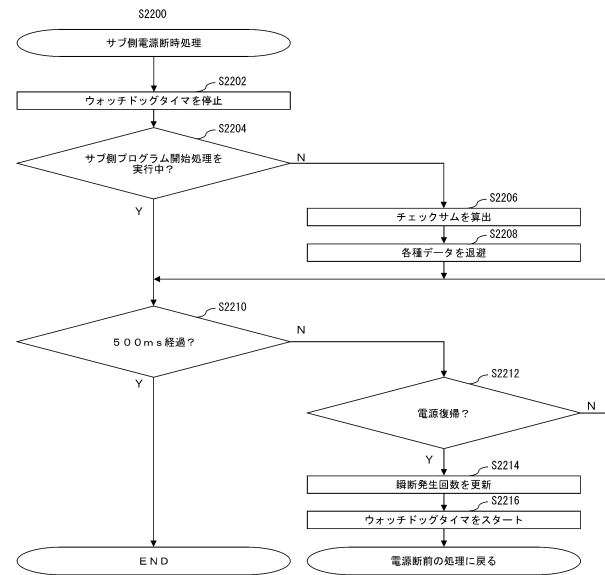
【図 39】

(図39)



【図 40】

(图40)

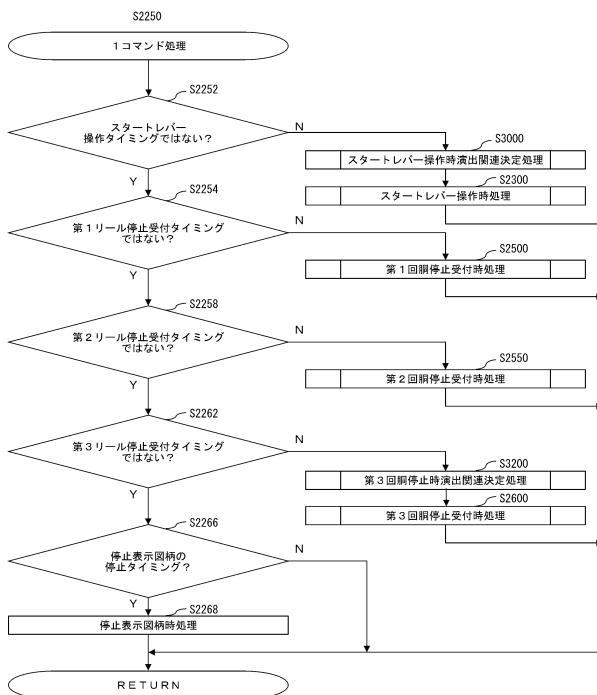


10

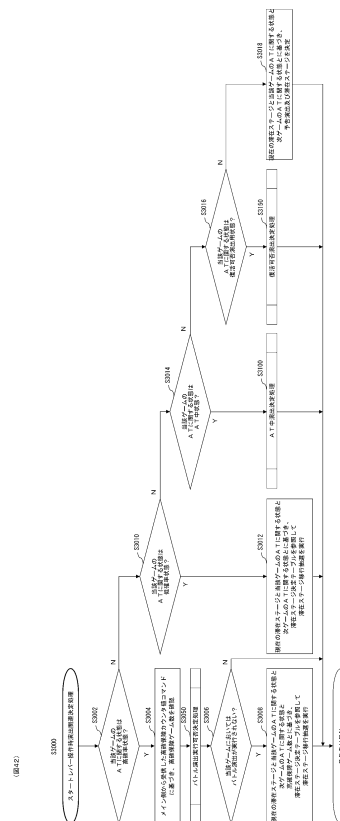
20

【図 4 1】

(圖41)



【圖 42】

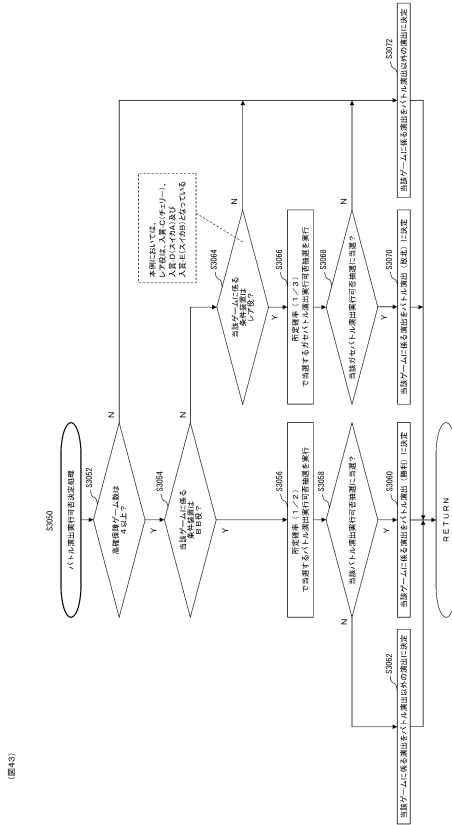


30

40

50

【圖 4 3】



(43)

【圖 4 4】

(图44)

【滞在ステージ決定テーブルの一例】(一部抜粋)

＜当該ゲームが低確率状態＞

戦者の 陣位スレー	次のゲームの AIに与える状態	編成ツールの名前と 編成ツールの概要	数値
砂流スレー	伝説の絆 文豪は 戦死した 内戦中選抜	砂流スレーの概要 砂流スレー-伝説スレー	0-079 980-099
衝スレー		衝スレー-砂流スレー 衝スレーの概要	0-10 20-099
		砂流スレーの概要 砂流スレー-衝スレー	0-249 250-499
砂流スレー		砂流スレー-衝スレー 砂流スレー-血闘スレー	500-749 750-999
	高橋三社	砂流スレー-死闘スレー 衝スレー-砂流スレー	0-249 250-499
衝スレー		衝スレーの概要 衝スレー-血闘スレー	500-749 750-999
		衝スレー-死闘スレー	500-749

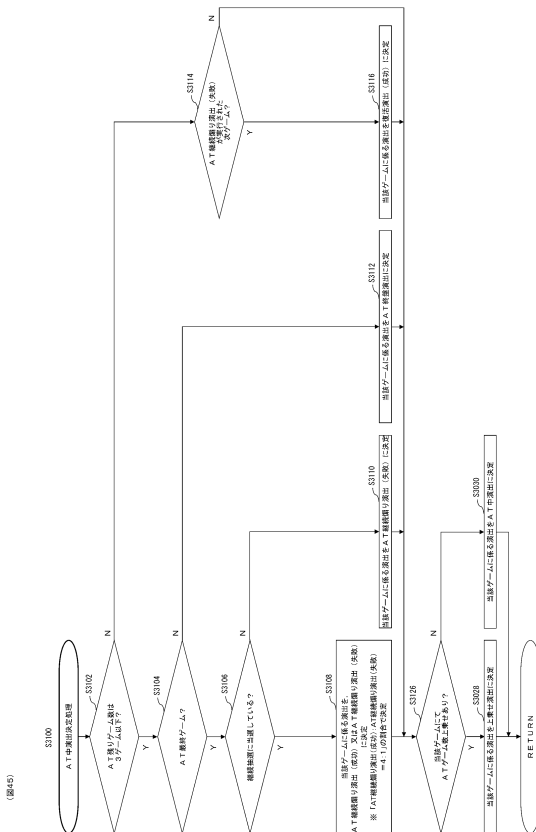
＜当該ゲームが高確率状態且つ高確保障ゲーム数が4以上＞

＜当該ゲームが高確率状態且つ高確保障ゲーム数が3以下＞

乗客の 滞在スペース	高齢者への滞在スペース	距離
	砂浜スペースの広さ	0-879
砂浜スペース	砂浜スペース→海側スペース	880-929
	砂浜スペース→会館側スペース	930-959
	砂浜スペース→混雑スペース	960-999
	混雑スペース→砂浜スペース	0-879
混雑スペース	混雑スペースの広さ	880-929
	混雑スペース→会館側スペース	930-959
	混雑スペース→混雑スペース	960-999
	会館側スペース→砂浜スペース	0-879
会館側スペース	会館側スペース→混雑スペース	0-49
	会館側スペース→混雑スペース	0-49
	会館側スペースの広さ	100-949
	会館側スペース→混雑スペース	950-999
混雑スペース	混雑スペース→砂浜スペース	0-49
	混雑スペース→海側スペース	0-49
	混雑スペース→会館側スペース	100-199
	混雑スペースの広さ	200-999

現在の サービス状況	次期への AT1に関する予想	当該ゲームの現在のステージ	差数
秒速ステージ		秒速ステージのままで 秒速ステージ→無敵ステージ	0→-0.79 980→999
無敵ステージ		無敵ステージ→秒速ステージ	0→19
無敵ステージ	無敵率表示 は、 有利益 内容で非表示	無敵ステージのままで 無敵ステージ→無敵ステージ	20→999
無敵ステージ		無敵ステージ→秒速ステージ	30→99
無敵ステージ		無敵ステージのままで 無敵ステージ→秒速ステージ	320→999
同僚ステージ		同僚ステージ→秒速ステージ	0→29
同僚ステージ		同僚ステージ→無敵ステージ	30→50
同僚ステージ		同僚ステージ→無敵ステージ	600→99
同僚ステージ		同僚ステージのままで 同僚ステージ→秒速ステージ	100→999
秒速ステージ		秒速ステージのままで 秒速ステージ→無敵ステージ	0→-0.49 500→999
無敵ステージ		無敵ステージ→秒速ステージ	0→-0.49
無敵ステージ	経緯率表示	無敵ステージのままで 無敵ステージ→秒速ステージ	500→999
無敵ステージ		無敵ステージ→秒速ステージ	0→-0.49
無敵ステージ		無敵ステージ→無敵ステージ	500→999
無敵ステージ		無敵ステージ→秒速ステージ	0→-0.49
無敵ステージ		無敵ステージ→無敵ステージ	500→999

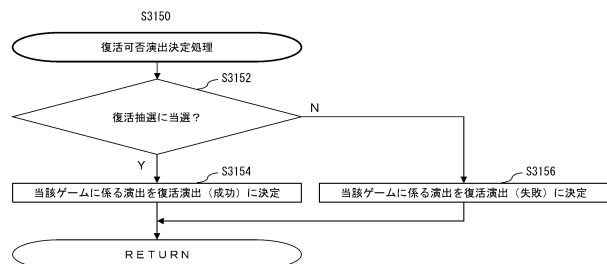
【圖 4 5】



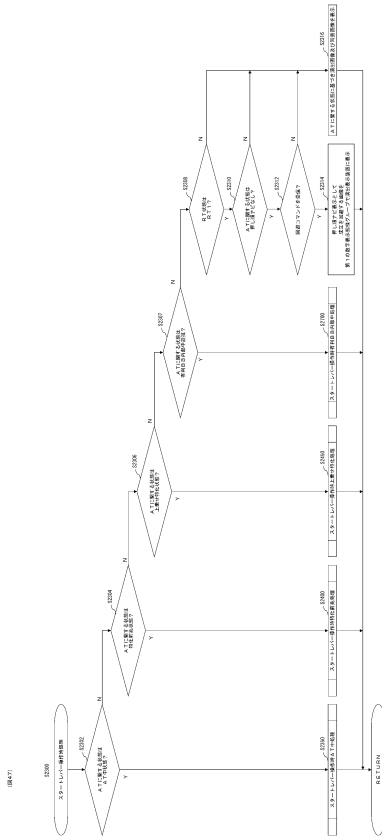
(245)

【圖 46】

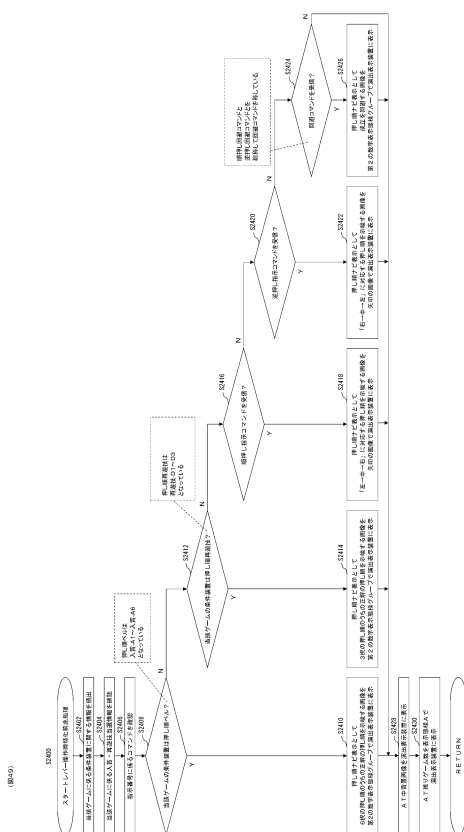
(图46)



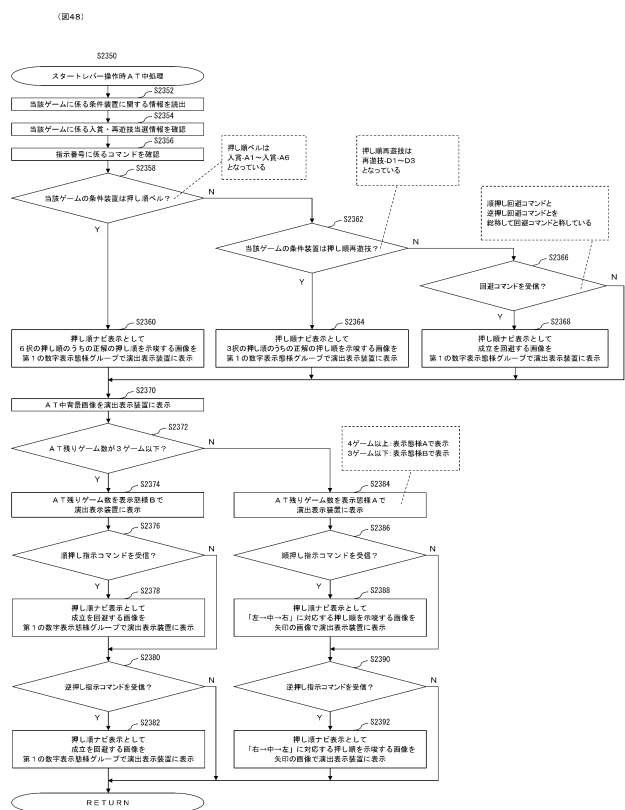
【図 47】



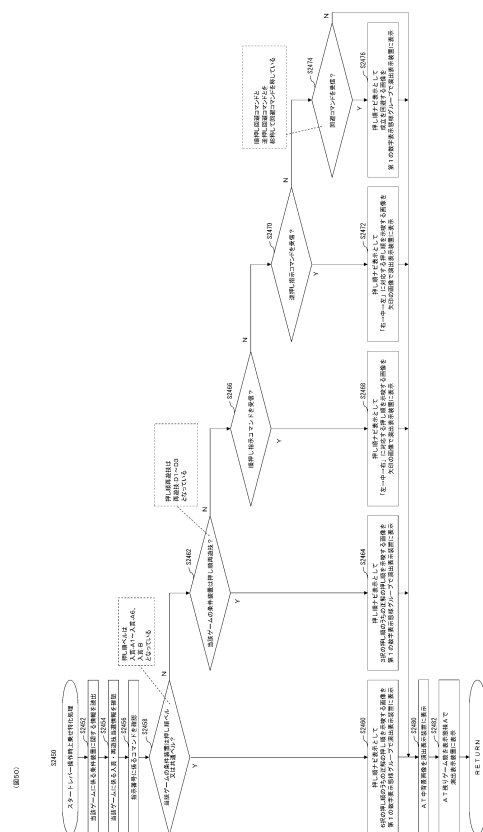
【圖 49】



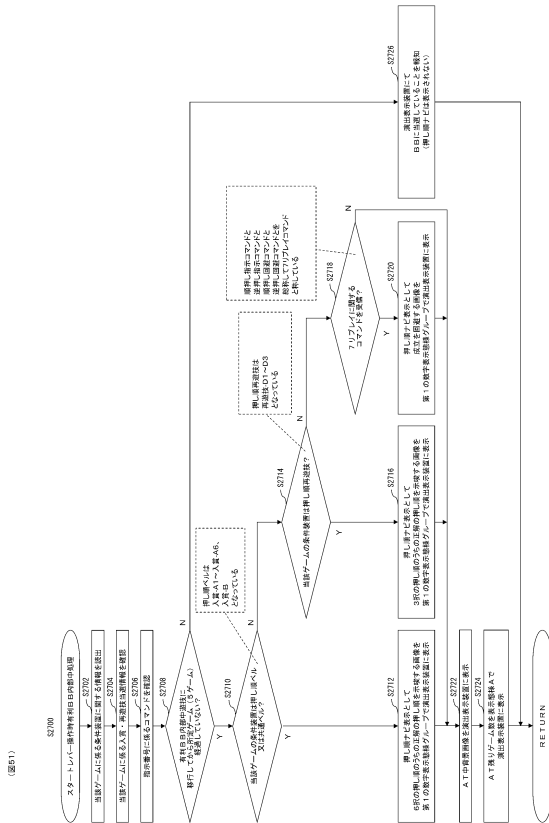
【図 48】



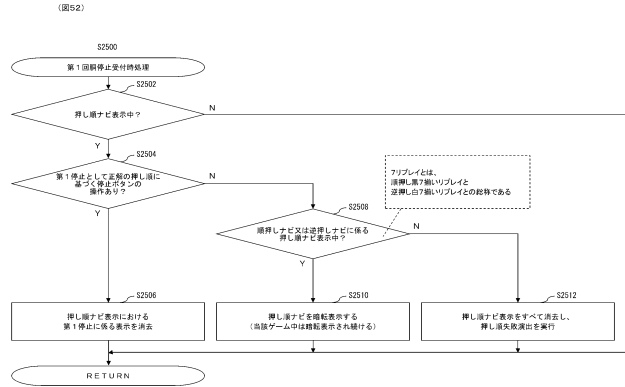
【図 50】



【図 5 1】



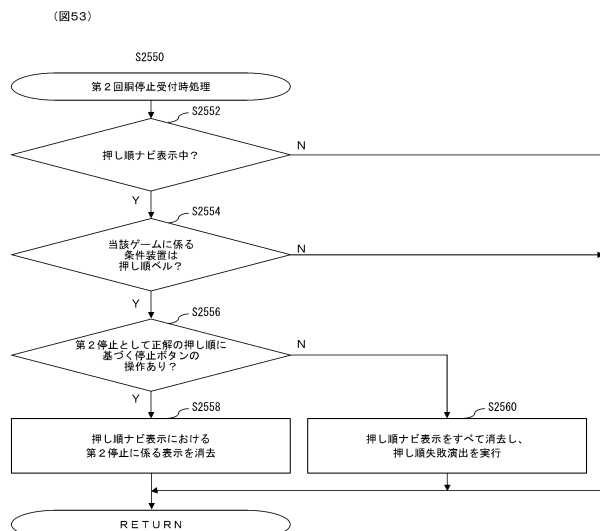
【圖 5 2】



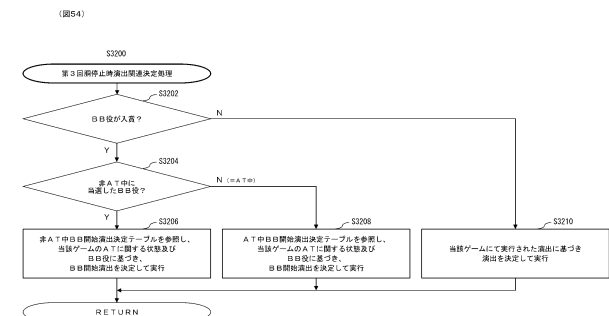
10

20

【圖 5 3】



【圖 5 4】



試合名	対戦チームの A/T/T選手名と人数	試合結果と 得点
経産大杯(国体) (1戦目 B)	遠東高校 の内野手達	遠東高校 17/0・2/0
		高橋裕彦選手 77・2/0
		プレスアタック 0・2/0
	有明高校 の内野手達	遠東高校 17/0・2/0
		高橋裕彦選手 77・2/0
		プレスアタック 0・2/0
経産大杯(国体) (2戦目 A・B 1戦目 C)	遠東高校 の内野手達	遠東高校 17/0・2/0
		高橋裕彦選手 77・2/0
		プレスアタック 0・2/0
	有明高校 の内野手達	遠東高校 17/0・2/0
		高橋裕彦選手 15/0・2/0
		プレスアタック 3/0・2/0

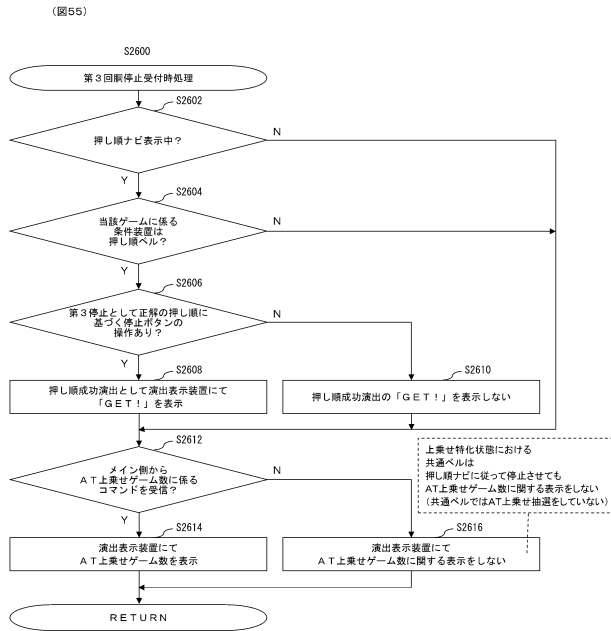
ロシ	当選ゲームの ATに關する状態	ロシ開始演出	選数
設定番号4のロシ (1種ロシ B)	有利ロシ 内蔵中ロシ	上座可能演出	0/256
		上座不可演出	256/256
設定番号15のロシ (3種ロシ A、 1種ロシ C)	有利ロシ 内蔵中ロシ	上座可能演出	256/256
		上座不可演出	0/256

30

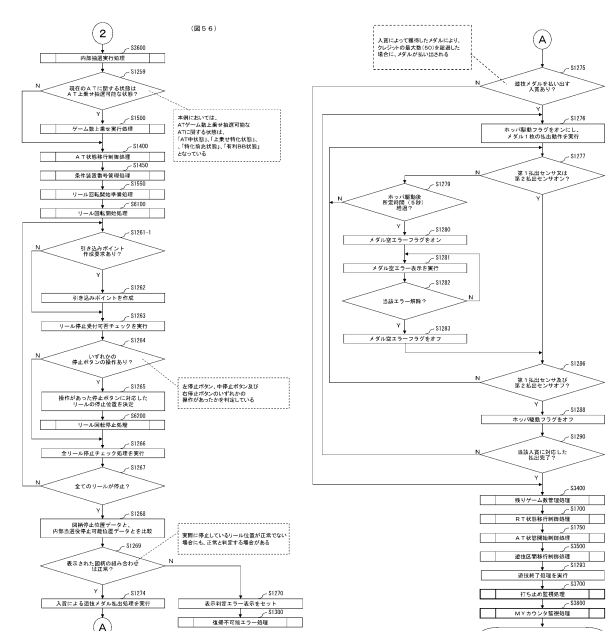
40

50

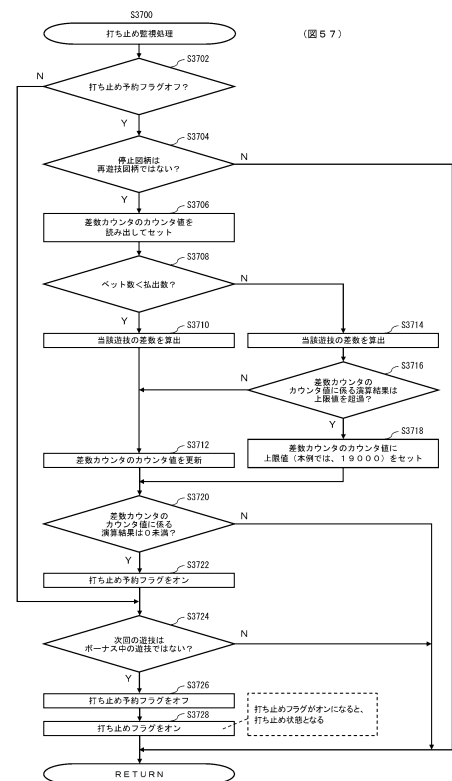
【図 55】



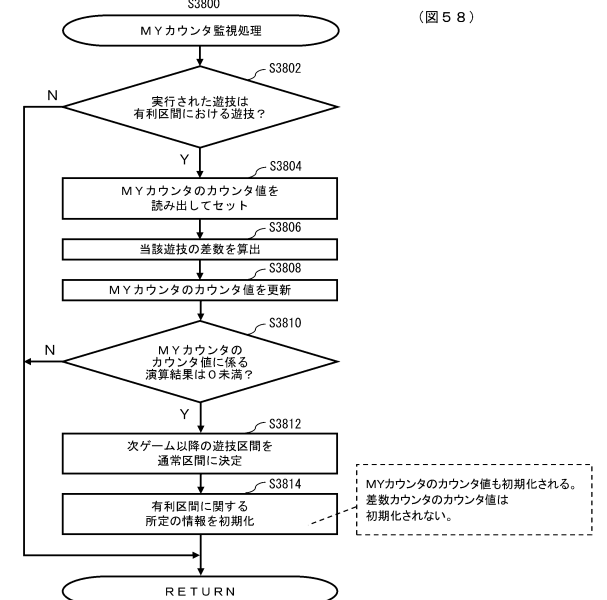
【図 56】



【図 57】



【図 58】



10

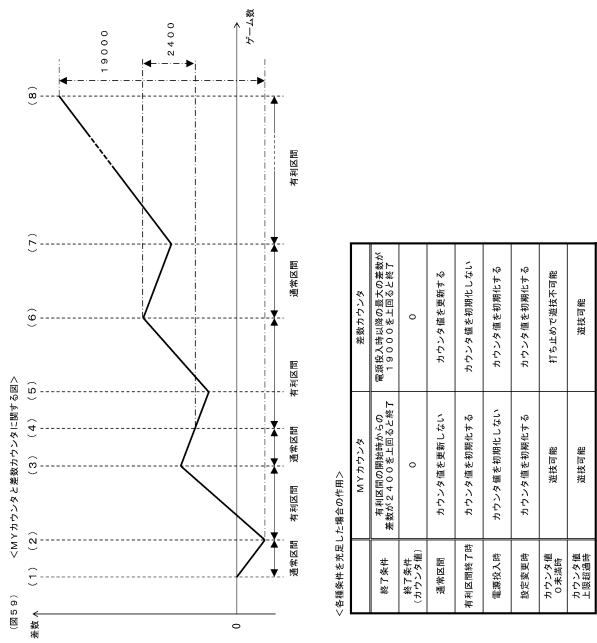
20

30

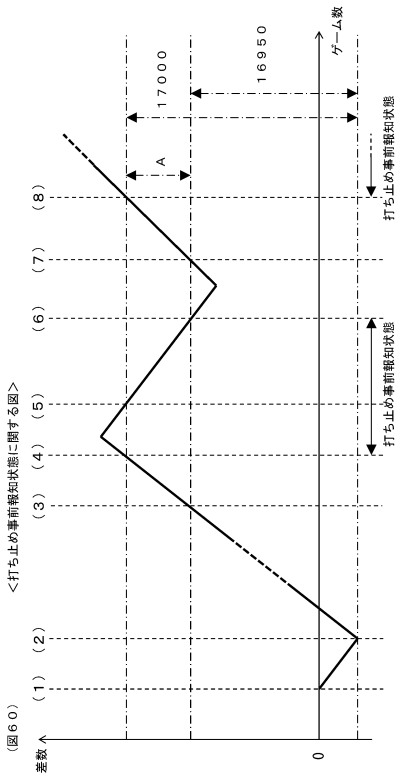
40

50

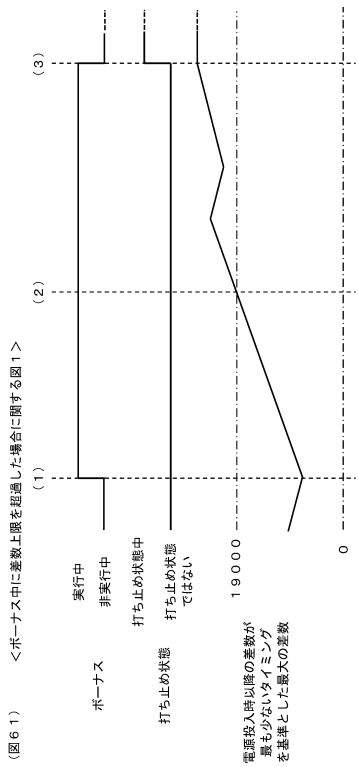
【図 59】



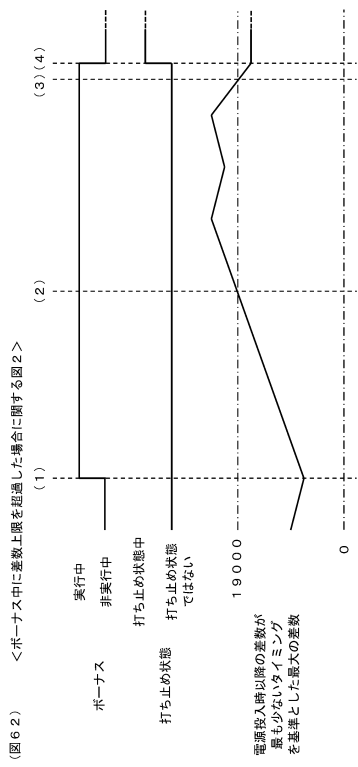
【図 60】



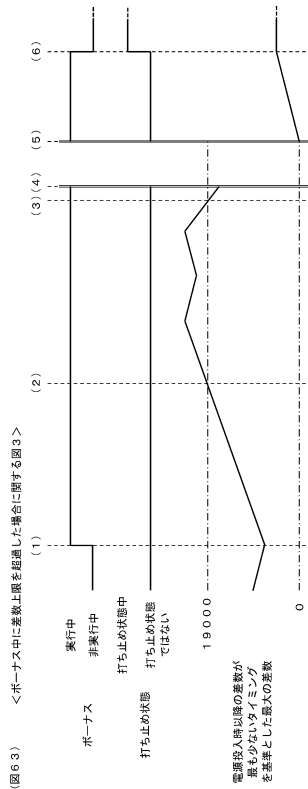
【図 61】



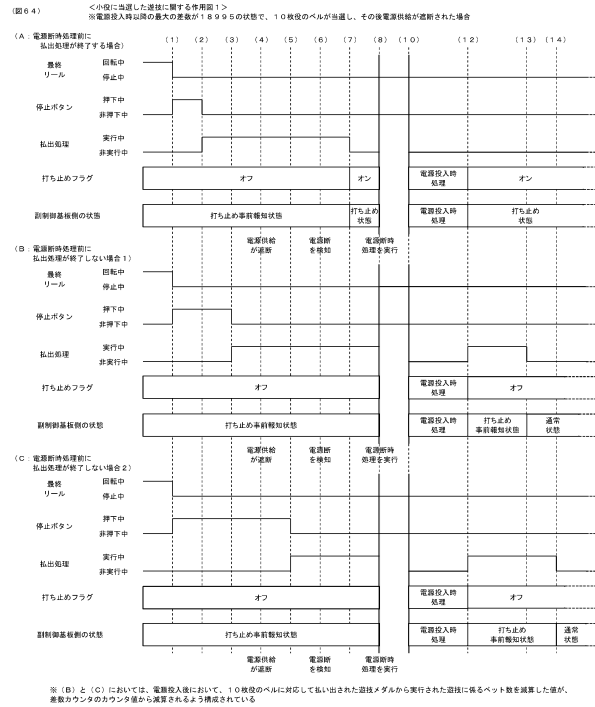
【図 62】



【圖 6 3】

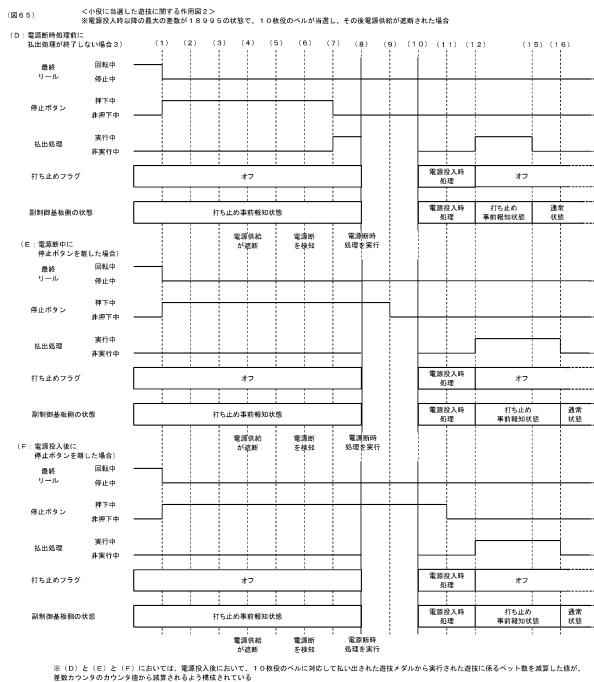


【圖 6 4】



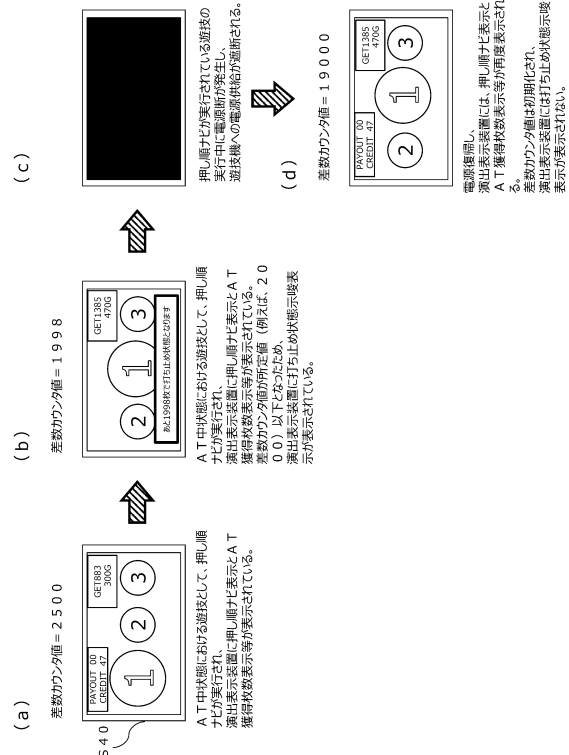
※(B)と(C)においては、電選入後において、10枚役のペルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウンタ値から減算されるよう構成されている

【 図 6 5 】

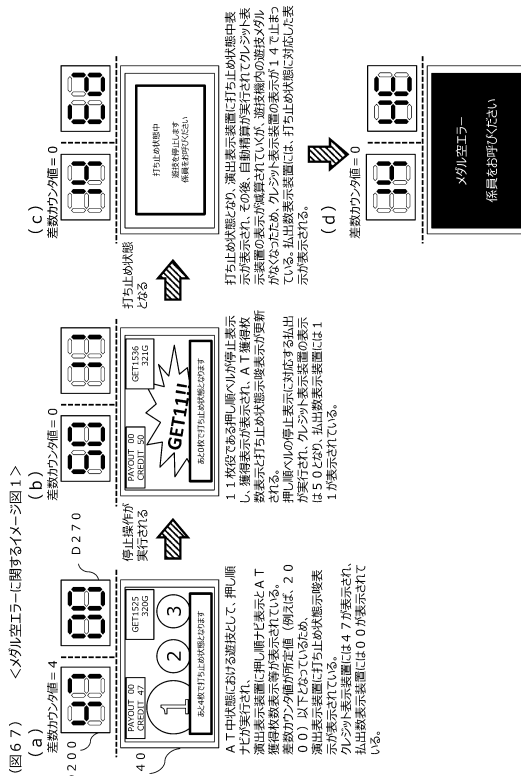


※(D)と(E)と(F)においては、電源投入後において、10枚役のベルに対応して払い出された遊技メダルから実行された遊技に係るベット数を減算した値が、差数カウンタのカウント値から減算されるよう構成されている

【圖 6 6】

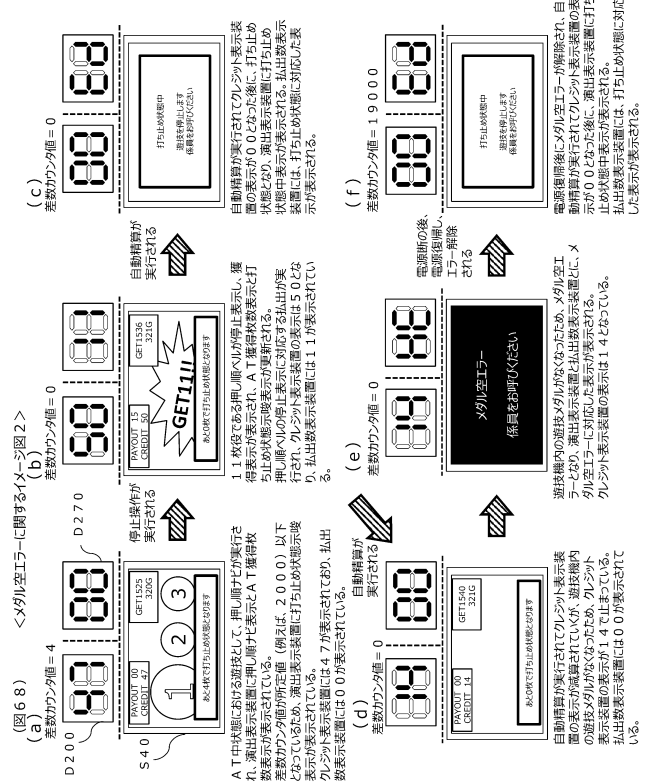


【図 6 7】



遊技機内の遊技メダルがなくなってきたため、メダル空エラーとなり、演出表示装置と払込数表示装置とに、メダル空エラーに対応した表示が表示され、打ち止め状態中
表示は消滅できなくなる。クレジット表示装置の表示
は14となっている。

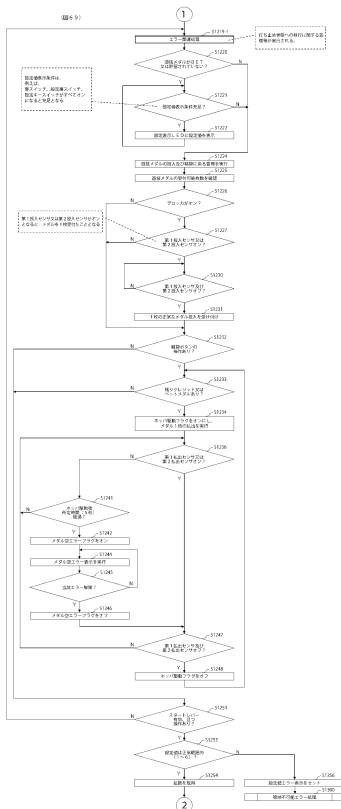
【圖 68】



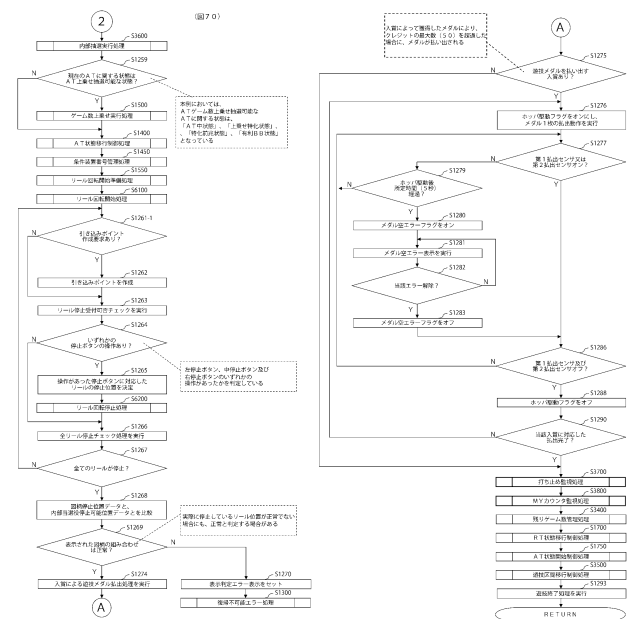
10

20

【図 69】



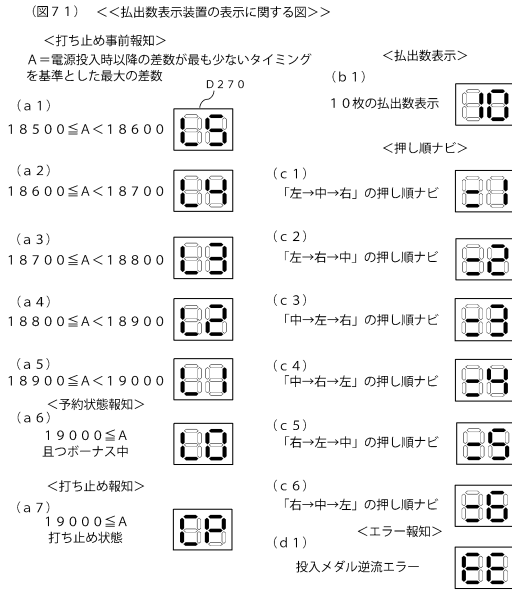
【圖 70】



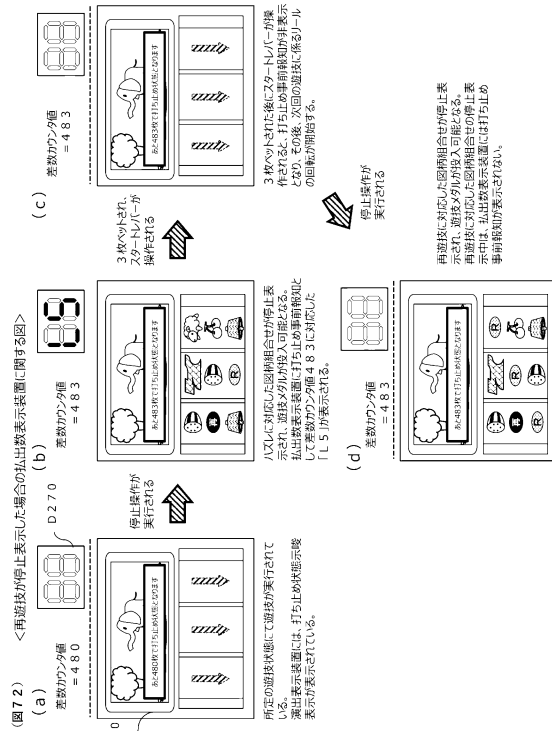
30

40

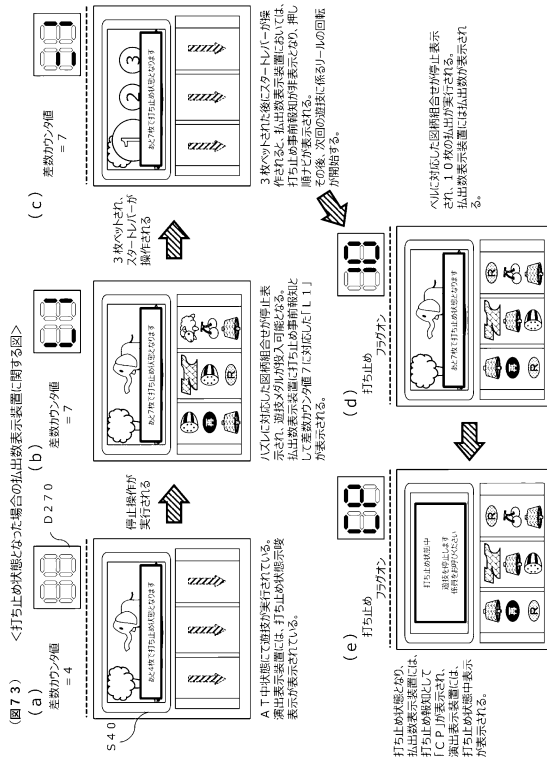
【図 7 1】



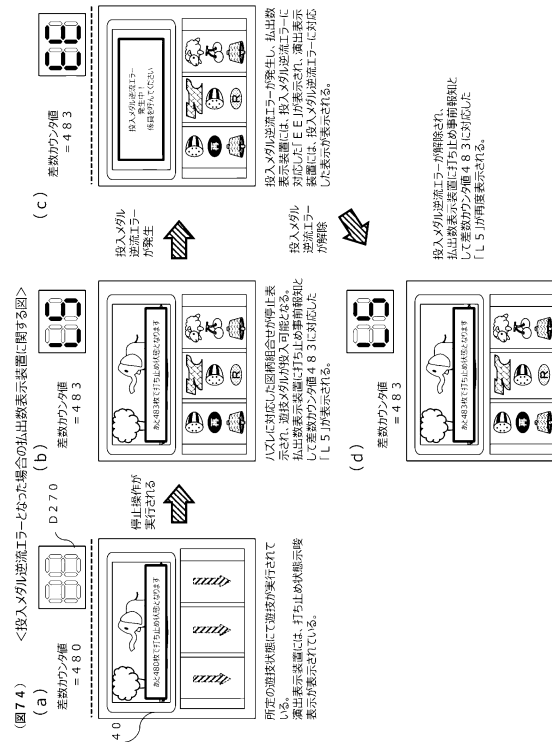
【図 7 2】



【図 7 3】



【図 7 4】



10

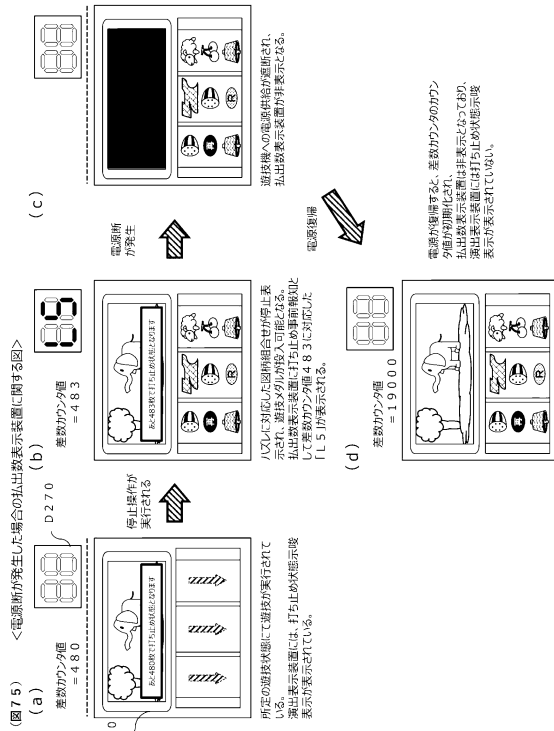
20

30

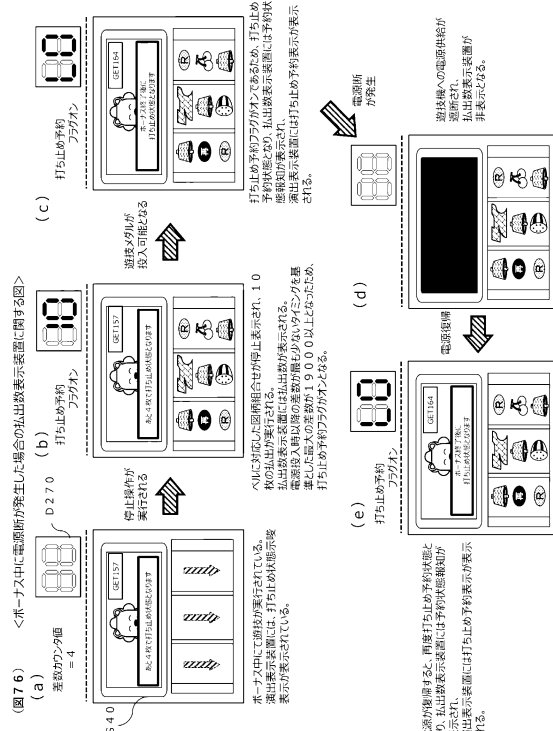
40

50

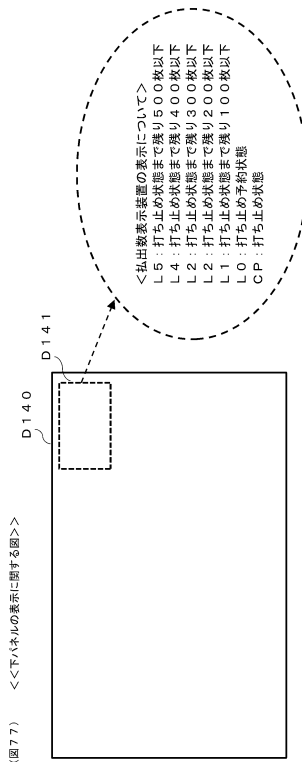
【図 7 5】



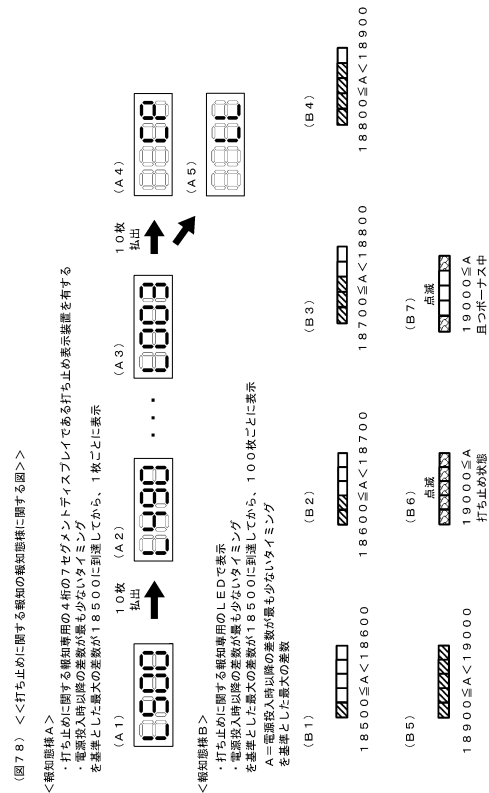
【圖 7 6】



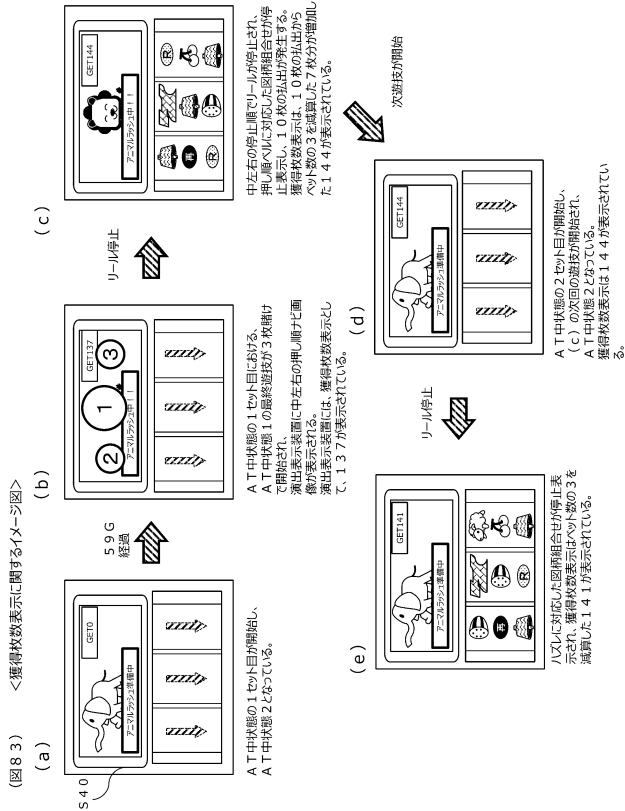
【図 7 7】



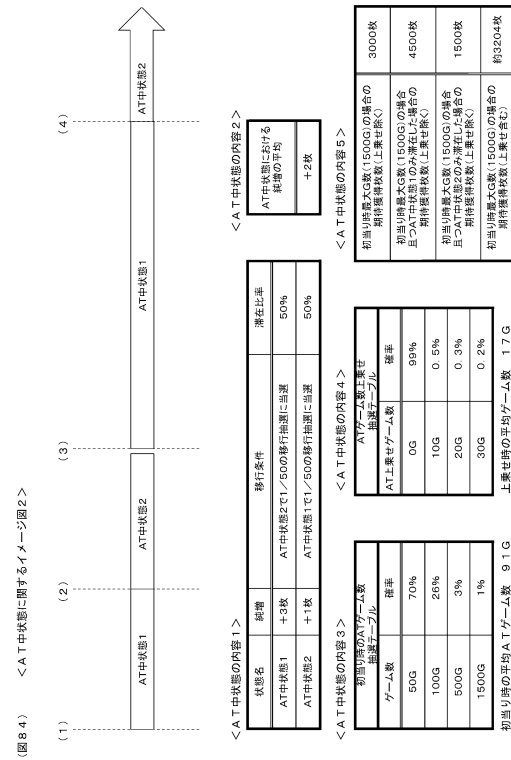
【圖 7 8】



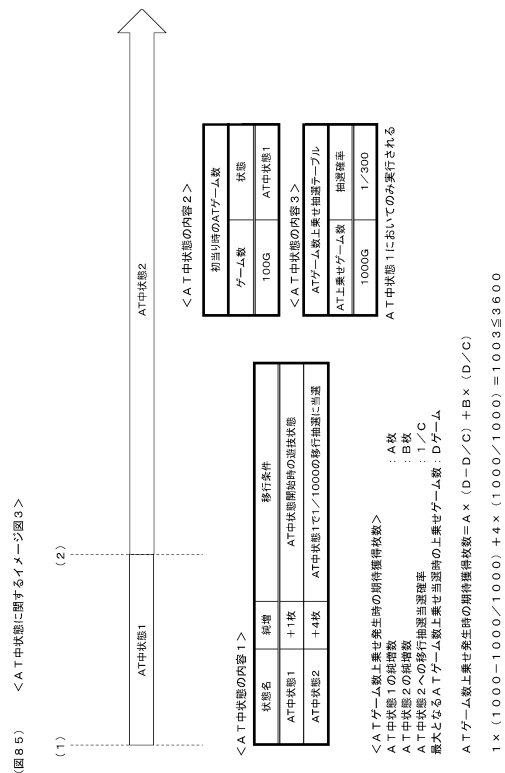
【圖 8 3】



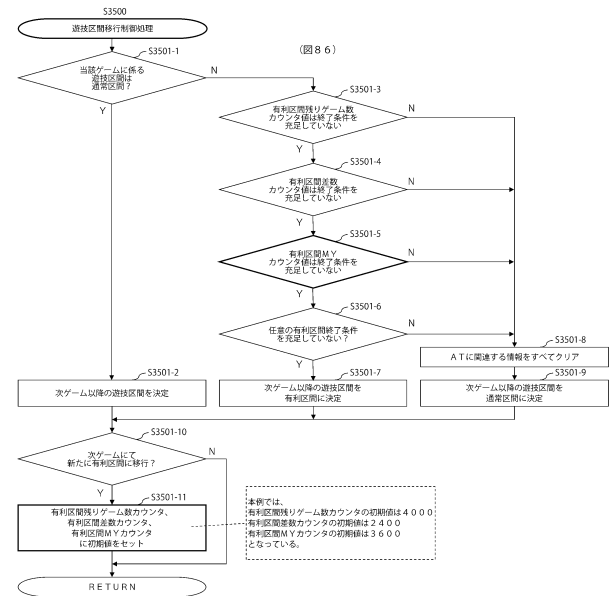
【圖 8 4】



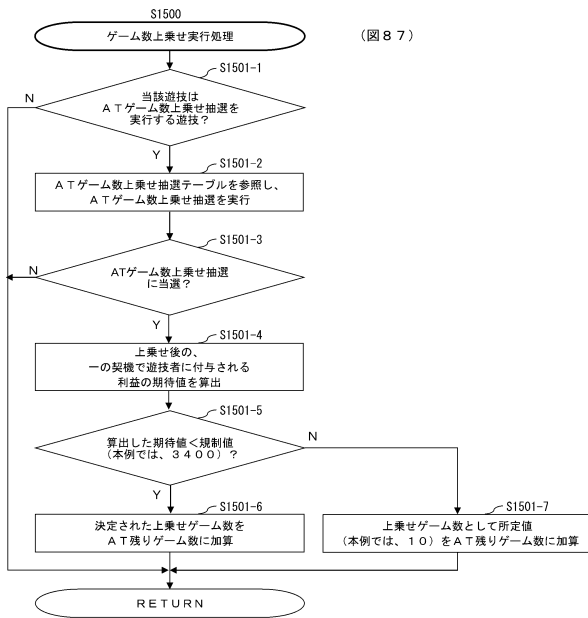
【図 8 5】



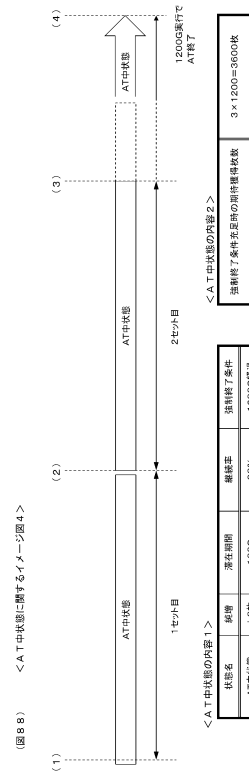
【圖 8 6】



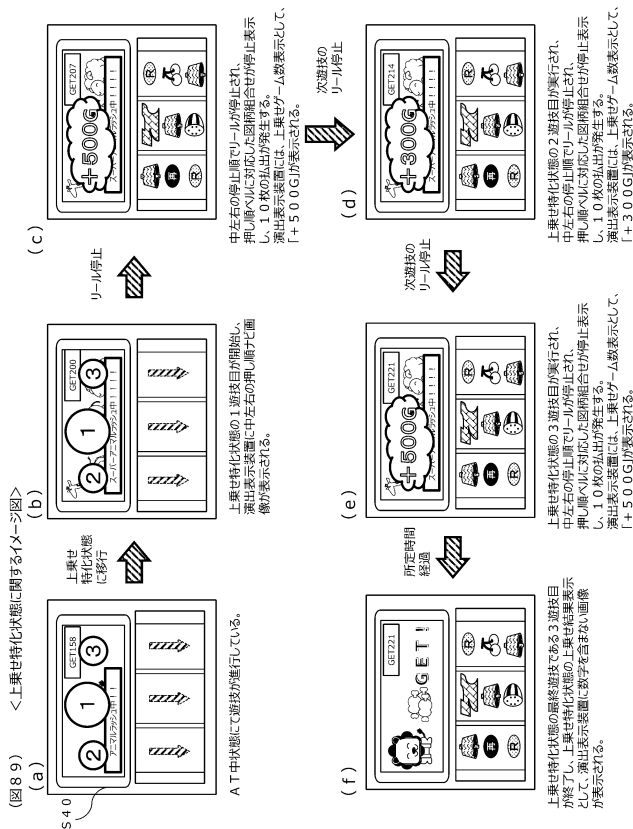
【図 87】



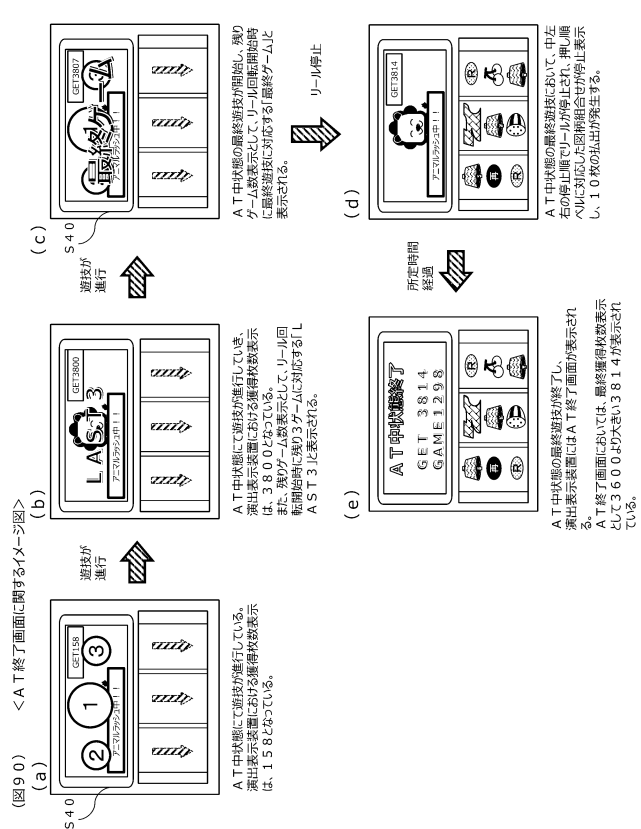
【図 88】



【図 89】



【図 90】



10

20

30

40

50

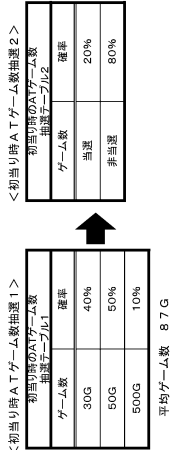
【図 9 3】

(図 9 3) <一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 3>

CZ1～10遊技目	CZ11遊技目
初当たり時ATゲーム数抽選1×10回 平均 870G	初当たり時ATゲーム数抽選2×1回 ※AT中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>
CZは111遊技あり、1～110回目の遊技では、初当たり時ATゲーム数抽選1を実行し、111回目の遊技にて、初当たり時ATゲーム数抽選2を実行し、当選した場合には決定されたゲーム数が初当たり時のATゲーム数となり、非当選の場合は初当たり時のATゲーム数は0となる(AT中状態に移行しない)。

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>
CZにおける初当たり時ATゲーム数抽選1で決定されるATゲーム数の平均値は870Gであり、その際の期待獲得枚数は、 $3 \times 870 = 2610$ 枚であり、3600枚未満となるが、初当たり時ATゲーム数抽選の抽選確率が不定であるため、3600枚を超過しない処理を設けることが好適である。



【図 9 4】

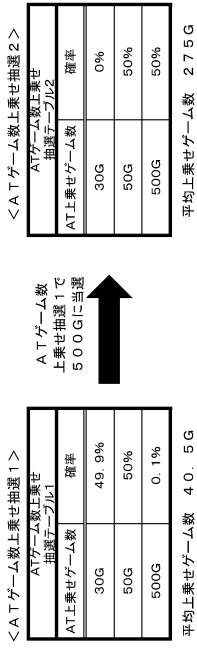
(図 9 4) <一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 4>

上乗せ特化状態1遊技目	上乗せ特化状態2遊技目	上乗せ特化状態3遊技目
ATゲーム数 上乗せ抽選1の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選2の平均	ATゲーム数 上乗せ抽選2の平均

一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値
 $= (500 + 275 + 275) \times 3 \times 3 = 3150$

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>
上乗せ特化状態は3遊技あり、ATゲーム数上乗せ抽選1で最大である500Gが決定されると、上乗せ特化状態における次回以降の遊技では、ATゲーム数上乗せ抽選2を実行する。

※AT中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている

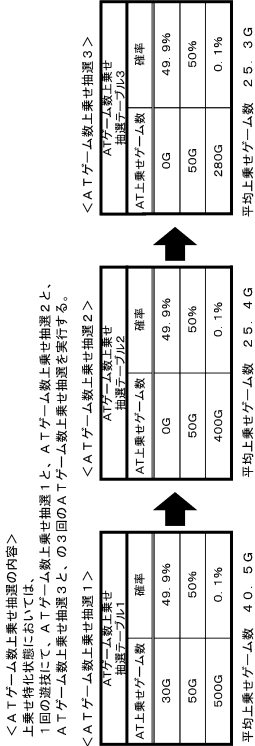


【図 9 1】

(図 9 1) <一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 1>

ATゲーム数 上乗せ抽選1の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値 $= (500 + 400 + 280) \times 3 = 3540$		

※AT中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている



【図 9 2】

(図 9 2) <一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 2>

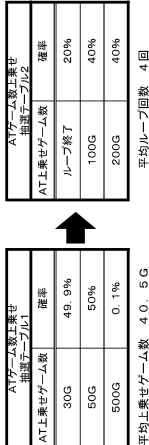
ATゲーム数 上乗せ抽選1の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大
一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値 $= (500 + 400 + 280) \times 3 = 3540$	

※AT中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている

<ATゲーム数上乗せ抽選の内容>
所定の状況においては、ATゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照した抽選を行ったあと、1回の遊技にて、ATゲーム数上乗せ抽選2を実行し、抽選した場合には決定されたゲーム数が初当たり時のATゲーム数となり、非当選の場合は初当たり時のATゲーム数は0となる(AT中状態に移行しない)。

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>
上乗せ特化状態においては、1回の遊技にて、ATゲーム数上乗せ抽選1で最大である500Gが決定され、ATゲーム数上乗せ抽選2で、平均である400Gが決定されると、上乗せ特化状態における次回以降の遊技では、ATゲーム数上乗せ抽選2を実行する。

※AT中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている



【図 9 7】 <ベットランプの点灯に関する図 1>

M_MEDAL_START：遊技メダル受付開始

命令 1 ... パラメータをセット

命令 2 ... 投入コマンドの送信処理を実行

命令 3 ... 遊技メダルの読み込みを実行

命令 4 ... 設定変更フラグを更新

命令 5 ... 投入枚数データをクリア

命令 6 CLRWQ (LOW_PT_STS_LED) 投入枚数表示データ及びLED表示データをクリア

命令 7 ... 再遊技作動時である場合には、再遊技ランプ表示LED信号をオン

命令 8 ... パラメータをセット

命令 9 ... 投入コマンドの送信処理を実行

M_MEDAL_INC：遊技メダル1枚加算

命令 10 ... 獲得枚数データをクリア

命令 11 ... 遊技メダルの読み込みを実行

命令 12 ... 投入枚数データに1を加算

M_INSERT_DAT：投入枚数表示データ生成

命令 13 ... 投入枚数データを取得

命令 14 ... 投入枚数表示データを生成

命令 15 LDQ (LOW_PT_MEDAL_LED)A 投入枚数表示データを保存

C_MDLMAX_CHK：遊技メダル1枚限界チェック

命令 16 ... 遊技メダル限界枚数として3枚をセット

命令 17 ... 遊技メダルの読み込みを実行

命令 18 ... 投入要求枚数を生成

命令 19 ... 遊技メダルが限界の場合には、RET

遊技メダルが限界でない場合には、M_MEDAL_INCにジャンプする

【図 9 8】 <ベットランプの点灯に関する図 2>

M_BET_IN：貯留投入

命令 1 LDQ A(LOW_PT_IN_C_UP)

命令 2 ... 1ベットのボタンまたはマックスベットのボタン

命令 3 ... 信号の立ち上がりがある場合には命令2を実行

命令 4 ... 遊技メダル限界チェック (C_MDLMAX_CHK) を実行

命令 5 ... 貯留枚数データを取得

命令 6 ... マックスベットのボタン信号の立ち上がりがある場合には

命令 7 ... M_BET_IN3にジャンプする

M_BET_IN3:

命令 5 ... 投入要求枚数=0でない場合には命令6を実行

命令 6 ... 貯留枚数がある場合には命令7を実行

命令 7 ... 貯留枚数≧投入要求枚数である場合にはM_BET_IN4にジャンプする

M_BET_IN4:

命令 8 ... パラメータをセット

M_MEDAL_INC：遊技メダル1枚加算

命令 9 ... 獲得枚数データをクリア

命令 10 ... 遊技メダルの読み込みを実行

命令 11 ... 投入枚数データに1を加算

M_INSERT_DAT：投入枚数表示データ生成

命令 12 ... 投入枚数データを取得

命令 13 ... 投入枚数表示データを生成

命令 14 LDQ (LOW_PT_MEDAL_LED)A 投入枚数表示データを保存

【図 9 5】

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 5>

一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値 =1104+7700+1500G×3枚=2862		
ATゲーム数 上乗せ抽選1の平均	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の平均

※A T中状態、上乗せ特化状態の純増は3枚となっている

<A Tゲーム数上乗せ抽選の内容>

上乗せ特化状態は3遊技あり、1遊技目はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル1を参照し、

2遊技目はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル2を参照し、3遊技目はA Tゲーム数上乗せ抽選テーブル3を参照して抽選を実行する。

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>

上乗せ特化状態の3遊技における上乗せゲーム数の最大値は、A Tゲーム数上乗せ抽選2の700Gであるため、

A Tゲーム数上乗せ抽選2では700Gの最大値が決定され、A Tゲーム数上乗せ抽選1とA Tゲーム数上乗せ抽選3とでは、

平均上乗せゲーム数が決定された場合を、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値とし、

3600枚を超えないよう構成することが好適である。

<A Tゲーム数上乗せ抽選1>

ATゲーム数 上乗せ抽選1の平均	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の平均
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
30G	30G	20G
50G	50G	40G
500G	700G	200G
平均上乗せゲーム数 134 G	平均上乗せゲーム数 40.7 G	平均上乗せゲーム数 150 G

<A Tゲーム数上乗せ抽選2>

ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
30G	30G	20G
50G	50G	40G
700G	700G	200G
平均上乗せゲーム数 40.7 G	平均上乗せゲーム数 150 G	平均上乗せゲーム数 290 G

<A Tゲーム数上乗せ抽選3>

ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
20G	20G	10G
40G	40G	20G
200G	200G	70G
平均上乗せゲーム数 150 G	平均上乗せゲーム数 290 G	平均上乗せゲーム数 400 G

【図 9 6】

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値に関するイメージ図 6>

一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値 =(500+200+1400)G×3枚=3300		
ATゲーム数 上乗せ抽選1の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大

<A Tゲーム数上乗せ抽選の内容>

上乗せ特化状態は3遊技あり、A Tゲーム数上乗せ抽選1で最大値である500Gが決定されると、次回以降の遊技では、

A Tゲーム数上乗せ抽選2を実行し、A Tゲーム数上乗せ抽選2で最大値である200Gが決定されると、次回以降の遊技では、

A Tゲーム数上乗せ抽選3を実行する。

<一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値>

A Tゲーム数上乗せ抽選3で最大値である400Gが決定される場合には、

A Tゲーム数上乗せ抽選1で最大値である500Gが決定されており、

A Tゲーム数上乗せ抽選2で最大値である200Gが決定されていることとなるため、

A Tゲーム数上乗せ抽選1～3のすべてで最大値が決定された場合を、一の契機で遊技者に付与される利益の最大の期待値とし、

3600枚を超えないよう構成することが好適である。

<A Tゲーム数上乗せ抽選1>

ATゲーム数 上乗せ抽選1の平均	ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
30G	30G	20G
50G	50G	40G
500G	700G	200G
平均上乗せゲーム数 134 G	平均上乗せゲーム数 40.7 G	平均上乗せゲーム数 150 G

<A Tゲーム数上乗せ抽選2>

ATゲーム数 上乗せ抽選2の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
30G	30G	20G
50G	50G	40G
200G	700G	200G
平均上乗せゲーム数 40.7 G	平均上乗せゲーム数 150 G	平均上乗せゲーム数 290 G

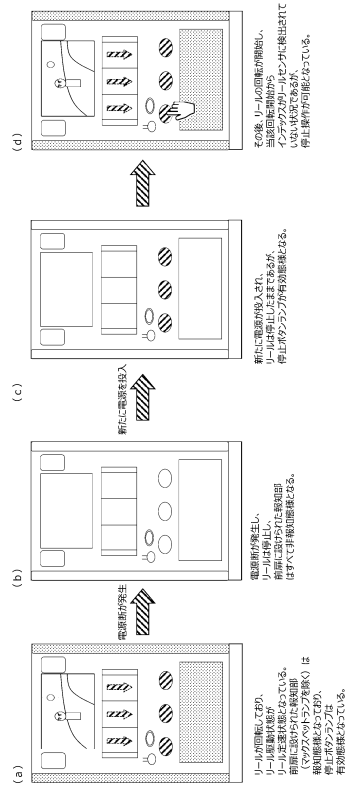
<A Tゲーム数上乗せ抽選3>

ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大	ATゲーム数 上乗せ抽選3の最大
AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数	AT上乗せゲーム数
20G	20G	10G
40G	40G	20G
400G	400G	70G
平均上乗せゲーム数 150 G	平均上乗せゲーム数 290 G	平均上乗せゲーム数 400 G

【図 9 6】

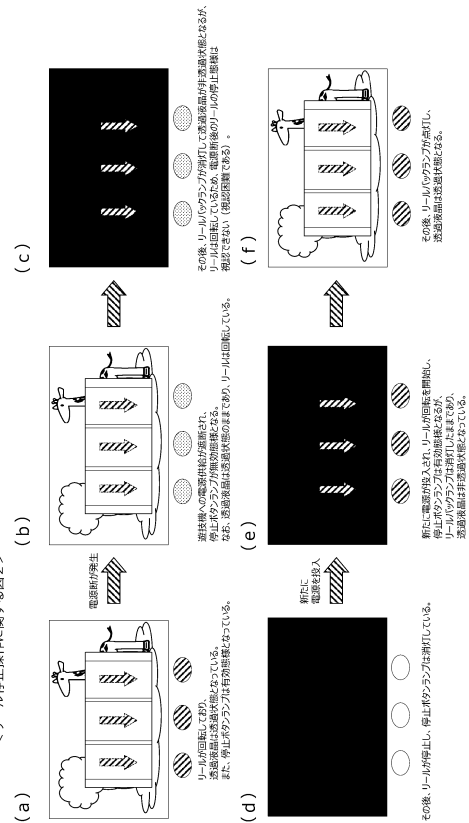
【図 103】

(図 103) <リール停止操作に関する図 1>



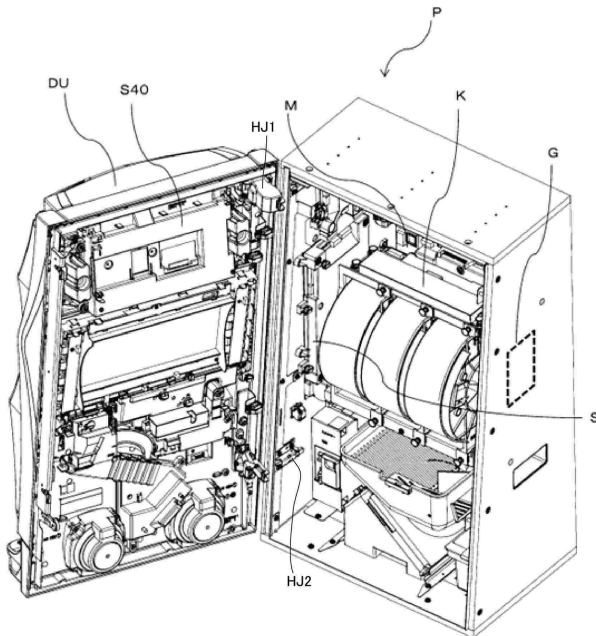
【図 104】

(図 104) <リール停止操作に関する図 2>



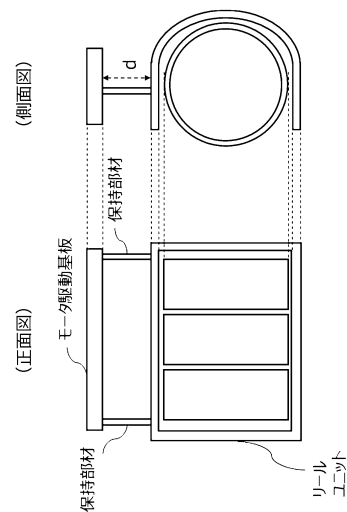
【図 105】

(図 105)



【図 106】

(図 106) <モータ駆動基板に関する図>



モータ駆動基板とリールユニットとが d の距離離れるようにモータ駆動基板を設置することによって、前扉を開放した状態で、モータ駆動基板の裏面が視認できるようになっている。

10

20

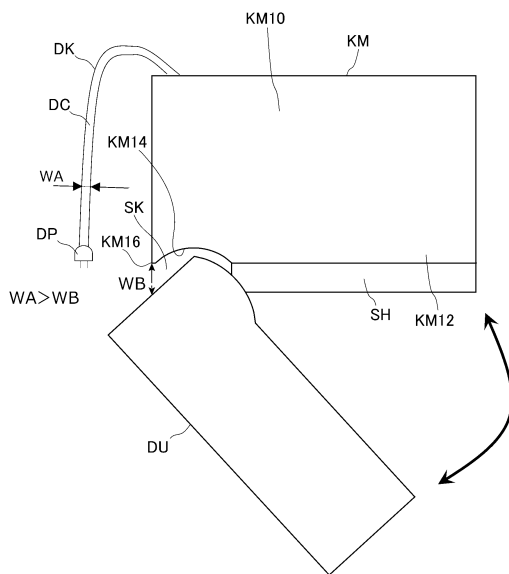
30

40

50

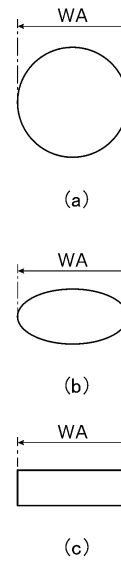
【図 1 1 1】

(図111)



【図 1 1 2】

(図112)

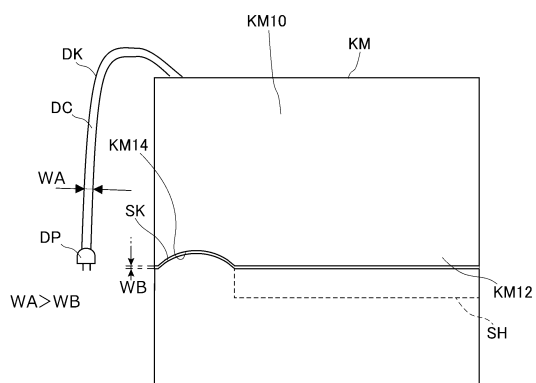


10

20

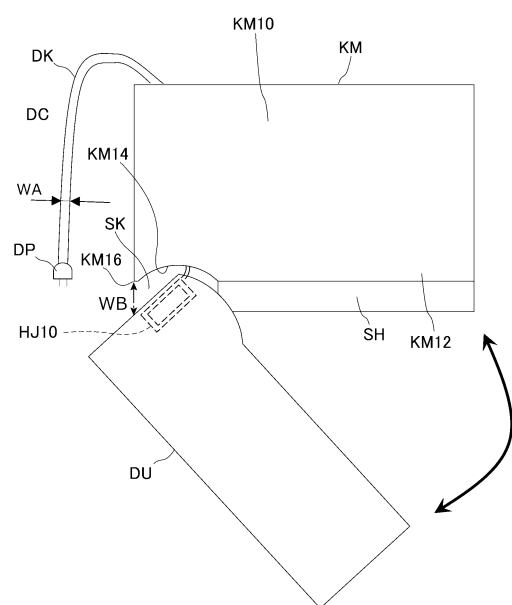
【図 1 1 3】

(図113)



【図 1 1 4】

(図114)



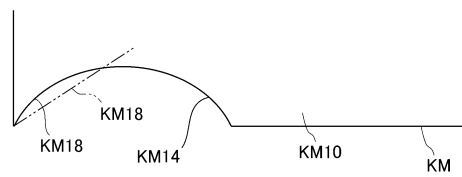
30

40

50

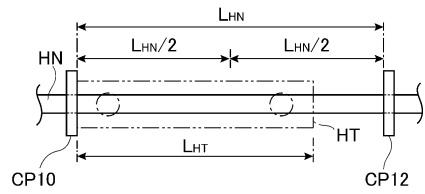
【図 1 1 5】

(図115)



【図 1 1 6】

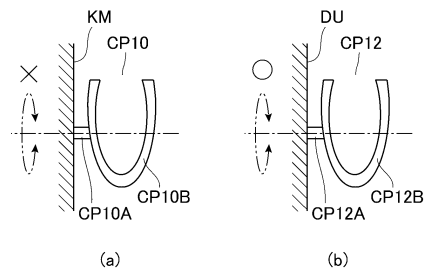
(図116)



10

【図 1 1 7】

(図117)



【図 1 1 8】

(図118)



(a)

20



(b)

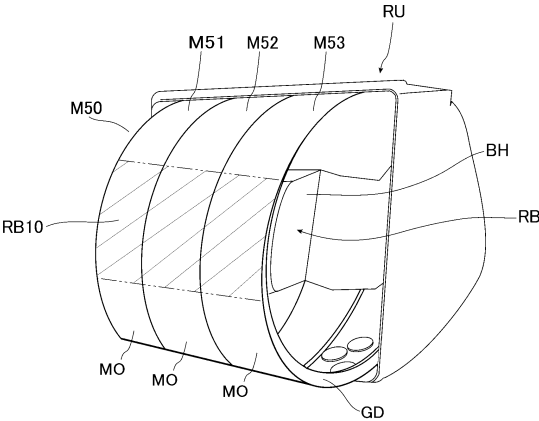
30

40

50

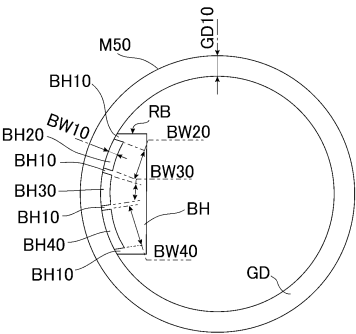
【図 1 1 9】

(図119)

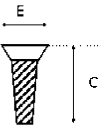


【図 1 2 0】

(図120)



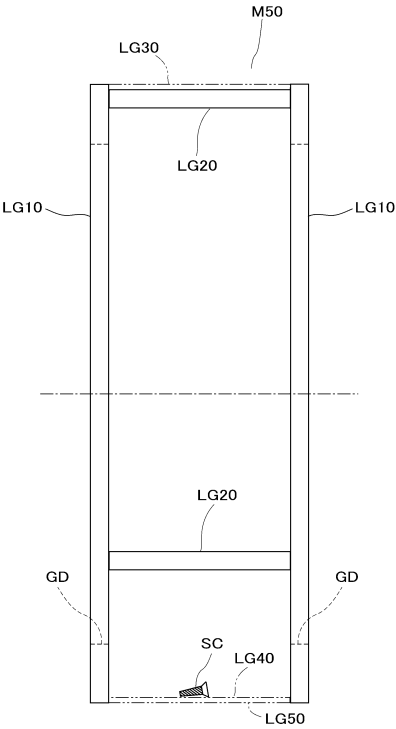
(a)



(b)

【図 1 2 1】

(図121)



【図 1 2 2】

(図 122)

<発光装置の動作開始面移動>

時間 (秒)	5.58	5.95	7.05	7.09	7.75	15.18	15.28	15.52	16.92
イベント	停止ボタン (赤)	メダル表示 (テストパターン)	下ハネル (白)	下ハネル (赤)	メダル表示 (持ちメダル)	MAXバッドラップ (白)	メダル表示 (持ちメダル)	メダル表示 (持ちメダル)	メダル表示 (持ちメダル)
時間差 (秒)	—	0.37	1.10	0.04	0.66	7.43	0.10	0.24	1.40

10

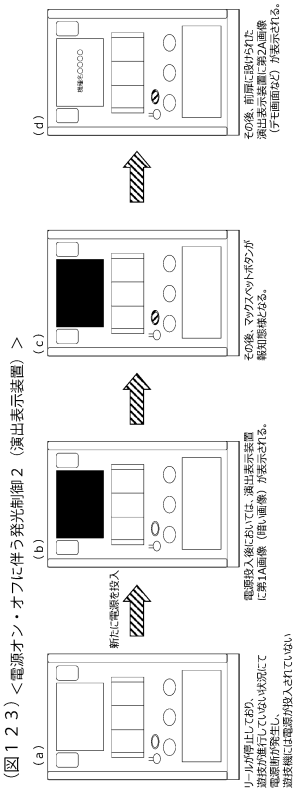
20

30

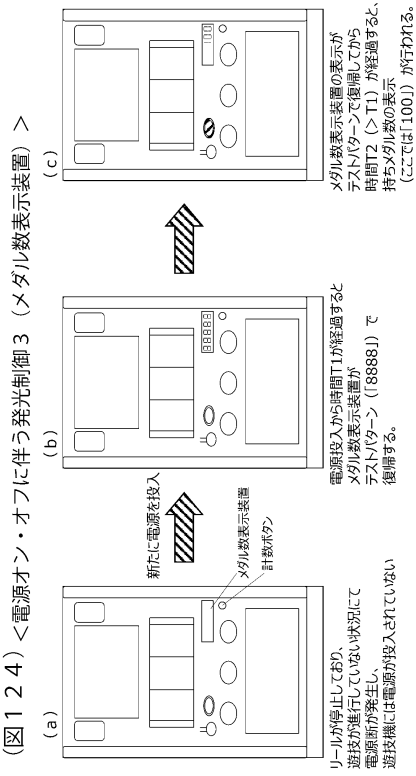
40

50

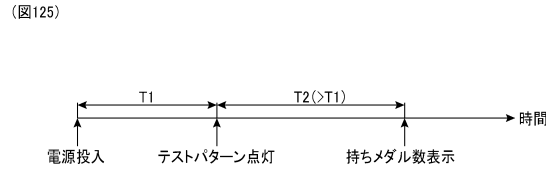
【図 1 2 3】



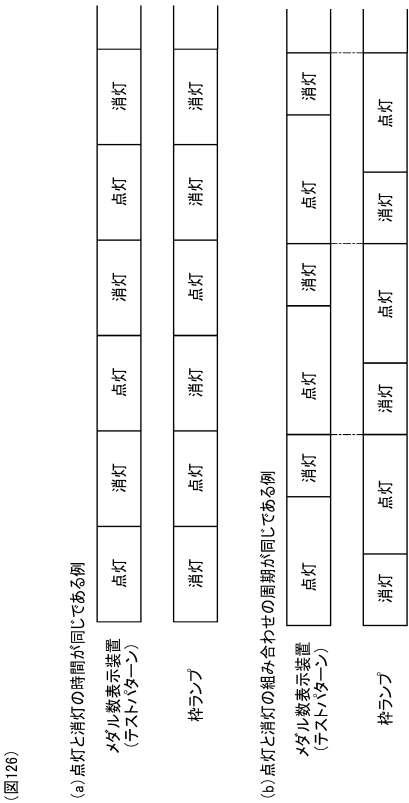
【図 1 2 4】



【図 1 2 5】



【図 1 2 6】



10

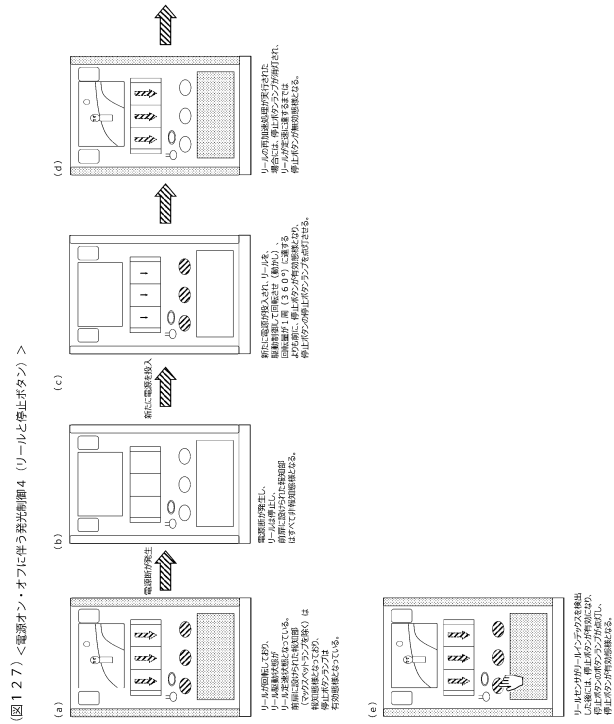
20

30

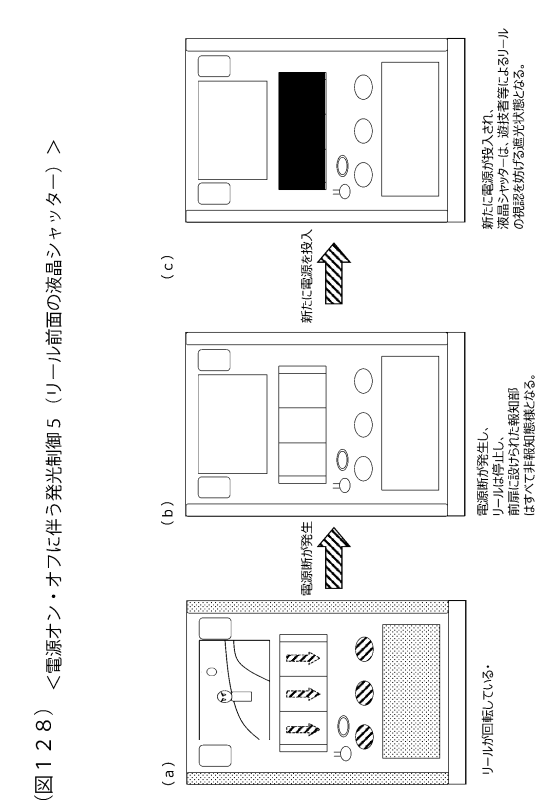
40

50

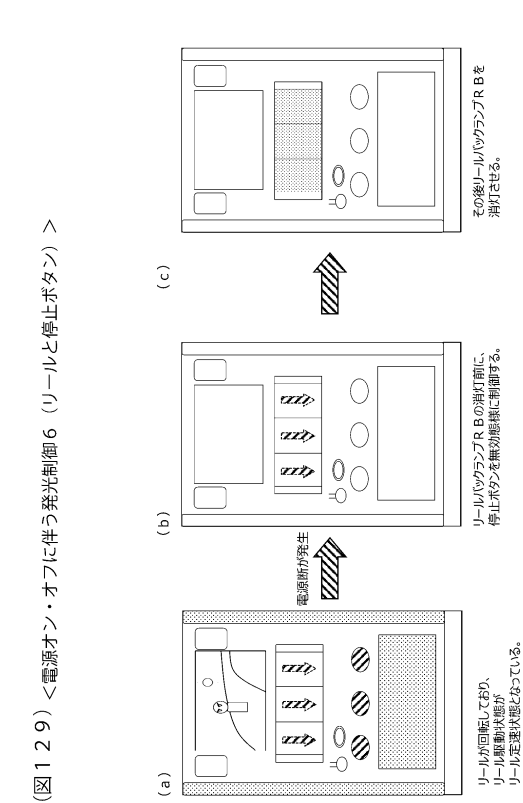
【図 127】



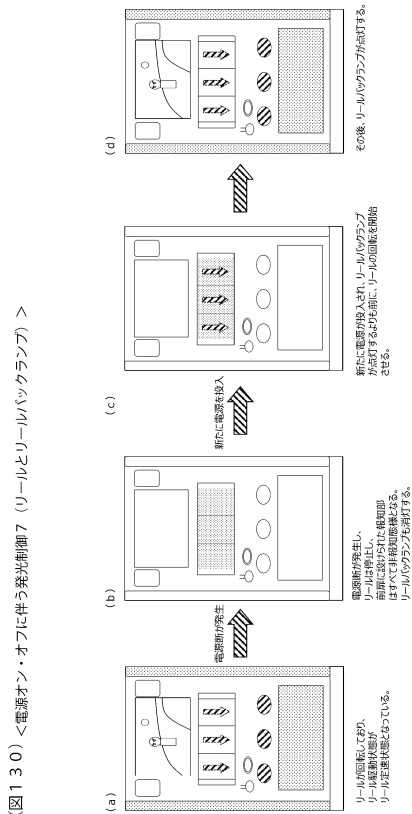
【圖 128】



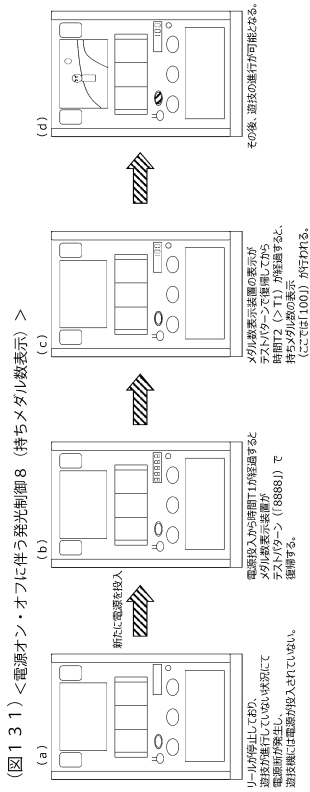
【図 129】



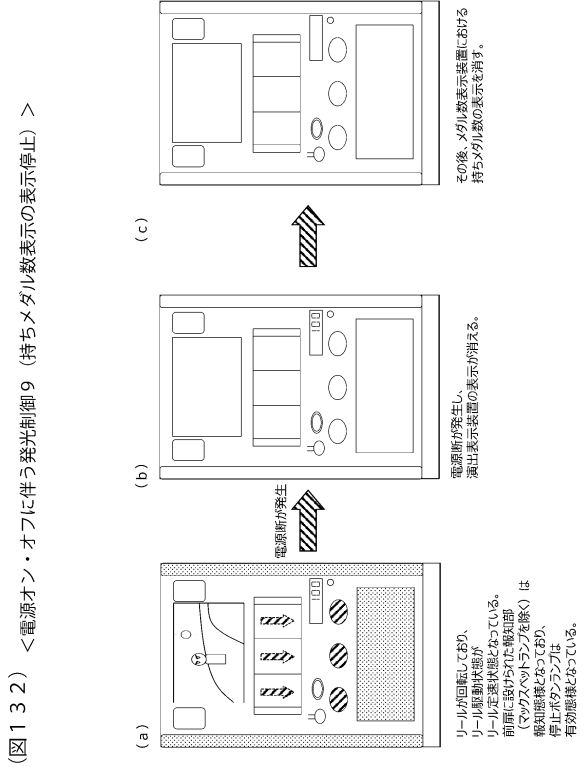
【図 130】



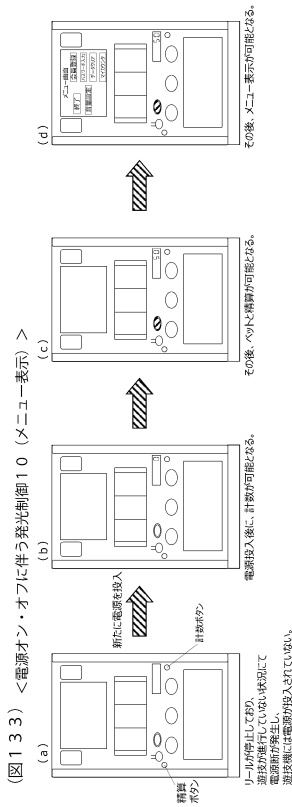
【図 1 3 1】



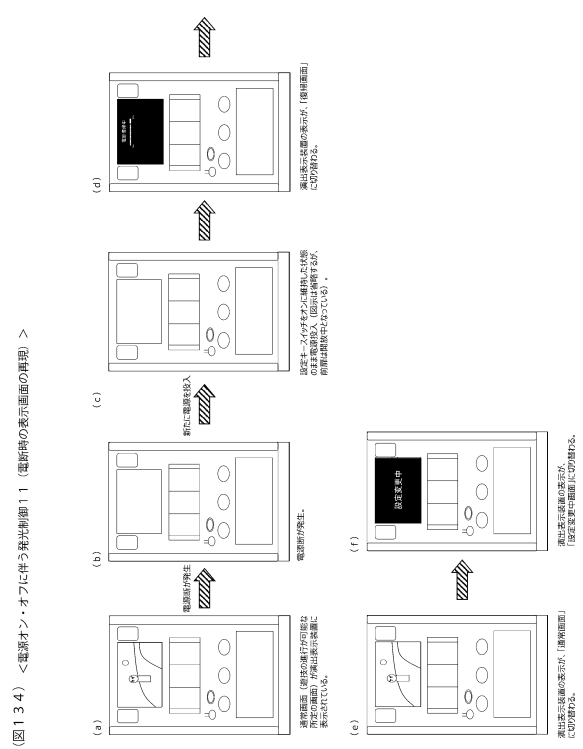
【図 1 3 2】



【図 1 3 3】

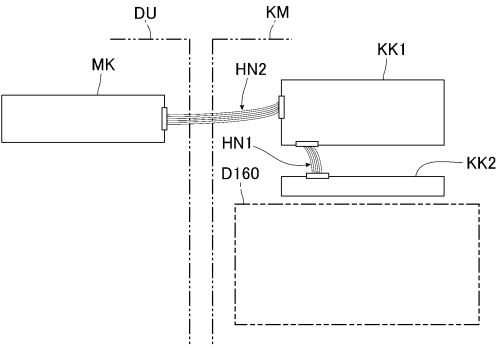


【図 1 3 4】



【図 139】

(図139)



(HN2の長さX14) > (HN1の長さX13)

第2ハーネスHN2の長さ(X14)は、以下の(1)、(2)のいずれの状態においても、前扉DUが閉鎖された状態において、第2ハーネスHN2が、リール窓D160の内側(開口内)の位置に達し、リール窓D160を通して視認できる長さである。
(1)第2ハーネスHN2の筐体本体KM側が外れ、前扉DU側が接続を維持している状況。
(2)第2ハーネスHN2の前扉DU側が外れ、筐体本体KM側が接続を維持している状況。

10

20

30

40

50

フロントページの続き

Fターム (参考) 2C518 EA11 EB07 EC15 EC22 FA15